

北 区
地域包括ケア推進計画のための
アンケート調査結果報告書

令和8年3月
北 区

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査対象	3
3. 調査方法	3
4. 調査期間	3
5. 配付・回収状況	4
6. 注意事項	4
第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果	7
調査票の回答者	9
1. ご家族や生活状況	11
（1）性別	11
（2）年齢	11
（3）家族構成	12
（4）要介護・要支援度及び介護・介助の必要性	14
（5）介護・介助が必要になった主な原因／認定を受けた主な原因	15
（6）主な介護者・介助者	16
（7）収入源	17
（8）世帯年収	18
（9）暮らし向き	18
（10）住居形態	22
（11）住み替え	25
（12）住み替え前の住居形態	25
（13）住み替え希望	26
（14）住みやすさ	26
2. からだを動かすこと	29
（1）階段の昇降	29
（2）椅子からの立ち上がり	29
（3）15分間の歩行	30
（4）外出頻度	30
（5）外出回数の減少	33
（6）外出控え	33
（7）外出を控えている理由	35
（8）外出する際の移動手段	36
（9）転倒の有無	36

(10) 転倒に対する不安	37
3. 食べること	41
(1) 体重減少の有無	41
(2) 体重減少の理由	41
(3) BMI（身長・体重）	42
(4) 固いものの食べにくさ	45
(5) むせる経験	45
(6) 口の渇き	45
(7) 毎日の歯磨き	49
(8) 入れ歯の使用状況	49
(9) 歯の本数と入れ歯の使用状況	50
(10) 入れ歯の手入れ	50
(11) 歯科の受診状況	51
(12) 共食の頻度	51
4. 物忘れ・認知症	53
(1) 物忘れの状況	53
(2) 物忘れの周囲の反応	56
(3) 電話の使用	56
(4) 日付の忘却	57
(5) 家族の認知症症状の有無	57
(6) 認知症の印象	58
(7) 認知症になった場合の周囲の認知	60
(8) 認知症相談窓口の認知度	60
(9) 物忘れや認知症の相談先	61
(10) 北区認知症あんしんなびの認知度	62
5. 毎日の生活	64
(1) 1人での外出	64
(2) 食品・日用品の買物	64
(3) 食事の用意	65
(4) 請求書の支払い	65
(5) ごみ出し	66
(6) 預貯金の出し入れ	66
(7) スマートフォン等の使用状況	69
(8) 通話以外の使用用途	72
(9) パソコンの使用状況	73
(10) パソコンの使用目的	74
(11) 日常生活で困っていること	75
(12) 困りごとへの対処方法	76
(13) 日常生活で手助けをしてほしいこと	77

(14) 困りごとへの対処方法	81
(15) 自立した生活を続けていくために必要なサービスや地域の支え合い	83
(16) 成年後見制度の認知状況	86
(17) 成年後見制度の認知媒体	86
6. 社会参加	87
(1) 書類の記入	87
(2) 新聞閲読	87
(3) 本や雑誌の閲読	88
(4) 健康記事、番組への関心	88
(5) 友人宅の訪問	92
(6) 家族や友人からの相談	93
(7) 病人への見舞い	93
(8) 若い人への話しかけ	94
(9) 趣味の有無・内容	96
(10) 生きがいの有無・内容	97
(11) 地域活動への参加頻度	98
(12) 徒歩15分圏内の会・グループ	103
(13) 地域活動に参加する理由	103
(14) 参加している地域活動での困りごと	105
(15) 地域活動に参加しない理由	106
(16) 地域活動に参加しやすくなるために必要な要素	108
(17) 地域活動の情報を得やすい手段	110
(18) 未参加の地域活動の中で参加したいもの	113
(19) 地域づくりの参加意向	115
(20) 地域活動への参加経験	116
7. 仕事	117
(1) 就労状況	117
(2) 今後の就労意向	117
(3) 就労希望理由	118
(4) 希望する月給額	118
8. たすけあい	119
(1) たすけあえる人	119
(2) 家族や友人・知人以外の相談相手	121
(3) 友人・知人と会う頻度	122
(4) 1か月間に会った友人・知人の数	124
(5) よく会う友人・知人との関係	125
(6) 電話、メール、手紙の頻度	126
(7) 災害時・緊急時の手助け	126
(8) 近所との付き合いの程度	127

(9) 近所への信頼度	128
(10) 近所からの期待度	131
(11) 各年齢層との会話頻度	134
9. 健康	135
(1) 健康状態	135
(2) 幸福度	136
(3) この1か月のゆううつ感	139
(4) この1か月の無気力感	139
(5) 孤独感の把握	140
(6) 飲酒頻度	144
(7) 喫煙頻度	144
(8) かかりつけ医の有無	145
(9) かかりつけ歯科医の有無	145
(10) かかりつけ薬剤師・薬局の有無	146
(11) 治療中や後遺症のある病気	147
(12) 長生きのために取り組んでいる、取り組みたい健康法	149
(13) 終活についての考え	149
(14) 終活の準備にあたり不安なこと	153
10. 在宅療養	157
(1) 在宅療養に関する相談先	157
(2) 在宅療養の継続希望	158
(3) 在宅療養の実現可能性	158
(4) 在宅療養が難しいと思う理由	159
(5) 最期を迎えたい場所	159
(6) 最期を迎えたい場所について周囲と話し合う機会	160
(7) 最期を迎えたい場所について話す人	160
11. 介護の状況など	161
(1) 「高齢者あんしんセンター」の認知度	161
(2) 家族・親族の介護経験	163
(3) 介護で困っていること	164
12. 介護保険サービス	165
(1) ケアプランの利用	165
(2) 介護保険サービスの満足度	166
(3) 介護保険サービスを利用していない理由	167
(4) この1年間での入院経験	167
(5) 退院時に困ったこと	168
(6) 今後増やしてほしい福祉サービス	169
■自由記述	171
(1) 一般高齢者調査	171

(2) 認定者調査	176
-----------	-----

第3章 在宅介護実態調査の結果 179

1. 調査対象者について	181
(1) 調査票の記入者	181
(2) 世帯類型	181
(3) 性別	182
(4) 年齢	182
(5) 要介護度	183
(6) 施設等への入所・入居の検討状況	183
(7) 現在抱えている傷病	184
(8) 介護保険サービス利用の有無	184
(9) 介護保険サービスの利用状況	185
(10) 介護保険サービスを利用していない理由	187
(11) 介護保険サービス以外の利用状況	188
(12) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス	189
(13) 訪問診療の利用状況	189
(14) 家族・親族からの介護の頻度	190
2. 主な介護者について	191
(1) 介護理由による離職者の有無	191
(2) 主な介護者	191
(3) 主な介護者の性別	192
(4) 主な介護者の年齢	192
(5) 介護の内容	193
(6) 不安に感じる介護等	194
(7) 主な介護者の勤務形態	195
(8) 働き方の調整の有無	195
(9) 仕事と介護の両立に効果的な勤務先の支援	196
(10) 両立の見通し	196
(11) 介護を始める前との体調比較	197
(12) 体調悪化の具体的内容	197
(13) 現在のケア人数	198
(14) ケアの内容	198
(15) 介護者自身が受けたい支援	199
■自由記述	200

第4章 55歳以上64歳以下調査の結果 205

1. 仕事に対する考え方	207
(1) 就労状況	207

(2) 就労形態	208
(3) 65歳以降の就労意欲	210
(4) 希望する就労年齢	211
(5) 希望する働き方	212
(6) 就労希望理由	213
(7) 希望する月給額	215
(8) 65歳以降も仕事を続けるうえでの不安	216
2. 地域とのつながり、社会参加	218
(1) 活動参加状況	218
(2) 参加頻度	219
(3) 活動場所	220
(4) 活動を始めたきっかけ	221
(5) 活動不参加の理由	222
(6) 近所との付き合いの程度	224
(7) 近所への信頼	225
(8) 各年齢層との会話頻度	226
(9) 65歳以降の近所との関わり意向	229
(10) 65歳以降にやってみたい活動	231
(11) 地域活動への参加に必要だと思うこと	233
(12) 将来への不安	235
(13) 認知症への印象	238
(14) 自身が認知症になったことを知られてもよいか	239
(15) 「北区認知症あんしんなび」の認知状況	240
(16) 高齢期に向けて今から取り組んでいること	241
(17) 終活についての考え方	243
(18) 終活の準備にあたって、不安に思っていること	245
3. 高齢者あんしんセンター	247
(1) 高齢者あんしんセンターの認知度	247
(2) 高齢者に関する相談先	249
4. 家族や生活状況	250
(1) 性別	250
(2) 年齢	250
(3) 居住地区	251
(4) 家族構成	252
(5) 収入源	252
(6) 世帯収入	253
(7) 健康状態	253
■自由記述	254

第5章 介護サービス事業者調査の結果	259
1. 事業所について	261
(1) サービス種別	261
(2) 事業所の採算状況	262
2. 人材の確保・育成	263
(1) 事業所が求める質を十分に満たす人材の確保状況	263
(2) 地域人材の活用状況	263
(3) 地域との連携を充実するために必要な取組み	265
(4) 人材確保に向けてあるとよい公的支援	265
(5) 人材の定着に向けてあるとよい公的支援	266
3. 事業所運営の状況や課題	267
(1) 今後10年間の事業展開の意向	267
(2) 事業展開を縮小・休止・廃止する理由	269
(3) 事業所の運営に関する不安や課題	269
4. サービスの質の向上	271
(1) サービスの質の向上のためにしている取組み	271
(2) 現在実施していること	273
(3) 今後実施したいこと	274
5. 認知症の方や家族の支援	275
(1) 認知症の方の支援に必要なこと	275
(2) 若年性認知症の方の支援に必要なこと	276
(3) 「北区認知症あんしんなび」の認知状況	276
(4) 認知症のある方の声で支援に活かしている内容	277
6. 独居高齢者	278
(1) 「独居高齢者」について大変だと感じる事	278
(2) 独居高齢者に必要だと思う支援・仕組み	279
7. 看取り・虐待防止・ハラスメント	280
(1) 看取りについて最も重視していること	280
(2) 看取りケアを実施するにあたり不足していること	281
(3) 虐待・ハラスメント防止に向けて行っている工夫	282
(4) 介護への理解を促進するために効果的だと思う取組み	284
8. 連携状況	286
(1) 医療機関との連携状況	286
(2) 医療機関と連携しない理由	286
(3) 医療機関との連携のために必要な支援や手段	287
(4) 地域組織との連携状況	287
(5) 地域と連携している内容	288
9. 区に対する要望	289
(1) 事業運営する上で必要な支援	289

10. 居所変更実態調査	291
(1) サービス種別	291
(2) 施設概要	292
(3) 要介護度別入所・入居者数	293
(4) 医療処置の受け入れ状況	294
(5) 医療処置を受けている人数	295
(6) 令和6年度中の新規入所・入居者数	296
(7) 新規入所・入居者における、入所・入居前の居場所別人数	297
(8) 令和6年度中の退去人数	300
(9) 退去者の要介護度別人数	301
(10) 退去者別の人数	302
(11) 退去理由	305
(12) 退去するケース	305
11. 在宅生活改善調査	306
(1) ケアマネ、利用者の人数	306
(2) 要介護度別の居場所を変更した利用者数	307
(3) 令和6年度中に居場所を変更した利用者の行先別人数	308
(4) 在宅生活の維持が難しくなるケース	309

資料編	311
1. 一般高齢者調査	313
2. 認定者調査	323
3. 在宅介護実態調査	332
4. 55歳以上64歳以下の方の調査	337
5. 事業所調査	341

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

本調査は、令和9年度からの高齢者保健福祉計画・認知症施策推進計画・介護保険事業計画である「北区地域包括ケア推進計画」の資料とするために、高齢者の方や介護者の方、高齢になる前の方、介護サービス事業者の実態と意向を把握することを目的として実施しました。

2. 調査対象

調査名	調査対象
①要介護認定を受けていない方の調査 【一般高齢者調査】	令和7年11月1日現在で、要介護認定を受けていない65歳以上の方の中から5,000人を無作為抽出しました（要支援認定を受けている方を含む）。
②要介護（要支援）認定を受けている方の調査 【認定者調査】	令和7年11月1日現在で、要介護（要支援）認定を受けている65歳以上の方の中から2,000人を無作為抽出しました。
③在宅介護実態調査	令和7年11月1日現在で、被保険者台帳のうち、在宅介護を受けている65歳以上の方の中から2,000人を無作為抽出しました。
④55歳以上64歳以下の方の調査	令和7年11月1日現在で、55歳以上64歳以下の方の中から2,500人を無作為抽出しました。
⑤介護サービス事業者調査	北区内の全介護サービス事業所

3. 調査方法

調査名	調査対象
①要介護認定を受けていない方の調査 【一般高齢者調査】	郵送配布／郵送回収（はがきによるお礼を兼ねた督促状：1回送付）
②要介護（要支援）認定を受けている方の調査 【認定者調査】	
③在宅介護実態調査	
④55歳以上64歳以下の方の調査	郵送配布／郵送回収またはWEB回答（はがきによるお礼を兼ねた督促状：1回送付）
⑤介護サービス事業者調査	

4. 調査期間

令和7年12月3日（水）から24日（水）までの期間に実施しました。

5. 配付・回収状況

調査名	配付数 (件)	有効回収数 (件)	有効回収率 (%)
①【一般高齢者調査】	5,000	3,157	63.1
②【認定者調査】	1,998	1,019	51.0
③在宅介護実態調査	2,000	1,300	65.0
④55歳以上64歳以下の方の調査	2,500	1,235 (郵送：744 WEB：491)	49.4
⑤介護サービス事業者調査	449	285 (郵送：102 WEB：183)	63.5

6. 注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- ・百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合があります。
- ・複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合があります。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- ・回答者数が30件未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合があります。
- ・選択肢「その他」については、本文中で触れていません。
- ・第2章の設問で、調査票の場号の前に□と記載があるものは一般高齢者のみを対象とする調査、と記載があるものは認定者のみを対象とする調査です。
- ・第2章の両方の調査に共通する設問で、調査票上の番号が調査ごとに異なる場合、一般高齢者調査の番号を先に、認定者調査の調査票の番号を後に掲載しています(例：Q3Q4)。

- ・ 報告書内に居住地区別で分析している設問がありますが、居住地区の区域は地域振興室の管轄区域となっています。

地区名	該当区域
十条台	中十条1～4丁目、岸町1～2丁目、十条台1丁目、王子本町1～3丁目、上十条1丁目
王子	王子1～6丁目、豊島1丁目
豊島	豊島2～8丁目
十条	上十条2～5丁目、十条仲原1～4丁目、十条台2丁目
神谷	神谷1～3丁目
赤羽西	赤羽西1～6丁目（5丁目3～15を除く）、西が丘1～3丁目
志茂	志茂1～5丁目
赤羽	岩淵町、赤羽1～2丁目、赤羽3丁目1～4番、5番2～11号、6番1～9号・27～32号、赤羽南1～2丁目
赤羽北	赤羽北1～2丁目、3丁目（3～5、16、18、26及び27の一部を除く）、赤羽3丁目（赤羽の管轄区域を除く）、赤羽台4丁目2～15、17（9、25～65）、18、19、桐ヶ丘1丁目20、桐ヶ丘2丁目11
滝野川西	滝野川3～7丁目（一部管轄外の区域あり。また滝野川1丁目の一部を管轄区域に含む。）
滝野川東	滝野川1～2丁目、西ヶ原2～4丁目
西ヶ原東	上中里1丁目、中里1～3丁目、西ヶ原1丁目、西ヶ原3丁目（一部）
昭和町	上中里2～3丁目、昭和町1～3丁目、栄町
浮間	浮間1～5丁目
桐ヶ丘	桐ヶ丘1～2丁目（都営団地）、赤羽北3丁目（16、18、26）、赤羽台1～3丁目、4丁目1、16、17（1～8、10～24、66、68）、赤羽西5丁目（赤羽西の管轄区域を除く）
田端	田端1～6丁目
東十条	東十条1～6丁目
堀船	堀船1～4丁目
東田端	田端新町1～3丁目、東田端1～2丁目

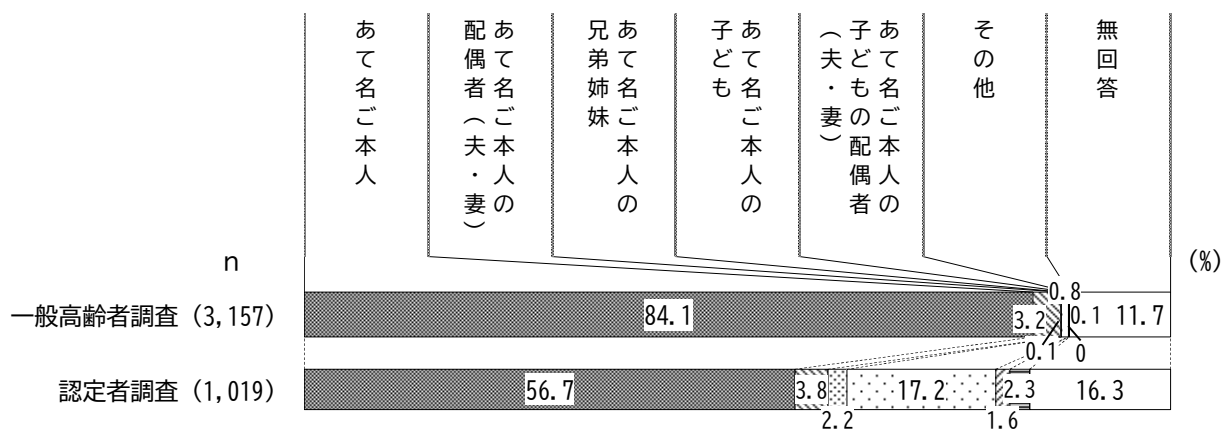
第2章 要介護認定を受けていない方及び 要介護（要支援）認定を受けている方 の調査結果

調査票の回答者

Q. この調査票にお答えいただく方はどなたですか。（○は1つ）

一般高齢者では、「あて名ご本人」が84.1%と最も多く、次いで「あて名ご本人の配偶者（夫・妻）」が3.2%、「あて名ご本人の子ども」が0.8%、「あて名ご本人の兄弟姉妹」が0.1%となっています。

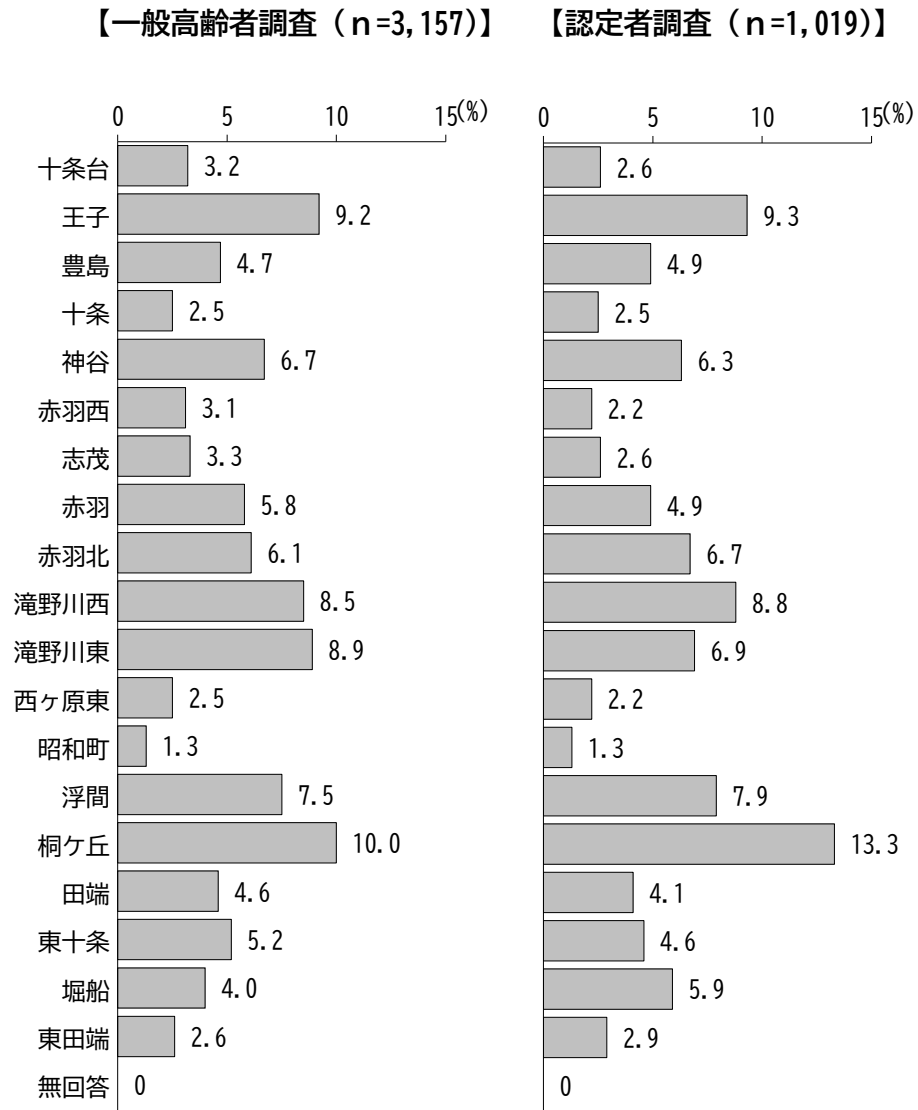
認定者調査では、「あて名ご本人」が56.7%と最も多く、次いで「あて名ご本人の子ども」が17.2%、「あて名ご本人の配偶者（夫・妻）」が3.8%、「その他」が2.3%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈居住地区〉

回答者の居住地区は、一般高齢者調査では「桐ヶ丘」「王子」「滝野川東」「滝野川西」「浮間」の順で多く、認定者調査では「桐ヶ丘」「王子」「滝野川西」「浮間」「滝野川東」の順で多くなっています。

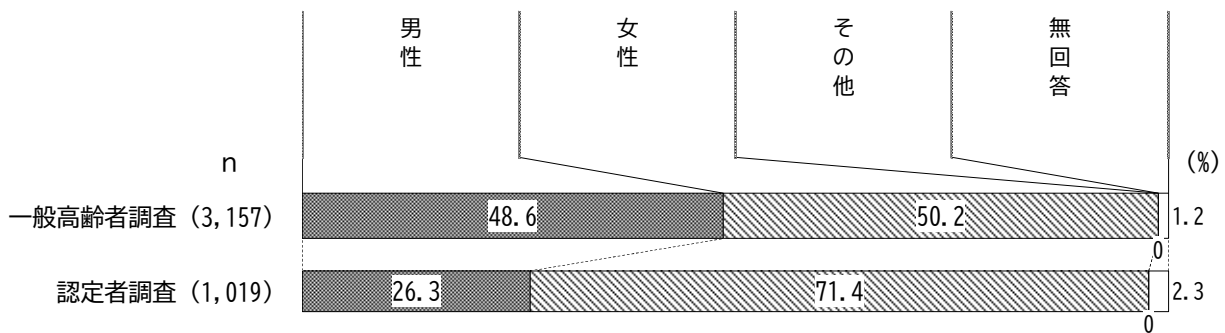


1. ご家族や生活状況

(1) 性別

Q1. あなたの性別をお答えください。

一般高齢者調査では、「男性」が48.6%、「女性」が50.2%となっています。
認定者調査では、「男性」が26.3%、「女性」が71.4%となっています。



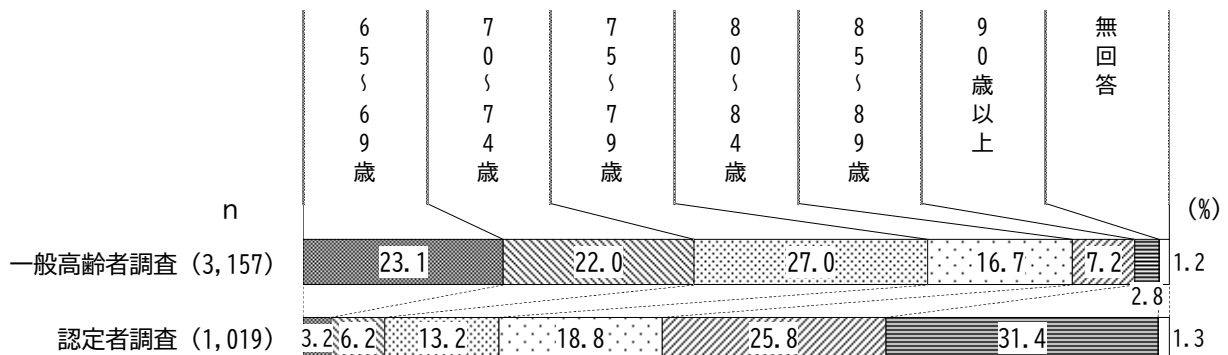
※「その他」は0件だった。

(2) 年齢

Q2. あなたの年齢をお答えください。

一般高齢者調査では、「75～79歳」が27.0%と最も多く、次いで「65～69歳」が23.1%、「70～74歳」が22.0%、「80～84歳」が16.7%となっています。

認定者調査では、「90歳以上」が31.4%と最も多く、次いで「85～89歳」が25.8%、「80～84歳」が18.8%、「75～79歳」が13.2%となっています。



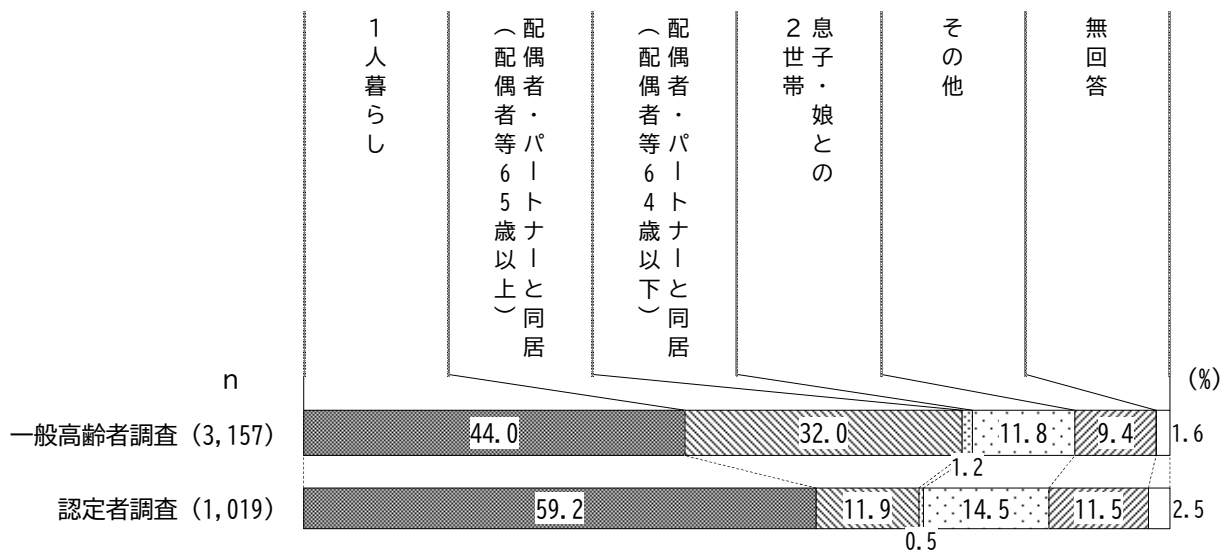
第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(3) 家族構成

□Q3 〇Q4. 家族構成をお教えてください。(○は1つ)

一般高齢者調査では、「1人暮らし」が44.0%と最も多く、次いで「配偶者・パートナーと同居（配偶者65歳以上）」が32.0%、「息子・娘との2世帯」が11.8%、「その他」が9.4%となっています。

認定者調査では、「1人暮らし」が59.2%と最も多く、次いで「息子・娘との2世帯」が14.5%、「配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）」が11.9%、「その他」が11.5%となっています。

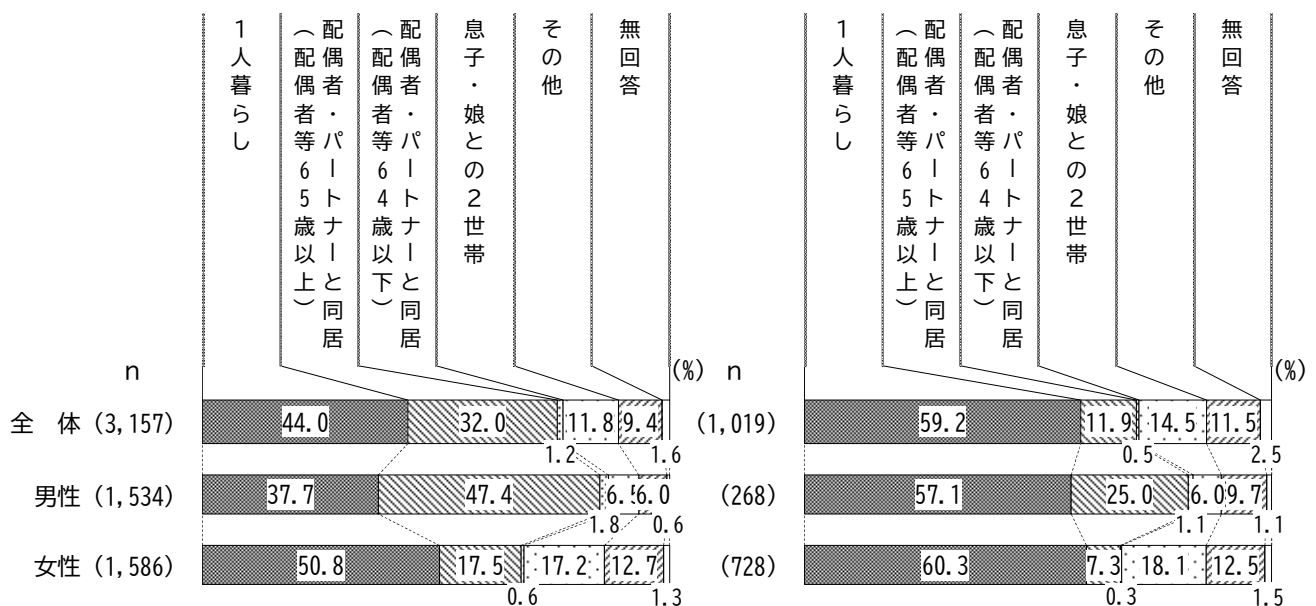


〈性別／家族構成〉

性別に見ると、一般高齢者調査の男性は、「1人暮らし」（37.7%）よりも「配偶者・パートナーと同居（配偶者65歳以上）」（47.4%）の方が多く、女性はいずれの調査でも「1人暮らし」が最も多くなっています。

【一般高齢者調査】

【認定者調査】



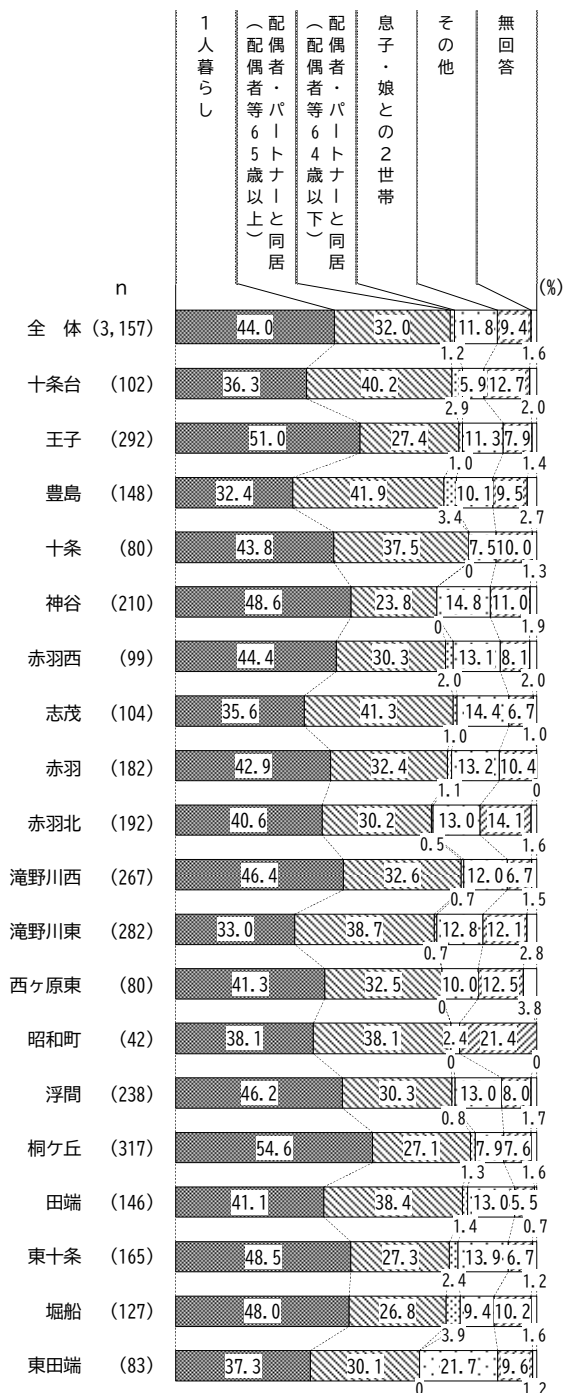
第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈居住地区別／家族構成〉

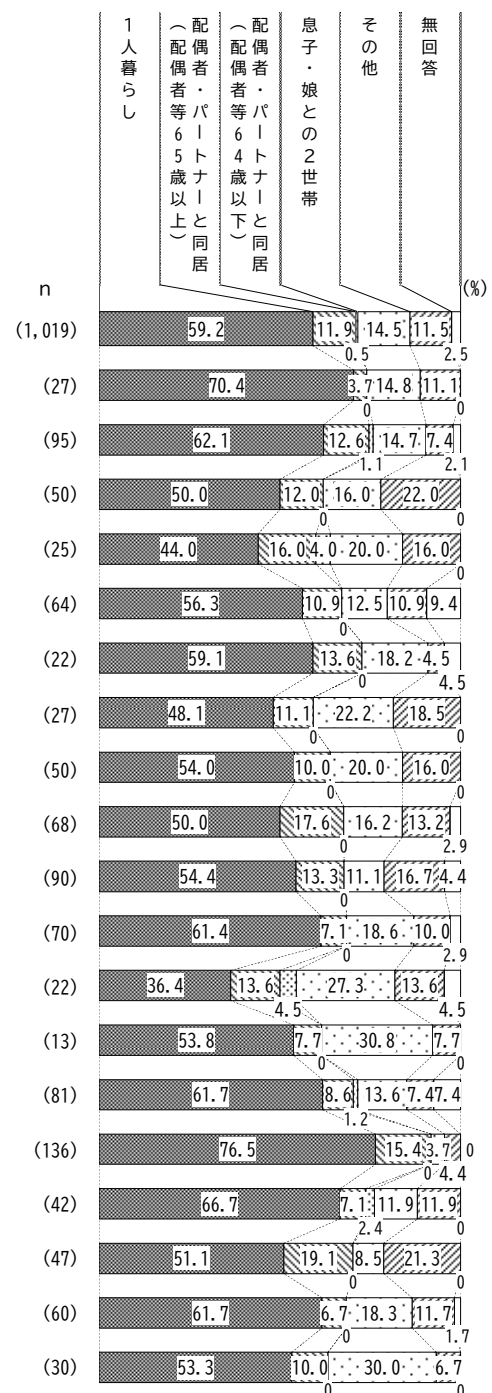
居住地区別に「1人暮らし」の割合を、一般高齢者調査・認定者調査で比較すると、ほとんどの地区で認定者調査の方が上回っていますが、西ヶ原東は一般高齢者調査の方で多くなっています。

認定者調査の「1人暮らし」は、十条台（70.4%）と桐ヶ丘（76.5%）で7割以上と多い一方、西ヶ原東（36.4%）では唯一4割未満となっています。

【一般高齢者調査】



【認定者調査】

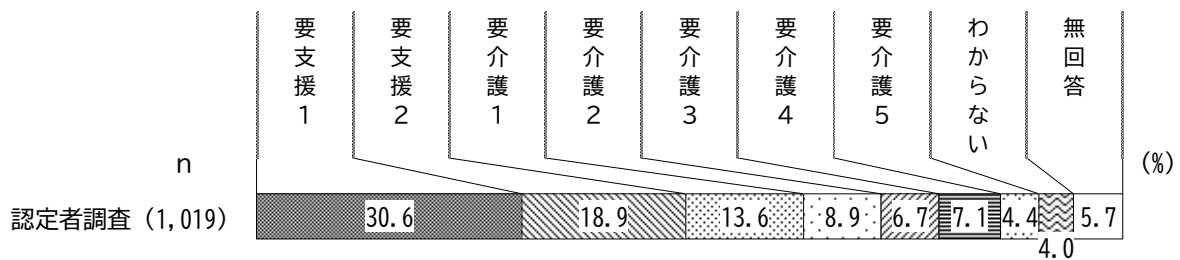


第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(4) 要介護・要支援度及び介護・介助の必要性

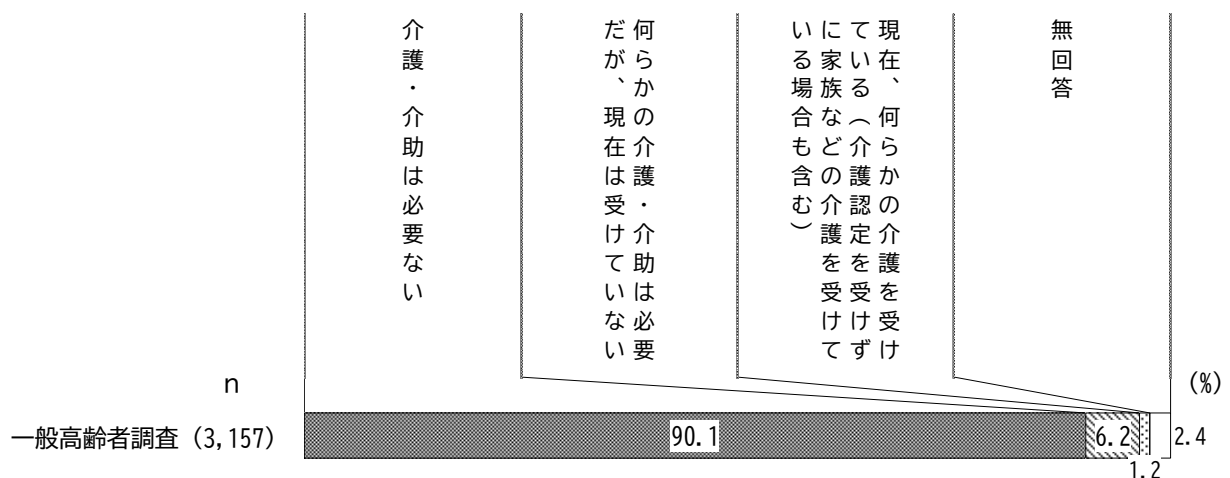
認Q3. あなたの要介護度（要支援度）をお答えください。（○は1つ）

「要支援1」が30.6%と最も多く、次いで「要支援2」が18.9%、「要介護1」が13.6%、「要介護2」が8.9%となっています。



□Q4. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。（○は1つ）

「介護・介助は必要ない」が90.1%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.2%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が1.2%となっています。

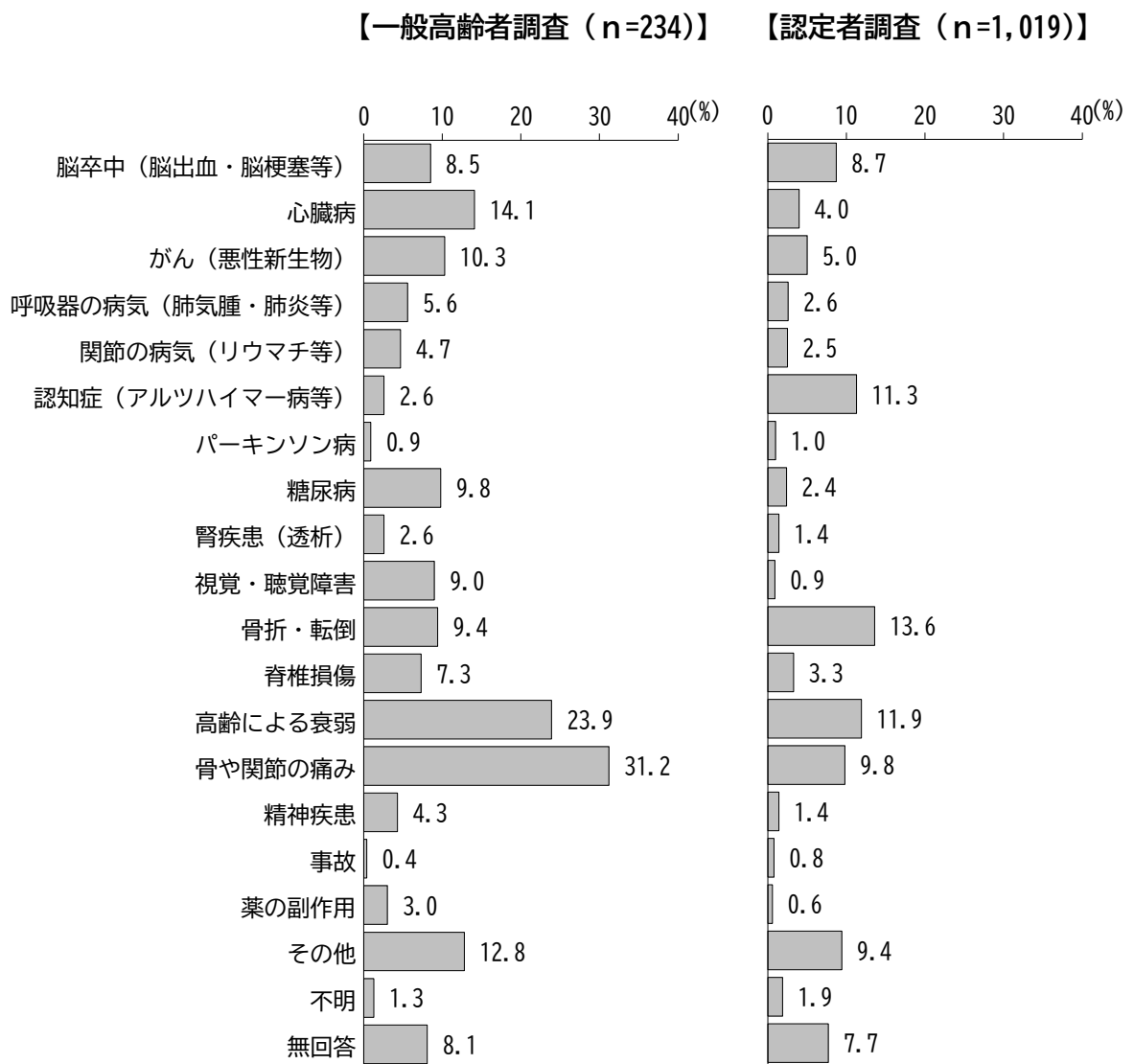


(5) 介護・介助が必要になった主な原因／認定を受けた主な原因

【Q4で「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「3. 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」と答えた方にかがいます。】

Q5. 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

一般高齢者調査では、「骨や関節の痛み」（31.2%）と「高齢による衰弱」（23.9%）が特に多く、認定者調査では、「骨折・転倒」が13.6%と最も多く、次いで「高齢による衰弱」が11.9%、「認知症（アルツハイマー病等）」が11.3%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：性別／認定を受けた主な原因〉

性別に見ると、男性は女性に比べて「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の割合が高く、女性は「骨折・転倒」「骨や関節の痛み」が高くなっています。

	回答者数	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	心臓病	がん (悪性新生物)	呼吸器の病気 (肺炎腫・肺炎等)	関節の病気 (リウマチ等)	認知症 (アルツハイマー病等)	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患 (透析)	視覚・聴覚障害
認定者／全体	1,019	8.7	4.0	5.0	2.6	2.5	11.3	1.0	2.4	1.4	0.9
男性	268	14.2	5.2	8.2	2.2	0.7	9.7	1.9	2.6	3.7	1.9
女性	728	6.7	3.7	3.6	2.7	3.2	12.2	0.7	2.3	0.5	0.5

	回答者数	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	骨や関節の痛み	精神疾患	事故	薬の副作用	その他	不明	無回答
認定者／全体	1,019	13.6	3.3	11.9	9.8	1.4	0.8	0.6	9.4	1.9	7.7
男性	268	6.7	5.2	10.8	5.2	2.6	1.5	0.4	8.6	3.4	5.2
女性	728	16.3	2.6	12.6	11.5	1.0	0.5	0.7	10.0	1.4	7.0

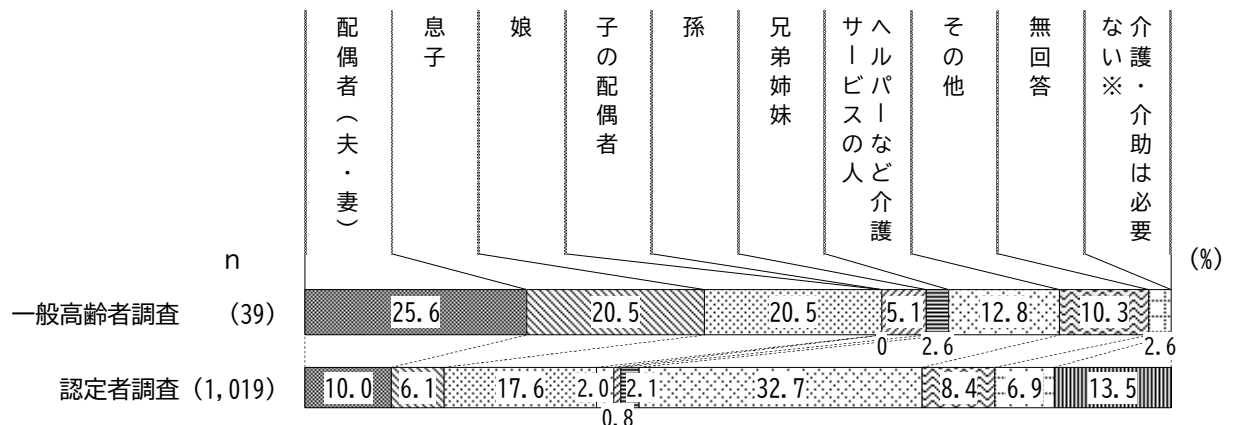
(6) 主な介護者・介助者

【Q4で「3. 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」と答えた方にかがいます。】

Q6. 主にどなたの介護・介助を受けていますか。(○は1つ)

一般高齢者調査では、「配偶者（夫・妻）」が25.6%と最も多く、次いで「息子」および「娘」が20.5%となっています。

認定者調査では、「ヘルパーなど介護サービスの人」が32.7%と最も多く、次いで「娘」が17.6%、「配偶者（夫・妻）」が10.0%となっています。

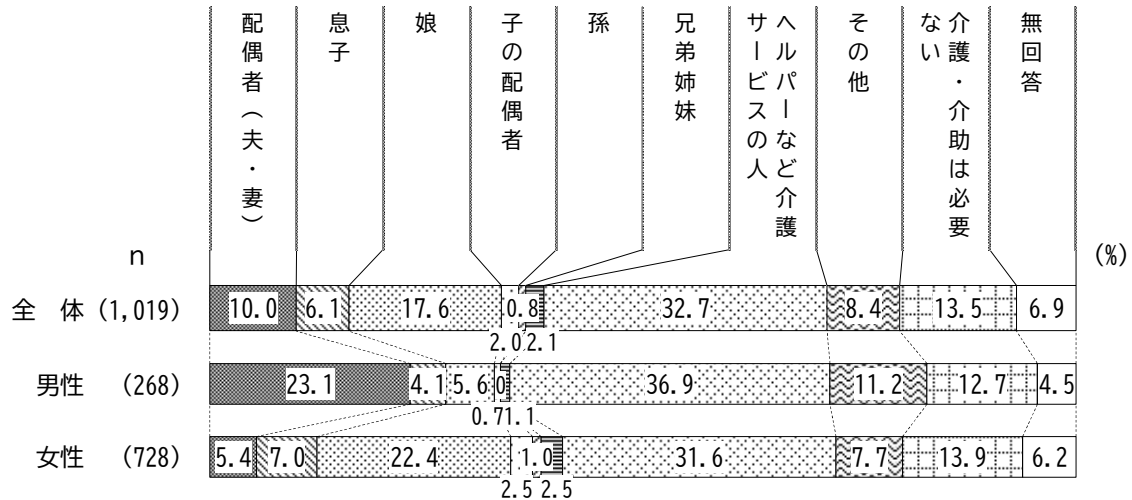


※選択肢「介護・介助は必要ない」：認定者調査のみ聴取した。

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：性別／主な介護者・介助者〉

認定者調査を性別に見ると、男女とも「ヘルパーなど介護サービスの人」が3割台と最も多く、次いで、男性は「配偶者（夫・妻）」（23.1%）、女性は「娘」（22.4%）となっています。

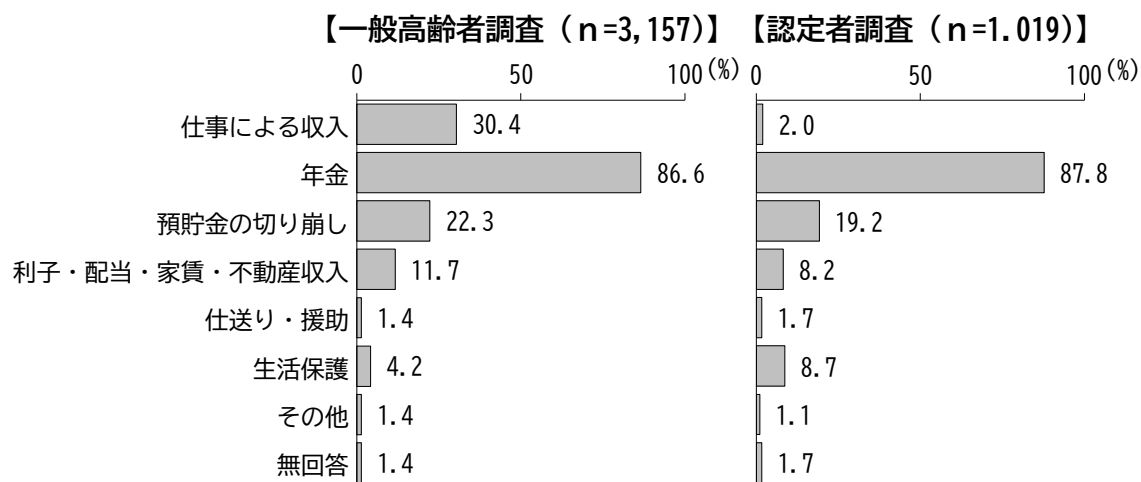


(7) 収入源

Q7. あなたの収入は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

いずれの調査も「年金」が9割近くと多く、一般高齢者調査では「仕事による収入」（30.4%）がこれに続いています。

認定者調査では、「生活保護」が8.7%と一般高齢者調査の4.2%に比べてやや多くなっています。



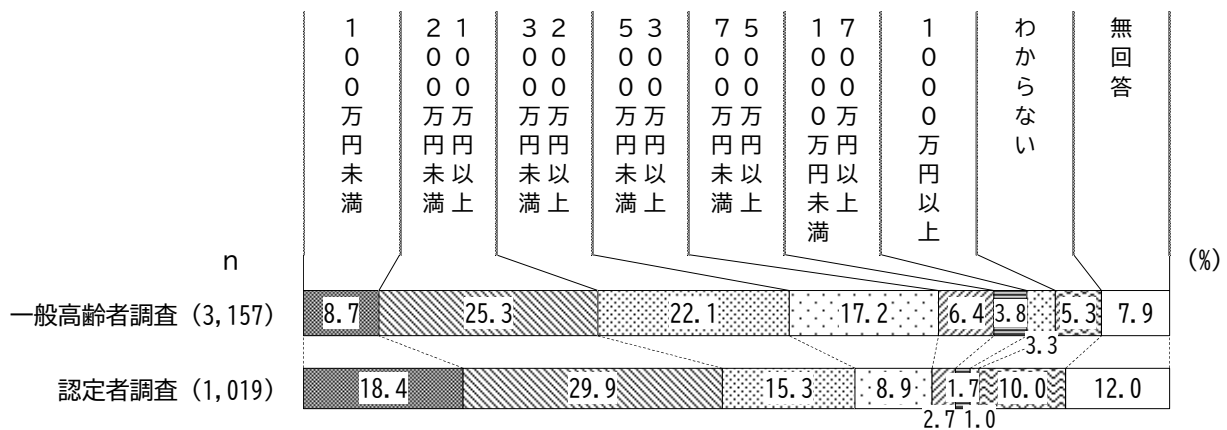
第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(8) 世帯年収

Q8. 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入（税込）総額はどれくらいですか。
 (○は1つ)

一般高齢者調査では、「100万円以上200万円未満」が25.3%と最も多く、次いで「200万円以上300万円未満」が22.1%、「300万円以上500万円未満」が17.2%、「100万円未満」が8.7%となっています。

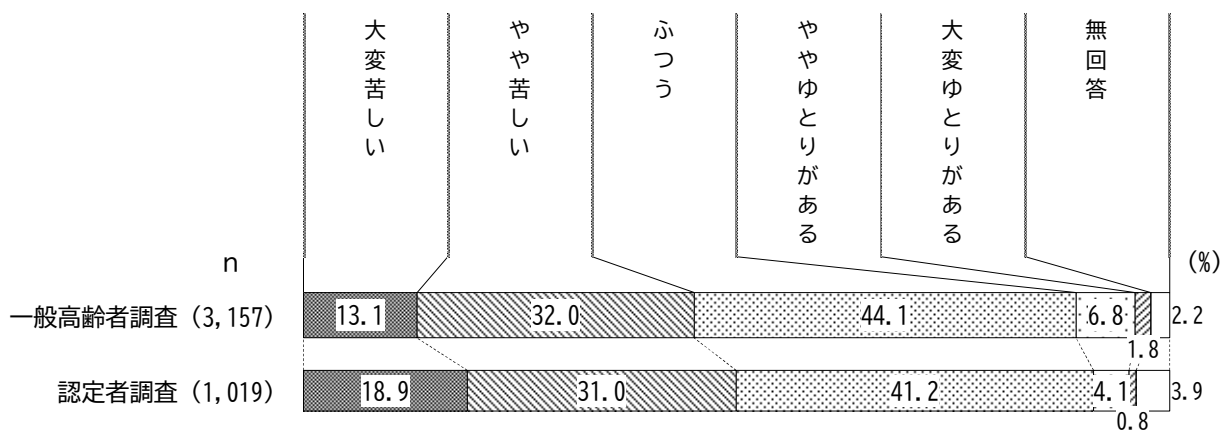
認定者調査では、「100万円以上200万円未満」が29.9%と最も多く、次いで「100万円未満」が18.4%、「200万円以上300万円未満」が15.3%、「300万円以上500万円未満」が8.9%となっています。



(9) 暮らし向き

Q9. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○は1つ)

いずれの調査も「ふつう」が4割を超えて最も多く、次いで「やや苦しい」が3割台、「大変苦しい」が1割台となっています。



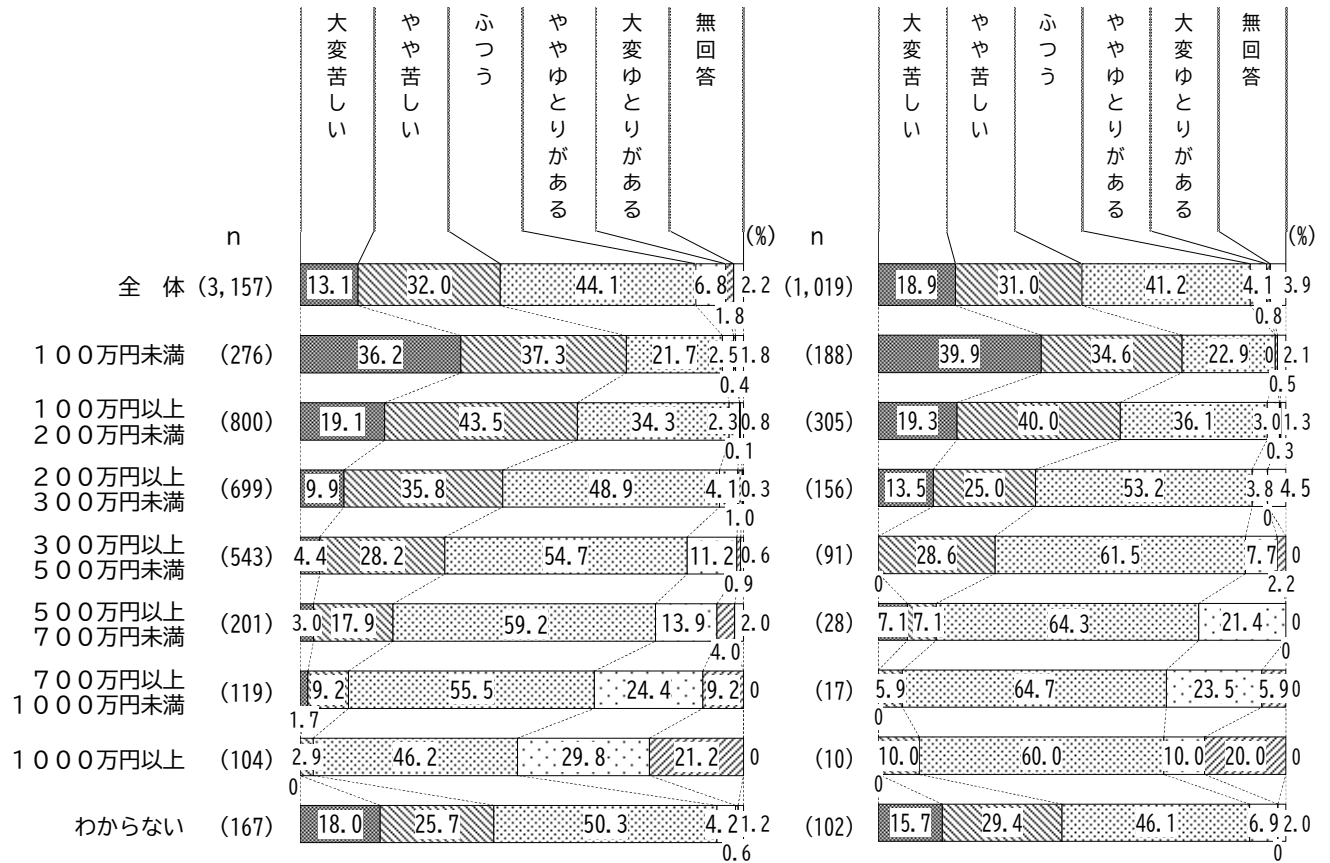
第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈年間収入総額別／暮らし向き〉

年間収入総額別に見ると、いずれの調査でも年収が少ないほど『苦しい』（「大変苦しい」＋「やや苦しい」）が多く、100万円未満では7割を超えています。

【一般高齢者調査】

【認定者調査】

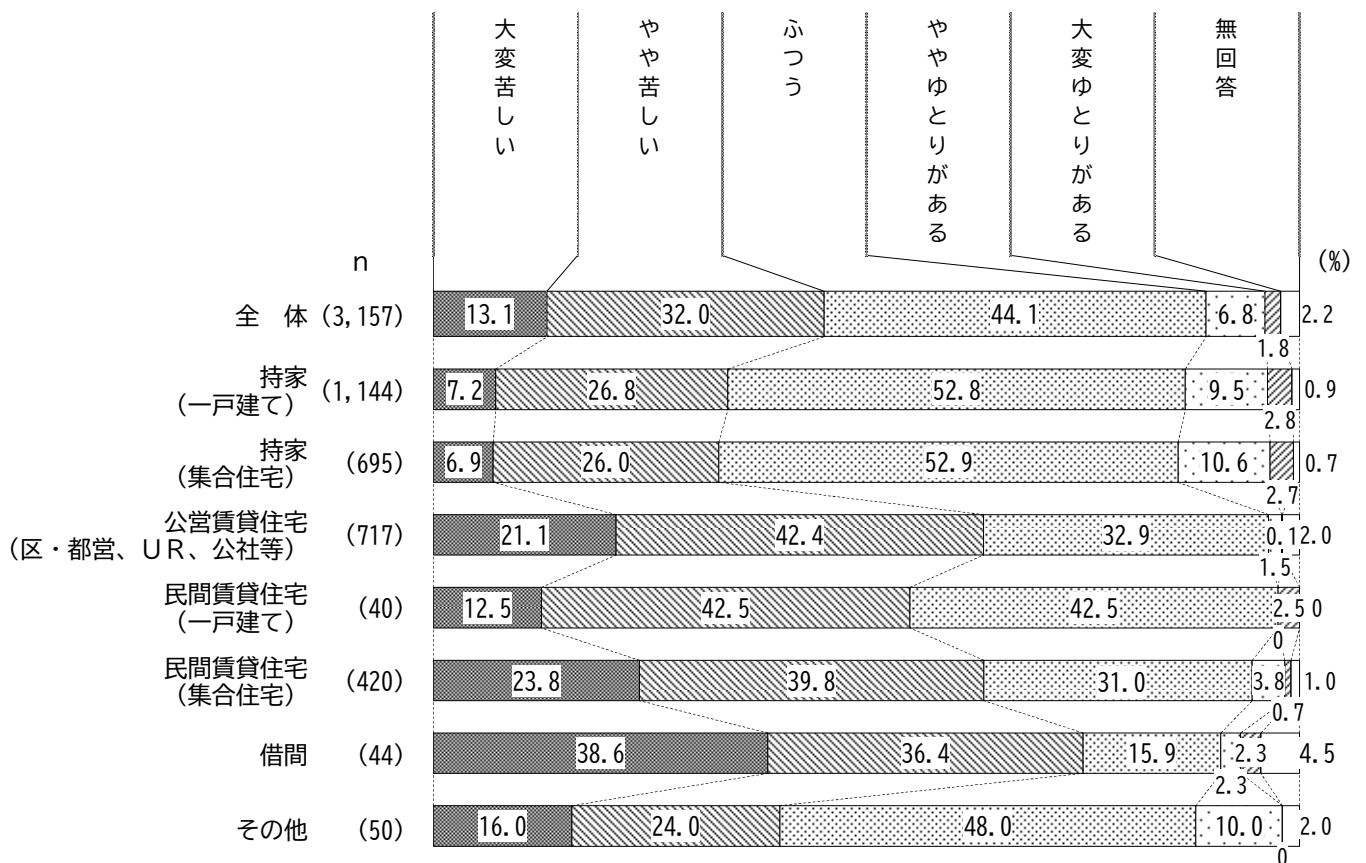


第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈住居形態別／暮らし向き〉

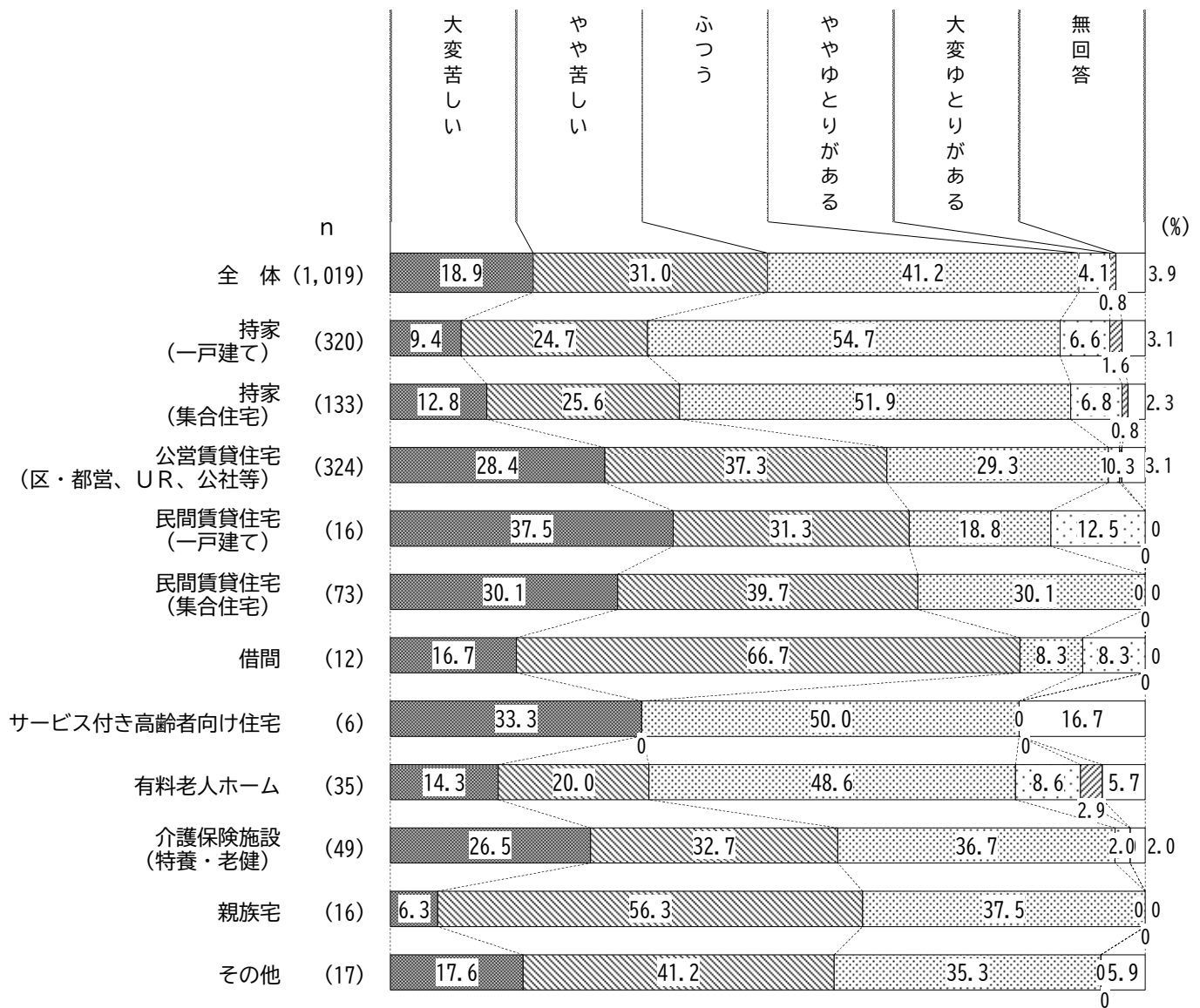
住居形態別に見ると、いずれの調査でも持家よりも賃貸住宅の方が『苦しい』が多くなっています。

【一般高齢者調査】



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

【認定者調査】



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

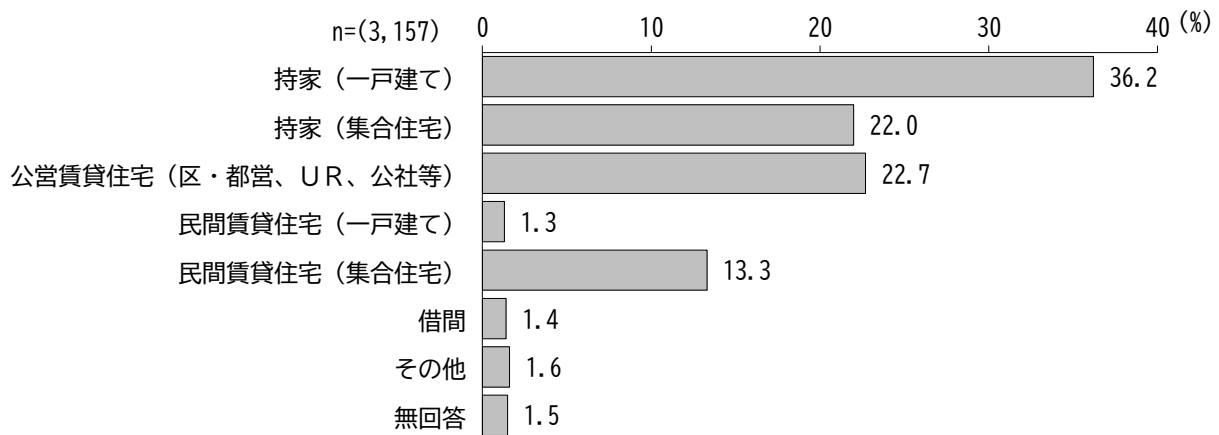
(10) 住居形態

Q10. お住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

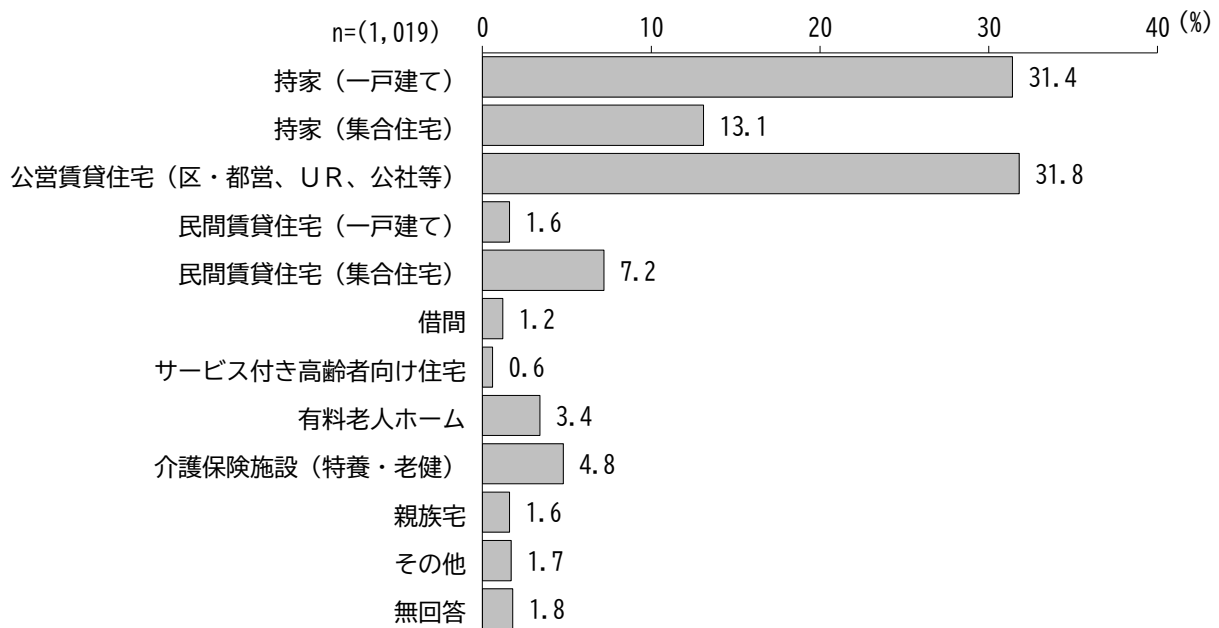
一般高齢者調査では「持家（一戸建て）」、認定者調査では「公営賃貸住宅（区・都営、UR、公社等）」が最も多くなっています。

一般高齢者調査の「民間賃貸住宅（集合住宅）」は13.3%で、認定者調査の2倍近くとなっています。

【一般高齢者調査】



【認定者調査】



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈居住地区別／住居形態〉

居住地区別に見ると、「持家（一戸建て）」が5割以上の地区は、一般高齢者調査では、滝野川東（60.6%）、田端（56.8%）、志茂（55.8%）、昭和町（54.8%）、赤羽西（51.5%）、認定者調査では田端（59.5%）、滝野川東（54.3%）となっています。また、桐ヶ丘は「公営賃貸住宅（区・都営、UR、公社等）」が一般高齢者調査で65.0%、認定者調査で86.0%となっています。

【一般高齢者調査】

(%)

	回答者数	持家（一戸建て）	持家（集合住宅）	公営賃貸住宅 （区・都営、UR、公社等）	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	借間	その他	無回答
一般／全体	3,157	36.2	22.0	22.7	1.3	13.3	1.4	1.6	1.5
十条台	102	41.2	23.5	7.8	-	21.6	2.9	2.9	-
王子	292	23.3	29.8	30.8	0.3	12.7	1.4	1.0	0.7
豊島	148	27.7	16.2	43.9	0.7	10.1	-	-	1.4
十条	80	48.8	13.8	-	2.5	21.3	6.3	6.3	1.3
神谷	210	30.5	17.1	37.6	1.9	10.0	1.0	1.0	1.0
赤羽西	99	51.5	12.1	19.2	-	15.2	-	1.0	1.0
志茂	104	55.8	12.5	-	1.9	26.0	2.9	-	1.0
赤羽	182	42.9	33.5	4.4	1.6	13.2	1.1	1.6	1.6
赤羽北	192	33.3	32.8	22.4	-	8.3	-	2.1	1.0
滝野川西	267	44.2	20.2	15.0	1.1	14.2	3.0	0.7	1.5
滝野川東	282	60.6	18.4	2.5	2.1	11.7	1.4	0.7	2.5
西ヶ原東	80	45.0	17.5	1.3	1.3	23.8	1.3	3.8	6.3
昭和町	42	54.8	11.9	2.4	4.8	21.4	-	4.8	-
浮間	238	18.5	27.3	38.7	2.1	9.7	0.8	2.1	0.8
桐ヶ丘	317	11.0	13.9	65.0	0.6	5.0	1.6	1.3	1.6
田端	146	56.8	19.9	-	3.4	16.4	2.1	0.7	0.7
東十条	165	35.8	37.0	-	-	23.0	1.2	1.2	1.8
堀船	127	26.8	18.1	41.7	1.6	6.3	-	3.1	2.4
東田端	83	42.2	20.5	6.0	1.2	21.7	-	4.8	3.6

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

【認定者調査】

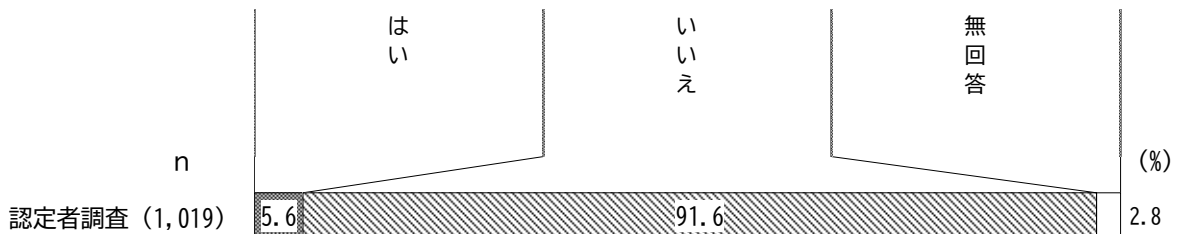
(%)

	回答者数	持家（一戸建て）	持家（集合住宅）	公営賃貸住宅 （区・都営、UR、公社等）	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	借間	サービス付き高齢者向け住宅	有料老人ホーム	介護保険施設（特養・老健）	親族宅	その他	無回答
認定者／全体	1,019	31.4	13.1	31.8	1.6	7.2	1.2	0.6	3.4	4.8	1.6	1.7	1.8
十条台	27	25.9	7.4	33.3	-	14.8	-	-	3.7	11.1	3.7	-	-
王子	95	30.5	12.6	40.0	3.2	4.2	1.1	-	4.2	1.1	-	1.1	2.1
豊島	50	18.0	8.0	46.0	-	2.0	-	-	6.0	10.0	4.0	4.0	2.0
十条	25	44.0	-	4.0	-	24.0	8.0	-	8.0	12.0	-	-	-
神谷	64	28.1	14.1	39.1	-	1.6	1.6	-	1.6	4.7	3.1	1.6	4.7
赤羽西	22	36.4	9.1	22.7	-	4.5	-	4.5	4.5	4.5	-	9.1	4.5
志茂	27	44.4	3.7	-	7.4	22.2	-	-	14.8	3.7	3.7	-	-
赤羽	50	44.0	18.0	6.0	2.0	12.0	4.0	2.0	4.0	8.0	-	-	-
赤羽北	68	29.4	20.6	23.5	-	8.8	-	1.5	5.9	2.9	1.5	2.9	2.9
滝野川西	90	38.9	17.8	20.0	2.2	6.7	2.2	1.1	2.2	3.3	2.2	-	3.3
滝野川東	70	54.3	14.3	2.9	4.3	12.9	1.4	-	1.4	4.3	2.9	-	1.4
西ヶ原東	22	40.9	9.1	9.1	-	9.1	4.5	4.5	9.1	9.1	-	4.5	-
昭和町	13	46.2	15.4	-	-	23.1	-	-	7.7	-	-	-	7.7
浮間	81	21.0	9.9	48.1	-	3.7	-	-	1.2	9.9	2.5	1.2	2.5
桐ヶ丘	136	5.9	5.9	86.0	-	-	-	-	0.7	-	-	1.5	-
田端	42	59.5	9.5	-	7.1	11.9	-	-	4.8	2.4	4.8	-	-
東十条	47	38.3	34.0	-	2.1	12.8	2.1	-	4.3	-	-	6.4	-
堀船	60	30.0	10.0	40.0	-	1.7	1.7	1.7	-	8.3	1.7	1.7	3.3
東田端	30	33.3	26.7	6.7	3.3	10.0	-	-	3.3	13.3	-	3.3	-

(11) 住み替え

認Q11. この1年間に住み替えをしましたか。(○は1つ)

「はい」(住み替えをした)の割合は5.6%となっています。

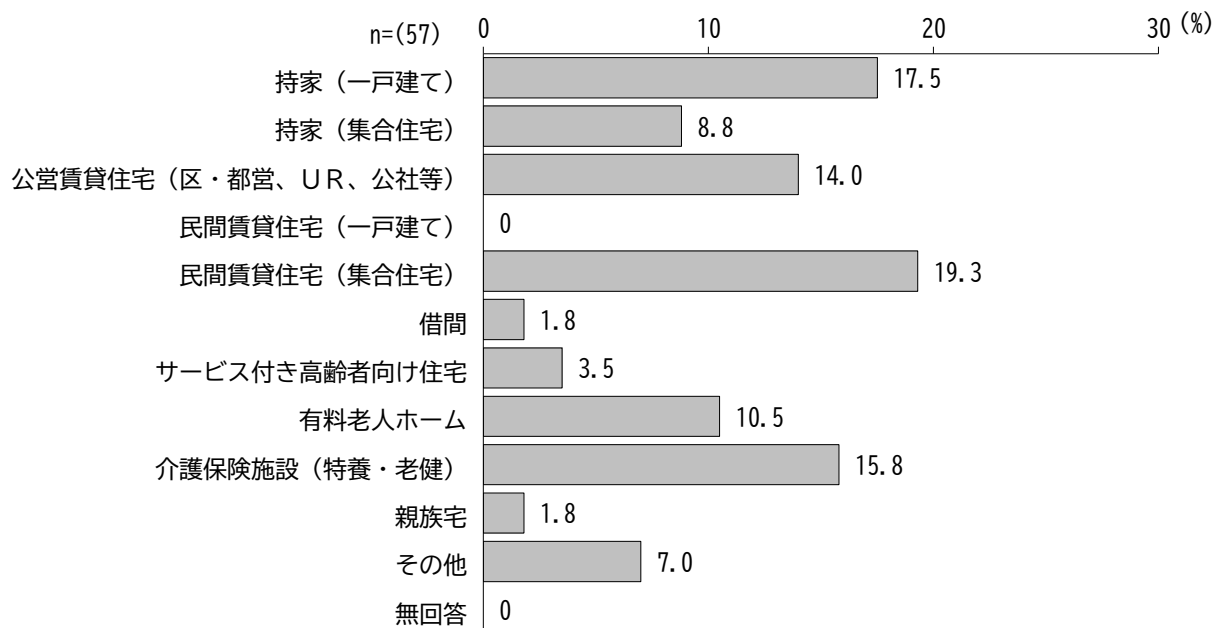


(12) 住み替え前の住居形態

【認Q11で「1. はい」と答えた方にうかがいます。】

認Q12. どこから住み替えましたか。(○は1つ)

「民間賃貸住宅（集合住宅）」が19.3%と最も多く、次いで「持家（一戸建て）」が17.5%、「介護保険施設（特養・老健）」が15.8%、「公営賃貸住宅（区・都営、UR、公社等）」が14.0%となっています。

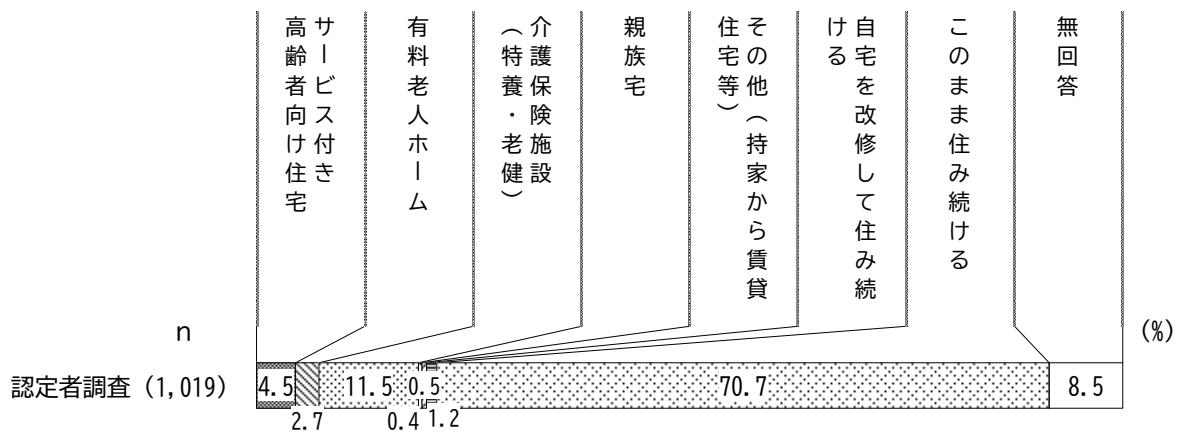


第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(13) 住み替え希望

認Q13. 今後、住み替えを希望しますか。(○は1つ)

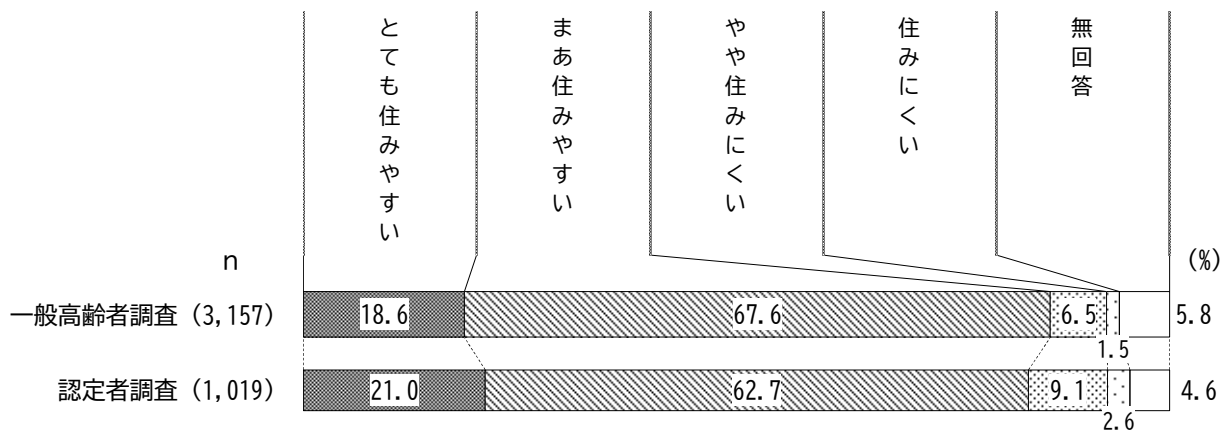
「このまま住み続ける」が70.7%と最も多く、次いで「介護保険施設（特養・老健）」が11.5%、「サービス付き高齢者向け住宅」が4.5%、「有料老人ホーム」が2.7%となっています。



(14) 住みやすさ

認Q11 認Q14. ご自身の住んでいる地域を「住みやすい地域」だと感じますか。(○は1つ)

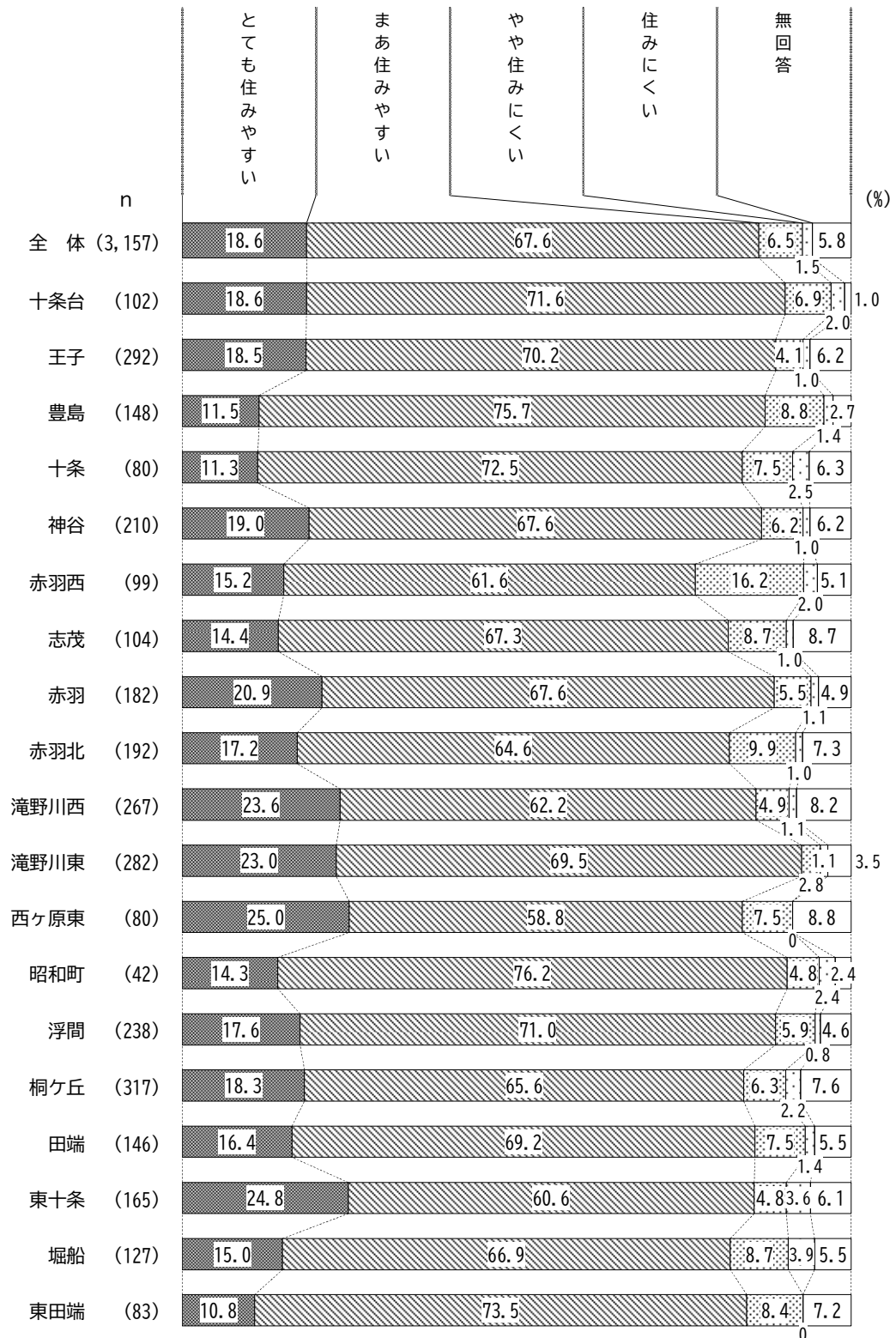
いずれの調査も「まあ住みやすい」が6割を超え、「とても住みやすい」が2割前後となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査：居住地区別／住みやすさ〉

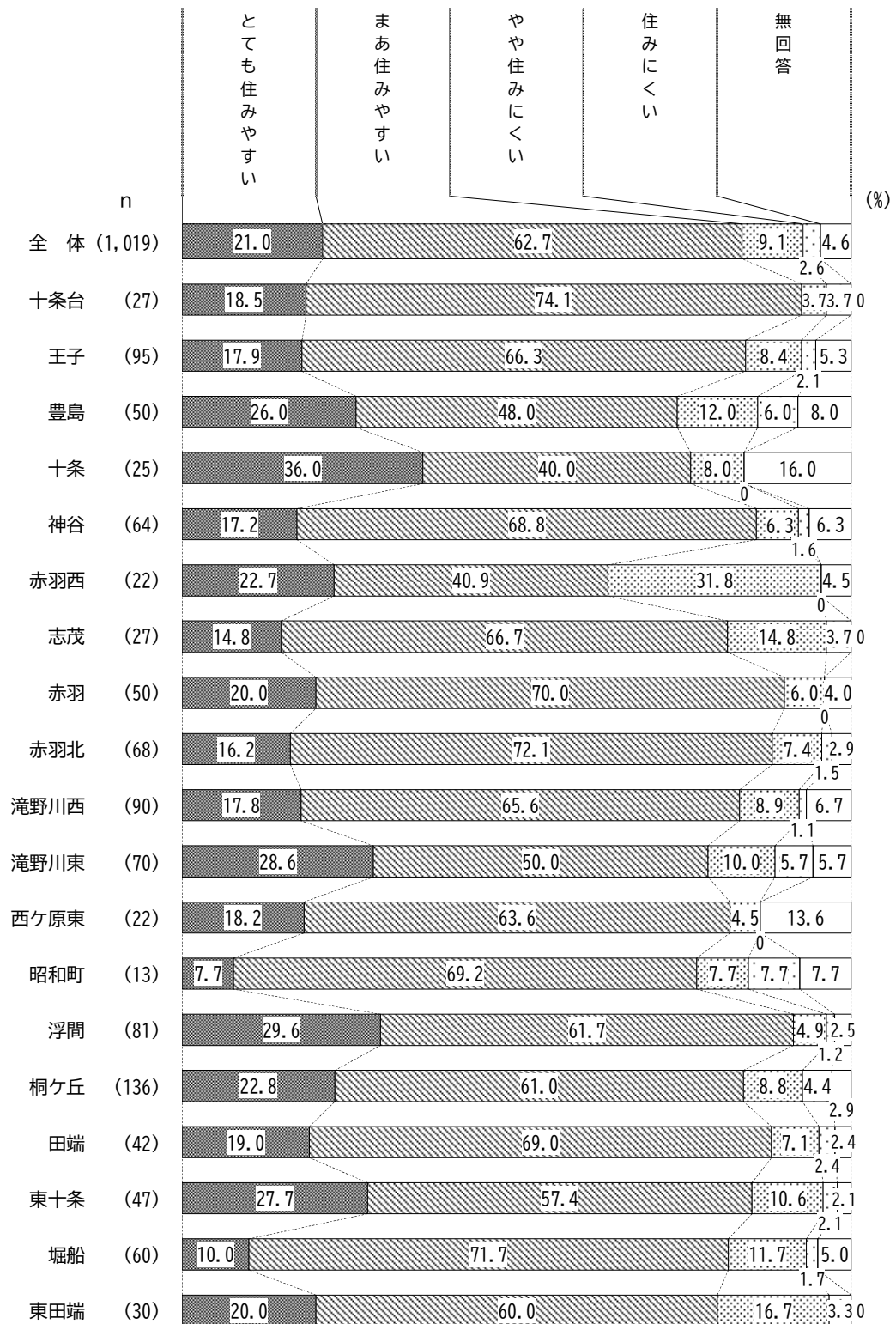
居住地区別に見ると、「とても住みやすい」が多い地区は、西ヶ原東（25.0%）、東十条（24.8%）、滝野川西（23.6%）、滝野川東（23.0%）と続いています。一方、「やや住みにくい」は、赤羽西（16.2%）で唯一1割を超えています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：居住地区別／住みやすさ〉

居住地区別に見ると、「とても住みやすい」が多い地区は、十条（36.0%）、浮間（29.6%）、滝野川東（28.6%）、東十条（27.7%）と続いています。一方、「やや住みにくい」は、赤羽西（31.8%）、東田端（16.7%）、志茂（14.8%）、豊島（12.0%）となっています。



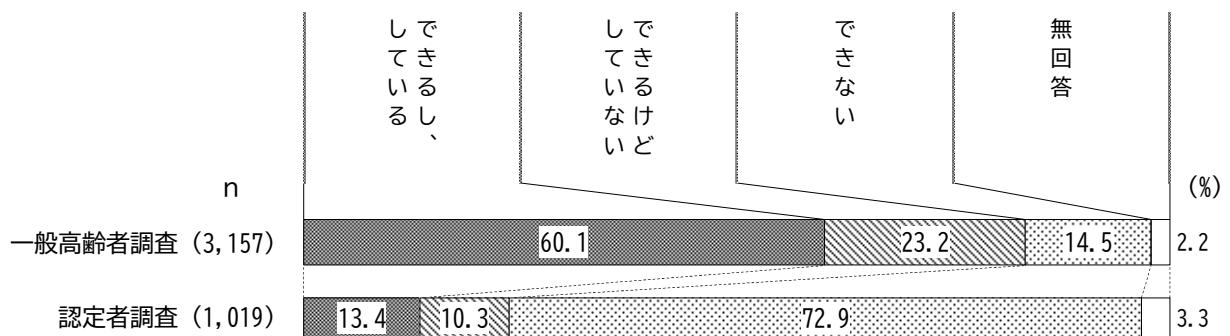
2. からだを動かすこと

(1) 階段の昇降

Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○は1つ)

一般高齢者調査では、「できるし、している」が60.1%で、「できるけどしていない」が23.2%、「できない」が14.5%となっています。

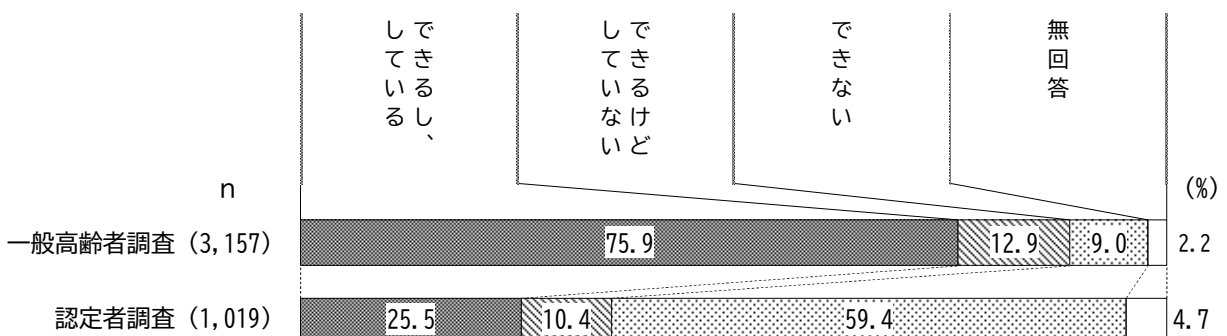
認定者調査では、「できない」が72.9%を占めています。



(2) 椅子からの立ち上がり

Q2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○は1つ)

一般高齢者調査では、「できるし、している」が75.9%となっています。一方、認定者調査では、「できない」が59.4%となっています。

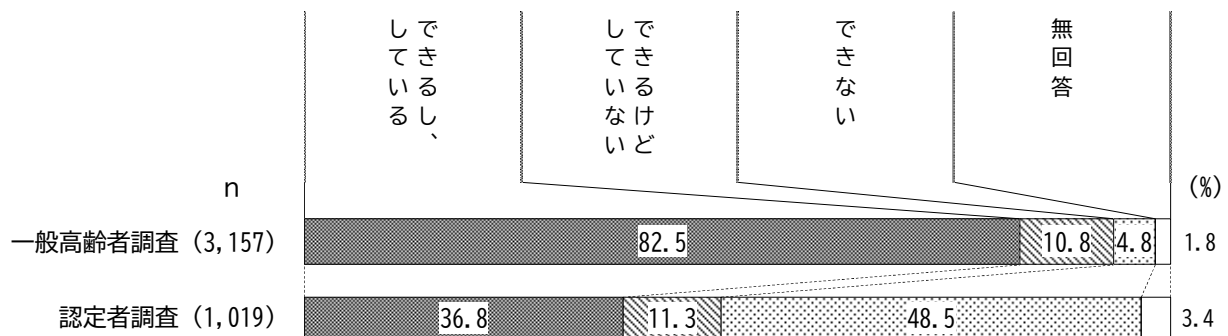


第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(3) 15分間の歩行

Q3. 15分位続けて歩いていますか。(○は1つ)

一般高齢者調査では、「できるし、している」が82.5%を占める一方、認定者調査では36.8%で、「できない」の48.5%よりも少なくなっています。

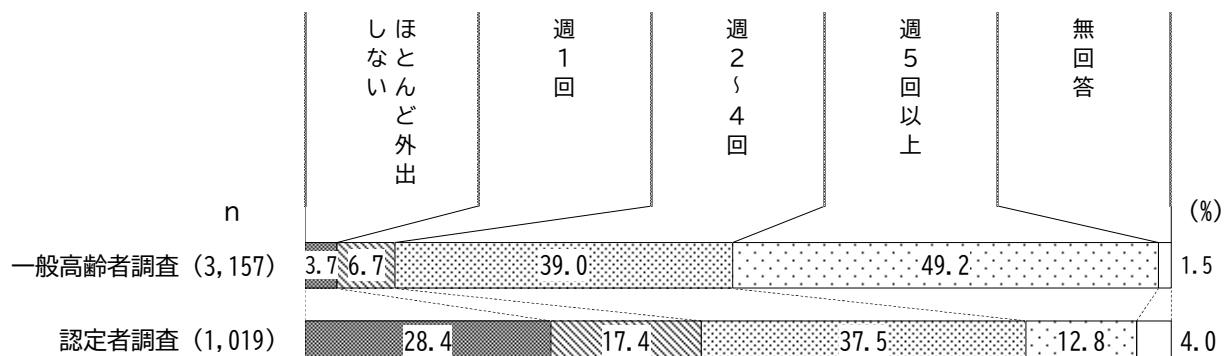


(4) 外出頻度

Q4. 週に1回以上は外出していますか。(○は1つ)

一般高齢者調査では、「週5回以上」が49.2%、「週2～4回」が39.0%の順で多くなっています。

認定者調査では、「週2～4回」が37.5%、「ほとんど外出しない」が28.4%、「週1回」が17.4%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

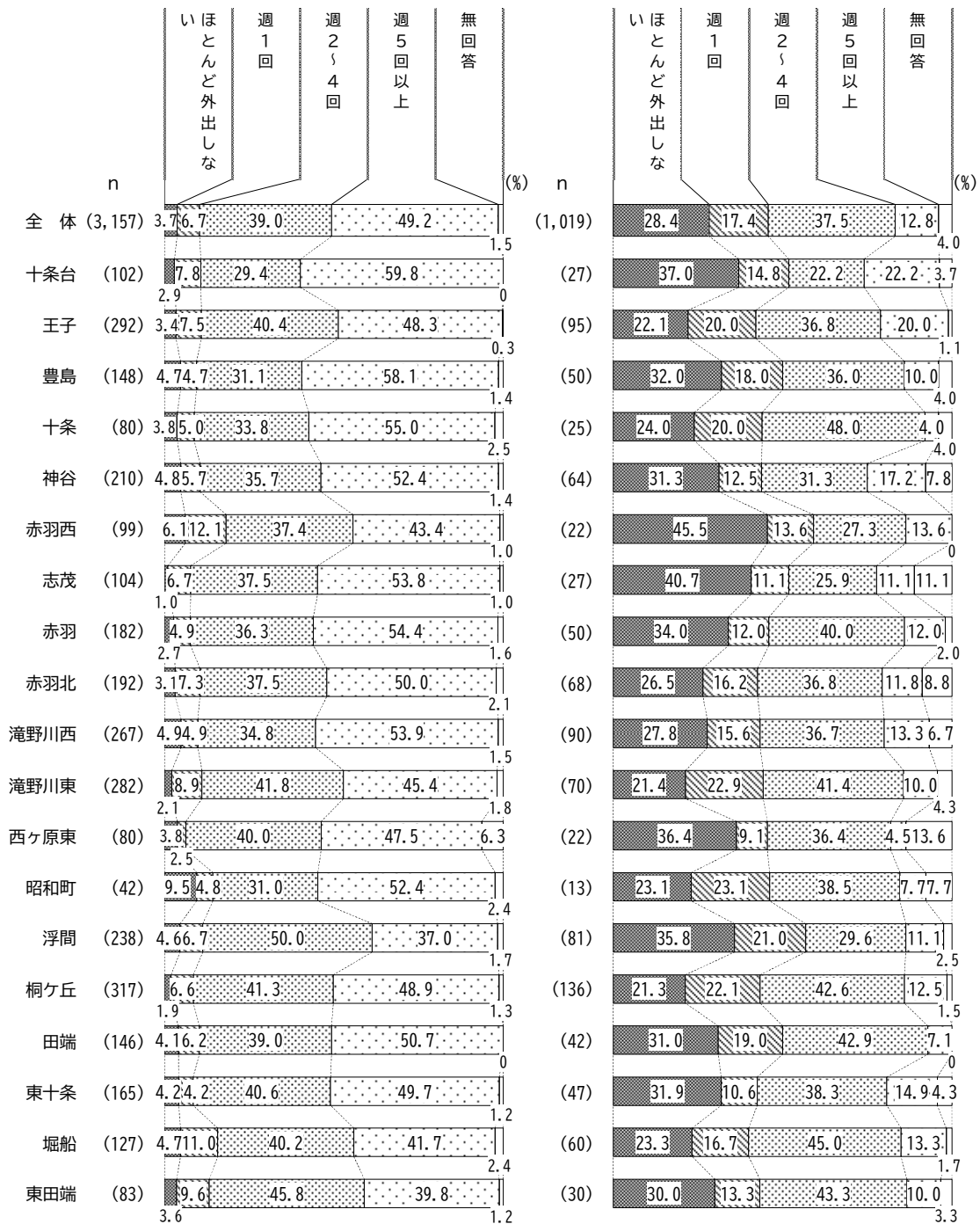
〈居住地区別／外出頻度〉

居住地区別に見ると、一般高齢者調査で「週5回以上」が多い地区は、十条台（59.8%）、豊島（58.1%）、十条（55.0%）、赤羽（54.4%）の順となっています。

認定者調査で「ほとんど外出しない」が多い地区は、赤羽西（45.5%）、志茂（40.7%）、十条台（37.0%）西ヶ原東（36.4%）の順となっています。

【一般高齢者調査】

【認定者調査】



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

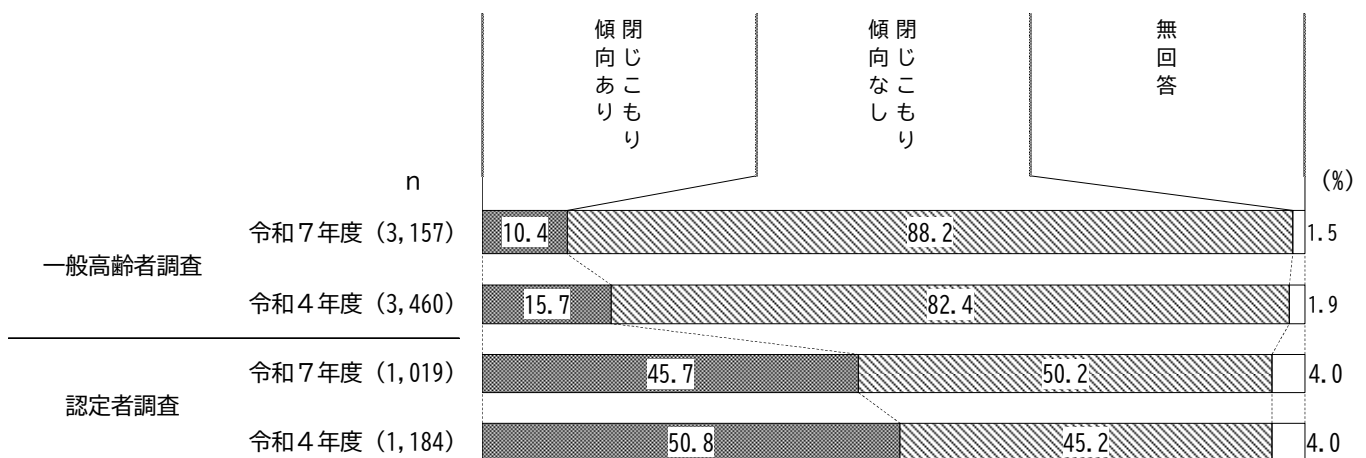
〈閉じこもり傾向〉

Q4（外出頻度）で、「ほとんど外出しない」「週1回」と回答した人を、『閉じこもり傾向がある高齢者』としています。

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和7年8月）

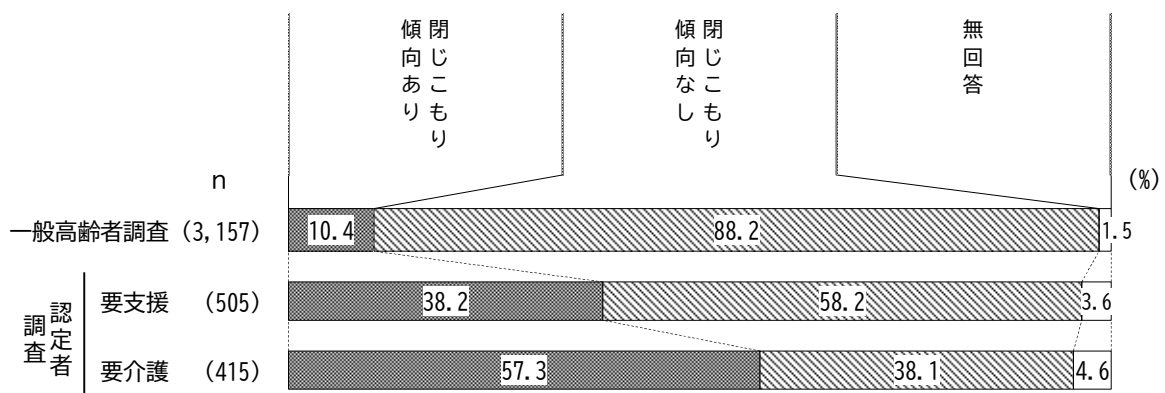
「閉じこもり傾向あり」は、一般高齢者調査で10.4%である一方、認定者調査では45.7%となっています。

令和4年度と比較すると、いずれの調査も「閉じこもり傾向あり」は5ポイント以上減少しています。



〈一般高齢者調査・要支援・要介護3区分別／閉じこもり傾向〉

認定者調査を介護度別に見ると、介護度が重い層ほど「閉じこもり傾向あり」の割合が高く、要支援では38.2%であるのに対し、要介護では57.3%と約6割に達しています。

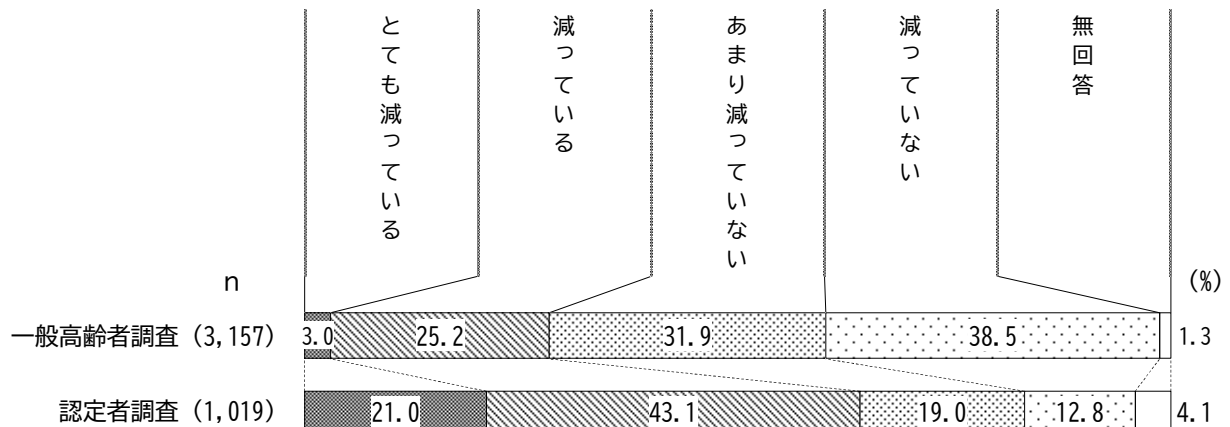


(5) 外出回数の減少

Q5. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(〇は1つ)

一般高齢者調査では、「減っていない」が38.5%と最も多く、「あまり減っていない」(31.9%)と合わせると70.4%となっています。

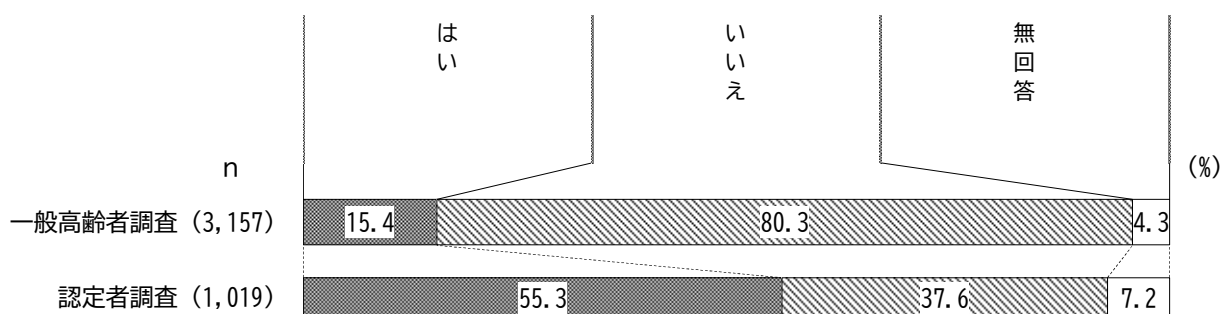
認定者調査では、「減っている」が43.1%と最も多く、「とても減っている」(21.0%)と合わせると64.1%となります。



(6) 外出控え

Q6. 外出を控えていますか。

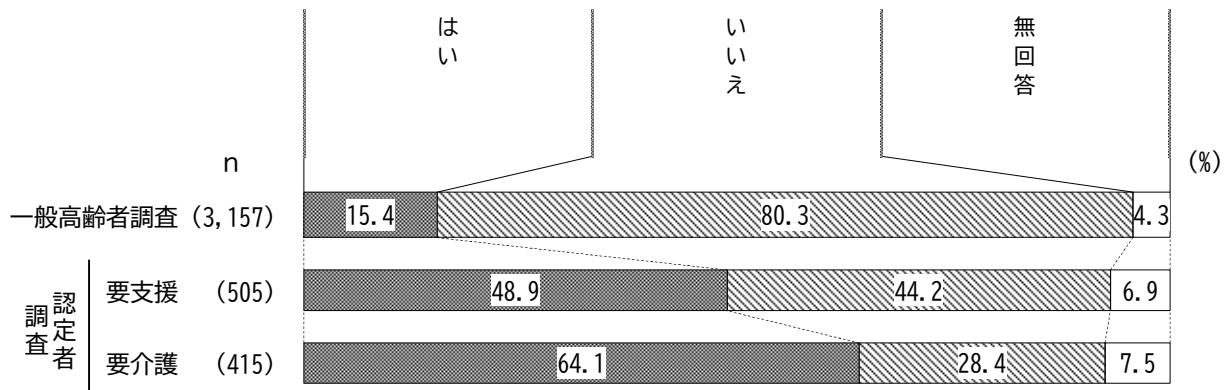
一般高齢者調査では、「はい」が15.4%、認定者調査では55.3%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

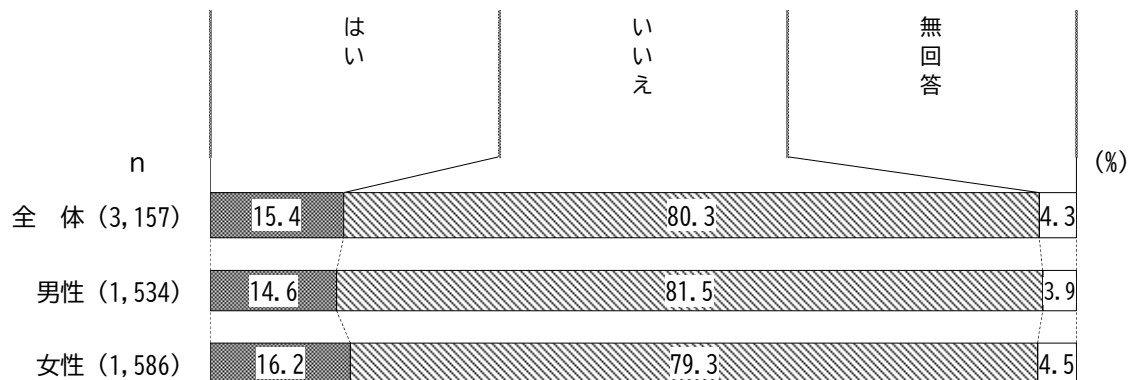
〈一般高齢者調査・要支援・要介護3区分別／外出控え〉

認定者調査を介護度別に見ると、介護度が重い層ほど「はい」の割合が高く、要支援では48.9%であるのに対し、要介護では64.1%となっています。



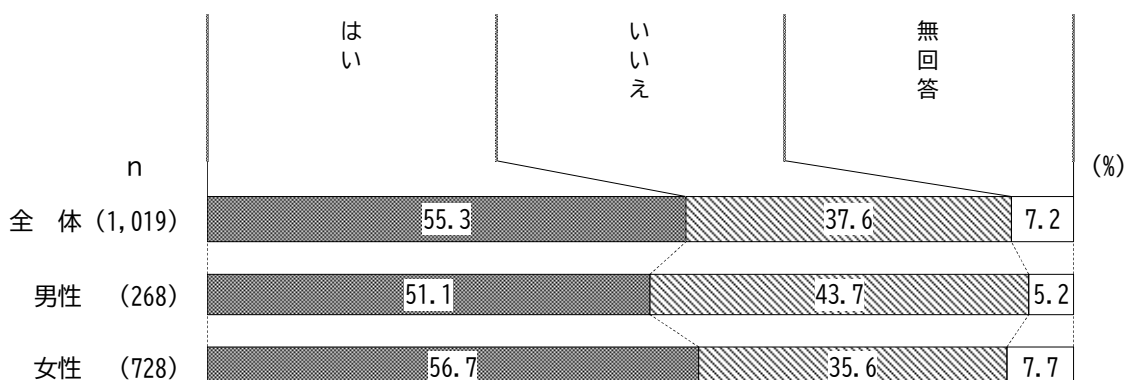
〈一般高齢者調査：性別／外出控え〉

性別に見ると、男女とも「はい」は1割台となっています。



〈認定者調査：性別／外出控え〉

性別に見ると、女性で「はい」が56.7%であるのに対し、男性では51.1%となっています。

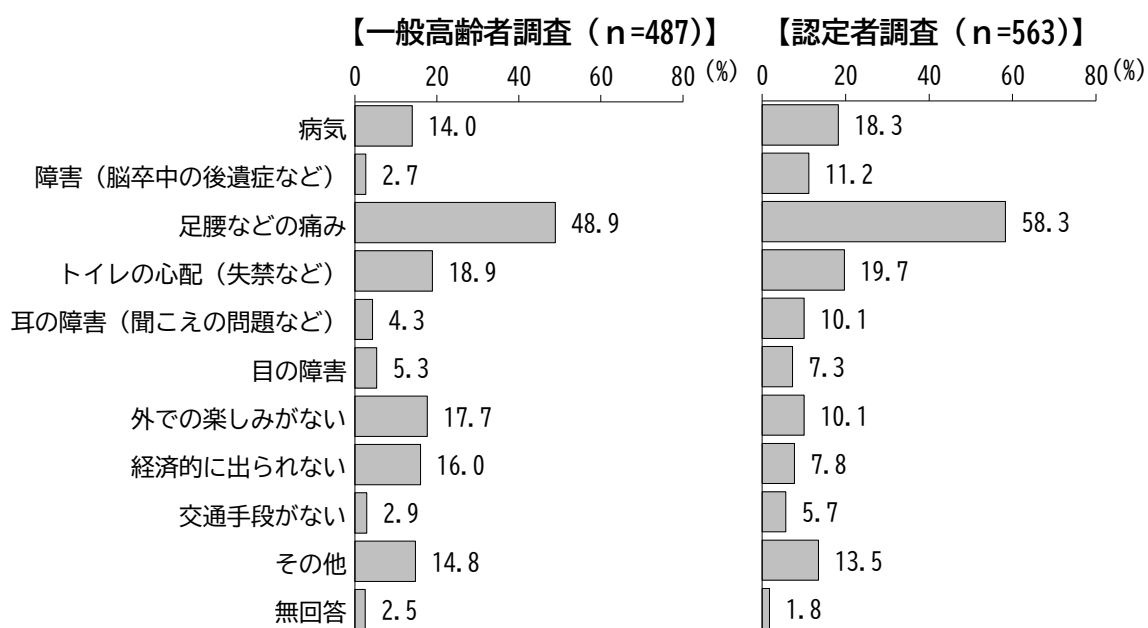


(7) 外出を控えている理由

【Q6で「1. はい」と答えた方にうかがいます。】

Q7. 外出を控えている理由は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

いずれの調査も「足腰などの痛み」が最も多く、次いで、一般高齢者調査では「トイレの心配（失禁など）」(18.9%)、「外での楽しみがない」(17.7%)、「経済的に出られない」(16.0%)と続き、認定者調査では、「トイレの心配（失禁など）」(19.7%)、「病気」(18.3%)と続いています。

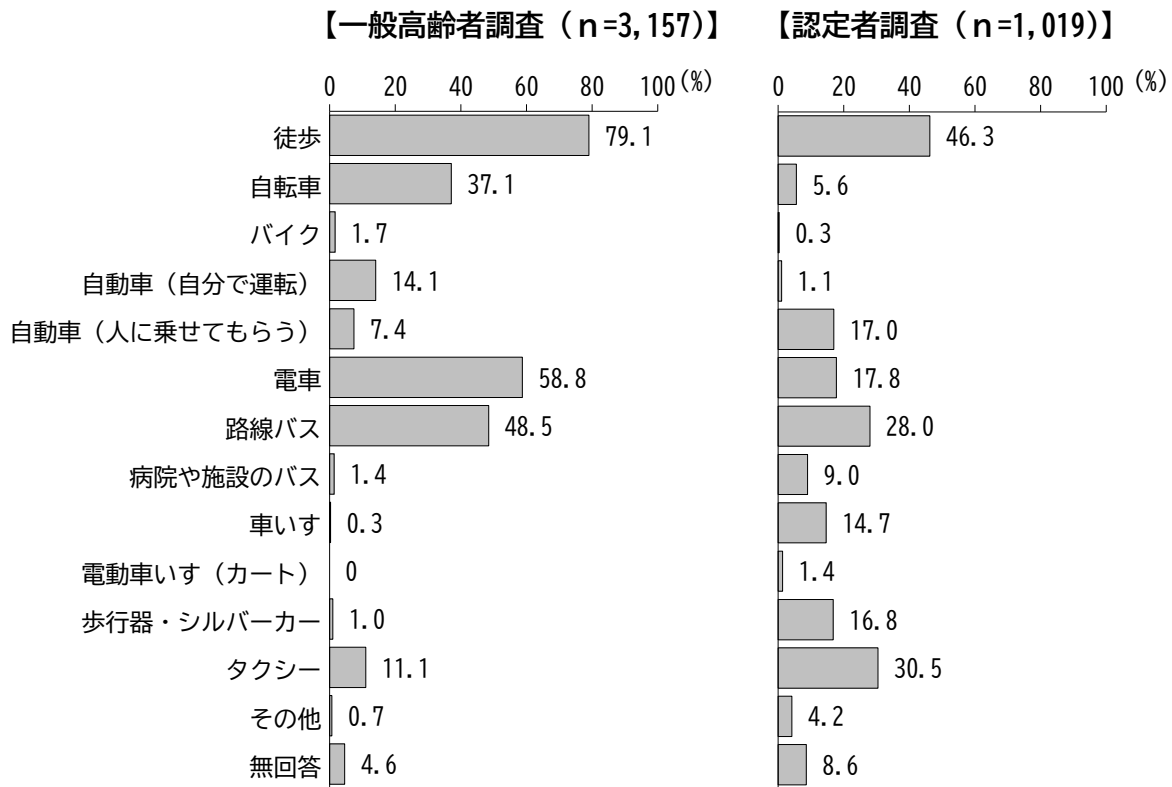


(8) 外出する際の移動手段

Q8. 外出する際の移動手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

一般高齢者調査では、「徒歩」が79.1%と特に多く、次いで「電車」(58.8%)、「路線バス」(48.5%)、「自転車」(37.1%)となっています。

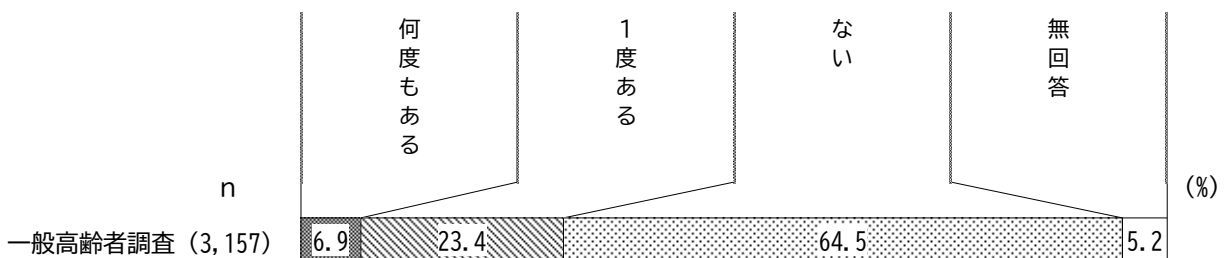
認定者調査では、「徒歩」(46.3%)が最も多く、次いで「タクシー」(30.5%)、「路線バス」(28.0%)、「電車」(17.8%)となっています。



(9) 転倒の有無

Q9. 過去1年間に転んだことがありますか。(○は1つ)

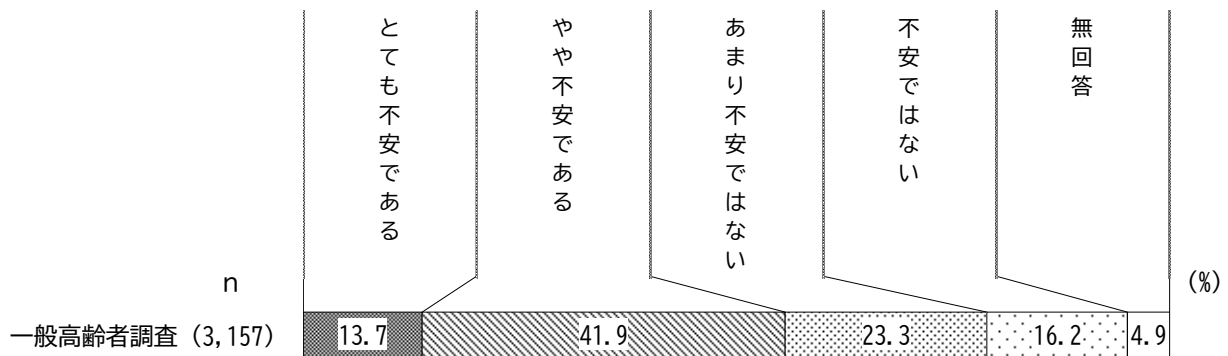
「ない」が64.5%で、「1度ある」が23.4%、「何度もある」が6.9%となっています。



(10) 転倒に対する不安

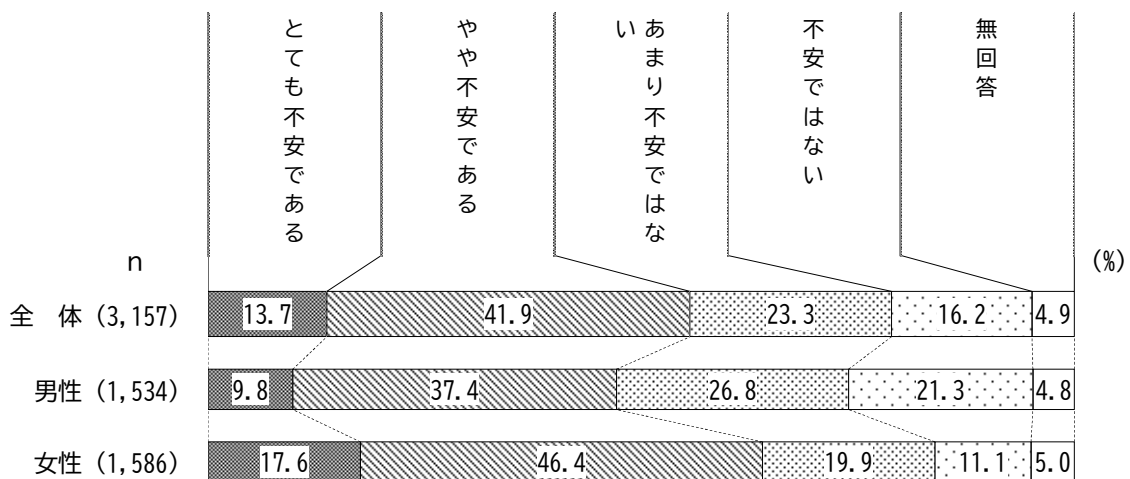
□ Q10. 転倒に対する不安は大きいですか。(○は1つ)

「やや不安である」が41.9%と最も多く、「とても不安である」(13.7%)と合わせると55.6%と過半数になっています。



〈性別／転倒に対する不安〉

性別に見ると、『不安』(「とても不安である」+「やや不安である」)は、男性では47.2%であるのに対して、女性では64.0%となっています。



〈運動器機能低下リスク〉

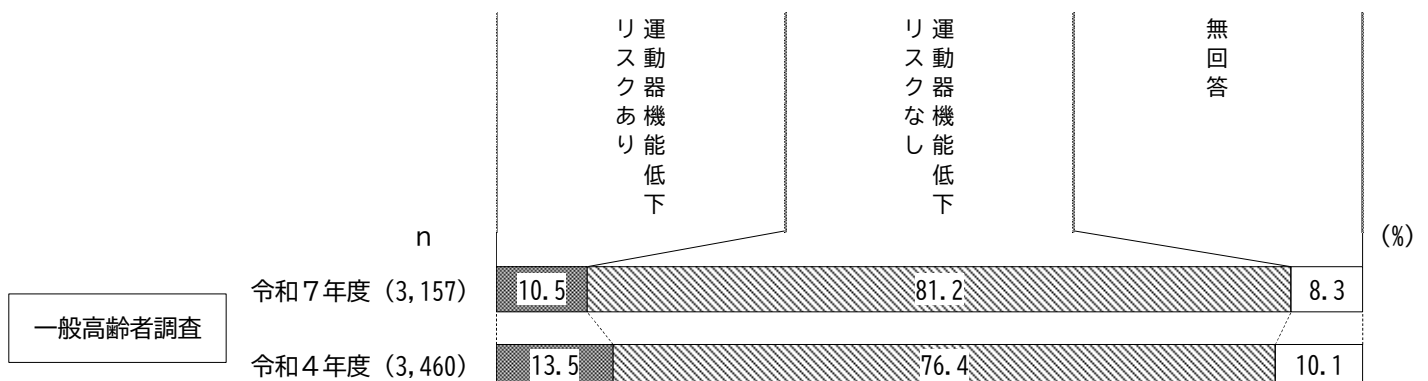
下記の5項目中、3項目以上に該当する場合、『運動器機能が低下している高齢者』（運動器機能低下リスクあり）としています。

- ・ 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができない（Q1）
- ・ 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができない（Q2）
- ・ 15分続けて歩くことができない（Q3）
- ・ 過去1年間に転倒した経験が、何度もある、あるいは、1度ある（Q9）
- ・ 転倒に対して、とても不安である、あるいは、やや不安である（Q10）

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和7年8月）

一般高齢者調査で「運動器機能低下リスクあり」は10.5%、「運動器機能低下リスクなし」は81.2%となっています。

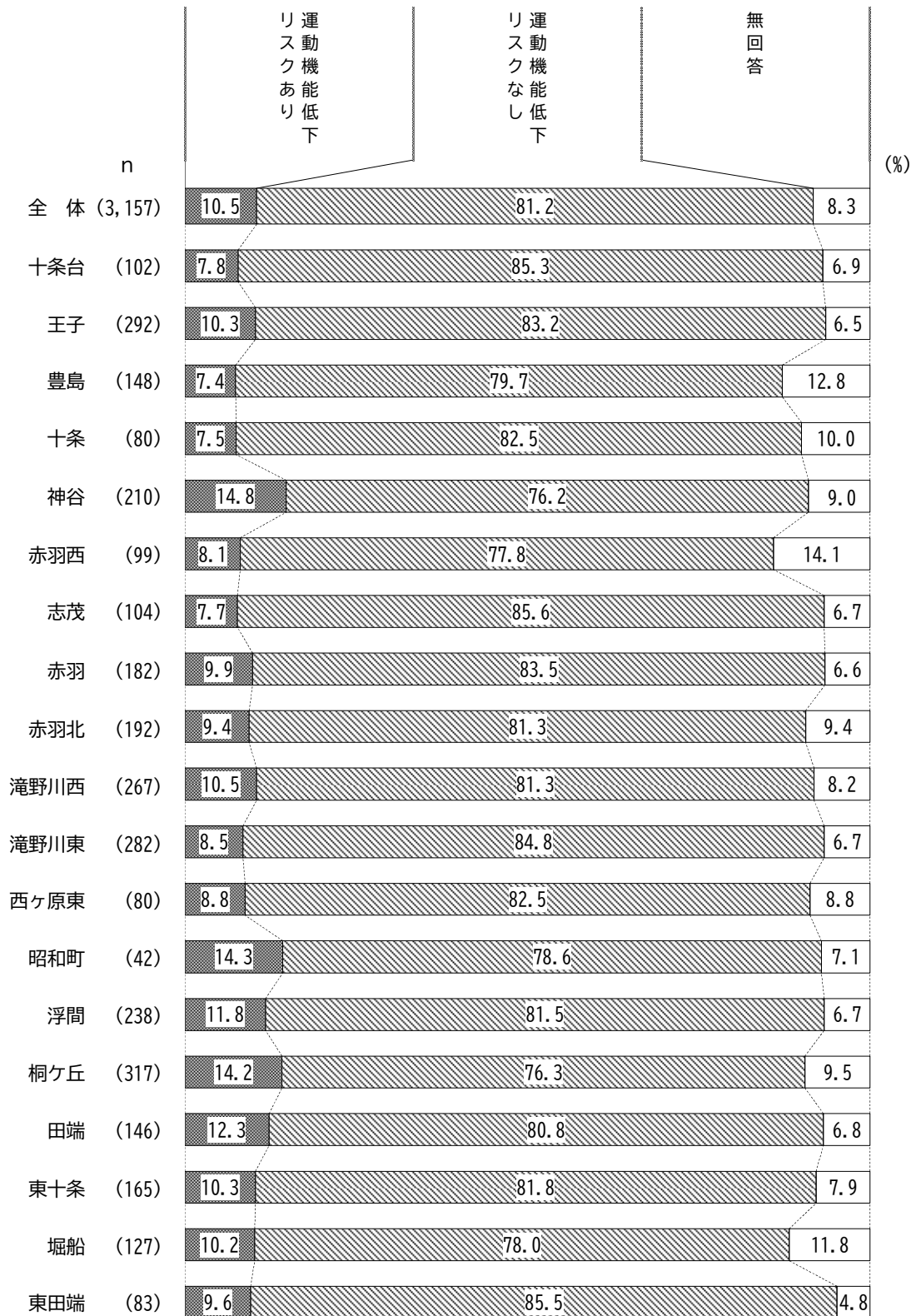
令和4年度と比較すると、「運動器機能低下リスクあり」は3.0ポイント減少し、「運動器機能低下リスクなし」は4.8ポイント増加しています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査：居住地区別／運動器機能低下リスク〉

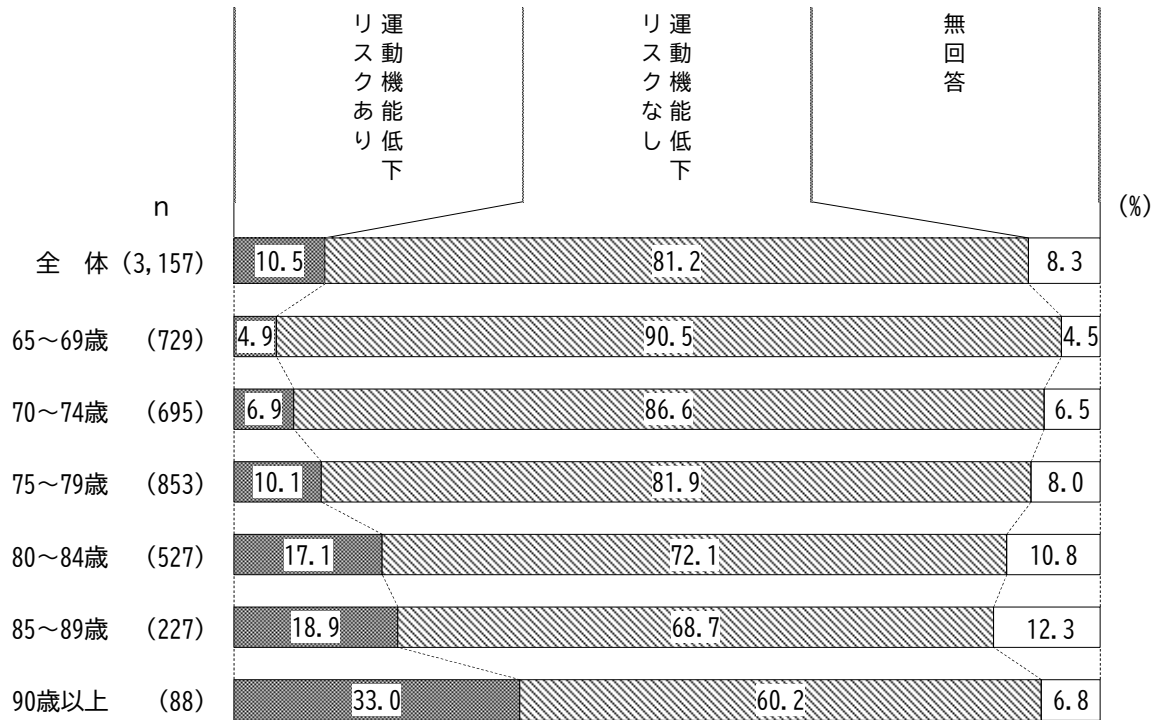
居住地区別に見ると、「運動器機能低下リスクあり」は、神谷（14.8%）、昭和町（14.3%）、桐ヶ丘（14.2%）で14%台とやや高い一方、十条台（7.8%）、志茂（7.7%）、十条（7.5%）、豊島（7.4%）では7%台と低くなっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査：年齢別／運動器機能低下リスク〉

年齢別に見ると、高年齢層ほど「運動器機能低下リスクあり」が高く、90歳以上では33.0%となっています。

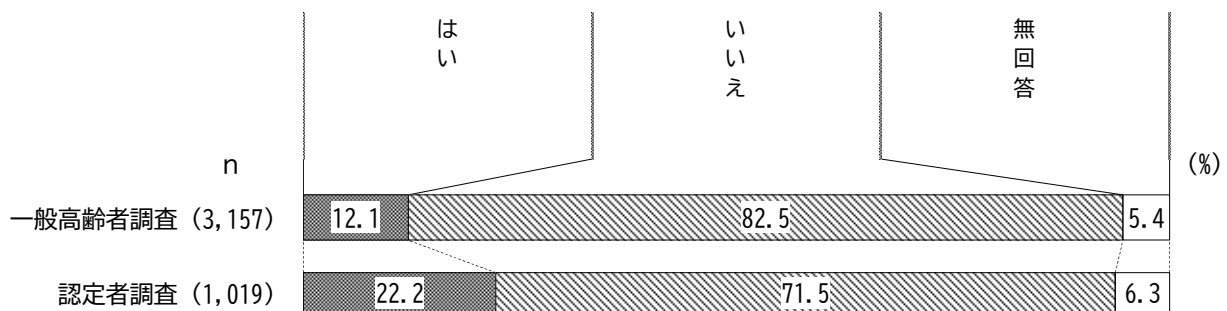


3. 食べること

(1) 体重減少の有無

Q1. 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。

一般高齢者調査では「はい」が12.1%に対して、認定者調査では22.2%と約2倍になっています。

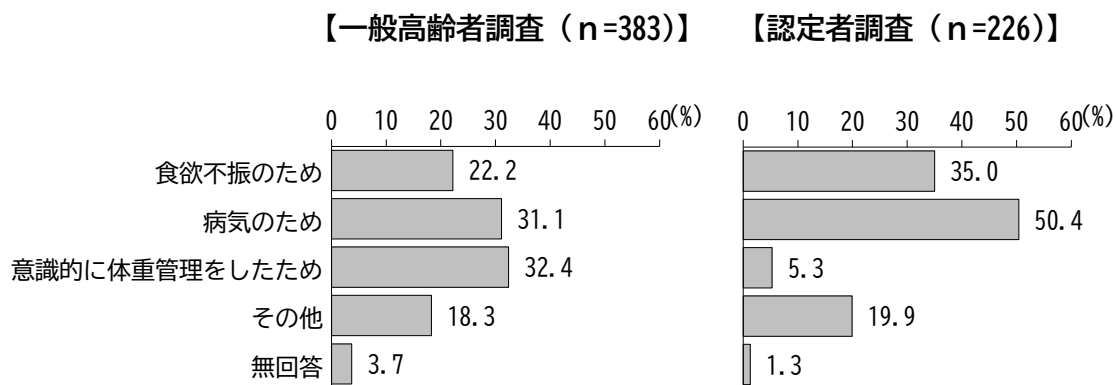


(2) 体重減少の理由

【Q1で「1. はい」と答えた方にうかがいます。】

Q2. 減少の理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

一般高齢者調査では、「意識的に体重管理をしたため」が32.4%であるのに対して、認定者調査では5.3%にとどまり、「病気のため」(50.4%)や「食欲不振のため」(35.0%)が多くなっています。



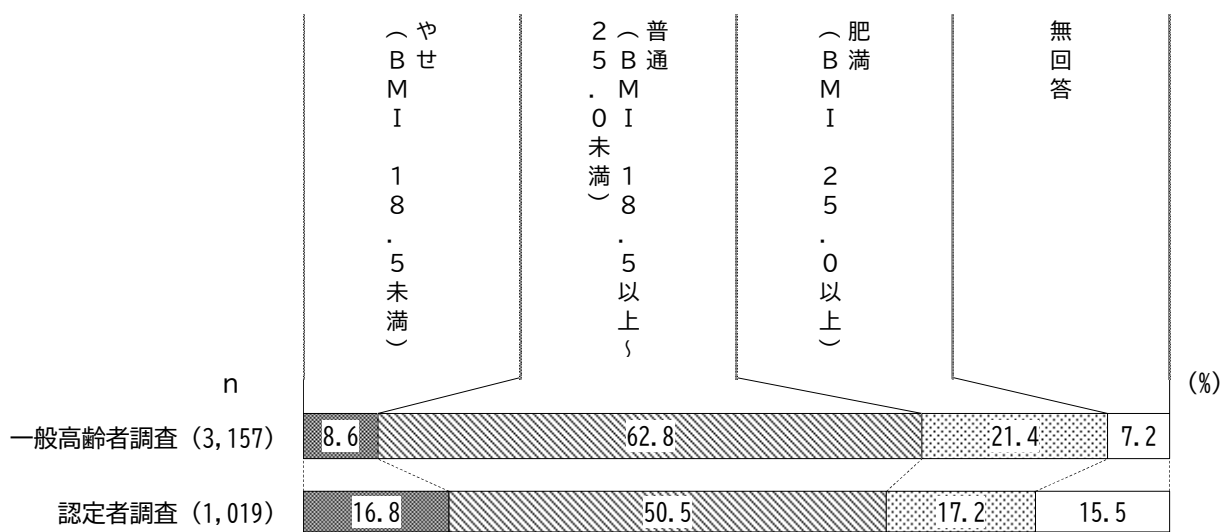
(3) BMI（身長・体重）

Q3. 身長と体重を記入してください。

※BMI（Body Mass Index の略）：体重（kg）÷（身長（m）×身長（m））で算出される肥満指数とされています。18.5未満が「やせ」、18.5～25.0未満が「普通」、25.0以上が「肥満」の目安になります。

一般高齢者調査では、「普通（18.5以上25未満）」が62.8%、次いで「肥満（25以上）」が21.4%、「やせ（18.5未満）」が8.6%となっています。

認定者調査では、「普通（18.5以上25未満）」の50.5%に次いで、「肥満（25以上）」（17.2%）、「やせ（18.5未満）」（16.8%）の順になっています。



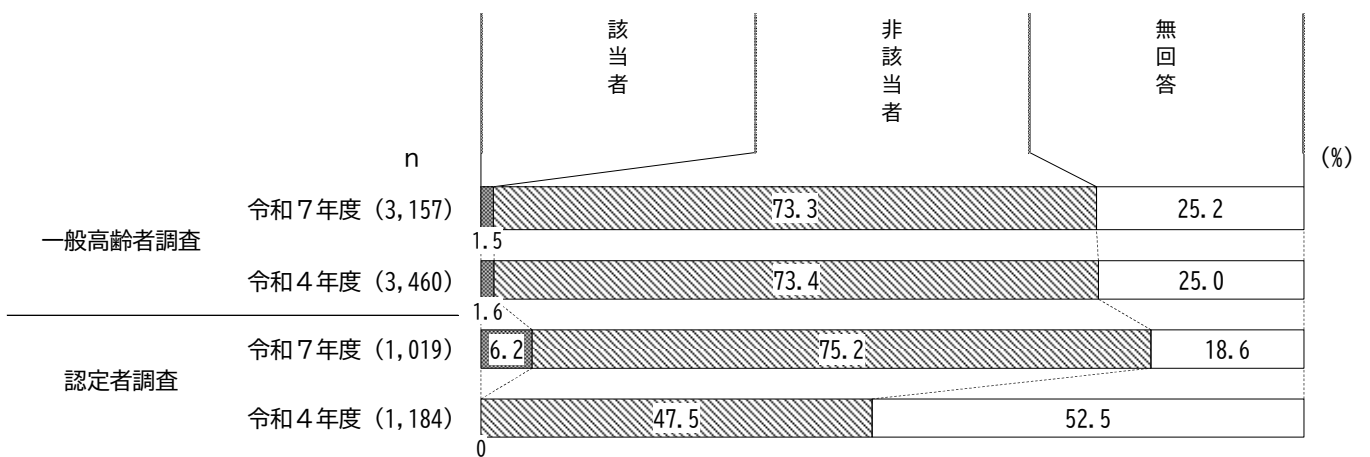
〈低栄養リスク〉

下記の2項目に該当する場合、『低栄養状態に該当する高齢者』（低栄養リスクあり）としています。

- ・ 6か月間で2～3kg以上の体重減少（Q1）
- ・ 身長・体重から算出されるBMIが18.5以下（Q3）

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和7年8月）

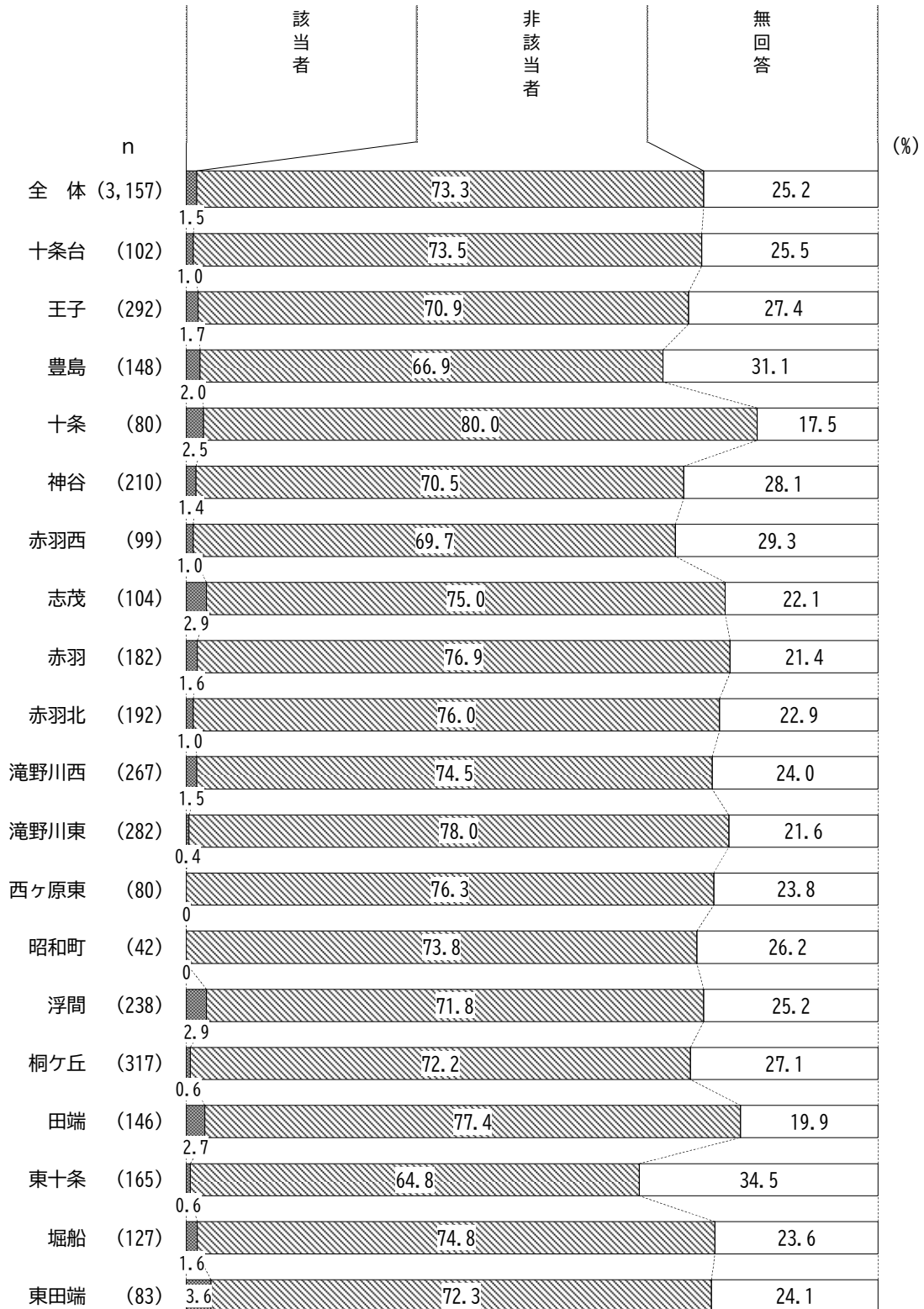
「低栄養リスク該当者」は、一般高齢者調査で1.5%、認定者調査では6.2%となっています。令和4年度と比較すると、一般高齢者調査では大きな違いは見られないものの、認定者調査では該当者なしから6.2%まで増加しています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査：居住地区別／低栄養リスク〉

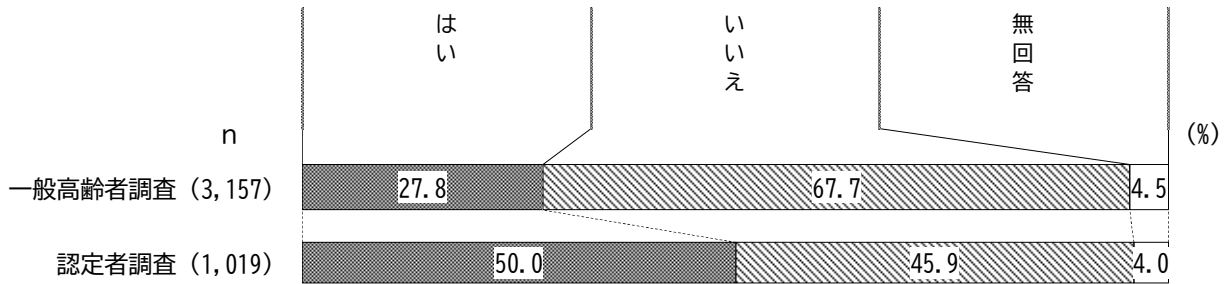
一般高齢者調査を居住地区別に見ると、東田端（3.6%）、志茂および浮間（2.9%）、田端（2.7%）の順で多くなっています。



(4) 固いものの食べにくさ

Q4. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

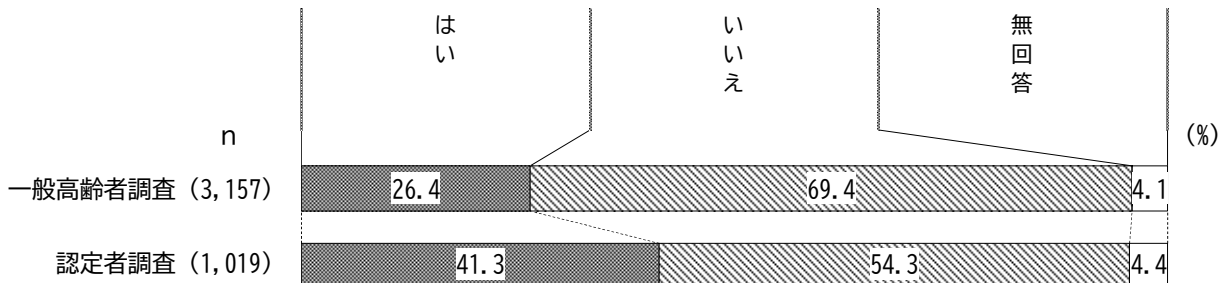
一般高齢者調査では、「はい」が27.8%、「いいえ」が67.7%となっています。
 認定者調査では、「はい」が50.0%、「いいえ」が45.9%となっています。



(5) むせる経験

Q5. お茶や汁物等でむせることがありますか。

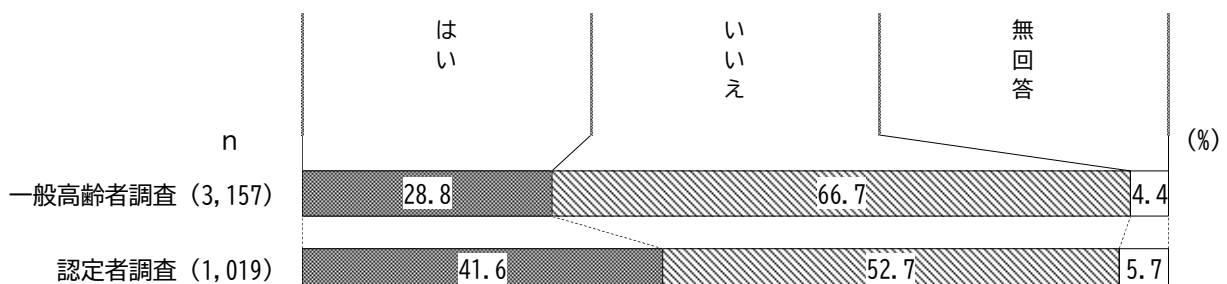
一般高齢者調査では、「はい」が26.4%、「いいえ」が69.4%となっています。
 認定者調査では、「はい」が41.3%、「いいえ」が54.3%となっています。



(6) 口の渇き

Q6. 口の渇きが気になりますか。

一般高齢者調査では、「はい」が28.8%、「いいえ」が66.7%となっています。
 認定者調査では、「はい」が41.6%、「いいえ」が52.7%となっています。



〈口腔機能低下リスク〉

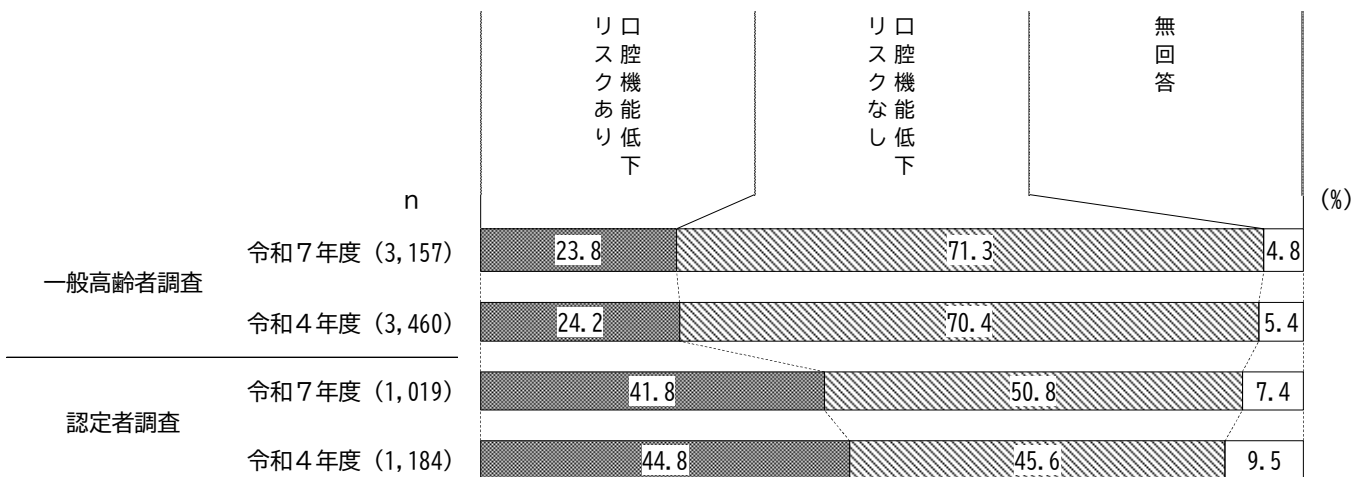
下記の3項目中、2項目以上で「はい」に該当する場合、『口腔機能の低下に該当する高齢者』（口腔機能低下リスクあり）としています。

- ・半年前に比べて固いものが食べにくくなった（Q4）
- ・お茶や汁物等でむせることがある（Q5）
- ・口の渇きが気になる（Q6）

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和7年8月）

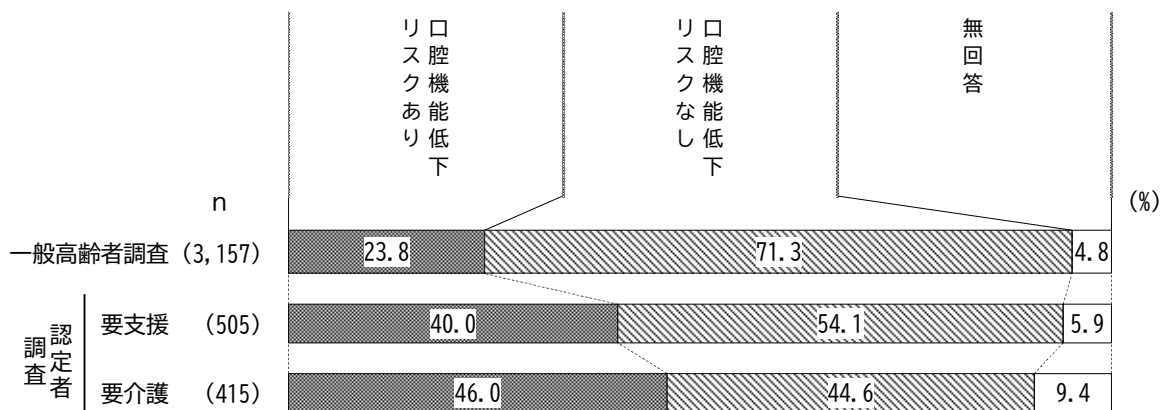
「口腔機能低下リスクあり」は、一般高齢者調査で23.8%、認定者調査では41.8%となっています。

令和4年度と比較すると、「口腔機能低下リスクあり」は一般高齢者調査では大きな違いは見られないものの、認定者調査では3.0ポイント減少しています。



〈一般高齢者調査・要支援・要介護3区分別／口腔機能低下リスク〉

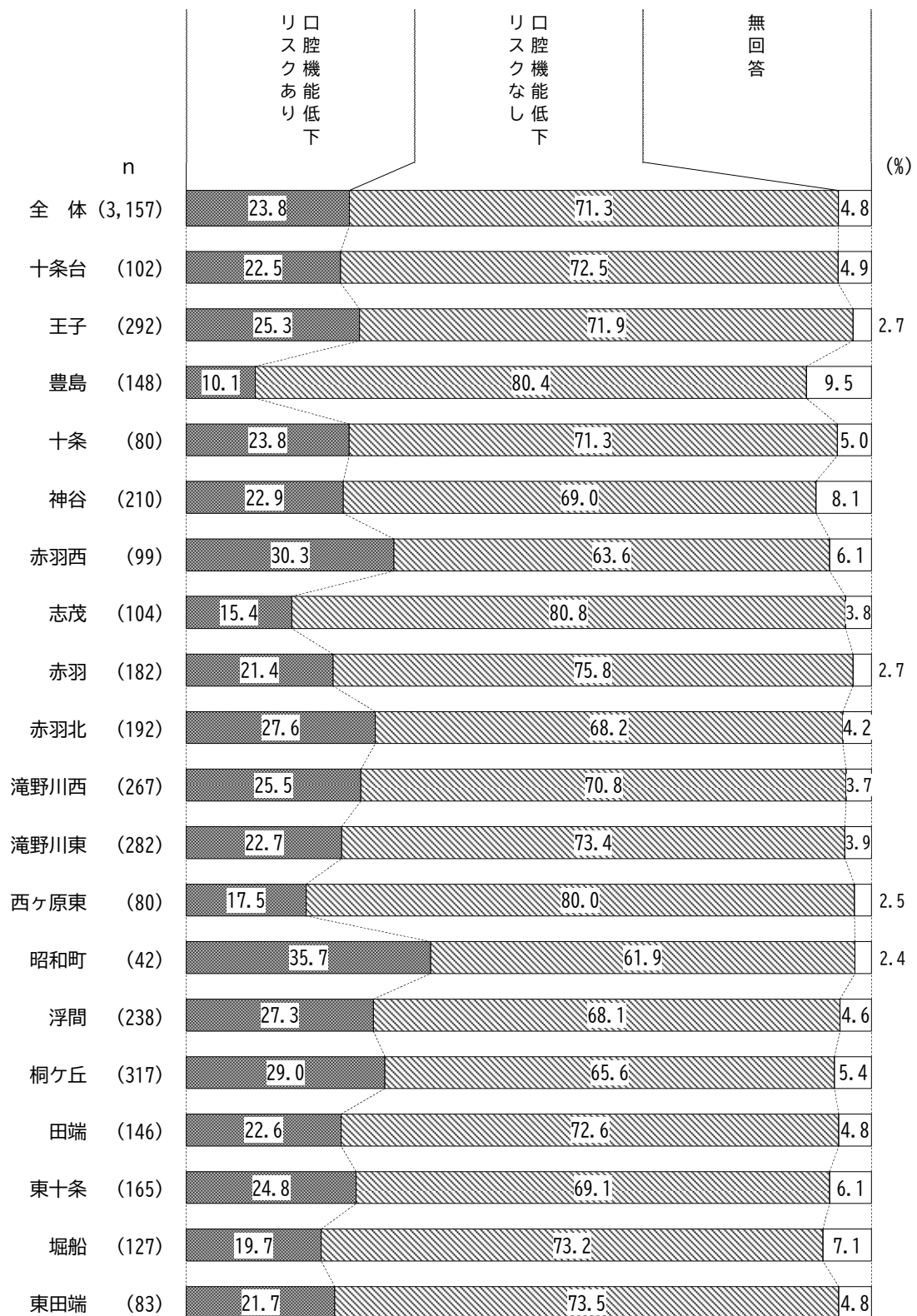
認定者調査を介護度別に見ると、介護度が重い層ほど「口腔機能低下リスクあり」の割合が高く、要介護では46.0%と、「口腔機能低下リスクなし」（44.6%）を上回っています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査：居住地区別／口腔機能低下リスク〉

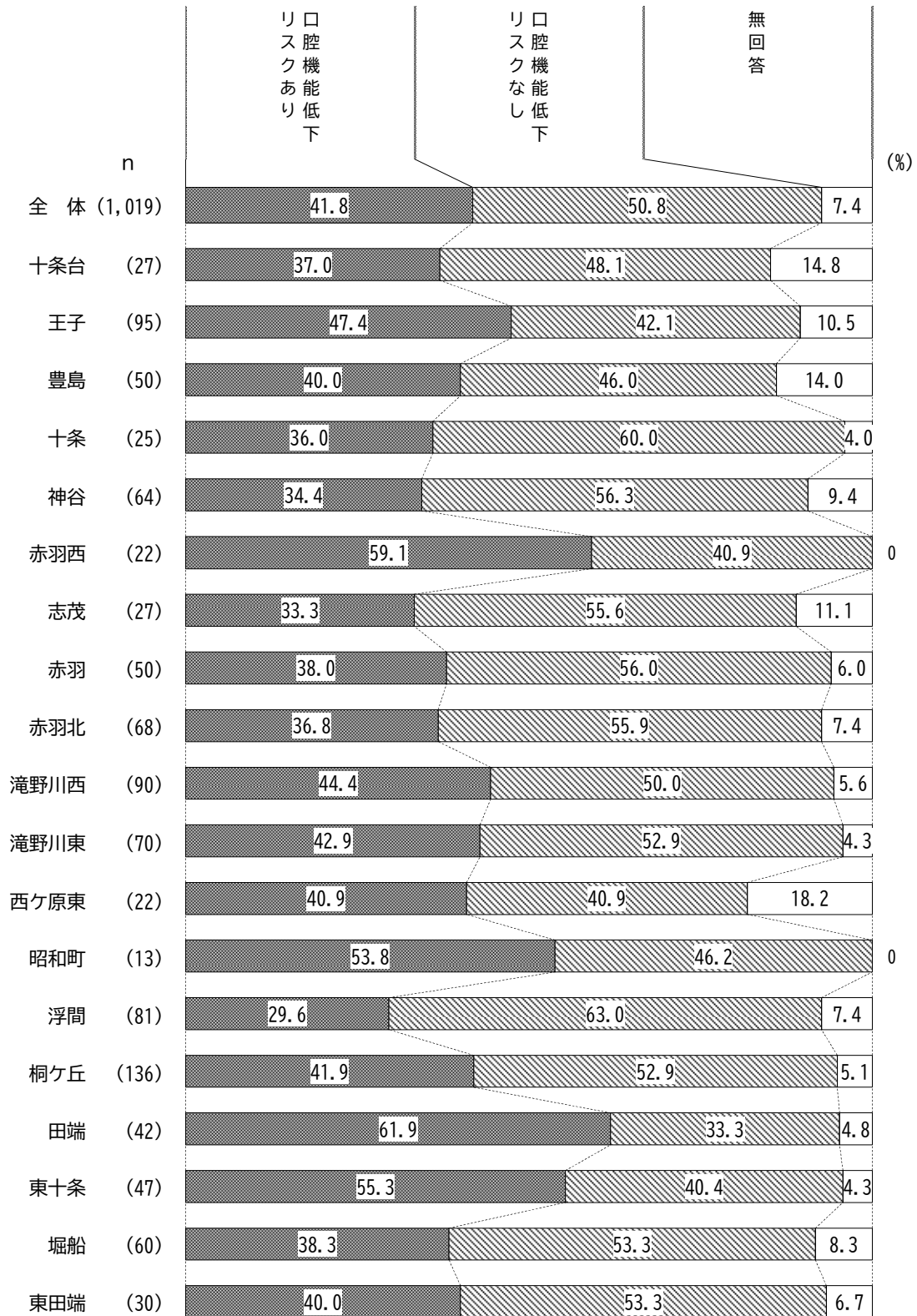
一般高齢者調査結果を居住地区別に見ると、「口腔機能低下リスクあり」は、昭和町（35.7%）、赤羽西（30.3%）で3割を超えています。一方、堀船（19.7%）と西ヶ原東（17.5%）、志茂（15.4%）、豊島（10.1%）では2割未満となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：居住地区別／口腔機能低下リスク〉

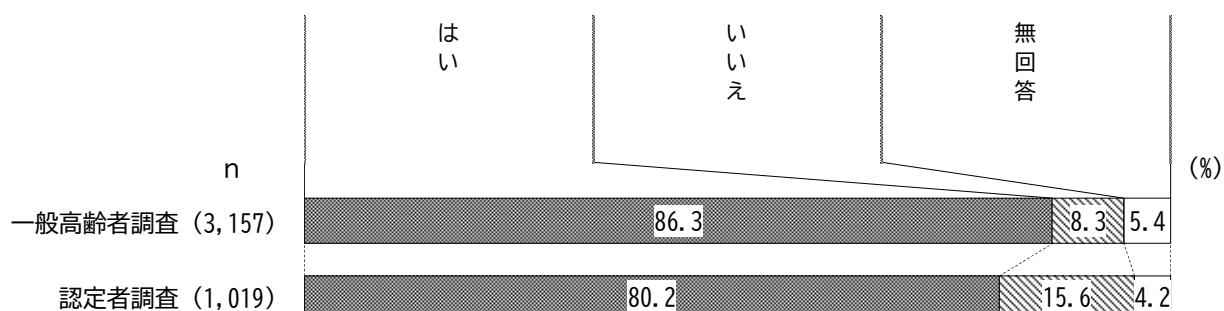
認定者調査結果を居住地区別に見ると、「口腔機能低下リスクあり」は、田端で61.9%と唯一6割を超えています。一方、浮間で29.6%と唯一3割未満となっています。



(7) 毎日の歯磨き

Q7. 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。

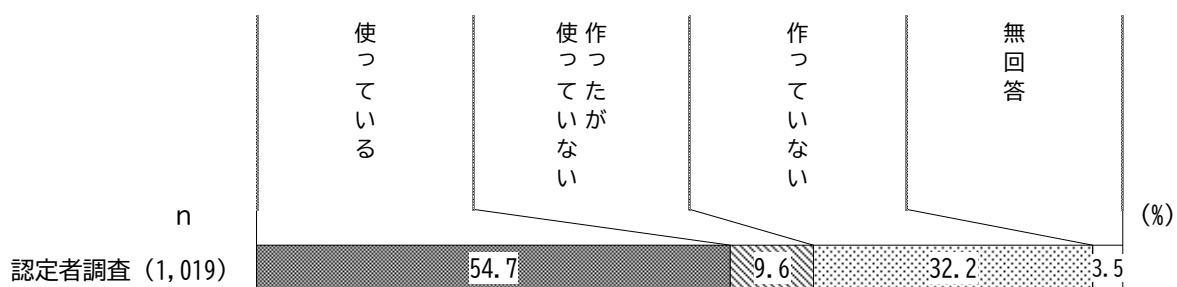
一般高齢者調査では、「はい」が86.3%、「いいえ」が8.3%となっています。
 認定者調査では、「はい」が80.2%、「いいえ」が15.6%となっています。



(8) 入れ歯の使用状況

認Q8. 入れ歯は使っていますか。(○は1つ)

認定者のうち、「使っている」は54.7%で、「作っていない」が32.2%、「作ったが使っていない」が9.6%となっています。

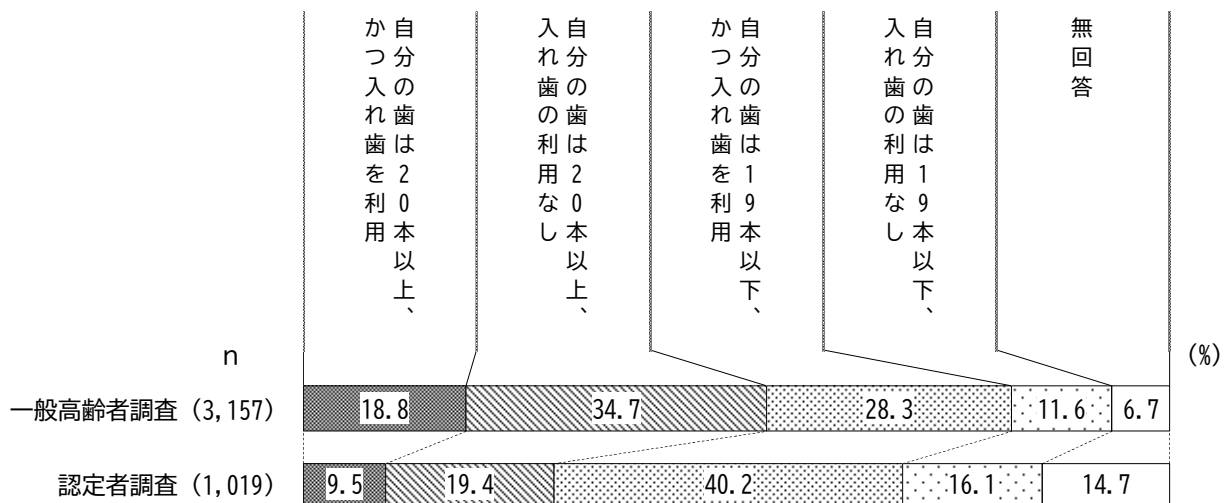


(9) 歯の本数と入れ歯の使用状況

□Q8 認Q9. 現在のご自分の歯の本数と入れ歯の使用状況をお教えてください（成人の歯の総本数は親知らずを含めて32本です）。（○は1つ）

一般高齢者調査では、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が34.7%と最も多く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」（28.3%）、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」（18.8%）となっています。

認定者調査では、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が40.2%と最も多く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」（19.4%）、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」（16.1%）となっています。

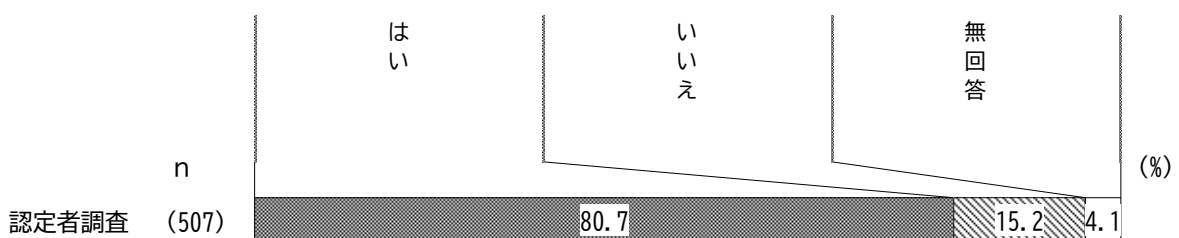


(10) 入れ歯の手入れ

【認Q9で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」または「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と答えた方（入れ歯を使っている方）にうかがいます。】

認Q10. 毎日入れ歯の手入れをしていますか。

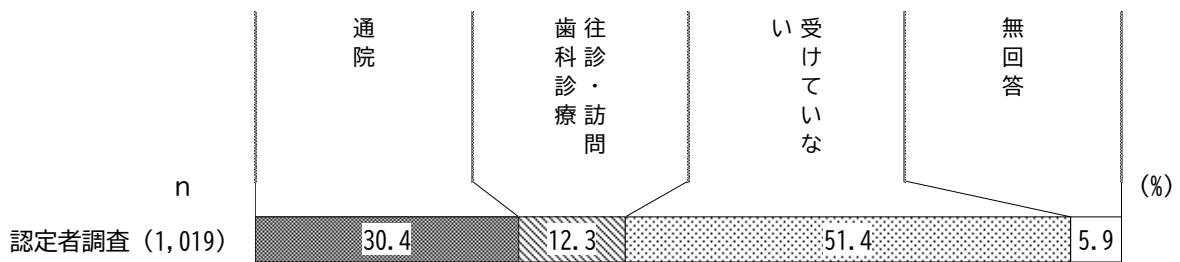
認定者調査では、80.7%が「はい」（毎日手入れをしている）と回答しています。



(11) 歯科の受診状況

認Q11. 現在、歯科診療を受けていますか。(○は1つ)

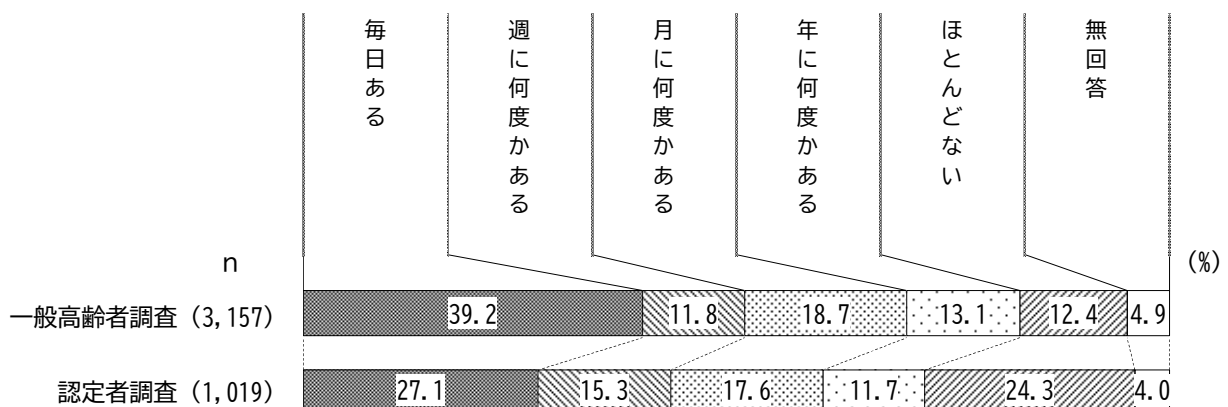
認定者調査では、「受けていない」が51.4%と半数以上で、「通院」が30.4%、「往診・訪問歯科診療」が12.3%となっています。



(12) 共食の頻度

Q9 認Q12. どなたかと食事をともしる機会がありますか。(○は1つ)

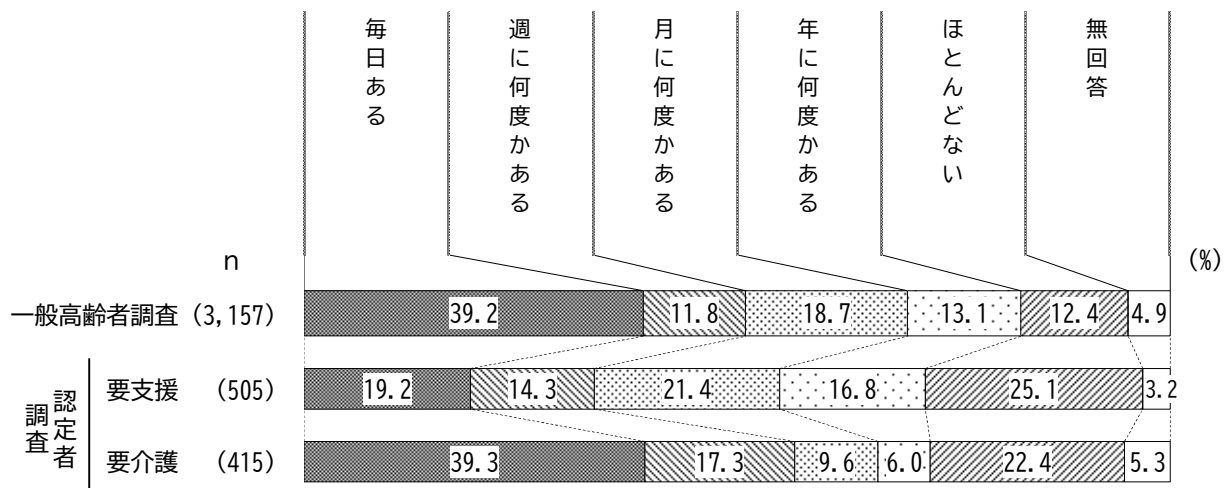
「週に何度かある」、「月に何度かある」、「年に何度かある」は一般高齢者調査と認定者調査の間に大きな差はありませんが、「毎日ある」は一般高齢者調査では39.2%であるのに対し、認定者調査では27.1%となっています。一方、「ほとんどない」は認定者調査では24.3%であるのに対し、一般高齢者調査では12.4%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査・要支援・要介護3区分別／共食の頻度〉

認定者調査を介護度別に見ると、「毎日ある」は要介護で39.3%であるのに対し、要支援では19.2%となっています。一方、要支援では「月に何度かある」や「年に何度かある」の割合が要介護よりも高くなっています。

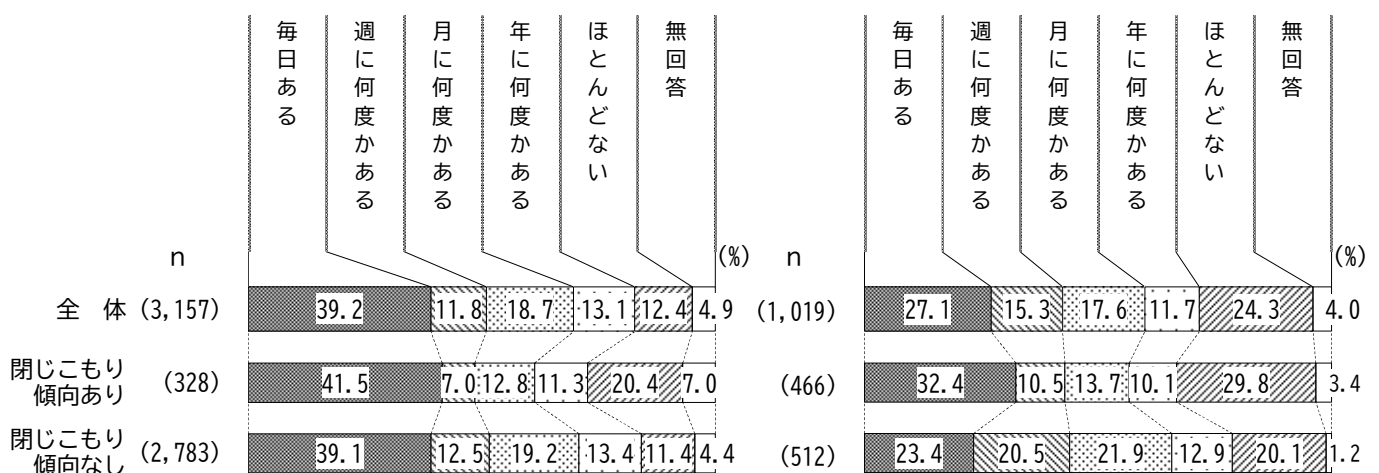


〈閉じこもり傾向別／共食の頻度〉

閉じこもり傾向別の「どなたかと食事をともにする機会」を見ると、一般高齢者調査では、“閉じこもり傾向あり”で「ほとんどない」が比較的高く、認定者調査では、“閉じこもり傾向あり”で「毎日ある」(32.4%)と「ほとんどない」(29.8%)と、回答が二極化しています。

【一般高齢者調査】

【認定者調査】



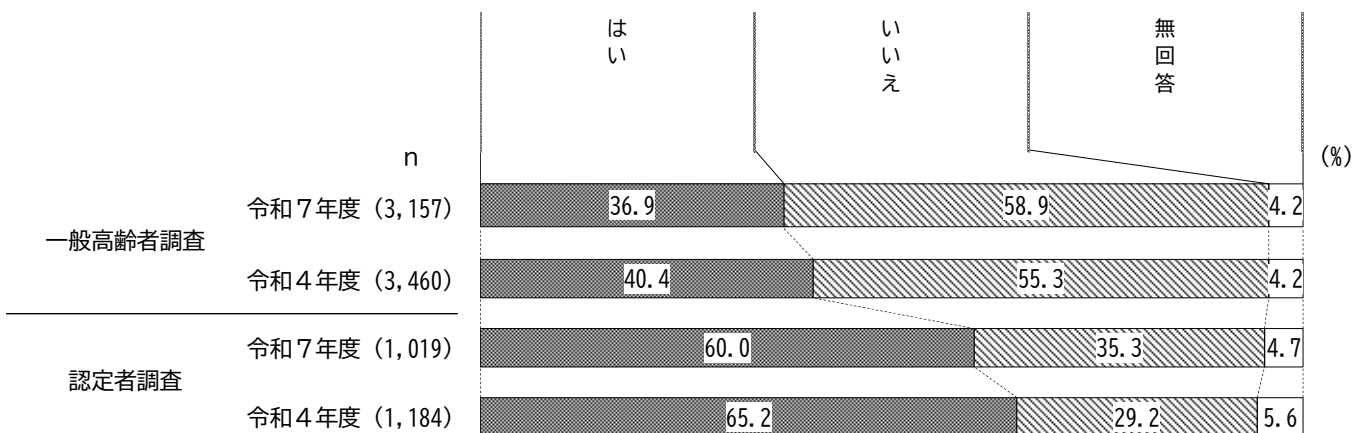
4. 物忘れ・認知症

(1) 物忘れの状況

Q1. 物忘れが多いと感じますか。

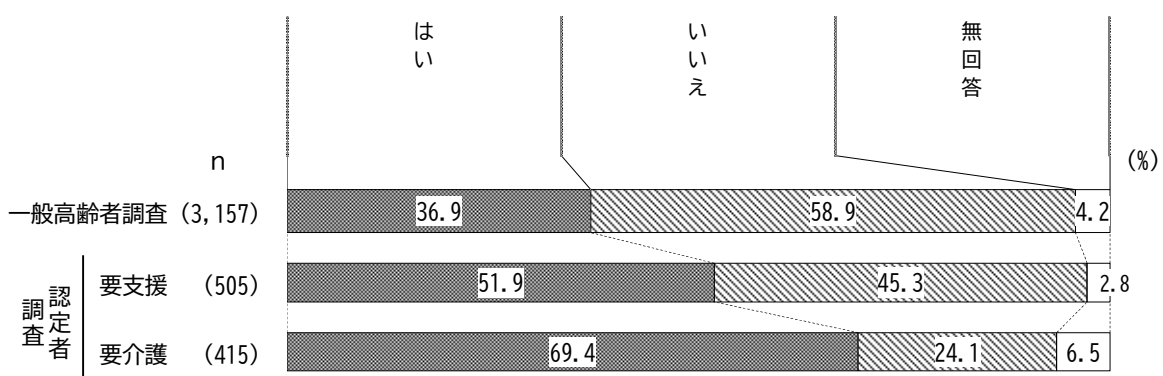
一般高齢者調査では36.9%、認定者調査では60.0%が「はい」（物忘れが多いと感じる）と回答しています。

令和4年度と比較すると、「はい」は一般高齢者調査で3.5ポイント、認定者調査で5.2ポイント減少している。



〈一般高齢者調査・要支援・要介護3区分別／物忘れの状況〉

認定者調査を介護度別に見ると、介護度が重い層ほど「はい」の割合が高く、要支援では51.9%、要介護では69.4%と約7割に達しています。



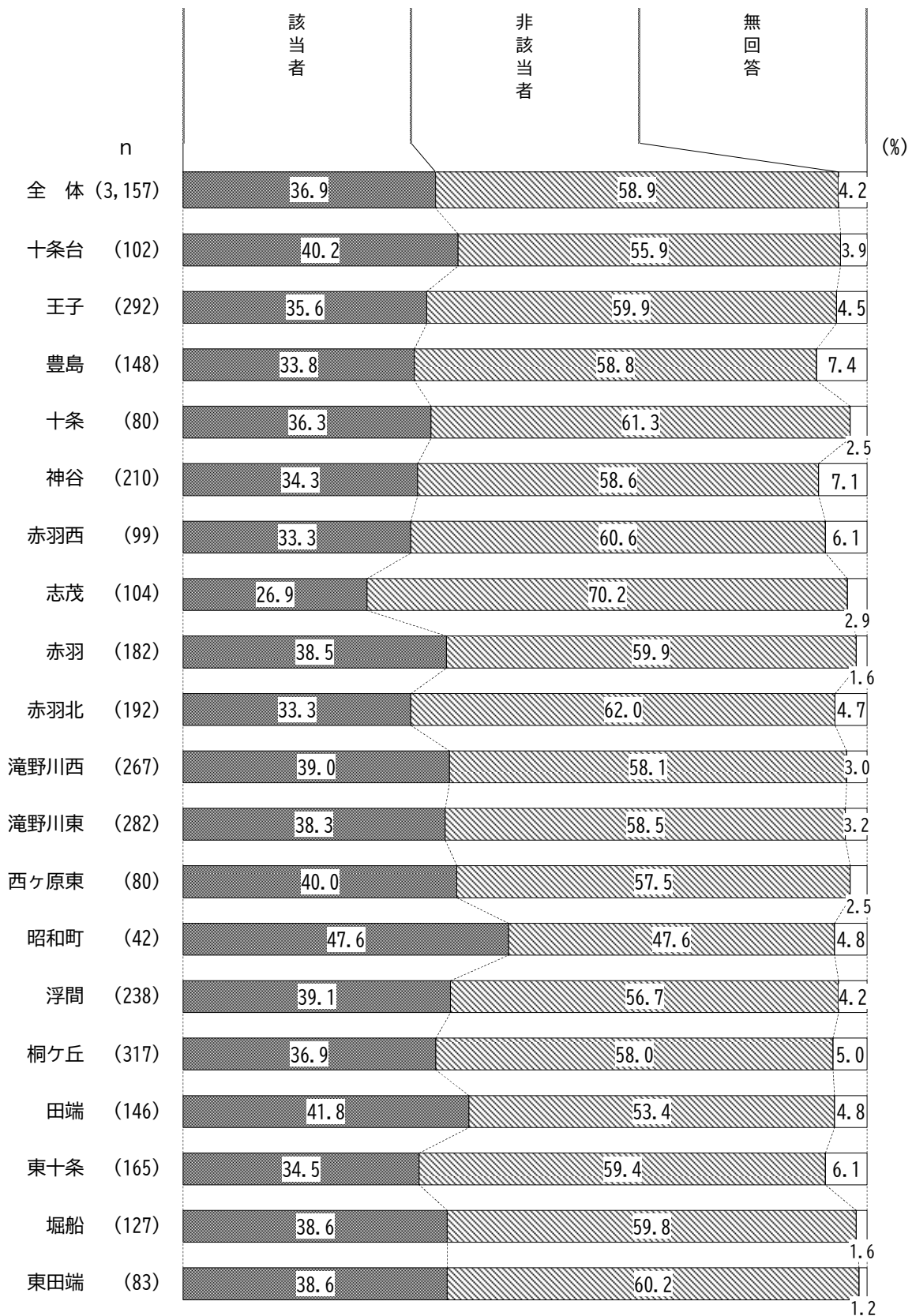
物忘れが多いと感じる（「はい」）と回答した場合、『認知機能の低下がみられる高齢者』（認知機能低下リスクあり）としています。

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和7年8月）

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査：居住地区別／認知機能低下リスク〉

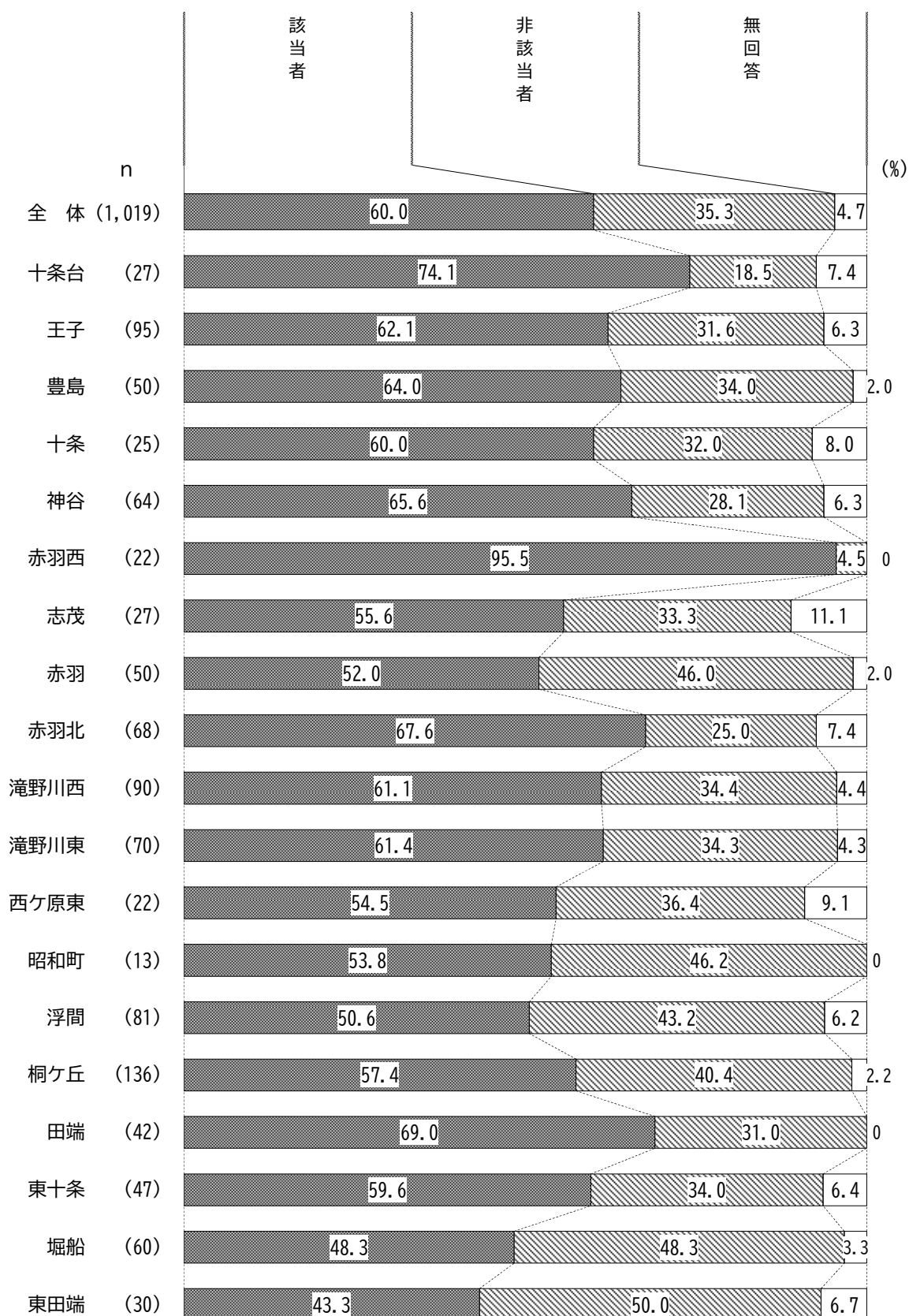
一般高齢者調査における認知機能低下リスクの割合を居住地区別に見ると、該当者は、昭和町（47.6%）、田端（41.8%）、十条台（40.2%）、西ヶ原東（40.0%）の順で多く、最も少ないのは志茂の26.9%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：居住地区別／認知機能低下リスク〉

認定者調査における認知機能低下リスクの割合を居住地区別に見ると、該当者は、赤羽西（95.5%）、十条台（74.1%）、田端（69.0%）、赤羽北（67.6%）の順で多く、最も少ないのは東田端の43.3%となっています。

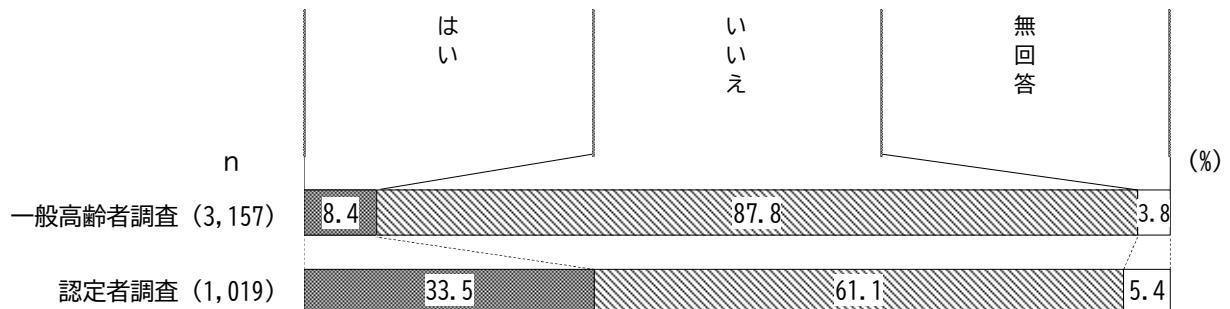


第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(2) 物忘れの周囲の反応

Q2. 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるとされますか。

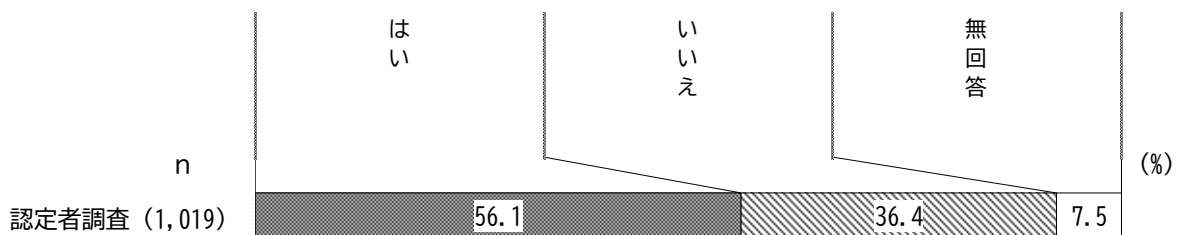
一般高齢者調査では8.4%、認定者調査では33.5%が「はい」（物忘れがあるとされる）と回答しています。



(3) 電話の使用

認Q3. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

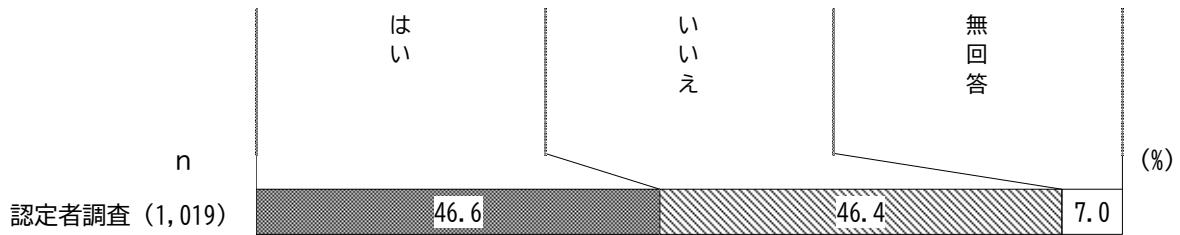
認定者調査では、56.1%が「はい」（自分で調べて電話をかける）と回答しています。



(4) 日付の忘却

Q4. 今日が何月何日かわからない時がありますか。

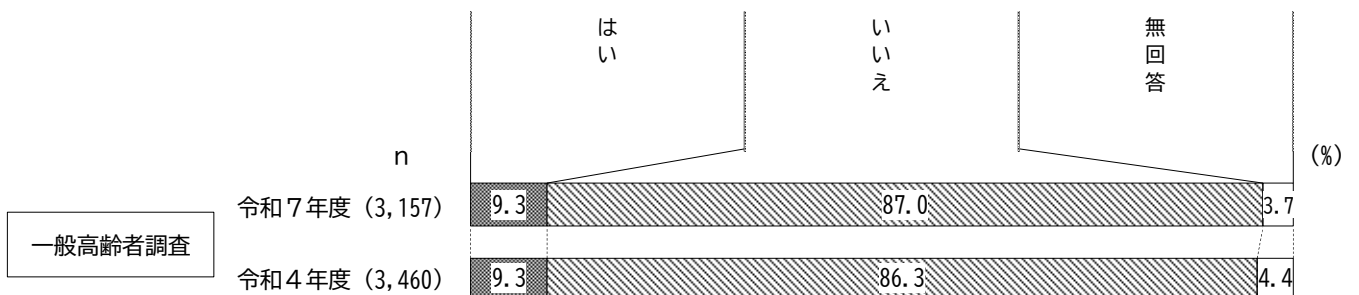
認定者調査では、46.6%が「はい」（今日が何月何日かわからない時がある）と回答しています。



(5) 家族の認知症症状の有無

Q3. あなた自身に認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。

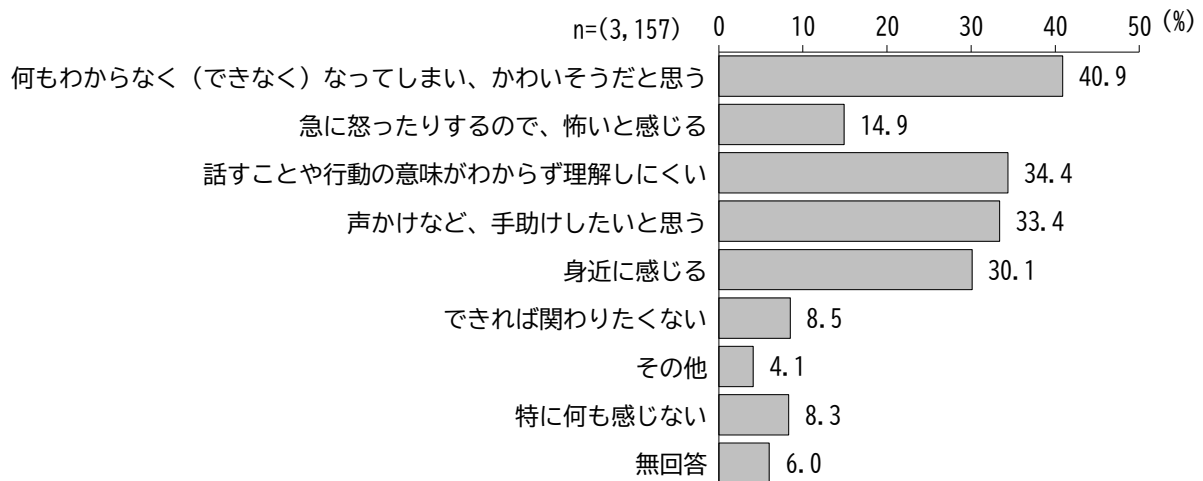
9.3%が「はい」（自分または家族に認知症の症状がある）と回答しています。
令和4年度と比較すると、大きな違いは見られません。



(6) 認知症の印象

□ Q4. 認知症について、あなたはどのような印象を持っていますか。

「何もわからなく（できなく）なってしまう、かわいそうだと思う」が40.9%と最も多く、次いで「話すことや行動の意味がわからず理解しにくい」が34.4%、「声かけなど、手助けしたいと思う」が33.4%、「身近に感じる」が30.1%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査：性別／認知症の印象〉

性別に見ると、男性では「何もわからなく（できなく）なってしまい、かわいそうだと思う」（44.7%）、女性では「声かけなど、手助けしたいと思う」（40.7%）が最も多くなっています。また、「特に何も感じない」は男性で10.3%と女性（6.4%）よりもやや多くなっています。

	回答者数	何もわからなく（できなく）なってしまい、かわいそうだと思う	急に怒ったりするので、怖いと感じる	話すことや行動の意味がわからず理解しにくい	声かけなど、手助けしたいと思う	身近に感じる	できれば関わりたくない	その他	特に何も感じない	無回答
一般／全体	3,157	40.9	14.9	34.4	33.4	30.1	8.5	4.1	8.3	6.0
男性	1,534	44.7	13.8	36.2	25.6	24.3	12.8	2.8	10.3	5.5
女性	1,586	37.3	16.1	32.8	40.7	35.9	4.2	5.4	6.4	6.5

〈一般高齢者調査：年齢別／認知症の印象〉

年齢別に見ると、「急に怒ったりするので、怖いと感じる」と「話すことや行動の意味がわからず理解しにくい」は低年齢層ほど割合が高くなっています。

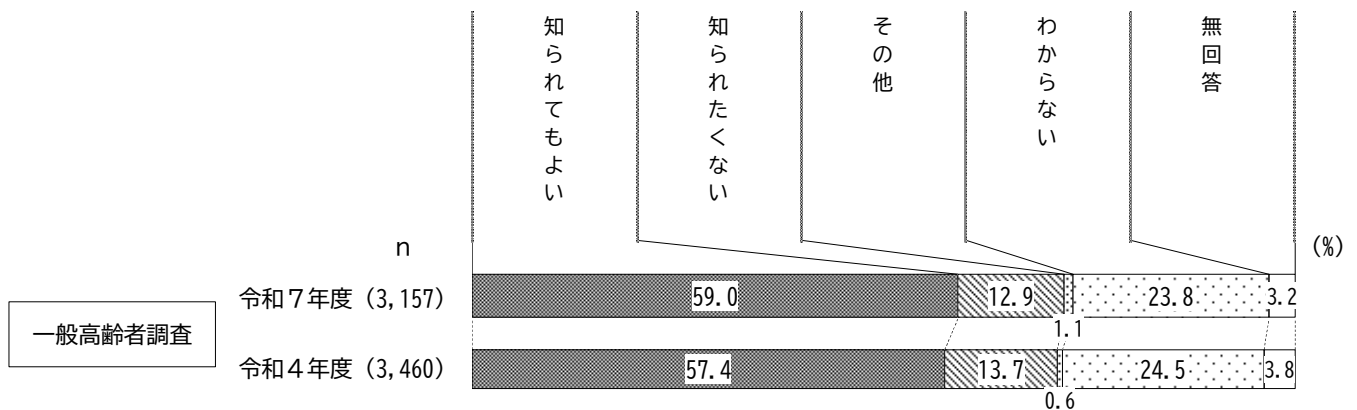
	回答者数	何もわからなく（できなく）なってしまい、かわいそうだと思う	急に怒ったりするので、怖いと感じる	話すことや行動の意味がわからず理解しにくい	声かけなど、手助けしたいと思う	身近に感じる	できれば関わりたくない	その他	特に何も感じない	無回答
一般／全体	3,157	40.9	14.9	34.4	33.4	30.1	8.5	4.1	8.3	6.0
65～69歳	729	40.9	18.2	37.7	35.8	31.8	6.9	5.6	6.7	2.5
70～74歳	695	40.7	17.3	37.8	30.9	28.3	10.8	4.5	8.3	4.6
75～79歳	853	41.4	13.4	34.7	32.8	29.3	9.0	3.0	9.8	6.7
80～84歳	527	39.3	12.1	30.7	33.8	30.6	7.6	3.8	7.6	8.9
85～89歳	227	43.6	12.3	29.1	34.8	30.8	6.6	3.1	8.8	11.0
90歳以上	88	39.8	9.1	17.0	28.4	36.4	8.0	2.3	10.2	5.7

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(7) 認知症になった場合の周囲の認知

Q5. あなた自身が認知症になったら、周囲に知られてもよいと思いますか。(○は1つ)

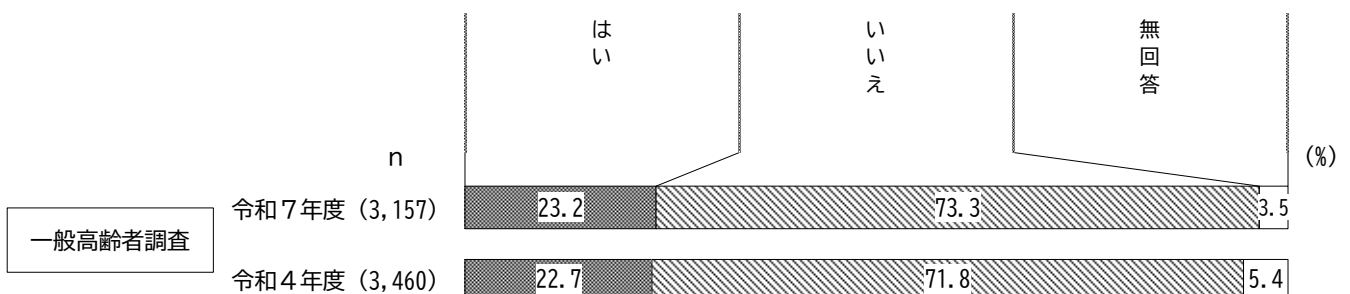
「知られてもよい」が59.0%と、「知られたくない」の12.9%を大きく上回っています。
令和4年度と比較すると、大きな違いは見られません。



(8) 認知症相談窓口の認知度

Q6. 認知症に関する相談窓口を知っていますか。

23.2%が「はい」(知っている)と回答しています。
令和4年度と比較すると、大きな違いは見られません。

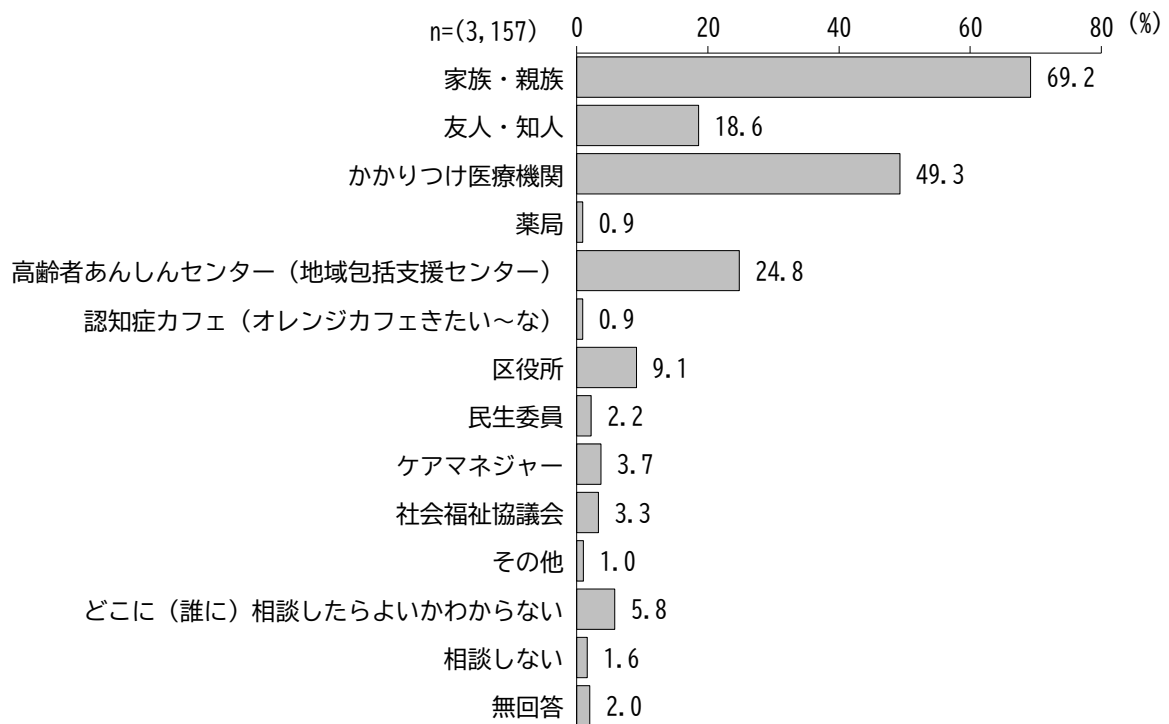


(9) 物忘れや認知症の相談先

【☐Q6で「1. はい」と答えた方におうかがいします。】

☐Q7. 物忘れや認知症の不安がある時、どこに（誰に）相談をしようと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

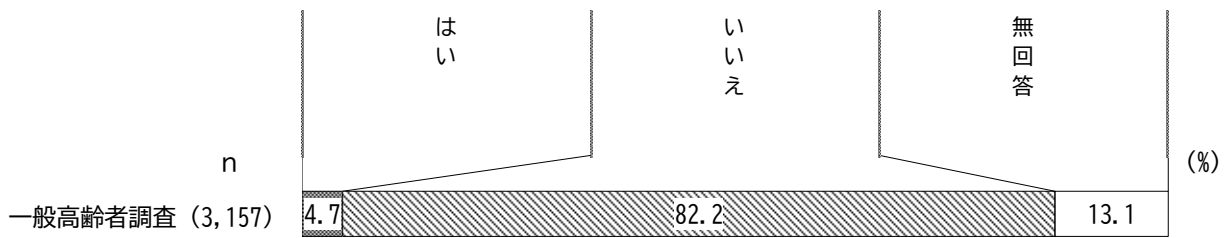
認知症相談窓口を知っている人の相談相手は、「家族・親族」が69.2%と最も多く、次いで「かかりつけ医療機関」（49.3%）、「高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）」（24.8%）、「友人・知人」（18.6%）となっています。



(10) 北区認知症あんしんなびの認知度

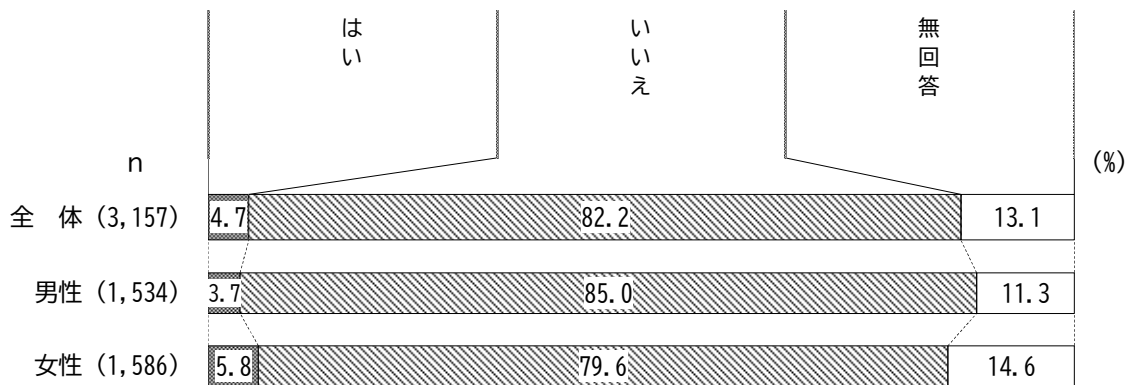
☐Q8. 「北区認知症あんしんなび」を知っていますか。

4.7%が「はい」（知っている）と回答しています。



〈一般高齢者調査：性別／北区認知症あんしんなびの認知度〉

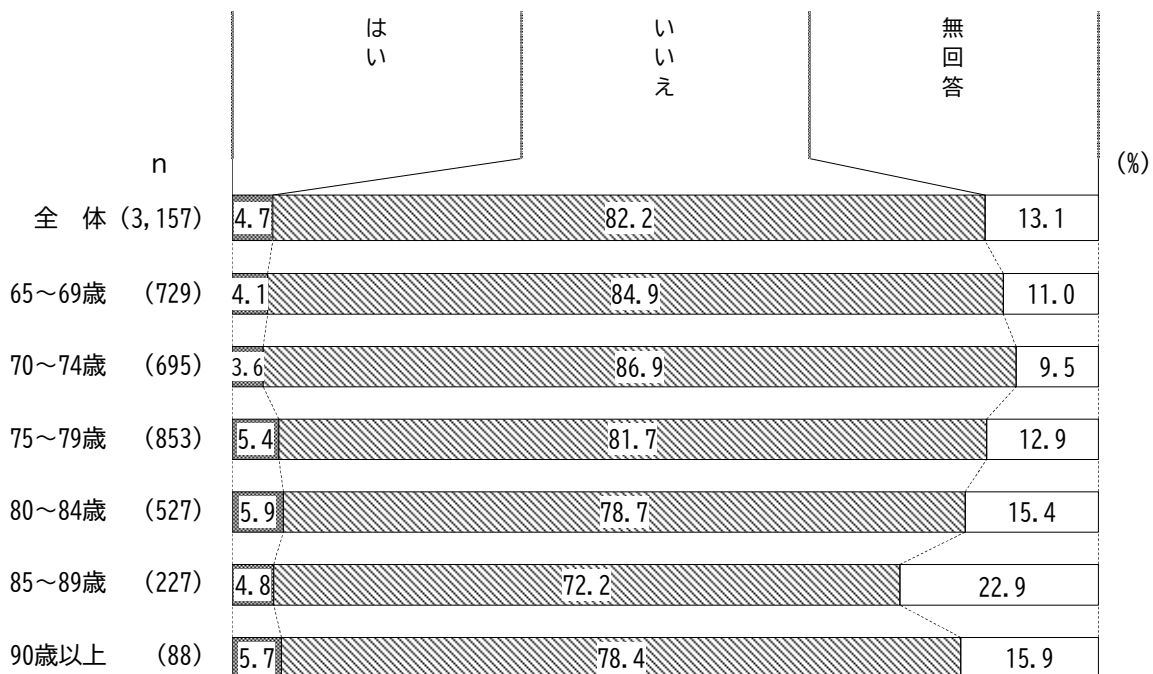
性別に見ると、「いいえ」（知らない）は男性で85.0%と、女性（79.6%）よりも5.4ポイント高くなっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査：年齢別／北区認知症あんしんなびの認知度〉

年齢別に見ると、「いいえ」（知らない）は75～79歳までで8割台、80～84歳以上で7割台となっています。

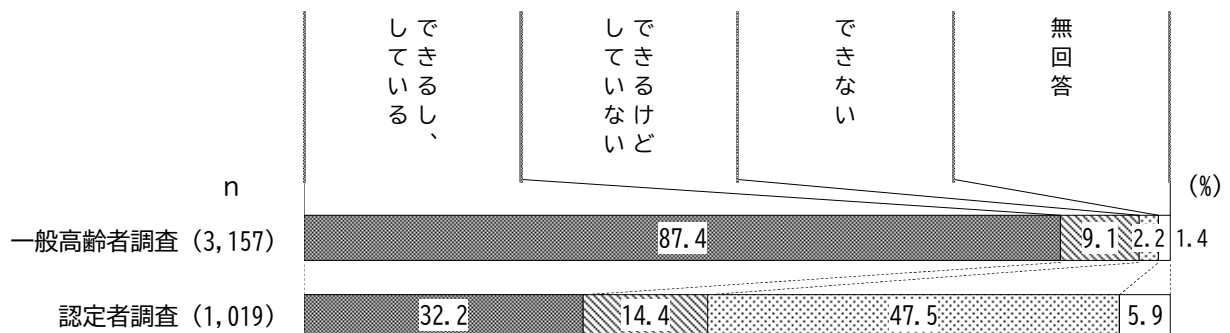


5. 毎日の生活

(1) 1人での外出

Q1. バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）。（○は1つ）

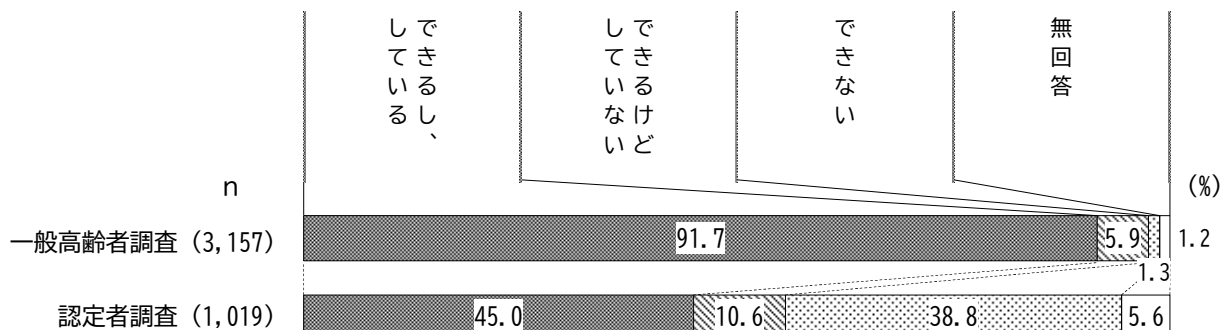
一般高齢者調査では、「できるし、している」が87.4%を占めていますが、認定者調査では32.2%にとどまり、「できない」の47.5%よりも少なくなっています。



(2) 食品・日用品の買物

Q2. 自分で食品・日用品の買物をしていますか。（○は1つ）

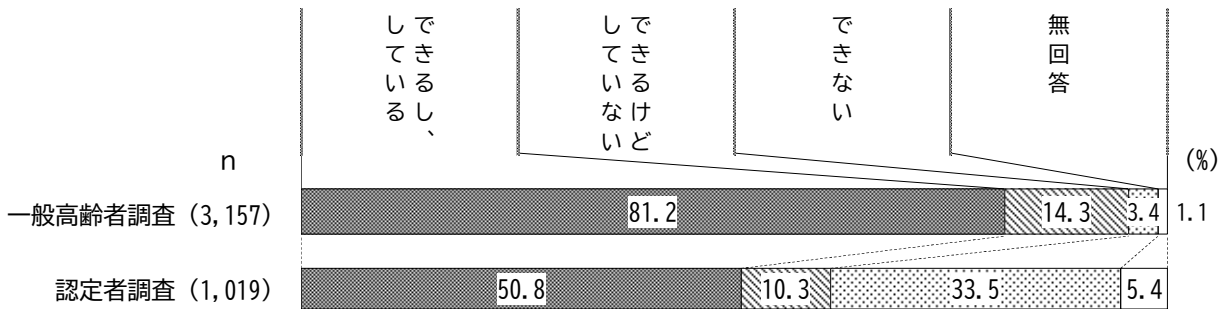
一般高齢者調査では、「できるし、している」が91.7%を占めていますが、認定者調査では45.0%で、「できない」が38.8%となっています。



(3) 食事の用意

Q3. 自分で食事の用意をしていますか。(○は1つ)

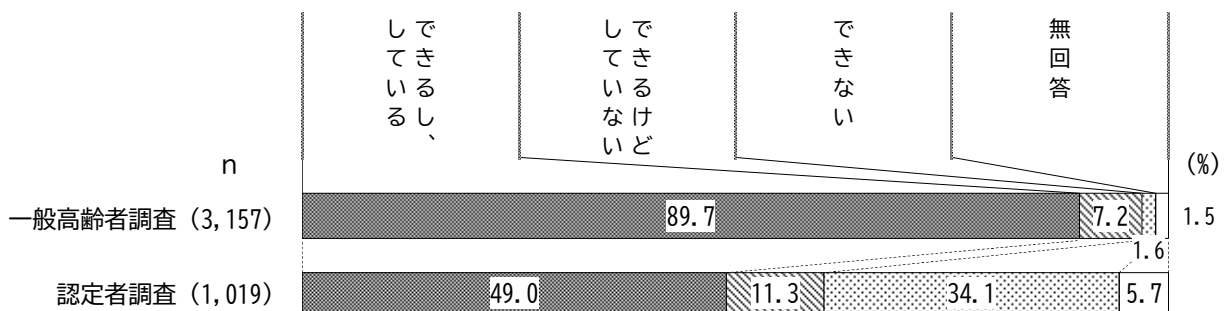
一般高齢者調査では、「できるし、している」が81.2%ですが、認定者調査では50.8%で、「できない」が33.5%となっています。



(4) 請求書の支払い

Q4. 自分で請求書の支払いをしていますか。(○は1つ)

一般高齢者調査では、「できるし、している」が89.7%を占めますが、認定者調査では49.0%で、「できない」が34.1%となっています。

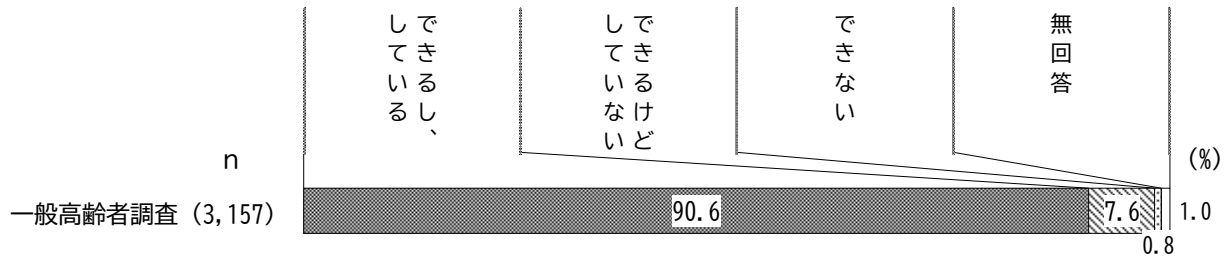


第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(5) ごみ出し

Q5. 自分でごみ出しをしていますか。(〇は1つ)

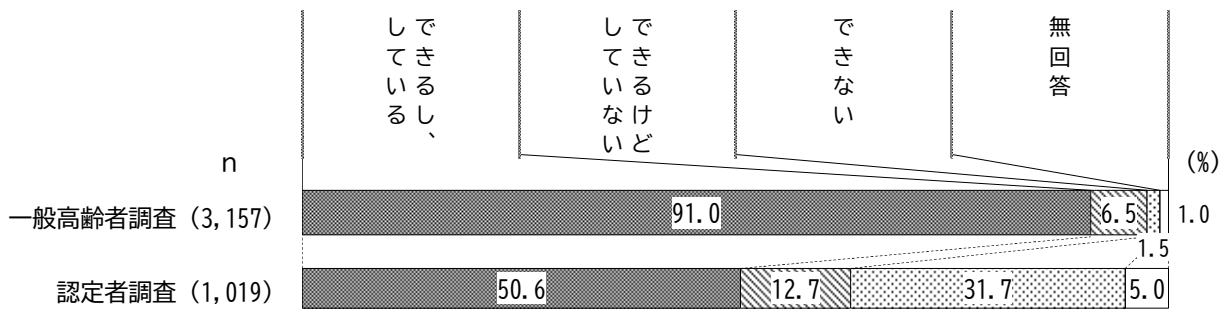
「できるし、している」が90.6%を占めています。



(6) 預貯金の出し入れ

Q6 Q5. 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(〇は1つ)

一般高齢者調査では、「できるし、している」が91.0%を占めますが、認定者調査では50.6%で、「できない」が31.7%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈IADL※ リスク〉

※「IADL」とは、手段的日常生活動作のことで、「掃除・料理・洗濯・買い物などの家事や交通機関の利用、電話対応などのコミュニケーション、スケジュール調整、服薬管理、金銭管理、趣味」などの複雑な動作を指します。

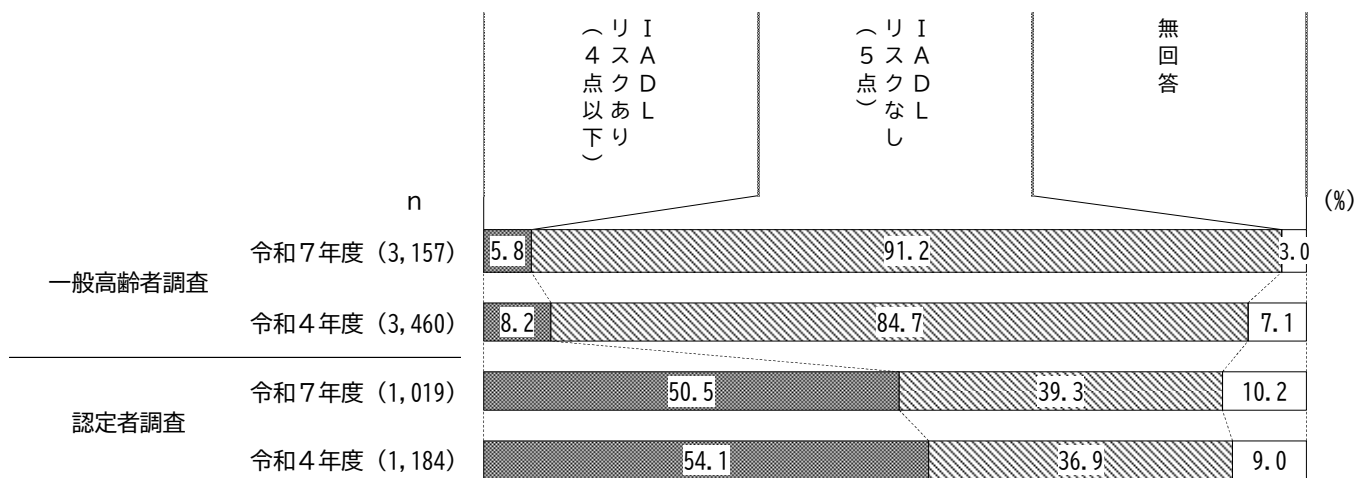
下記の5項目中、1つでもできない場合は、本調査において『IADL機能低下リスクがある高齢者』としました。

- ・バスや電車を使って1人で外出（Q1）
- ・自分で食品・日用品の買い物（Q2）
- ・自分で食事の用意（Q3）
- ・自分で請求書の支払い（Q4）
- ・自分で預貯金の出し入れ（Q6 Q5）

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和7年8月）

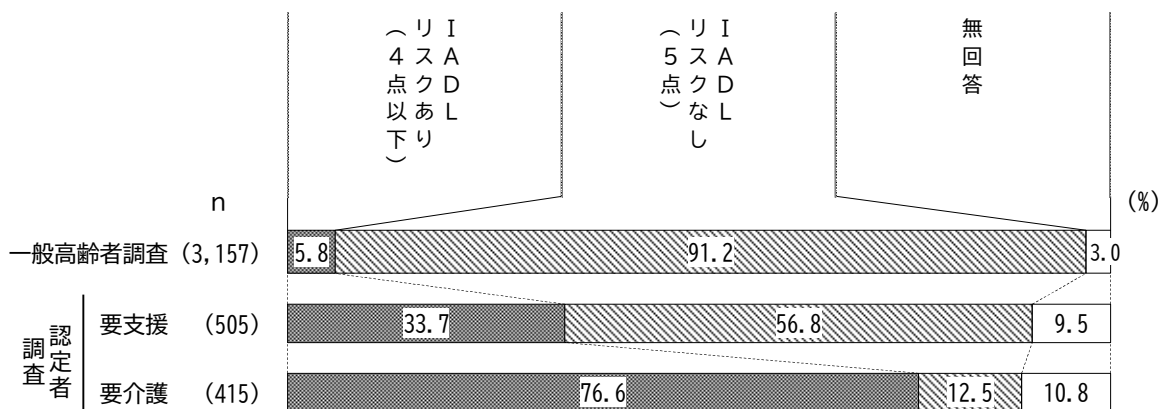
一般高齢者調査では、「IADLリスクなし」が91.2%を占めますが、認定者調査では39.3%で、「IADLリスクあり」（50.5%）の方が多くなっています。

令和4年度と比較すると、一般高齢者調査では「IADLリスクなし」が6.5ポイント増加しています。認定者調査では「IADLリスクあり」が3.6ポイント減少しています。



〈一般高齢者調査・要支援・要介護3区分別/IADLリスク〉

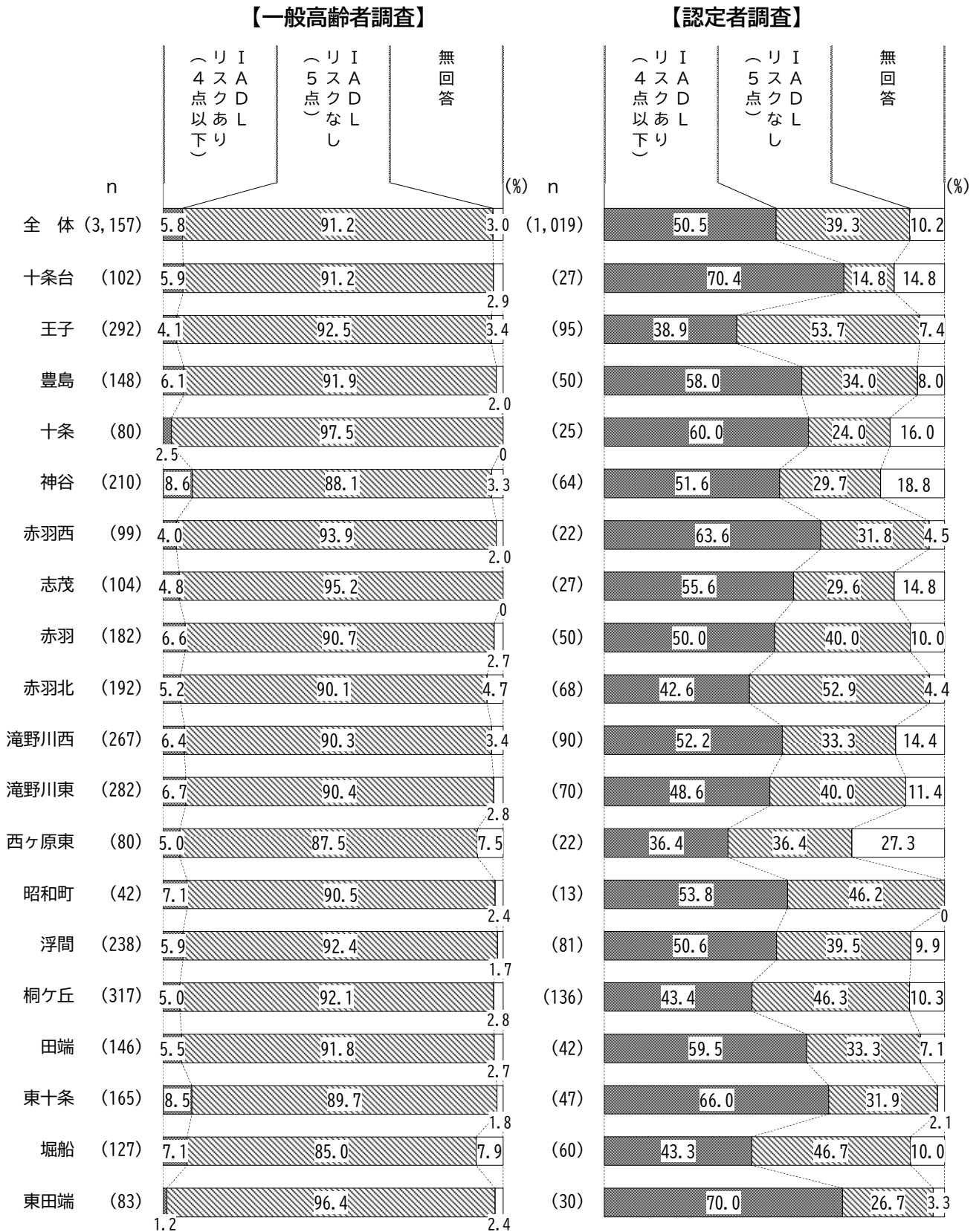
認定者調査を介護度別に見ると、介護度が重い層ほど「IADLリスクあり」の割合が高く、要支援では33.7%、要介護では76.6%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈居住地区別／IADLリスク〉

居住地区別で見ると、「IADLリスクなし」は一般高齢者調査では、十条（97.5%）、東田端（96.4%）、志茂（95.2%）の順で多く、認定者調査では、王子（53.7%）、赤羽北（52.9%）、堀船（46.7%）、桐ヶ丘（46.3%）の4地区で「IADLリスクなし」が「IADLリスクあり」を上回っています。



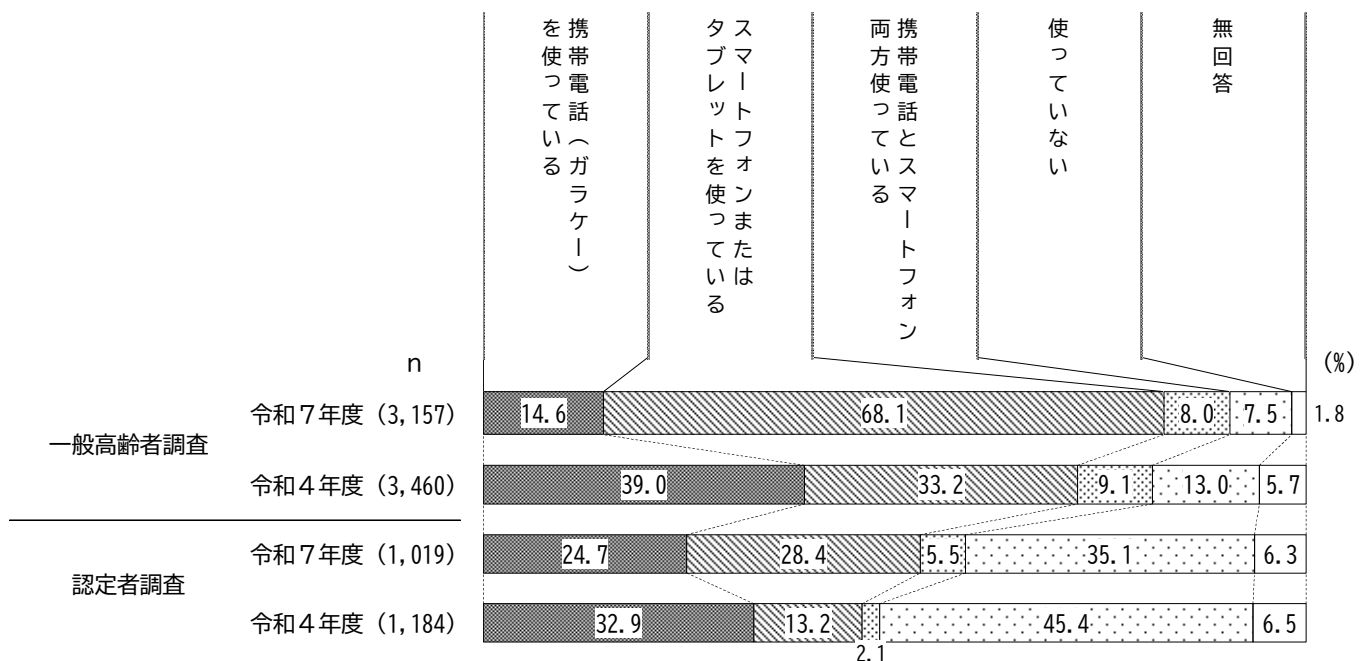
(7) スマートフォン等の使用状況

☐Q7 認Q6. 携帯電話またはスマートフォン・タブレットを使っていますか。(○は1つ)

一般高齢者調査では、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」が68.1%と最も多く、次いで「携帯電話（ガラケー）を使っている」が14.6%となっています。

認定者調査では、「使っていない」が35.1%で、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」が28.4%、「携帯電話（ガラケー）を使っている」が24.7%となっています。

令和4年度と比較すると、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」は一般高齢者調査で34.9ポイント、認定者調査で15.2ポイント増加している。また、「携帯電話（ガラケー）を使っている」は一般高齢者調査で24.4ポイント、認定者調査で8.2ポイント、一方、「使っていない」は一般高齢者調査で5.5ポイント、認定者調査で10.3ポイント減少している。



※今回調査の選択肢「携帯電話（ガラケー）を使っている」は、令和4年度調査では「携帯電話を使っている」、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」は「スマートフォンもしくはタブレットを使っている」、「携帯電話とスマートフォンを両方使っている」は「両方使っている」だった。

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

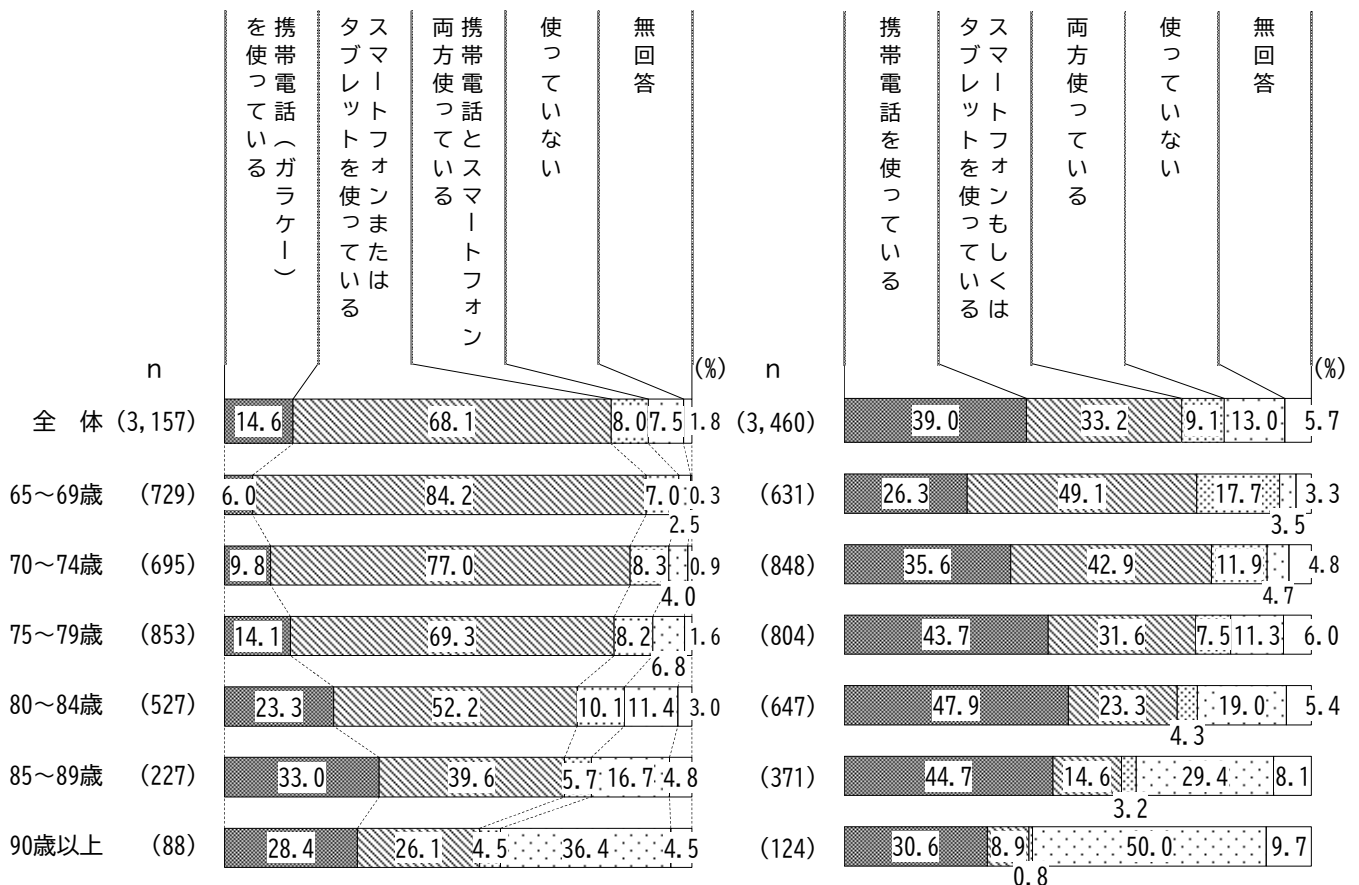
〈一般高齢者調査：年齢別／スマートフォン等の使用状況〉

一般高齢者調査を年齢別に見ると、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」は低年齢層ほど割合が高く、「使っていない」は高年齢層ほど高くなっています。また、85～89歳では「携帯電話（ガラケー）を使っている」が3割を超えています。

年齢別の結果を令和4年度と比較すると、「携帯電話（ガラケー）を使っている」は65～69歳から80～84歳までで20～30ポイント以上減少しています。また、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」は65～69歳から75～79歳までで30ポイント以上、80～84歳から90歳以上で15ポイント以上増加しており、すべての年代で割合が大きく増加しています。一方、「使っていない」は85～89歳と90歳以上で10ポイント以上減少しています。

【令和7年度】

【令和4年度】



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

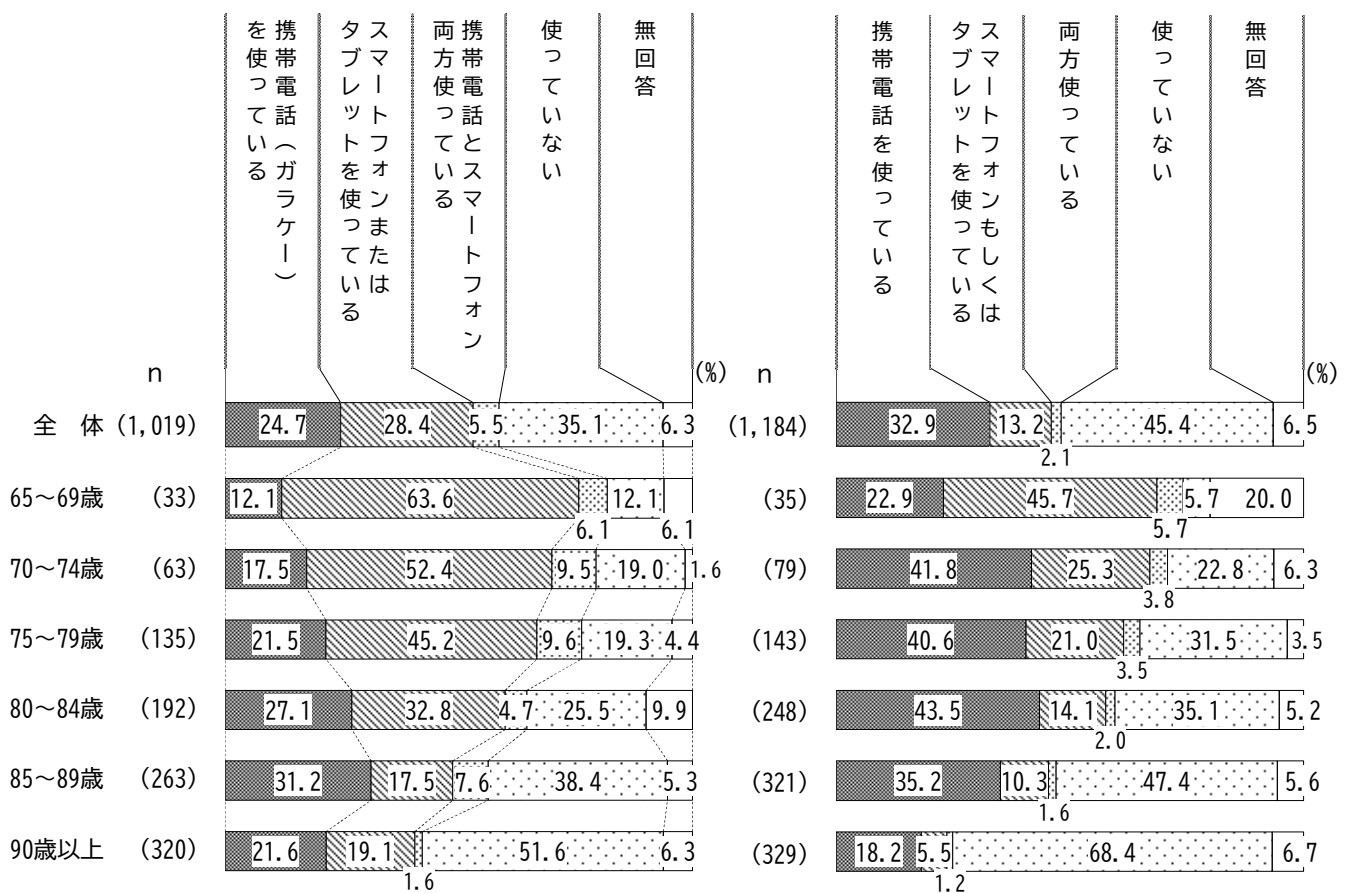
〈認定者調査：年齢別／スマートフォン等の使用状況〉

認定者調査を年齢別に見ると、一般高齢者調査と同様に「スマートフォンまたはタブレットを使っている」は低年齢層ほど割合が高くなっています。また、「使っていない」は高年齢層ほど高く、90歳以上では「使っていない」が5割を超えています。

認定者調査では、「携帯電話（ガラケー）を使っている」は65～69歳から80～84歳までで10～20ポイント以上減少しています。また、「スマートフォンまたはタブレットを使っている」は65～69歳から80～84歳までで15～20ポイント以上増加しています。一方、「使っていない」は75～79歳から90歳以上で約10ポイント減少しています。

【令和7年度】

【令和4年度】

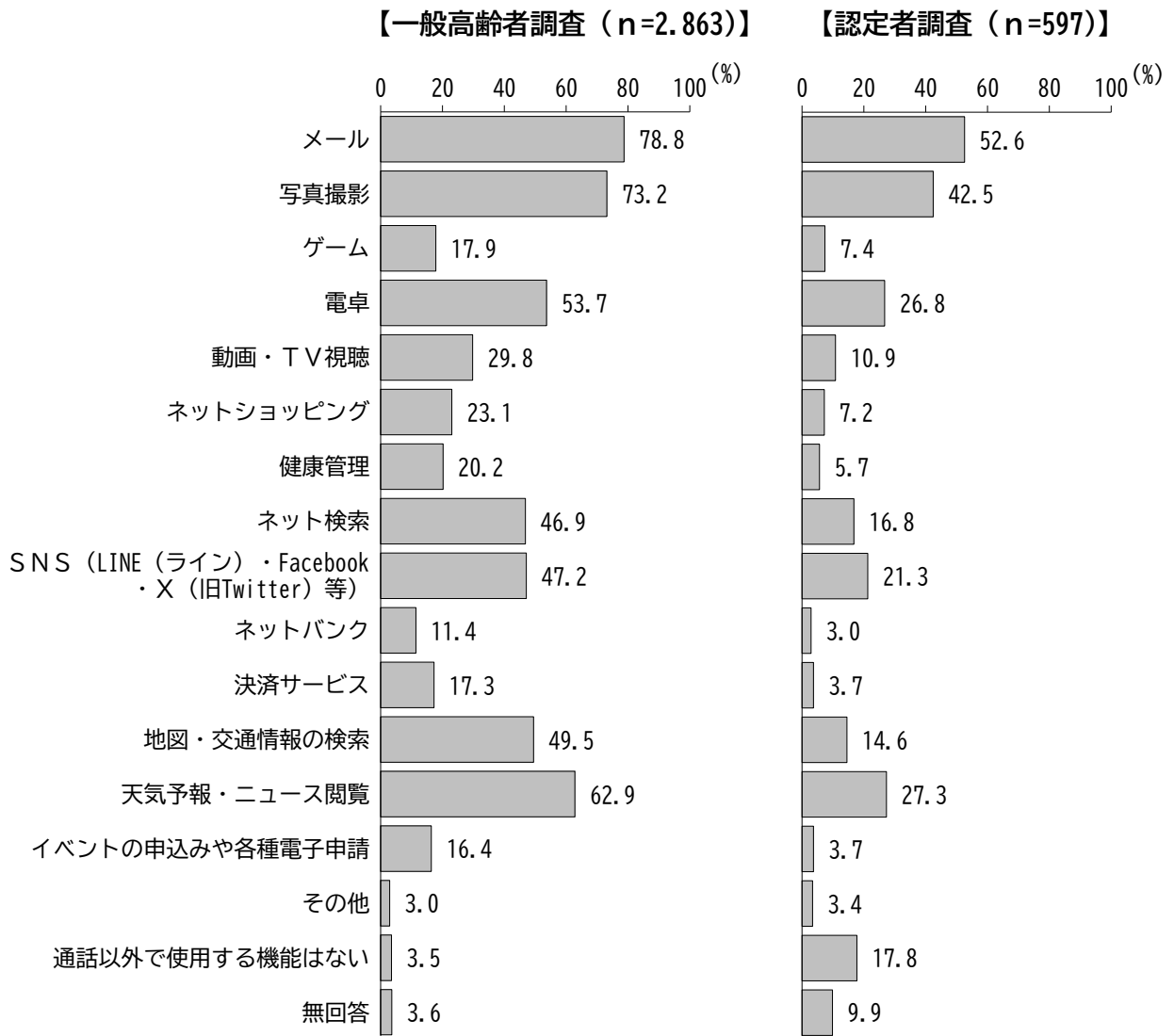


(8) 通話以外の使用用途

【Q7 Q6で「1. 携帯電話を使っている」「2. スマートフォンもしくはタブレットを使っている」「3. 両方使っている」と答えた方にうかがいます。】

Q8 Q7. 通話以外でどのようなことに使用していますか。(あてはまるものすべてに○)

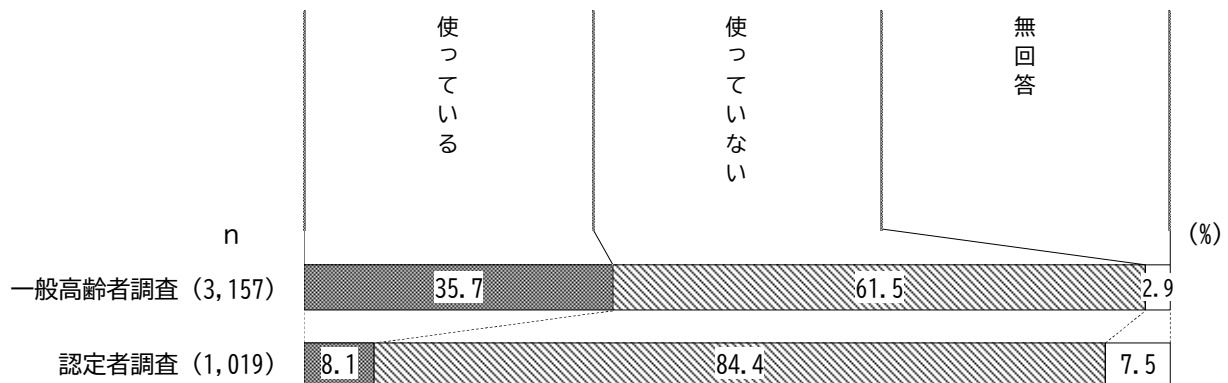
いずれの調査も「メール」、「写真撮影」、「天気予報・ニュース閲覧」、「電卓」の順で多く、一般高齢者調査では、「地図・交通情報の検索」(49.5%)、「SNS」(47.2%)、「ネット検索」(46.9%)が4割以上でこれらに続いています。



(9) パソコンの使用状況

☐Q9 認Q8. パソコンを使っていますか。

「使っている」は、一般高齢者調査で35.7%、認定者調査で8.1%となっています。

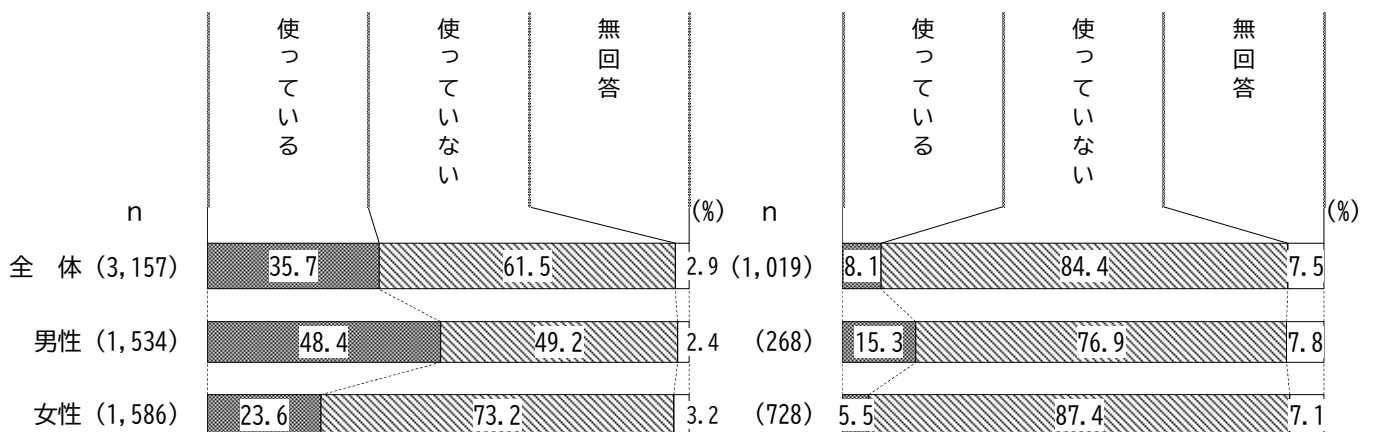


〈性別／パソコンの使用状況〉

性別に見ると、一般高齢者調査・認定者調査ともに「使っている」の割合は男性の方が高く、一般高齢者調査では24.8ポイント、認定者調査では9.8ポイントの差があります。

【一般高齢者調査】

【認定者調査】



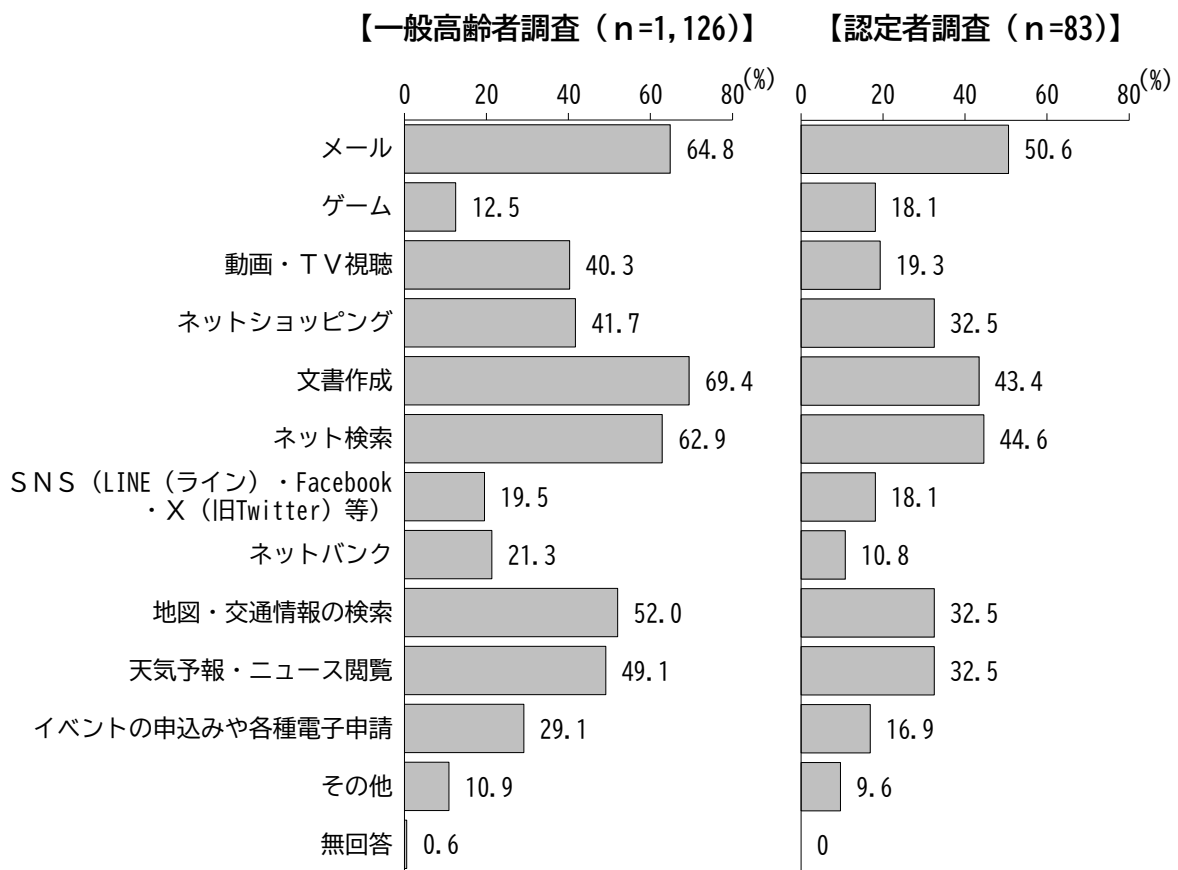
(10) パソコンの使用目的

【Q9 Q8で「1. 使っている」と答えた方に伺います】

Q10 Q9. どのようなことに使用していますか。(あてはまるものすべてに○)

一般高齢者調査では、「文書作成」(69.4%)、「メール」(64.8%)、「ネット検索」(62.9%)、「地図・交通情報の検索」(52.0%)の順で多く、いずれも5割以上となっています。

認定者調査では、「メール」(50.6%)が5割以上で、以下、「ネット検索」(44.6%)、「文書作成」(43.4%)、「ネットショッピング」、「地図・交通情報の検索」と「天気予報・ニュース閲覧」(32.5%)と続いています。

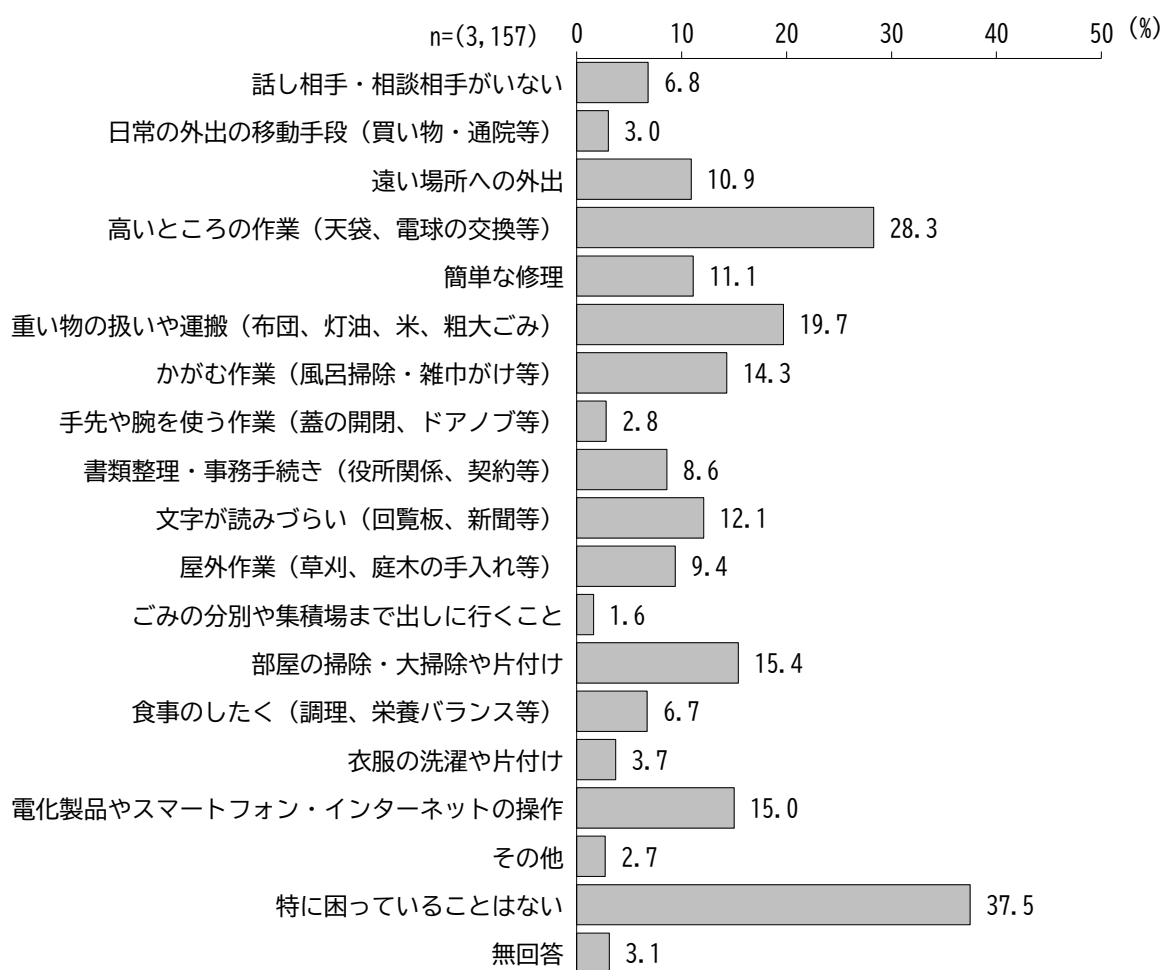


(11) 日常生活で困っていること

Q11. あなたが現在日常生活の中で困っていることは何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

全体から「特に困っていることはない」と無回答を除いた59.4%が何らかの困りごとを挙げています。

「高いところの作業（天袋、電球の交換等）」が28.3%で最も多く、以下、「重い物の扱いや運搬（布団、灯油、米、粗大ごみ）」（19.7%）、「部屋の掃除・大掃除や片付け」（15.4%）、「電化製品やスマートフォン・インターネットの操作」（15.0%）と続いています。



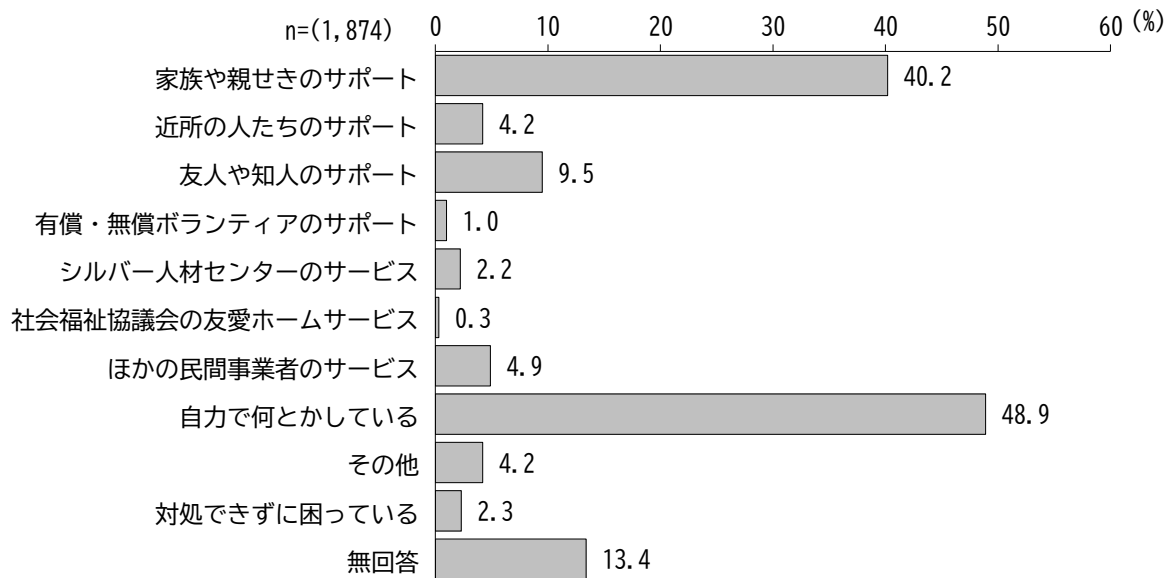
(12) 困りごとへの対処方法

【☐Q11で「1」～「17」を答えた方に伺います。】

☐Q12. 回答した困りごとについて、主にどのように対処されていますか。

(あてはまるものすべてに○)

「自力で何とかしている」が48.9%と最も多く、次いで「家族や親せきのサポート」が40.2%、「友人や知人のサポート」が9.5%、「ほかの民間事業者のサービス」が4.9%となっています。

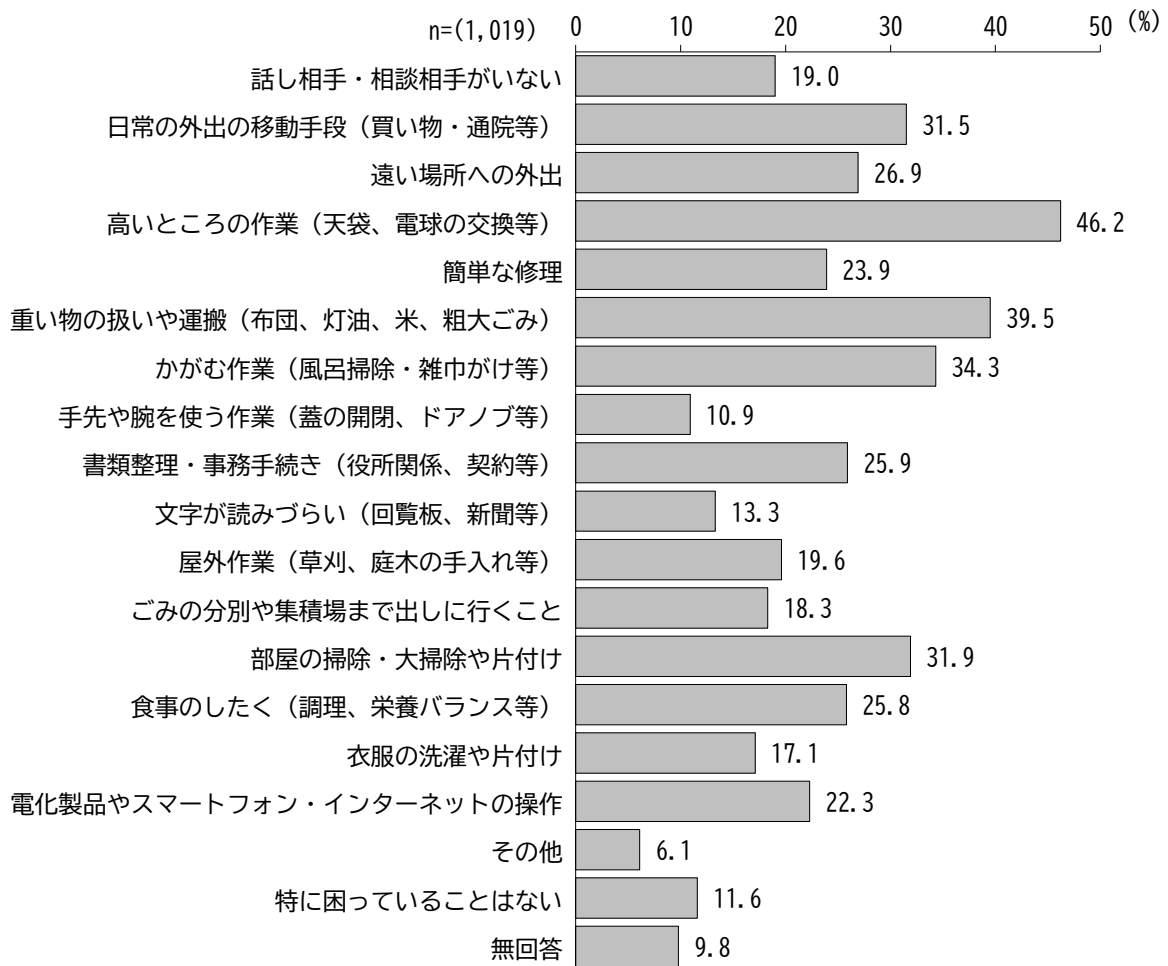


(13) 日常生活で手助けをしてほしいこと

認Q10. あなたが日常生活で手助けをしてほしいことがあれば、それはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

全体から「特に困っていることはない」と無回答を除いた78.6%が、手助けしてほしいことを挙げています。

「高いところの作業（天袋、電球の交換等）」が46.2%で最も多く、以下、「重い物の扱いや運搬（布団、灯油、米、粗大ごみ）」（39.5%）、「かがむ作業（風呂掃除・雑巾がけ等）」（34.3%）、「部屋の掃除・大掃除や片付け」（31.9%）、「日常の外出の移動手段（買い物・通院等）」（31.5%）と続いています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈家族構成別／日常生活で手助けをしてほしいこと〉

家族構成別に見ると、「高いところの作業（天袋、電球の交換等）」、「重い物の扱いや運搬（布団、灯油、米、粗大ごみ）」や「かがむ作業（風呂掃除・雑巾がけ等）」は“1人暮らし”で多く、「遠い場所への外出」、「食事のしたく（調理、栄養バランス等）」や「衣服の洗濯や片付け」は“息子・娘との2世帯”で多くなっています。

(%)

	回答者数	話し相手・相談相手がいない	日常の外出の移動手段 (買い物・通院等)	遠い場所への外出	高いところの作業 (天袋、電球の交換等)	簡単な修理	重い物の扱いや運搬 (布団、灯油、米、粗大ごみ)	かがむ作業・雑巾がけ等 (風呂掃除)	手先や腕を使う作業 (蓋の開閉、ドアノブ等)	書類整理・事務手続き (役所関係、契約等)	文字が読みづらい (回覧板、新聞等)
認定者／全体	1,019	19.0	31.5	26.9	46.2	23.9	39.5	34.3	10.9	25.9	13.3
1人暮らし	603	21.2	33.7	26.4	54.1	26.5	44.3	39.3	10.9	27.5	13.9
配偶者・パートナーと同居 (配偶者等65歳以上)	121	11.6	28.1	24.8	37.2	18.2	35.5	23.1	5.0	18.2	9.9
配偶者・パートナーと同居 (配偶者等64歳以下)	5	20.0	60.0	80.0	80.0	60.0	80.0	60.0	40.0	80.0	40.0
息子・娘との2世帯	148	19.6	31.8	34.5	36.5	23.0	37.2	34.5	16.9	30.4	15.5
その他	117	15.4	27.4	20.5	29.1	18.8	23.9	23.1	10.3	19.7	12.0

	回答者数	屋外作業 (草刈、庭木の手入れ等)	ごみの分別や集積場まで 出しに行くこと	部屋の掃除・大掃除や片付け	食事のしたく (調理、栄養バランス等)	衣服の洗濯や片付け	電化製品やスマートフォン ・インターネットの操作	その他	特に困っていることはない	無回答
認定者／全体	1,019	19.6	18.3	31.9	25.8	17.1	22.3	6.1	11.6	9.8
1人暮らし	603	20.1	19.1	34.7	25.0	14.6	25.0	4.5	8.1	6.3
配偶者・パートナーと同居 (配偶者等65歳以上)	121	14.9	9.1	19.8	26.4	12.4	14.9	4.1	19.8	16.5
配偶者・パートナーと同居 (配偶者等64歳以下)	5	60.0	40.0	60.0	40.0	60.0	80.0	20.0	-	20.0
息子・娘との2世帯	148	24.3	22.3	37.2	31.1	29.1	22.3	6.8	16.2	10.1
その他	117	16.2	19.7	23.9	23.9	18.8	12.8	15.4	15.4	17.1

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：要介護度別（要支援1・2のみ）／日常生活で手助けをしてほしいこと〉

要介護度別（要支援1・2のみ）に見ると、「かがむ作業（風呂掃除・雑巾がけ等）」、「重い物の扱いや運搬（布団、灯油、米、粗大ごみ）」や「部屋の掃除・大掃除や片付け」は“要支援2”の方が“要支援1”よりも10ポイント以上高くなっています。

(%)

	回答者数	話し相手・相談相手がいない	日常の外出の移動手段 (買い物・通院等)	遠い場所への外出	高いところの作業 (天袋、電球の交換等)	簡単な修理	重い物の扱いや運搬 (布団、灯油、米、粗大ごみ)	かがむ作業 (風呂掃除・雑巾がけ等)	手先や腕を使う作業 (蓋の開閉、ドアノブ等)	書類整理・事務手続き (役所関係、契約等)	文字が読みづらい (回覧板、新聞等)
認定者／全体	1,019	19.0	31.5	26.9	46.2	23.9	39.5	34.3	10.9	25.9	13.3
要支援1	312	14.7	24.4	29.2	55.8	24.7	42.6	34.3	9.3	18.9	10.3
要支援2	193	14.0	34.2	26.4	57.0	22.3	52.8	48.2	11.4	25.9	10.9

	回答者数	屋外作業 (草刈、庭木の手入れ等)	ごみの分別や集積場まで 出しに行くこと	部屋の掃除・大掃除や片付け	食事のしたく (調理、栄養バランス等)	衣服の洗濯や片付け	電化製品やスマートフォン ・インターネットの操作	その他	特に困っていることはない	無回答
認定者／全体	1,019	19.6	18.3	31.9	25.8	17.1	22.3	6.1	11.6	9.8
要支援1	312	19.2	13.1	29.2	18.9	10.9	20.2	3.5	11.9	6.7
要支援2	193	23.3	19.7	39.9	21.8	15.0	24.9	3.6	5.7	5.7

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：サービス利用有無×年齢2区分別／日常生活で手助けをしてほしいこと〉

介護保険サービスの利用有無×年齢2区分別に見ると、“サービス利用無／前期高齢者”以外では「高いところの作業（天袋、電球の交換等）」が最も多く、“サービス利用無／前期高齢者”では「遠い場所への外出」が最も多くなっています。次いで、“サービス利用無／後期高齢者”以外では「重い物の扱いや運搬（布団、灯油、米、粗大ごみ）」、“サービス利用無／後期高齢者”では「かがむ作業（風呂掃除・雑巾がけ等）」となっています。

	回答者数	話し相手・相談相手がない	日常の外出の移動手段 (買い物・通院等)	遠い場所への外出	高いところの作業 (天袋、電球の交換等)	簡単な修理	重い物の扱いや運搬 (布団、灯油、米、粗大ごみ)	かがむ作業 (風呂掃除・雑巾がけ等)	手先や腕を使う作業 (蓋の開閉、ドアノブ等)	書類整理・事務手続き (役所関係、契約等)	(%) 文字が読みづらい (回覧板、新聞等)
認定者／全体	1,019	19.0	31.5	26.9	46.2	23.9	39.5	34.3	10.9	25.9	13.3
サービス利用有／前期高齢者	46	30.4	41.3	28.3	54.3	21.7	52.2	45.7	13.0	26.1	19.6
サービス利用有／後期高齢者	426	22.3	39.4	31.0	49.5	28.6	44.6	38.5	15.5	31.9	16.2
サービス利用無／前期高齢者	23	26.1	30.4	52.2	39.1	26.1	47.8	34.8	-	17.4	17.4
サービス利用無／後期高齢者	157	13.4	26.1	23.6	41.4	18.5	30.6	31.8	7.6	21.0	9.6

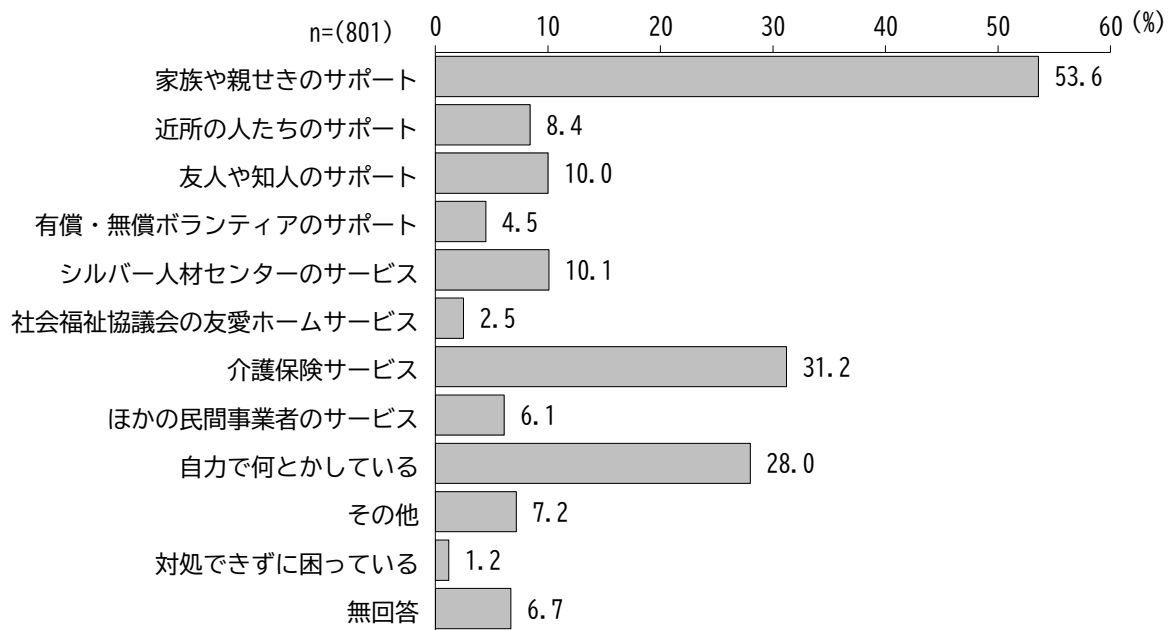
	回答者数	屋外作業 (草刈、庭木の手入れ等)	ごみの分別や集積場まで 出しに行くこと	部屋の掃除・大掃除や片付け	食事のしたく (調理、栄養バランス等)	衣服の洗濯や片付け	電化製品やスマートフォン ・インターネットの操作	その他	特に困っていることはない	無回答
認定者／全体	1,019	19.6	18.3	31.9	25.8	17.1	22.3	6.1	11.6	9.8
サービス利用有／前期高齢者	46	19.6	21.7	43.5	37.0	28.3	23.9	6.5	4.3	-
サービス利用有／後期高齢者	426	21.8	25.4	39.0	31.2	24.9	26.3	5.6	10.6	8.5
サービス利用無／前期高齢者	23	8.7	17.4	17.4	21.7	13.0	13.0	4.3	8.7	4.3
サービス利用無／後期高齢者	157	17.2	10.8	26.1	22.9	9.6	18.5	8.3	16.6	7.6

(14) 困りごとへの対処方法

【認Q10で「1」～「17」を答えた方に伺います。】

認Q11. 回答した困りごとについて、主にどのように対処されていますか。
 (あてはまるものすべてに○)

「家族や親せきのサポート」が53.6%と最も多く、次いで「介護保険サービス」が31.2%、「自力で何とかしている」が28.0%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈家族構成別／困りごとへの対処方法〉

家族構成別に見ると、「介護保険サービス」は“1人暮らし”で多く、「家族や親せきのサポート」は“配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）”“息子・娘との2世帯”、「友人や知人のサポート」は“配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）”で多くなっています。

	回答者数	家族や親せきのサポート	近所の人たちのサポート	友人や知人のサポート	有償・無償ボランティアのサポート	シルバー人材センターのサービス	社会福祉協議会の友愛ホームサービス	介護保険サービス	ほかの民間事業者のサービス	自力で何とかしている	その他	対処できずに困っている	無回答
認定者／全体	801	53.6	8.4	10.0	4.5	10.1	2.5	31.2	6.1	28.0	7.2	1.2	6.7
1人暮らし	516	45.3	9.9	11.4	6.4	12.6	2.7	37.2	7.0	32.2	5.6	1.0	7.8
配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）	77	80.5	9.1	19.5	-	5.2	1.3	11.7	2.6	20.8	3.9	1.3	2.6
配偶者・パートナーと同居（配偶者等64歳以下）	4	75.0	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-
息子・娘との2世帯	109	76.1	2.8	2.8	1.8	5.5	3.7	26.6	2.8	21.1	4.6	2.8	4.6
その他	79	53.2	6.3	3.8	1.3	3.8	1.3	16.5	10.1	13.9	24.1	1.3	6.3

〈認定者調査：介護度（要支援1・2のみ）×年齢2区分別／困りごとへの対処方法〉

介護度（要支援1・2のみ）×年齢2区分別に見ると、“前期高齢者／要支援2”以外では「家族や親せきのサポート」が最も多くなっています。次いで、“前期高齢者／要支援1”“後期高齢者／要支援1”では「自力で何とかしている」、「後期高齢者／要支援2”では「介護保険サービス」となっています。

	回答者数	家族や親せきのサポート	近所の人たちのサポート	友人や知人のサポート	有償・無償ボランティアのサポート	シルバー人材センターのサービス	社会福祉協議会の友愛ホームサービス	介護保険サービス	ほかの民間事業者のサービス	自力で何とかしている	その他	対処できずに困っている	無回答
認定者／全体	801	53.6	8.4	10.0	4.5	10.1	2.5	31.2	6.1	28.0	7.2	1.2	6.7
前期高齢者／要支援1	28	46.4	7.1	7.1	3.6	3.6	-	21.4	-	42.9	3.6	3.6	3.6
後期高齢者／要支援1	226	49.1	8.8	12.8	4.4	12.4	3.1	18.1	4.4	42.0	8.0	-	6.6
前期高齢者／要支援2	19	21.1	10.5	21.1	5.3	15.8	5.3	52.6	15.8	21.1	-	-	5.3
後期高齢者／要支援2	152	50.7	6.6	9.9	5.3	10.5	2.6	32.2	5.3	30.3	3.9	3.9	4.6

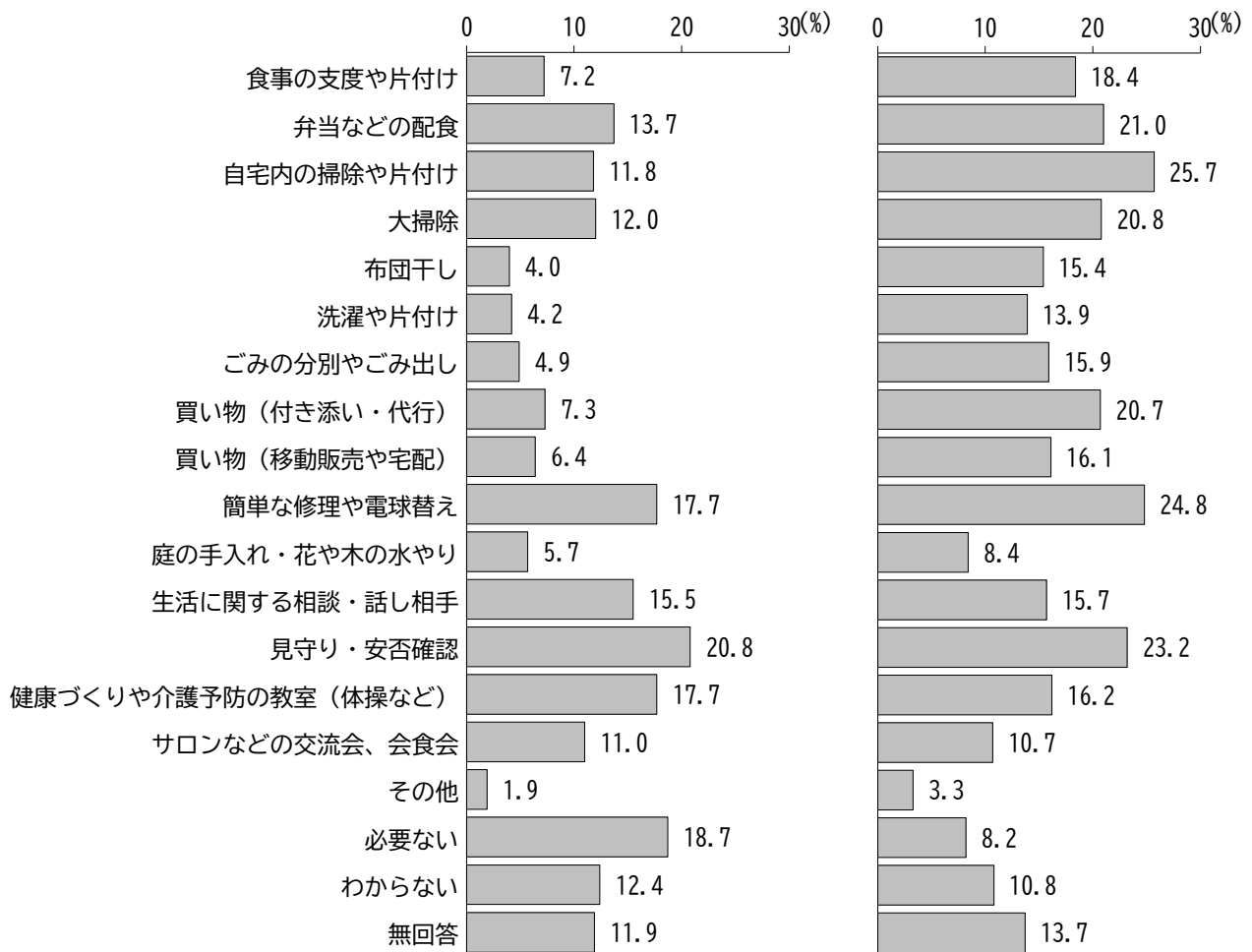
(15) 自立した生活を続けていくために必要なサービスや地域の支え合い

☐Q13 認Q12. 地域の中で、自立した生活を続けていくために、どのようなサービスや地域の支え合いがあるとよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

一般高齢者調査では、「見守り・安否確認」が20.8%と最も多く、次いで「簡単な修理や電球替え」と「健康づくりや介護予防の教室（体操など）」が17.7%となっています。一方、「必要ない」は18.7%となっています。

認定者調査では、「自宅内の掃除や片付け」が25.7%と最も多く、次いで「簡単な修理や電球替え」（24.8%）、「見守り・安否確認」（23.2%）、「弁当などの配食」（21.0%）となっています。

【一般高齢者調査（n=3,157）】 【認定者調査（n=1,019）】



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：要介護度別（要支援1・2のみ）〉

／自立した生活を続けていくために必要なサービスや地域の支え合い〉

要介護度別（要支援1・2のみ）に見ると、“要支援1”では「大掃除」、「要支援2”では「自宅内の掃除や片付け」が最も多くなっています。また、「簡単な修理や電球替え」は“要支援1”の方が“要支援2”よりも5.0ポイント高くなっています。一方、「買い物（付き添い・代行）」、「自宅内の掃除や片付け」、「ごみの分別やごみ出し」、「弁当などの配食」は“要支援2”の方が“要支援1”よりも5.0ポイント以上高くなっています。

(%)

	回答者数	食事の支度や片付け	弁当などの配食	自宅内の掃除や片付け	大掃除	布団干し	洗濯や片付け	ごみの分別やごみ出し	買い物（付き添い・代行）	買い物（移動販売や宅配）	簡単な修理や電球替え
認定者／全体	1,019	18.4	21.0	25.7	20.8	15.4	13.9	15.9	20.7	16.1	24.8
要支援1	312	13.1	17.3	22.4	25.0	17.0	10.6	10.9	13.8	14.7	31.4
要支援2	193	15.0	22.3	31.6	22.8	19.2	11.4	16.1	23.8	17.6	26.4

	回答者数	庭の手入れ・花や木の水やり	生活に関する相談・話し相手	見守り・安否確認	健康づくりや介護予防の教室（体操など）	サロンなどの交流会、会食会	その他	必要ない	わからない	無回答
認定者／全体	1,019	8.4	15.7	23.2	16.2	10.7	3.3	8.2	10.8	13.7
要支援1	312	8.3	14.1	21.5	16.3	12.2	2.2	8.0	6.1	11.2
要支援2	193	8.3	10.9	20.7	19.2	11.4	3.6	6.7	6.7	12.4

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：サービス利用有無×年齢2区分別〉

／自立した生活を続けていくために必要なサービスや地域の支え合い〉

介護保険サービスの利用有無×年齢2区分別に見ると、“サービス利用無／前期高齢者”以外では「自宅内の掃除や片付け」が最も多くなっている。また、“サービス利用有”の中で見ると、「買い物（付き添い・代行）」や「簡単な修理や電球替え」は“前期高齢者”の方が“後期高齢者”よりも10ポイント以上高くなっている。

	回答者数	食事の支度や片付け	弁当などの配食	自宅内の掃除や片付け	大掃除	布団干し	洗濯や片付け	ごみの分別やごみ出し	買い物（付き添い・代行）	買い物（移動販売や宅配）	簡単な修理や電球替え
認定者／全体	1,019	18.4	21.0	25.7	20.8	15.4	13.9	15.9	20.7	16.1	24.8
サービス利用有／前期高齢者	46	26.1	30.4	39.1	26.1	19.6	19.6	21.7	37.0	10.9	39.1
サービス利用有／後期高齢者	426	23.5	25.6	31.0	23.7	17.4	17.8	20.4	24.4	19.0	27.0
サービス利用無／前期高齢者	23	13.0	34.8	17.4	8.7	13.0	8.7	21.7	13.0	13.0	13.0
サービス利用無／後期高齢者	157	14.0	14.6	19.1	17.8	13.4	8.3	8.9	13.4	12.7	21.7

	回答者数	庭の手入れ・花や木の水やり	生活に関する相談・話し相手	見守り・安否確認	健康づくりや介護予防の教室（体操など）	サロンなどの交流会、会食会	その他	必要ない	わからない	無回答
認定者／全体	1,019	8.4	15.7	23.2	16.2	10.7	3.3	8.2	10.8	13.7
サービス利用有／前期高齢者	46	2.2	23.9	28.3	10.9	15.2	4.3	4.3	10.9	4.3
サービス利用有／後期高齢者	426	12.0	18.8	28.9	18.1	12.2	3.8	5.9	12.0	9.9
サービス利用無／前期高齢者	23	-	21.7	26.1	26.1	17.4	-	4.3	8.7	8.7
サービス利用無／後期高齢者	157	7.0	13.4	16.6	15.3	8.9	2.5	13.4	12.7	10.2

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

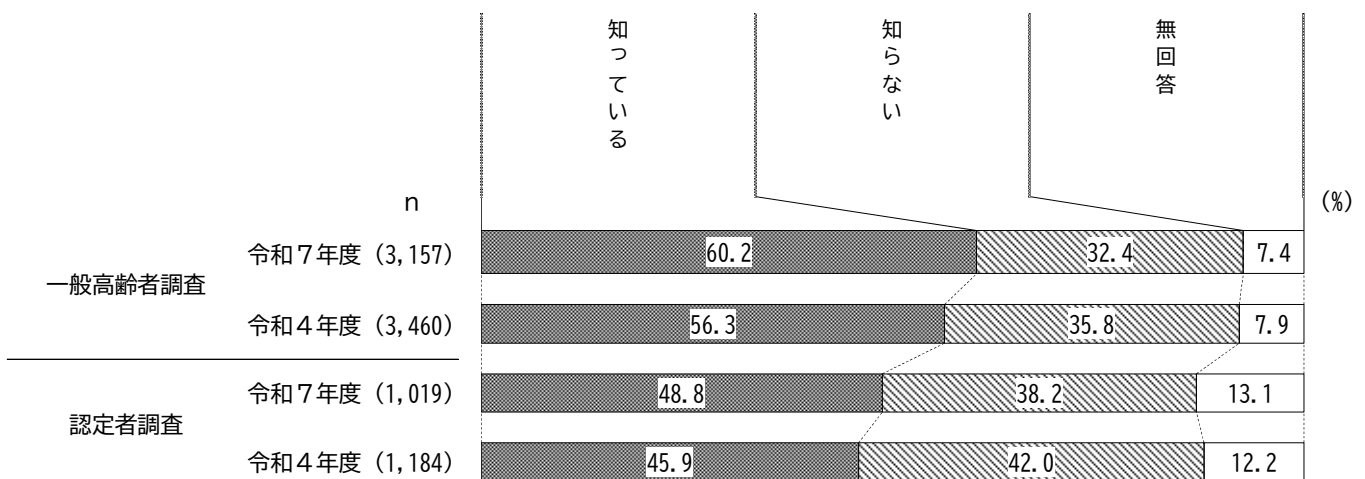
(16) 成年後見制度の認知状況

□Q14 認Q13年後見制度※をご存じですか。(○は1つ)

※成年後見制度：認知症などで物事の判断が困難になった場合、本人に代わって財産管理や契約行為等を行う後見人を選定し、法律的に保護・支援する制度です。後見人には、家族や親族の他に弁護士・司法書士・社会福祉士などが選任されます。

「知っている」は、一般高齢者調査で60.2%、認定者調査で48.8%となっています。

令和4年度と比較すると、「知っている」は一般高齢者調査で3.9ポイント、認定者調査で2.9ポイント増加しています。

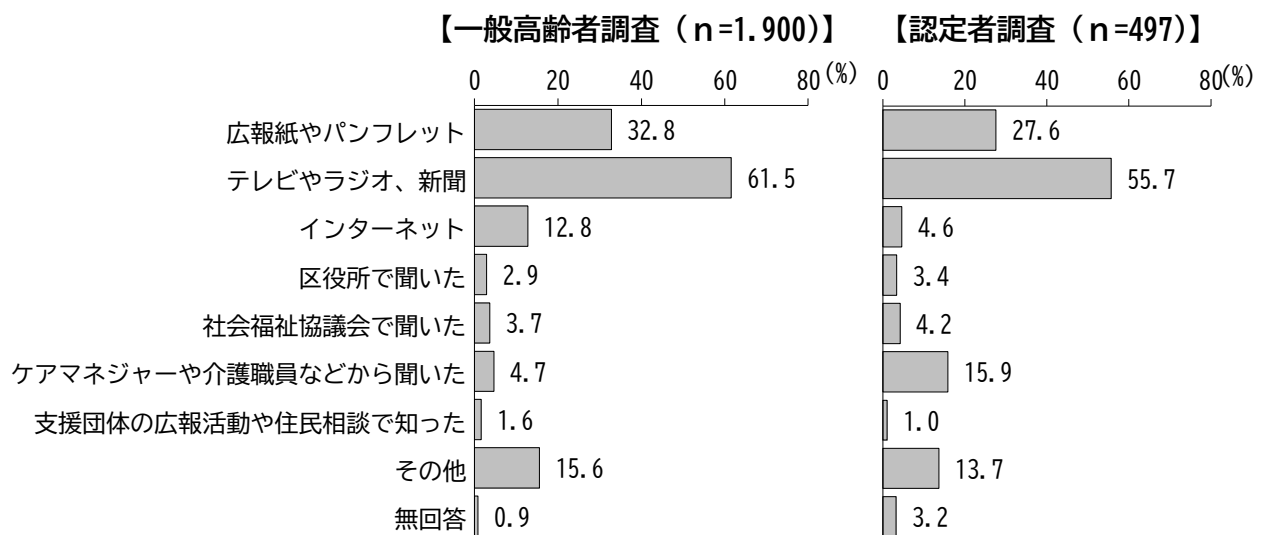


(17) 成年後見制度の認知媒体

【□Q14 認Q13で「1. 知っている」と答えた方に伺います】

□Q15 認Q14. どのようにして知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

いずれの調査も「テレビやラジオ、新聞」「広報紙やパンフレット」の順で多く、一般高齢者調査では「その他」を除くと「インターネット」、認定者調査では「ケアマネジャーや介護職員などから聞いた」がこれらに続いています。

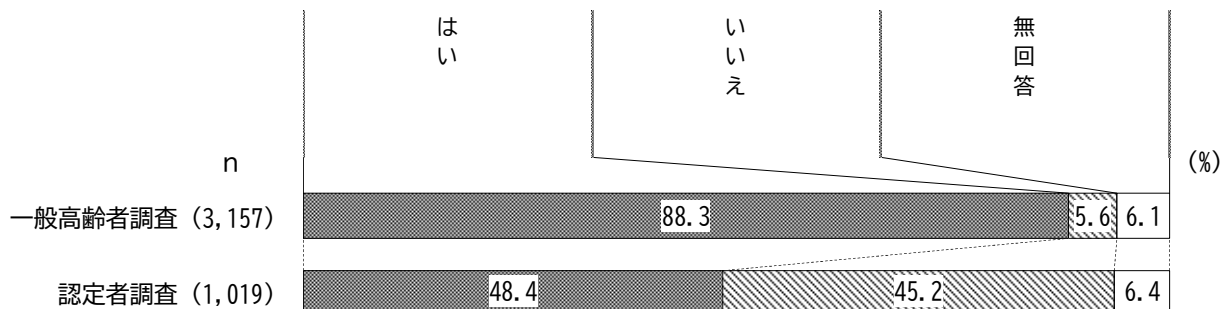


6. 社会参加

(1) 書類の記入

Q1. 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。

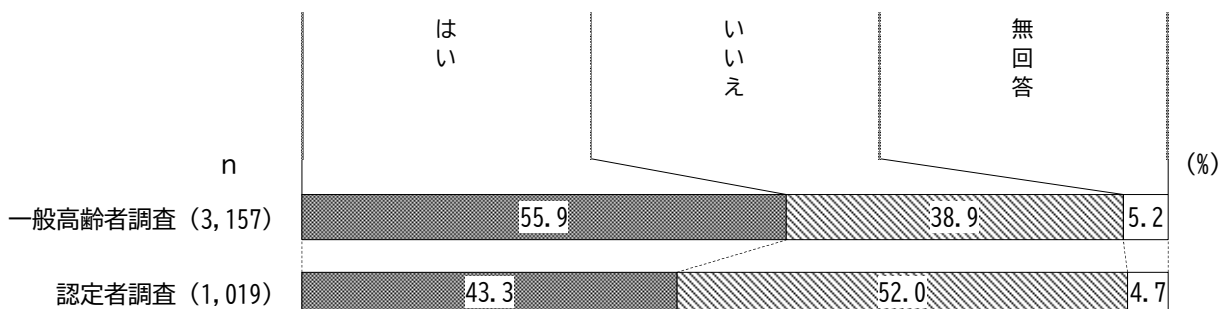
「はい」（書ける）は、一般高齢者調査で88.3%ですが、認定者調査では48.4%で、「いいえ」（書けない）の45.2%に近い数字となっています。



(2) 新聞閲読

Q2. 新聞を読んでいますか。

「はい」（読んでいる）は、一般高齢者調査で55.9%ですが、認定者調査では43.3%で、「いいえ」（読んでいない）よりも少なくなっています。

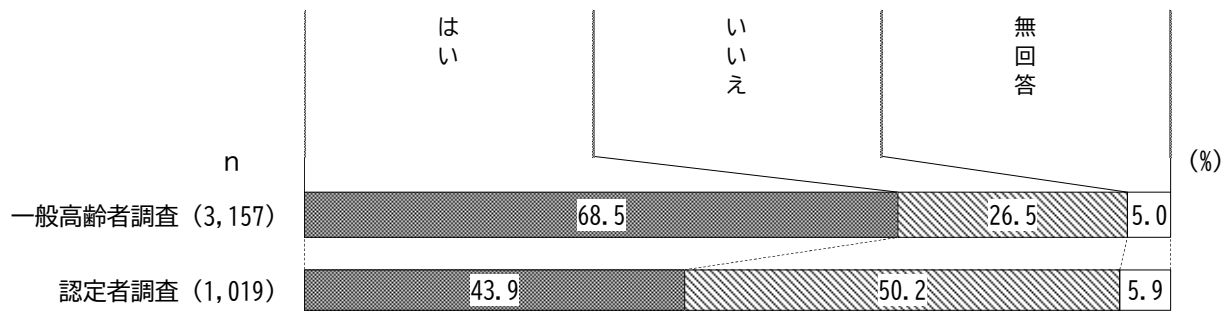


第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(3) 本や雑誌の閲読

Q3. 本や雑誌を読んでいますか。

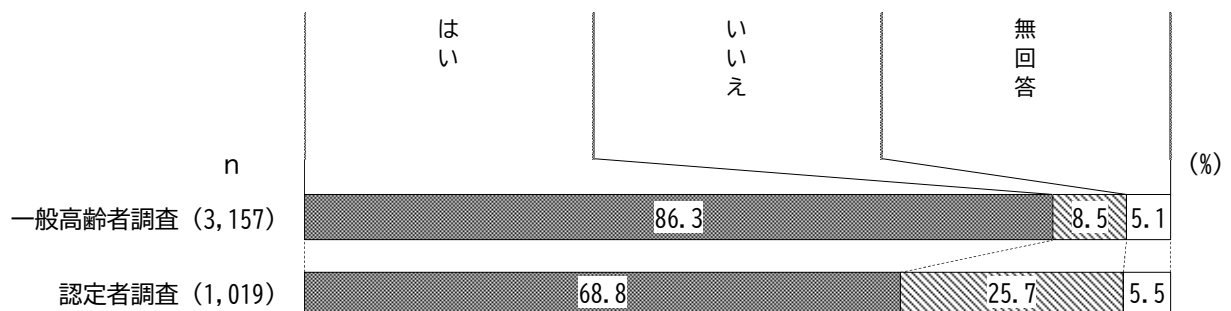
「はい」（読んでいる）は、一般高齢者調査で68.5%、認定者調査で43.9%となっています。



(4) 健康記事、番組への関心

Q4. 健康についての記事や番組に関心がありますか。

「はい」（関心がある）は、一般高齢者調査で86.3%、認定者調査で68.8%となっています。



〈知的能動性の低下〉

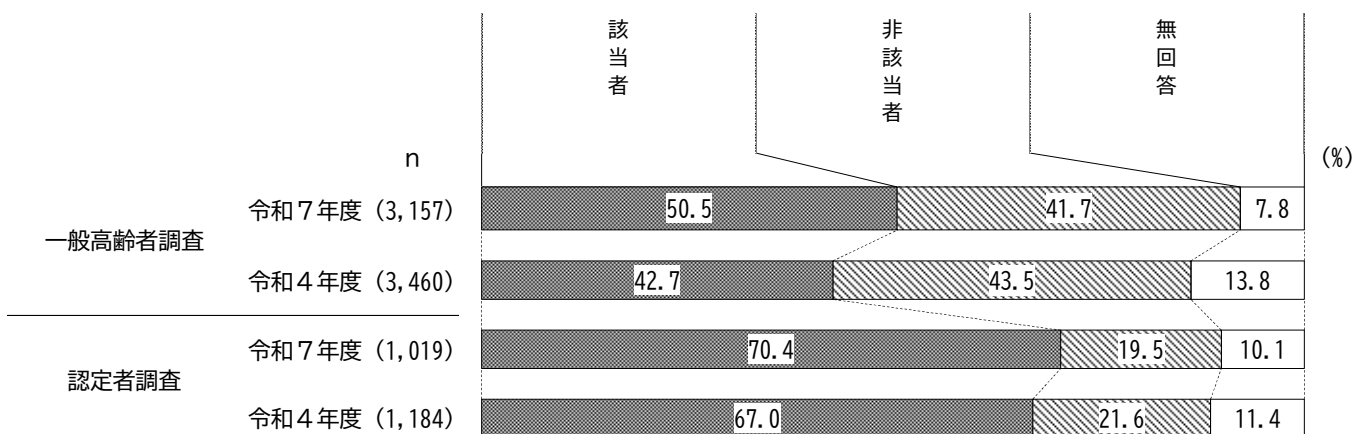
下記の4項目中、1つでも「いいえ」（書けない、読んでいない、関心がない）に該当する場合は、本調査において『知的能動性の低下リスクがある高齢者』としました。

- ・書類の記入（Q1）
- ・新聞閲読（Q2）
- ・本や雑誌の閲読（Q3）
- ・健康記事、番組への関心（Q4）

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和7年8月）

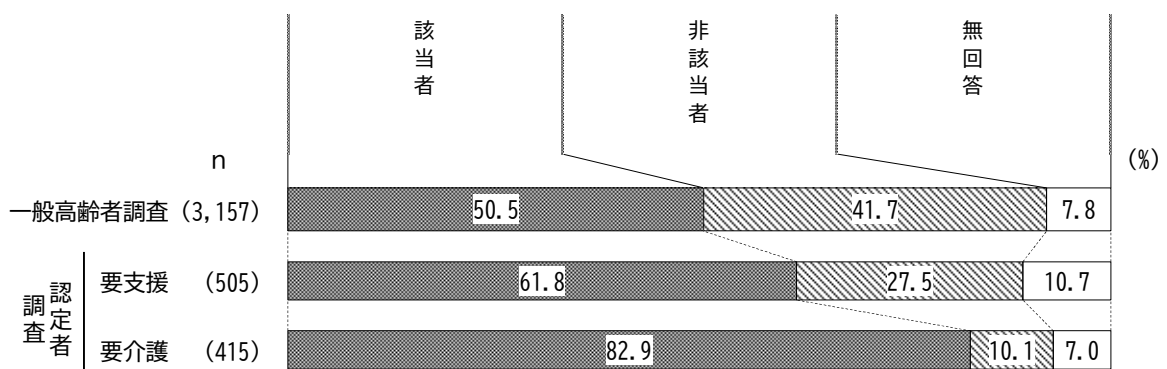
知的能動性の低下への「該当者」は、一般高齢者調査で50.5%、認定者調査で70.4%となっています。

令和4年度と比較すると、「該当者」は一般高齢者調査で7.8ポイント、認定者調査で3.4ポイント増加しています。



〈一般高齢者調査・要支援・要介護3区分別／知的能動性の低下〉

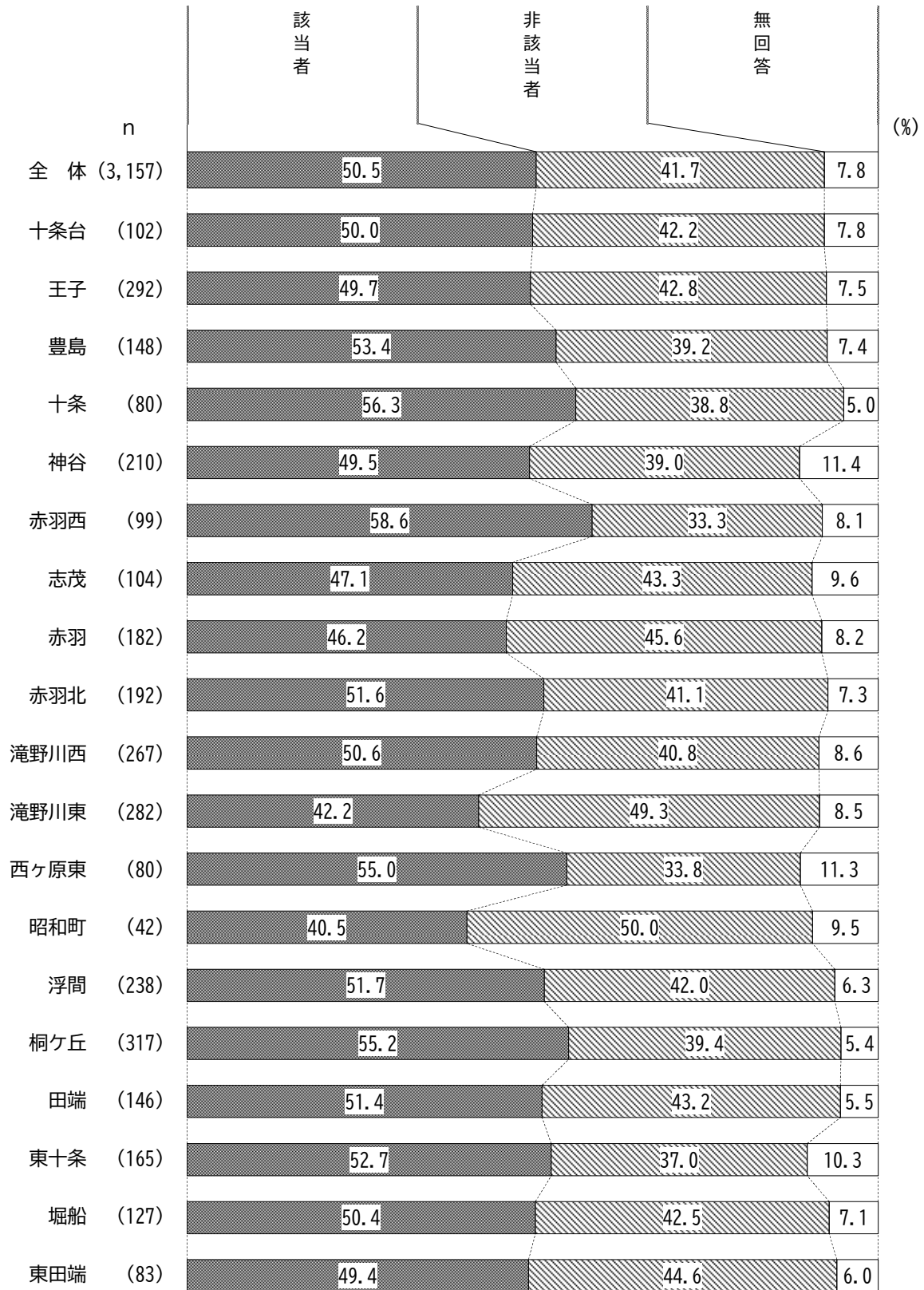
認定者調査を介護度別に見ると、介護度が重い層ほど「該当者」の割合が高く、要支援では61.8%、要介護では82.9%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査：居住地区別／知的能動性の低下〉

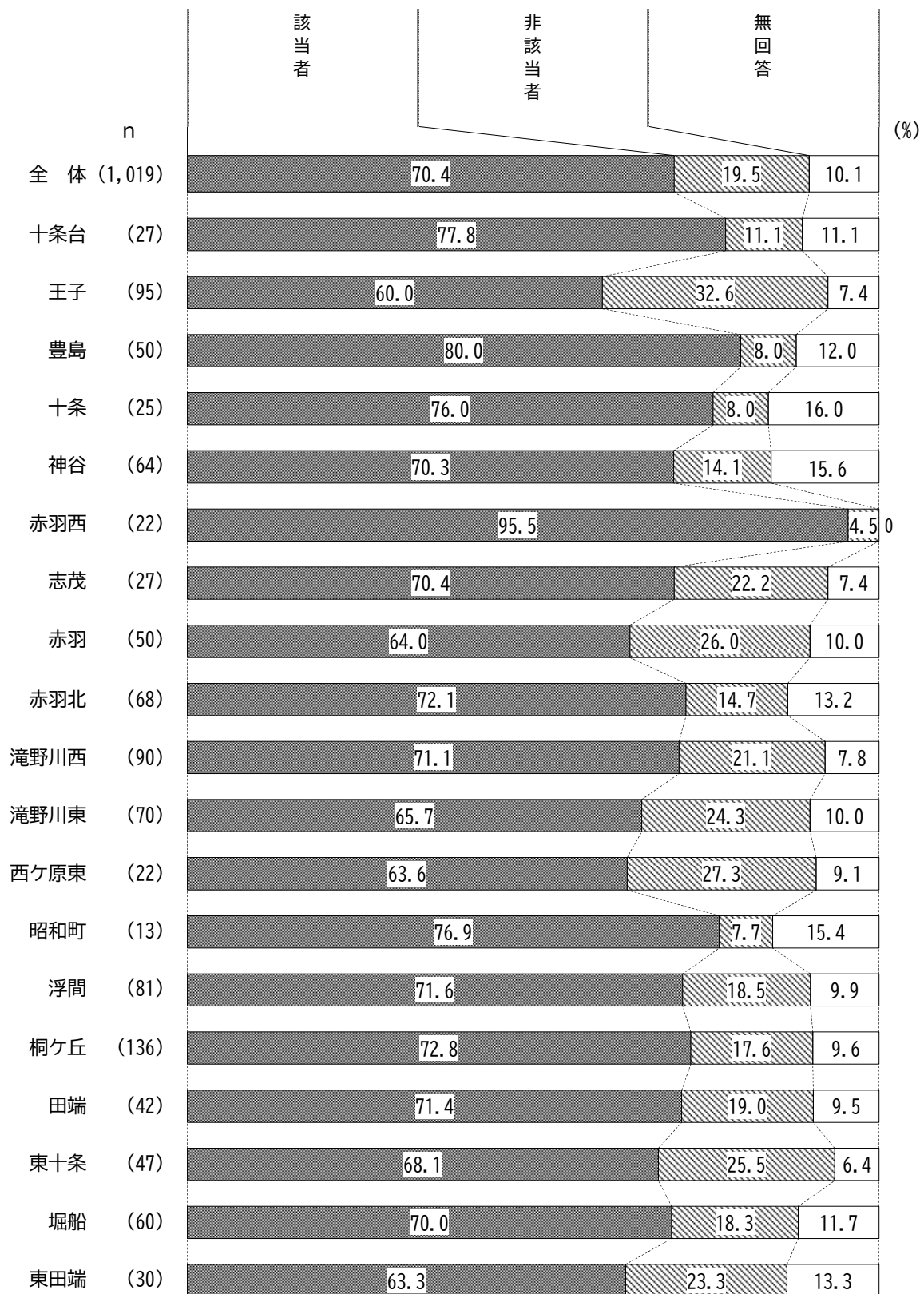
一般高齢者調査を居住地区別に見ると、「該当者」は、赤羽西で58.6%、十条で56.3%、桐ヶ丘で55.2%、西ヶ原東で55.0%の順で多くなっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：居住地区別／知的能動性の低下〉

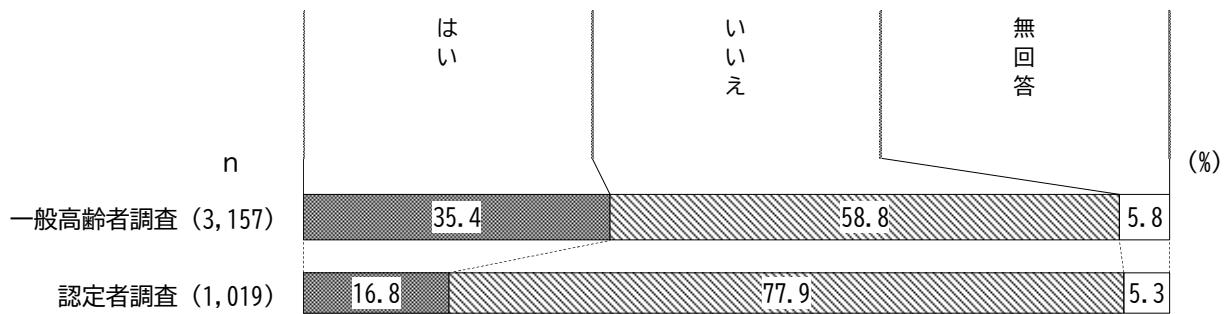
認定者調査を居住地区別に見ると、「該当者」は、赤羽西で95.5%と最も多くなっています。一方、王子は60.0%となっています。



(5) 友人宅の訪問

Q5. 友人の家を訪ねていますか。

「はい」（訪ねている）は、一般高齢者調査で35.4%、認定者調査で16.8%となっています。

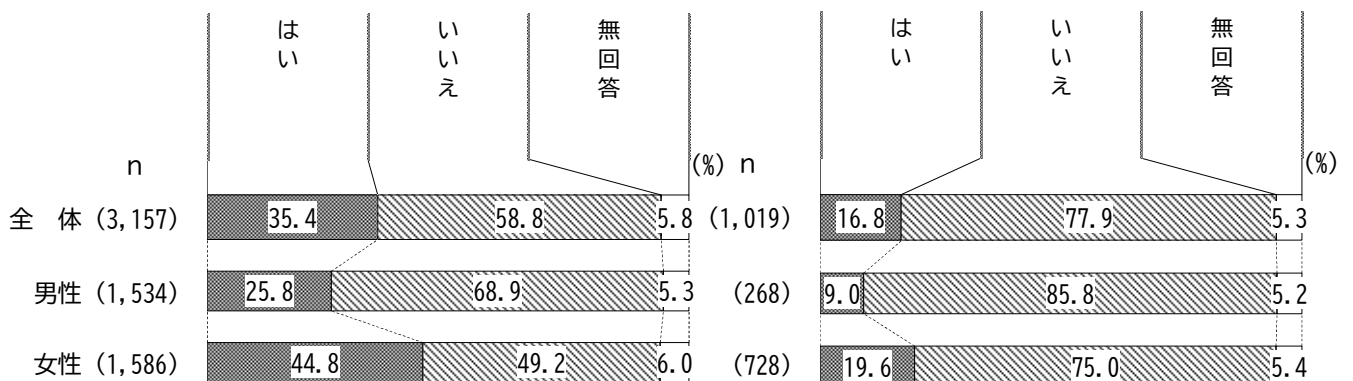


〈性別／友人宅の訪問〉

性別に見ると、いずれの調査も「はい」の割合は、女性が男性よりも多く、一般高齢者調査で19.0ポイント、認定者調査で10.6ポイントの差があります。

【一般高齢者調査】

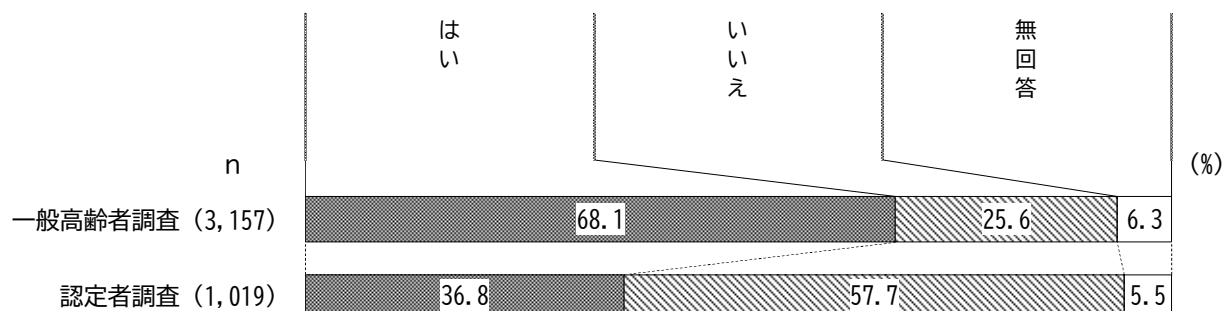
【認定者調査】



(6) 家族や友人からの相談

Q6. 家族や友人の相談にのっていますか。

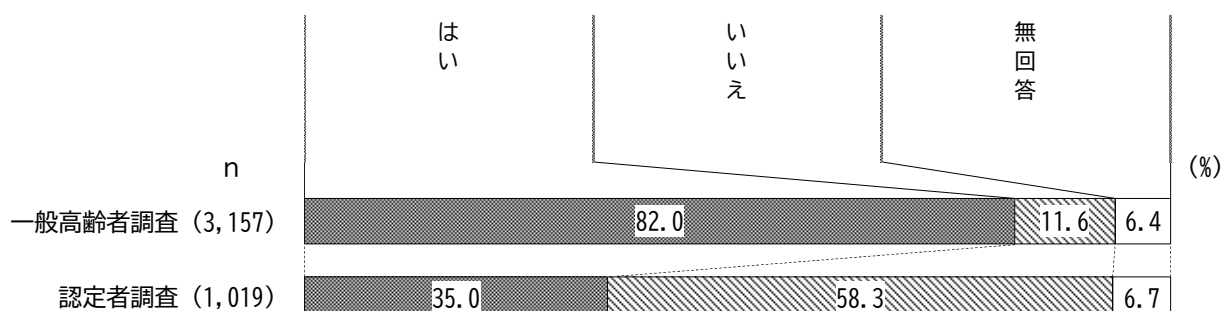
「はい」（相談にのっている）は、一般高齢者調査で68.1%、認定者調査で36.8%となっています。



(7) 病人への見舞い

Q7. 病人を見舞うことができますか。

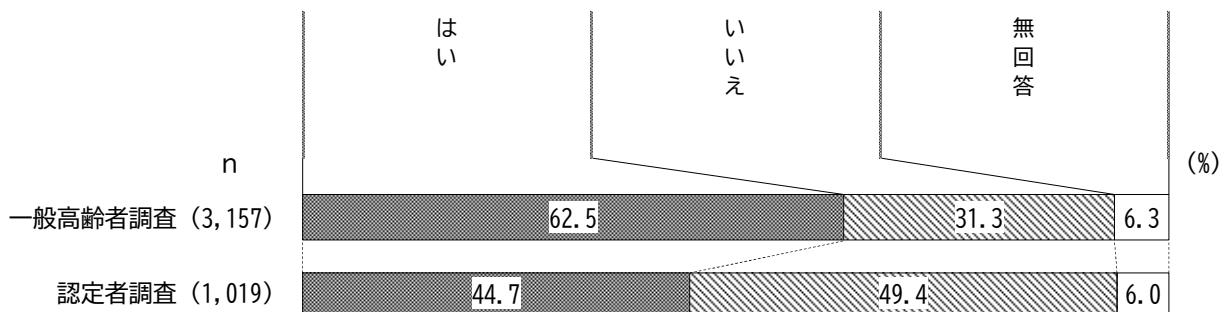
「はい」（見舞うことができる）は、一般高齢者調査で82.0%ですが、認定者調査では35.0%となっています。



(8) 若い人への話しかけ

Q8. 若い人に自分から話しかけることがありますか。

「はい」（話しかける）は、一般高齢者調査で62.5%ですが、認定者調査では44.7%で「いいえ」（49.4%）をやや下回っています。

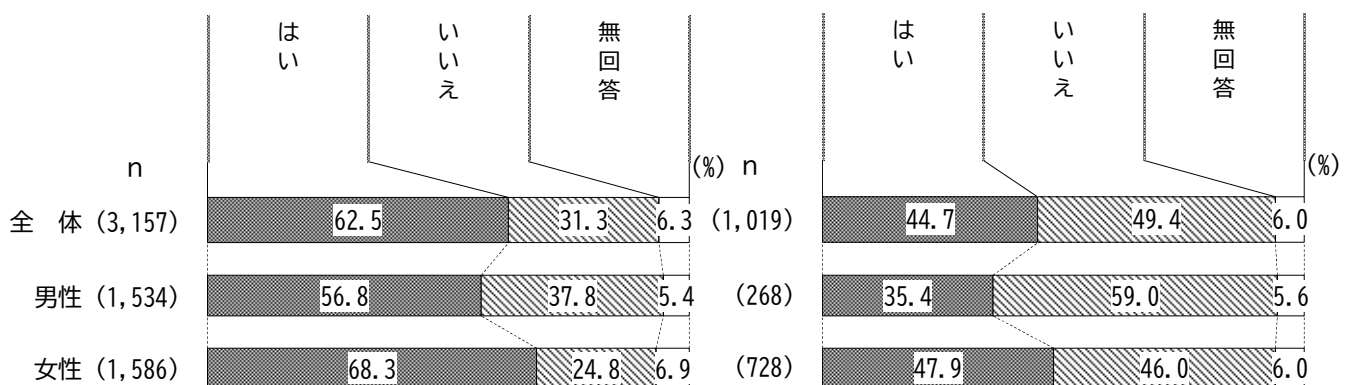


〈性別／若い人への話しかけ〉

性別に見ると、いずれの調査も「はい」（話しかける）の割合は、女性が男性よりも多く、一般高齢者調査で11.5ポイント、認定者調査で12.5ポイントの差があります。

【一般高齢者調査】

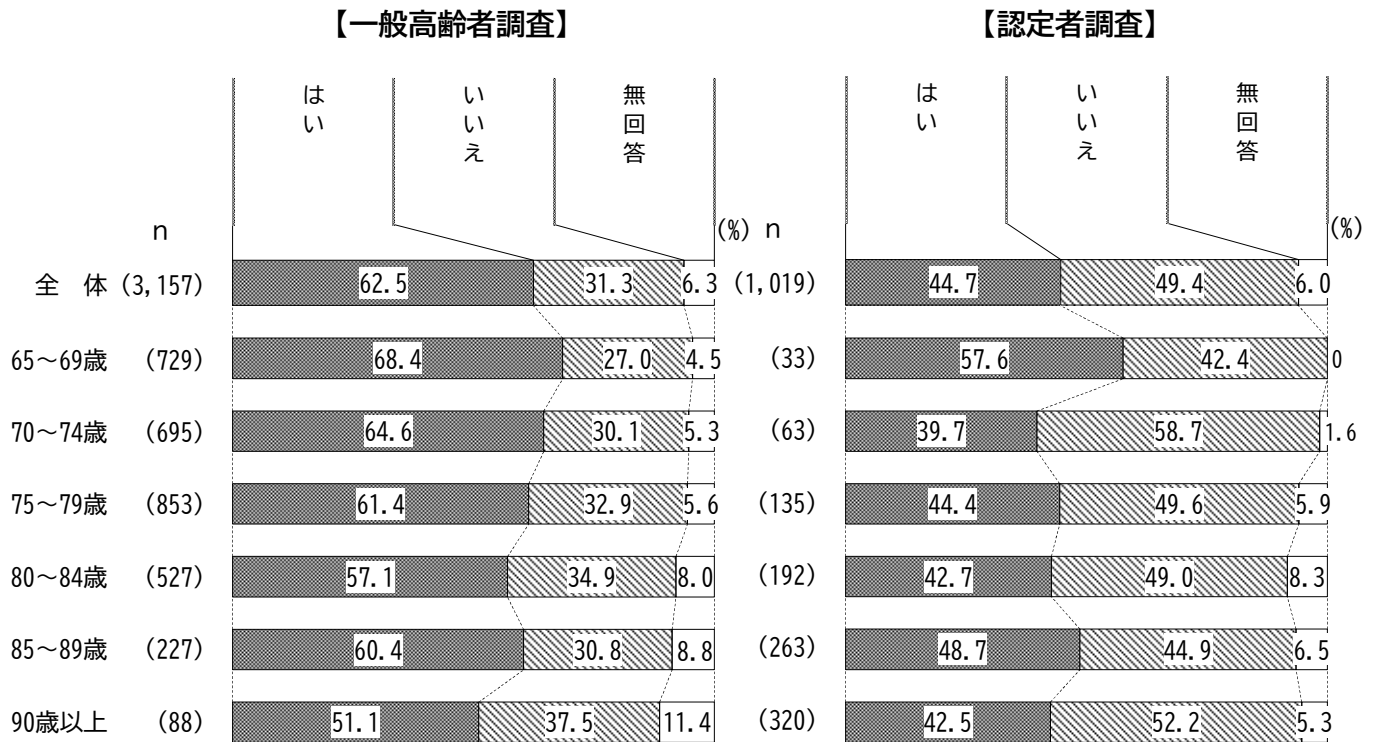
【認定者調査】



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈年齢別／若い人への話しかけ〉

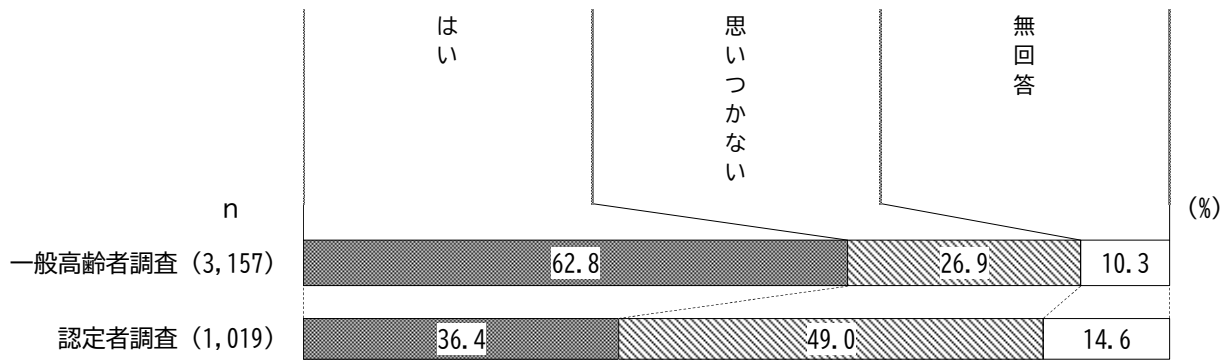
年齢別に見ると、一般高齢者調査では、低年齢層ほど「はい」（話しかける）の割合がおおむね高くなっています。認定者調査では、65～69歳と85～89歳で「はい」（話しかける）が「いいえ」を上回っています。



(9) 趣味の有無・内容

Q9. 趣味はありますか。ある方はカッコ内に具体的な内容をお書きください。

「はい」（趣味がある）は、一般高齢者調査で62.8%ですが、認定者調査では36.4%で「思いつかない」（49.0%）を下回っています。



〈趣味の内容／上位10項目〉

趣味の内容について見ると、一般高齢者調査では、「読書」が309件と最も多く、次いで「スポーツ（鑑賞含む）」が307件、「手芸・編み物」が203件、「旅行」が198件となっています。

認定者調査では、「手芸・編み物」が57件と最も多く、次いで「読書」が56件、「カラオケ、コーラス」が46件、「スポーツ（鑑賞含む）」が37件となっています。

一般高齢者		
項目	件数	
1	読書	309
2	スポーツ（鑑賞含む）	307
3	手芸・編み物	203
4	旅行	198
5	音楽鑑賞	159
6	散歩（ウォーキング含む）	145
7	美術（鑑賞、絵手紙等含む）	143
8	ゴルフ	140
9	園芸、ガーデニング、農作	138
10	映画鑑賞	107

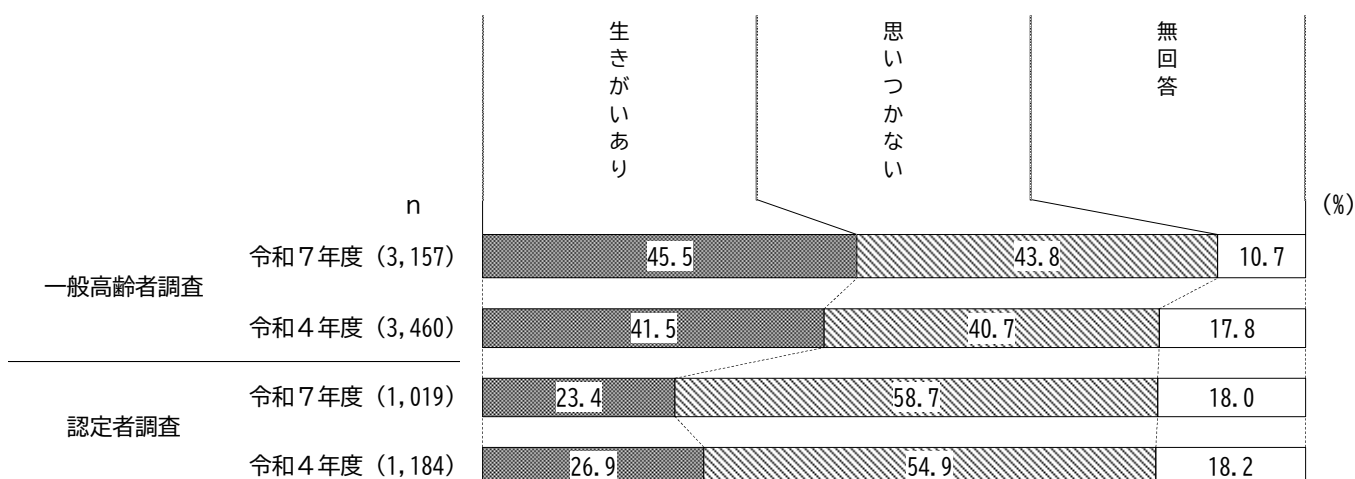
認定者調査		
項目	件数	
1	手芸・編み物	57
2	読書	56
3	カラオケ、コーラス	46
4	スポーツ（鑑賞含む）	37
5	音楽鑑賞	32
6	園芸、ガーデニング、農作	30
7	TV、ラジオ	27
8	美術（鑑賞、絵手紙等含む）	25
9	楽器演奏	17
10	ゲーム、パズル、脳トレ	16

(10) 生きがいの有無・内容

Q10. 生きがいはありますか。(○は1つ)

一般高齢者調査では、「生きがいあり」(45.5%)と「思いつかない」(43.8%)がほぼ同率で、認定者調査では、「生きがいあり」が23.4%と、「思いつかない」(58.7%)を下回っています。

令和4年度と比較すると、「生きがいあり」は一般高齢者調査では4.0ポイント増加しているものの、認定者調査では3.5ポイント減少しています。



〈生きがいの内容／上位10項目〉

生きがいの内容について見ると、一般高齢者調査では、「趣味・レジャー」が455件と最も多く、次いで「孫との交流」が293件、「家族との交流」が216件、「仕事」が182件となっています。

認定者調査では、「趣味・レジャー」が67件と最も多く、次いで「孫との交流」が44件、「家族との交流」が32件、「友人などとの交流」が29件となっています。

一般高齢者		
項目	件数	
1	趣味・レジャー	455
2	孫との交流	293
3	家族との交流	216
4	仕事	182
5	友人などとの交流	161
6	健康、元気	128
7	社会活動	77
8	楽しく穏やかな毎日	74
9	夢・目標にむかっの行動	53
10	ペット、動物	39

認定者調査		
項目	件数	
1	趣味・レジャー	67
2	孫との交流	44
3	家族との交流	32
4	友人などとの交流	29
5	楽しく穏やかな毎日	12
6	健康、元気	7
6	夢・目標にむかっの行動	7
8	宗教・信教	6
9	社会活動	5
10	仕事	4
10	配偶者	4
10	投資、ギャンブル	4

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(11) 地域活動への参加頻度

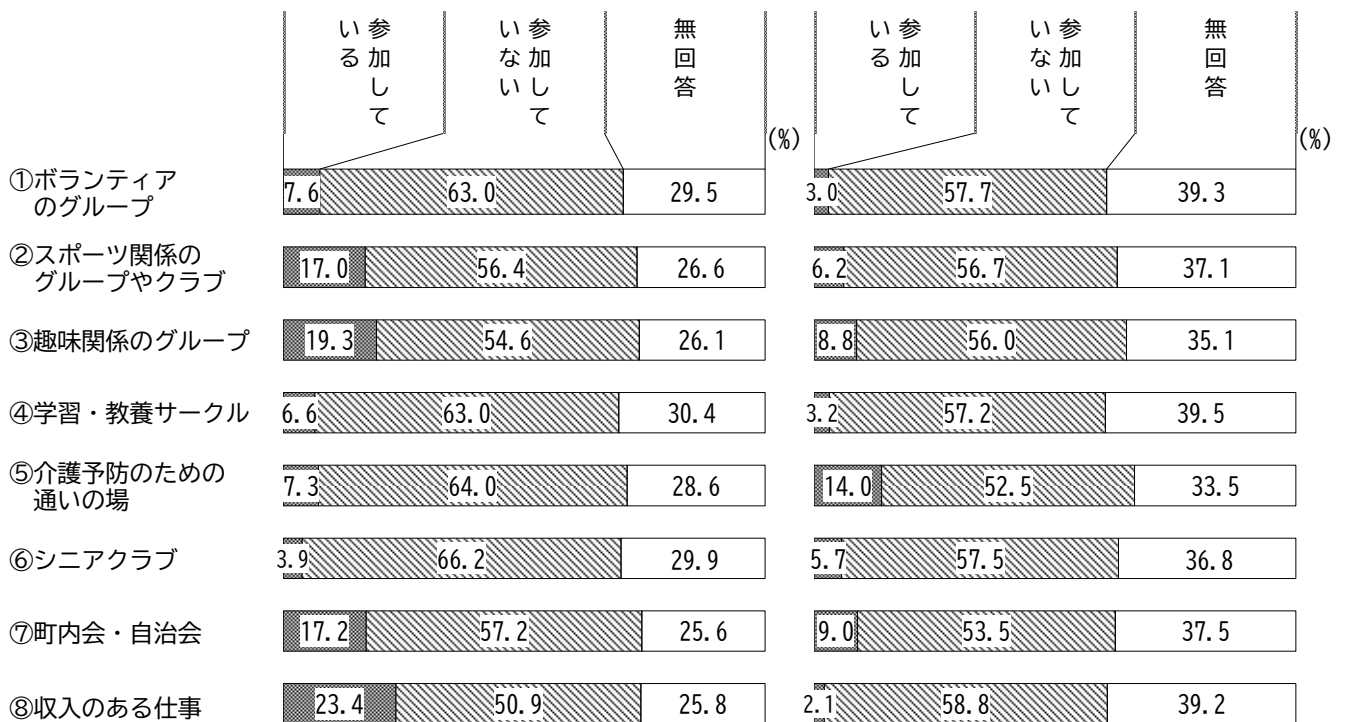
Q11. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

一般高齢者調査では、“収入のある仕事”への参加は2割を超え、“趣味関係のグループ”で2割弱となっています。

認定者調査では、“介護予防のための通いの場”への参加が1割を超えています。

【一般高齢者調査 (n=3,157)】

【認定者調査 (n=1,019)】



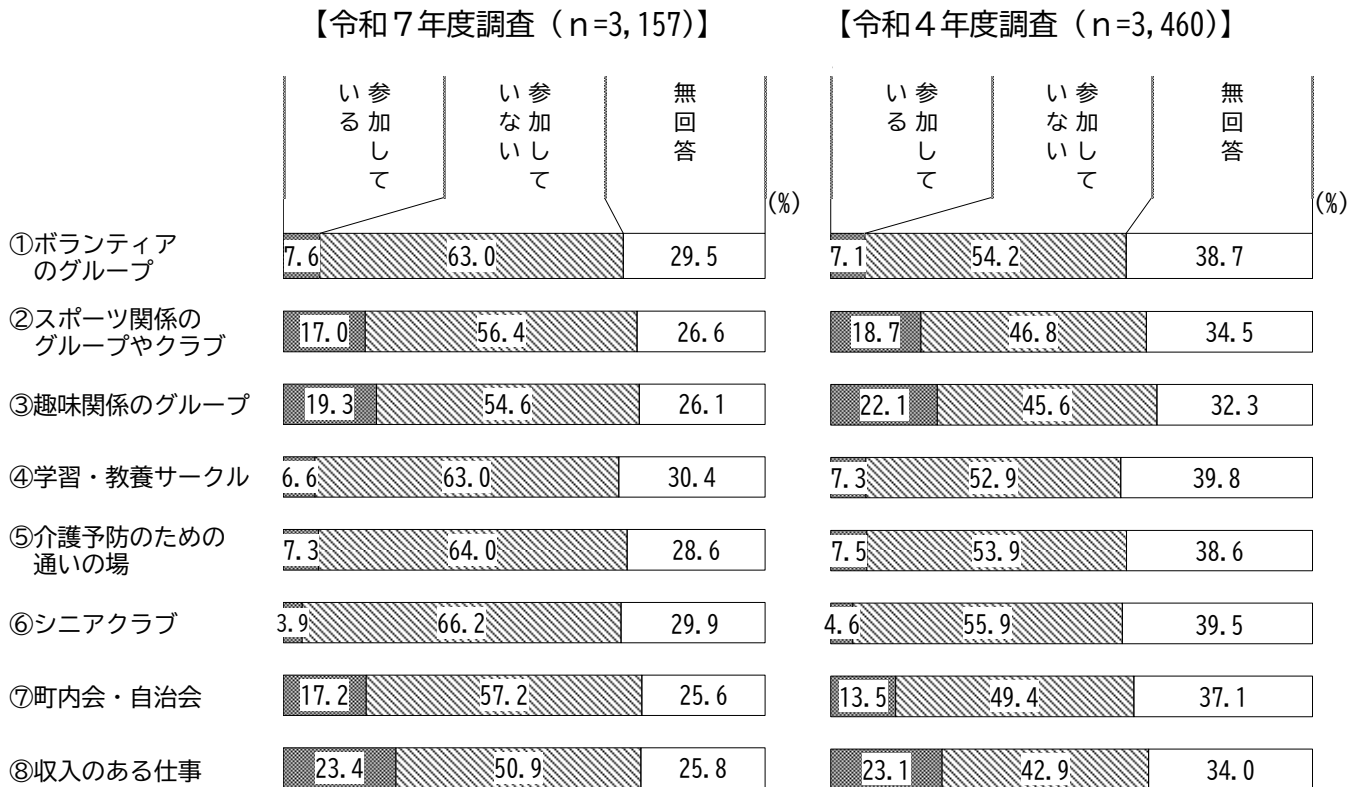
※下記表は、上記グラフ「参加している」の内訳（「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」）の割合を掲載したものです。

活動の種類	一般高齢者調査 (%)						認定者調査 (%)							
	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	い参加していない	無回答	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	い参加していない	無回答
①ボランティアのグループ	0.7	1.1	1.1	2.3	2.3	63.0	29.5	0.3	0.3	0.7	1.2	0.6	57.7	39.3
②スポーツ関係のグループやクラブ	3.0	5.3	4.0	3.0	1.7	56.4	26.6	1.1	1.9	1.9	1.1	0.3	56.7	37.1
③趣味関係のグループ	1.0	2.9	3.8	7.7	3.9	54.6	26.1	0.6	1.6	2.6	2.9	1.2	56.0	35.1
④学習・教養サークル	0.1	0.5	1.3	2.4	2.2	63.0	30.4	0.2	0.1	0.9	0.8	1.3	57.2	39.5
⑤介護予防のための通いの場	0.5	1.4	2.8	1.7	1.0	64.0	28.6	1.1	4.8	4.9	1.9	1.4	52.5	33.5
⑥シニアクラブ	0.1	0.5	1.0	1.3	1.0	66.2	29.9	0.7	0.6	1.5	1.5	1.5	57.5	36.8
⑦町内会・自治会	0.6	0.9	1.1	4.6	9.9	57.2	25.6	0.8	0.4	0.8	1.6	5.5	53.5	37.5
⑧収入のある仕事	13.9	6.0	0.8	1.5	1.3	50.9	25.8	0.9	0.2	0.1	0.5	0.4	58.8	39.2

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査／地域活動への参加頻度・経年比較〉

令和4年度と比較すると、“町内会・自治会”への参加は3.7ポイント増加しています。



※下記表は、上記グラフ「参加している」の内訳（「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」）の割合を掲載したものです。

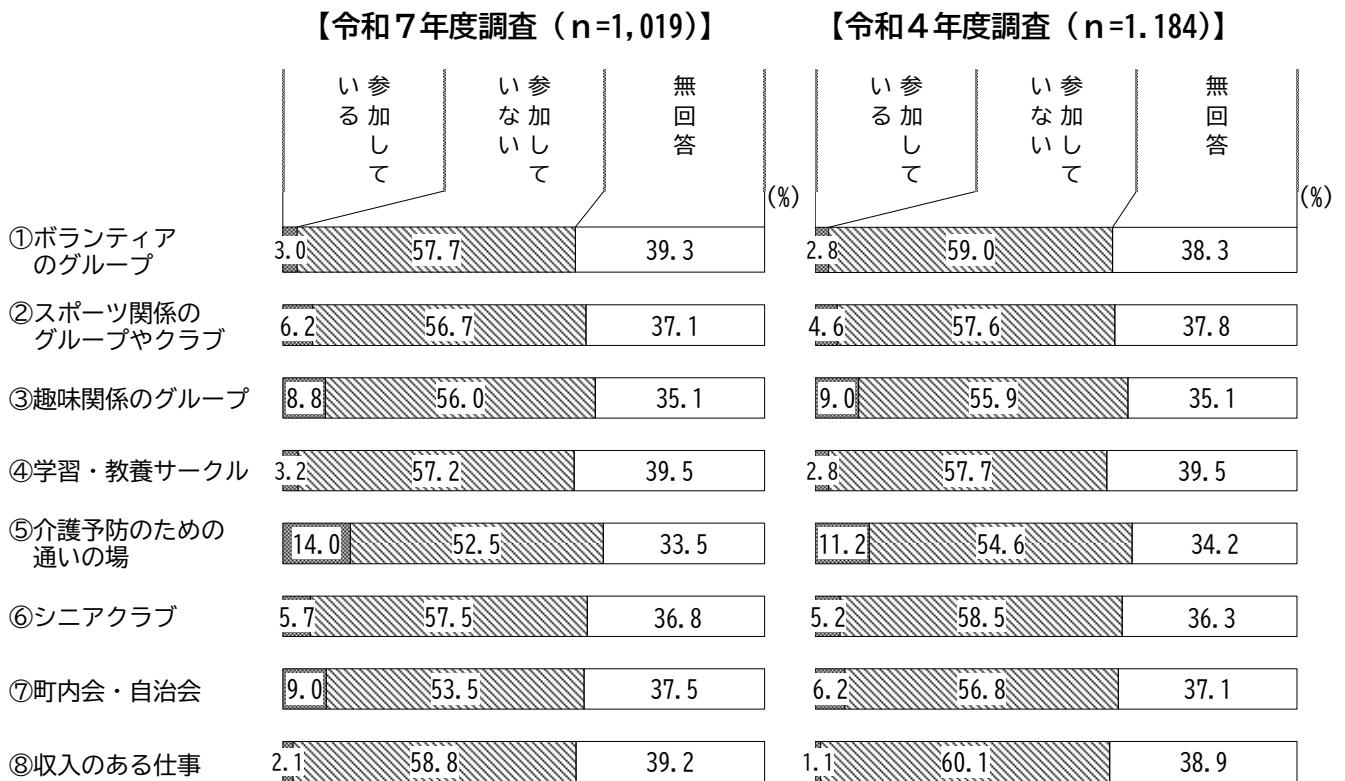
活動の種類	【令和7年度調査 (n=3,157)】 (%)						無回答 (%)
	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加して (%)	
①ボランティアのグループ	0.7	1.1	1.1	2.3	2.3	63.0	29.5
②スポーツ関係のグループやクラブ	3.0	5.3	4.0	3.0	1.7	56.4	26.6
③趣味関係のグループ	1.0	2.9	3.8	7.7	3.9	54.6	26.1
④学習・教養サークル	0.1	0.5	1.3	2.4	2.2	63.0	30.4
⑤介護予防のための通いの場	0.5	1.4	2.8	1.7	1.0	64.0	28.6
⑥シニアクラブ	0.1	0.5	1.0	1.3	1.0	66.2	29.9
⑦町内会・自治会	0.6	0.9	1.1	4.6	9.9	57.2	25.6
⑧収入のある仕事	13.9	6.0	0.8	1.5	1.3	50.9	25.8

活動の種類	【令和4年度調査 (n=3,460)】 (%)						無回答 (%)
	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加して (%)	
①ボランティアのグループ	0.3	1.0	1.2	2.4	2.2	54.2	38.7
②スポーツ関係のグループやクラブ	3.1	5.1	5.0	3.2	2.3	46.8	34.5
③趣味関係のグループ	1.6	2.8	4.7	8.6	4.5	45.6	32.3
④学習・教養サークル	0.1	0.5	1.4	2.6	2.6	52.9	39.8
⑤介護予防のための通いの場	0.9	1.4	2.4	2.1	0.8	53.9	38.6
⑥シニアクラブ	0.2	0.6	0.6	1.5	1.6	55.9	39.5
⑦町内会・自治会	0.4	0.5	1.2	4.2	7.2	49.4	37.1
⑧収入のある仕事	14.1	5.8	0.9	1.2	1.0	42.9	34.0

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査／地域活動への参加頻度・経年比較〉

令和4年度と比較すると、“介護予防のための通いの場”と“町内会・自治会”への参加は2.8ポイント増加しています。



※下記表は、上記グラフ「参加している」の内訳（「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」）の割合を掲載したものです。

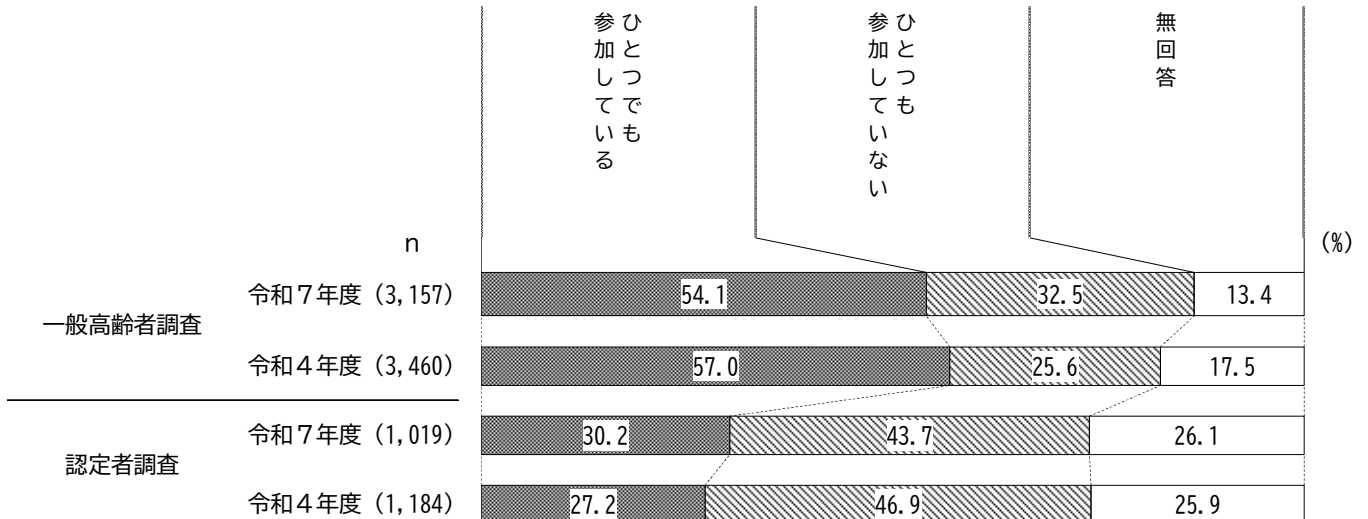
	【令和7年度調査 (n=1,019)】						無回答	(%)	【令和4年度調査 (n=1,184)】						無回答	(%)
	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	い参加して			週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	い参加して		
①ボランティアのグループ	0.3	0.3	0.7	1.2	0.6	57.7	39.3	0.1	0.6	0.8	0.8	0.6	59.0	38.3		
②スポーツ関係のグループやクラブ	1.1	1.9	1.9	1.1	0.3	56.7	37.1	0.5	1.0	1.7	0.6	0.8	57.6	37.8		
③趣味関係のグループ	0.6	1.6	2.6	2.9	1.2	56.0	35.1	0.7	1.4	2.1	2.6	2.1	55.9	35.1		
④学習・教養サークル	0.2	0.1	0.9	0.8	1.3	57.2	39.5	0.1	0.3	0.5	1.2	0.8	57.7	39.5		
⑤介護予防のための通いの場	1.1	4.8	4.9	1.9	1.4	52.5	33.5	1.4	2.6	4.6	1.6	1.0	54.6	34.2		
⑥シニアクラブ	0.7	0.6	1.5	1.5	1.5	57.5	36.8	0.6	0.8	0.9	1.6	1.3	58.5	36.3		
⑦町内会・自治会	0.8	0.4	0.8	1.6	5.5	53.5	37.5	0.2	0.7	0.3	1.5	3.5	56.8	37.1		
⑧収入のある仕事	0.9	0.2	0.1	0.5	0.4	58.8	39.2	0.6	0.3	0.0	0.0	0.2	60.1	38.9		

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈地域活動にひとつでも参加している方・経年比較〉

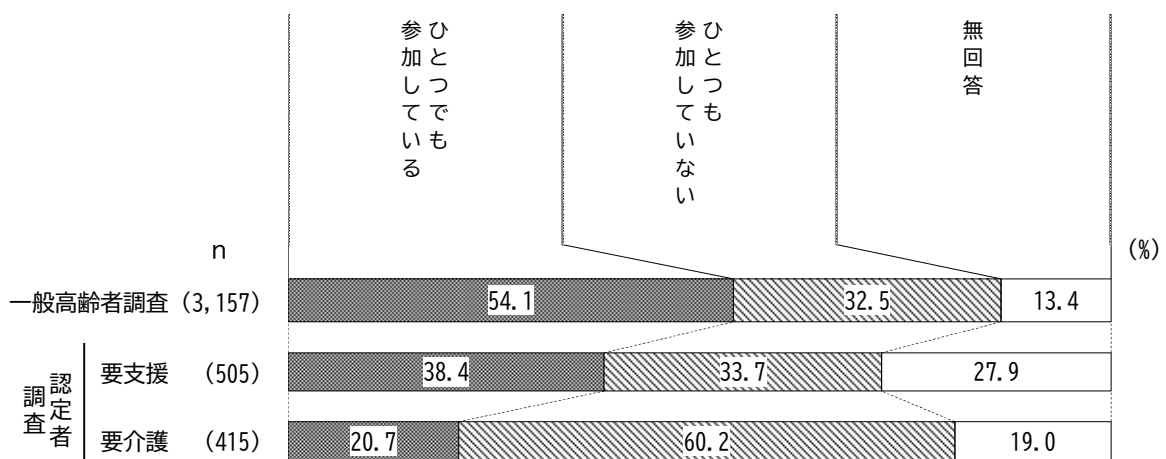
「ひとつでも参加している」は、一般高齢者調査で54.1%ですが、認定者調査では30.2%で「ひとつも参加していない」（43.7%）を大きく下回っています。

令和4年度と比較すると、「ひとつでも参加している」は認定者調査で3.0ポイント増加しています。



〈一般高齢者調査・要支援・要介護3区分別／地域活動にひとつでも参加している方〉

認定者調査を介護度別に見ると、介護度が低い層ほど「ひとつでも参加している」の割合が高く、要支援では38.4%、要介護では20.7%となっています。また、要介護では「ひとつでも参加していない」が60.2%と約6割を占めています。



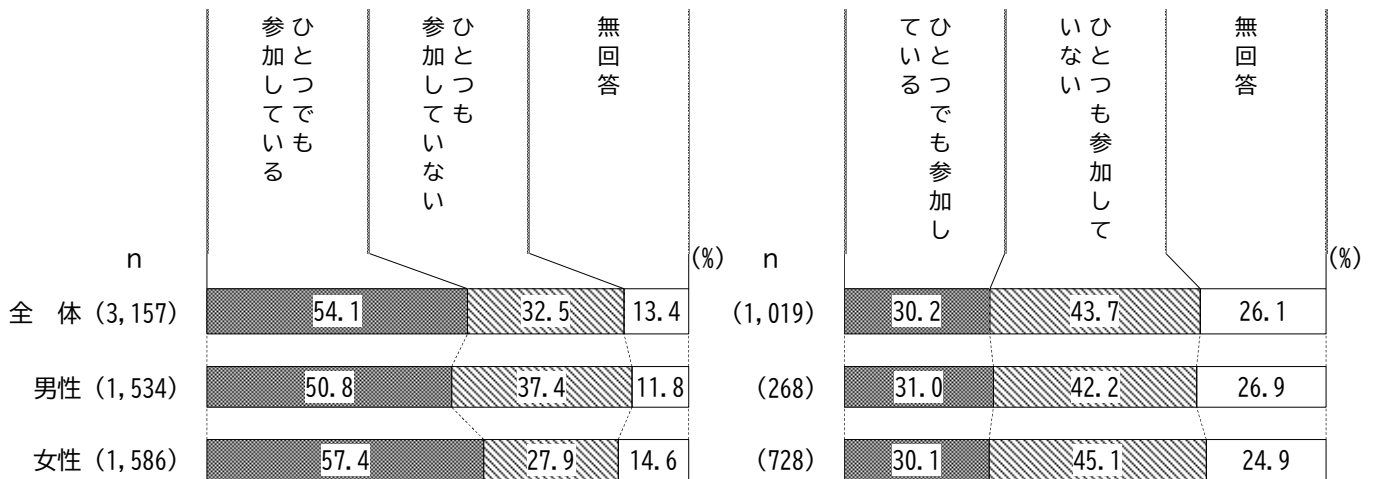
第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈性別／地域活動にひとつでも参加している方〉

性別に見ると、一般高齢者では「ひとつでも参加している」は女性の方が男性より6.6ポイント高くなっています。認定者調査では、特に大きな違いは見られません。

【一般高齢者調査】

【認定者調査】

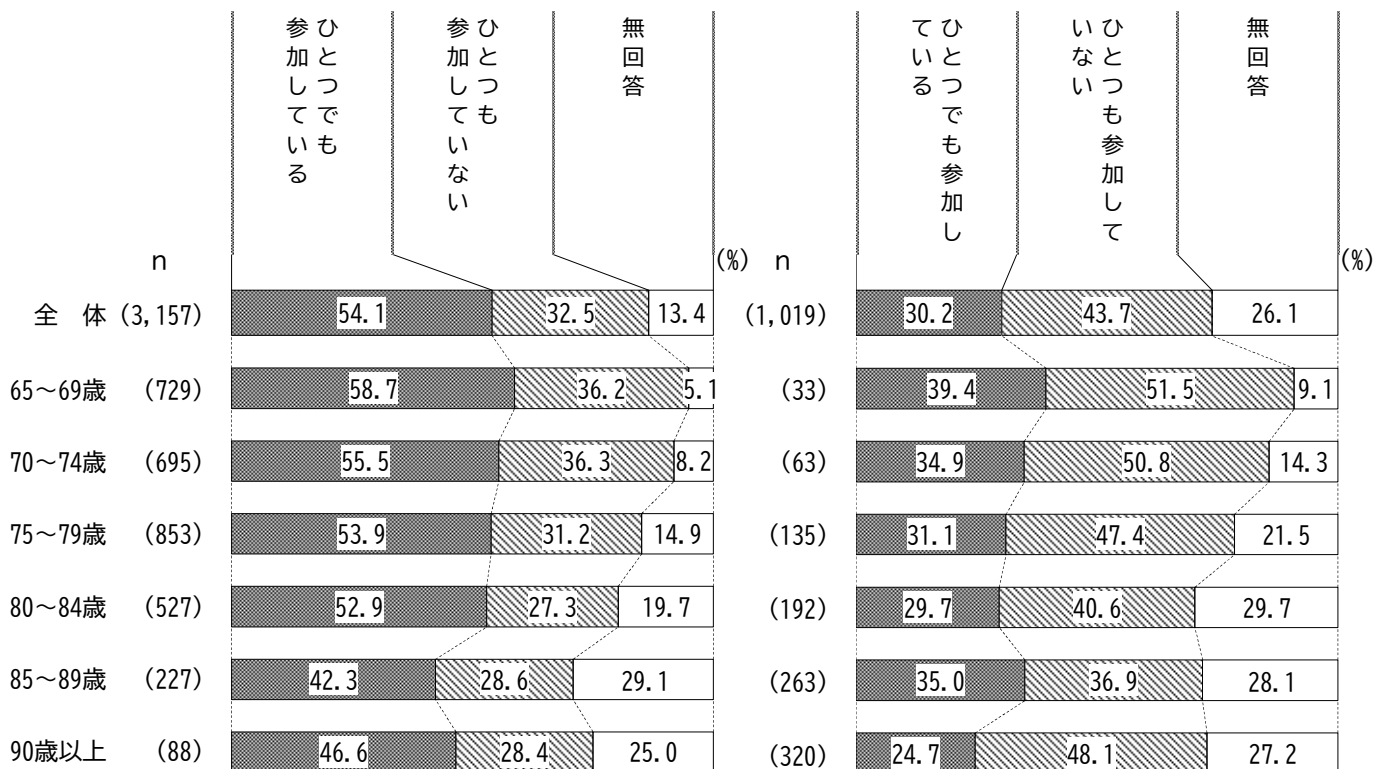


〈年齢別／地域活動にひとつでも参加している方〉

年齢別に見ると、一般高齢者調査・認定者調査ともに低年齢層ほど「ひとつでも参加している」の割合がおおむね高くなっています。また、認定者調査ではすべての年代で「ひとつでも参加している」の割合が半数以下となっています。

【一般高齢者調査】

【認定者調査】

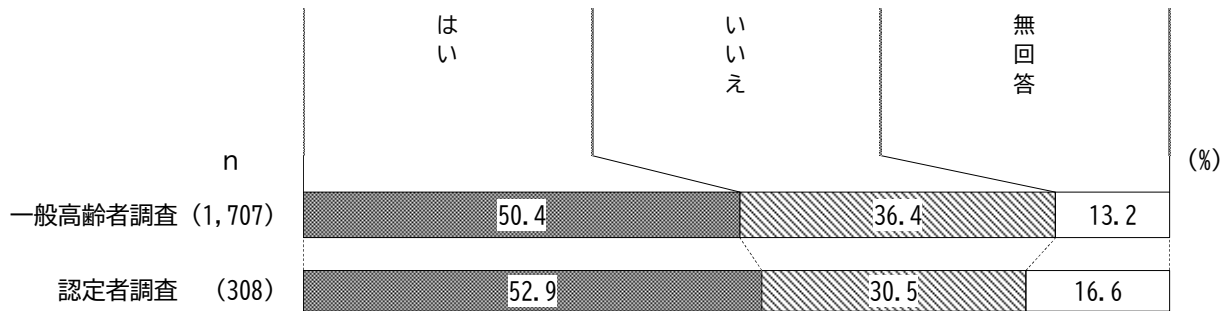


(12) 徒歩15分圏内の会・グループ

【Q11①～⑧で一つでも「1」～「5」に○をつけた方に伺います】

Q12. 参加活動の場所には、ご自宅から徒歩15分以内のものがありますか。

「はい」（ある）は、一般高齢者調査で50.4%、認定者調査で52.9%となっています。

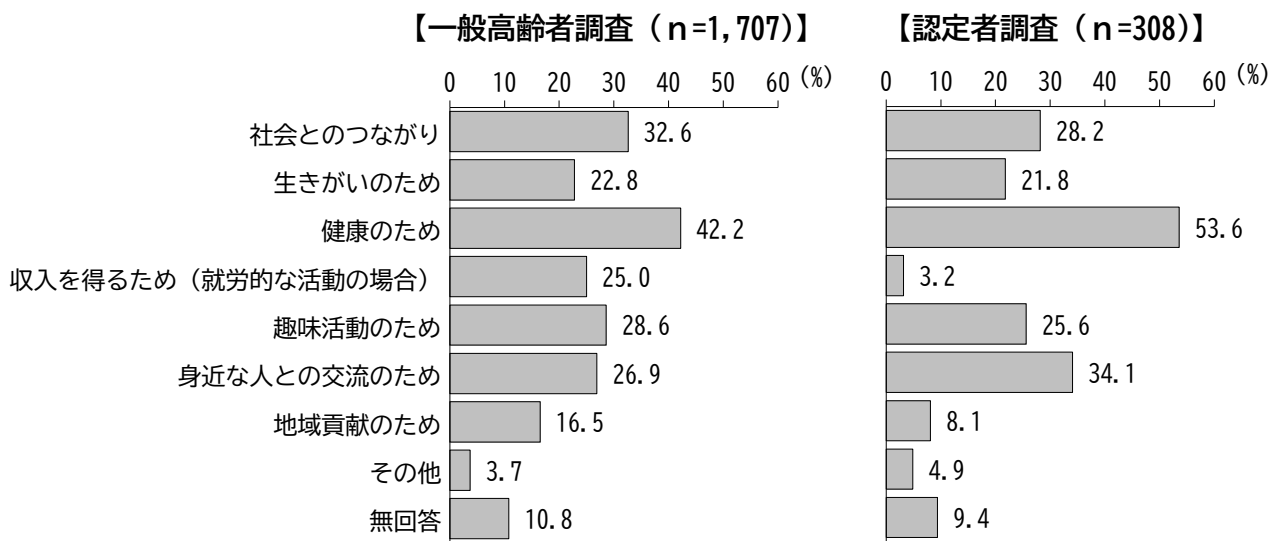


(13) 地域活動に参加する理由

【Q11①～⑧で一つでも「1」～「5」に○をつけた方に伺います】

Q13. 地域活動に参加されている理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

いずれの調査も「健康のため」が最も多く、一般高齢者調査では「社会とのつながり」、「趣味活動のため」、認定者調査では「身近な人との交流のため」、「社会とのつながり」がこれに続いています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：介護度別（要支援1・2のみ）／地域活動に参加する理由〉

介護度別（要支援1・2のみ）に見ると、“要支援1”“要支援2”ともに「健康のため」が最も多く、“要支援1”では「社会とのつながり」、「身近な人との交流のため」、「要支援2」では「身近な人との交流のため」が続いています。また、「身近な人との交流のため」と「生きがいのため」は“要支援2”の方が“要支援1”より約9～10ポイント高くなっています。

	回答者数	社会とのつながり	生きがいのため	健康のため	収入を得るため (就労的な活動の場合)	趣味活動のため	身近な人との交流のため	地域貢献のため	その他	無回答
認定者／全体	308	28.2	21.8	53.6	3.2	25.6	34.1	8.1	4.9	9.4
要支援1	126	28.6	19.0	55.6	4.0	24.6	28.6	9.5	5.6	7.1
要支援2	68	25.0	27.9	55.9	2.9	27.9	38.2	7.4	1.5	10.3

(%)

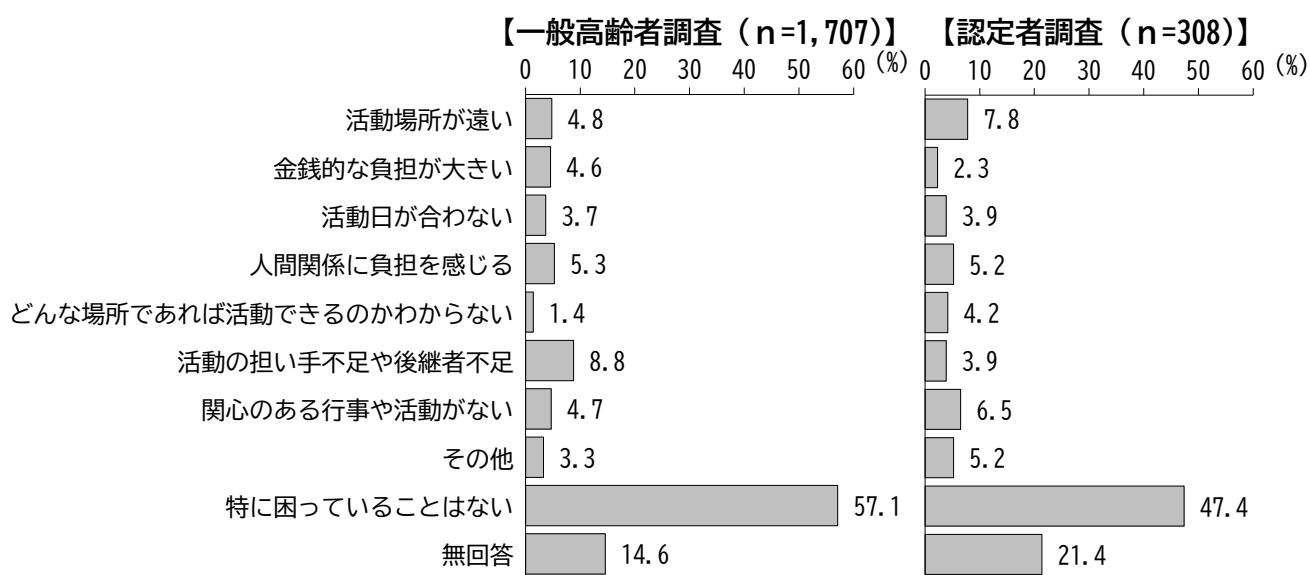
(14) 参加している地域活動での困りごと

【Q11①～⑧で一つでも「1」～「5」に○をつけた方に伺います】

Q14. 現在参加されている地域活動について、何か困っていることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

いずれの調査も「特に困っていることはない」が最も多くなっています。具体的な選択肢を見ると、一般高齢者調査では「活動の担い手不足や後継者不足」が8.8%、認定者調査では「活動場所が遠い」が7.8%が最も多くなっています。



〈認定者調査：性別×介護度別（要支援1・2のみ）／参加している地域活動での困りごと〉

性別×介護度別（要支援1・2のみ）に見ると、“男性／要支援1”以外では「活動場所が遠い」が最も多く、“男性／要支援1”では「人間関係に負担を感じる」が最も多くなっています。

(%)

	回答者数	活動場所が遠い	金銭的な負担が大きい	活動日が合わない	人間関係に負担を感じる	どんな場所であれば活動できるのかわからない	活動の担い手不足や後継者不足	関心のある行事や活動がない	その他	特に困っていることはない	無回答
認定者／全体	308	7.8	2.3	3.9	5.2	4.2	3.9	6.5	5.2	47.4	21.4
男性／要支援1	30	3.3	10.0	10.0	16.7	10.0	-	10.0	3.3	50.0	10.0
男性／要支援2	14	14.3	-	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	-	42.9	7.1
女性／要支援1	94	10.6	1.1	3.2	2.1	3.2	6.4	3.2	3.2	42.6	25.5
女性／要支援2	54	9.3	-	-	1.9	-	-	5.6	5.6	53.7	25.9

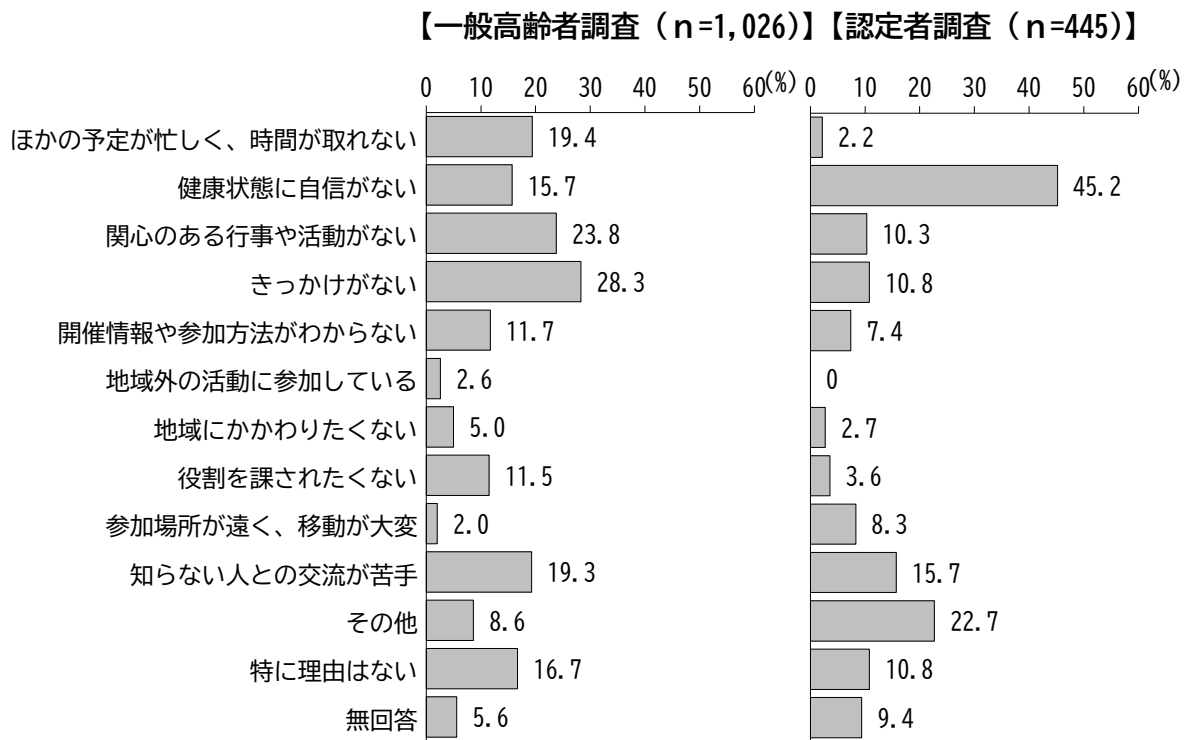
(15) 地域活動に参加しない理由

【Q11①～⑧ですべて「6」に○をつけた方に伺います】

Q15. 地域活動に参加されていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

一般高齢者調査では「きっかけがない」が28.3%と最も多く、次いで「関心のある行事や活動がない」が23.8%、「ほかの予定が忙しく、時間が取れない」が19.4%、「知らない人との交流が苦手」が19.3%となっています。

認定者調査では「健康状態に自信がない」が45.2%と最も多く、次いで「その他」(22.7%)を除くと、「知らない人との交流が苦手」が15.7%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：性別×介護度別（要支援1・2のみ）／地域活動に参加しない理由〉

性別×介護度別（要支援1・2のみ）に見ると、すべてで「健康状態に自信がない」が最も多く、次いで、“男性／要支援1”では「知らない人との交流が苦手」、「女性／要支援1”では「関心のある行事や活動がない」、「女性／要支援2”では「関心のある行事や活動がない」と「知らない人との交流が苦手」が同率となっています。

(%)

	回答者数	ほかの予定が忙しく、 時間が取れない	健康状態に自信がない	関心のある行事や 活動がない	きっかけがない	開催情報や参加方法が わからない	地域外の活動に参加 している	地域にかかわりたくない
認定者／全体	445	2.2	45.2	10.3	10.8	7.4	-	2.7
男性／要支援1	31	-	48.4	16.1	22.6	12.9	-	9.7
男性／要支援2	23	-	52.2	4.3	13.0	4.3	-	-
女性／要支援1	67	7.5	49.3	23.9	17.9	13.4	-	1.5
女性／要支援2	48	2.1	60.4	20.8	18.8	14.6	-	6.3

	回答者数	役割を課されたくない	参加場所が遠く、 移動が大変	知らない人との交流が 苦手	その他	特に理由はない	無回答
認定者／全体	445	3.6	8.3	15.7	22.7	10.8	9.4
男性／要支援1	31	6.5	9.7	29.0	3.2	16.1	6.5
男性／要支援2	23	4.3	8.7	13.0	21.7	17.4	4.3
女性／要支援1	67	9.0	9.0	16.4	10.4	14.9	6.0
女性／要支援2	48	4.2	14.6	20.8	10.4	6.3	10.4

(16) 地域活動に参加しやすくなるために必要な要素

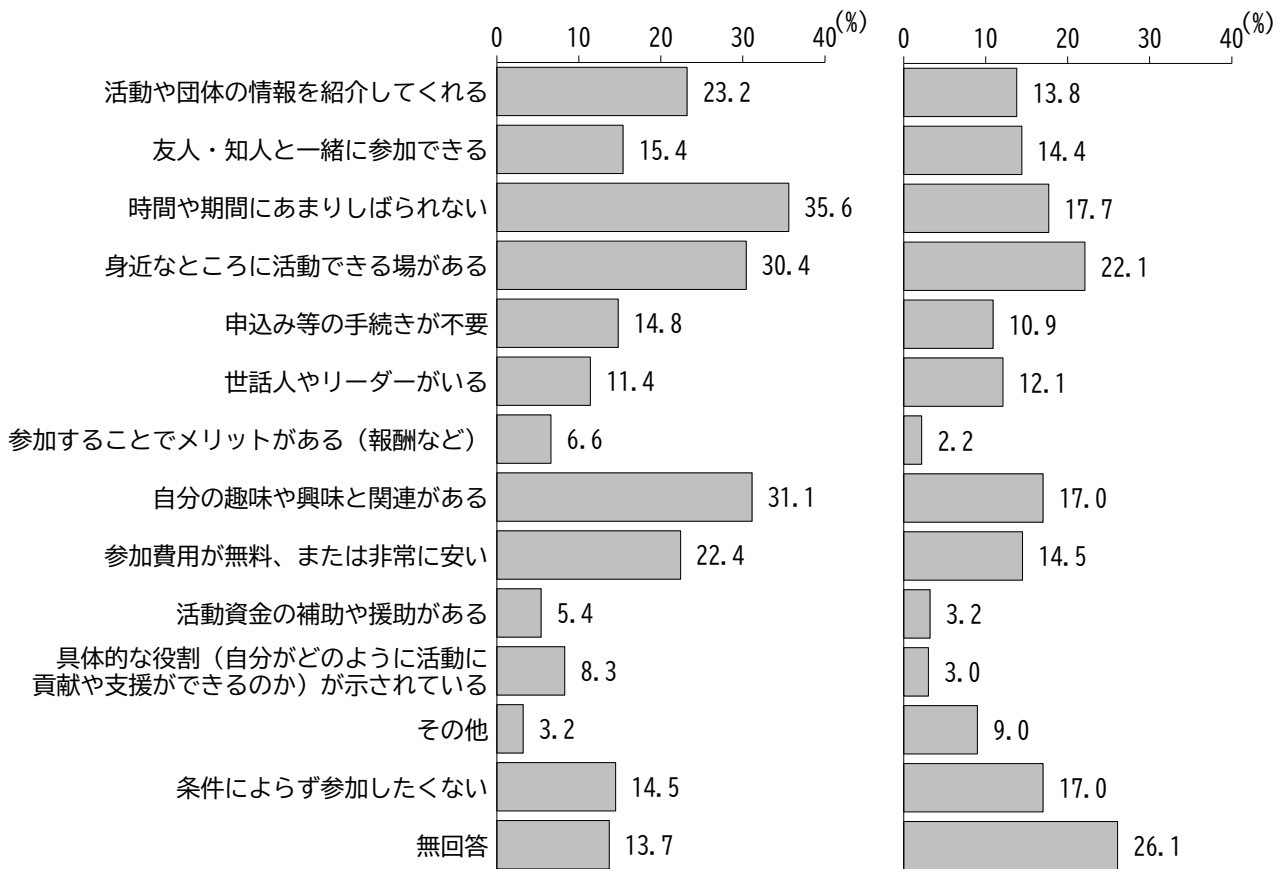
【すべての人に伺います】

Q16. あなたが地域活動に参加しやすくなるためには、どんな要素があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

一般高齢者調査では「時間や期間にあまりしぼられない」が35.6%と最も多く、次いで「自分の趣味や興味と関連がある」が31.1%、「身近なところに活動できる場がある」が30.4%となっています。一方、「条件によらず参加したくない」は14.5%となっています。

認定者調査では「身近なところに活動できる場がある」が22.1%と最も多く、次いで「時間や期間にあまりしぼられない」が17.7%、「自分の趣味や興味と関連がある」が17.0%となっています。一方、「条件によらず参加したくない」は17.0%となっています。

【一般高齢者調査（n=3,157）】 【認定者調査（n=1,019）】



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：性別×介護度別（要支援1・2のみ）／地域活動に参加しやすくなるために必要な要素〉

性別×介護度別（要支援1・2のみ）に見ると、“男性／要支援1”では「条件によらず参加したくない」、「男性／要支援2」では「時間や期間にあまりしぼられない」、「女性／要支援1」と“女性／要支援2”では「身近なところに活動できる場がある」が最も多くなっています。

		(%)						
	回答者数	活動や団体の情報を紹介してくれる	友人・知人と一緒に参加できる	時間や期間にあまりしぼられない	身近なところに活動できる場がある	申込み等の手続きが不要	世話人やリーダーがいる	参加することでメリットがある（報酬など）
認定者／全体	1,019	13.8	14.4	17.7	22.1	10.9	12.1	2.2
男性／要支援1	82	18.3	13.4	20.7	18.3	6.1	9.8	2.4
男性／要支援2	54	14.8	3.7	25.9	18.5	16.7	11.1	3.7
女性／要支援1	225	14.7	19.1	20.9	28.0	9.3	9.8	1.3
女性／要支援2	138	18.1	16.7	18.8	25.4	10.9	18.1	2.2

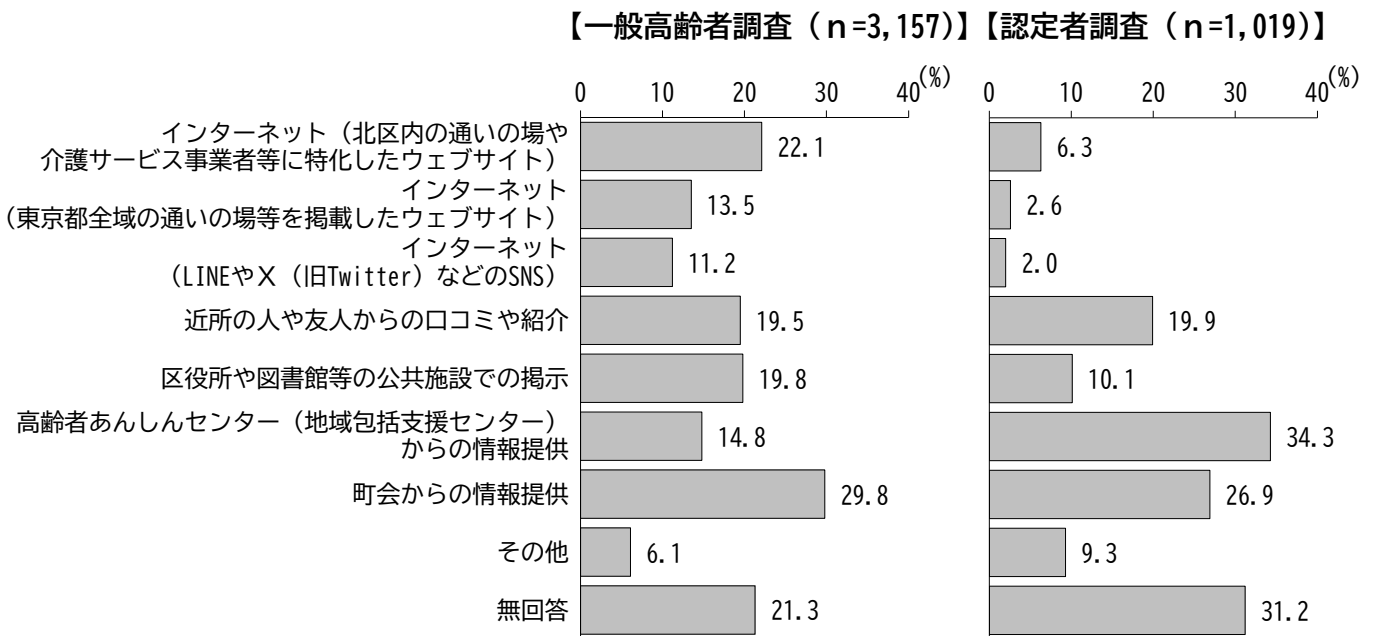
	回答者数	自分の趣味や興味と関連がある	参加費用が無料、または非常に安い	活動資金の補助や援助がある	具体的な役割（自分がどのように活動に貢献や支援ができるのか）が示されている	その他	条件によらず参加したくない	無回答
認定者／全体	1,019	17.0	14.5	3.2	3.0	9.0	17.0	26.1
男性／要支援1	82	17.1	17.1	3.7	4.9	7.3	28.0	17.1
男性／要支援2	54	20.4	11.1	7.4	1.9	7.4	13.0	25.9
女性／要支援1	225	18.7	15.1	3.6	3.1	6.2	11.1	28.4
女性／要支援2	138	16.7	18.8	2.9	4.3	6.5	15.9	28.3

(17) 地域活動の情報を得やすい手段

Q17. 地域活動の情報について、どのような手段であれば、情報を得やすいと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)

一般高齢者調査では「町会からの情報提供」が29.8%と最も多く、次いで「インターネット（北区内の通いの場や介護サービス事業者等に特化したウェブサイト）」が22.1%、「区役所や図書館等の公共施設での掲示」が19.8%、「近所の人や友人からの口コミや紹介」が19.5%となっています。

認定者調査では「高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）からの情報提供」が34.3%と最も多く、次いで「町会からの情報提供」が26.9%、「近所の人や友人からの口コミや紹介」が19.9%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査：年齢別（4区分）／地域活動の情報を得やすい手段〉

一般高齢者調査を年齢別に見ると、低年齢層ほど「インターネット」の3項目、「区役所や図書館等の公共施設での掲示」の割合が高く、高年齢層ほど「近所の人や友人からの口コミや紹介」、「高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）からの情報提供」、「町会からの情報提供」の割合が高くなっています。

	回答者数	インターネット（北区内の通いの場） （インターネット（東京都全域の通いの場）を掲載したウェブサイトを）	インターネット（LINEやSNS） （旧Twitter）	近所の人や友人からの口コミ	区役所や図書館等の公共施設での掲示	高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）からの情報提供	町会からの情報提供	その他	無回答	
一般／全体	3,157	22.1	13.5	11.2	19.5	19.8	14.8	29.8	6.1	21.3
60代	729	39.6	25.2	20.9	16.6	20.4	12.9	25.7	7.7	8.1
70代	1,548	21.4	13.6	10.3	18.9	20.9	13.8	30.3	5.9	21.9
80代	754	9.0	3.6	4.9	22.7	17.2	18.0	32.6	4.5	30.9
90代以上	88	6.8	2.3	1.1	25.0	13.6	23.9	36.4	5.7	34.1

〈認定者調査：年齢別（4区分）／地域活動の情報を得やすい手段〉

認定者調査を年齢別に見ると、低年齢層ほど「インターネット」の3項目、「区役所や図書館等の公共施設での掲示」の割合が高く、高年齢層ほど「近所の人や友人からの口コミや紹介」の割合がおおむね高くなっています。

	回答者数	インターネット（北区内の通いの場） （インターネット（東京都全体の通いの場）を掲載したウェブサイトを）	インターネット（LINEやSNS） （旧Twitter）	近所の人や友人からの口コミ	区役所や図書館等の公共施設での掲示	高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）からの情報提供	町会からの情報提供	その他	無回答	
認定者／全体	1,019	6.3	2.6	2.0	19.9	10.1	34.3	26.9	9.3	31.2
60代	33	21.2	21.2	15.2	15.2	18.2	30.3	24.2	12.1	9.1
70代	198	13.6	5.1	4.0	20.2	13.6	38.9	27.3	8.6	25.8
80代	455	4.2	1.1	0.9	22.2	10.3	33.2	25.9	8.1	34.3
90代以上	320	3.1	1.6	0.9	17.8	6.6	34.1	28.8	11.6	30.9

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：介護度別（要支援1・2のみ）／地域活動の情報を得やすい手段〉

要介護度別（要支援1・2のみ）に見ると、大きな違いは見られません。

	回答者数	インターネット（北区内の通いの場や介護サービス事業者等に特化したウェブサイトを）	インターネット（東京都全体の通いの場を掲載したウェブサイトを）	インターネット（LINEやSNS（旧Twitter）などのSNS）	近所の人や友人からの口コミ	区役所や図書館等の公共施設での掲示	高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）からの情報提供	町会からの情報提供	その他	無回答
認定者／全体	1,019	6.3	2.6	2.0	19.9	10.1	34.3	26.9	9.3	31.2
要支援1	312	5.8	2.9	2.6	20.8	11.5	35.3	26.9	9.0	30.8
要支援2	193	8.3	3.1	2.6	22.3	13.5	37.8	26.4	6.7	28.5

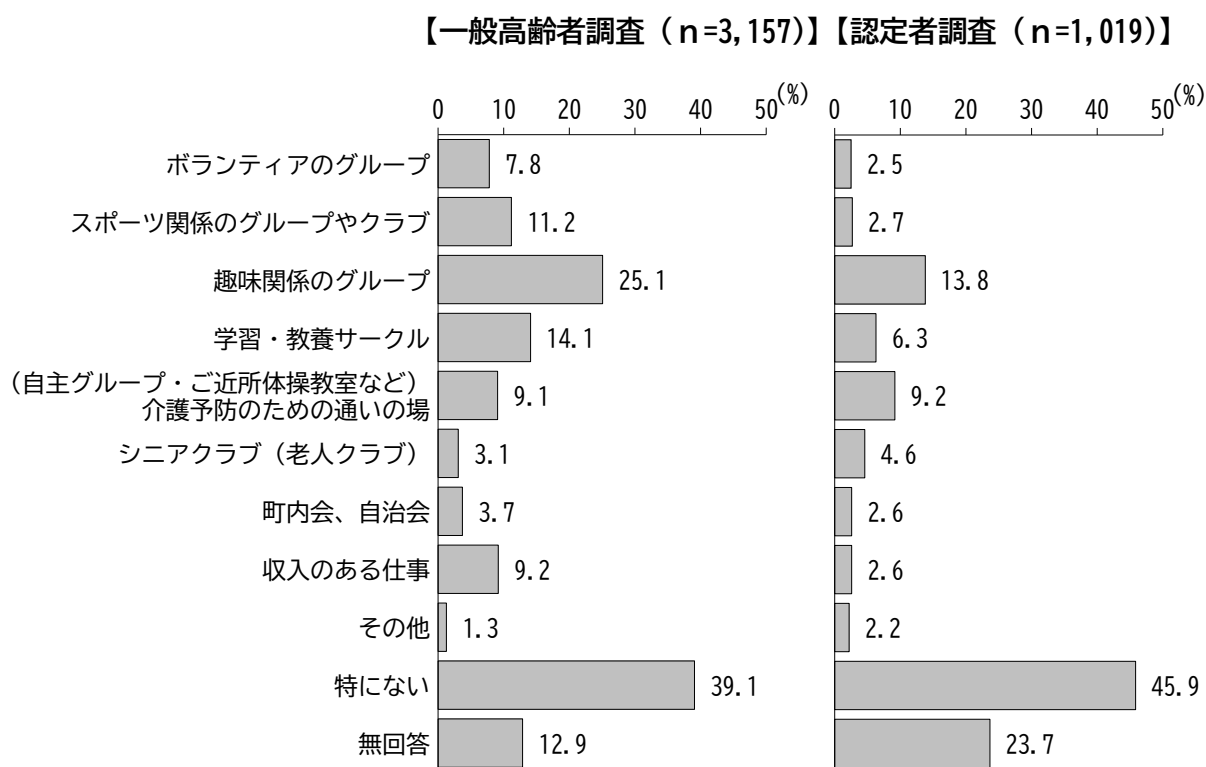
(%)

(18) 未参加の地域活動の中で参加したいもの

Q18. まだ参加していない地域活動の中で、どのような活動に参加してみたいですか。
 (あてはまるものすべてに○)

一般高齢者調査では「趣味関係のグループ」が25.1%と最も多く、次いで「学習・教養サークル」が14.1%、「スポーツ関係のグループやクラブ」が11.2%となっています。一方、「特にない」は39.1%となっています。

認定者調査でも「趣味関係のグループ」が13.8%と最も多く、次いで「(自主グループ・ご近所体操教室など) 介護予防のための通いの場」が9.2%、「学習・教養サークル」が6.3%となっています。一方、「特にない」は45.9%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：介護度別（要支援1・2のみ）／未参加の地域活動の中で参加したいもの〉

介護度別（要支援1・2のみ）に見ると、「特にない」は“要支援1”で43.3%と“要支援2”より4.4ポイント高くなっています。

													(%)
	回答者数	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	（自主グループ・ご近所体操教室など） 介護予防のための通いの場	シニアクラブ （老人クラブ）	町内会、自治会	収入のある仕事	その他	特にない	無回答	
認定者／全体	1,019	2.5	2.7	13.8	6.3	9.2	4.6	2.6	2.6	2.2	45.9	23.7	
要支援1	312	4.2	3.5	16.7	8.3	10.3	5.8	2.2	2.6	2.2	43.3	20.8	
要支援2	193	1.6	3.6	17.1	8.8	10.9	4.1	4.7	4.1	1.0	38.9	24.9	

(19) 地域づくりの参加意向

Q19. 地域住民の有志による活動（健康づくりや趣味等）を行い、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加してみたいと思いますか。（それぞれ○は1つ）

〈①参加者として〉

一般高齢者調査では、「参加しても良い」が43.7%と最も多く、「参加したくない」が32.6%、「既に参加している」が3.8%、「是非参加したい」が3.2%となっています。

認定者調査では、「参加したくない」が38.2%と最も多く、「参加しても良い」が25.5%、「是非参加したい」と「既に参加している」が3.5%となっています。

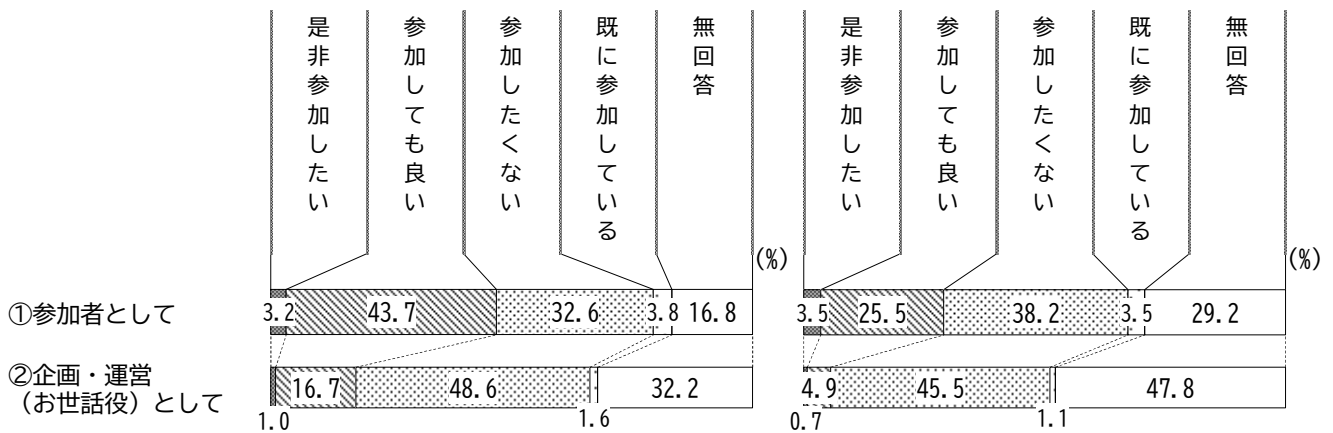
〈②企画・運営（お世話役）として〉

一般高齢者調査では、「参加したくない」が48.6%と最も多く、「参加しても良い」が16.7%、「既に参加している」が1.6%、「是非参加したい」が1.0%となっています。

認定者調査では、「参加したくない」が45.5%と最も多く、「参加しても良い」が4.9%、「既に参加している」が1.1%、「是非参加したい」が0.7%となっています。

【一般高齢者調査（n=3,157）】

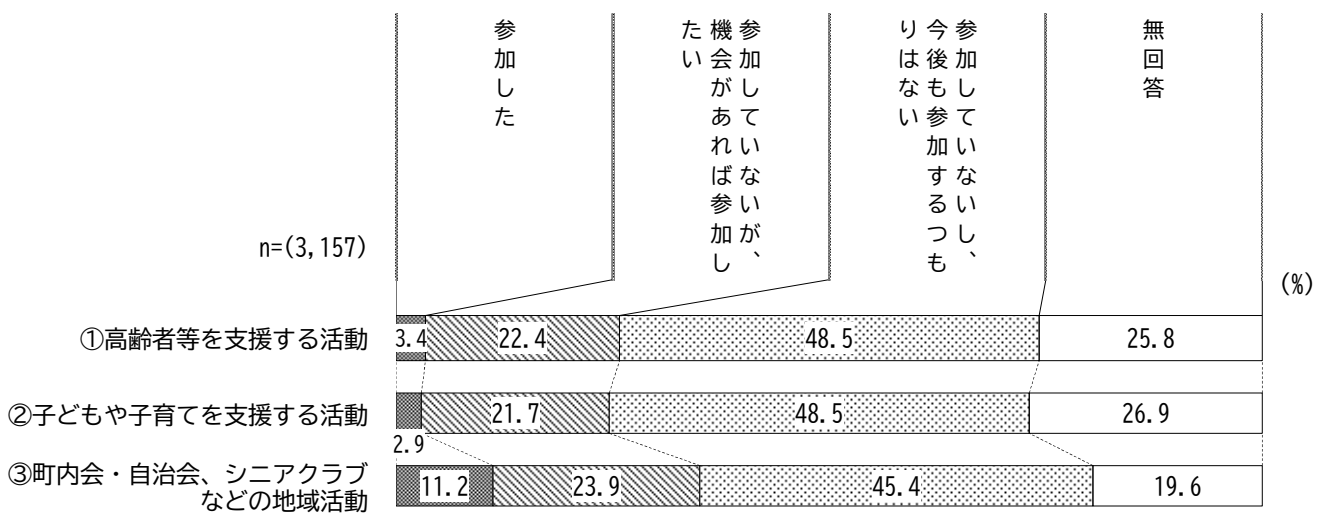
【認定者調査（n=1,019）】



(20) 地域活動への参加経験

☐Q20. この1年間に以下のような活動に参加しましたか。(それぞれ○は1つ)

一般高齢者調査では、「参加した」という回答は、“町会・自治会、シニアクラブなどの地域活動”が11.2%と最も多く、“高齢者等を支援する活動”が3.4%、“子どもや子育てを支援する活動”が2.9%となっています。「参加していないが機会があれば参加したい」という回答は、どの活動も2割台になっています。



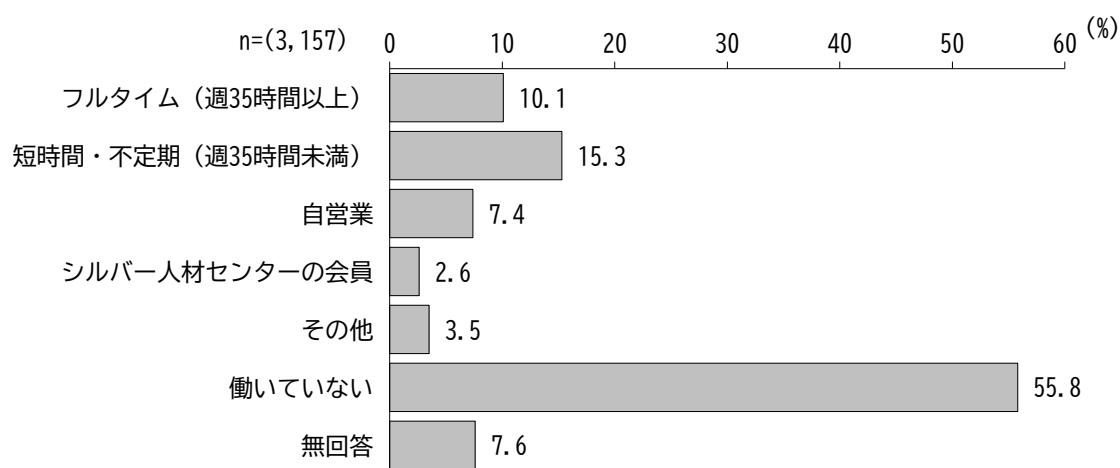
7. 仕事

(1) 就労状況

Q1. あなたは現在働いていますか。働いている方は勤務形態についてもお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

全体から「働いていない」(55.8%)と無回答(7.6%)を除いた36.6%が何らかの仕事をしていると回答しています。

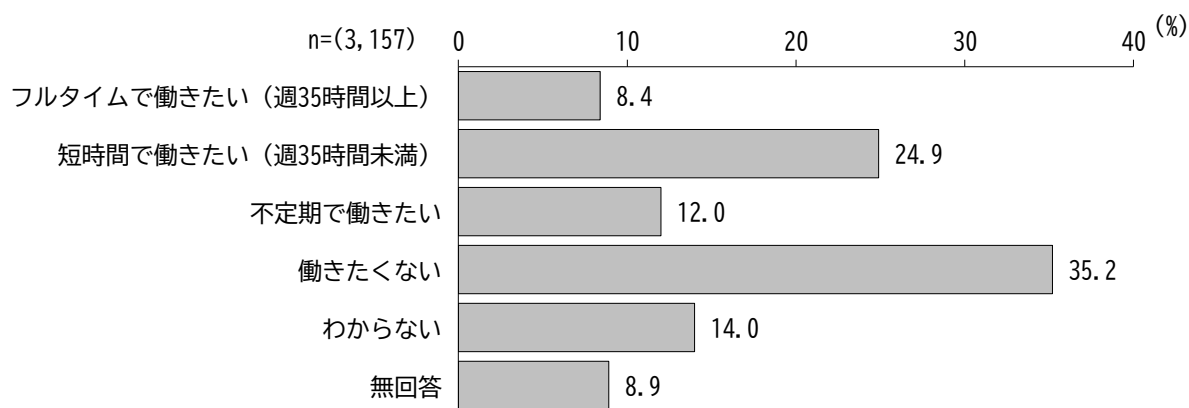
「短時間・不定期(週35時間未満)」が15.3%で最も多く、以下、「フルタイム(週35時間以上)」(10.1%)、「自営業」(7.4%)と続いています。



(2) 今後の就労意向

Q2. あなたは今後、働きたいと思いますか。現在働いている方も、今後どのように働きたいかをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

「働きたくない」が35.2%と最も多く、「短時間で働きたい(週35時間未満)」(24.9%)、「不定期で働きたい」(12.0%)と続き、「フルタイムで働きたい(週35時間以上)」は8.4%となっています。



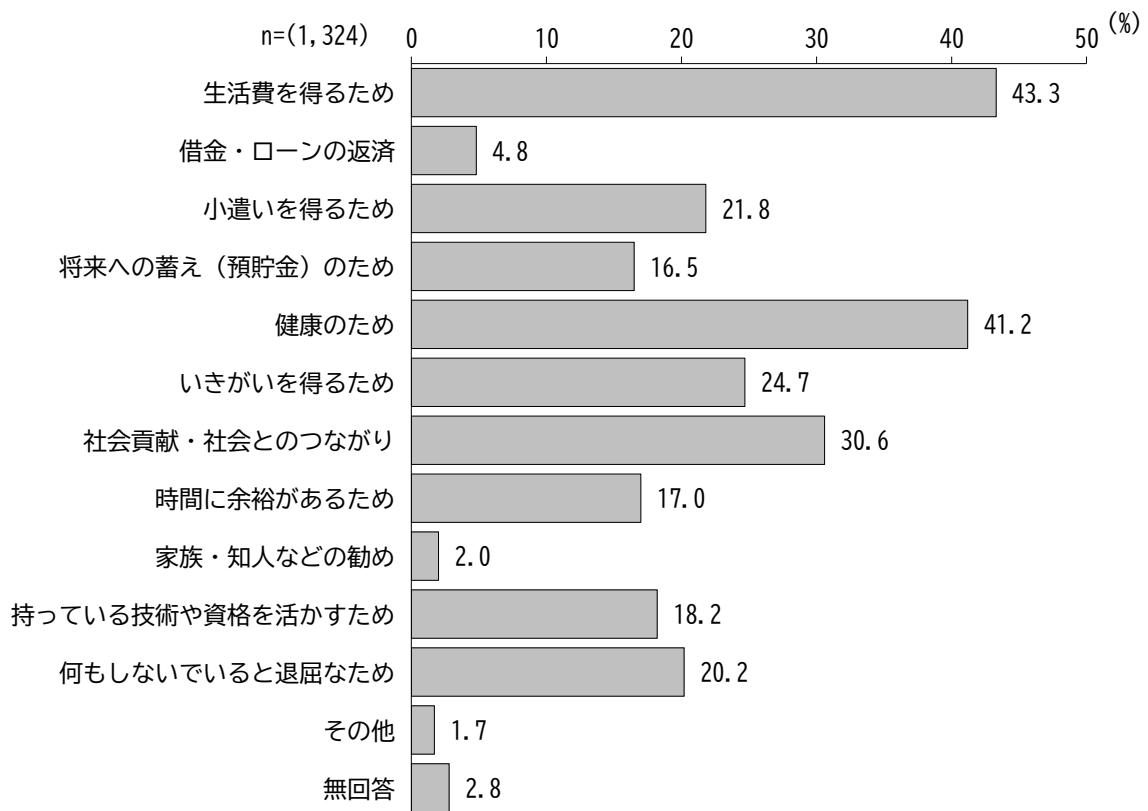
第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(3) 就労希望理由

【☐Q2で「1. フルタイムで働きたい（週35時間以上）」「2. 短時間で働きたい」「3. 不定期で働きたい」と答えた方に伺います】

☐Q3. 働きたいのは、どのような理由からですか。（○は3つまで）

「生活費を得るため」（43.3%）と「健康のため」（41.2%）が4割を超えて特に多く、「社会貢献・社会とのつながり」（30.6%）が3割台、「いきがいを得るため」（24.7%）、「小遣いを得るため」（21.8%）、「何もしないでいると退屈なため」（20.2%）が2割台となっています。

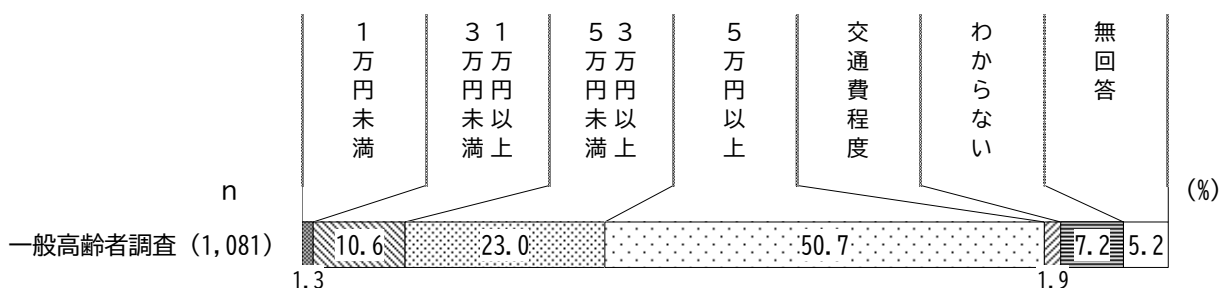


(4) 希望する月給額

【☐Q2で「2. 短時間で働きたい」「3. 不定期で働きたい」と答えた方に伺います】

☐Q4. 月にどのくらいの報酬がほしいですか。（○は1つ）

「5万円以上」が50.7%と半数で、以下、「3万円以上5万円未満」（23.0%）、「1万円以上3万円未満」（10.6%）と続いています。



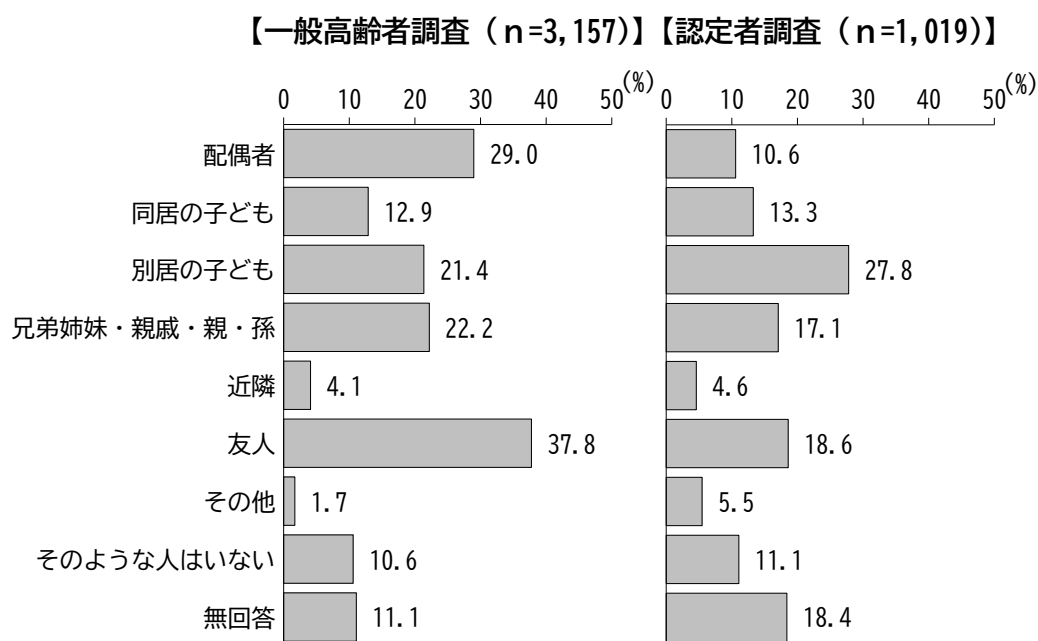
8. たすけあい

(1) たすけあえる人

Q1. あなたと周りの人の「たすけあい」についておうかがいします。それぞれあてはまるものに○をつけてください。あてはまる人がいない場合は「8. そのような人はいない」に○をつけてください。（それぞれあてはまるものすべてに○）

① あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人

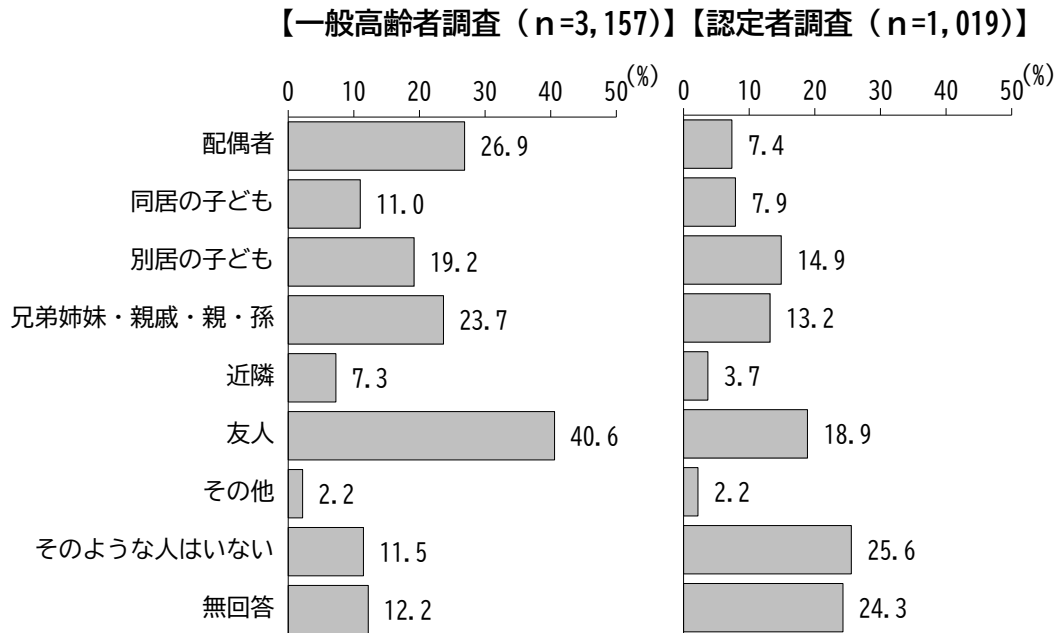
一般高齢者調査では、「友人」(37.8%)、「配偶者」(29.0%)の順で多く、認定者調査では、「別居の子ども」が27.8%で最も多くなっています。また、「そのような人はいない」はいずれの調査でも1割ほどとなっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

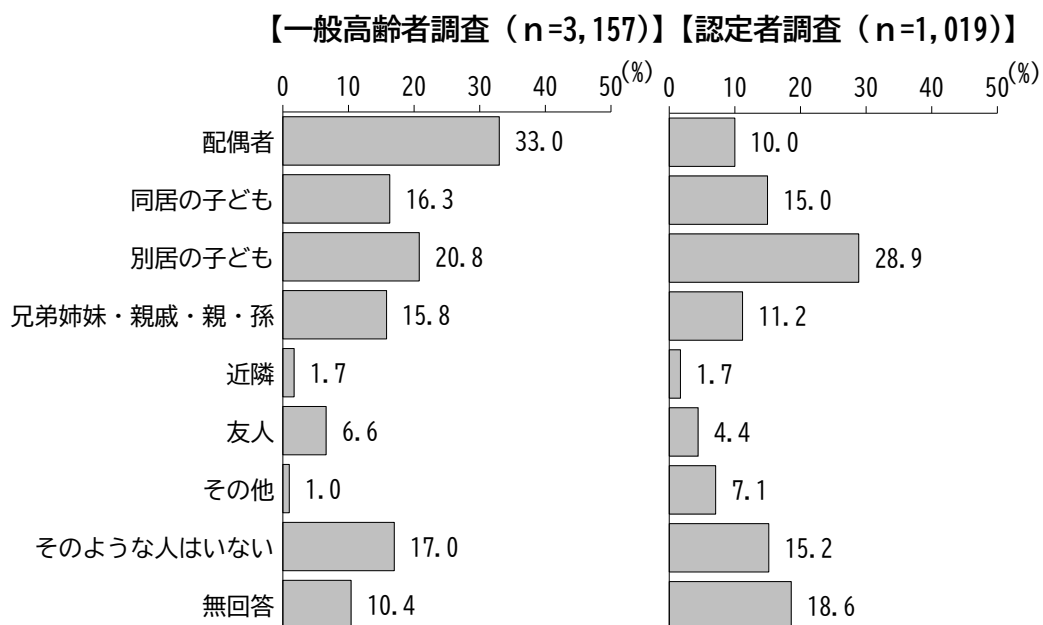
② 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

一般高齢者調査では、「友人」(40.6%)、「配偶者」(26.9%)の順で多く、認定者調査では、「そのような人はいない」を除くと「友人」が18.9%で最も多くなっています。また、「そのような人はいない」は一般高齢者調査で11.5%ですが、認定者調査では25.6%と多くなっています。



③ あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

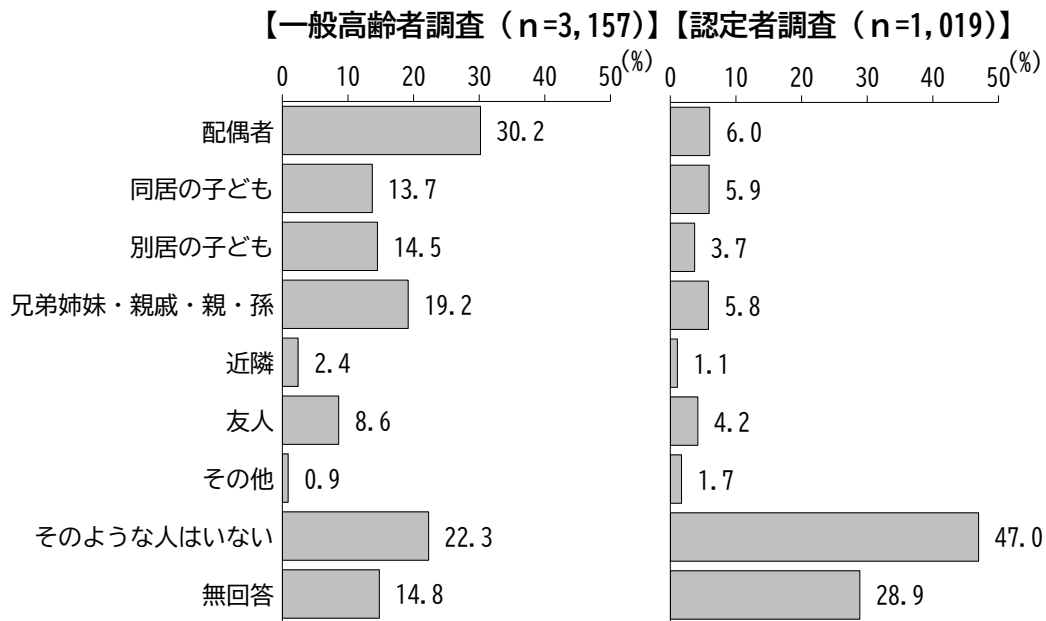
一般高齢者調査では、「配偶者」(33.0%)、「別居の子ども」(20.8%)、「同居の子ども」(16.3%)の順で多く、認定者調査では、「別居の子ども」(28.9%)、「同居の子ども」(15.0%)、「兄弟姉妹・親戚・孫」(11.2%)の順になっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

④ 反対に、看病や世話をしてくれる人

一般高齢者調査では、「配偶者」（30.2%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（19.2%）の順で多く、認定者調査では、いずれも1割未満で「そのような人はいない」が47.0%と多くなっています。

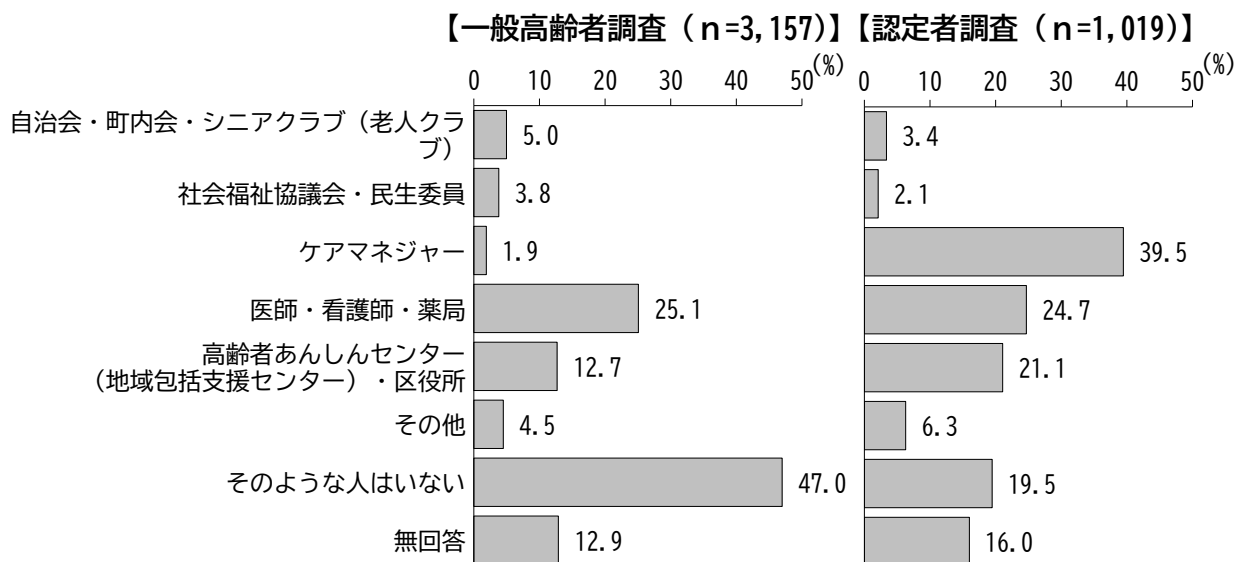


(2) 家族や友人・知人以外の相談相手

Q2. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

一般高齢者調査では、「そのような人はいない」が47.0%で、「医師・看護師・薬局」（25.1%）、「高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）・区役所」（12.7%）の順になっています。

認定者調査では、「ケアマネジャー」が39.5%と最も多く、次いで「医師・看護師・薬局」（24.7%）、「高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）」（21.1%）となっています。



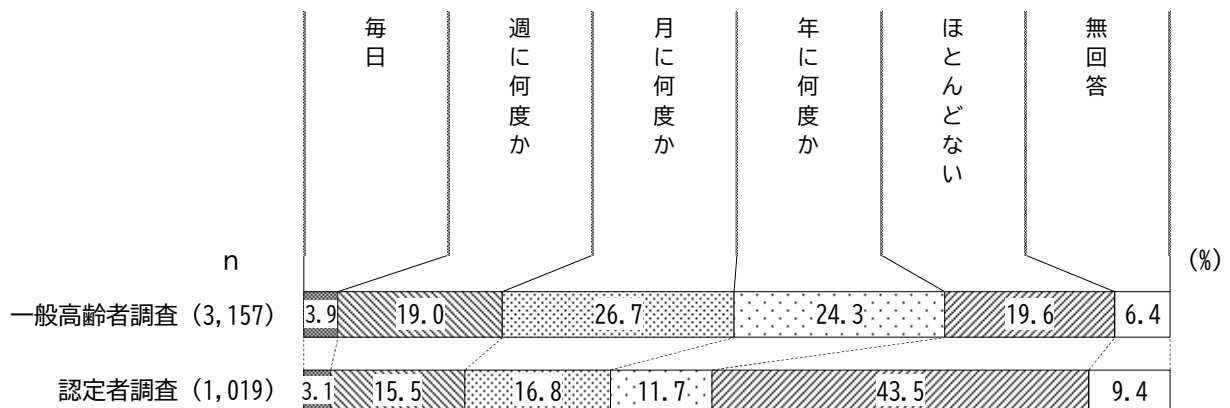
(3) 友人・知人と会う頻度

Q3. 友人関係についておうかがいします。

① 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(○は1つ)

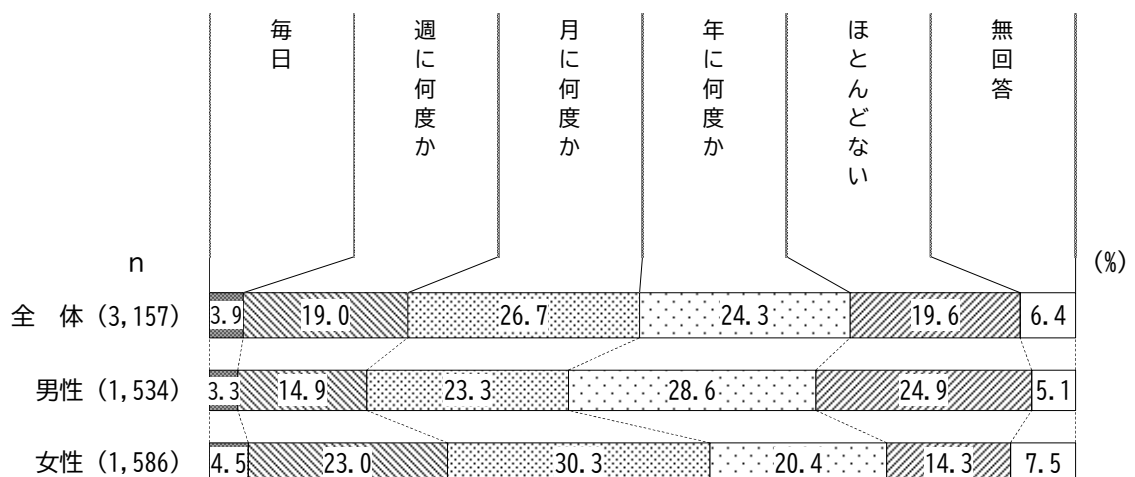
一般高齢者調査では、「月に何度か」(26.7%)、「年に何度か」(24.3%)がいずれも2割台となっています。

認定者調査では、「ほとんどない」が43.5%と半数近くになっています。



〈一般高齢者調査：性別／友人・知人と会う頻度〉

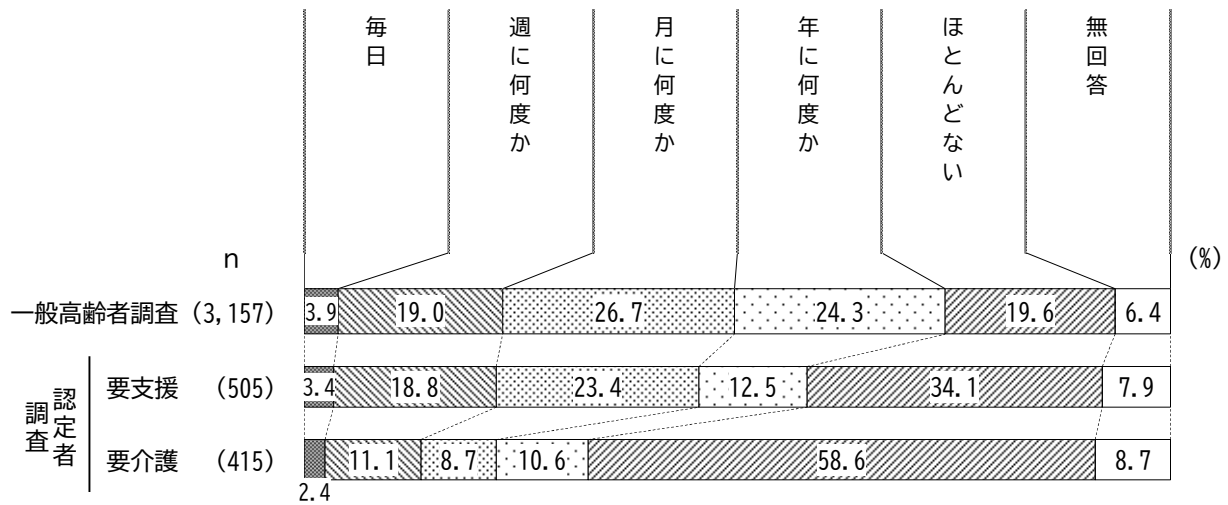
一般高齢者調査を性別に見ると、「週に何度か」「月に何度か」は女性が男性よりも7.0ポイント以上、一方、「年に何度か」「ほとんどない」は男性が女性よりも約8.0ポイント以上高くなっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

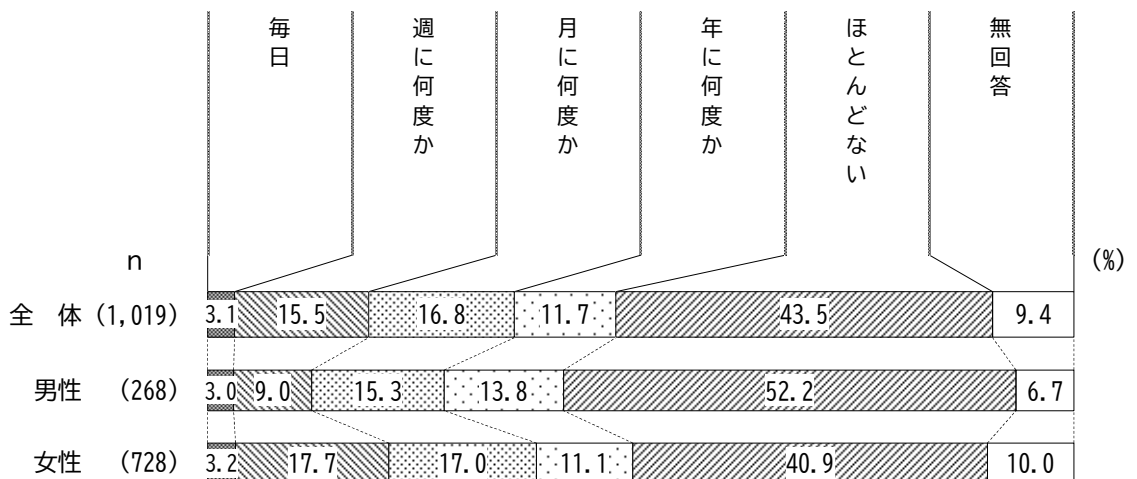
〈一般高齢者調査・要支援・要介護3区分別／友人・知人と会う頻度〉

認定者調査を介護度別に見ると、介護度が重い層ほど「ほとんどない」の割合が高く、要介護では58.6%と約6割を占めています。



〈認定者調査：性別／友人・知人と会う頻度〉

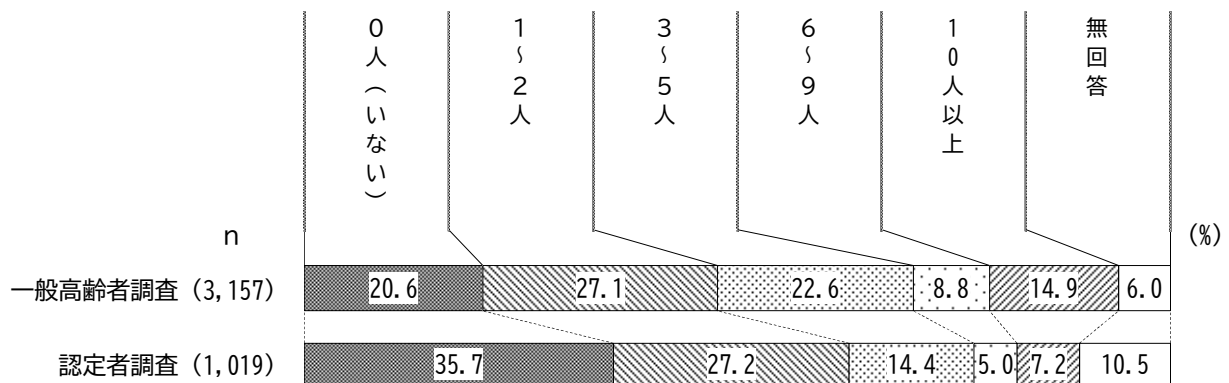
認定者調査を性別に見ると、「週に何度か」は女性が男性よりも8.7ポイント、一方、「ほとんどない」は男性が女性よりも11.3ポイント高くなっています。



(4) 1か月に会った友人・知人の数

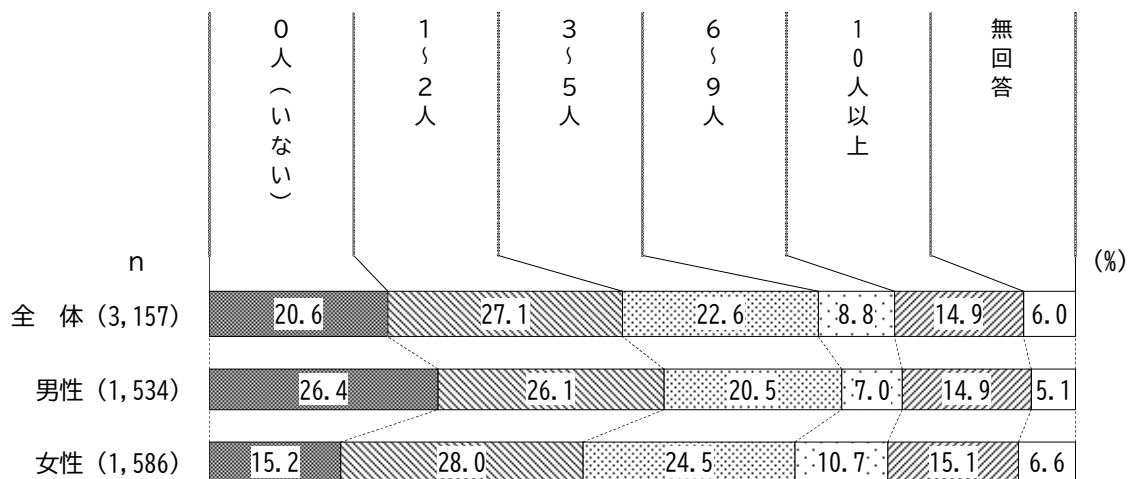
Q3. 友人関係についておうかがいします。
 ②この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。(○は1つ)
 ※同じ人には何度会っても1人と数えることとします。

「0人（いない）」は、認定者調査で35.7%と一般高齢者調査の約1.7倍となっています。
 「1～2人」はいずれの調査でも27%台となっています。



〈一般高齢者調査：性別／1か月に会った友人・知人の数〉

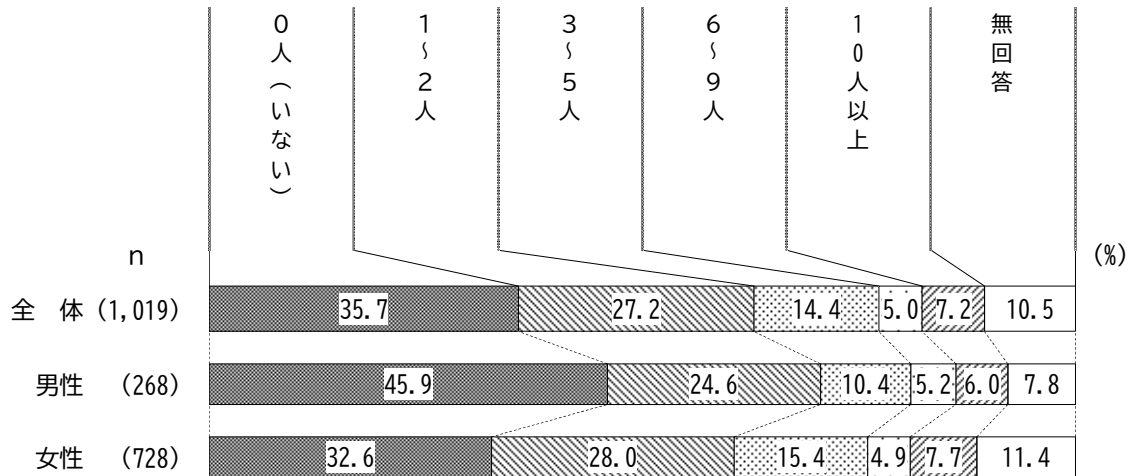
一般高齢者調査を性別に見ると、「0人（いない）」は男性で26.4%で女性の約1.7倍となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：性別／1か月に会った友人・知人の数〉

認定者調査を性別に見ると、「0人（いない）」は男性で45.9%で女性の約1.4倍となっています。



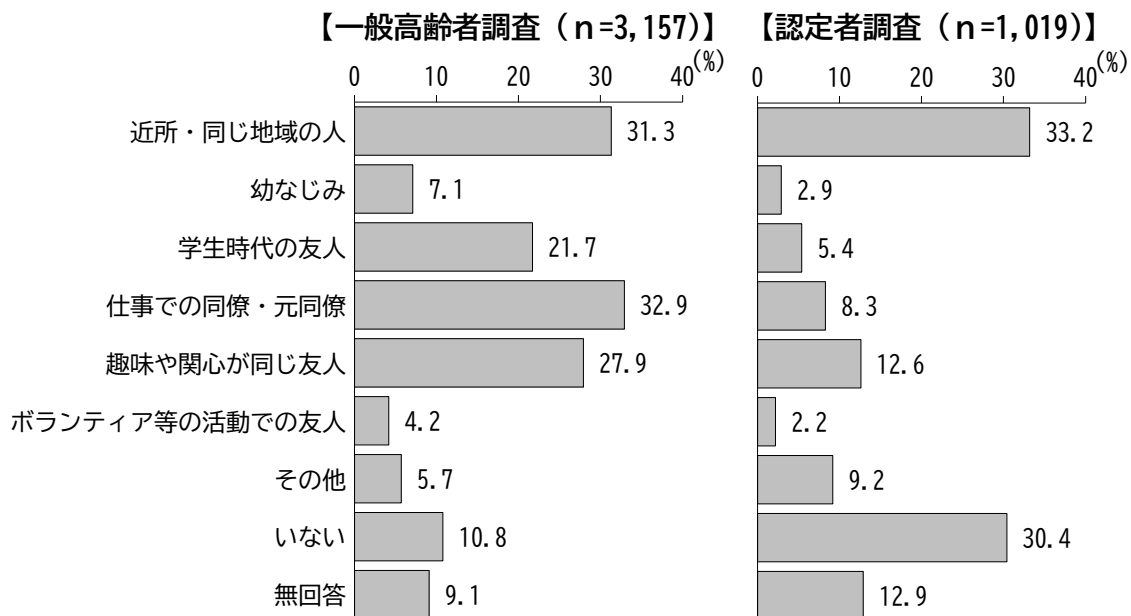
(5) よく会う友人・知人との関係

Q3. 友人関係についておうかがいします。

② よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（あてはまるものすべてに○）

一般高齢者調査では、「仕事での同僚・元同僚」が32.9%と最も多く、「近所・同じ地域の人」(31.3%)、「趣味や関心が同じ友人」(27.9%)、「学生時代の友人」(21.7%)の順になっています。

認定者調査では、「近所・同じ地域の人」が33.2%と最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(12.6%)となっています。一方、「いない」は30.4%となっています。



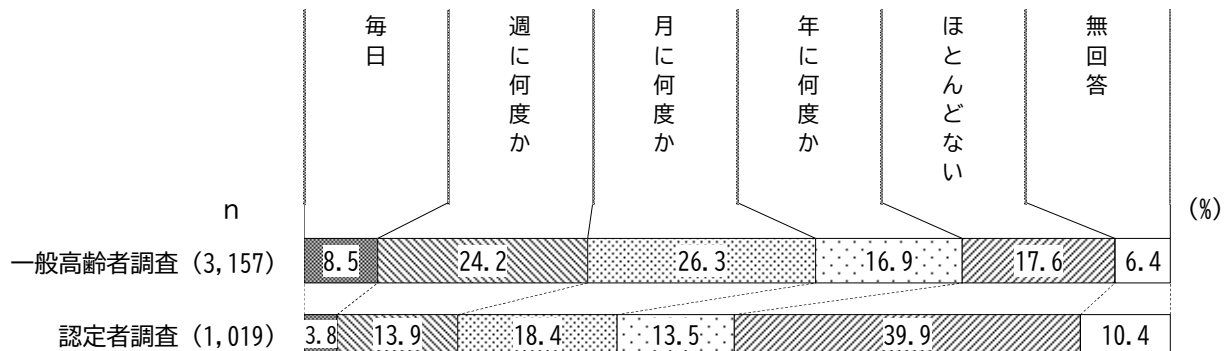
第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(6) 電話、メール、手紙の頻度

Q3. 友人関係についておうかがいします。

③ 友人・知人と電話やメール、手紙をやり取りする頻度はどれくらいですか。(○は1つ)

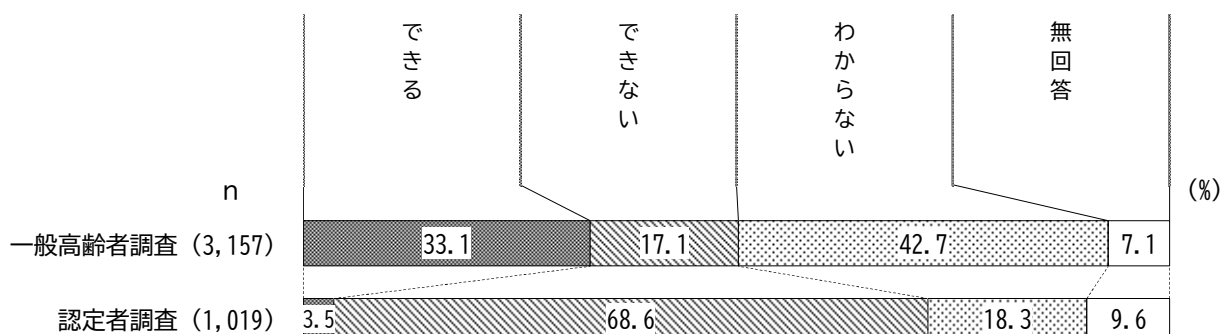
「毎日」と「週に何度か」を合わせた『週1回以上』は一般高齢者調査で32.7%、認定者調査で17.7%となっています。認定者調査では「ほとんどない」が39.9%と多くなっています。



(7) 災害時・緊急時の手助け

Q4. あなたは災害時・緊急時に人の手助けができますか。(○は1つ)

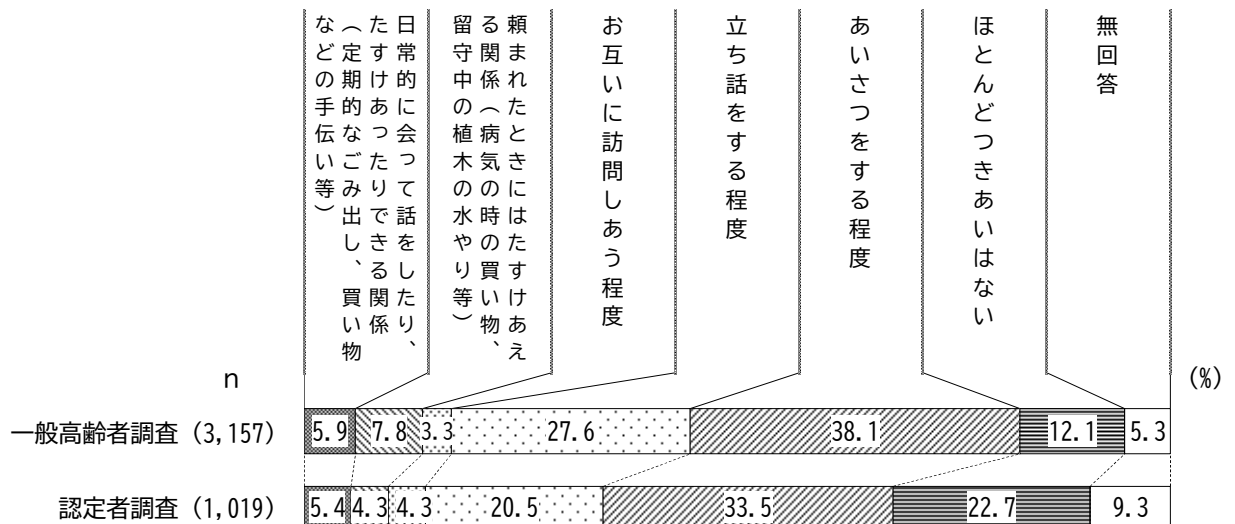
一般高齢者調査では、「できる」が33.1%、「できない」が17.1%となっています。認定者調査では、「できる」が3.5%、「できない」が68.6%となっています。



(8) 近所との付き合いの程度

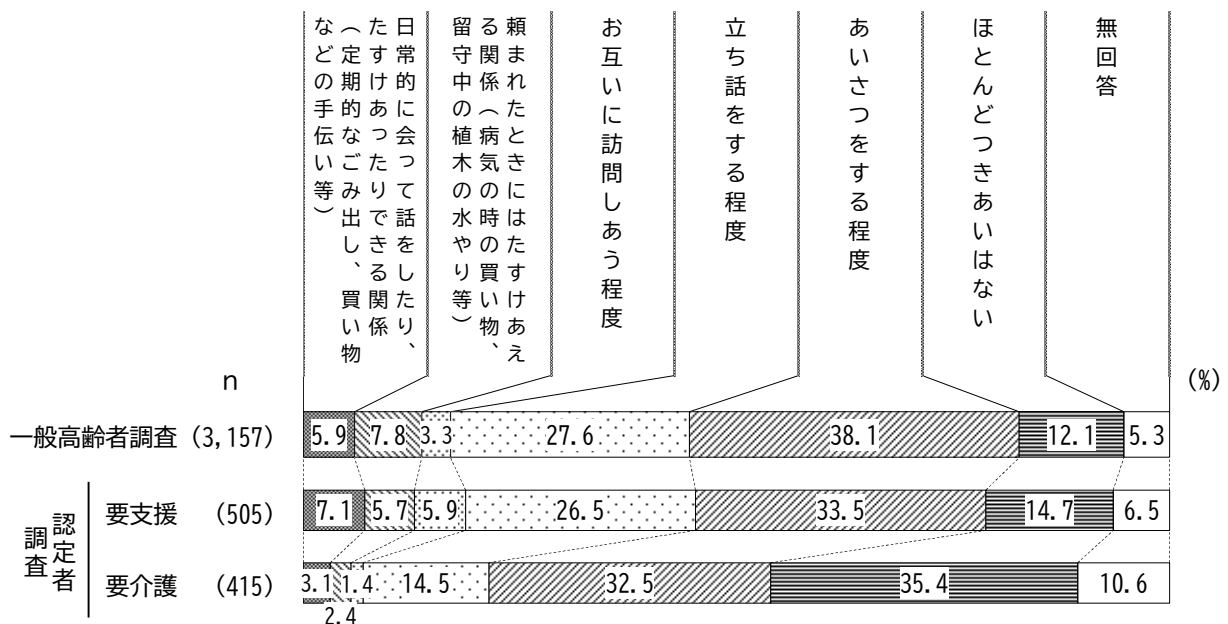
Q5. ご近所の方とはどの程度付き合いをしていますか（○は1つ）

いずれの調査も「あいさつをする程度」が3割台と最も多く、次いで、一般高齢者調査では「立ち話をする程度」（27.6%）、認定者調査では「ほとんどつきあいはない」（22.7%）となっています。



〈一般高齢者調査・要支援・要介護3区分別／近所との付き合いの程度〉

認定者調査を介護度別に見ると、要支援は一般高齢者調査とおおむね同様の傾向がみられます。一方、要介護では「ほとんどつきあいはない」が35.4%と、一般高齢者調査や要支援に比べて割合が高くなっています。

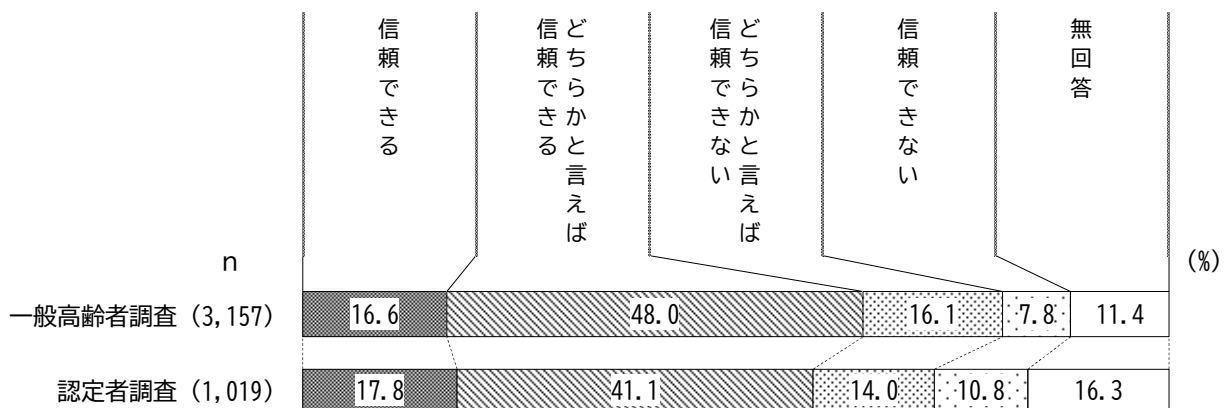


(9) 近所への信頼度

Q6. あなたはご近所の方を信頼できますか。(○は1つ)

いずれの調査も「どちらかと言えば信頼できる」、「信頼できる」、「どちらかと言えば信頼できない」、「信頼できない」の順で多くなっています。

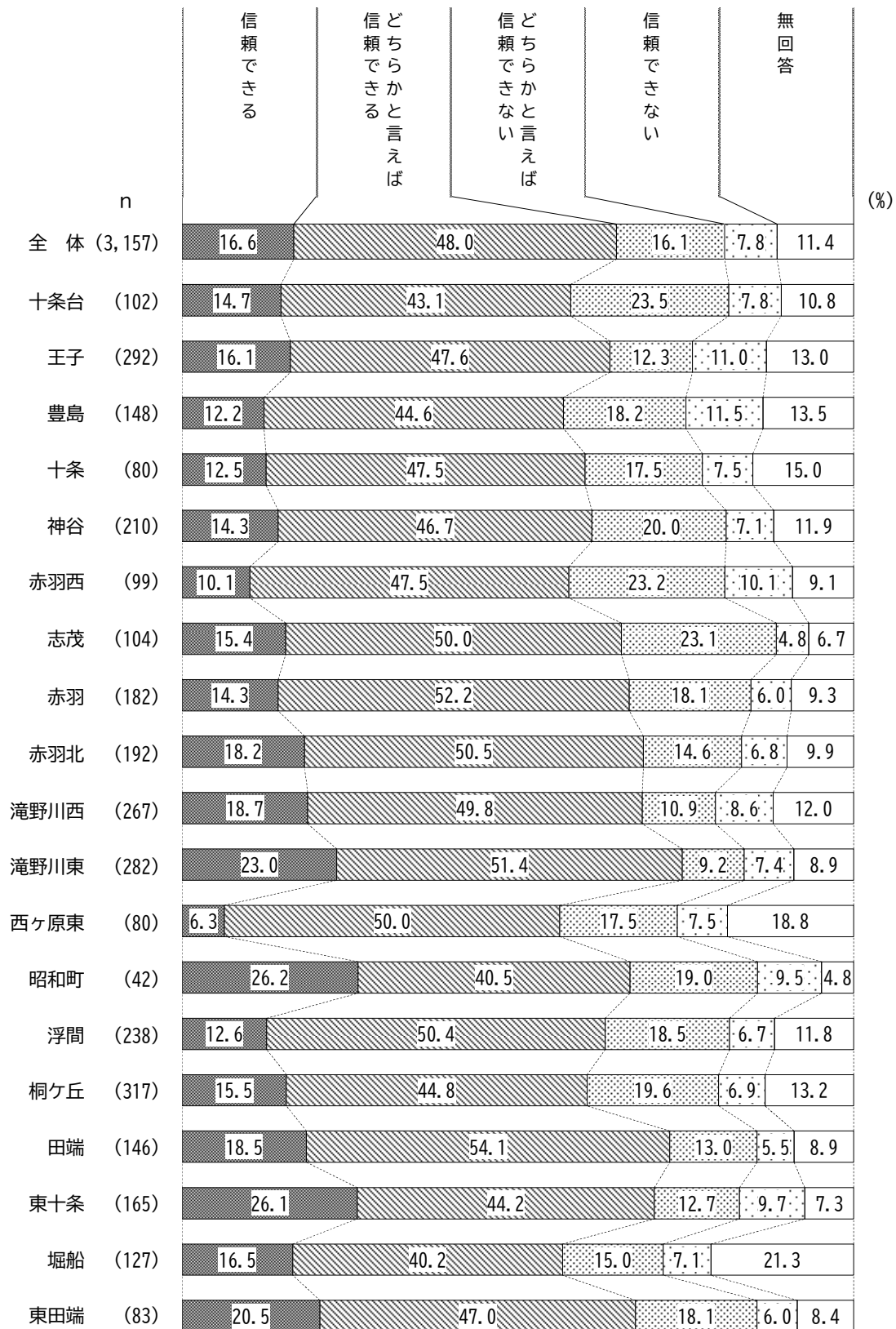
「信頼できる」と「どちらかと言えば信頼できる」を合わせた『信頼』は一般高齢者調査で64.6%と認定者調査の58.9%を上回っています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査：居住地区別／近所への信頼度〉

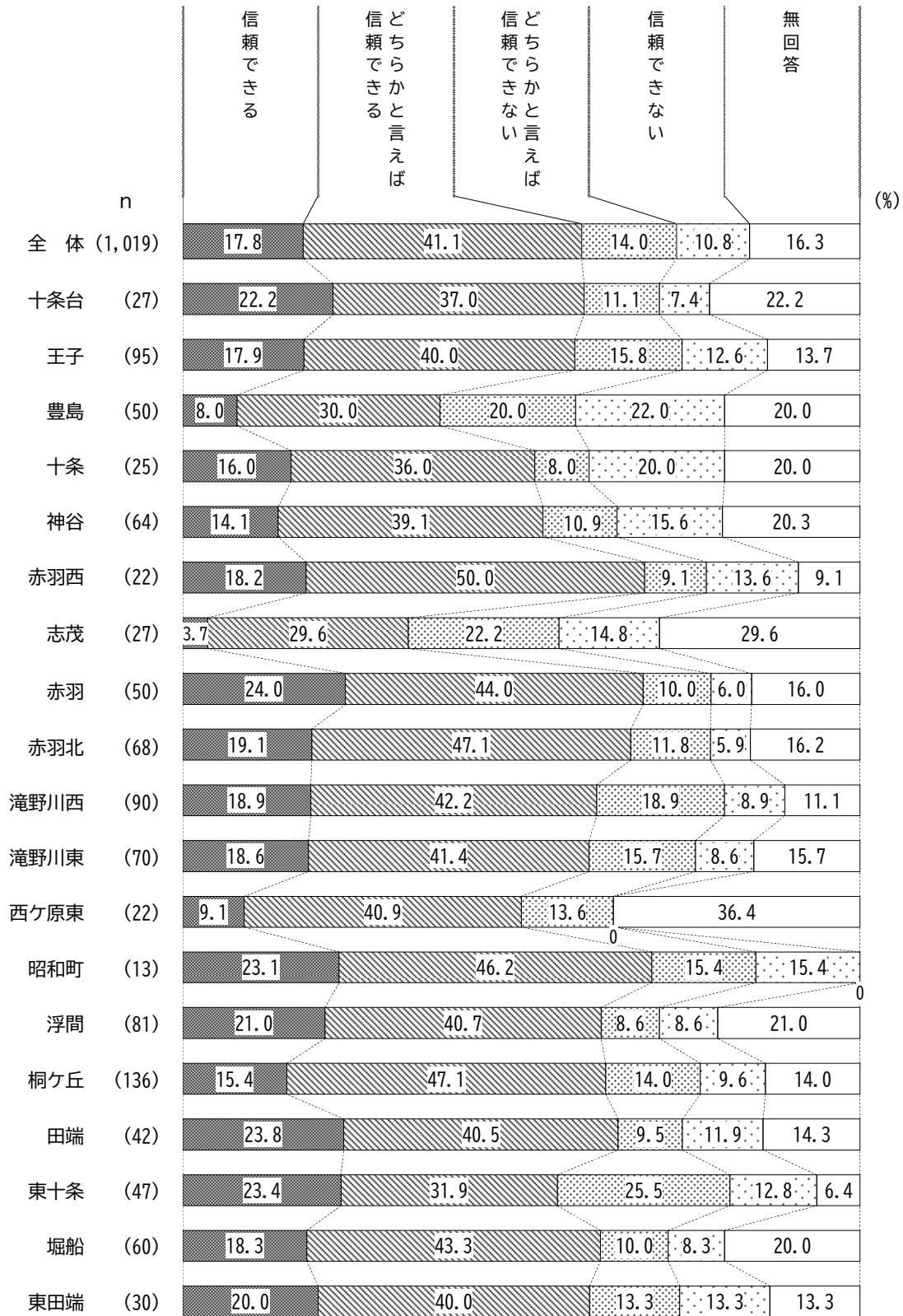
一般高齢者調査を居住地区別に見ると、『信頼』の割合は、滝野川東（74.4%）、田端（72.6%）、東十条（70.3%）の順で多く、最も少ないのは西ヶ原東の56.3%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：居住地区別／近所への信頼度〉

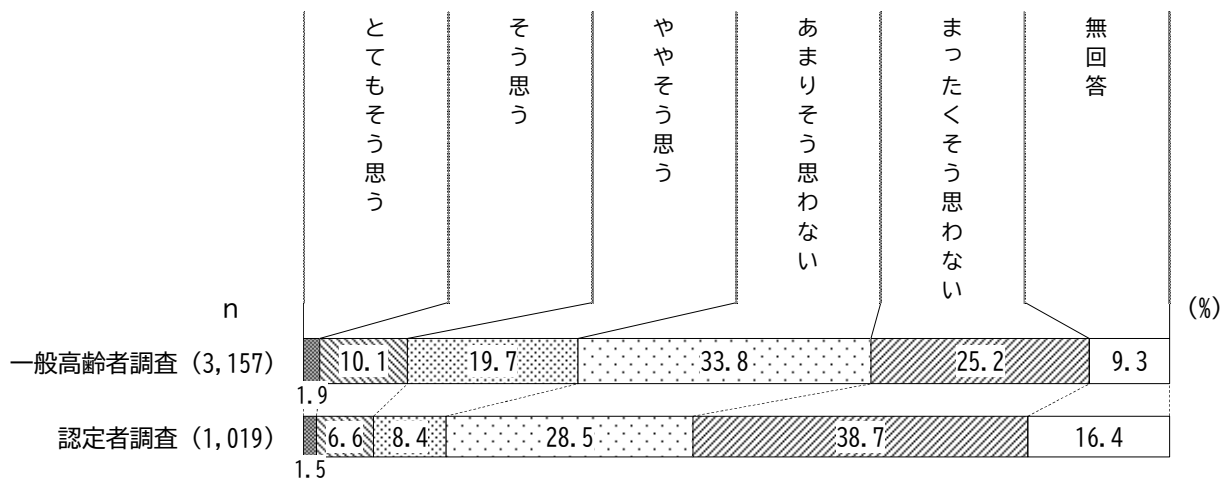
認定者調査を居住地区別に見ると、『信頼』の割合は、昭和町（69.3%）、赤羽西（68.2%）、赤羽（68.0%）の順で多く、最も少ないのは志茂の33.3%となっています。



(10) 近所からの期待度

Q7. あなたは、ご近所の方々から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思いますか。（自分なりにできること、会・グループでの役、隣近所のちょっとしたこと、お手伝いやお願い事など）（○は1つ）

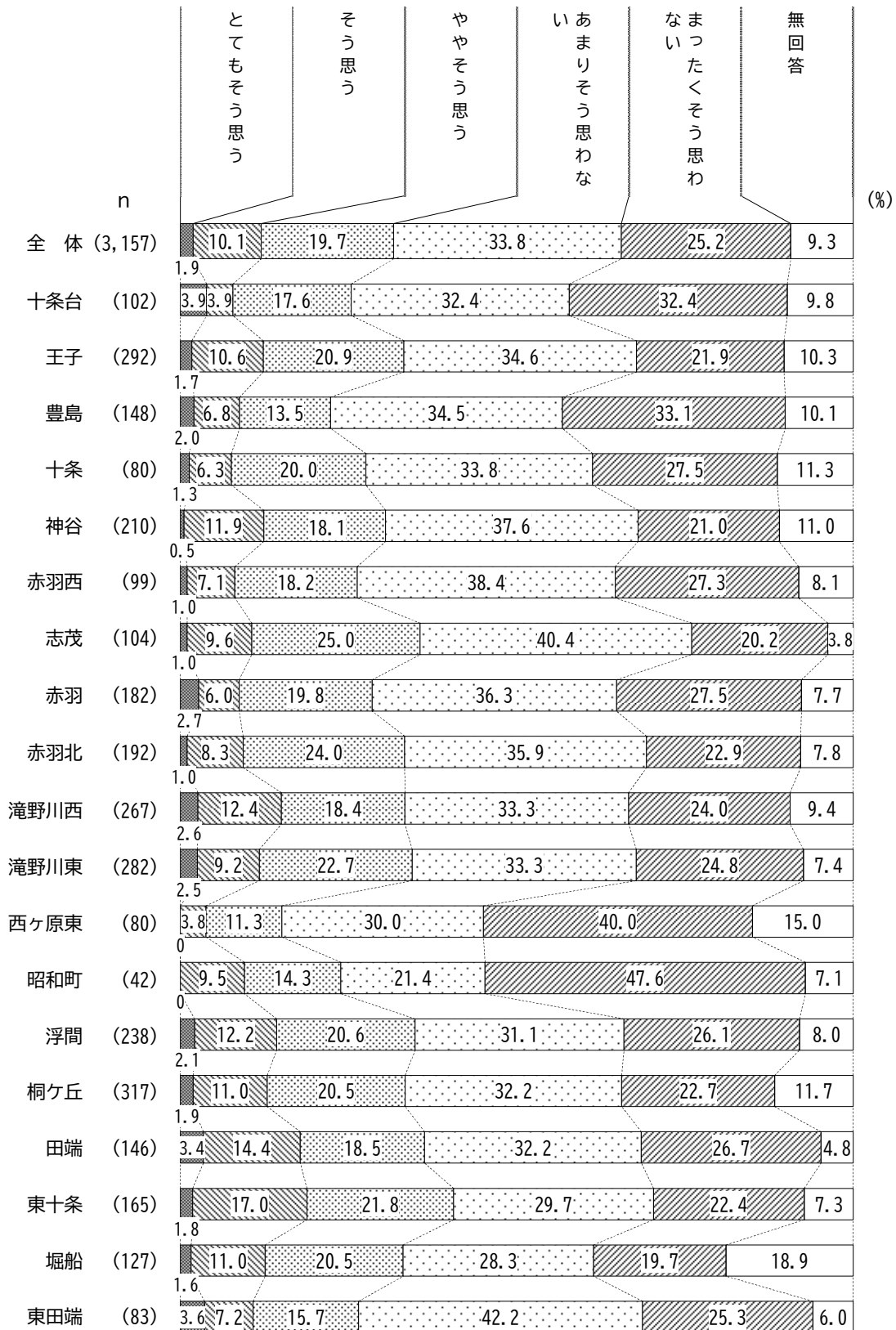
いずれの調査も「まったくそう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『そう思わない』が半数以上となっています。特に認定者調査では、この割合が67.2%と多くなっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査：居住地区別／近所からの期待度〉

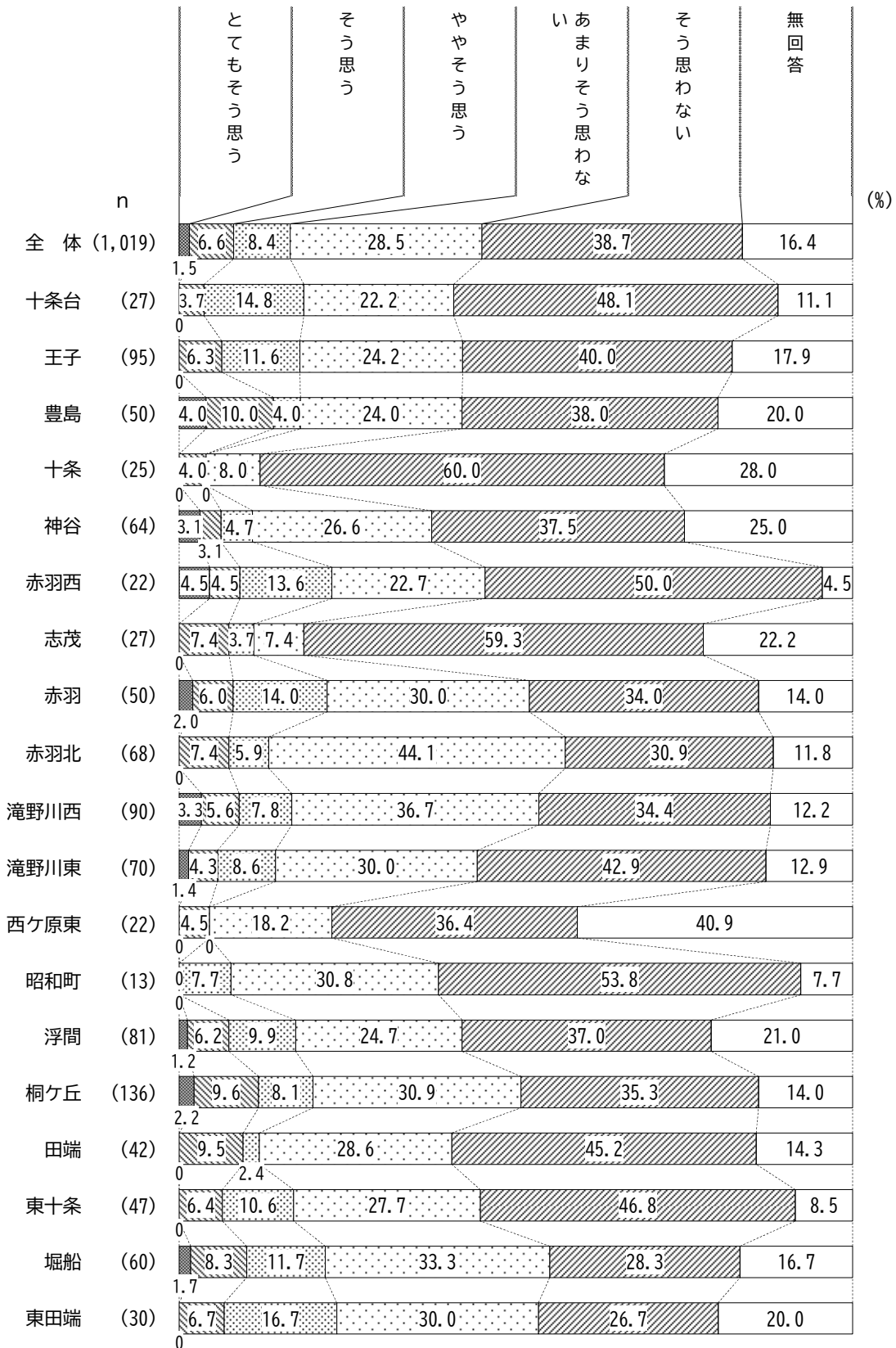
一般高齢者調査を居住地区別に見ると、「とてもそう思う」、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、東十条（40.6%）、田端（36.3%）、志茂（35.6%）の順で多く、最も少ないのは西ヶ原東の15.1%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：居住地区別／近所からの期待度〉

認定者調査を居住地区別に見ると、『そう思う』の割合は、東田端（23.4%）、赤羽西（22.6%）、赤羽（22.0%）の順で多く、最も少ないのは十条の4.0%となっています。



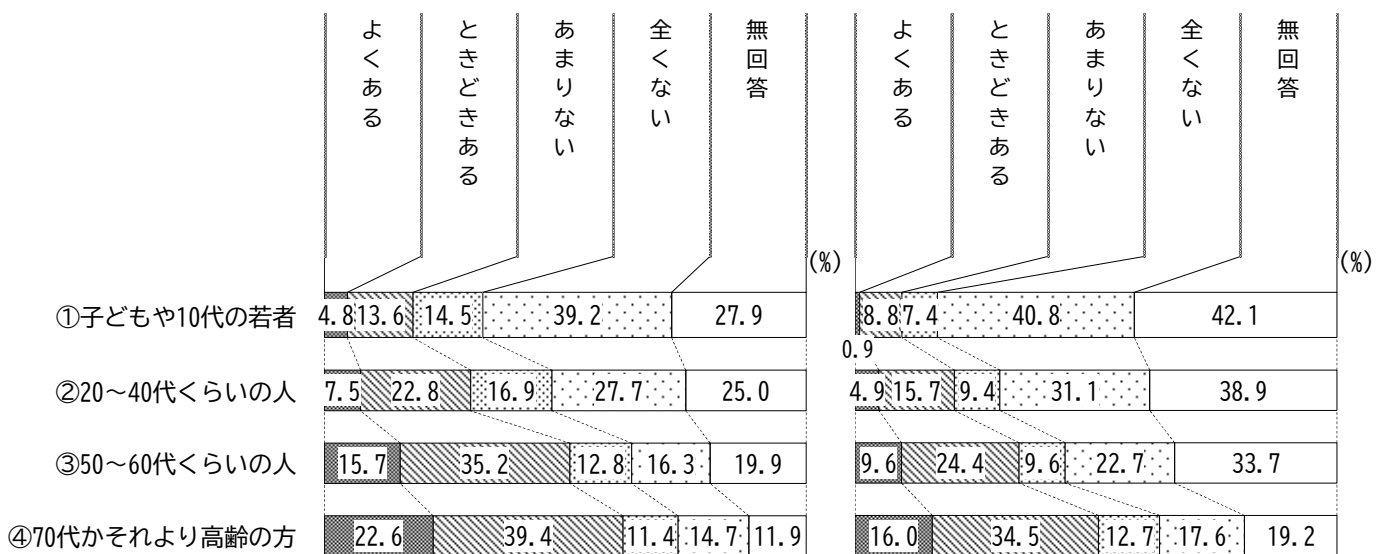
(11) 各年齢層との会話頻度

Q8. 次のような年齢層の方と会話をする機会が、どのくらいありますか。（ご家族や親戚、仕事関係の人は除きます。）（それぞれ〇は1つ）

「よくある」と「ときどきある」を合わせた『ある』でみたときに、一般高齢者調査では“50～60代くらいの人”“70代かそれより高齢の方”が合計で半数を超えています。認定者調査でも“70代かそれより高齢の方”は50.5%で最も多くなっています。

【一般高齢者調査（n=3,157）】

【認定者調査（n=1,019）】



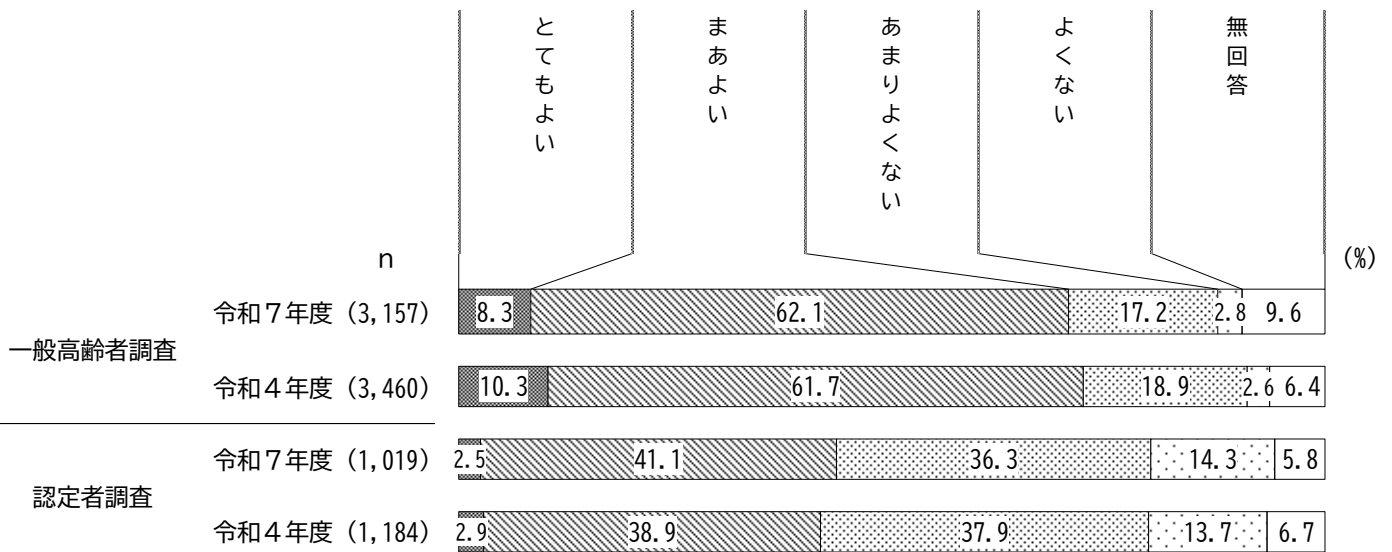
9. 健康

(1) 健康状態

Q1. 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

いずれの調査も、「まあよい」が最も多くなっています。「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』は一般高齢者調査で70.4%、認定者調査で43.6%となっています。

令和4年度と比較すると、一般高齢者調査、認定者調査共に大きな違いは見られません。

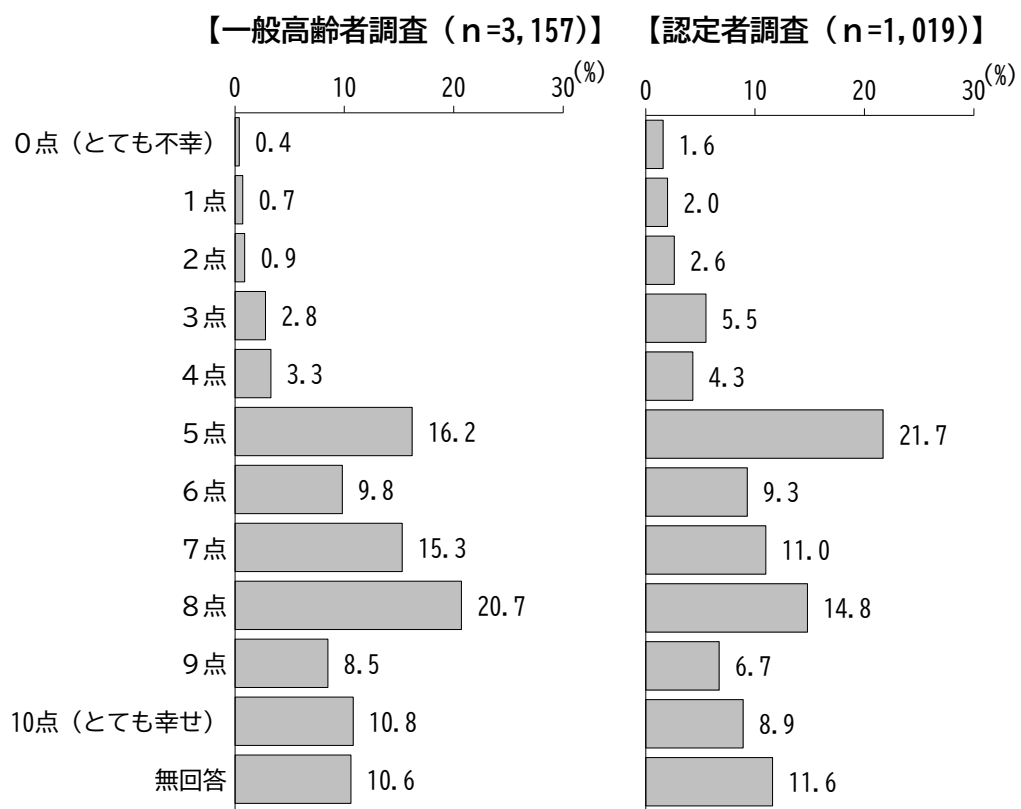


(2) 幸福度

Q2. あなたは、現在どの程度幸せですか（「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、あてはまる点数1つに○をつけてください）。

一般高齢者調査では、「8点」が20.7%と最も多く、次いで「5点」（16.2%）、「7点」（15.3%）となっています。

認定者調査では、「5点」が21.7%と最も多く、次いで「8点」（14.8%）、「7点」（11.0%）となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈生きがいの有無別／幸福度〉

生きがいの有無別に見ると、いずれの調査も“生きがいあり”では「8点」が最も多く、“思いつかない”では「5点」が最も多くなっています。

【一般高齢者調査】

(%)

	回答者数	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)	無回答
一般／全体	3,157	0.4	0.7	0.9	2.8	3.3	16.2	9.8	15.3	20.7	8.5	10.8	10.6
生きがいあり	1,436	0.1	-	0.2	0.8	1.0	8.6	8.1	17.1	26.9	12.8	16.6	7.6
思いつかない	1,382	0.7	1.4	1.7	4.8	5.1	23.9	11.6	14.7	15.5	4.1	5.7	10.7

【認定者調査】

(%)

	回答者数	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)	無回答
認定者／全体	1,019	1.6	2.0	2.6	5.5	4.3	21.7	9.3	11.0	14.8	6.7	8.9	11.6
生きがいあり	238	0.4	1.3	-	2.9	2.5	13.9	9.2	13.4	21.4	12.6	18.5	3.8
思いつかない	598	2.2	2.0	3.8	6.7	5.7	25.6	10.2	10.7	12.9	3.8	5.4	11.0

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈1か月間で会った友人・知人の数別／幸福度〉

1か月間で会った友人・知人の数別に見ると、一般高齢者調査では“10人以上”“6～9人”“3～5人”“1～2人”では「8点」が最も多く、“0人（いない）”では「5点」が最も多くなっています。認定者調査では“10人以上”“3～5人”“1～2人”“0人（いない）”では「5点」、 “6～9人”では「8点」が最も多くなっています。

【一般高齢者調査】

	回答者数	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)	無回答
一般／全体	3,157	0.4	0.7	0.9	2.8	3.3	16.2	9.8	15.3	20.7	8.5	10.8	10.6
0人（いない）	651	1.2	1.7	2.5	6.1	4.9	24.7	8.8	11.8	16.3	4.9	7.4	9.7
1～2人	855	0.5	0.8	0.7	2.8	3.5	17.9	13.3	15.4	20.6	6.3	8.4	9.7
3～5人	715	-	0.1	0.6	1.7	3.1	15.2	9.5	18.2	21.7	9.7	11.0	9.2
6～9人	278	-	-	0.7	0.4	1.8	6.8	10.8	18.3	21.6	13.3	15.5	10.8
10人以上	469	-	-	-	0.6	1.5	7.9	6.2	17.1	26.9	12.6	18.1	9.2

【認定者調査】

	回答者数	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)	無回答
認定者／全体	1,019	1.6	2.0	2.6	5.5	4.3	21.7	9.3	11.0	14.8	6.7	8.9	11.6
0人（いない）	364	3.6	3.3	4.4	9.6	4.4	20.9	8.2	9.3	12.1	4.7	9.3	10.2
1～2人	277	0.4	1.8	2.5	3.6	5.8	27.8	10.1	10.8	16.6	7.2	5.4	7.9
3～5人	147	-	0.7	1.4	2.0	4.8	21.1	10.2	17.0	16.3	8.2	12.9	5.4
6～9人	51	2.0	-	-	-	2.0	15.7	11.8	15.7	23.5	9.8	11.8	7.8
10人以上	73	-	1.4	-	1.4	-	23.3	9.6	12.3	19.2	12.3	15.1	5.5

(3) この1か月のゆううつ感

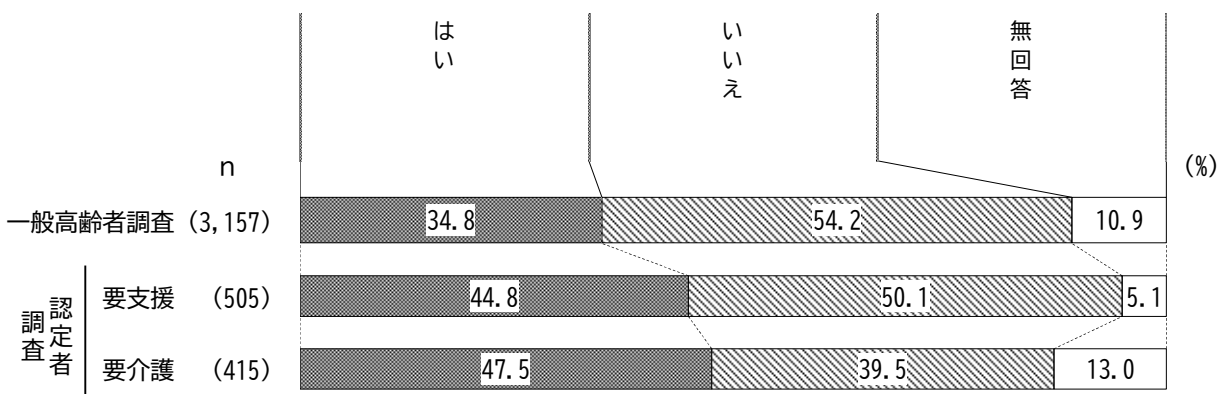
Q3 Q6. この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

「はい」（あった）は一般高齢者調査では34.8%である一方、認定者調査では45.5%と、「いいえ」と同率になっています。



〈一般高齢者調査・要支援・要介護3区分別／この1か月のゆううつ感〉

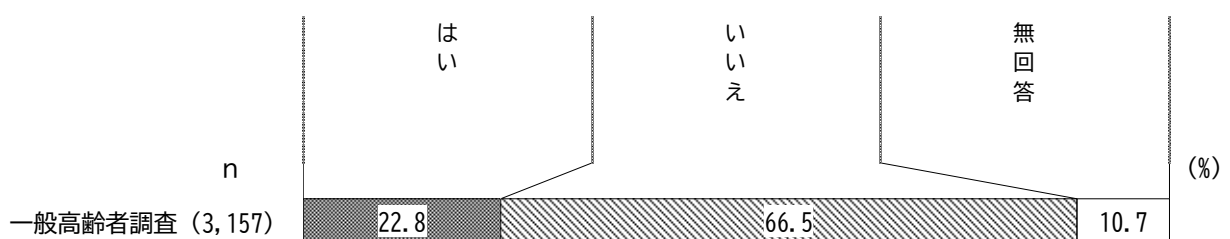
認定者調査を介護度別に見ると、「はい」（あった）は要支援・要介護ともに4割台であり、特に大きな違いは見られません。



(4) この1か月の無気力感

Q4. この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

「はい」（あった）は22.8%となっています。



〈うつ傾向リスク〉

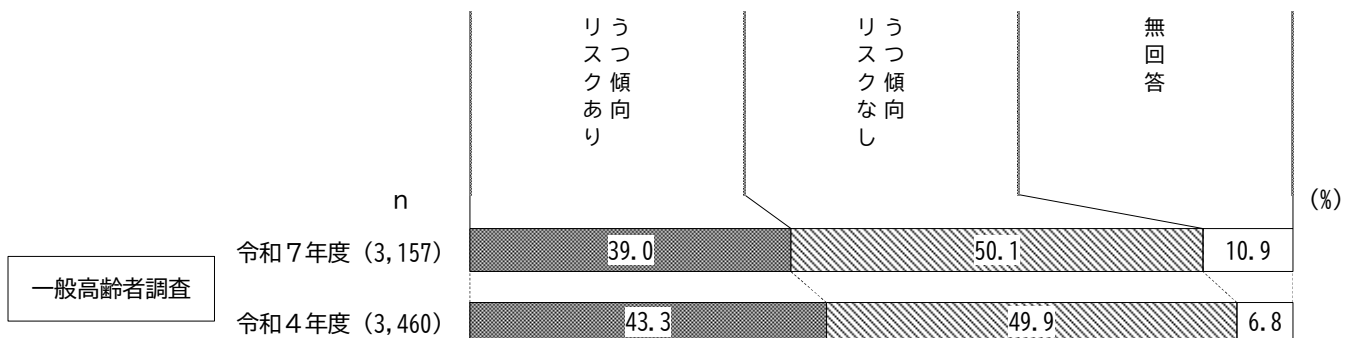
下記の2項目中、どちらかにでも該当する場合、『うつ傾向のリスクがある高齢者』としています。

- ・この1か月間に、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりしたことがある（Q3）
- ・この1か月間に、どうしても物事に興味がわからない、心から楽しめない感じがよくあった（Q4）

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和7年8月）

「うつ傾向リスクあり」は39.0%となっています。

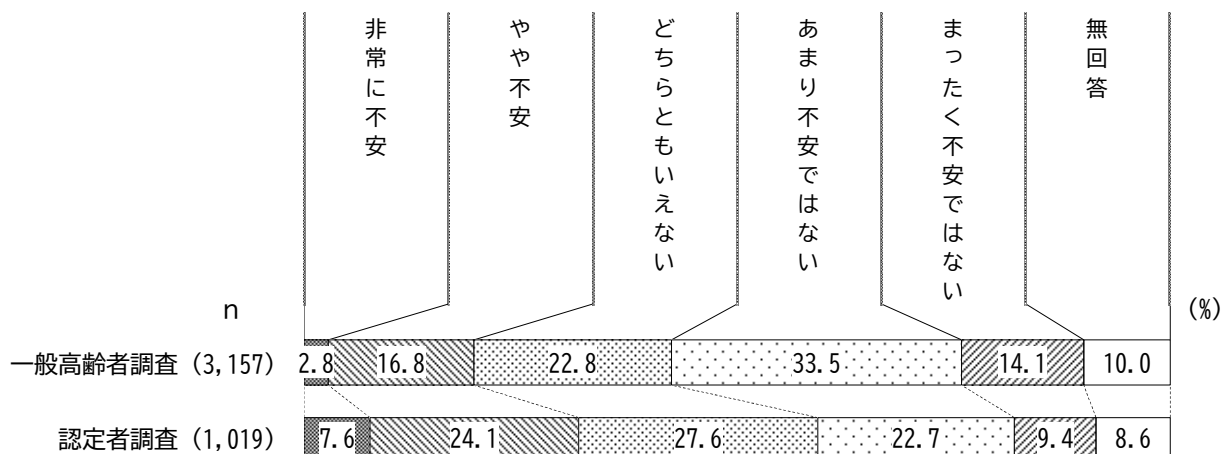
令和4年度と比較すると、「うつ傾向リスクあり」は4.3ポイント減少しています。



(5) 孤独感の把握

Q5 Q7. 生活様式や人付き合いの変化から、孤独や孤立への不安を感じていますか。
(○は1つ)

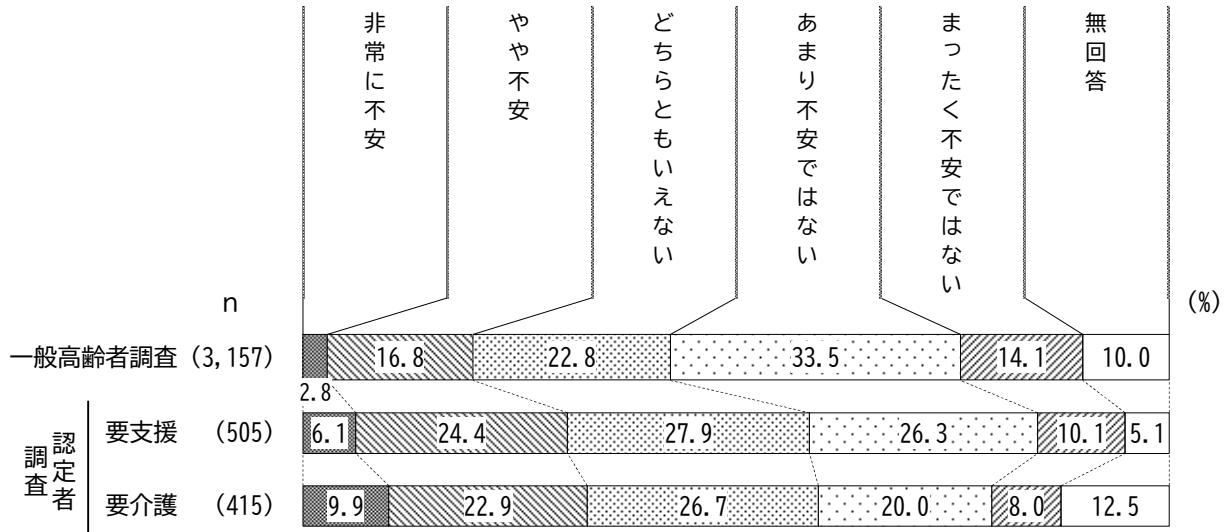
「非常に不安」と「やや不安」を合わせた『不安』は、一般高齢者調査で19.6%、認定者調査では31.7%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査・要支援・要介護3区分別／孤独感の把握〉

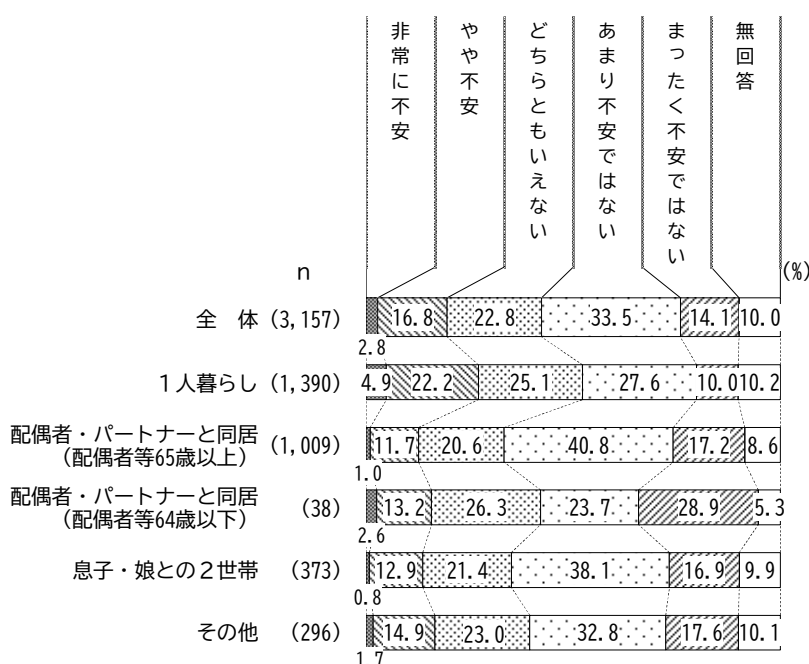
認定者調査を介護度別に見ると、『不安』の割合は要支援・要介護ともに3割台であり、特に大きな違いは見られません。



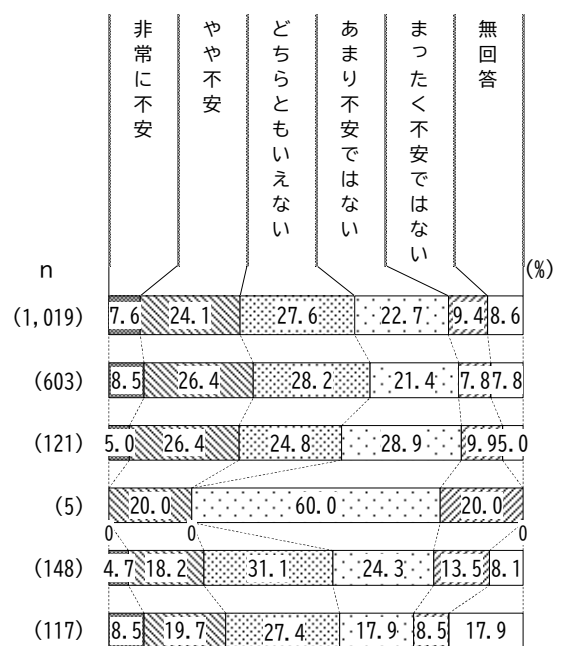
〈家族構成別／孤独感の把握〉

家族構成別に見ると、『不安』の割合は、いずれの調査も“1人暮らし”で多く、一般高齢者調査では27.1%、認定者調査では34.9%となっています。認定者調査では“配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）”でも『不安』が3割を超えています。

【一般高齢者調査】



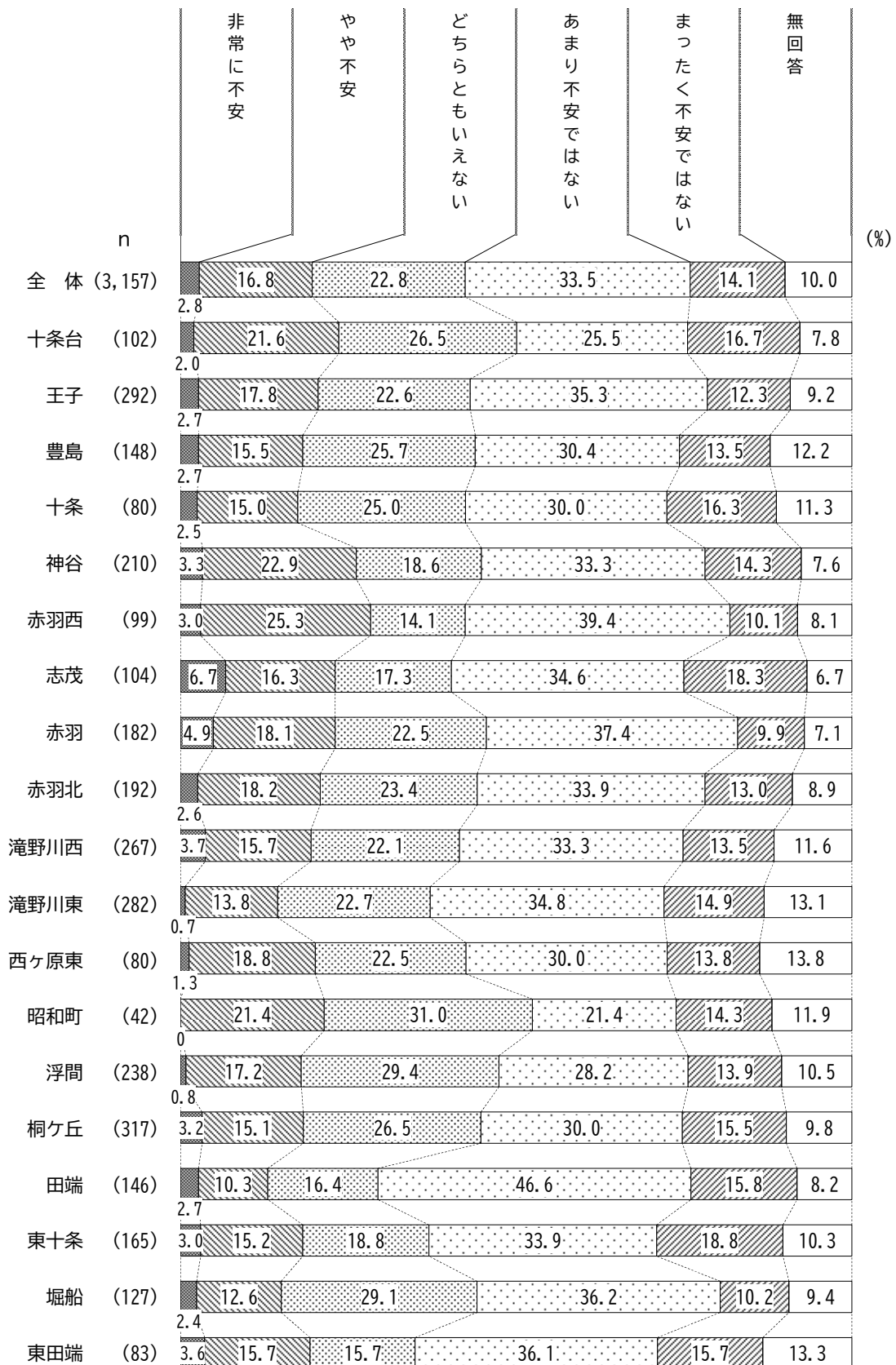
【認定者調査】



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈一般高齢者調査：居住地区別／孤独感の把握〉

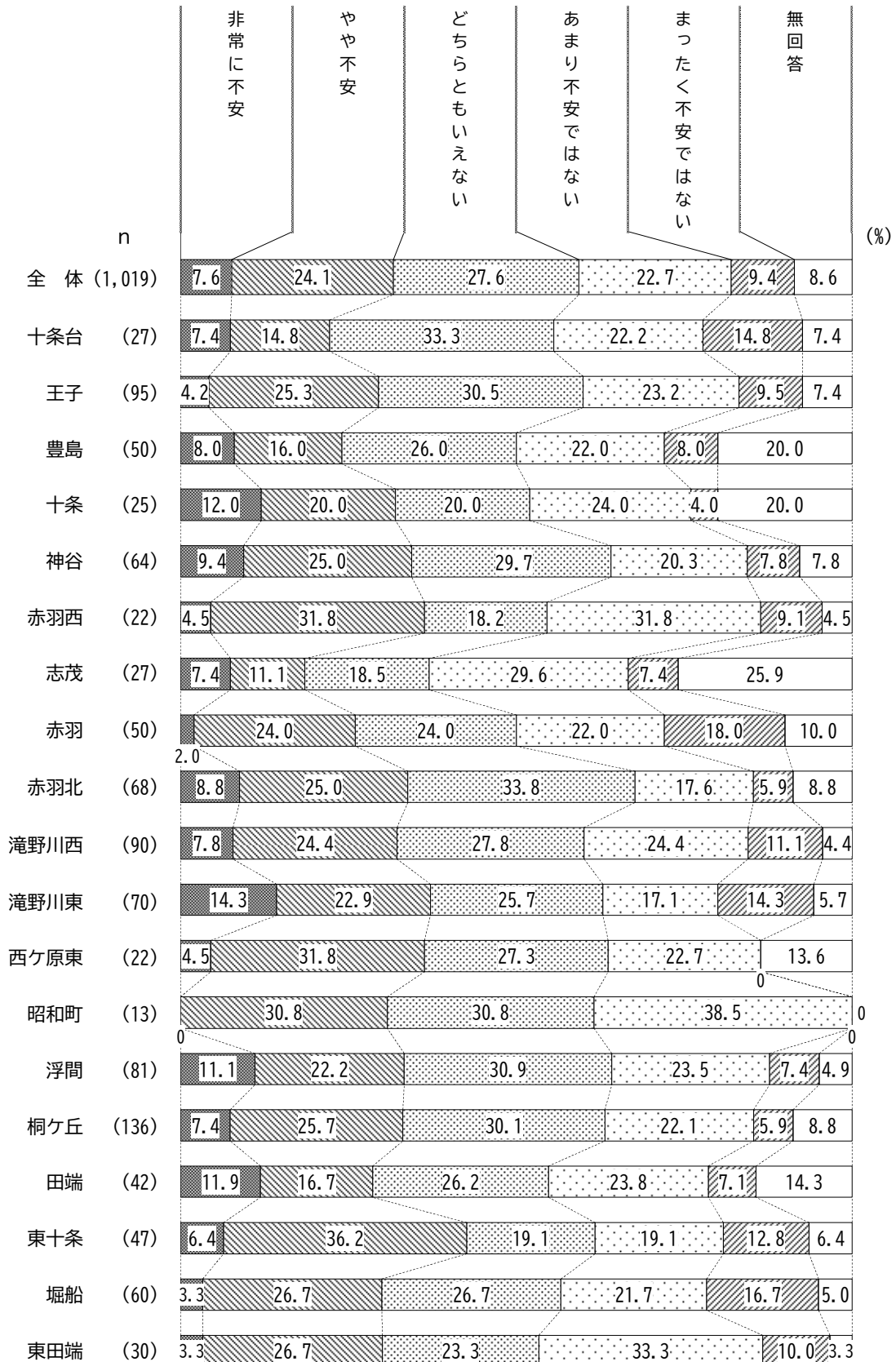
一般高齢者調査を居住地区別に見ると、『不安』の割合は、赤羽西（28.3%）、神谷（26.2%）、十条台（23.6%）の順で多く、最も少ないのは田端の13.0%となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈認定者調査：居住地区別／孤独感の把握〉

一般高齢者調査を居住地区別に見ると、『不安』の割合は、東十条（42.6%）、滝野川東（37.2%）、西ヶ原東（36.3%）の順で多く、最も少ないのは志茂の18.5%となっています。

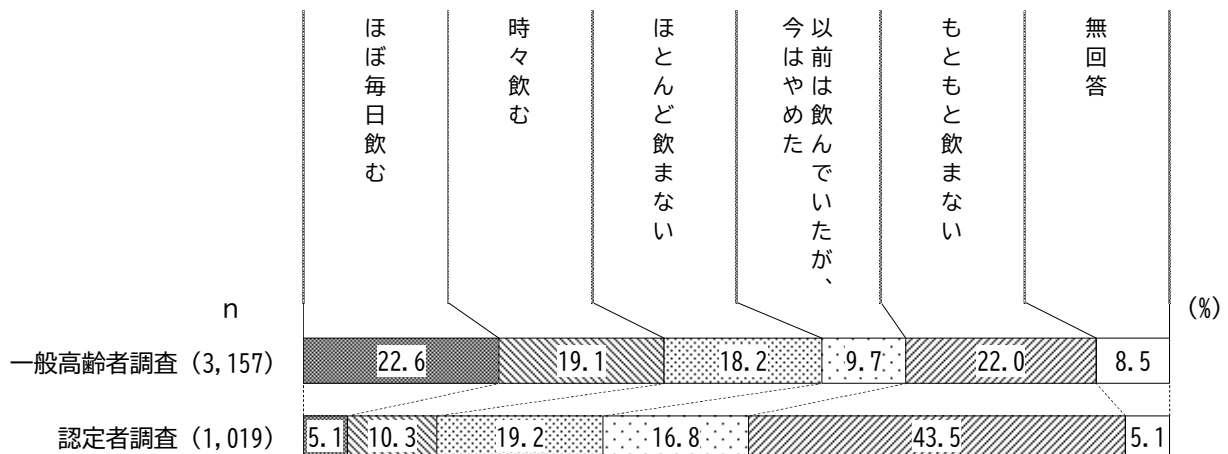


第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(6) 飲酒頻度

□Q6 認Q8. お酒は飲みますか。(○は1つ)

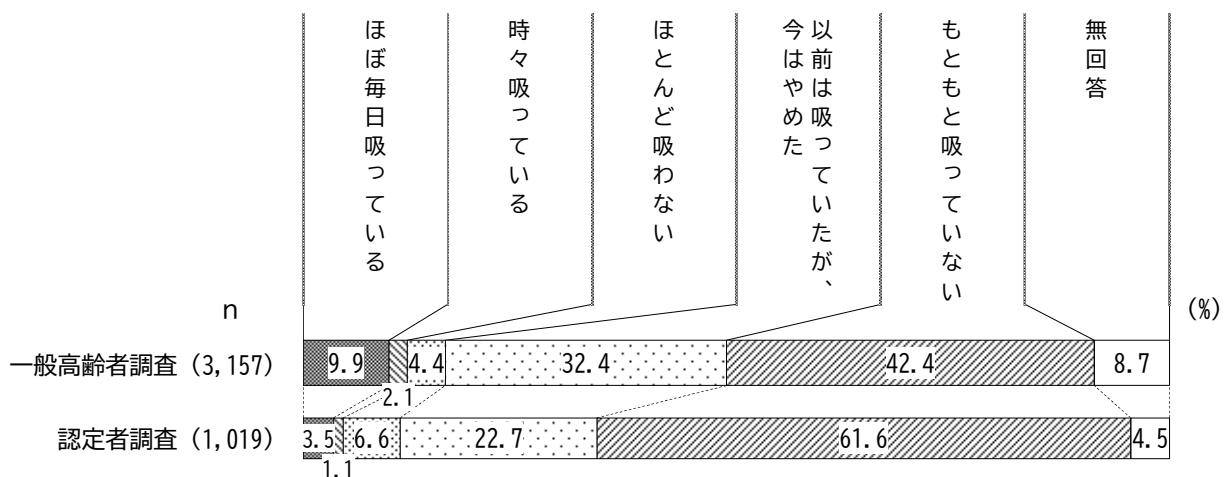
「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた『飲む』は、一般高齢者調査で41.7%、認定者調査では15.4%となっています。



(7) 喫煙頻度

□Q7 認Q9. タバコは吸っていますか。(○は1つ)

「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『吸っている』は、一般高齢者調査で12.0%、認定者調査で4.6%となっています。認定者調査では、「もともと吸っていない」が61.6%と最も多くなっています。

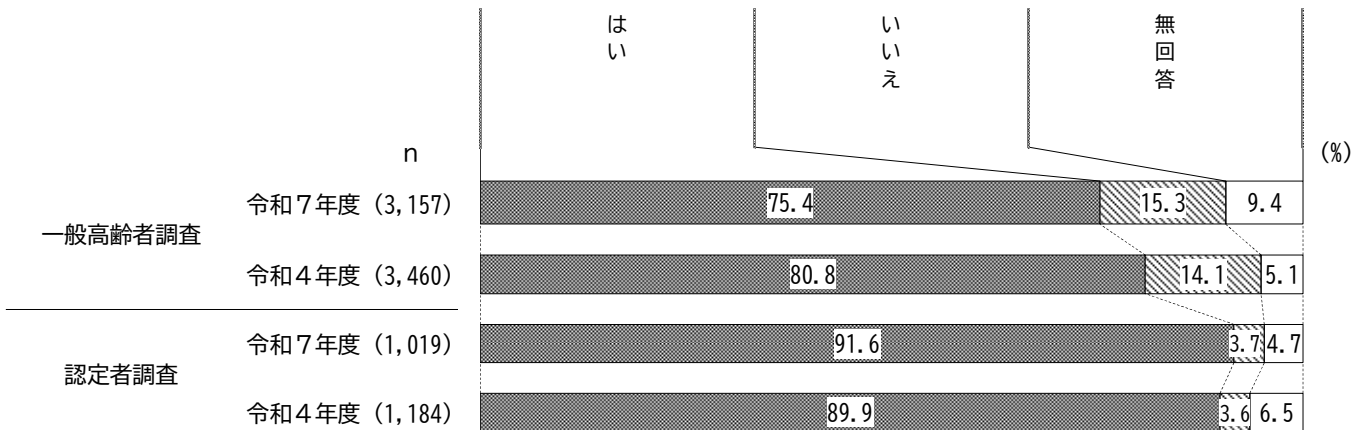


(8) かかりつけ医の有無

Q8 Q3. あなたは、かかりつけ医がいますか。

「はい」（いる）は、一般高齢者調査で75.4%、認定者調査で91.6%となっています。

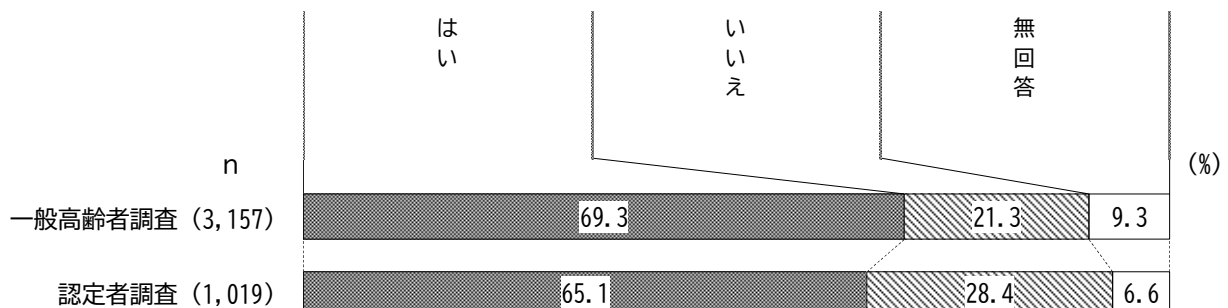
令和4年度と比較すると、認定者調査では大きな違いは見られないものの、一般高齢者調査では5.4ポイント減少しています。



(9) かかりつけ歯科医の有無

Q9 Q4. あなたは、かかりつけ歯科医がいますか。

「はい」（いる）は、一般高齢者調査で69.3%、認定者調査で65.1%となっています。

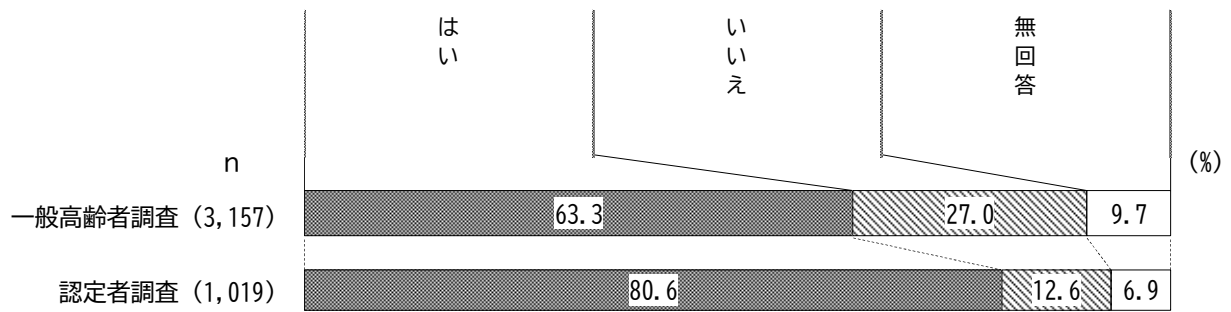


第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(10) かかりつけ薬剤師・薬局の有無

☐Q10 ☑Q5. あなたは、かかりつけ薬剤師・薬局がありますか。

「はい」（ある）は、一般高齢者調査で63.3%、認定者調査で80.6%となっています。

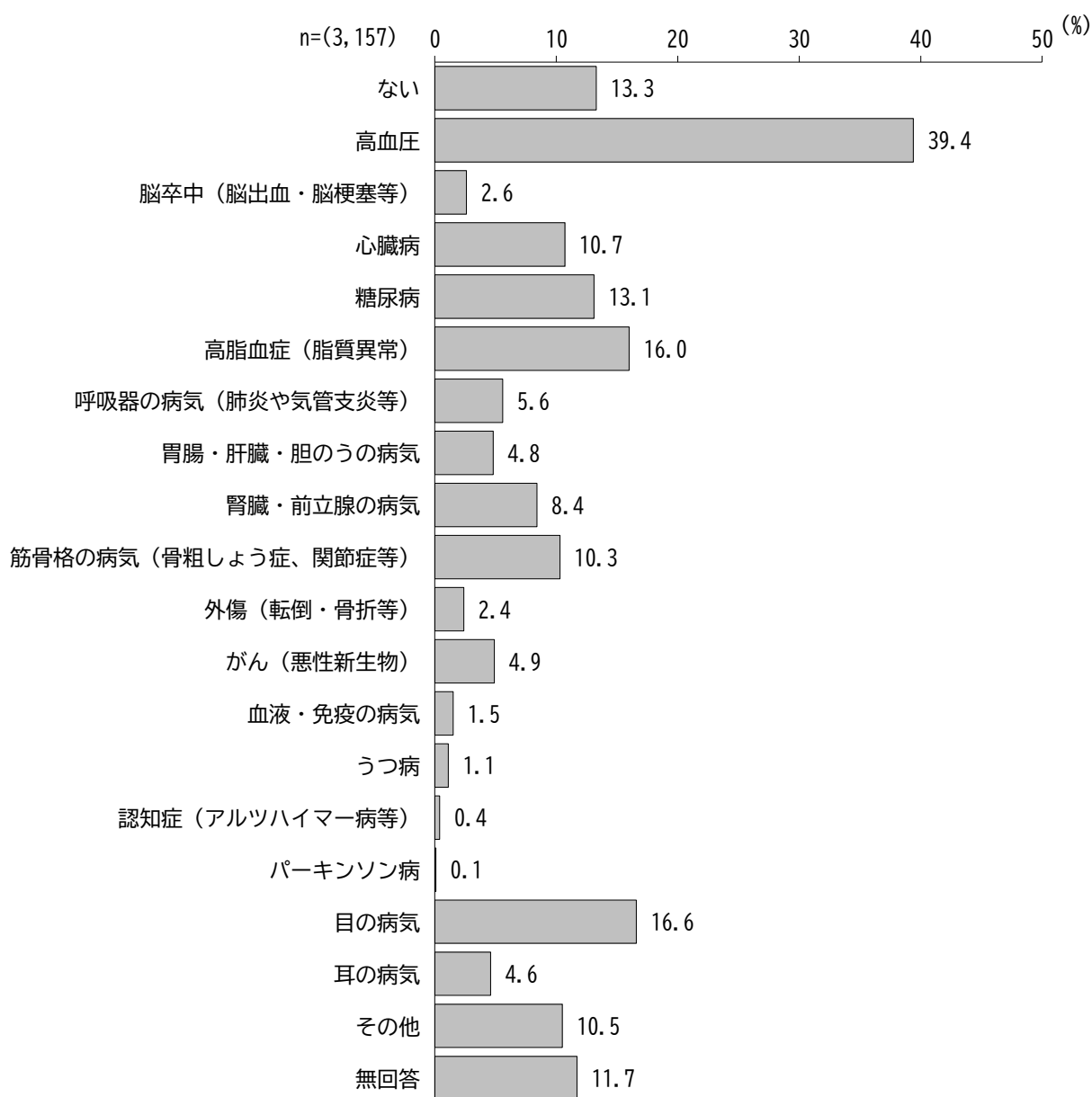


(11) 治療中や後遺症のある病気

□Q11. 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(あてはまるものすべてに○)

全体から「ない」(13.3%)と無回答(11.7%)を除いた75.0%が何らかの病気があると回答しています。

「高血圧」が39.4%と最も多く、次いで「目の病気」(16.6%)、「高脂血症(脂質異常)」(16.0%)、「糖尿病」(13.1%)となっています。

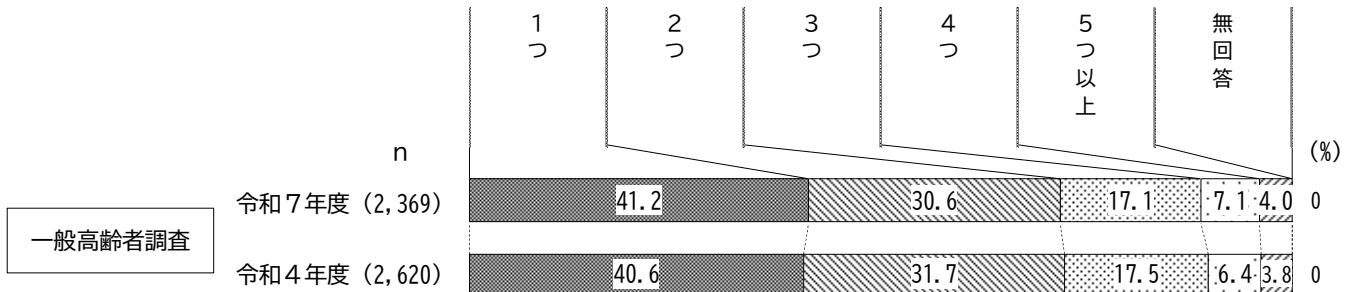


第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈治療中や後遺症のある病気の数〉

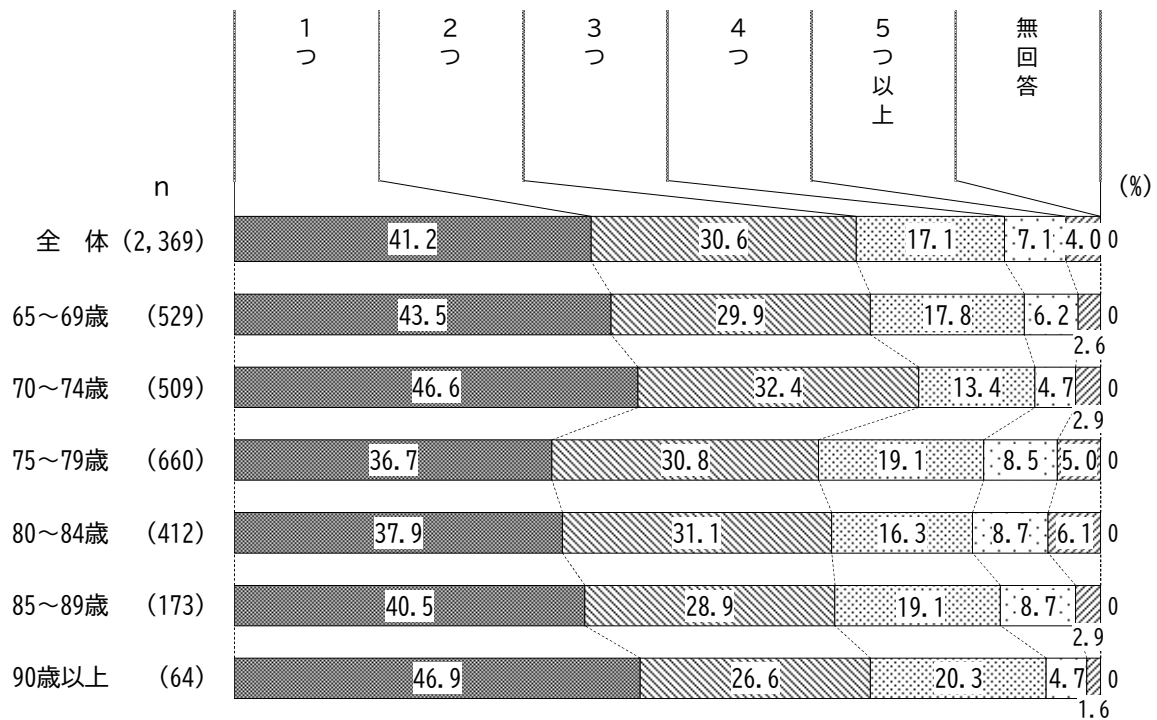
病気がある人のうち、複数の病気があるのは、合わせて58.8%となっています。

令和4年度と比較すると、大きな違いは見られません。



〈年齢別／治療中や後遺症のある病気の数〉

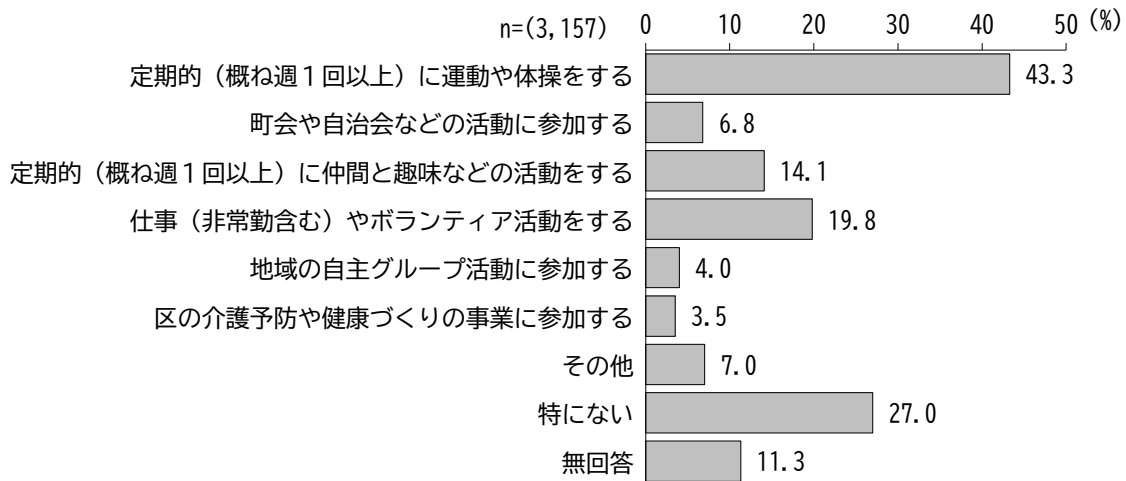
年齢別に見ると、すべての年代で複数の病気がある割合は半数を超えており、特に75～79歳と80～84歳で6割台と多くなっています。



(12) 長生きのために取り組んでいる、取り組みたい健康法

Q12. あなたがいつまでも健康に長生きできるよう、取り組んでいることはありますか。また、取り組んでみたいと思うことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

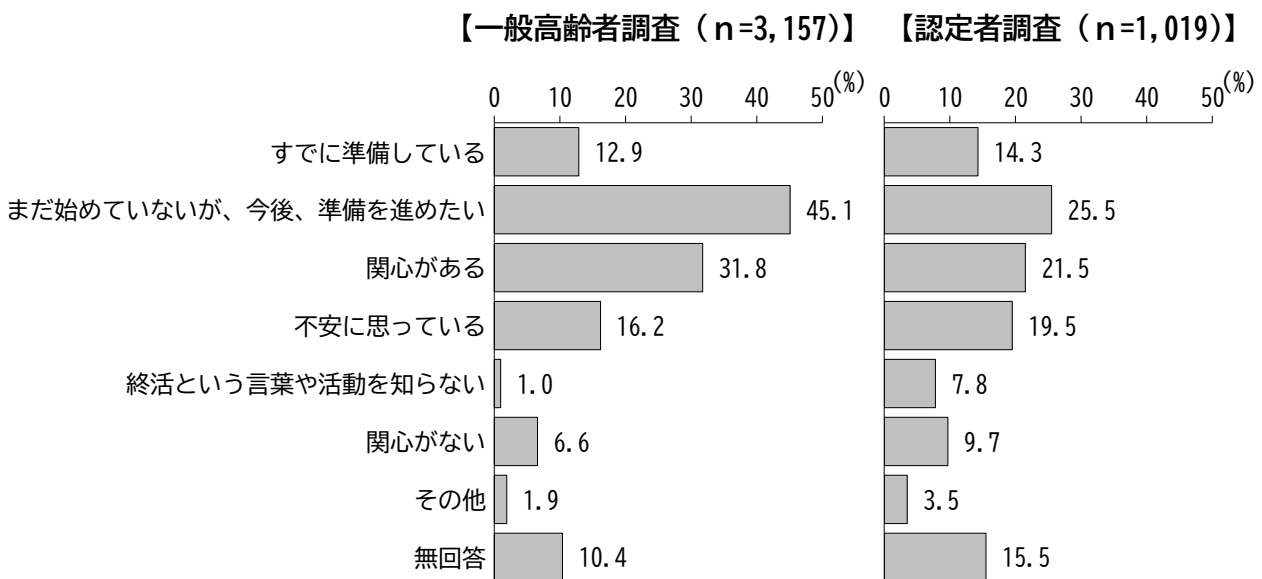
「定期的（概ね週1回以上）に運動や体操をする」が43.3%と最も多く、次いで、「仕事（非常勤含む）やボランティア活動をする」が19.8%、「定期的（概ね週1回以上）に仲間と趣味などの活動をする」が14.1%となっています。



(13) 終活についての考え

Q13 Q10. 終活についてどのように考えていますか。（あてはまるものすべてに○）

いずれの調査でも「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」が最も多く、次いで「関心がある」、「不安に思っている」、「すでに準備している」の順になっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈性別／終活についての考え〉

性別に見ると、いずれの調査も「関心がない」は男性の方が女性より多くなっています。また、一般高齢者調査では「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」は女性の方が男性より多くなっています。

【一般高齢者調査】

(%)

	回答者数	すでに準備している	今まだ始めていないが、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
一般／全体	3,157	12.9	45.1	31.8	16.2	1.0	6.6	1.9	10.4
男性	1,534	10.7	42.6	29.5	15.3	1.0	10.2	1.9	9.5
女性	1,586	15.3	47.9	34.2	17.2	1.0	3.0	1.9	10.9

【認定者調査】

(%)

	回答者数	すでに準備している	今まだ始めていないが、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
認定者／全体	1,019	14.3	25.5	21.5	19.5	7.8	9.7	3.5	15.5
男性	268	12.7	27.6	18.7	20.9	7.1	15.3	1.9	12.7
女性	728	14.8	24.9	22.8	19.4	7.8	7.7	4.3	16.3

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈年齢別／終活についての考え〉

年齢別に見ると、いずれの調査も低年齢層ほど「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」の割合が多く、高年齢層ほど「すでに準備している」の割合が多くなっています。認定者調査では高年齢層ほど「終活という言葉や活動を知らない」の割合が多く、90歳以上で1割を超えています。

【一般高齢者調査】

	回答者数	すでに準備している	まだ始めていないが、今後、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
一般／全体	3,157	12.9	45.1	31.8	16.2	1.0	6.6	1.9	10.4
65～69歳	729	9.1	48.3	35.4	18.5	0.5	6.6	1.8	6.3
70～74歳	695	8.2	50.6	33.2	15.3	1.3	7.3	1.6	9.8
75～79歳	853	14.4	45.6	30.0	15.2	0.9	7.2	1.6	10.6
80～84歳	527	18.8	40.8	30.4	17.6	0.4	4.9	1.7	12.1
85～89歳	227	18.5	34.8	29.1	16.3	3.1	4.8	2.6	13.7
90歳以上	88	20.5	30.7	30.7	10.2	2.3	8.0	4.5	19.3

【認定者調査】

	回答者数	すでに準備している	まだ始めていないが、今後、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
認定者／全体	1,019	14.3	25.5	21.5	19.5	7.8	9.7	3.5	15.5
65～69歳	33	3.0	42.4	21.2	42.4	-	9.1	3.0	3.0
70～74歳	63	11.1	30.2	28.6	15.9	1.6	12.7	3.2	14.3
75～79歳	135	10.4	31.9	23.7	23.7	3.0	9.6	3.0	14.1
80～84歳	192	9.9	28.1	24.0	21.4	6.8	8.3	2.6	20.3
85～89歳	263	14.4	24.7	25.9	17.5	7.2	8.7	4.9	14.4
90歳以上	320	20.6	19.1	15.0	17.2	12.8	10.6	3.4	15.0

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈家族構成別／終活についての考え〉

家族構成別に見ると、いずれの調査も「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」は“配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）”で多く、「不安に思っている」は“1人暮らし”で多くなっています。また、ほとんどの家族構成で「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」が最も多いですが、一般高齢者調査の“配偶者・パートナーと同居（配偶者等64歳以下）”では「関心がある」が最も多くなっています。

【一般高齢者調査】

	回答者数	すでに準備している	今まだ始めていないが、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉を知らない	関心がない	その他	無回答
一般／全体	3157	12.9	45.1	31.8	16.2	1.0	6.6	1.9	10.4
1人暮らし	1390	13.5	43.9	30.2	19.4	1.1	7.1	2.1	10.2
配偶者・パートナーと同居 (配偶者等65歳以上)	1009	11.6	47.9	34.7	13.9	1.0	6.4	1.1	9.0
配偶者・パートナーと同居 (配偶者等64歳以下)	38	18.4	26.3	39.5	13.2	2.6	7.9	-	10.5
息子・娘との2世帯	373	12.9	46.6	32.2	13.1	0.5	4.6	2.1	11.8
その他	296	15.2	44.6	30.1	15.2	1.0	6.1	3.7	10.1

【認定者調査】

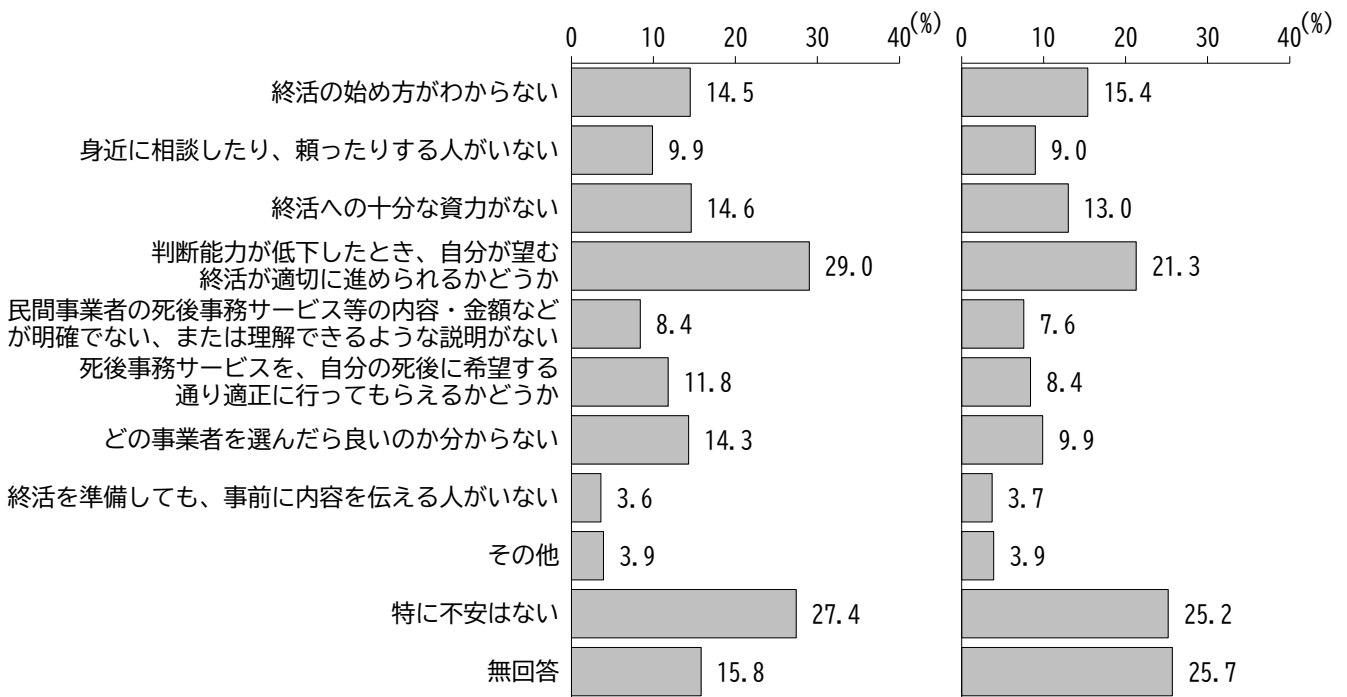
	回答者数	すでに準備している	今まだ始めていないが、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉を知らない	関心がない	その他	無回答
認定者／全体	1019	14.3	25.5	21.5	19.5	7.8	9.7	3.5	15.5
1人暮らし	603	14.1	26.9	24.7	22.4	6.0	8.6	4.0	13.6
配偶者・パートナーと同居 (配偶者等65歳以上)	121	11.6	36.4	24.8	17.4	4.1	12.4	0.8	11.6
配偶者・パートナーと同居 (配偶者等64歳以下)	5	20.0	60.0	-	-	20.0	-	-	-
息子・娘との2世帯	148	16.2	24.3	14.2	11.5	11.5	12.2	4.1	15.5
その他	117	17.9	10.3	14.5	18.8	15.4	9.4	3.4	23.9

(14) 終活の準備にあたり不安なこと

Q14 Q11. 終活の準備にあたって、不安に思っていることを教えてください。
 (あてはまるものすべてに○)

「特に不安はない」を除くと、いずれの調査も「判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか」が最も多く、次いで一般高齢者調査では「終活への十分な資力がない」、認定者調査では「終活の始め方がわからない」となっています。

【一般高齢者調査 (n=3,157)】 【認定者調査 (n=1,019)】



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈性別／終活の準備にあたり不安なこと〉

性別に見ると、一般高齢者調査では「終活の始め方がわからない」は男性の方が女性よりやや多く、認定者調査では「終活への十分な資力がいない」は男性の方が女性より多くなっています。

【一般高齢者調査】

	回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がいない	判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容が不明確でない、または理容・金額などが説明できない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通りに行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのかわからない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
一般／全体	3,157	14.5	9.9	14.6	29.0	8.4	11.8	14.3	3.6	3.9	27.4	15.8
男性	1,534	16.8	11.7	15.4	28.2	8.4	11.9	12.8	3.8	3.2	27.6	13.7
女性	1,586	12.3	8.1	13.5	29.9	8.4	11.9	15.9	3.3	4.5	27.5	17.5

【認定者調査】

	回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がいない	将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容が不明確でない、または理容・金額などが説明できない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通りに行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのかわからない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
認定者／全体	1,019	15.4	9.0	13.0	21.3	7.6	8.4	9.9	3.7	3.9	25.2	25.7
男性	268	18.7	9.7	19.8	19.0	10.4	9.0	11.9	7.1	3.4	28.0	19.4
女性	728	14.6	8.7	10.6	22.3	6.6	8.1	9.3	2.3	4.3	24.2	27.6

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈年齢別／終活の準備にあたり不安なこと〉

年齢別に見ると、いずれの調査も高齢層ほど「特に不安はない」の割合が多くなっています。一般高齢者調査では、ほとんどの項目で低年齢層ほど割合がおおむね多く、認定者調査でも「将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか」、「どの事業者を選んだら良いのか分からない」、「死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか」は低年齢層ほど割合が多くなっています。

【一般高齢者調査】

	回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力が無い	判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
一般／全体	3,157	14.5	9.9	14.6	29.0	8.4	11.8	14.3	3.6	3.9	27.4	15.8
65～69歳	729	15.9	12.3	19.3	33.3	11.7	14.7	17.0	4.7	3.3	26.3	8.1
70～74歳	695	16.0	11.7	15.4	30.6	6.5	13.5	15.4	4.0	3.3	26.8	13.4
75～79歳	853	14.3	9.4	12.2	29.9	8.9	11.6	14.0	3.5	4.1	29.4	16.3
80～84歳	527	14.0	6.5	13.3	26.0	7.4	8.7	13.3	1.9	3.6	25.6	21.8
85～89歳	227	9.3	8.8	11.9	22.9	7.0	9.7	9.3	4.0	5.3	27.3	23.8
90歳以上	88	11.4	4.5	5.7	12.5	3.4	4.5	10.2	-	6.8	35.2	29.5

【認定者調査】

	回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力が無い	将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
認定者／全体	1,019	15.4	9.0	13.0	21.3	7.6	8.4	9.9	3.7	3.9	25.2	25.7
65～69歳	33	18.2	15.2	21.2	33.3	12.1	18.2	15.2	9.1	6.1	21.2	3.0
70～74歳	63	9.5	11.1	25.4	25.4	11.1	12.7	14.3	9.5	-	19.0	22.2
75～79歳	135	16.3	15.6	11.1	24.4	13.3	13.3	17.0	6.7	3.0	16.3	23.7
80～84歳	192	17.7	9.9	14.1	23.4	5.7	8.3	12.0	2.6	3.6	19.8	29.7
85～89歳	263	16.0	6.1	14.1	20.2	6.8	6.5	6.8	2.7	5.7	28.1	24.0
90歳以上	320	14.4	7.5	9.1	17.2	5.6	6.6	6.6	2.2	3.8	31.6	28.1

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈家族構成別／終活の準備にあたり不安なこと〉

家族構成別に見ると、いずれの調査も「身近に相談したり、頼ったりする人がいない」は“1人暮らし”で多くなっています。また、「特に不安はない」はいずれの調査も“1人暮らし”で少なく、認定者調査では“配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）”でも少なくなっています。

【一般高齢者調査】

	回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がいない	終活が適切に進められたとき、自分が望む	民間事業者の死後事務サービス等の内容が不明確でない、または理解できない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通りに行ってもらえるかどうか	などの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
一般／全体	3,157	14.5	9.9	14.6	29.0	8.4	11.8	14.3	3.6	3.9	27.4	15.8
1人暮らし	1,390	14.1	14.0	16.0	30.4	10.1	14.5	16.3	6.2	4.3	24.3	16.5
配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）	1,009	16.7	6.7	12.1	29.2	7.4	10.6	13.3	1.9	3.4	29.4	13.1
配偶者・パートナーと同居（配偶者等64歳以下）	38	15.8	5.3	18.4	31.6	7.9	10.5	15.8	2.6	2.6	31.6	18.4
息子・娘との2世帯	373	13.1	6.4	14.2	24.7	6.2	6.4	10.5	0.8	1.9	33.8	16.9
その他	296	10.5	6.8	16.2	28.4	7.8	11.5	14.5	1.0	6.1	28.4	16.2

【認定者調査】

	回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がいない	自分が望むに終活が適切に進められたとき、将来的に判断能力が低下したとき、自分で進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容が不明確でない、または理解できない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通りに行ってもらえるかどうか	などの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
認定者／全体	1019	15.4	9.0	13.0	21.3	7.6	8.4	9.9	3.7	3.9	25.2	25.7
1人暮らし	603	15.3	10.8	13.9	22.6	7.8	10.0	10.1	4.5	4.5	22.6	24.2
配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）	121	21.5	8.3	12.4	23.1	7.4	7.4	15.7	4.1	2.5	24.0	24.8
配偶者・パートナーと同居（配偶者等64歳以下）	5	20.0	-	20.0	40.0	-	-	-	-	-	60.0	-
息子・娘との2世帯	148	14.9	7.4	11.5	20.3	4.7	4.7	5.4	1.4	1.4	35.1	23.0
その他	117	11.1	4.3	9.4	14.5	11.1	6.8	10.3	2.6	6.8	29.1	33.3

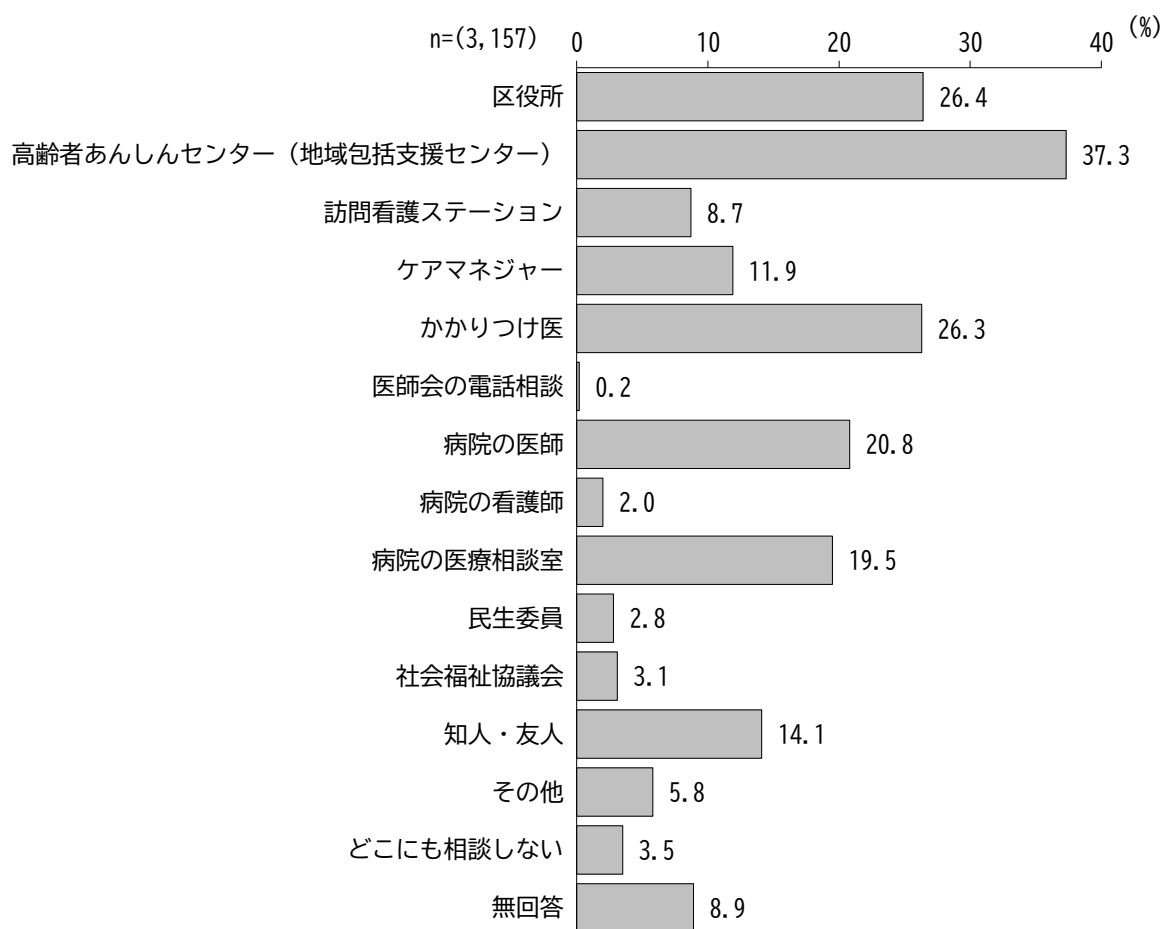
10. 在宅療養

(1) 在宅療養に関する相談先

Q1. あなたが、もし入院生活から退院し、在宅で医療を受けながら生活する場合、どこに相談しますか。(〇は3つまで)

全体から「どこにも相談しない」(3.5%)と無回答(8.9%)を除いた87.6%が何らかの相談先を挙げています。

高齢者あんしんセンター(地域包括支援センター)が37.3%と最も多く、次いで「区役所」(26.4%)、「かかりつけ医かかりつけ医」(26.3%)、「病院の医師」(20.8%)となっています。

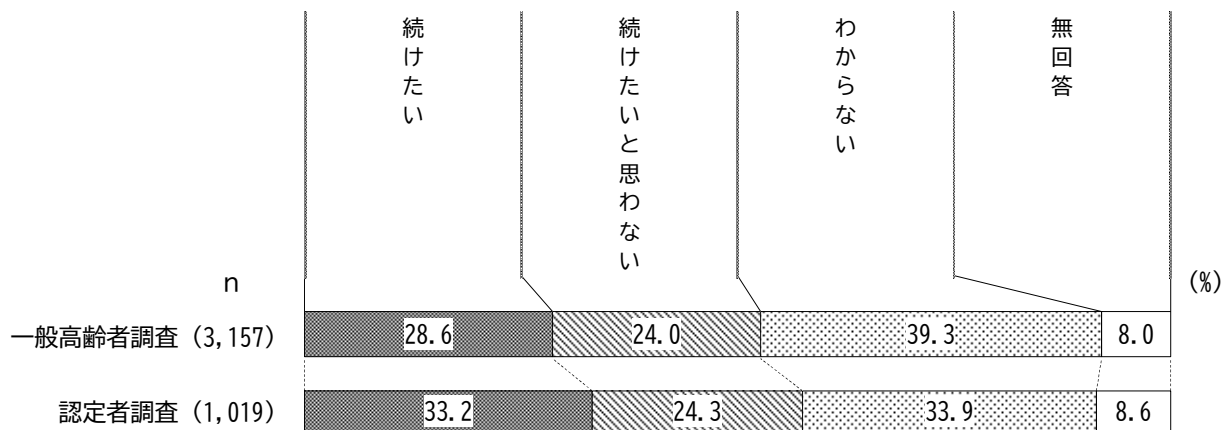


第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(2) 在宅療養の継続希望

□Q2 問5 Q15. あなたが、もしがんや脳梗塞などにより長期の療養が必要となった場合、理想として自宅での療養を続けたいと考えていますか。(○は1つ)

「続けたい」は、認定者調査で33.2%と一般高齢者調査の28.6%を上回っています。



(3) 在宅療養の実現可能性

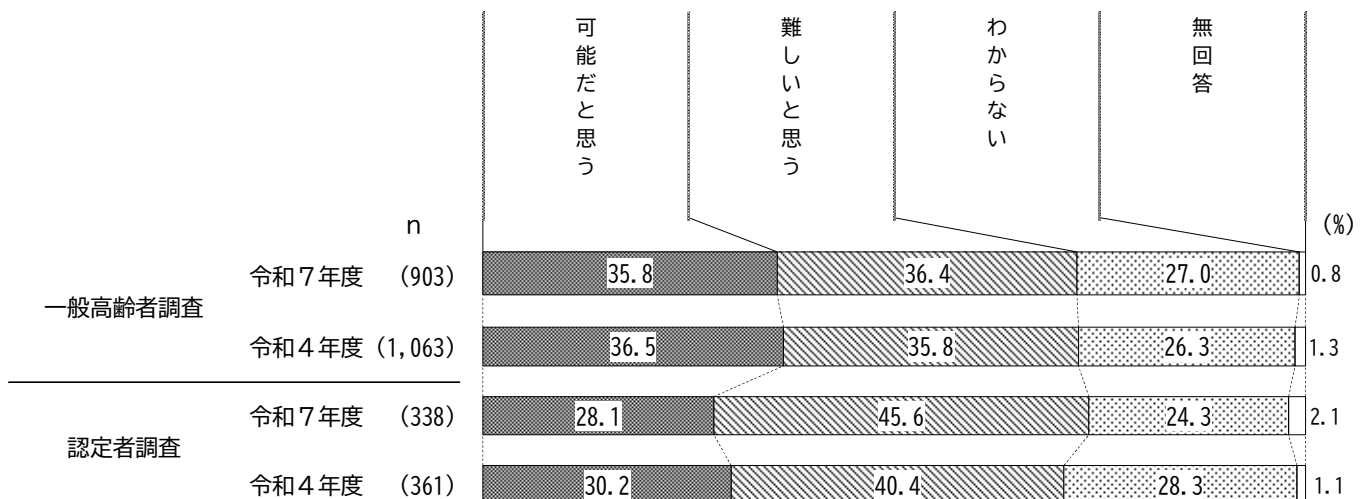
【□Q2 問5 Q15で「1. 続けたい」と答えた方に伺います】

□Q3 問5 Q16. 実際に自宅での療養は実現可能だと思いますか。(○は1つ)

「可能だと思う」は一般高齢者調査で35.8%と、認定者調査の28.1%を上回っています。

「難しいと思う」は、認定者調査の45.6%が一般高齢者調査の36.4%を上回っています。

令和4年度と比較すると、一般高齢者調査では大きな違いは見られないものの、認定者調査では「難しいと思う」が5.2ポイント増加しています。



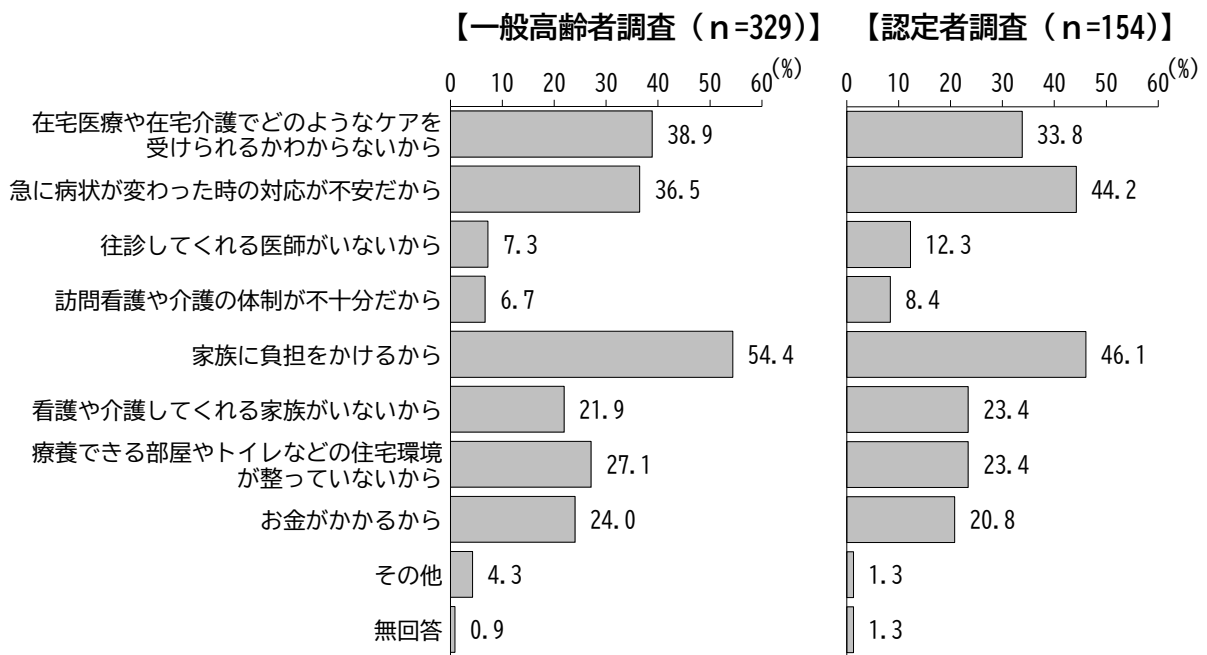
(4) 在宅療養が難しいと思う理由

【Q3 Q16で「2. 難しいと思う」と答えた方に伺います】

Q4 問5 Q17. 自宅での療養が難しいと思う理由は何ですか。(○は3つまで)

いずれの調査も「家族に負担をかけるから」が最も多くなっています。

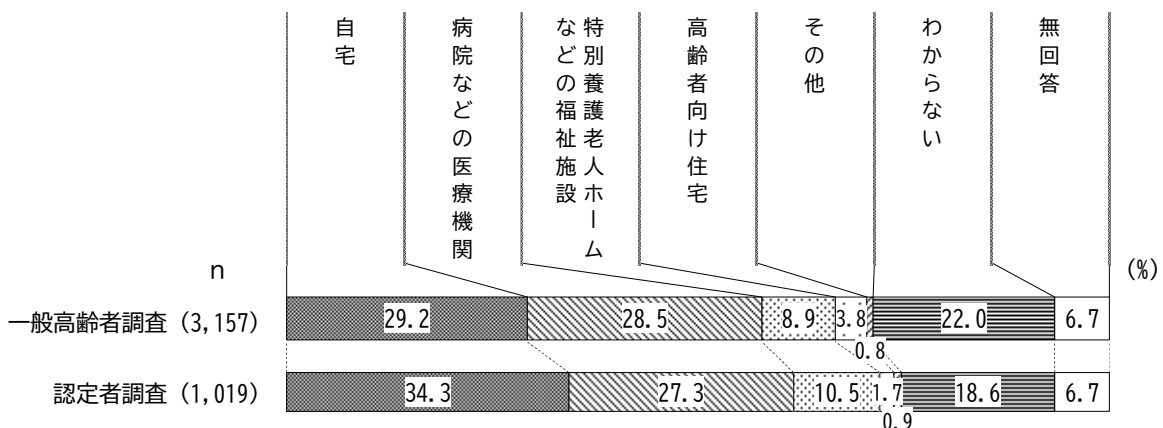
以下、一般高齢者調査では、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからないから」(38.9%)、「急に病状が変わった時の対応が不安だから」(36.5%)と続き、認定者調査では、「急に病状が変わった時の対応が不安だから」(44.2%)、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからないから」(33.8%)の順になっています。



(5) 最期を迎えたい場所

Q5 問5 Q18. あなたが病気などで人生の最期を迎える時が来た場合、どこで過ごしたいと思いますか。(○は1つ)

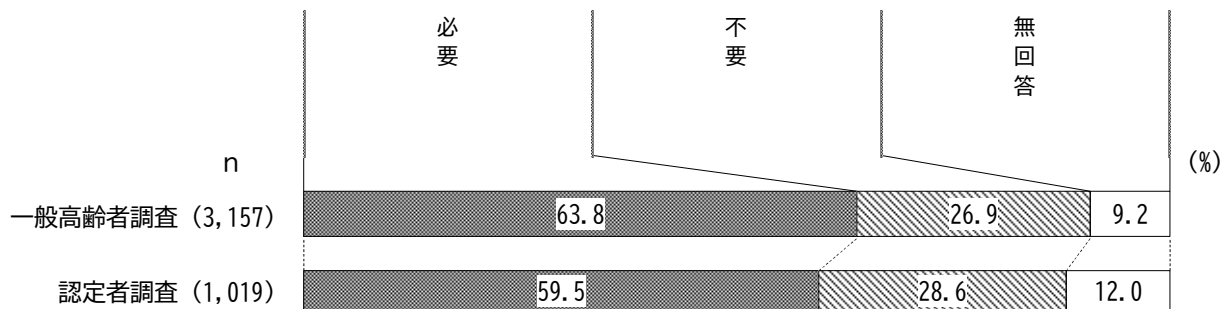
いずれの調査も「自宅」が最も多く、次いで「病院などの医療機関」となっています。



(6) 最期を迎えたい場所について周囲と話し合う機会

Q6 問5 Q19. 最期を迎えたい場所について、周囲の人と話し合う機会が必要だと思いますか。(○は1つ)

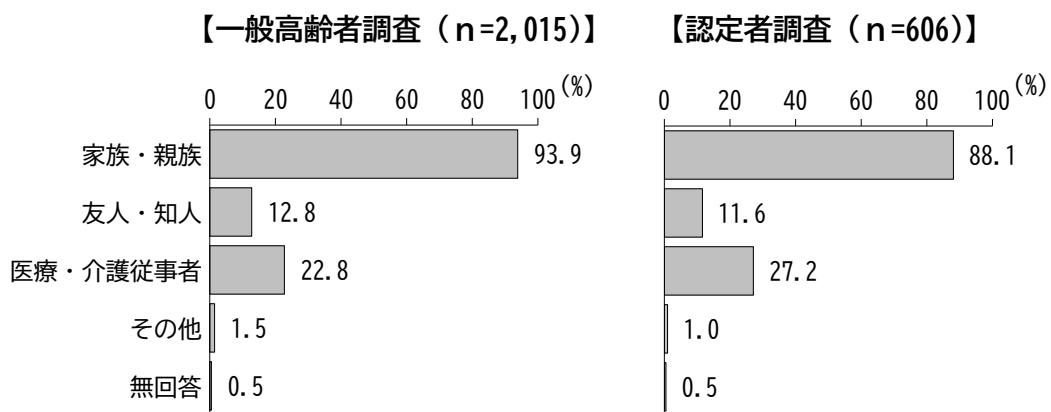
「必要」は、一般高齢者調査で63.8%と認定者調査の59.5%を上回っています。



(7) 最期を迎えたい場所について話す人

【 Q6 Q19で「1. 必要」と答えた方に伺います】
 Q7 問5 Q20. どなたとお話しようと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

いずれの調査も「家族・親族」が最も多く、次いで「医療・介護従事者」、「友人・知人」となっています。



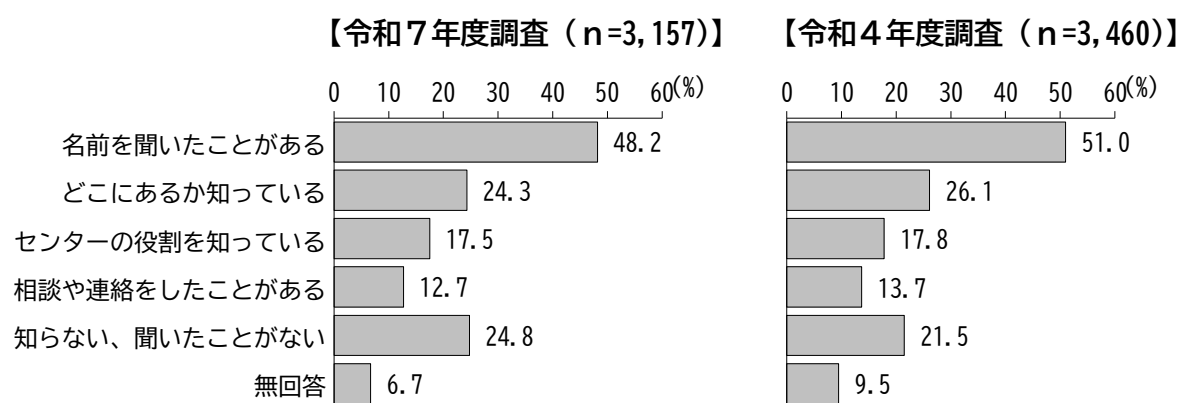
11. 介護の状況など

(1) 「高齢者あんしんセンター」の認知度

Q1. あなたは、高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）について、どの程度ご存知ですか。（あてはまるものすべてに○）

「名前を聞いたことがある」が48.2%と最も多く、次いで「知らない、聞いたことがない」（24.8%）、「どこにあるか知っている」（24.3%）となっています。

令和4年度と比較すると、「知らない、聞いたことがない」は全体で3位から2位に順位が上がっており、割合も3.3ポイント増加しています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈居住地区別／「高齢者あんしんセンター」の認知度〉

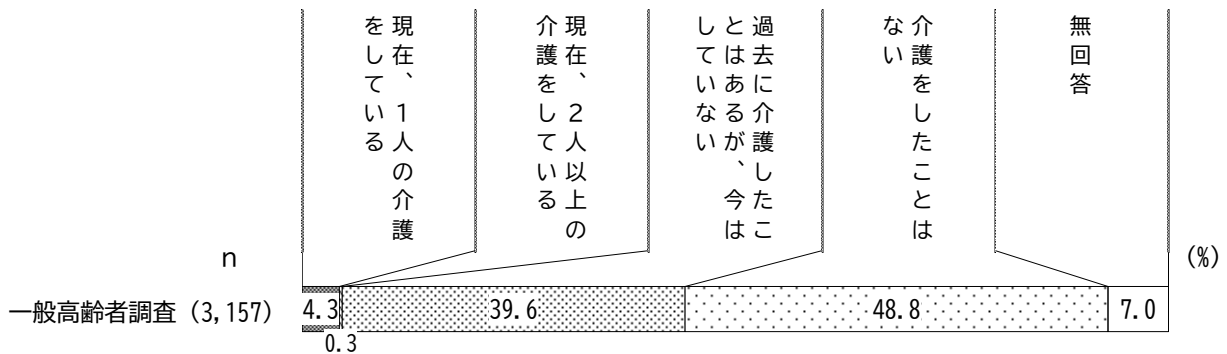
居住地区別に見ると、『知っている』（「知らない、聞いたことがない」と無回答を除く）の割合は、赤羽（74.8%）で最も多く、浮間（73.9%）、田端（73.3%）と続きます。一方、「知らない、聞いたことがない」の割合は、昭和町（40.5%）で最も多く、西ヶ原東（37.5%）、十条台（34.3%）と続きます。

							(%)
	回答者数	名前を聞いたことがある	どこにあるか知っている	センターの役割を知っている	相談や連絡をしたことがある	知らない、聞いたことがない	無回答
一般／全体	3,157	48.2	24.3	17.5	12.7	24.8	6.7
十条台	102	45.1	19.6	10.8	6.9	34.3	3.9
王子	292	52.4	20.2	18.8	8.2	21.2	9.6
豊島	148	46.6	19.6	17.6	8.8	27.0	8.1
十条	80	35.0	25.0	23.8	15.0	30.0	5.0
神谷	210	50.0	25.2	15.7	13.3	22.9	9.0
赤羽西	99	43.4	25.3	17.2	13.1	31.3	4.0
志茂	104	51.9	22.1	16.3	12.5	26.0	1.9
赤羽	182	42.9	29.1	22.0	19.2	20.3	4.9
赤羽北	192	48.4	28.6	19.3	16.1	21.9	5.2
滝野川西	267	50.6	19.5	13.1	11.6	25.1	8.2
滝野川東	282	47.5	23.4	20.9	13.5	25.2	8.5
西ヶ原東	80	45.0	15.0	10.0	11.3	37.5	11.3
昭和町	42	33.3	16.7	19.0	19.0	40.5	4.8
浮間	238	52.5	34.0	20.2	11.3	22.3	3.8
桐ヶ丘	317	48.3	26.5	16.4	13.2	22.7	7.9
田端	146	47.3	26.0	21.9	15.8	22.6	4.1
東十条	165	46.7	26.7	13.9	13.9	27.3	6.1
堀船	127	50.4	21.3	15.0	15.0	23.6	6.3
東田端	83	53.0	22.9	15.7	7.2	24.1	7.2

(2) 家族・親族の介護経験

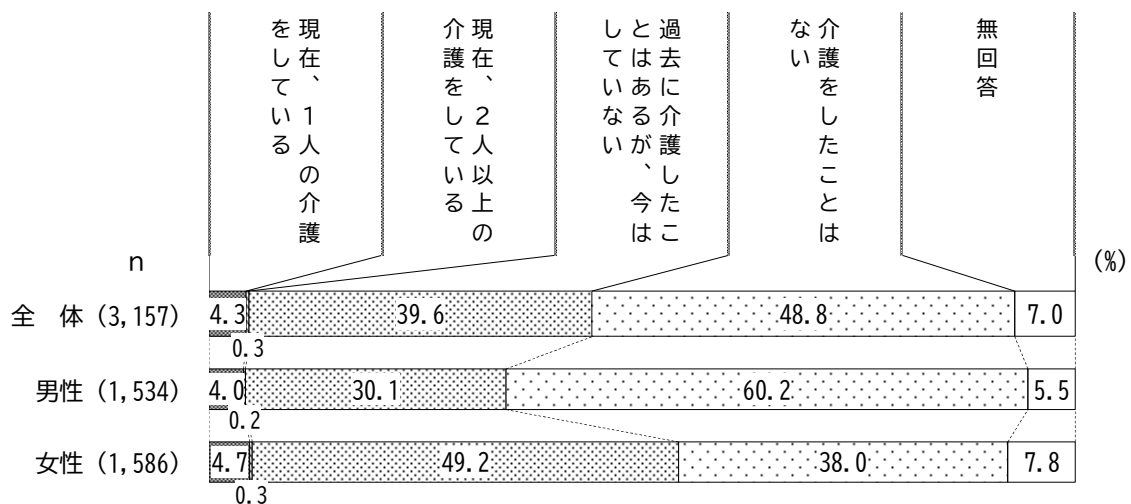
☐Q2. あなたは、ご家族または親族の介護をしていますか。(○は1つ)

「介護をしたことはない」が48.8%と半数近く、「現在、1人の介護をしている」、「現在、2人以上の介護をしている」、「過去に介護したことはあるが、今はしていない」を合わせた『介護経験あり』は44.2%となっています。



〈性別／家族・親族の介護経験〉

性別に見ると、『介護経験あり』は、女性で54.2%と男性の34.3%より多くなっています。

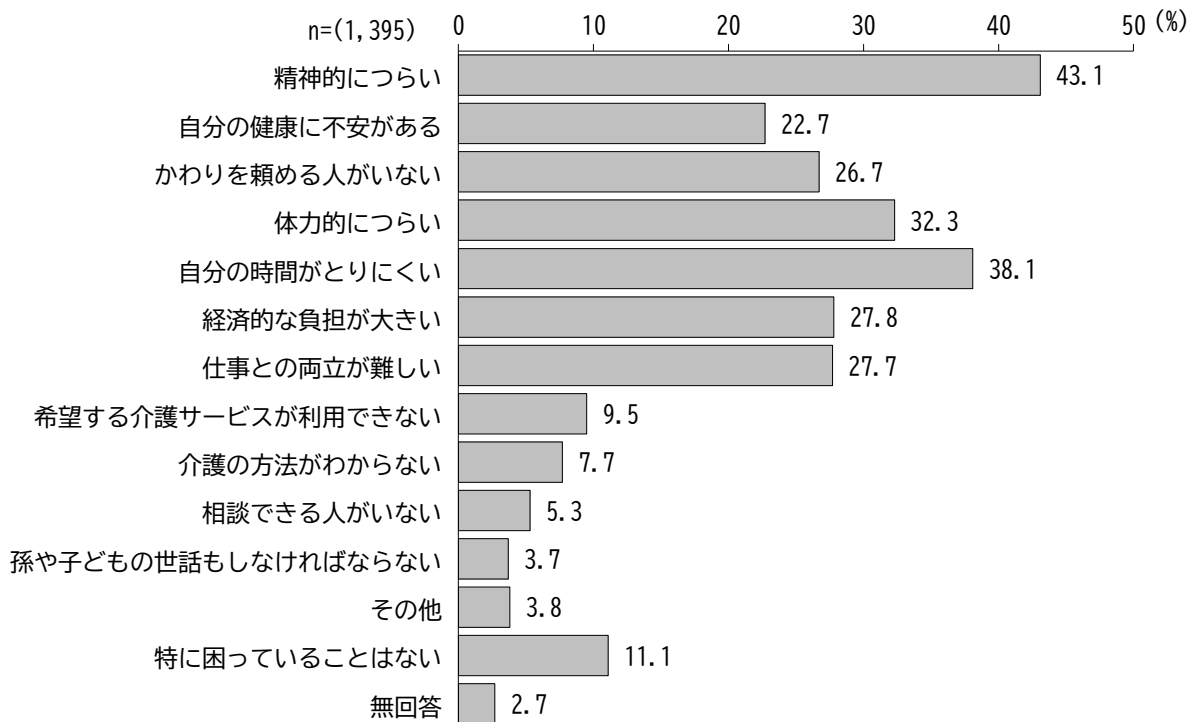


(3) 介護で困っていること

【☐Q2で「1～3」と答えた方に伺います。】

☐Q3. 介護をするうえで困っていること（困っていたこと）は何ですか。
 （あてはまるものすべてに○）

「精神的につらい」が43.1%と最も多く、以下、「自分の時間がとりにくい」（38.1%）、「体力的につらい」（32.3%）、「経済的な負担が大きい」（27.8%）、「仕事との両立が難しい」（27.7%）、「かわりを頼める人がいない」（26.7%）と続いています。

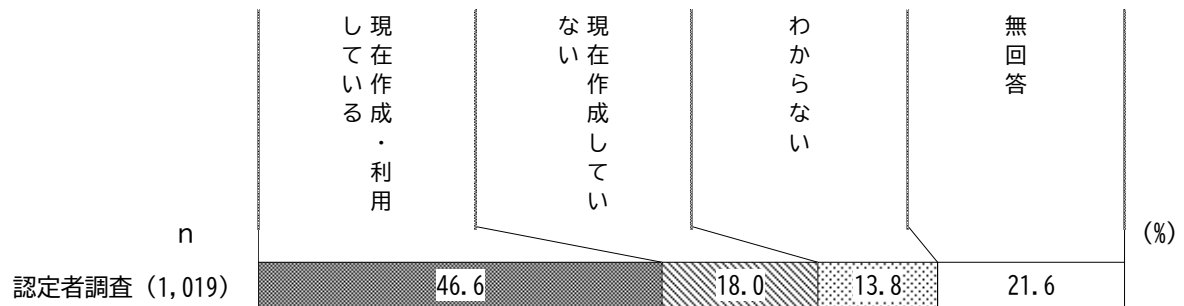


12. 介護保険サービス

(1) ケアプランの利用

認Q1. あなたは現在、ケアプランを作成・利用していますか。(○は1つ)

「現在作成・利用している」が46.6%となっています。

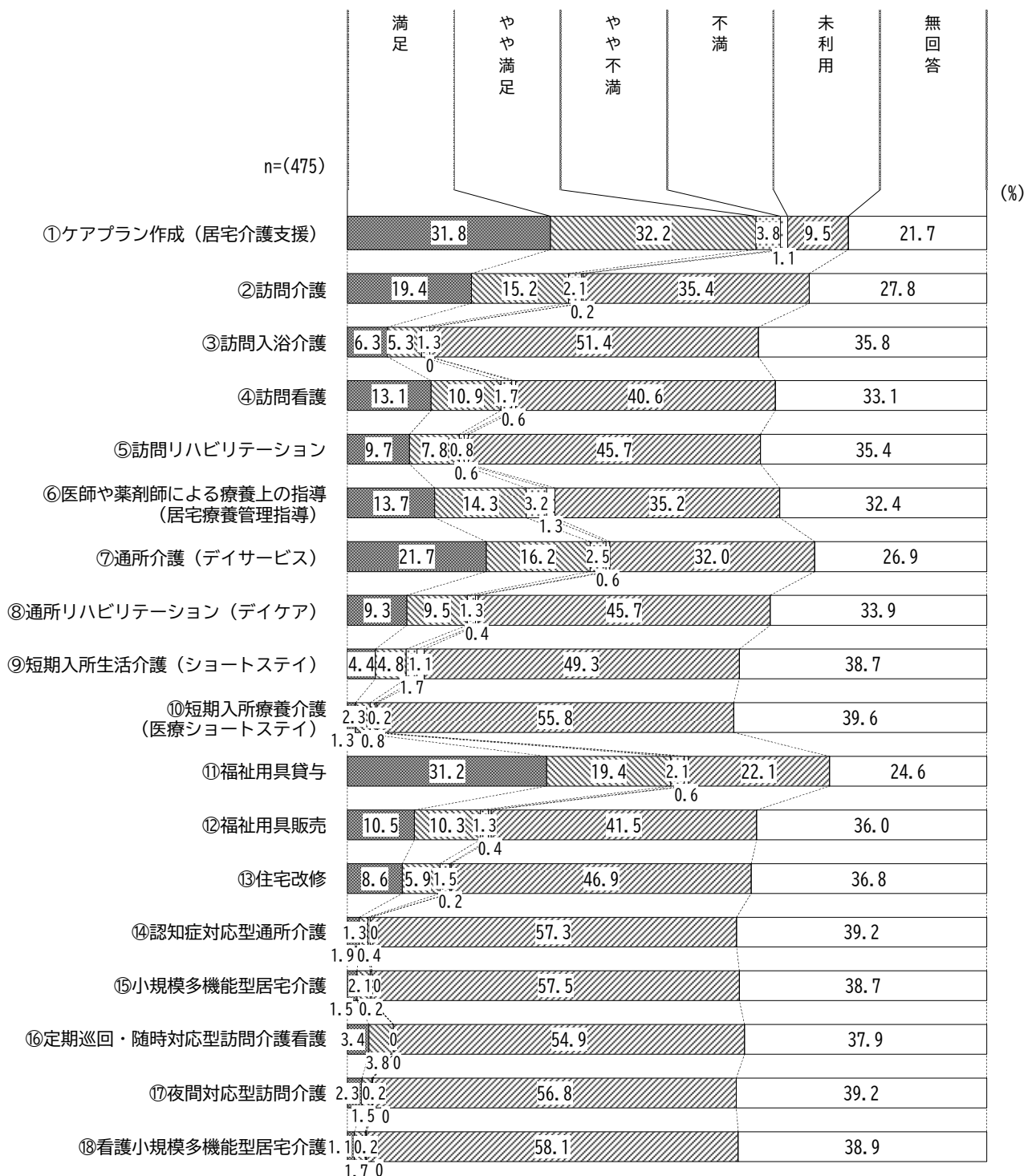


(2) 介護保険サービスの満足度

【認Q1で「1. 現在作成・利用している」と答えた方に伺います。】

認Q2. 以下の介護保険サービスを利用していますか。利用している場合は、どの程度満足していますか。(〇はそれぞれ1つ)

介護保険サービスの利用満足度で、「満足」と「やや満足」の合計をみると、「ケアプランの作成（居宅介護支援）」が64.0%で最も多く、次いで「福祉用具貸与」が50.6%となっています。

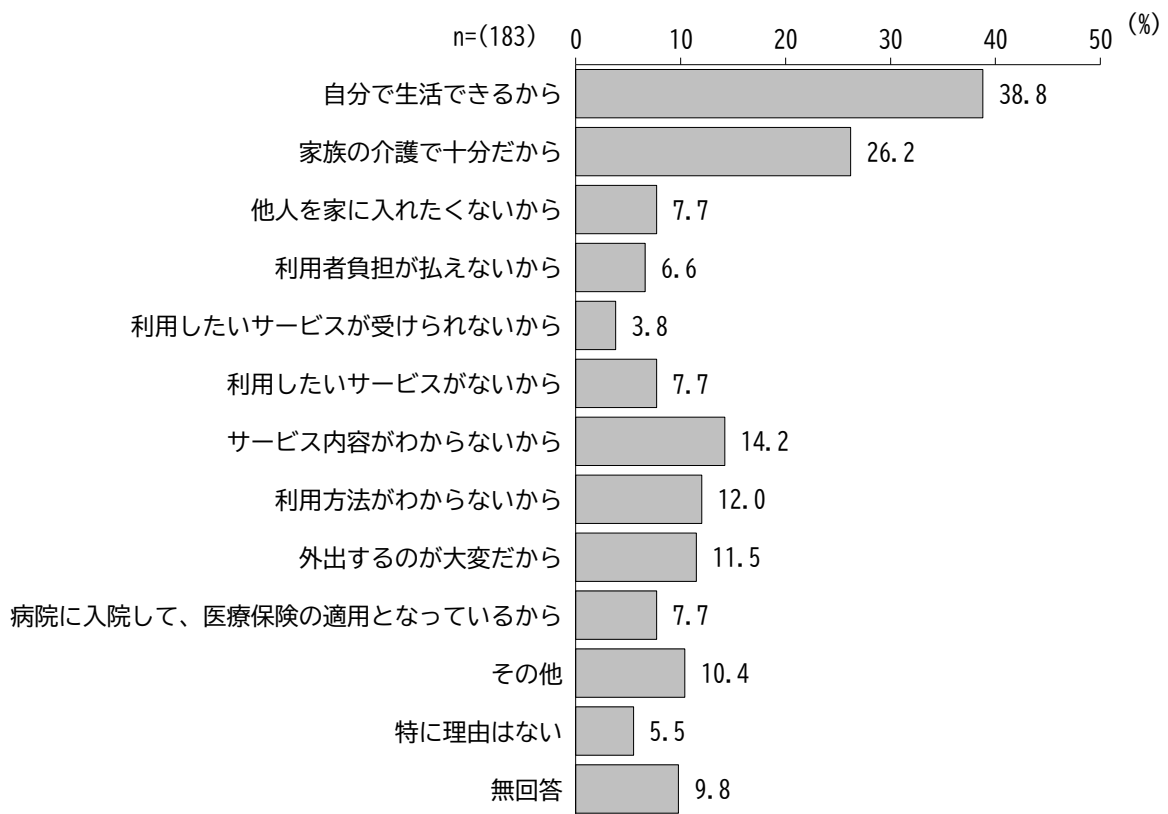


(3) 介護保険サービスを利用していない理由

【認Q1で「2. 現在作成していない」と答えた方に伺います。】

【認Q3. 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）】

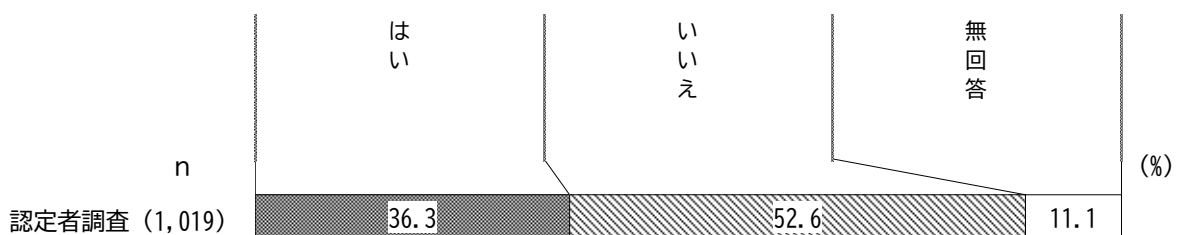
「自分で生活できるから」が38.8%と最も多く、次いで「家族の介護で十分だから」（26.2%）、「サービス内容がわからないから」（14.2%）、「利用方法がわからないから」（12.0%）、「外出するのが大変だから」（11.5%）となっています。



(4) この1年間での入院経験

【認Q4. 過去1年間に、病院に入院されたことはありますか。】

「はい」（入院経験あり）が36.3%となっています。



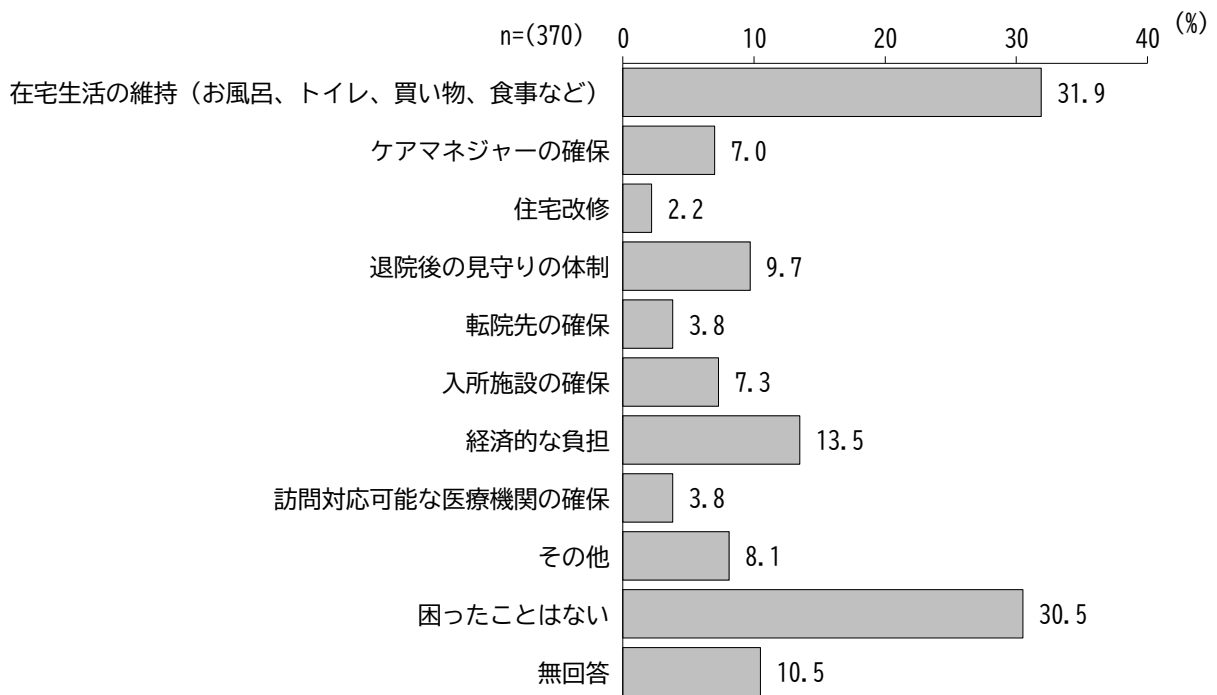
(5) 退院時に困ったこと

【認Q4で「1. はい」と答えた方に伺います。】

認Q5. 退院時に困ったことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

全体から「困ったことはない」(30.5%)と無回答(10.5%)を除いた59.0%が、困った点を挙げています。

「在宅生活の維持(お風呂、トイレ、買い物、食事など)」が31.9%と最も多く、次いで「経済的な負担」(13.5%)、「退院後の見守りの体制」(9.7%)となっています。

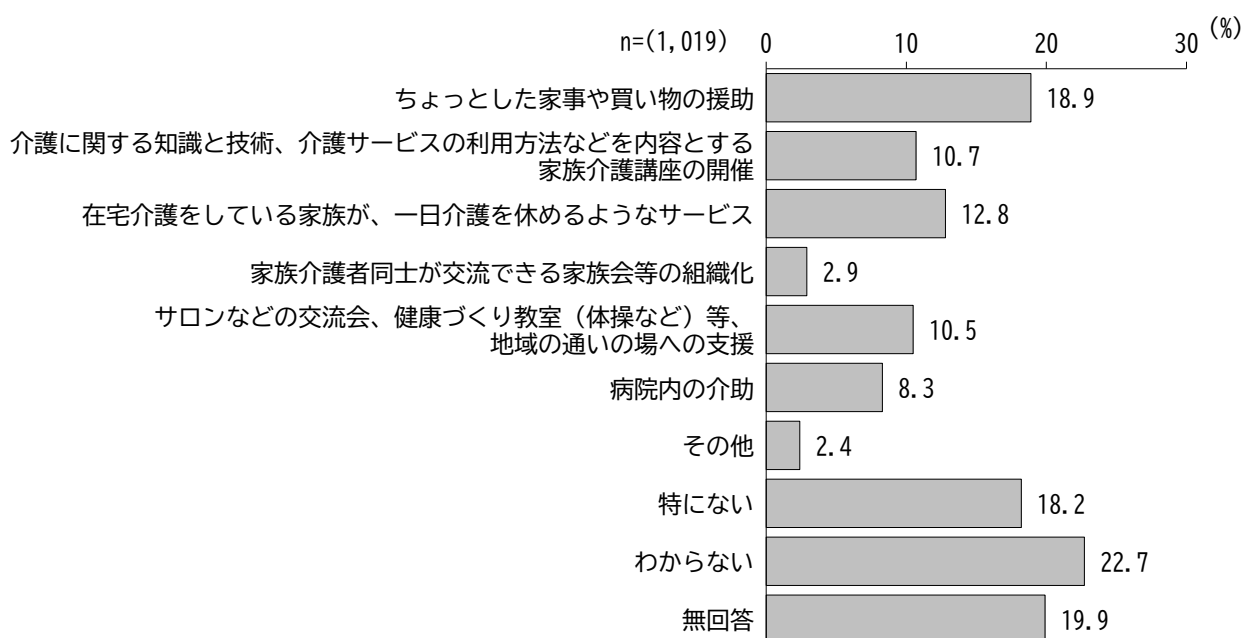


(6) 今後増やしてほしい福祉サービス

認Q6. 今後増やしてもらいたいと思う福祉サービス（介護保険サービス以外）はどれですか。下の中からお選びください。（あてはまるものすべてに○）

全体から「特にない」（18.2%）、「わからない」（22.7%）と無回答（19.9%）を除いた39.2%が、具体的なサービスを挙げています。

「ちょっとした家事や買い物の援助」が18.9%と最も多く、次いで「在宅介護をしている家族が、一日介護を休めるようなサービス」（12.8%）、「介護に関する知識と技術、介護サービスの利用方法などを内容とする家族介護講座の開催」（10.7%）、「サロンなどの交流会、健康づくり教室（体操など）等、地域の通いの場への支援」（10.5%）となっています。



第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

〈介護度別（要支援1・2のみ）／今後増やしてほしい福祉サービス〉

介護度別（要支援1・2のみ）に見ると、「ちょっとした家事や買い物の援助」は“要支援2”で25.9%と“要支援1”の18.3%より多くなっています。一方、「特にない」は“要支援1”で19.6%と“要支援2”の14.0%より多くなっています。

(%)

	回答者数	ちょっとした家事や買い物の援助	介護に関する知識と技術、介護サービスの利用方法などを内容とする家族介護講座の開催	在宅介護をしている家族が、一日介護を休めるようなサービス	家族介護者同士が交流できる家族会等の組織化	サロンなどの交流会、健康づくり教室（体操など）等、地域の通いの場への支援	病院内の介助	その他	特にない	わからない	無回答
認定者／全体	1,019	18.9	10.7	12.8	2.9	10.5	8.3	2.4	18.2	22.7	19.9
要支援1	312	18.3	11.2	8.0	1.9	11.9	6.1	1.3	19.6	24.0	19.2
要支援2	193	25.9	12.4	9.3	2.6	14.5	7.3	2.1	14.0	21.2	22.8

■自由記述

これからの高齢者施策や地域づくりのあり方等についてのご意見・ご提案があれば、ご自由に記入してください。

(1) 一般高齢者調査

458件の回答があり、内容別では「高齢福祉・地域福祉」についての意見が111件と最も多く、次いで「区や国への意見・要望」が98件、「医療・健康」が44件、「入所施設」が34件となっています。

項目		件数
1	高齢福祉・地域福祉	111
2	区や国への意見・要望	98
3	医療・健康	44
4	入所施設	34
5	アンケートについて	33
6	経済事情・経済的負担	32
7	介護保険制度・介護サービス	25
8	在宅介護・介護者	14
9	仕事	10
10	その他	68
回答総数		458

※複数の項目にまたがる意見もあるため、各項目の件数の合計は回答総数を上回ります。

■主な意見の概要（抜粋、要約の場合あり）

①高齢福祉・地域福祉

地域交流・つながりづくり（11件）
助け合いの精神で地域で生活していきたい。
高齢者の日常に会話のきっかけが増えると良いと思います。スーパーやコンビニや散歩している方とも普通に話せる地域が良いと思います。
多世代交流・社会参加（10件）
高齢者だからと言っても偉くも何でもないので、若い人の意見を聞いたり、頭をやわらかく気持ちをおだやかに過ごすことが心の平安につながっていると思います。
近所で高齢者が交流できる場があれば良いと思います。まだまだ自分は元気で働ける方なのでボランティア等もやってみたいです。

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

健康づくり・フレイル予防（9件）
あまりお金がかからないで、運動とかができるといいと思う。あと、母と駅まで歩いて散歩をしています。歩く事が一番の健康だと思うので、私も毎日歩いています。区で参加できるものがあれば参加したいです。
相談支援（8件）
一人きりで孤独になる高齢者の相談相手が必要であるし、資金的な問題も多いと思う。
見守り・孤立防止（8件）
80歳を過ぎて、一方的な情報は何回か来たが、面会に来て健康状態とか困った事を具体的に聞きに来られた事は一度もない。
活動機会・講座（8件）
高齢者と高齢者の集まる場所をつなぐところがたくさんあり、どこにあるか分かりやすければ尚良いと思います。高齢者の学校があったら面白いです。学校の場所は分かるので通えます。昼間、休日など。
居場所づくり・交流の場（7件）
家から足を踏み出して、人々と会う機会や場所があるといいですね。お食事会、お茶のみの場、認知症カフェ（認知症ではない人も参加できる）などおしゃべりのできる場。人と話す機会がなく、声を出す機会がないと、声がかすれてきて、出なくなるので。
介護・生活支援の充実（7件）
あまり金のかからない近くの施設があると良い。毎日、元気で自分で動けることを望んでいる。仕方なければ訪問看護を充実していただきたい。
高齢者あんしんセンターに関する意見（7件）
ある年齢になったら、誰もが必ず高齢者あんしんセンターへ行き、概要を理解して身近に感じられるようにしてほしい。必要になってからあわてても間に合わない。
住まい・居住支援（6件）
現在、自分で生活できています。URに住んでいますので、安い高齢者施設があると助かります。目の前でいつも見ているので羨ましいです。
多様な価値観への配慮（6件）
高齢者と言っても過去の生活も現在の生活も各々違っているし、考え方も千差万別でひとくくりで対策など考えられないと思うから、とても大変だと思っています。かかわる方々のご苦労を思います。
その他（24件）
ひとりひとり人間として尊厳を持って生き、死ねる環境をみんなで考えて、作っていきたい。買い物の途中で疲れて歩くのが辛い。ベンチ、イスなど、町中にあると助かる。

②区や国への意見・要望

相談窓口・情報提供（16件）
高齢化時代に伴い、安心して住める地域作りが大切だと思います。気軽に相談できる場所など多くあると便利。
区役所や高齢者あんしんセンターに相談に乗って欲しい。各種の支援内容を知らせて欲しい。
制度・政策全般への意見（14件）
地方の地域格差を可能な限り少なくして頂きたいです。
介護等を担う人材不足に対する税の投入を厚くお願いします。そのため他市町村への「ふるさと納税」はせずに北区に納税したいと思っております。

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

終活・死後事務・成年後見制度（12件）
足立区や豊島区では人生の終末期において、相談、支援が充実していると聞く。北区も同じようになってほしい。
終活の準備をしたいので、特に死後事務サービスについてどのような公的な支援制度があるのか、北区ニュースなどの広報で詳しく教えていただきたい。
居場所づくり・交流（7件）
高齢者だけによる交流は楽しめないなので、様々な年齢層を含む活動を企画していただきたい。
介護を受ける前段階で、皆で話し合ったり、教えていただけるような場所があればいいなと思います。
行政対応・窓口対応（7件）
なにかあるとき、区役所に連絡したい。
住まい・施設整備（6件）
高齢者施策の内容や入り方がわからないので、施策の見学がしたいです。
その他（36件）
安楽死が認められれば良いと思う。
ヨガ等、身近に体操を自由に出来る場所が欲しいと感じる。定員が何名までとか、期間が短く楽しめる所がない。もっとそういう場所多く欲しい。健康になるために。
家族はいますが、車がないので買い物、病院などはタクシー等に頼るしかありません。交通の便などももっと充実していただければと思います。

③医療・健康

健康維持・健康づくり（6件）
出来るだけ自己管理で健康な生活をしたいと考えます。
終末期医療・緩和ケア・看取り（6件）
苦しまず安らかに最期を迎えたい。
病気・心身機能低下への不安（5件）
現在年齢のわりには元気でいますが、急に悪くなった場合を考えると不安です。華道の教室にて指導していますが（約50年）、これから体力、気力がいつまで続けられるか心配です。
その他（27件）
孤独死だけにはなりたくない。
滝野川1～2丁目地区には、かかりつけ医になって下さる病院がほとんどありません。大きな病院は様々な科に分れていて、高度な医療を提供してくれますが、人全体を見てくれません。是非話をかわすことのできるお医者様が居て下さると安心できます。

④入所施設

費用負担（10件）
特に裕福ではなくても入れる、環境の良い高齢者住宅があると良い。
特養は入所要件が厳しく、入所倍率も高い。民間の介護付き老人ホームは利用料も高額なので、利用できる方は多くない。身近に世話をしてくれる人がいない方は訪問介護に頼るしかないのが現状であるが、低所得者でも入所できる介護付施設が増えるとよい。
施設数の不足（9件）
特別養護老人ホームなどの施設をもっと増してほしい。

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

入居へのハードル（6件）
最終的には、老人ホームなど福祉のお世話になると思うが、入所できるのか現時点では不明な点が多い。
その他（9件）
区内も含めて、近くにどのような養護施設があるか知りたい。

⑤アンケートについて

色々なアンケート調査に対して今後も継続してほしい。
私共年配者には大変ハードなアンケートでした。ですが自己を見つめるよい機会になりました。御礼申します。老人家庭では公的場所が頼りです。大変とは思いますが出来る限り寄り添って下さることお願い申します。元気でいたいですね。老いは平等です。
今回のアンケートを通じて、高齢者自身のあり方、そして今後に対して考えておかねばならぬことを痛感しました。都や区の広報で何となく知っておかねばならぬこと、やっておかねばならぬことの自覚はありましたが、アンケートはその意を強くしてくれます。家族全員で考えるといったものは、もっと充実性が期待できるかと思います。ありがとうございました。

⑥経済事情・経済的負担

年金生活の厳しさ・生活費不安（12件）
年金生活が苦しい。もう少しでいいので高齢者誰もが豊かに暮らせたらと思います。高齢者がよりよい環境で生活ができればと常々思います。
一人暮らしの老人がとても多く、経済的な不安を抱えた人々も大勢で、人ごとでないと思う。
保険料・税負担の重さ（6件）
現在仕事をしていますが、保険料などが高すぎます。
施設入所への不安（5件）
資金があまりなく、年金も少ないので、高齢者施設へ入れないので先が不安です。
その他（9件）
年金が少なく、今はパートでなんとかしているが、働けなくなったらどうしようと不安です。

⑦介護保険制度・介護サービス

介護認定を受ける時期の基準はありますか。具合が悪くなってからだと時間がかかると聞いているので。私は現在必要ないのですが、どう考えておけばよいのでしょうか。
昭和51年の頃は介護保険制度がなくて大変でした。今は地域包括支援もあり大変良い制度ですが、申請してからおりるまで3ヶ月位かかるとのこと。もう少し早くできるようになれば助かるのに。手続きした時～3ヶ月が一番大変なのにね。よろしく願います。
申請をしないと受けられない制度。介護関係者ではなく知人に教えてもらいました。もっと分かりやすく！

⑧在宅介護・介護者

10年前、がんの配偶者を自宅で看取った時はあんしんセンターと病院の迅速な連携で満足できる介護を受けました。自分の最後まで病気の種にかかわらずあのような手厚い支援を受けられたら、自宅で療養したいと望んでいます。そして最後まで自宅で迎えたいと願っています。そして北区に住んでいることを有難いと思います。

現在67歳です。妻の介護をしております。今後体力が落ちてくる時の事を考えると不安を感じる時もあります。

介護や在宅療養の問題は、身近な問題ではあるが、自分自身のこととなると、考えたことがない。家族のためにも、自分が健康なうちに、今から話し合うことが必要だと思うが、なかなかできないのが現実です。

⑨仕事

私の場合シルバー人材センターの児童交通指導員を11年していて、多くの友人、教え子たちと仲良くなれました。自分が社会の中で必要とされていることが一番大切だと思います。健康に留意して今の仕事を続け「隅を照らす」人であり続けたいと思う。

若い頃遊びすぎて、将来の事を考えなかった。自分が悪い、この年でも働かなければ食べてゆけない。体が動く間働きます。

長年国民年金を支払っても少額の年金で生活している高齢者、無理なく仕事して生活を豊にしたい。高齢者にもできる仕事を勉強する機会を作ってほしいです。

⑩その他

私は85歳です。自分の意志で考え、自分の足で行動出来る今が、人生で一番幸せな時と思います。後何年、いや何日続くかわかりませんが、この幸せな期間を楽しく生きたいと思います。

相談できる人がいることが大切。人生、生活、病気、金銭などなど解決できるあるいは手がかりをつかめる人がほしい。

現在78歳ではありますが妻に任せていることが多いため、良く知らないことが多い。もっと勉強します。

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

(2) 認定者調査

212件の回答があり、内容別では「介護保険制度・介護サービス」についての意見が42件と最も多く、次いで「高齢福祉・地域福祉」が30件、「区や国への意見・要望」が30件となっています。

項目		件数
1	介護保険制度・介護サービス	42
2	高齢福祉・地域福祉	30
3	区や国への意見・要望	30
4	在宅介護・介護者	22
5	医療・健康	19
6	入所施設	15
7	アンケートについて	13
8	経済事情・経済的負担	11
9	将来の不安	10
10	その他	22
回答総数		212

※複数の項目にまたがる意見もあるため、各項目の件数の合計は回答総数を上回ります。

■主な意見の概要（抜粋、要約の場合あり）

①介護保険制度・介護サービス

サービス量・利用回数について（9件）
不定期で急にヘルプが必要な時に利用できるサービスがあると良いなと思います（利用料はもちろん安い方がいいです）。
介護認定の基準について（5件）
同じ状況でも区によって認定される度合い、区別があり、北区は厳しいです。
認定手続きの煩雑さ（5件）
正式な介護認定が決まるまでの約1か月、お風呂に入ったりできないのは、とても残念です。
サービス内容の柔軟化（5件）
以前、訪問介護を使っていましたが、規則が多すぎてやってほしいことをしてもらえませんでした。家族がいない時、食事を用意してもらえるサービスがあると助かります。
その他（18件）
訪問看護、介護、ケアマネージャー様には大変お世話になっております。とても満足しております。引き続きよろしく願い申し上げます。

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

介護する家族だけに負担がかからないよう、家族が安心して気が休めるようなサービスが必要だと思います。

②高齢福祉・地域福祉

多世代交流・参加しやすい活動（6件）
出来る間は若い人と共生したい。特に子供等と友人に何か出来ないかな。カルタとかビー玉とか遊びが出来ると良い。動物（犬・猫・うさぎ・チャボなど）と生命を語りたい。植木や花等も良いと思います。子供と絵本を読んだり話したりしたい。ゲーム等でなく温かい手で遊べないか？
孤立防止・見守り（5件）
認知症になるとまだまだ一般生活では理解を得がたい状況にある為、認定を受けデイサービス等を利用するようになると、社会とのつながりは難しく、家庭で孤立してしまう（それまでにサークル的な事に参加していてもできなくなる）。共存して地域で生活していくにはまだまだ難しいのだと思う。そうしているうちに体も不自由となり高齢者は自立生活が困難となっていく。一棟まるごと共同生活住宅で個人の生活を守りつつ、全体を見守れるようにしていくのが理想のような気がする。
人材不足・育成（5件）
「手話」が必要な人も高齢者になります。手話を使える人材の育成も考えてほしい。又、逆に手話が必要な人が介護する立場になったりもします。気軽に相談（メールでの相談でも良い←人によりますが…）できるところを知りたい。
その他（14件）
高齢者はいつ何があるか不安ですが、何かあってもその時はこういう助けがあるということを経験して話し、事前にシミュレーションできる機会があればいいです。

③区や国への意見・要望

相談支援・情報提供（5件）
現在も様々な取り組みやサービス等がありますが、その情報の周知に力を入れてほしいと思います。
手続きの簡素化・デジタル対応（4件）
年金の中で生活に不安なく生活できるようにしてほしい。書類を書くのが困難になった時に簡単に手続きができるようにしてほしい。
生活・移動支援・住環境整備（4件）
一人でも自由に、夫婦二人だけでも、近所のお風呂（銭湯）に入ることができれば良い。風呂に自由に入る事が出来て自由に過ごせる時間が欲しい。夫婦温泉があればよい。看護付の専用風呂が欲しいです。少し高い入場料でも安心した設備が欲しいです。少額の有料でもよいので温泉の風呂が欲しいです。
その他（17件）
区からの援助に感謝しております。これからも宜しく願い申し上げます。
身寄り無い独り暮らしの高齢者で（預金有り）だんだん衰弱していくので、終活していく上で適切な方法を教えて下さい。

第2章 要介護認定を受けていない方及び要介護（要支援）認定を受けている方の調査結果

④在宅介護・介護者

家族介護者の負担・支援ニーズ（5件）
介護度が高くなればなるほど必要なサービスも増え、大変な費用がかかります。支える家族がいなければ暮らしていくことは困難です。
在宅生活の継続希望（4件）
本人はできる限り今の住居で生活することを望んでいて、それに添ってケアマネさんを始め、ヘルパーさんやデイサービスの職員の皆さんがサポートしてくれていて、おかげ様で自宅に戻ってからもとても元気になっています。お世話になって感謝しています。
その他（13件）
ありがとうございます。ヘルパーさんのおかげで生活できています。
歩行困難の為、買い物、病院通院等が不便なので、タクシー利用等のサービスが望まれます。

⑤医療・健康

かかりつけの医者が常に診ているので今のところは心配ありません。長いつき合いなので先生にお願いしています。
要介護3の夫は時々体調を崩し入院します。退院時は体力が低下して歩くこともままなりません。1ヶ月でも2ヶ月でもリハビリをすれば、体力が回復して帰宅できます。ぜひ老健のようなりハビリ専門施設を増やしていただきたいと思います。

⑥入所施設

特別養護施設の入居が順番待ちな現状です。今の介護状況で働く事が難しいです。至急改善してほしいです。
入居施設の金額が高い。もっと利用できる料金に下げ、年金で低くても入れる設定にして欲しい。特養だけでなく、民間も入りやすい金額にしてほしい。自宅では限界があり、区や国で対応してほしい。

⑦アンケートについて

アンケートの問題が多いと思います。

⑧経済事情・経済的負担

地元の“わくわく配食サービス”より1食500円の和食の配食を続けています。物価高の状況で、このまま継続できるのか、“食はまさに命綱です”ので、不安がつのります。区としても万が一の援助をしてほしいものです。
資金的に余裕がないので心配です。

⑨将来の不安

体力、健康が不安です。この先特養等公立の施設に入所出来るのか等々不安に思っています。よろしく御配慮お願いします。常日頃、頭からはなれません。
私は一人暮らしで体調が悪くなく、万が一孤独死した場合、都営に住んでいるのでご近所にご迷惑をかけたりののが心配です。

⑩その他

要介護（支援）認定を受けるまでが、本人の中でなかなか決心がつかない。
ありがとうございます。要支援1を受けながら、明るく楽しく前向きにをモットーに過ごしています。感謝です。

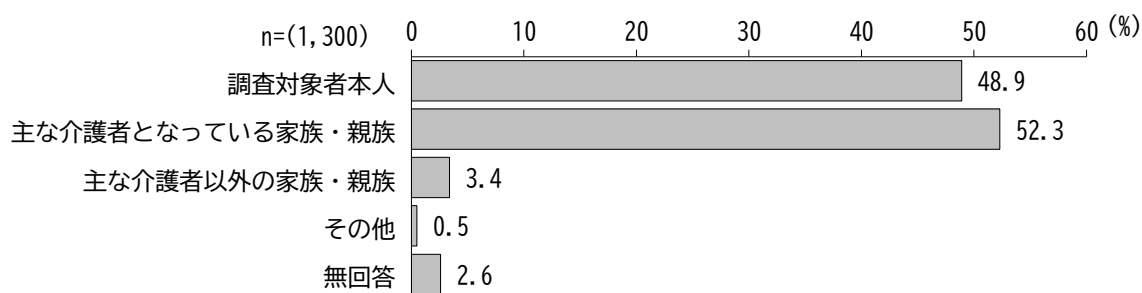
第3章 在宅介護実態調査の結果

1. 調査対象者について

(1) 調査票の記入者

Q1. 現在、この調査票に回答される方はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「主な介護者となっている家族・親族」が52.3%、「調査対象者本人」が48.9%となっています。



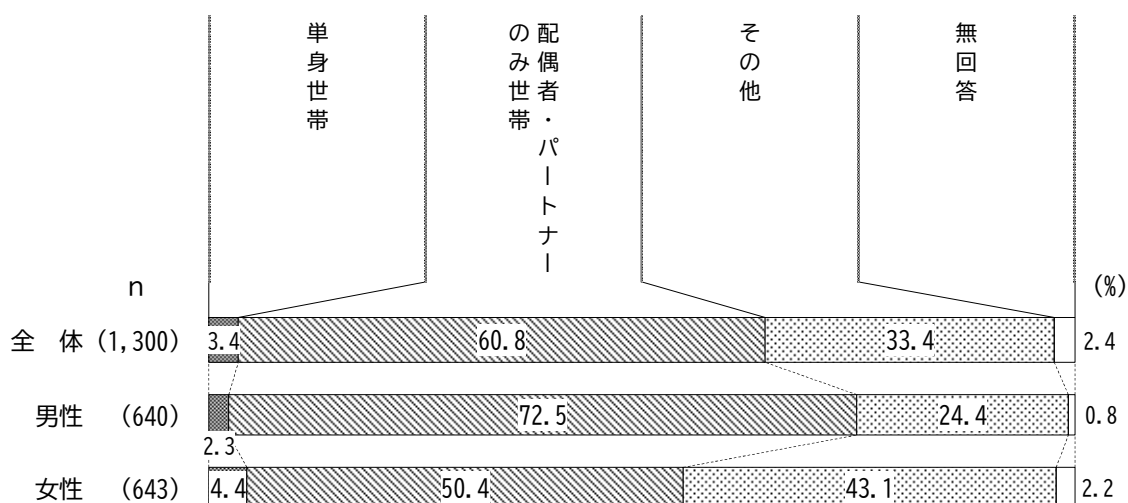
(2) 世帯類型

Q2. 世帯類型について、ご回答ください。(○は1つ)

「配偶者・パートナーのみ世帯」が60.8%、「その他」が33.4%、「単身世帯」が3.4%となっています。

〈性別／世帯類型〉

性別に見ると、男性は「配偶者・パートナーのみ世帯」が72.5%と、女性より20ポイント以上多くなっています。

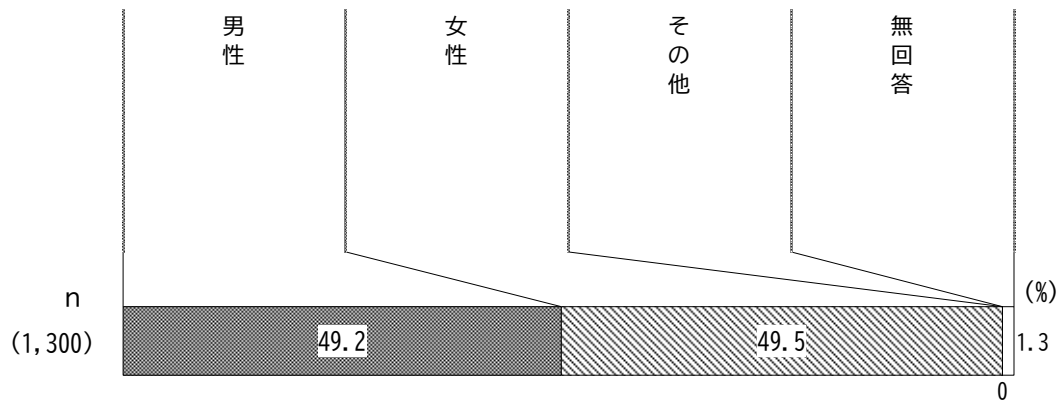


第3章 在宅介護実態調査の結果

(3) 性別

Q3. ご本人の性別について、ご回答ください。(○は1つ)

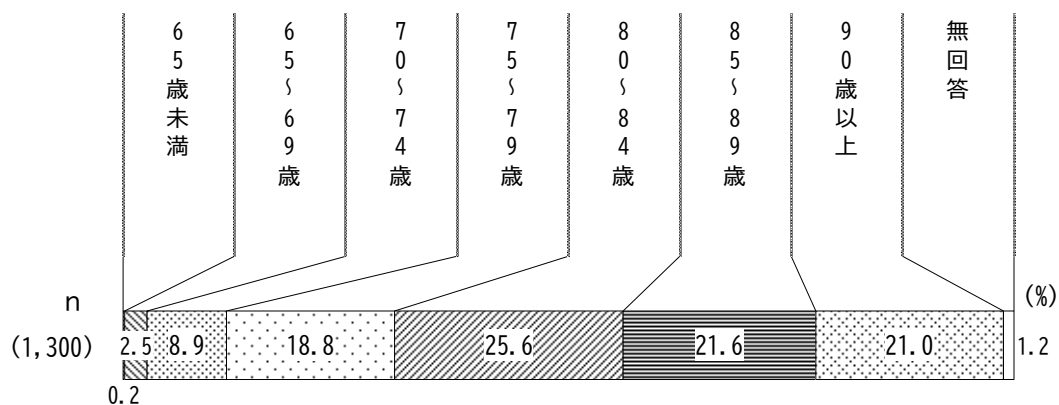
「女性」が49.5%、「男性」が49.2%となっています。



(4) 年齢

Q4. ご本人の年齢について、ご回答ください。(○は1つ)

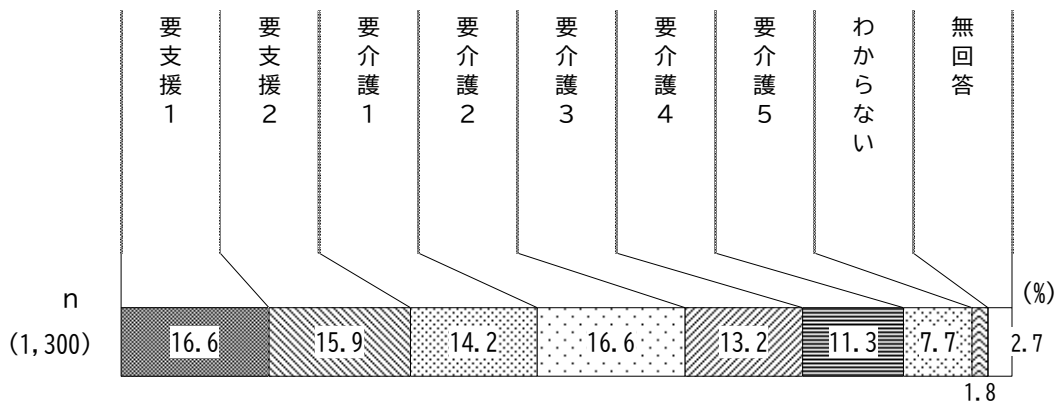
「80～84歳」が25.6%と最も多く、低年齢になるほど割合が少なくなっています。



(5) 要介護度

Q5. ご本人の要介護度について、ご回答ください。(○は1つ)

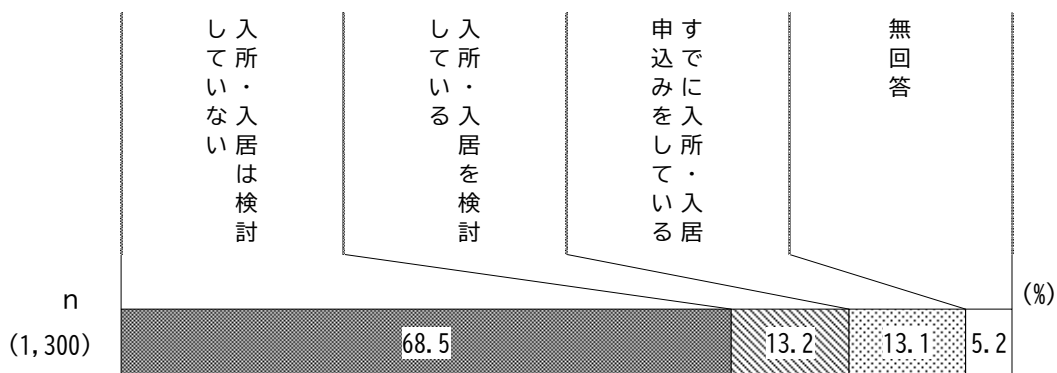
「要支援1」から「要介護5」までいずれも1割台となっています。「要支援1」と「要介護2」それぞれが16.6%で最も多くなっています。



(6) 施設等への入所・入居の検討状況

Q6. 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。
(○は1つ)
※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

「入所・入居は検討していない」が68.5%を占め、「入所・入居を検討している」が13.2%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が13.1%となっています。

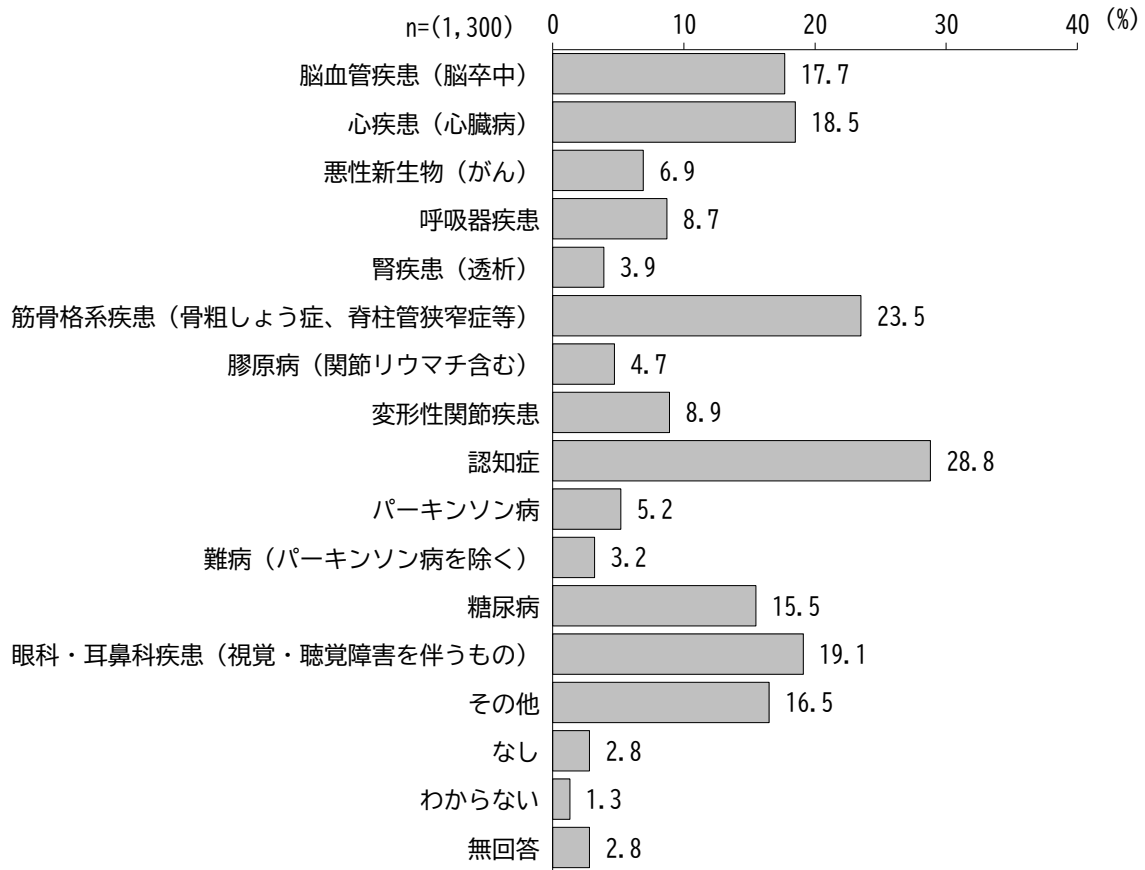


第3章 在宅介護実態調査の結果

(7) 現在抱えている傷病

Q7. ご本人（調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。
（あてはまるものすべてに○）

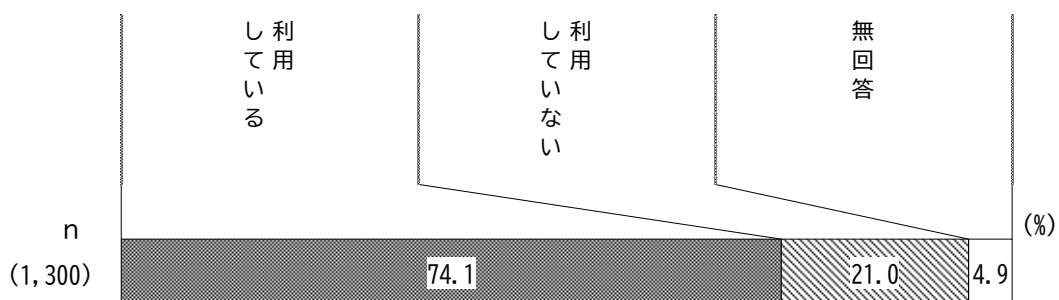
「認知症」（28.8%）と「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」（23.5%）が2割以上で、以下、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」（19.1%）、「心疾患（心臓病）」（18.5%）と続いています。



(8) 介護保険サービス利用の有無

Q8. 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか。（○は1つ）

「利用している」が74.1%、「利用していない」が21.0%となっています。



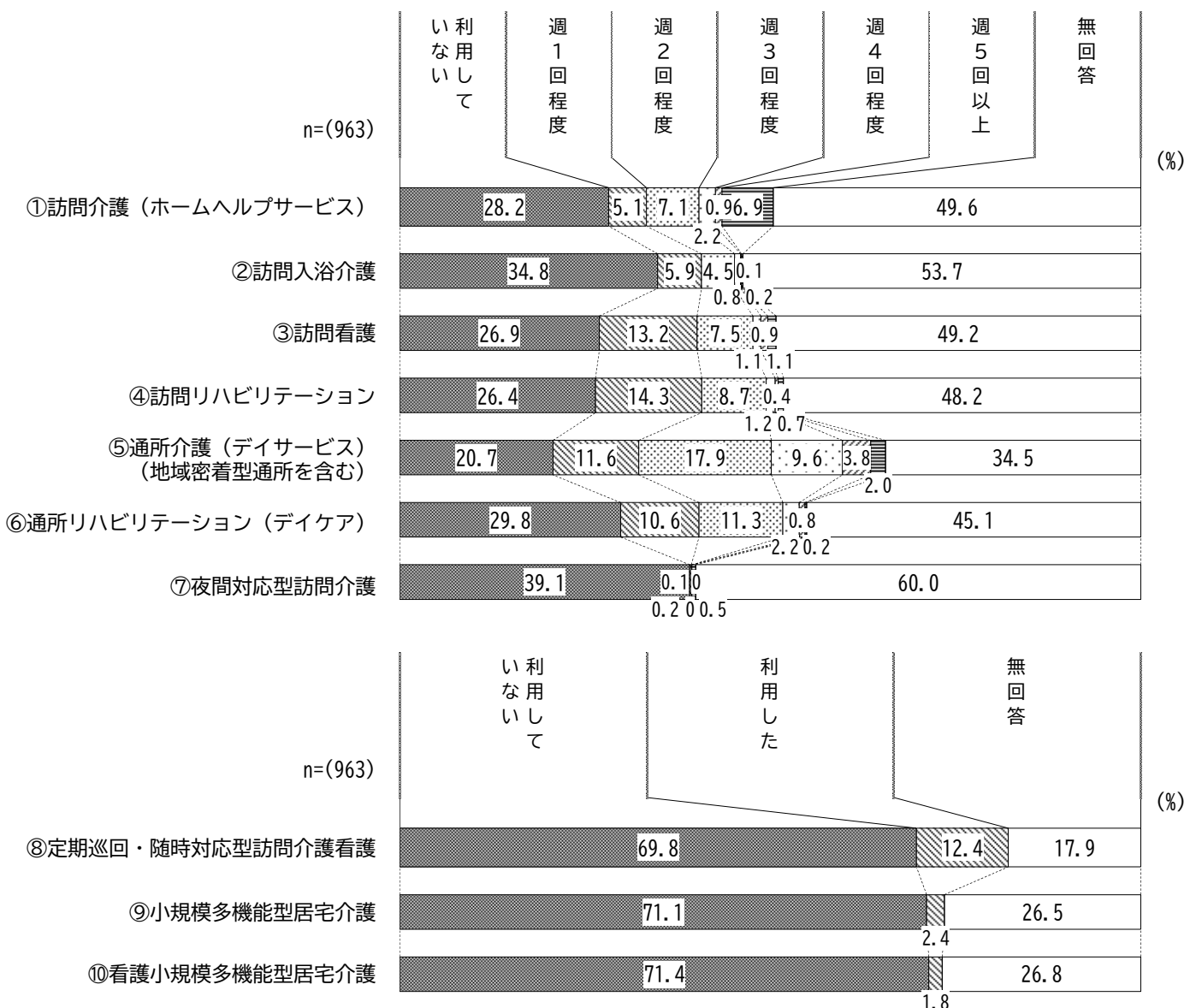
(9) 介護保険サービスの利用状況

【Q8で「1. 利用している」と回答した方にお伺いします。】

Q9. 以下の介護保険サービスについて、利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は、「0回」または「1. 利用していない」を選択してください。(それぞれ1つに○)

〈①～⑩介護保険サービスの利用状況〉

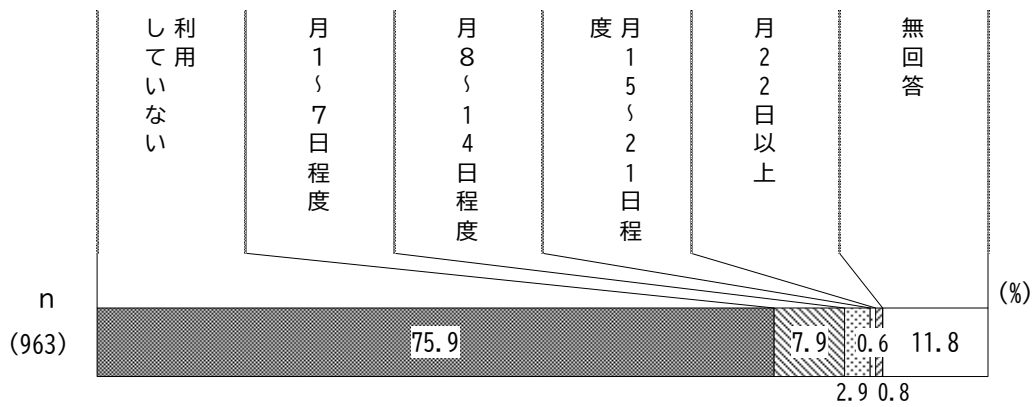
①から⑦は全体から「利用していない」と無回答を除いた『利用した』割合、⑧から⑩は『利用した』割合を見ると、「通所介護（デイサービス）」が44.9%で最も多く、以下、「訪問リハビリテーション」（25.3%）、「通所リハビリテーション（デイケア）」（25.1%）、「訪問看護」（23.8%）、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」（22.2%）、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」（12.4%）、「訪問入浴介護」（11.5%）、「小規模多機能型居宅介護」（2.4%）、「看護小規模多機能型居宅介護」（1.8%）、「夜間対応型訪問介護」（0.8%）となっています。



第3章 在宅介護実態調査の結果

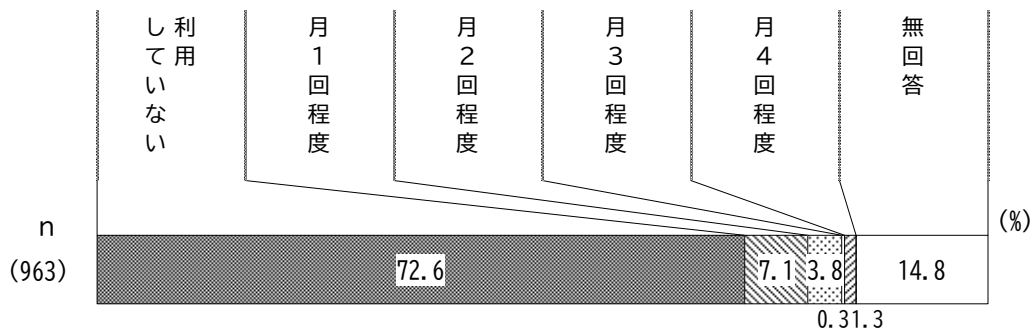
〈⑪「ショートステイ」の利用状況〉

全体から「利用していない」と無回答を除いた『利用した』は12.2%で、そのうちの7.9%が「月1～7日程度」となっています。



〈⑫「居宅療養管理指導」の利用状況〉

全体から「利用していない」と無回答を除いた『利用した』は12.5%で、そのうちの7.1%が「月1回程度」となっています。

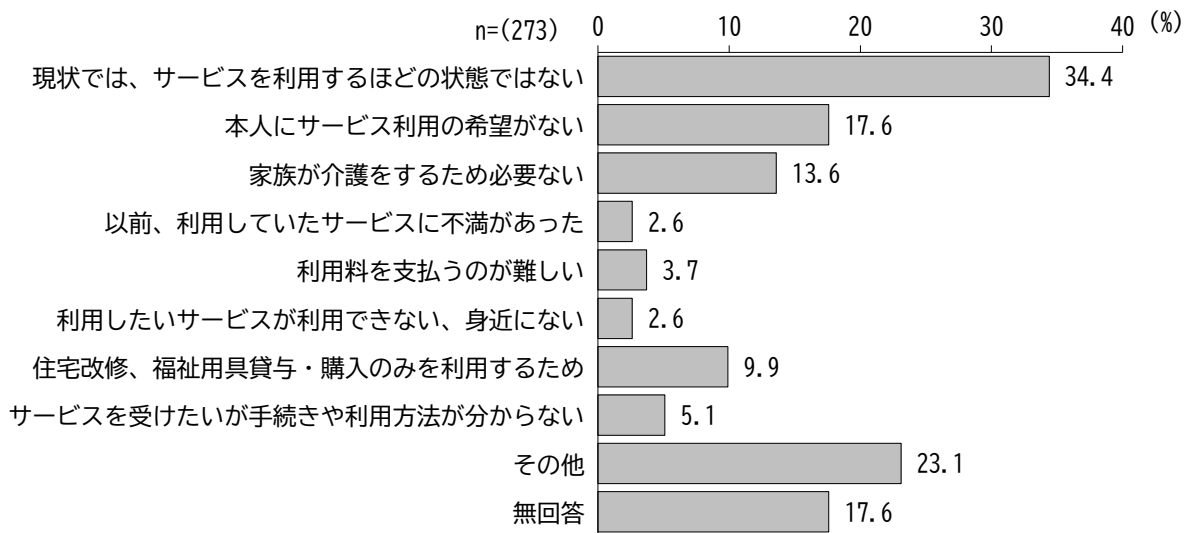


(10) 介護保険サービスを利用していない理由

【Q8で「2. 利用していない」と回答した方にお伺いします。】

Q10. 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が34.4%と最も多く、次いで、「その他」(23.1%)、「本人にサービス利用の希望がない」(17.6%)、「家族が介護をするため必要ない」(13.6%)となっています。

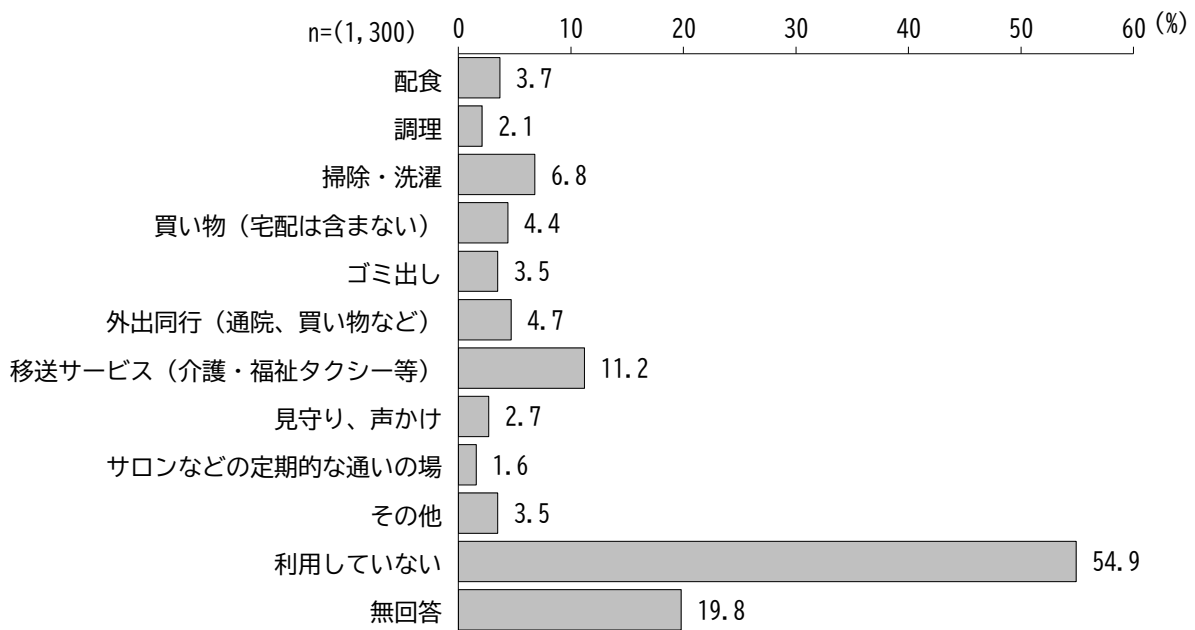


(11) 介護保険サービス以外の利用状況

Q11. 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。(あてはまるものすべてに○)

全体から「利用していない」(54.9%)と無回答(19.8%)を除いた25.3%が、介護保険以外の支援・サービスを利用しています。

「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が11.2%と唯一1割を超え、以下、「掃除・洗濯」(6.8%)、「買い物(宅配は含まない)」(4.4%)、「ゴミ出し」(3.5%)、「外出同行(通院、買い物など)」(4.7%)、「買い物(宅配は含まない)」(4.4%)と続いています。

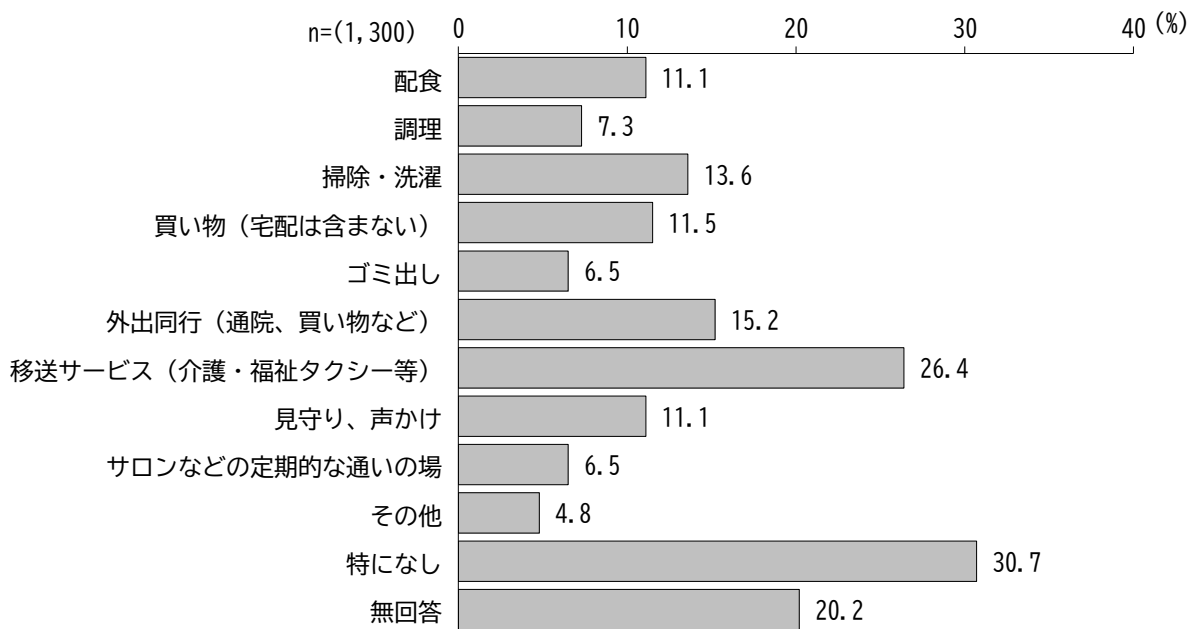


(12) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

Q12. 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。
（あてはまるものすべてに○）

全体から「特になし」（30.7%）と無回答（20.2%）を除いた49.1%が、具体的な支援・サービスを挙げています。

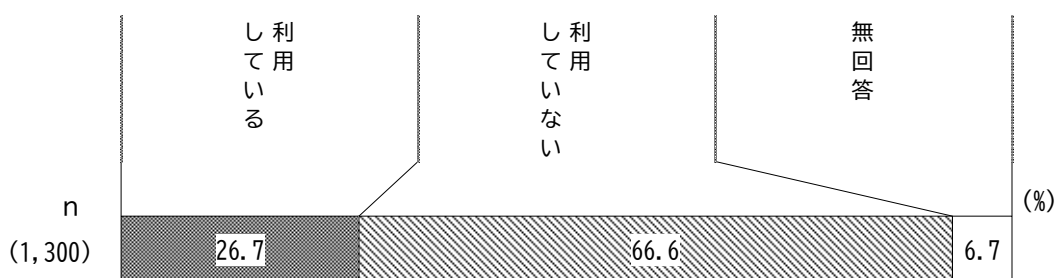
「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が26.4%と最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」（15.2%）、「掃除・洗濯」（13.6%）、「買い物（宅配は含まない）」（11.5%）、「配食」および「見守り、声かけ」（11.1%）となっています。



(13) 訪問診療の利用状況

Q13. ご本人（調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか。（○は1つ）
※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

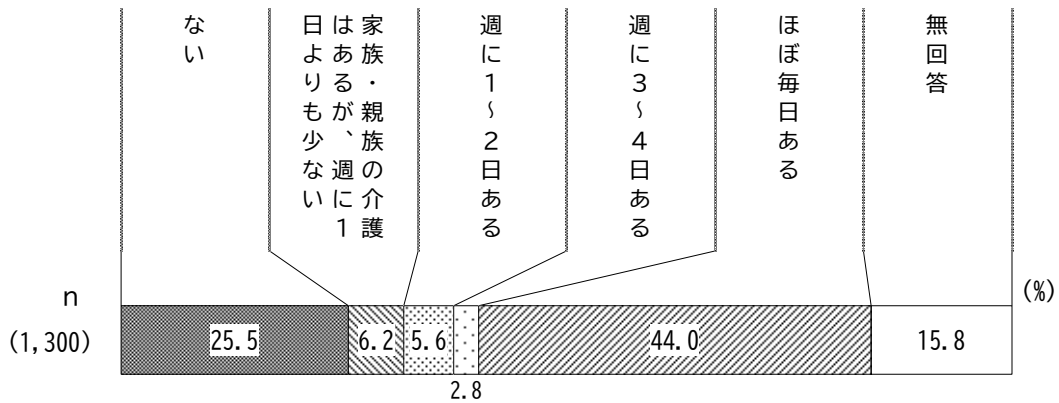
「利用している」が26.7%、「利用していない」が66.6%となっています。



(14) 家族・親族からの介護の頻度

Q14. ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）。（○は1つ）

「ほぼ毎日ある」が44.0%と半数近く、次いで「ない」（25.5%）、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」（6.2%）、「週に1～2日ある」（5.6%）となっています。

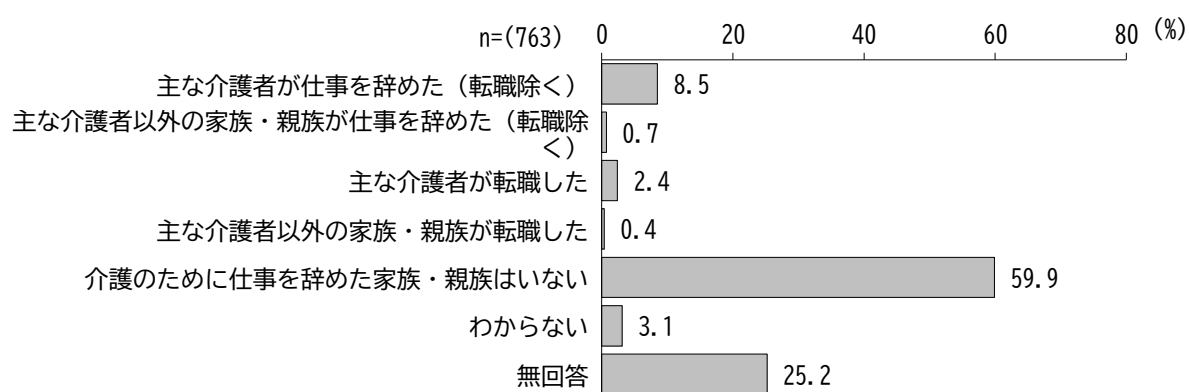


2. 主な介護者について

(1) 介護理由による離職者の有無

Q1. ご家族やご親族の中で、ご本人（調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。（あてはまるものすべてに○）

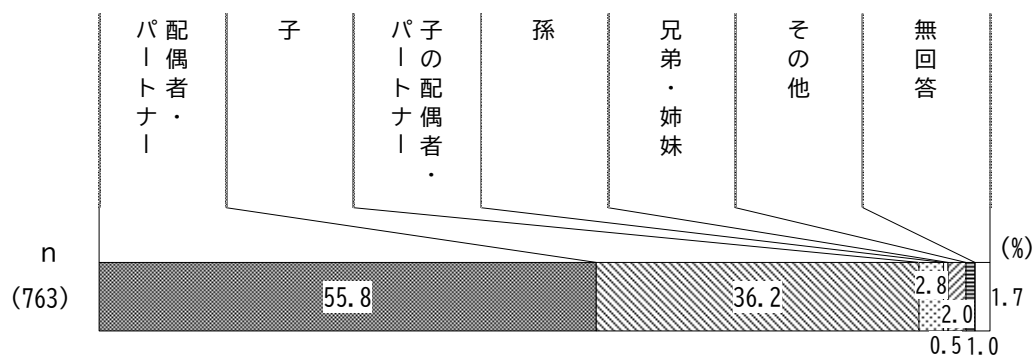
「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が59.9%と最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（8.5%）となっています。



(2) 主な介護者

Q2. 主な介護者の方は、どなたですか。（○は1つ）

「配偶者・パートナー」が55.8%と半数以上で、「子」が36.2%となっています。

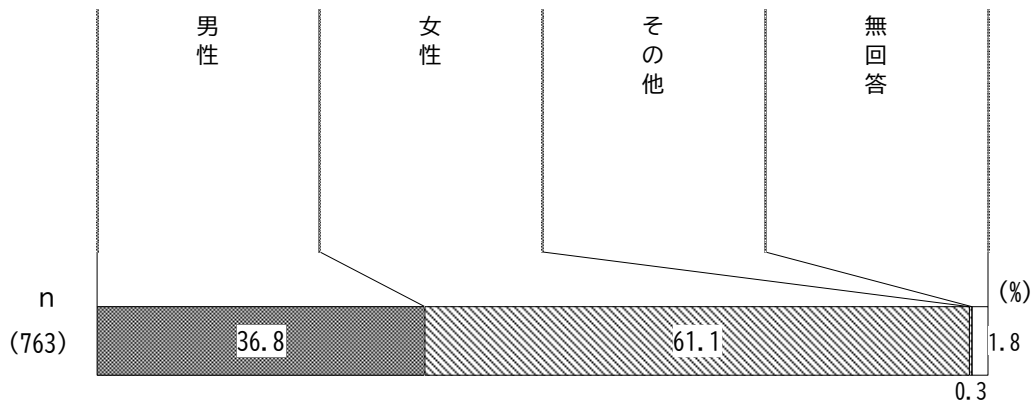


第3章 在宅介護実態調査の結果

(3) 主な介護者の性別

Q3. 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(○は1つ)

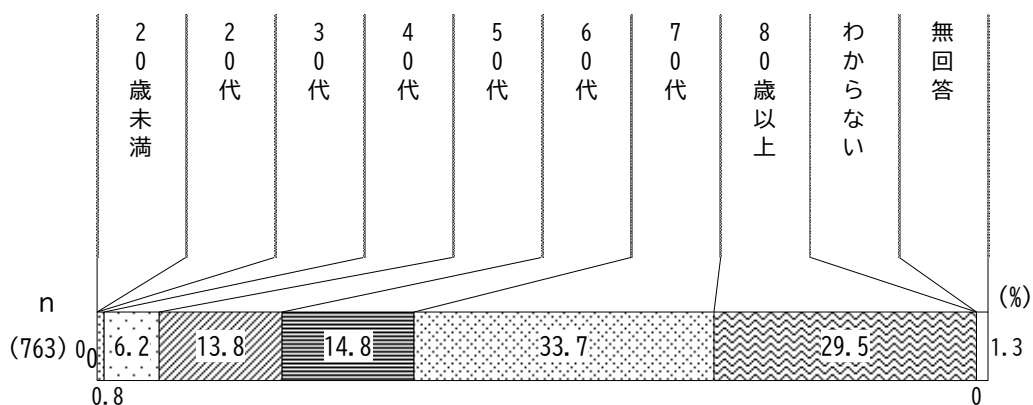
「女性」が61.1%、「男性」が36.8%となっています。



(4) 主な介護者の年齢

Q4. 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(○は1つ)

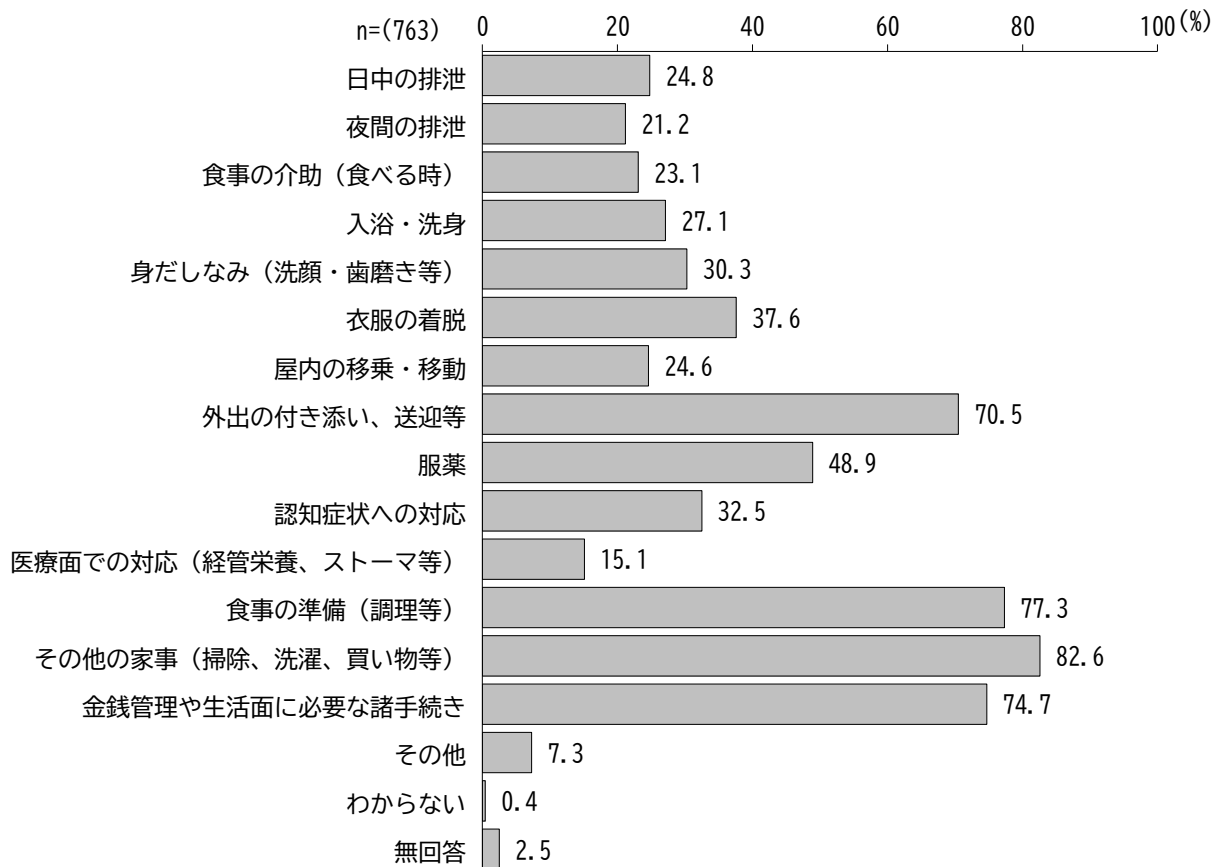
「70代」が33.7%と最も多く、次いで、「80歳以上」が29.5%、「60代」が14.8%、「50代」が13.8%となっており、50歳以上が全体の91.8%を占めています。



(5) 介護の内容

Q5. 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。
(あてはまるものすべてに○)

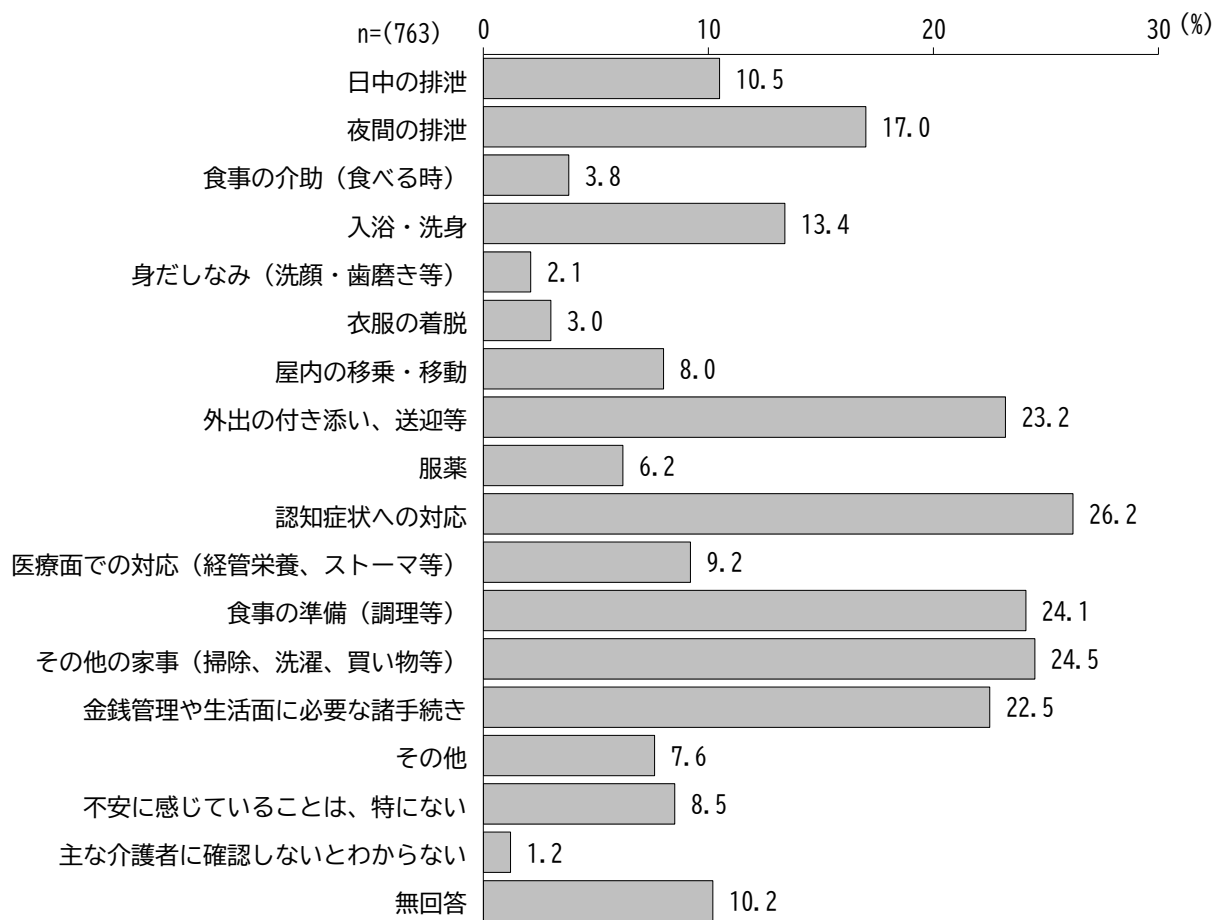
「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（82.6％）が8割台、「食事の準備（調理等）」（77.3％）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（74.7％）、「外出の付き添い、送迎等」（70.5％）が7割台で続き、次いで、「服薬」（48.9％）となっています。



(6) 不安を感じる介護等

Q6. 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。（○は3つまで）

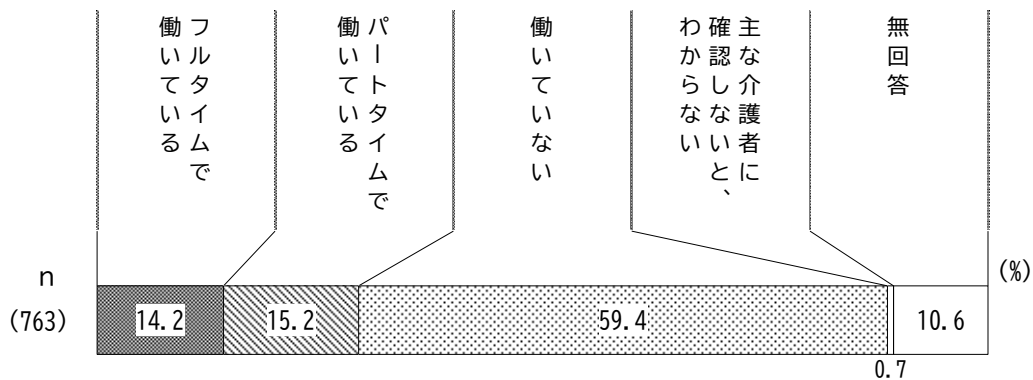
「認知症状への対応」が26.2%と最も多く、以下、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（24.5%）、「食事の準備（調理等）」（24.1%）、「外出の付き添い、送迎等」（23.2%）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（22.5%）と続いています。



(7) 主な介護者の勤務形態

Q7. 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(○は1つ)
 ※パートタイム：1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方

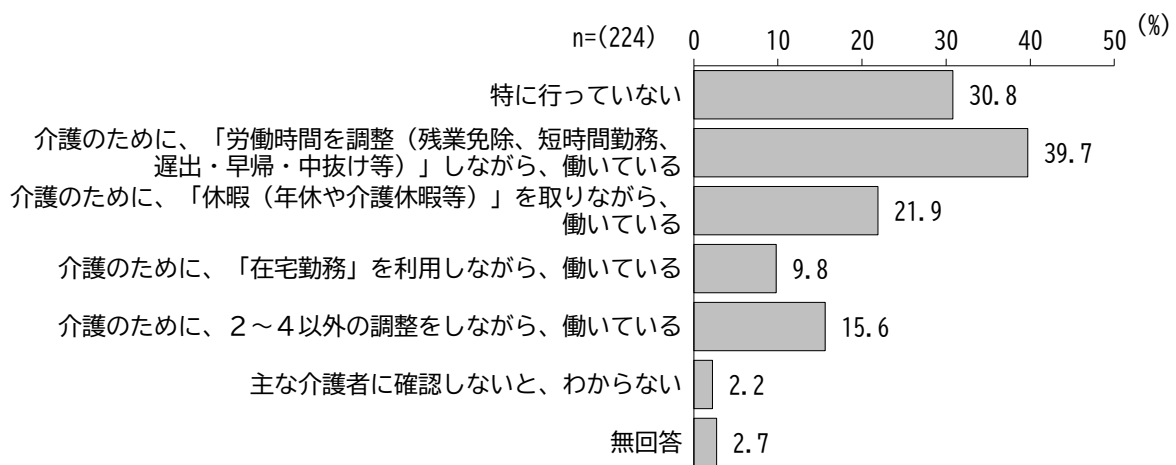
「働いていない」が59.4%と約6割で、「パートタイムで働いている」が15.2%、「フルタイムで働いている」が14.2%となっています。



(8) 働き方の調整の有無

【Q7で「1.」「2.」と回答した方（働いている方）に伺います。】
 Q8. 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が39.7%と最も多くなっています。一方、「特に行っていない」が30.8%となっています。



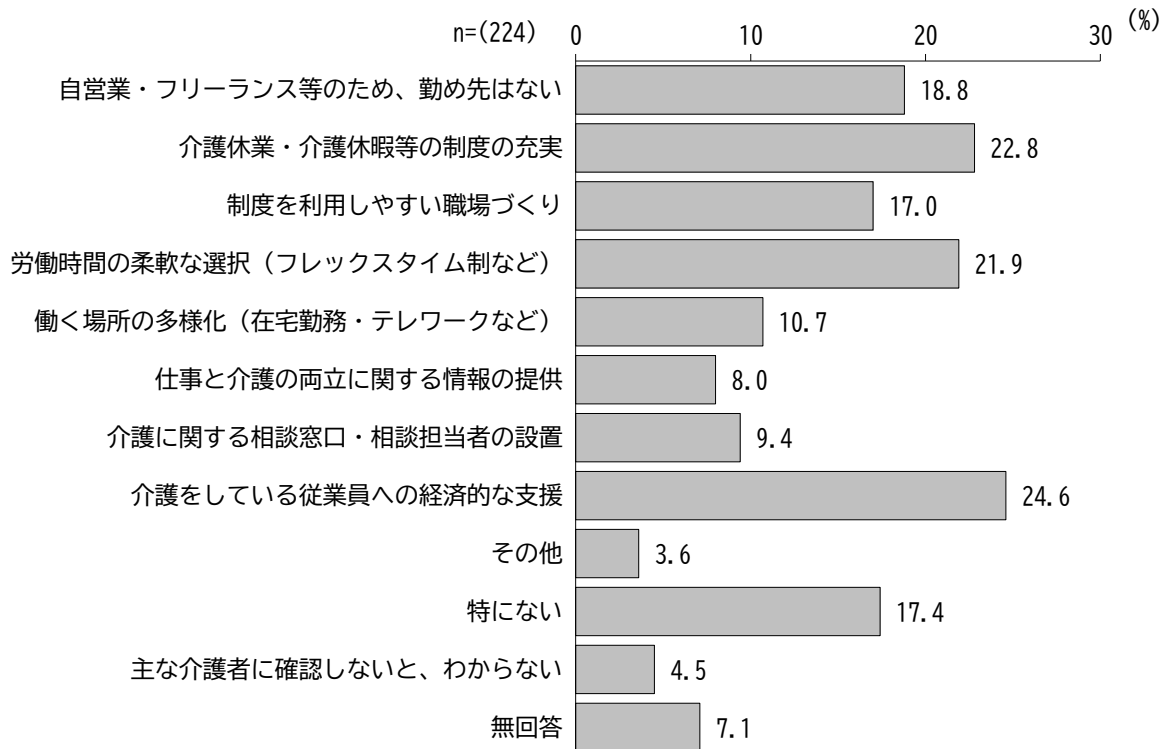
※2～4以外：選択肢2「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」
 選択肢3「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」
 選択肢4「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」

(9) 仕事と介護の両立に効果的な勤務先の支援

【Q7で「1.」「2.」と回答した方（働いている方）にお伺いします。】

Q9. 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（〇は3つまで）

「介護をしている従業員への経済的な支援」が24.6%と最も多く、次いで、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（22.8%）、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（21.9%）、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」（18.8%）となっています。

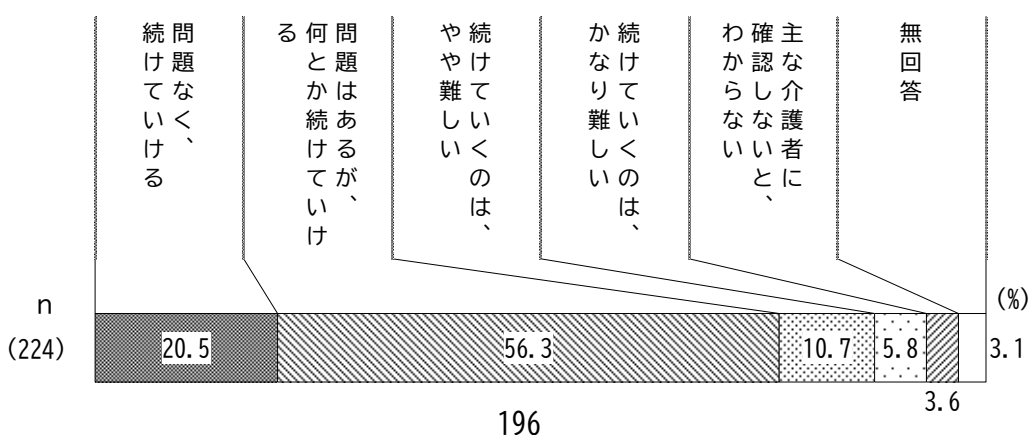


(10) 両立の見通し

【Q7で「1.」「2.」と回答した方（働いている方）にお伺いします。】

Q10. 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（〇は1つ）

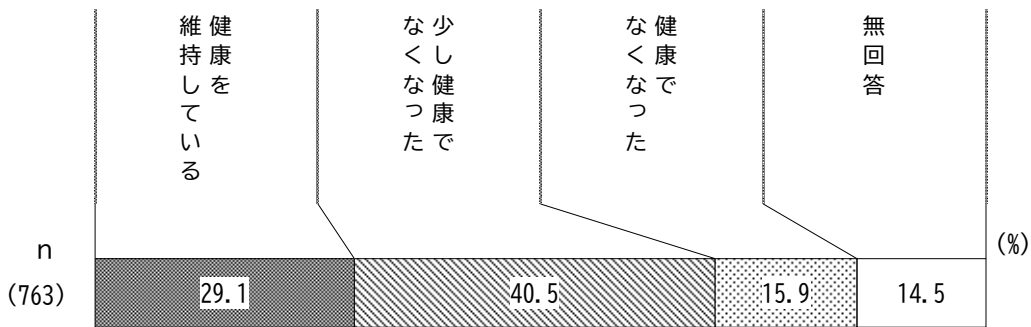
「問題はあるが、何とか続けていける」が56.3%と最も多く、次いで、「問題なく、続けていける」が20.5%、「続けていくのは、やや難しい」が10.7%、「続けていくのは、かなり難しい」が5.8%となっています。



(11) 介護を始める前との体調比較

Q11. 主な介護者の方の体調は、介護を始める前と比べて変わりましたか。(○は1つ)

「少し健康でなくなった」が40.5%で「健康を維持している」(29.1%)を上回っています。



(12) 体調悪化の具体的内容

【Q11で「2. 少し健康でなくなった」「3. 健康でなくなった」と回答した方にお伺いします。】
Q12. 具体的にどのような症状がありますか。(自由記述)

体調悪化の具体的内容について見ると、「腰痛」が238件と最も多く、次いで「睡眠不足」が157件、「憂鬱、ストレス」が136件、「肩こり」が84件となっています。

〈体調悪化の具体的内容／上位9項目〉

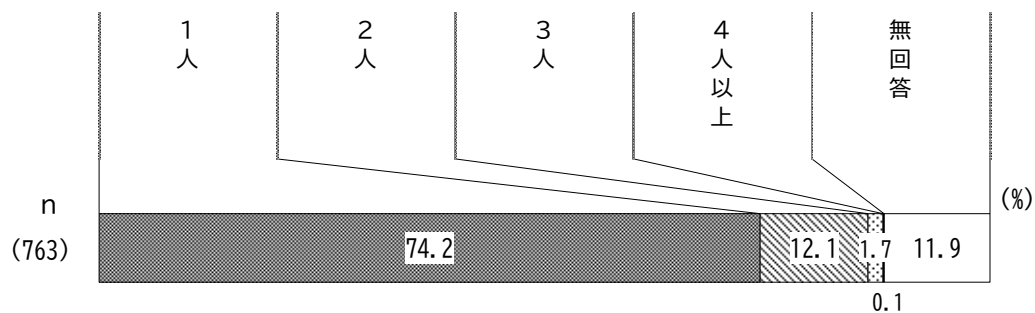
項目	件数
1 腰痛	238
2 睡眠不足、不眠	157
3 憂鬱、ストレス	136
4 肩こり	84
5 脚、膝	74
6 疲労	51
7 持病	28
8 将来不安	26
9 内臓疾患	25
9 めまい、ふらつき	25

第3章 在宅介護実態調査の結果

(13) 現在のケア人数

Q13. 主な介護者の方は、現在何人のケア（介護・育児等）を行っていますか。
（○は1つ）

「1人」が74.2%を占め、「2人」が12.1%となっています。

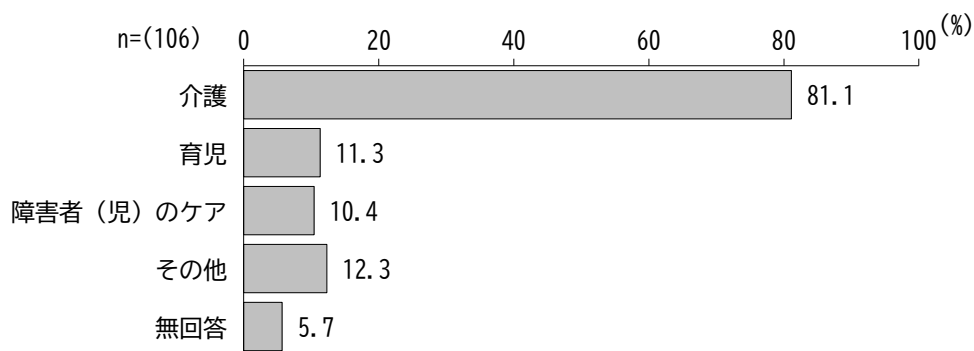


(14) ケアの内容

【Q13で「2.」「3.」「4.」と回答した方にお伺いします。】

Q14. 主な介護者の方はどのケアを行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

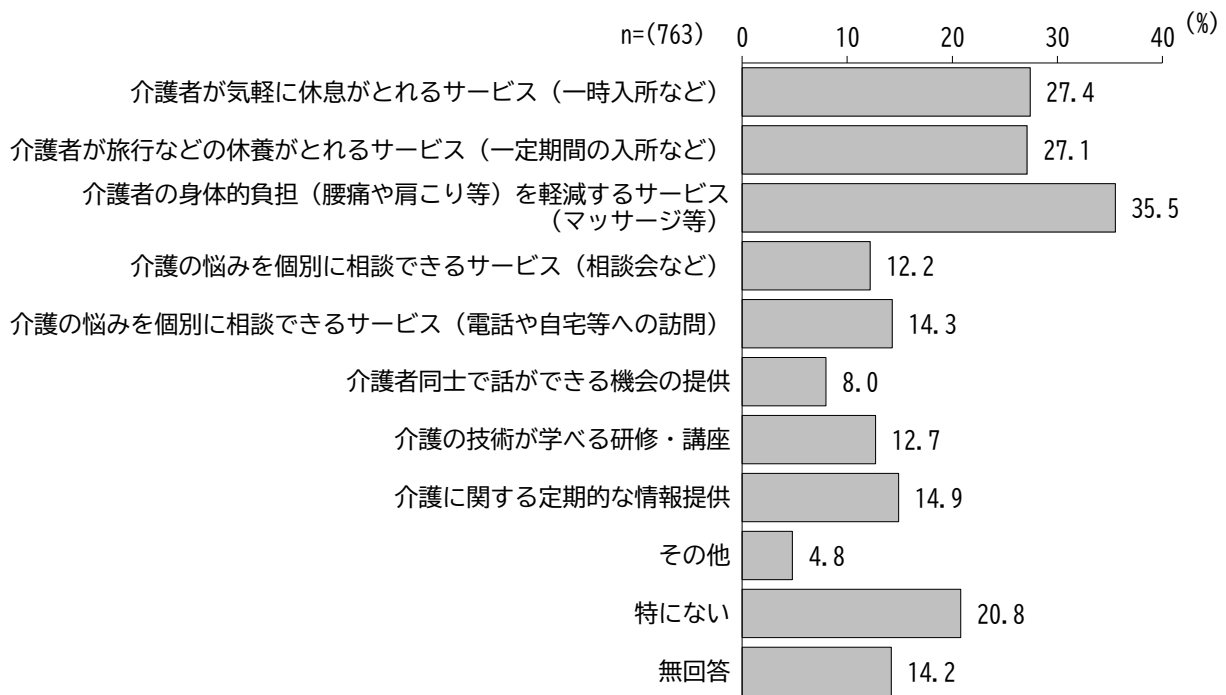
「介護」が81.1%で、「その他」が12.3%、「育児」が11.3%、「障害者（児）のケア」が10.4%となっています。



(15) 介護者自身が受けたい支援

Q15. 介護者ご自身が受けたい支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)

「介護者の身体的負担（腰痛や肩こり等）を軽減するサービス（マッサージ等）」が35.5%と最も多く、次いで、「介護者が気軽に休息がとれるサービス（一時入所など）」(27.4%)、「介護者が旅行などの休養がとれるサービス（一定期間の入所など）」(27.1%)、「介護に関する定期的な情報提供」(14.9%)となっています。一方、「特にない」は 20.8%となっています。



■自由記述

これからの高齢者施策や介護のあり方についてのご意見・ご提案があれば、ご自由に記入してください。

473件の回答があり、内容別では「介護保険制度・介護サービス」についての意見が141件と最も多く、次いで「在宅介護・介護者」が74件、「高齢福祉・地域福祉」が59件、「経済事情・経済的負担」が54件となっています。

項目		件数
1	介護保険制度・介護サービス	141
2	在宅介護・介護者	74
3	高齢福祉・地域福祉	59
4	経済事情・経済的負担	54
5	将来の不安	40
6	区や国への意見・要望	22
7	医療・健康	22
8	入所施設	20
9	アンケートについて	18
10	その他	22
回答総数		473

※複数の項目にまたがる意見もあるため、各項目の件数の合計は回答総数を上回ります。

■主な意見の概要（抜粋、要約の場合あり）

① 介護保険制度・介護サービス

デイサービス・ショートステイ・通所リハ等について（15件）
通所リハビリのエリア拡大をお願いしたい。現在、北区医療センター介護老人施設さくらの杜を利用していますが、送迎範囲外です。送迎範囲を拡大していただくと大変助かります。
デイサービスに通っています。週2日です。楽しく過ごさせていただいています。
費用助成・給付の拡充について（15件）
介護度の制限がない紙おむつの支給をお願いしたいです。
デイサービス・訪問リハ・訪問看護の費用がもう少し安くなれば嬉しい。介護タクシーも高い。オムツ5000円以内無料は大変助かっております。

サービス量・利用拡大について (14件)
日々の介護をがんばってます。年に1回～2回、1泊でよいので旅行(友だち等)したいので、気軽に預かってくれるサービスが欲しい。
母は要支援1なので週1回デイサービスで運動・マッサージ等を受けています。もう1日くらい別のデイサービスに通えるといいなと思います。2つの「世間(社会)」に属すると、社会性とか交友関係とか広がる様な…。デイサービスに通う日は、着る物、持ち物の準備をあれこれ考え、デイサービスでは皆と交流し帰宅すると疲れているのか、眠りも深いです。頭も活性化していると感じます。
ケアマネジャー・事業所について (14件)
ケアマネは人によって違うが、長い人は3時間もいるし、1時間以上時間つぶして長くいる感じ。世間話で介護に関する話は無し。何人かケアマネを変えたりしたが、皆長い。滞在時間を役所で決めて欲しい。知り合いの人は1日2回も来て食事まで出したそうです。介護を受けたいけど、ケアマネが来るのが嫌だから介護を受けないという話も聞いた。今の時代、他人を家に入れるのは抵抗がある。玄関先でもよいのではないのでしょうか。家に入れるから長く居るので、玄関先での対応なら用件のみで終ると思います。ケアマネが来るのが苦痛です。ケアマネの有料化に反対します。来られても何のプラスになるどころか、疲れの方が大きい。
現在通所しているデイの管理者に一方向的にデイの考えを押し付けてくる事案が多く、利用者不在が気になる。
人材不足・待遇改善 (13件)
介護サービスを提供する方々に社会的地位や高水準な報酬を整備するべきです。介護従事者の善意に国も行政も甘えていると感じます。
介護サービスを利用することで、大分楽に過ごせています。ヘルパーさんの所得改善などの手厚い措置を行ってほしいです。
介護認定の基準・判定について (12件)
介護認定が認知機能に重点を置いているようで、身体的機能の低下と介護度が合っていないと感じる。
要介護度の認定のあり方に対して、客観的に理解できる様、情報開示をして頂きたい。
相談先・情報周知について (11件)
大切な両親ですので、一日も長く穏やかに生活して欲しいと思っております。その為にも専門的な知識を御教授頂き、介護する方、される方も共に明るく毎日を過ごせたらと願っております。その為にも今後は利用可能なサービスを有効に使わせて頂きたいと思っております。
休みの日にケアマネジャーに連絡がとれず、本当に困ったことがあったので、そのような時、どこに相談すればよいか教えてほしい。
在宅生活を支えるサービスの充実 (7件)
通院に必要なタクシー券ですが、通院回数が多い為不足しています。実費精算がかなりの額になっている事から、タクシー券の増額を希望します。
その他 (40件)
介護は色々負担が掛かりますが、いずれは介護者自身もお世話になる大切な施策だと思います。今後も安心して利用出来るサービスを維持してもらえる様に願うばかりです。

第3章 在宅介護実態調査の結果

② 在宅介護・介護者

家族介護者への支援・レスパイト（19件）
介護者のためのマッサージ券、買い物券、特典チケット等あれば有難いしホッとしますね。 介護者が1日体を休める日が欲しいです。
家族・親族の協力体制（10件）
介護者である私が、母に健やかに穏やかな生活をしてもらいたいので努力します。親戚とも絶縁状態なので、もう少し協力してくれたらと思います。 妻が介護するのが当たり前という世代のため、デイケアの利用なども受けずにいる。また支配的でもあり、少しでも意に沿わない事があると不機嫌になる。衣類や食事などもサポートしたくても拒否されるのでそのまま放置している。疲れた！！
在宅介護の継続（8件）
本人が自宅を希望していますので、出来る限りかなえてあげたいです。今のところは少し補助してあげれば自分でなんとか出来るので尊重してあげたい。又、定期的に行く病院には娘が車で付き添ってくれますので助かっています。
老老介護・介護者の高齢化（7件）
介護をしている方も年々歳をとって行くので大変になっていくと思います。
介護者の身体的・精神的負担（5件）
どんな介護であれ介護は精神的に疲れます。でも仕方ないですね。介護がんばります。
介護方法/技術へのアドバイス（5件）
本人の状態を見て介護者が自宅で補助する際のアドバイスを詳しく（具体的に）教えてもらえると助かると思います。
その他（20件）
只今、別居の長男夫婦に何かと面倒をかけています。ケアマネの方、訪問ヘルパー（掃除）、リハビリの皆様にお世話になっています。とても良くして頂いているので有り難く思っております。なるべく寝たきりにならない様、努力して行きたいと思っております。

③ 高齢福祉・地域福祉

介護人材・施設・サービスの充実（10件）
介護施設の充実や、専門の介護者の人たちの質の向上や、社会的地位の確立をお願いしたい。そういった人達の働く環境を良くしてくれれば、介護される方も良い介護をしてもらえると思うので…。
施設に勤務されている職員の方が安心して働けるような職場環境だと良いと思います（賃金や労働時間等）。
生活環境・移動環境・バリアフリー整備（7件）
住んでいる場所が駅から遠く、買い物、病院に行くのも不便です。バス停は遠く、行きのみで帰りに使えるバスが通っていません。急な坂も多く、地域を細かく巡る巡回バスが本当に必要だと思います。この現状だと数年先、急な坂を登って病院を往復できず、タクシー利用の費用もかさんで通院もできなくなります。
交流の場・気軽に集える場（5件）
認知症の人も気軽に入れるカフェ、食事処。「わざわざ」ではなく自然に交流できたら良いと思う。

地域参加・参加しやすい活動（5件）
認知症の主人は、趣味が多い人です。デイサービスも色々な所に行きましたが、なかなか自分の好きなところに巡りあわず、今はどこにも行っていません。自分の趣味を生かせるものがあつたら、続くのではないかといつも思います。ちなみに、趣味はカラオケ、ダンス、旅行、身体を動かす事が好きです。もう90歳になるので無理かも知れませんが。
家族介護者支援・緊急時対応（5件）
高齢者を支える家族、デイサービスの方などへの支援もお願いしたい。家庭内で介護をする限界があり、区がサービスの中心を担うよう動いていただきたい。
その他（27件）
外国語に対応できる所を増やす。
現在、介護している身としては、自分の将来に投影して考えてしまう。それが何より辛い。自身の老後をいかに自立して過ごすために、自立支援のサービスメニューがもっと増えればよいと思う。同居の場合、家事支援のサービスを受けられていないのはおかしい。

④ 経済事情・経済的負担

介護サービス利用料・自己負担の重さ（12件）
介護保険3割負担は高すぎる。最高で2割負担で抑えてもらいたい。
介護サービス全般においての金銭的な軽減を望みます。
施設利用継続の経済的負担（8件）
介護者が高齢となり、今年6月から半年間施設に入所したが、費用の点で長く利用はできず退所した。
家族介護への経済的支援（7件）
介護者への支援がなさすぎ（特に金銭面）。育児では医療費の無料や、子供ひとりに対して金銭支援等沢山ある。子供は親が欲しいと思って産み育てているので支援の必要性を感じない。むしろ高齢者や介護者の方が大変。
年金生活・生活全般の経済不安（6件）
年金生活のため、金銭に心配なく利用できますよう、宜しく願い申し上げます。

通院・移動にかかる費用負担（5件）
足が悪く、歩行器を使用している。1人でバスに乗れない状態の人には、総合病院、歯医者、眼科、皮膚科などに行く時、タクシー代の支援がないと経済的に厳しい。要支援の人、付き添い介護者にもタクシー券を配布してほしい。
医療費・医療材料費・消耗品負担（5件）
本人、家族が高齢となり、先行き生活面、資金面も不安が募ります。医療費、介護料等の高騰に依る先行不安です。気軽に相談、対応出来る機会が有ればと思います。
その他（11件）
介護者自身の身体的、金銭面での不安。仕事を継続しなければ生活を維持できない。

⑤ 将来の不安

介護者の高齢化・老老介護への不安（9件）
現在の「老・老介護」と今後の「認知・認知介護」が心配。
介護者が病気になった際の不安（8件）
介護者が身体不具合になった時、看護が出来なくなったらと！！不安になる。

第3章 在宅介護実態調査の結果

住まいの見通しへの不安（5件）
施設等に入所するのに大変難しいとのこと。先の生活が不安です。
その他（18件）
日本の総人口が減り、高齢化社会を迎え不安だらけです。
だれに何を？どこに何を？聞いていいかわからない。相談の仕方がわからない。
この先要介護4、5になった時は不安になります。ケアマネージャーに相談していきたいと思います。
まだ介護を受けていないが、いずれお願いする事があると思う。高齢のヘルパーさんが多くなっているようですね。年金で生活する者にとって、利用料の支払いが負担になっている話を聞き不安になります。

⑥区や国への意見・要望

高齢世帯（両親）が高い家賃を払って賃貸住宅に住んでおり、経済的負担が大きいため、安心して住み続けられるような施策をして欲しい。（都営に何度も申し込みしていますが当たらない）
介護や福祉にかかわる人の給料が安すぎ。人手不足になっていると思います。子供に対するものは十分だと思うが年寄にももう少し優しくそして福祉医療関係者に手厚い給料を出して日本の未来を守ってほしい。

⑦医療・健康

認知症の若い時の生活改善についての徹底。夫が認知症になり悲しいことや驚くことが沢山あります。人生において、このややこしい病気（特に若年性）にかからない為の努力工夫が周知されていれば、ありがたいと思います。
医療施設への通う方法が段々難しくなる。

⑧入所施設

高齢者施設に入りやすくして欲しいです。広告等では高額な施設が多いです。
高齢者施設を増やし、要介護者の入所のハードルを下げてほしい。
老々介護について。夫婦で高齢になり、主人の介護が出来なくなった場合にすぐ入所出来る施設があるか不安。

⑨アンケートについて

今後とも、この様なアンケートをお願いします。時々内容が変わりますと思います。よろしくをお願いします。
--

⑩その他

笑顔が増えますように。長生きしたいと思える社会となりますように。
現金で支払う事のみ出来ますが、タッチパネル等を押しての支払いが難しい様なので、買い物をあまりしなくなりました。行けるお店が限られてしまうのはかわいそうだと思う。介護をしていない人は、している人の気持ちが分からない人がまだまだ多く残念。

第4章 55歳以上64歳以下調査の結果

1. 仕事に対する考え方

(1) 就労状況

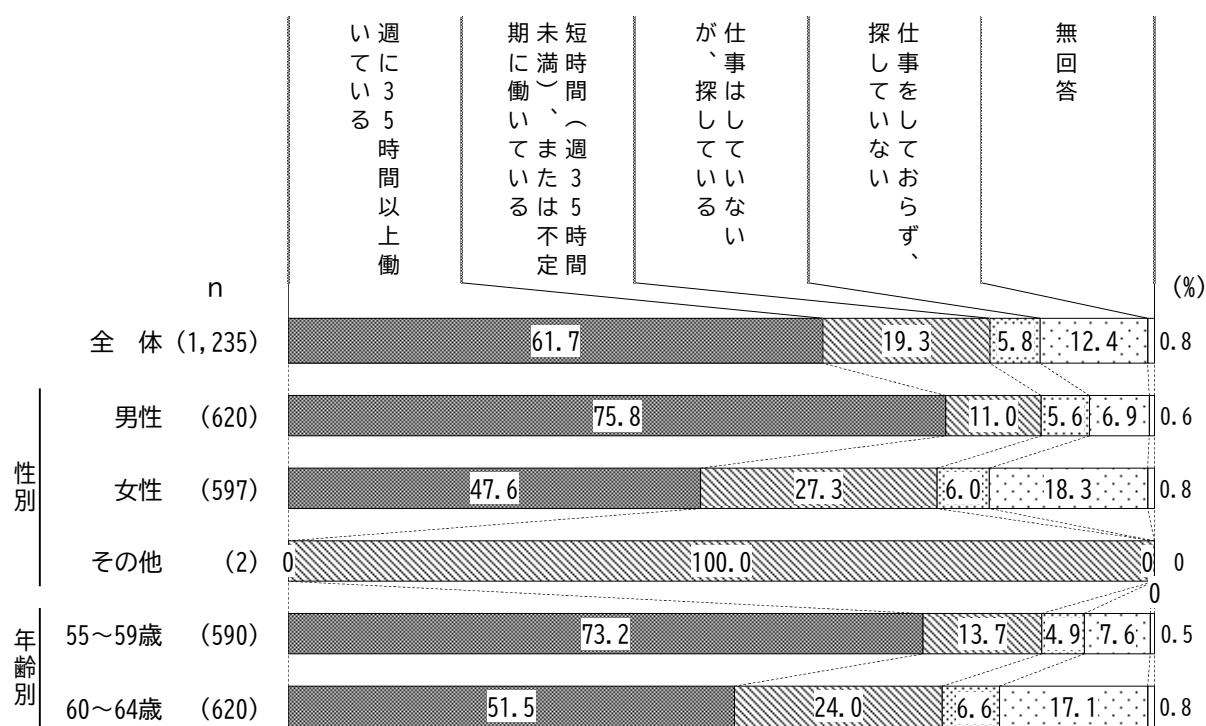
Q1. あなたは現在、収入を伴う仕事（パート・アルバイト、家業の手伝い等を含む）をしていますか。（○は1つ）

「週に35時間以上働いている」が61.7%、次いで「短時間（週35時間未満）、または不規則に働いている」（19.3%）、「仕事をしておらず、探していない」（12.4%）、「仕事はしていないが探している」（5.8%）となっています。

〈性別、年齢別／就労状況〉

性別に見ると、男性では「週に35時間以上働いている」が75.8%を占め、女性（47.6%）を上回っています。一方、女性は「短時間（週35時間未満）、または不規則に働いている」（27.3%）や、「仕事をしておらず、探していない」（18.3%）が男性より多くなっています。

年齢別に見ると、55～59歳は男性、60～64歳は女性に近い分布となっています。

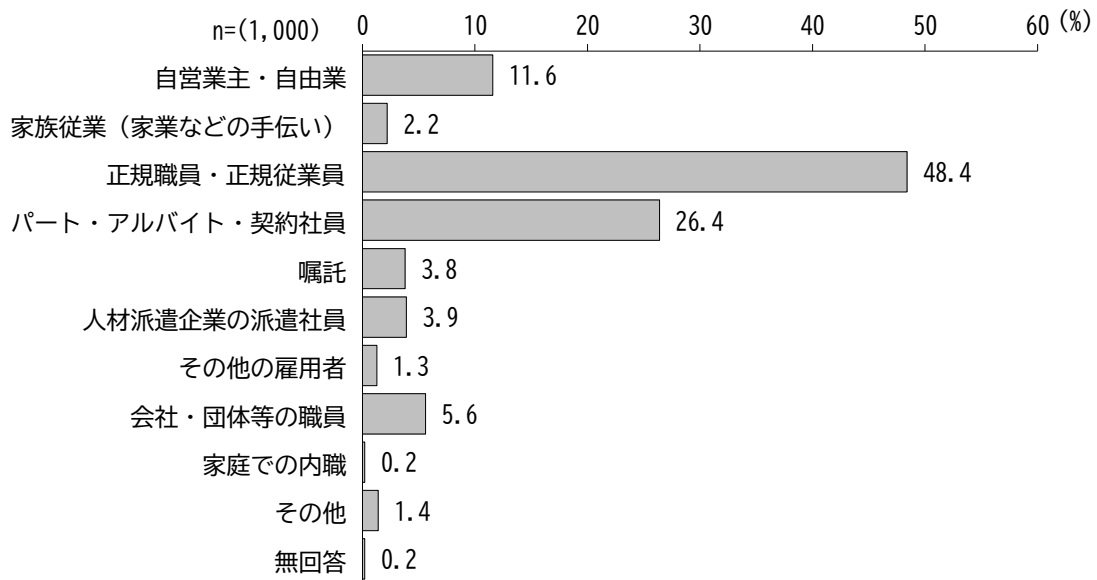


(2) 就労形態

【Q1で「1」「2」と答えた方にかがいます】

Q2. あなたの現在の雇用状況は、次のどれにあたりますか。(あてはまるものすべてに○)

「正規職員・正規従業員」が48.4%と最も多く、以下、「パート・アルバイト・契約社員」(26.4%)、「自営業主・自由業」(11.6%)、「会社・団体等の職員」(5.6%)と続いています。



〈性別、年齢別／就労形態〉

性別に見ると、男性では「正規職員・正規従業員」(56.5%)や「パート・アルバイト・契約社員」および「自営業主・自由業」(15.1%)が多く、女性では「正規職員・正規従業員」および「パート・アルバイト・契約社員」(39.4%)が同率で多くなっています。

年齢別に見ると、55～59歳、60～64歳ともに「正規職員・正規従業員」が最も多くなっています。また、60～64歳では「パート・アルバイト・契約社員」(33.3%)も多くなっています。

(%)

		回答者数	自営業主・自由業	家族従業員 (家業などの手伝い)	正規職員・正規従業員	パート・アルバイト・契約社員	嘱託	人材派遣企業の 派遣社員
全体		1,000	11.6	2.2	48.4	26.4	3.8	3.9
性別	男性	538	15.1	0.9	56.5	15.1	4.8	1.9
	女性	447	7.6	3.6	39.4	39.4	2.7	5.8
	その他	2	-	-	-	50.0	-	-
年齢別	55～59歳	513	9.7	2.1	60.6	19.5	0.8	4.5
	60～64歳	468	13.7	2.1	35.7	33.3	7.3	2.8

		回答者数	その他の雇用者	会社・団体等の職員	家庭での内職	その他	無回答
全体		1,000	1.3	5.6	0.2	1.4	0.2
性別	男性	538	1.7	6.7	-	1.1	0.4
	女性	447	0.9	4.3	0.4	1.3	-
	その他	2	-	50.0	-	-	-
年齢別	55～59歳	513	0.6	4.9	0.2	1.0	-
	60～64歳	468	2.1	6.4	0.2	1.5	0.4

(3) 65歳以降の就労意欲

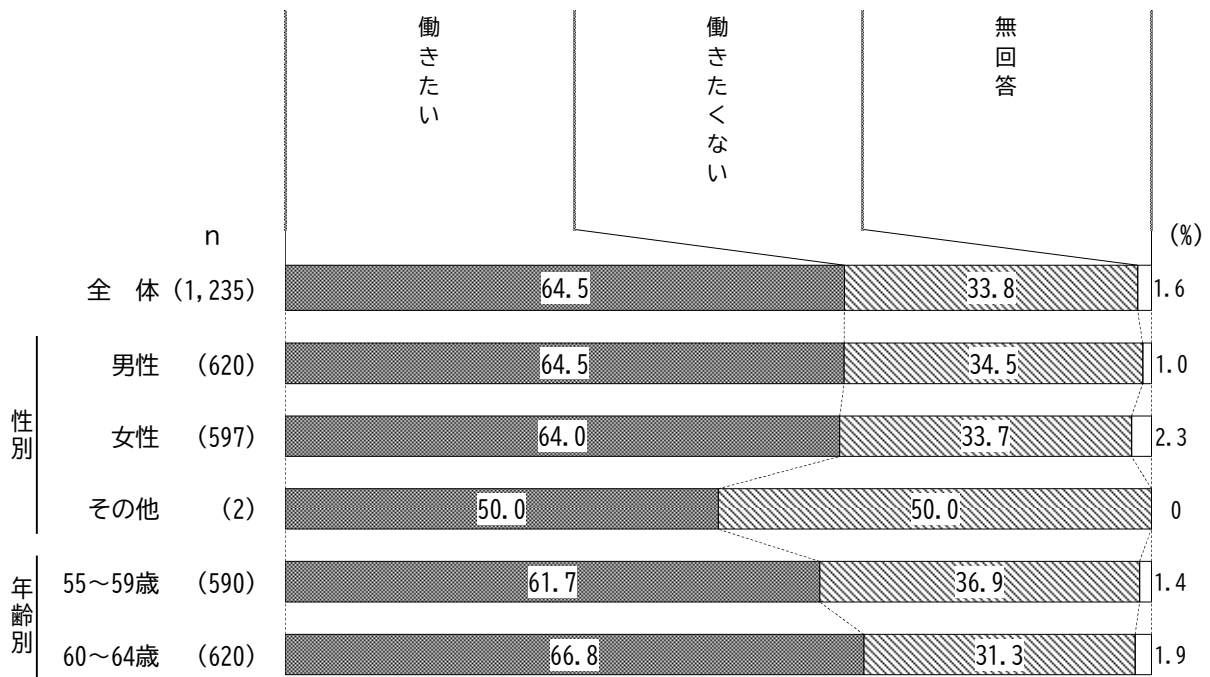
Q3. あなたは65歳以降も働きたいですか。(○は1つ)

「働きたい」が64.5%、「働きたくない」が33.8%となっています。

〈性別、年齢別／65歳以降の就労意欲〉

性別に見ると、大きな違いは見られません。

年齢別に見ると、「働きたい」は60～64歳で66.8%と55～59歳（61.7%）を上回っています。



(4) 希望する就労年齢

【Q3で「1. 働きたい」と答えた方に伺います】

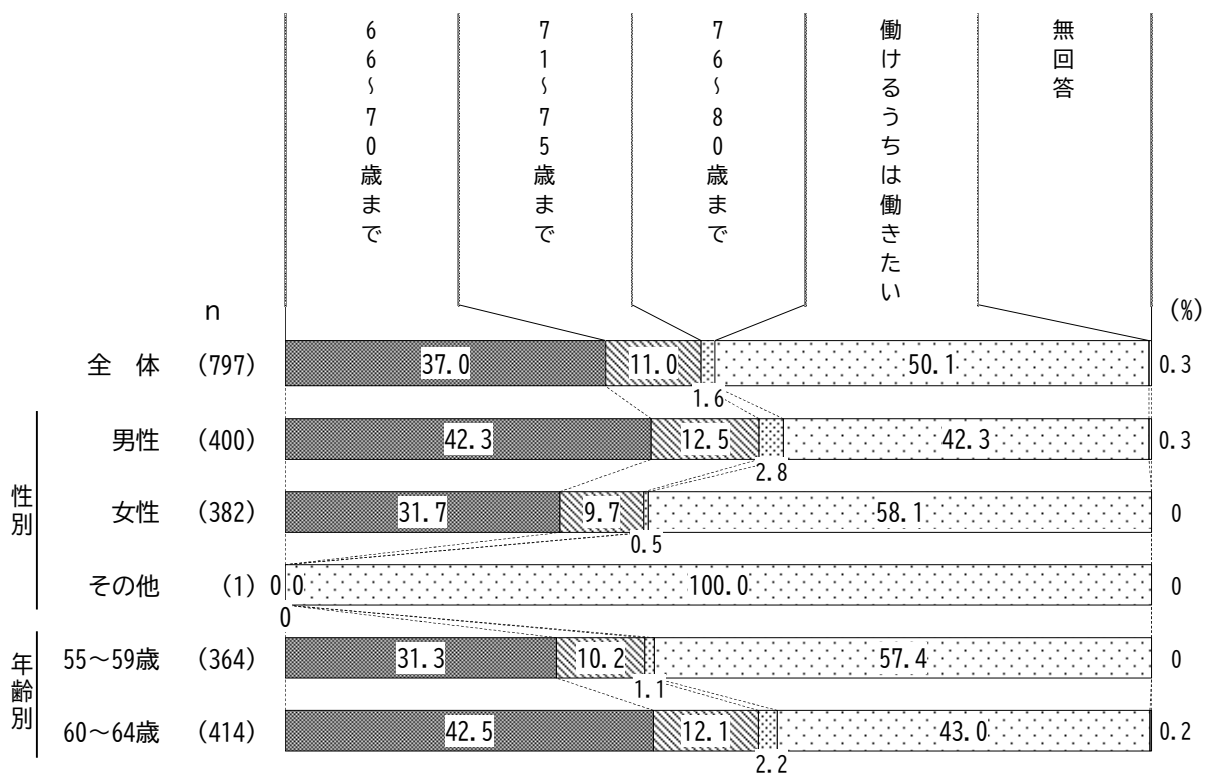
Q4. あなたは何歳まで働きたいですか。(フルタイムだけではなく、1日2時間や週1～2日など、短時間勤務や勤務日数が少ない仕事も含みます。)(○は1つ)

「働けるうちは働きたい」が50.1%と半数で、「66～70歳まで」が37.0%、「71～75歳まで」が11.0%、「76～80歳まで」が1.6%となっています。

〈性別、年齢別／希望する就労年齢〉

性別に見ると、具体的な年齢による回答はいずれも男性が多く、女性は「働けるうちは働きたい」が58.1%と多くなっています。

年齢別に見ると、55～59歳では「働けるうちは働きたい」、60～64歳では「66～70歳まで」が多くなっています。

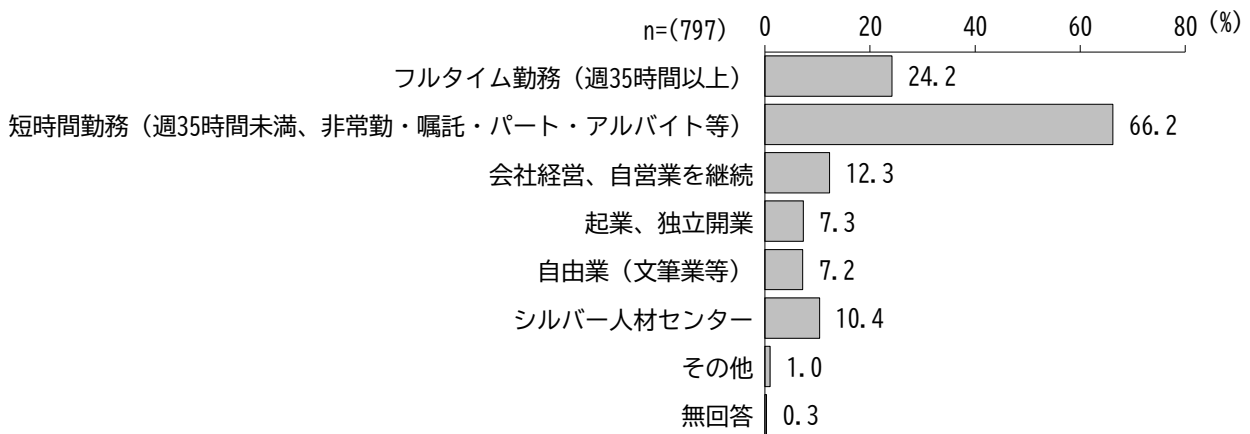


(5) 希望する働き方

【Q3で「1. 働きたい」と答えた方にうかがいます】

Q5. どのような働き方をしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

「短時間勤務（週35時間未満、非常勤・嘱託・パート・アルバイト等）」が66.2%で、以下、「フルタイム勤務（週に35時間以上）」（24.2%）、「会社経営、自営業を継続」（12.3%）、「シルバー人材センター」（10.4%）と続いています。



〈性別、年齢別／希望する働き方〉

性別に見ると、男性では「フルタイム勤務（週に35時間以上）」（29.3%）や「会社経営、自営業を継続」（18.5%）が多く、女性では「短時間勤務（週35時間未満、非常勤・嘱託・パート・アルバイト等）」（78.0%）が多くなっています。

年齢別に見ると、「起業、独立開業」は55～59歳で10.7%と60～64歳（3.6%）より多くなっています。

(%)

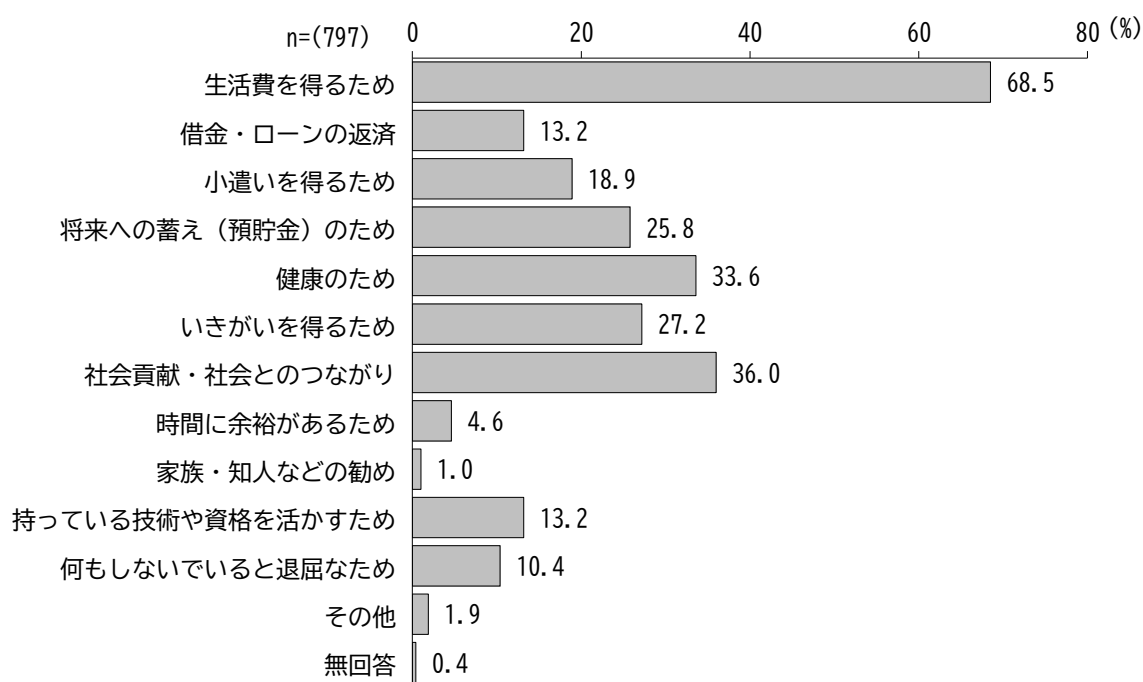
		回答者数	フルタイム勤務 (週35時間以上)	短時間勤務 (週35時間未満、 非常勤・嘱託・ パート・アルバイト等)	会社経営、 自営業を継続	起業、 独立開業	自由業 (文筆業等)	シルバー 人材センター	その他	無 回答
全体		797	24.2	66.2	12.3	7.3	7.2	10.4	1.0	0.3
性別	男性	400	29.3	54.5	18.5	7.5	6.3	8.5	1.0	0.5
	女性	382	18.6	78.0	6.3	6.8	7.6	11.8	1.0	-
	その他	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-
年齢別	55～59歳	364	25.3	66.2	11.0	10.7	7.1	11.0	0.8	0.3
	60～64歳	414	23.2	65.9	14.0	3.6	6.5	9.7	1.2	0.2

(6) 就労希望理由

【Q3で「1. 働きたい」と答えた方にうかがいます】

Q6. 働きたいのは、どのような理由からですか。(〇は3つまで)

「生活費を得るため」が68.5%と特に多く、以下、「社会貢献・社会とのつながり」(36.0%)、「健康のため」(33.6%)、「いきがいを得るため」(27.2%)、「将来への蓄え(預貯金)のため」(25.8%)と続いています。



第4章 55歳以上64歳以下調査の結果

〈性別、年齢別／就業希望理由〉

性別に見ると、男性では「生活費を得るため」(71.5%)や「借金・ローンの返済」(17.8%)が女性より多く、女性では「将来への蓄え(預貯金)のため」(28.5%)、「社会貢献・社会とのつながり」(40.6%)や「いきがいを得るため」(30.1%)が男性より多くなっています。

年齢別に見ると、55～59歳では「生活費を得るため」(72.8%)、「社会貢献・社会とのつながり」(40.1%)が60～64歳より多くなっています。

(%)

		回答者数	生活費を得るため	借金・ローンの返済	小遣いを得るため	将来への蓄え(預貯金)のため	健康のため	いきがいを得るため	社会貢献・社会とのつながり
全体		797	68.5	13.2	18.9	25.8	33.6	27.2	36.0
性別	男性	400	71.5	17.8	18.3	22.8	31.8	25.0	32.3
	女性	382	65.7	8.1	19.4	28.5	34.8	30.1	40.6
	その他	1	-	-	100.0	-	-	100.0	-
年齢別	55～59歳	364	72.8	13.7	19.0	26.1	32.7	28.3	40.1
	60～64歳	414	65.2	12.6	18.8	25.6	34.1	26.6	32.9

		回答者数	時間に余裕があるため	家族・知人などの勧め	持っている技術や資格を活かすため	何もしないでいると退屈なため	その他	無回答
全体		797	4.6	1.0	13.2	10.4	1.9	0.4
性別	男性	400	2.8	1.0	11.8	9.8	2.0	0.5
	女性	382	6.8	1.0	14.7	11.5	1.6	0.3
	その他	1	-	-	100.0	-	-	-
年齢別	55～59歳	364	4.7	0.5	12.9	10.4	1.4	0.3
	60～64歳	414	4.6	1.4	13.5	10.9	1.9	0.5

(7) 希望する月給額

【Q3で「1. 働きたい」と答えた方にうかがいます】

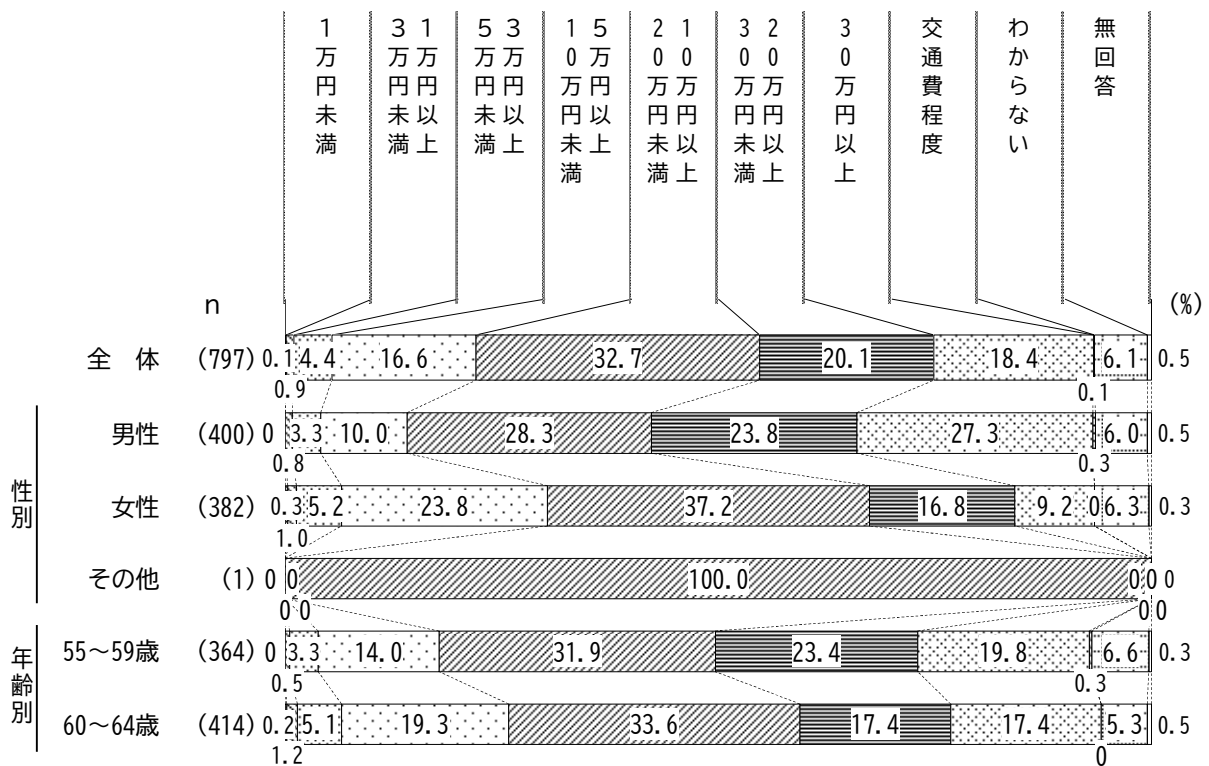
Q7. 月にどのくらいの報酬がほしいですか。(○は1つ)

「10万円以上20万円未満」が32.7%と最も多く、以下、「20万円以上30万円未満」(20.1%)、「30万円以上」(18.4%)、「5万円以上10万円未満」(16.6%)と続いています。

〈性別、年齢別／希望する月給額〉

性別に見ると、「5万円以上10万円未満」「10万円以上20万円未満」は女性の方が多く、「20万円以上30万円未満」と「30万円以上」は男性で多くなっています。「10万円以上20万円未満」「20万円以上30万円未満」「30万円以上」を合わせた『10万円以上』は男性で79.4%と女性(63.2%)より多くなっています。

年齢別に見ると、『10万円以上』は55～59歳で75.1%と60～64歳(68.4%)より多くなっています。

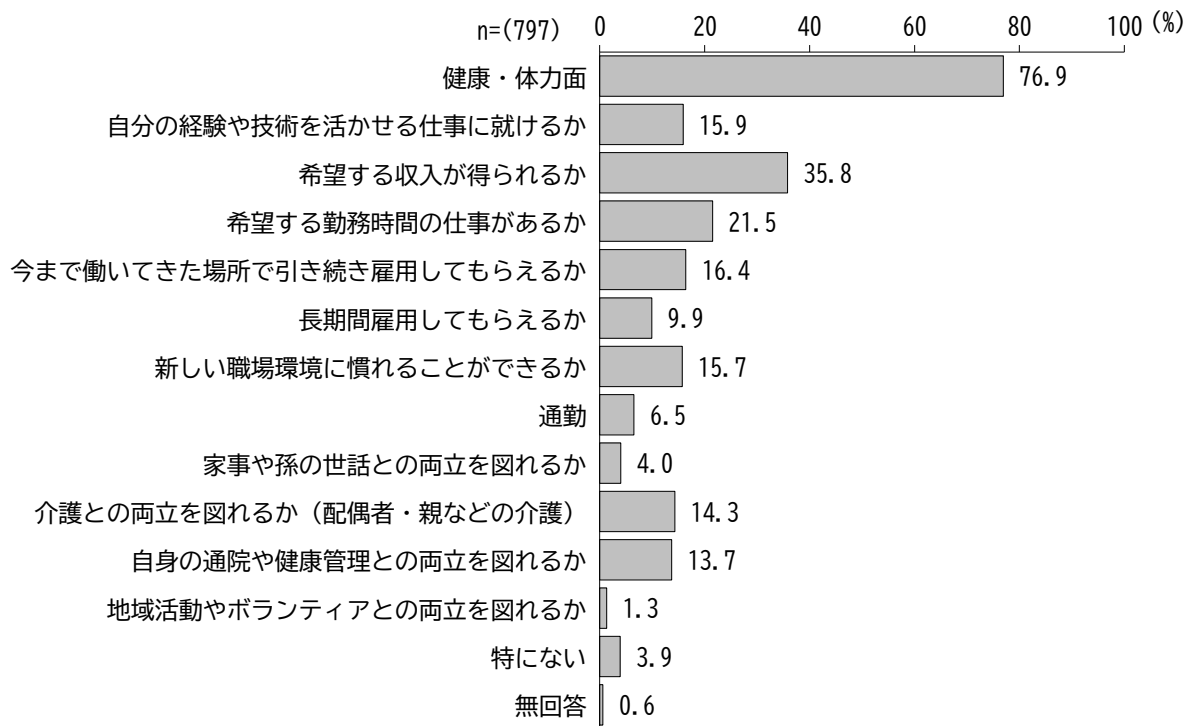


(8) 65歳以降も仕事を続けるうえでの不安

【Q3で「1. 働きたい」と答えた方にうかがいます】

Q8. 65歳以降も仕事を続けるうえで不安に感じていることはありますか。(○は3つまで)

「健康・体力面」が76.9%で特に多く、以下、「希望する収入が得られるか」(35.8%)、「希望する勤務時間の仕事があるか」(21.5%)、「今まで働いてきた場所で引き続き雇用してもらえるか」(16.4%)と続いています。



〈性別、年齢別／65歳以降も仕事を続けるうえでの不安〉

性別に見ると、「自分の経験や技術を活かせる仕事に就けるか」は男性が18.8%と女性(13.4%)より多くなっています。一方、女性では「希望する勤務時間の仕事があるか」(24.1%)、「新しい職場環境に慣れることができるか」(20.7%)や「介護との両立を図れるか(配偶者・親などの介護)」(18.1%)が男性より多くなっています。

年齢別に見ると、「希望する収入が得られるか」は55～59歳で39.8%と60～64歳(32.1%)より多くなっています。

(%)

		回答者数	健康・体力面	自分の経験や技術を活かせる仕事に就けるか	希望する収入が得られるか	希望する勤務時間の仕事があるか	今まで働いてきた場所で引き続き雇用してもらえるか	長期間雇用してもらえるか	新しい職場環境に慣れることができるか
全体		797	76.9	15.9	35.8	21.5	16.4	9.9	15.7
性別	男性	400	79.3	18.8	37.8	18.8	17.0	9.5	10.5
	女性	382	74.6	13.4	33.2	24.1	15.7	10.2	20.7
	その他	1	100.0	-	-	-	-	-	-
年齢別	55～59歳	364	79.4	18.4	39.8	19.8	13.7	10.4	18.1
	60～64歳	414	75.1	14.0	32.1	23.2	18.8	9.2	13.0

		回答者数	通勤	家事や孫の世話との両立を図れるか	介護との両立を図れるか(配偶者・親などの介護)	自身の通院や健康管理との両立を図れるか	地域活動やボランティアとの両立を図れるか	特になし	無回答
全体		797	6.5	4.0	14.3	13.7	1.3	3.9	0.6
性別	男性	400	7.5	2.0	11.0	12.3	1.8	3.8	0.8
	女性	382	5.8	6.3	18.1	15.4	0.8	4.2	0.3
	その他	1	-	-	-	-	-	-	-
年齢別	55～59歳	364	6.6	3.8	15.4	12.6	1.1	3.8	0.3
	60～64歳	414	6.8	4.3	13.3	14.7	1.4	3.9	0.7

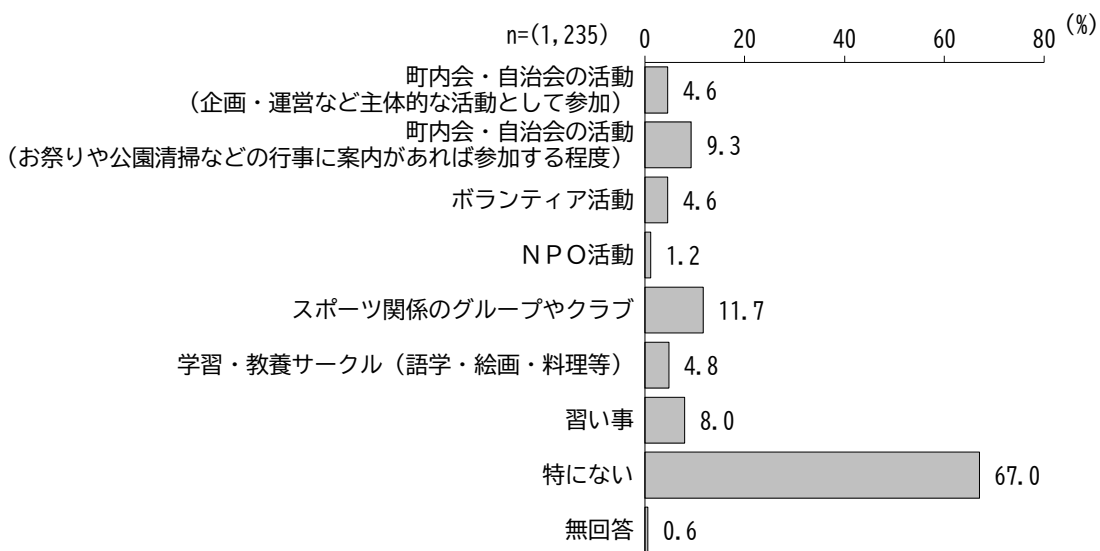
2. 地域とのつながり、社会参加

(1) 活動参加状況

Q1. 現在、住んでいる地域にかかわらず、下記の活動に参加していますか。
(あてはまるものすべてに○)

全体から「特にない」(67.0%)と無回答(0.6%)を除いた32.4%が、何らかの活動に参加しています。

「スポーツ関係のグループやクラブ」が11.7%と最も多く、次いで、「町内会・自治会の活動(お祭りや公園清掃などの行事に案内があれば参加する程度)」(9.3%)、「習い事」(8.0%)となっています。



〈性別、年齢別／活動参加状況〉

性別に見ると、男性は「特にない」が72.7%と女性(61.5%)より多くなっています。一方、女性は「習い事」が13.2%と男性(2.6%)より多くなっています。

年齢別に見ると、大きな違いは見られません。

	回答者数	町内会・自治会の活動として参加 (企画・運営など主体的な活動と)	町内会・自治会の活動 (お祭りや公園清掃などの行事に案内があれば参加する程度)	ボランティア活動	NPO活動	スポーツ関係のグループやクラブ	学習・教養サークル (語学・絵画・料理等)	習い事	特にない	無回答	
全体	1,235	4.6	9.3	4.6	1.2	11.7	4.8	8.0	67.0	0.6	
性別	男性	620	6.3	9.5	3.2	1.1	10.2	2.6	2.6	72.7	0.5
	女性	597	2.8	9.2	6.0	1.3	12.9	7.2	13.2	61.5	0.7
	その他	2	-	-	50.0	-	100.0	-	-	-	-
年齢別	55~59歳	590	3.4	8.1	5.1	0.8	10.7	4.2	7.8	67.8	0.7
	60~64歳	620	5.8	10.3	4.0	1.6	12.4	5.3	7.9	66.5	0.5

(2) 参加頻度

【Q1で「1」～「7」と答えた方に伺います】

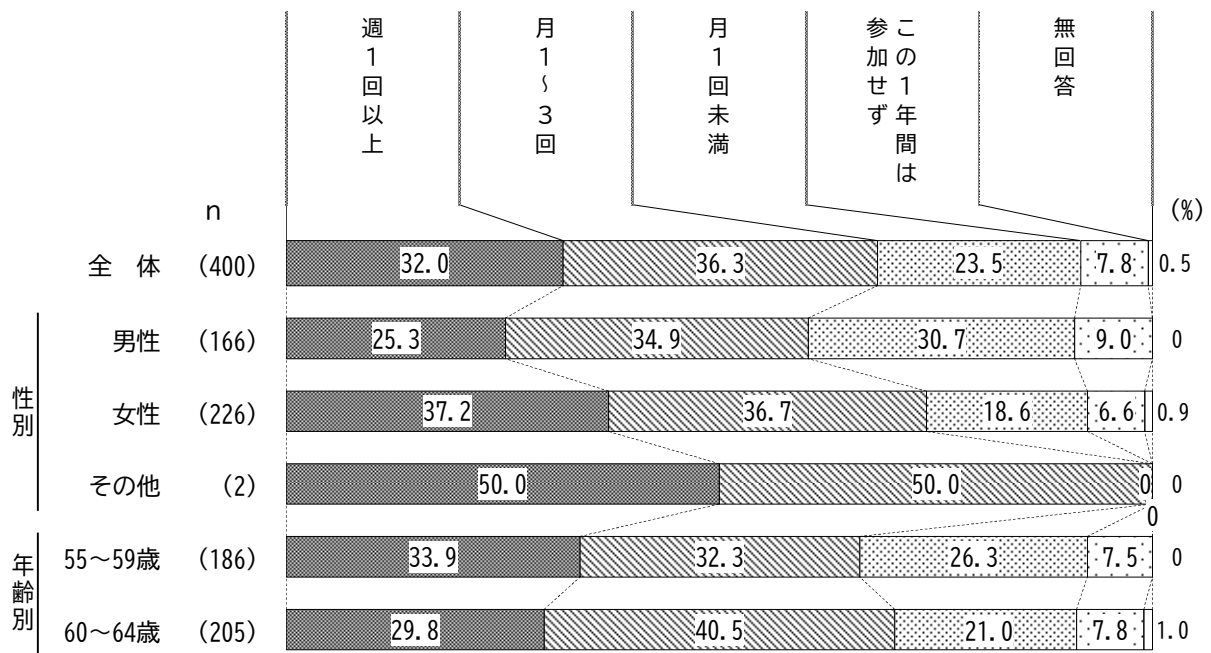
Q2. 上記のグループや団体の活動には、どのくらい参加していますか。(○は1つ)

「月1～3回」が36.3%で最も多く、「週1回以上」が32.0%、「月1回未満」が23.5%となっています。

〈性別、年齢別／参加頻度〉

性別に見ると、「週1回以上」女性で37.2%と男性(25.3%)より多く、「月1回未満」は男性で30.7%と女性(18.6%)より多くなっています。

年齢別に見ると、「週1回以上」と「月1回未満」は55～59歳、「月1～3回」は60～64歳で多くなっています。



(3) 活動場所

【Q1で「1」～「7」と答えた方に伺います】

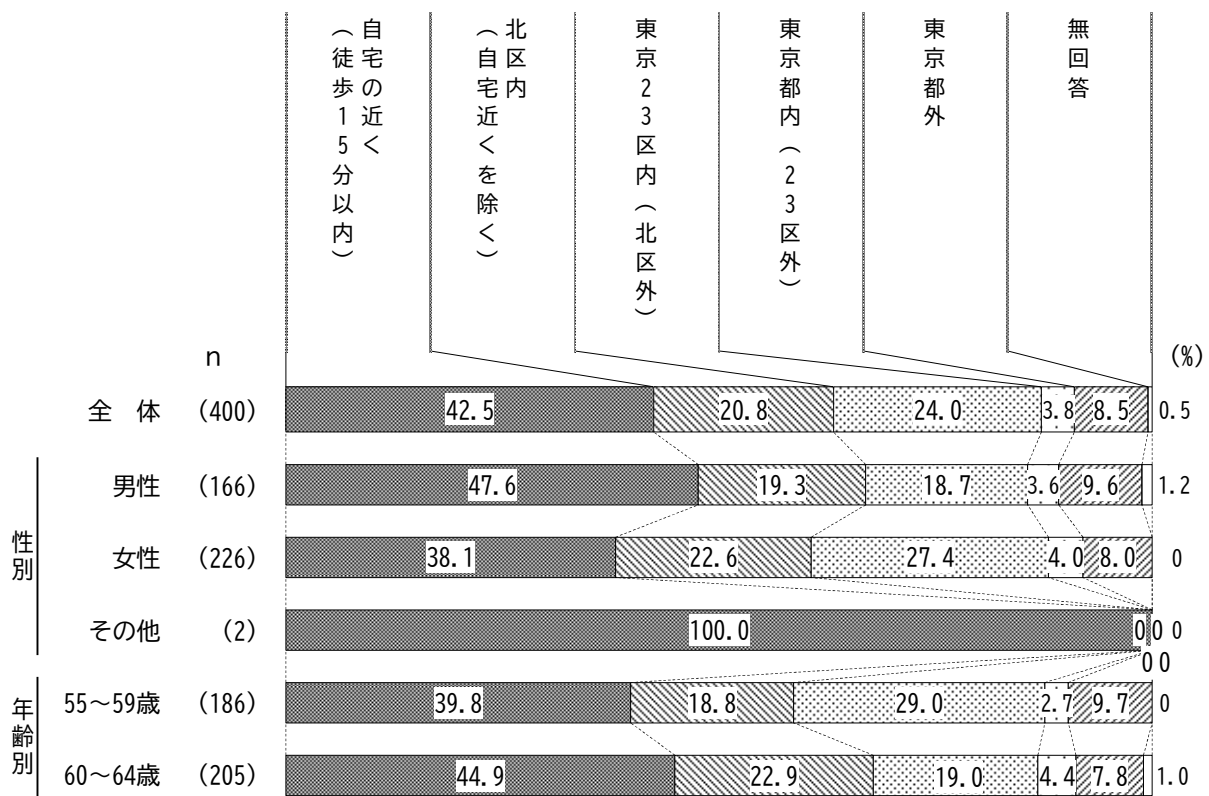
Q3. 活動場所はどこですか。複数の活動を行っている場合は最も力を入れている活動についてお答えください。(〇は1つ)

「自宅の近く（徒歩15分以内）」が42.5%で最も多く、「東京23区内（北区外）」が24.0%、「北区内（自宅近くを除く）」が20.8%となっています。

〈性別、年齢別／活動場所〉

性別に見ると、「自宅の近く（徒歩15分以内）」男性で47.6%と女性（38.1%）より多く、「東京23区内（北区外）」は女性で27.4%と男性（18.7%）より多くなっています。

年齢別に見ると、「自宅の近く（徒歩15分以内）」は60～64歳で44.9%と55～59歳（39.8%）より多く、「東京23区内（北区外）」は55～59歳で29.0%と60～64歳（19.0%）より多くなっています。

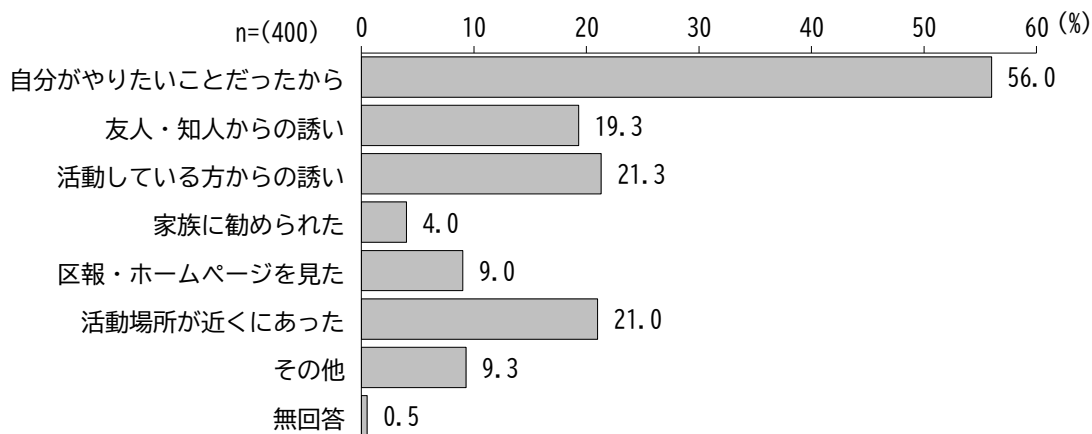


(4) 活動を始めたきっかけ

【Q1で「1」～「7」と答えた方に伺います】

Q4. 現在、参加している活動を始めたきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「自分がやりたいことだったから」が56.0%と突出しており、以下、「活動している方からの誘い」(21.3%)、「活動場所が近くにあった」(21.0%)、「友人・知人からの誘い」(19.3%)と続いています。



〈性別、年齢別／活動を始めたきっかけ〉

性別に見ると、「自分がやりたいことだったから」は女性で61.9%と男性(48.2%)より多く、「活動している方からの誘い」は男性で29.5%と女性(15.5%)より多くなっています。

年齢別に見ると、大きな違いは見られません。

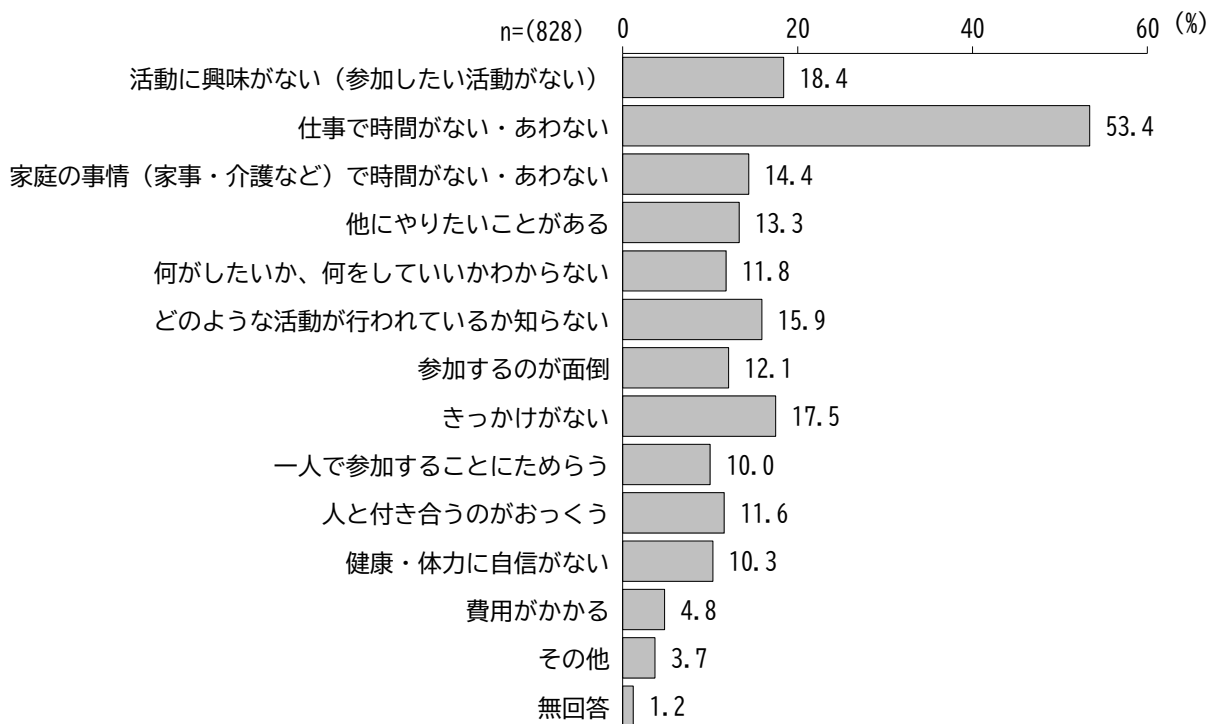
		回答者数	自分がやりたいことだったか	友人・知人からの誘い	活動している方からの誘い	家族に勧められた	区報・ホームページを見た	活動場所が近くにあった	その他	無回答
全体		400	56.0	19.3	21.3	4.0	9.0	21.0	9.3	0.5
性別	男性	166	48.2	20.5	29.5	5.4	4.2	20.5	9.0	0.6
	女性	226	61.9	17.7	15.5	3.1	12.8	20.8	8.8	0.4
	その他	2	50.0	50.0	-	-	-	50.0	50.0	-
年齢別	55～59歳	186	55.9	20.4	22.0	3.2	9.1	20.4	7.5	-
	60～64歳	205	55.1	18.0	20.5	4.9	8.8	21.0	10.2	1.0

(5) 活動不参加の理由

【Q1で「8. 特にない」と答えた方に伺います】

Q5. 活動に参加しない理由は何ですか。(〇は3つまで)

「仕事で時間がない・あわない」が53.4%で特に多く、以下、「活動に興味がない（参加したい活動がない）」(18.4%)、「きっかけがない」(17.5%)、「どのような活動が行われているか知らない」(15.9%)、「家庭の事情（家事・介護など）で時間がない・あわない」(14.4%)と続いています。



〈性別、年齢別／活動不参加の理由〉

性別に見ると、「仕事で時間がない・あわない」、「活動に興味がない（参加したい活動がない）」、「きっかけがない」、「他にやりたいことがある」や「参加するのが面倒」は男性で多く、「家庭の事情（家事・介護など）で時間がない・あわない」は女性で多くなっています。

年齢別に見ると、「仕事で時間がない・あわない」は55～59歳で60.3%と60～64歳（47.6%）より多くなっています。

(%)

		回答者数	活動に興味がない (参加したい活動がない)	仕事で時間がない・あわない	家庭の事情（家事・介護など） で時間がない・あわない	他にやりたいことがある	何かからしないか、 何をしたいか	どのような活動が行われて いるか知らない	参加するのが面倒
全体		828	18.4	53.4	14.4	13.3	11.8	15.9	12.1
性別	男性	451	22.2	56.3	9.8	15.7	12.4	15.5	15.1
	女性	367	13.9	50.1	19.9	10.6	11.4	16.6	8.2
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢別	55～59歳	400	17.8	60.3	14.5	13.5	10.0	17.5	11.0
	60～64歳	412	19.2	47.6	14.1	13.6	13.3	14.6	12.9

		回答者数	きっかけがない	一人で参加することに ためらう	人と付き合うのがおっくう	健康・体力に自信がない	費用がかかる	その他	無回答
全体		828	17.5	10.0	11.6	10.3	4.8	3.7	1.2
性別	男性	451	20.0	10.2	11.3	8.9	3.8	3.3	0.9
	女性	367	15.0	10.1	11.2	11.7	6.0	3.8	1.6
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢別	55～59歳	400	20.0	10.8	12.0	5.8	5.0	3.0	0.8
	60～64歳	412	15.5	9.2	10.4	14.3	4.6	4.1	1.7

(6) 近所との付き合いの程度

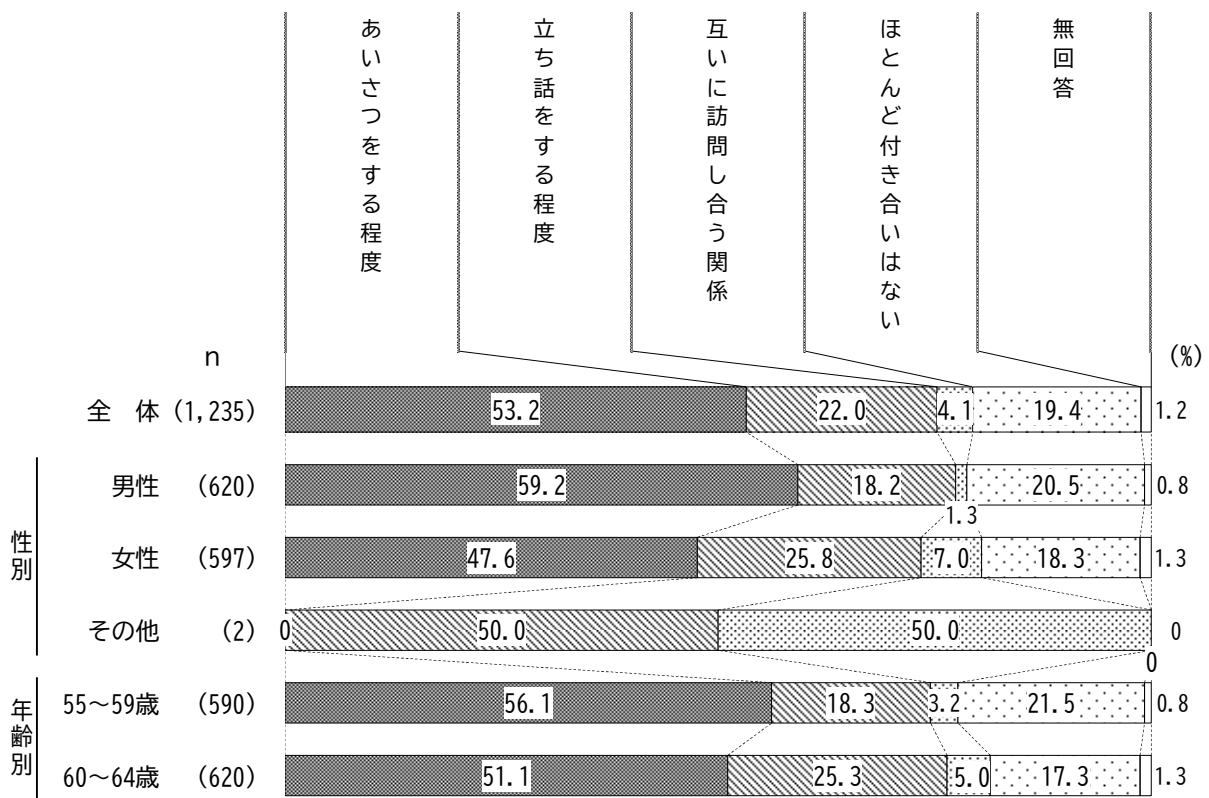
Q6. 日頃、身近な地域に住む方と、どの程度お付き合いをしていますか。(○は1つ)

「あいさつをする程度」が53.2%で、次いで「立ち話をする程度」が22.0%、「ほとんど付き合いはない」が19.4%となっています。

〈性別、年齢別／近所との付き合いの程度〉

性別に見ると、「あいさつをする程度」は男性で59.2%と女性（47.6%）より多く、「立ち話をする程度」は女性で25.8%と男性（18.2%）より多くなっています。

年齢別に見ると、「あいさつをする程度」は55～59歳で56.1%で60～64歳（51.1%）より多く、「立ち話をする程度」は60～64歳で25.3%で55～59歳（18.3%）より多くなっています。また、「ほとんど付き合いはない」は55～59歳で21.5%と60～64歳（17.3%）より多くなっています。



(7) 近所への信頼

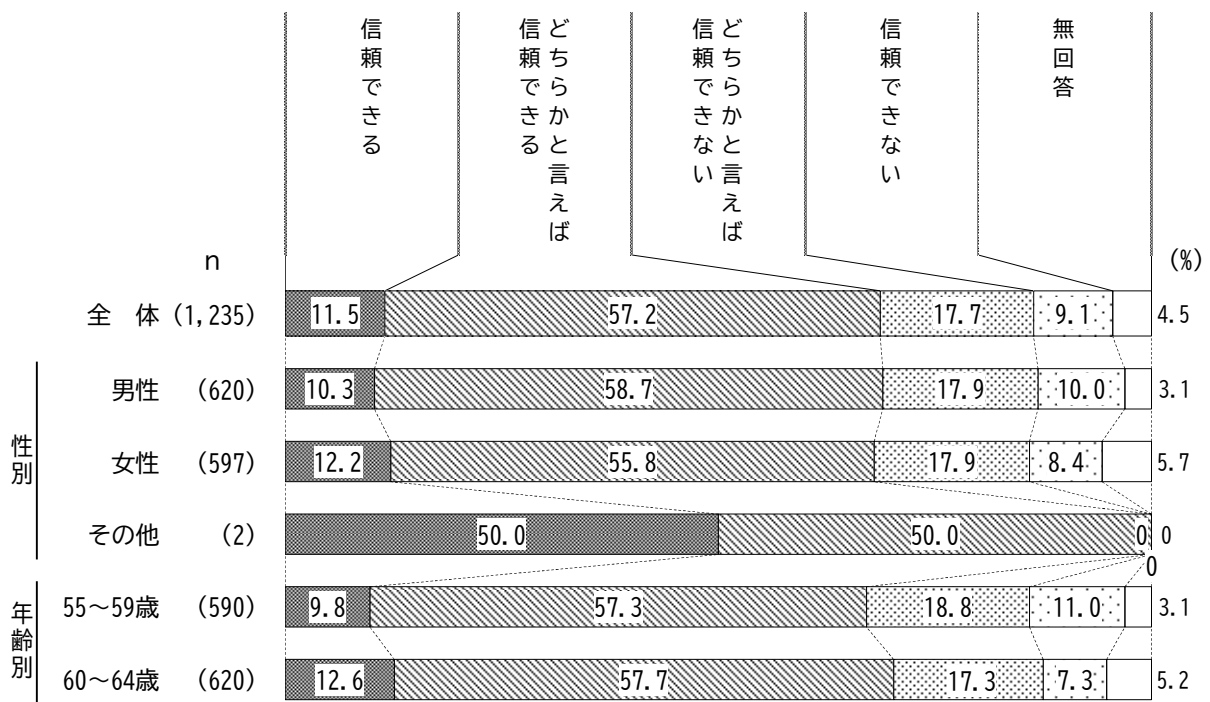
Q7. あなたはご近所の方を信頼できますか。(○は1つ)

「どちらかといえば信頼できる」が57.2%で、「信頼できる」(11.5%)を合わせた『信頼』の割合は68.7%となっています

〈性別、年齢別／近所への信頼〉

性別に見ると、大きな違いは見られません。

年齢に見ると、『信頼』は、60～64歳で70.3%と55～59歳(67.1%)よりやや多くなっています。

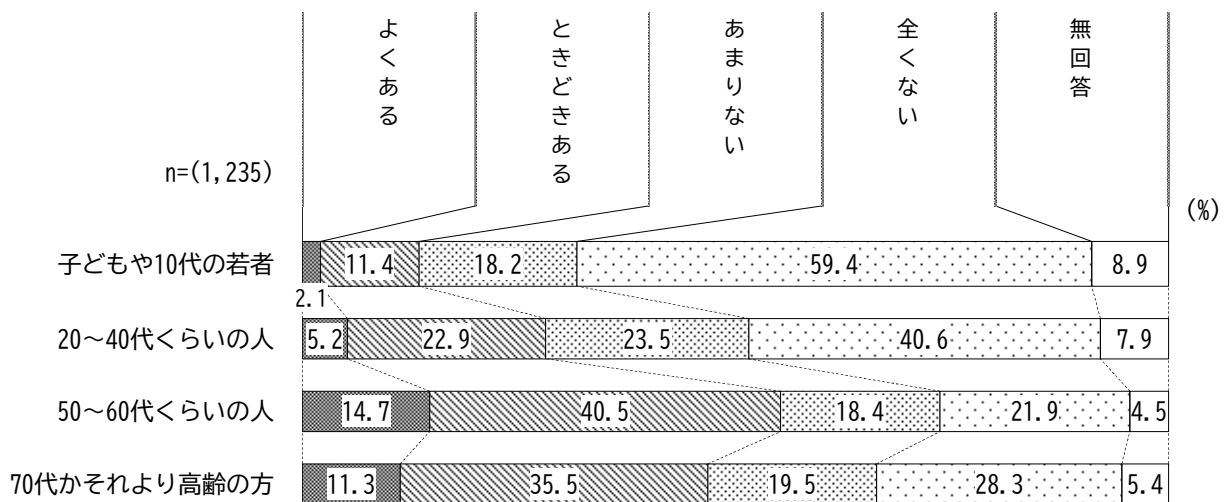


(8) 各年齢層との会話頻度

Q8. 近所付き合いや、地域活動・余暇活動の中で、次のような年齢層の方と会話をする機会が、どのくらいありますか。(ご家族や親戚、仕事関係の人は除きます。)

(○は1つずつ)

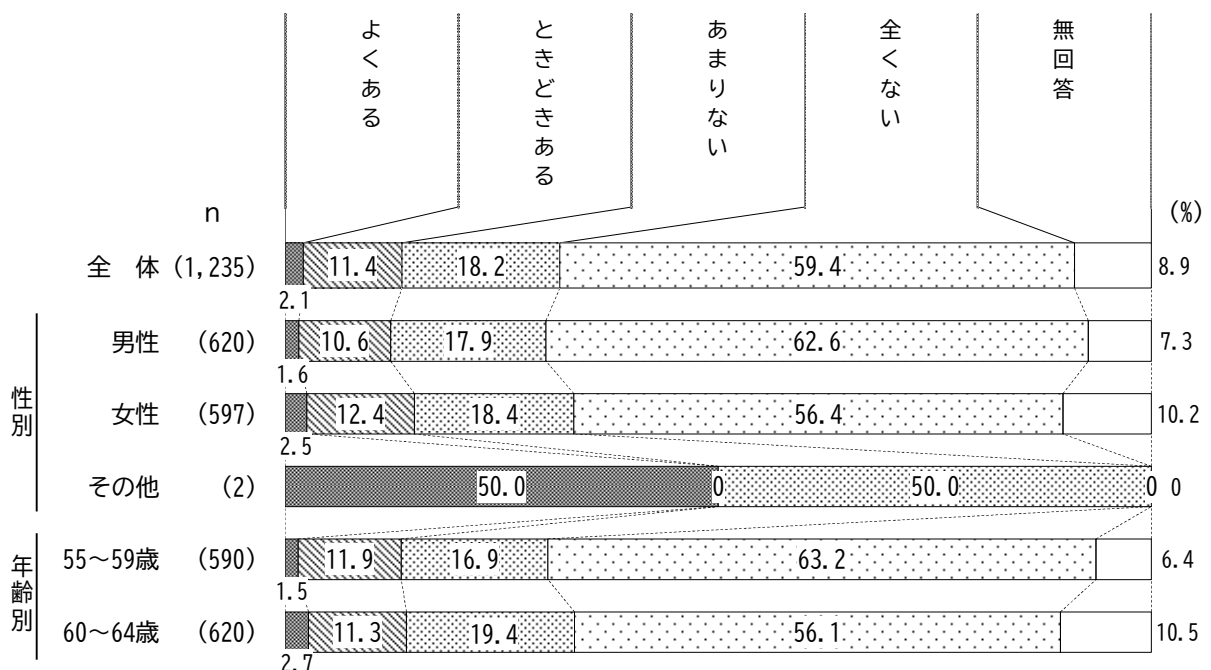
「よくある」と「ときどきある」を合わせた『ある』の割合は、子どもや10代の若者が13.5%、20～40代くらいの人が28.1%、50～60代くらいの人が55.2%、70代かそれより高齢の方が46.8%で、対象者と同年代が最も多く、年齢が離れるほど少なくなっています。



〈①子どもや10代の若者／性別、年齢別／各年齢層との会話頻度〉

性別に見ると、『ある』の割合では大きな違いは見られません。「全くない」と「あまりない」を合わせた『ない』の割合は男性で80.5%と女性(74.8%)より多くなっています。

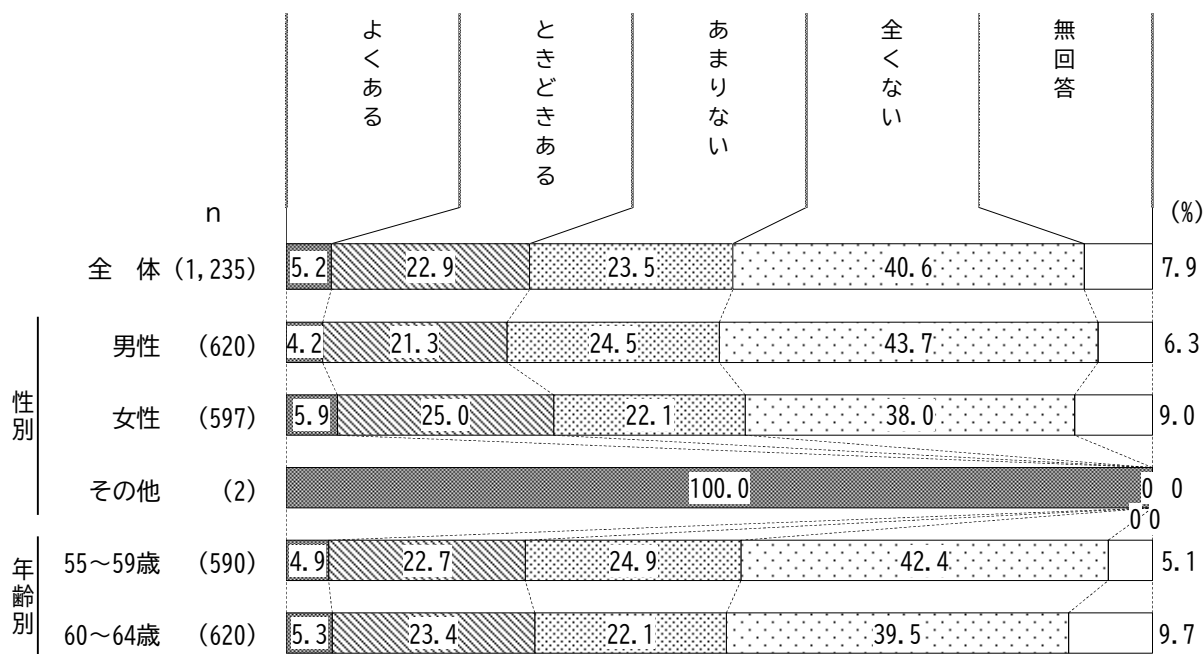
年齢別に見ると、『ある』の割合では大きな違いは見られません。一方、『ない』の割合は55～59歳で80.1%と60～64歳(75.5%)より多くなっています。



〈②20～40代くらいの人／性別、年齢別／各年齢層との会話頻度〉

性別に見ると、『ある』の割合は女性で30.9%と男性（25.5%）より多くなっています。

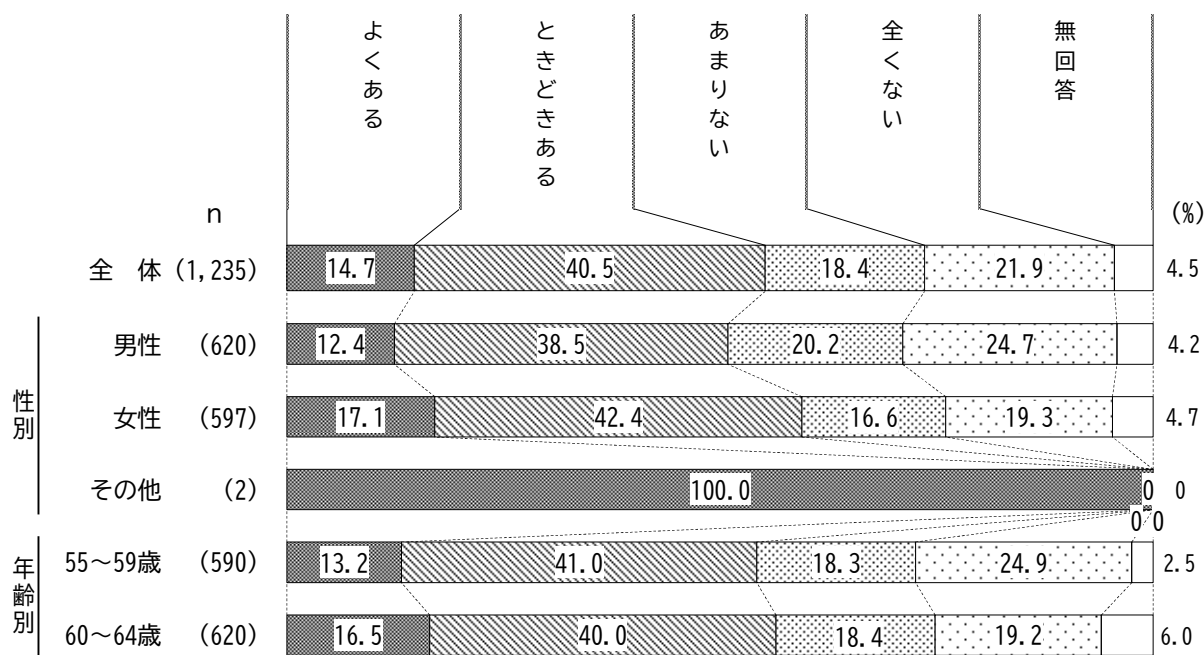
年齢別に見ると、『ある』の割合では大きな違いは見られません。一方、『ない』の割合は55～59歳で67.3%と60～64歳（61.6%）より多くなっています。



〈③50～60代くらいの人／性別、年齢別／各年齢層との会話頻度〉

性別に見ると、『ある』の割合は女性で59.5%と男性（50.9%）より多くなっています。

年齢別に見ると、『ある』の割合では大きな違いは見られません。一方、『ない』の割合は55～59歳で43.2%と60～64歳（37.6%）より多くなっています。

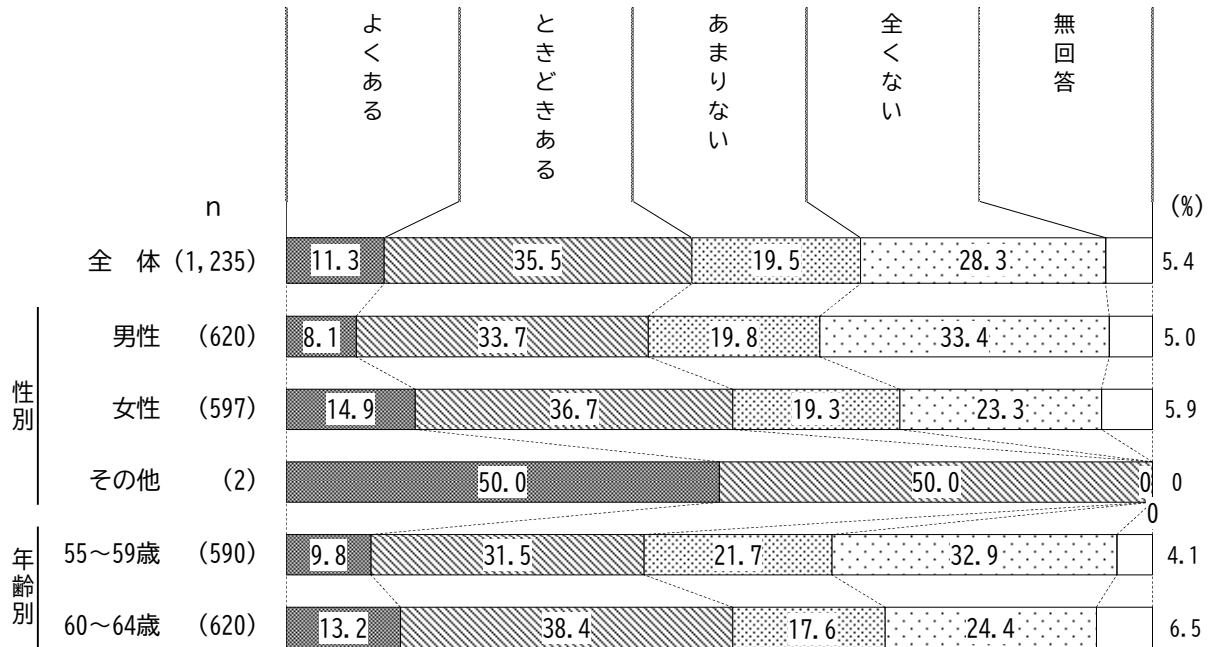


第4章 55歳以上64歳以下調査の結果

〈④70代かそれより高齢な方／性別、年齢別／各年齢層との会話頻度〉

性別に見ると、『ある』の割合は女性で51.6%と男性（41.8%）より多くなっています。

年齢別に見ると、『ある』の割合は60～64歳で51.6%と55～59歳（41.3%）より多くなっています。



(9) 65歳以降の近所との関わり意向

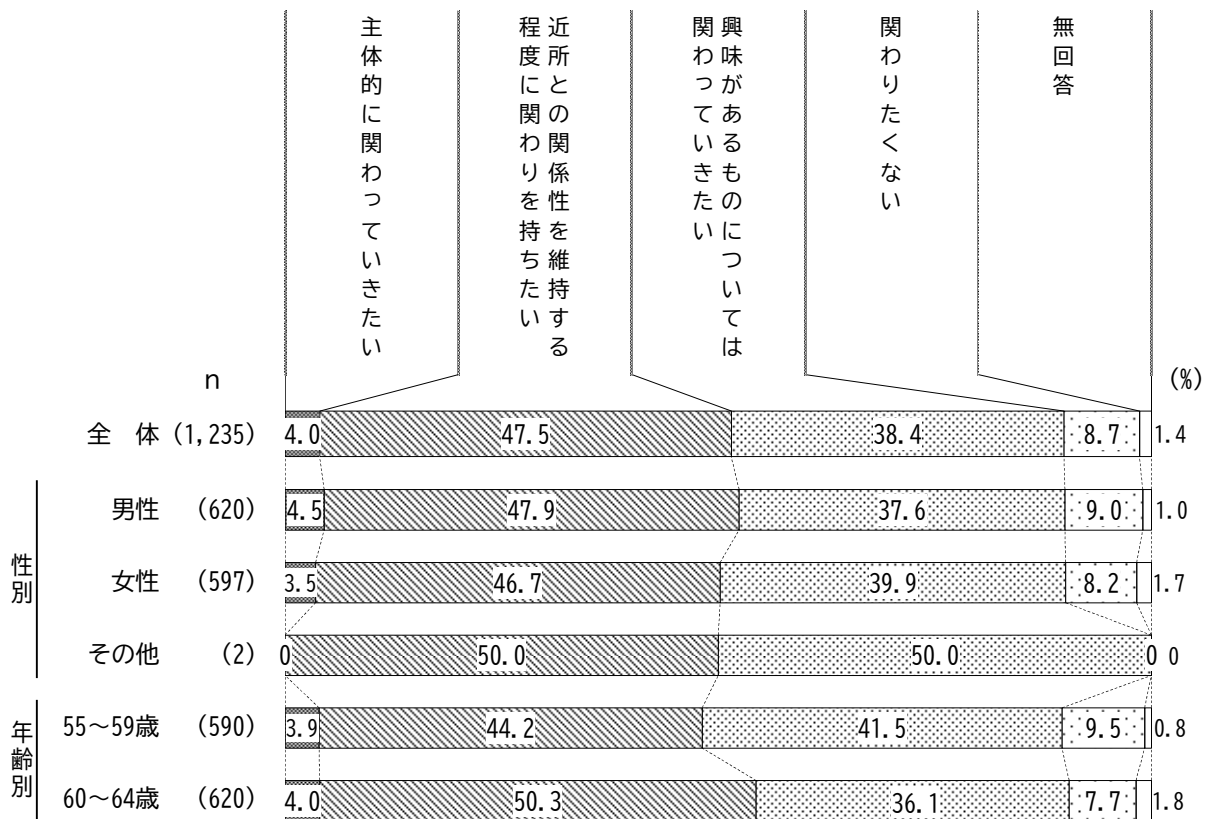
Q9. あなたは65歳以降、あなたの住んでいる地域との関わりをどの程度持ちたいですか。
(○は1つ)

「近所との関係性を維持する程度に関わりを持ちたい」が47.5%、「興味があるものについては関わっていきたい」が38.4%、「関わりたくない」が8.7%となっています。

〈性別、年齢別／65歳以降の近所との関わり意向〉

性別に見ると、大きな違いは見られません。

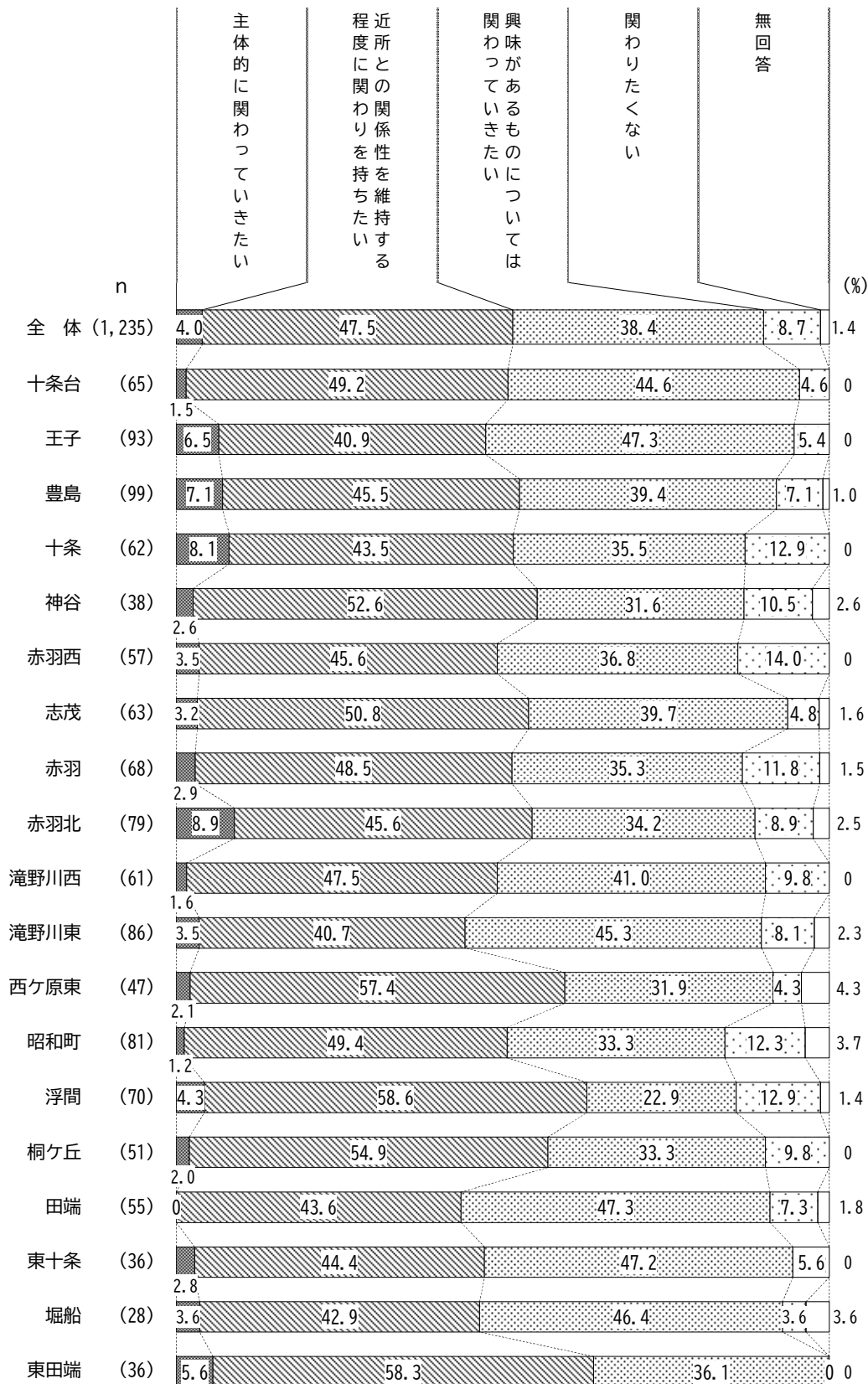
年齢別に見ると、「近所との関係性を維持する程度に関わりを持ちたい」は60～64歳で50.3%と55～59歳（44.2%）より多く、「興味があるものについては関わっていきたい」は55～59歳で41.5%と60～64歳（36.1%）より多くなっています。



第4章 55歳以上64歳以下調査の結果

〈居住地区別／65歳以降の近所との関わり意向〉

居住地区別に見ると、「主体的に関わっていききたい」と「近所との関係性を維持する程度に関わりを持ちたい」を合わせた割合は、東田端（63.9%）、浮間（62.9%）の2地区で6割以上となっています。

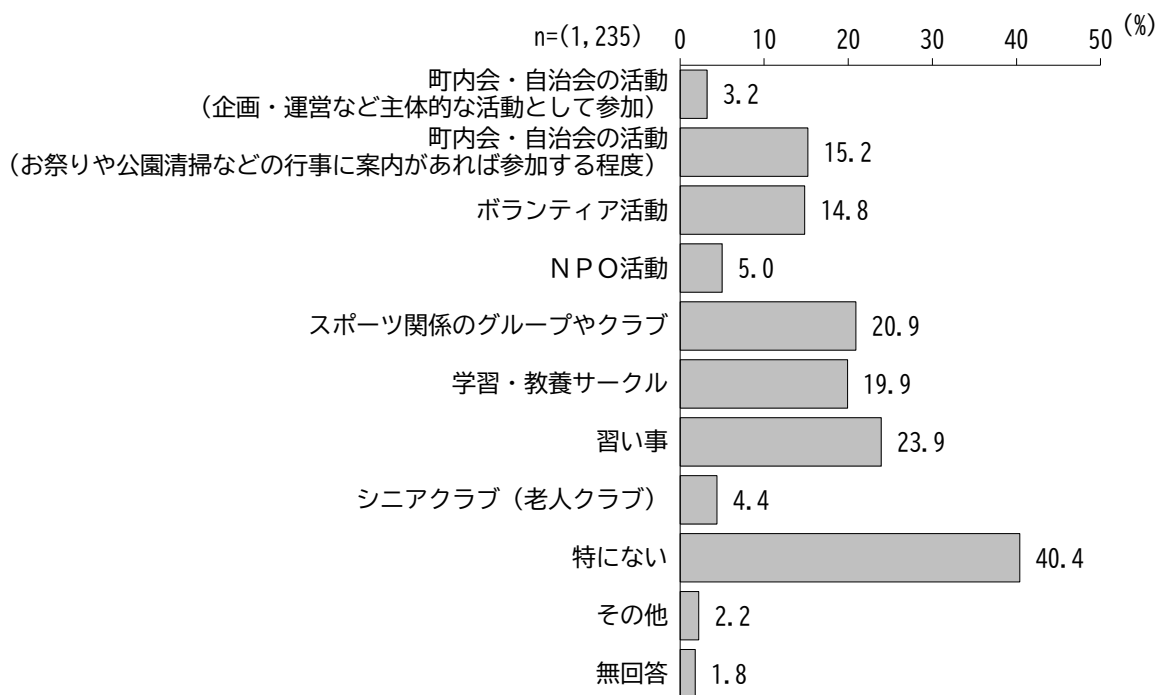


(10) 65歳以降にやってみたい活動

Q10. あなたは、65歳以後あなたの住んでいる地域における活動でやってみたいことはありますか。(〇は3つまで)

全体から「特にない」(40.4%)と無回答(1.8%)を除いた57.8%が、何らかの活動を選んでいます。

「習い事」が23.9%で最も多く、以下、「スポーツ関係のグループやクラブ」(20.9%)、「学習・教養サークル」(19.9%)、「町内会・自治会の活動(お祭りや公園清掃などの行事に案内があれば参加する程度)」(15.2%)、「ボランティア活動」(14.8%)と続いています。



第4章 55歳以上64歳以下調査の結果

〈性別、年齢別／65歳以降にやってみたい活動〉

性別に見ると、男性では「町内会・自治会の活動（お祭りや公園清掃などの行事に案内があれば参加する程度）」（17.7%）や「特にない」（47.1%）が女性より多く、女性では「習い事」（33.0%）や「学習・教養サークル」（23.6%）が男性より多くなっています。

年齢別に見ると、大きな違いは見られません。

(%)

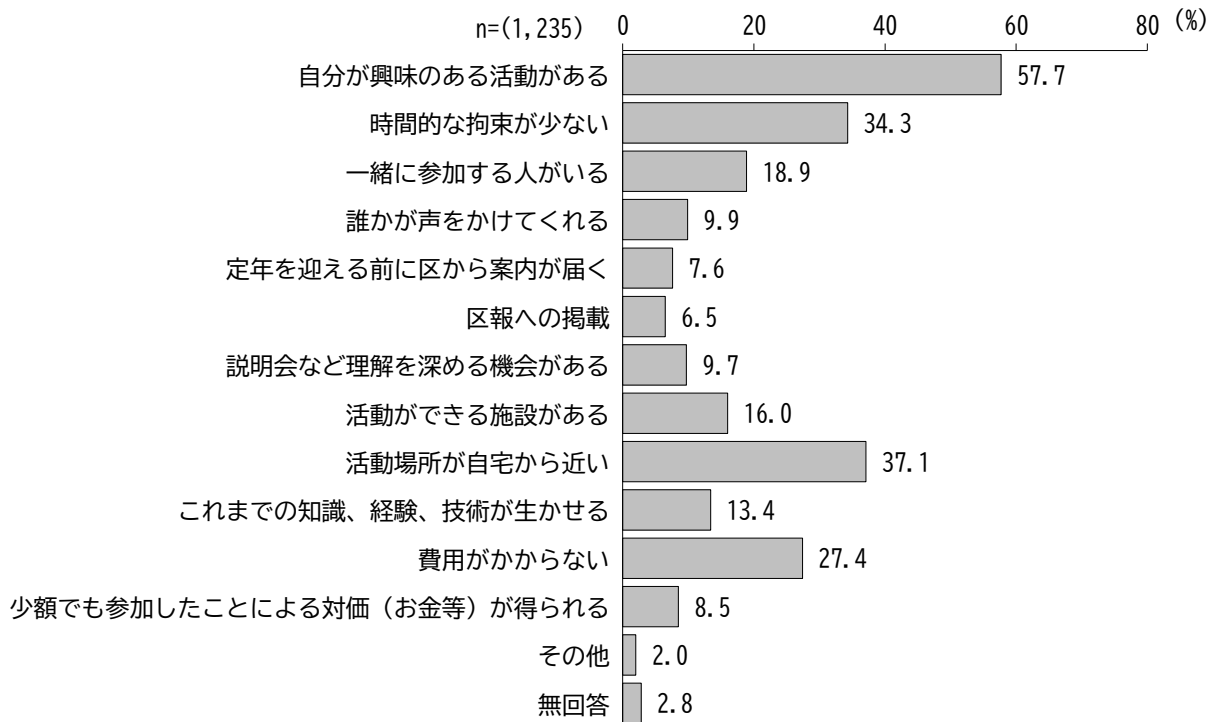
		回答者数	町内会・自治会の活動 （お祭りや公園清掃などの行事 に案内があれば参加する程度） として参加）	町内会・自治会の活動 （お祭りや公園清掃などの行事 に案内があれば参加する程度）	ボランティア活動	NPO活動	スポーツ関係のグループや クラブ	学習・教養サークル
全体		1,235	3.2	15.2	14.8	5.0	20.9	19.9
性別	男性	620	4.4	17.7	13.4	4.8	22.1	16.5
	女性	597	2.2	12.4	16.4	5.2	19.3	23.6
	その他	2	-	-	50.0	-	100.0	100.0
年齢別	55～59歳	590	3.6	14.4	16.1	5.8	19.0	18.8
	60～64歳	620	2.9	15.8	13.7	4.2	22.7	21.3

		回答者数	習い事	シニアクラブ（老人クラブ）	特にない	その他	無回答
全体		1,235	23.9	4.4	40.4	2.2	1.8
性別	男性	620	14.5	2.7	47.1	1.5	1.8
	女性	597	33.0	5.9	34.2	2.8	1.5
	その他	2	50.0	-	-	-	-
年齢別	55～59歳	590	23.1	3.4	40.7	1.7	0.8
	60～64歳	620	23.9	5.2	40.8	2.6	2.4

(11) 地域活動への参加に必要なだと思うこと

Q11. 高齢期を元気に過ごすためには、社会とのつながりを持つことが大切と言われておりますが、地域活動等に参加するために必要だと思うことは何ですか。(○は3つまで)

「自分が興味のある活動がある」が57.7%と特に多く、以下、「活動場所が自宅から近い」(37.1%)、「時間的な拘束が少ない」(34.3%)、「費用がかからない」(27.4%)と続いています。



第4章 55歳以上64歳以下調査の結果

〈性別、年齢別／地域活動への参加に必要なだと思うこと〉

性別に見ると、「これまでの知識、経験、技術が生かせる」は男性で17.7%と女性（9.0%）より多くなっています。また、女性では「活動場所が自宅から近い」（40.2%）、「区報への掲載」（9.5%）が男性より多くなっています。

年齢別に見ると、55～59歳では「少額でも参加したことによる対価（お金等）が得られる」（11.2%）、「定年を迎える前に区から案内が届く」（10.2%）が60～64歳より多くなっています。

(%)

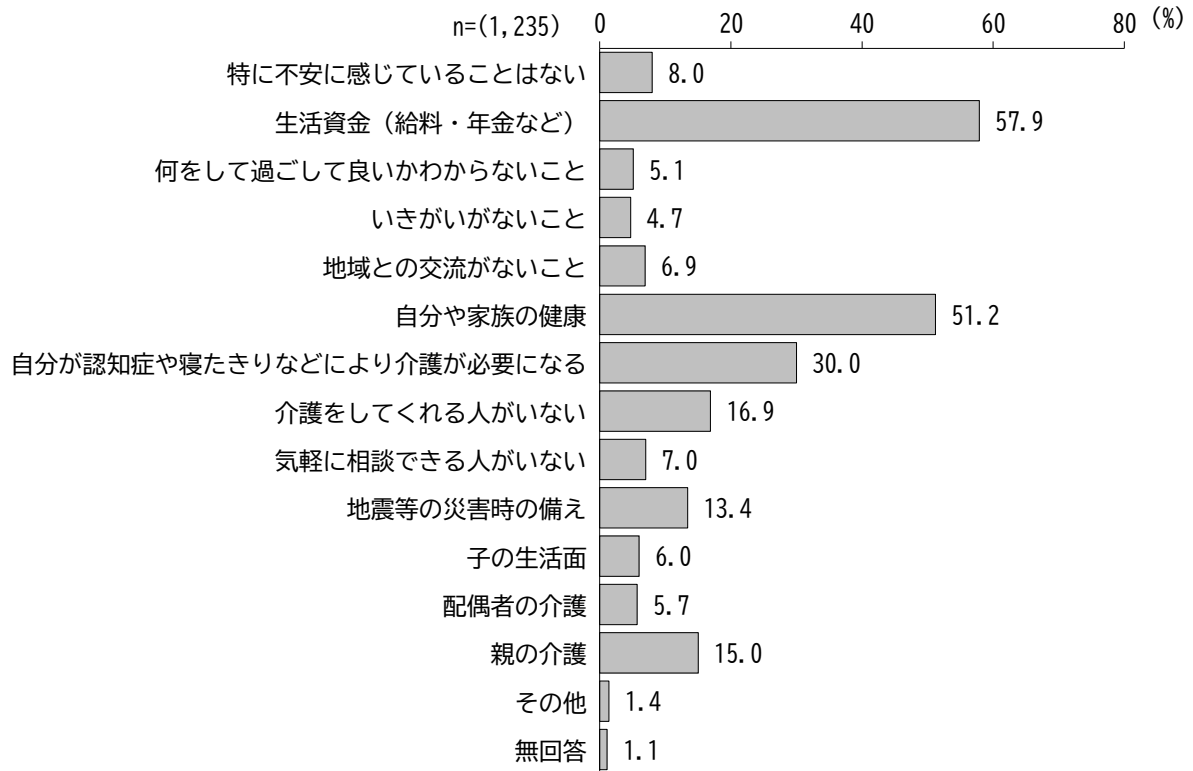
		回答者数	自分が興味のある活動がある	時間的な拘束が少ない	一緒に参加する人がいる	誰かが声をかけてくれる	案内が届く 定年を迎える前に区から	区報への掲載	説明会など理解を深める機会がある
全体		1,235	57.7	34.3	18.9	9.9	7.6	6.5	9.7
性別	男性	620	55.8	36.0	19.4	10.3	6.9	3.7	10.3
	女性	597	60.0	32.3	18.8	9.0	8.4	9.5	9.0
	その他	2	100.0	50.0	-	-	-	-	-
年齢別	55～59歳	590	60.0	32.2	18.5	9.5	10.2	5.1	10.0
	60～64歳	620	55.6	36.6	19.5	10.0	5.2	8.1	9.4

		回答者数	活動ができる施設がある	活動場所が自宅から近い	これまでの知識、経験、技術が生かせる	費用がかからない	少額でも参加したことによる対価（お金等）が得られる	その他	無回答
全体		1,235	16.0	37.1	13.4	27.4	8.5	2.0	2.8
性別	男性	620	15.8	34.2	17.7	25.8	8.1	2.1	2.7
	女性	597	16.1	40.2	9.0	29.1	9.2	1.8	2.5
	その他	2	50.0	-	50.0	50.0	-	-	-
年齢別	55～59歳	590	15.6	37.1	14.9	29.0	11.2	1.7	1.5
	60～64歳	620	16.1	36.8	12.1	26.0	6.1	2.3	3.7

(12) 将来への不安

Q12. あなたは高齢期の生活に不安を感じていることはありますか。不安を感じていることはどのようなことですか。(○は3つまで)

「生活資金（給料・年金など）」（57.9%）と「自分や家族の健康」（51.2%）が半数を超えており、以下、「自分が認知症や寝たきりなどにより介護が必要になる」が30.0%と続いています。



第4章 55歳以上64歳以下調査の結果

〈性別、年齢別／将来への不安〉

性別に見ると、「生活資金（給料・年金など）」は男性で60.3%と女性（55.3%）より多く、「自分が認知症や寝たきりなどにより介護が必要になる」は女性で36.3%と男性（24.2%）より多くなっています。

年齢別に見ると、55～59歳では「生活資金（給料・年金など）」や「親の介護」が60～64歳より多くなっています。

(%)

	回答者数	は特 に不安 に感じて いること	生活資金 (給料・ 年金など)	何を して過 ぎして 良いか かわ らない こと	いき がいが ないこ と	地域 との交 流がな いこと	自分 や家族 の健康	自分 が認知 症や寝 たきり になり な	い介 護をし てくれ る人が いな
全体	1,235	8.0	57.9	5.1	4.7	6.9	51.2	30.0	16.9
性別	男性	620	60.3	6.3	5.6	7.3	51.3	24.2	16.1
	女性	597	55.3	4.0	3.7	6.7	51.4	36.3	18.1
	その他	2	-	50.0	-	-	-	50.0	-
年齢別	55～59歳	590	61.7	5.4	3.6	6.8	49.3	32.7	18.6
	60～64歳	620	54.4	4.8	5.6	7.1	53.5	27.9	15.6

	回答者数	い気 軽に相 談でき る人が いな	地震 等の災 害時の 備え	子の 生活面	配偶 者の介 護	親の 介護	その 他	無回 答
全体	1,235	7.0	13.4	6.0	5.7	15.0	1.4	1.1
性別	男性	620	13.1	6.5	3.4	14.4	1.3	1.0
	女性	597	13.9	5.7	8.2	15.7	1.0	0.8
	その他	2	-	-	-	-	50.0	-
年齢別	55～59歳	590	12.4	5.1	4.2	18.3	0.8	0.5
	60～64歳	620	14.5	6.9	7.3	11.9	1.5	1.1

〈健康状態別／将来への不安〉

健康状態別に見ると、健康状態がよい層ほど「特に不安に感じていることはない」の割合が高くなっています。一方、健康状態がよくない層ほど割合が高くなる項目は多く、特に「生活資金（給料・年金など）」は健康状態が“あまりよくない”（65.7%）と“よくない”（60.6%）で6割以上、「介護をしてくれる人がいない」は“よくない”で33.3%と多くなっています。

(%)

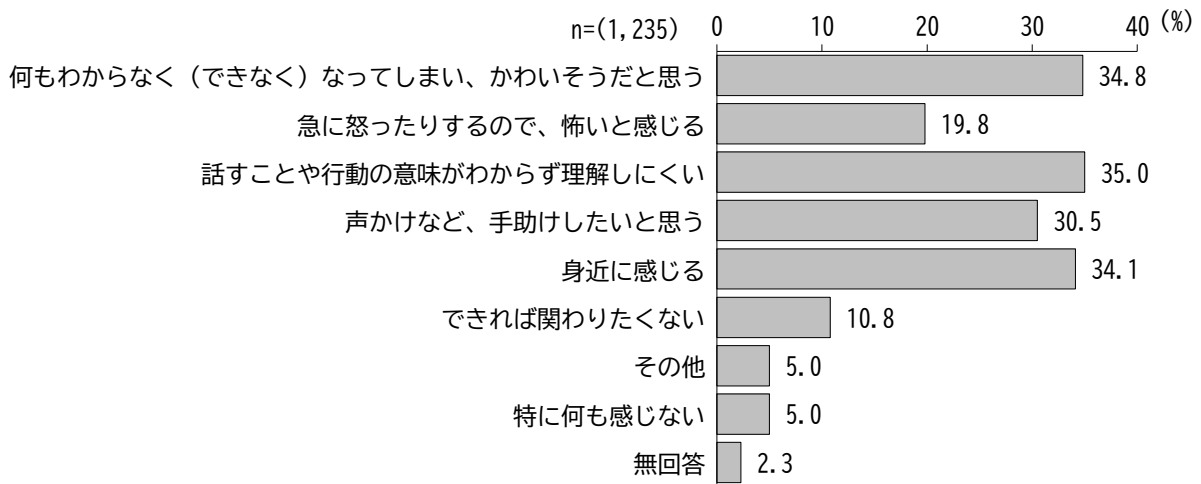
	回答者数	は特に不安に感じていることはない	生活資金（給料・年金など）	何をしても過ごして良いかわからないこと	いきがいがないこと	地域との交流がないこと	自分や家族の健康	自分により認知症や寝たきりなどが必要になる	介護をしてくれる人がいない	
全体	1,235	8.0	57.9	5.1	4.7	6.9	51.2	30.0	16.9	
健康状態別	とてもよい	146	21.9	48.6	7.5	3.4	5.5	37.0	17.1	8.2
	まあよい	811	7.8	57.3	4.6	3.9	7.2	52.5	32.2	16.5
	あまりよくない	216	1.9	65.7	6.5	6.9	7.4	55.1	31.5	22.2
	よくない	33	-	60.6	-	12.1	6.1	51.5	33.3	33.3

	回答者数	い気軽に相談できる人がいない	地震等の災害時の備え	子の生活面	配偶者の介護	親の介護	その他	無回答	
全体	1,235	7.0	13.4	6.0	5.7	15.0	1.4	1.1	
健康状態別	とてもよい	146	6.2	11.0	2.1	4.8	11.6	3.4	0.7
	まあよい	811	6.5	14.5	6.5	5.9	16.3	0.6	1.0
	あまりよくない	216	10.2	9.7	6.9	5.1	12.5	1.9	0.9
	よくない	33	6.1	9.1	3.0	9.1	15.2	6.1	-

(13) 認知症への印象

Q13. 認知症について、あなたはどのような印象を持っていますか。(〇はいくつでも)

「話すことや行動の意味がわからず理解しにくい」が35.0%で最も多く、以下、「何もわからなく（できなく）なってしまい、かわいそうだと思う」（34.8%）、「身近に感じる」（34.1%）、「声かけなど、手助けしたいと思う」（30.5%）と続いています。



〈性別、年齢別／認知症への印象〉

性別に見ると、男性では「何もわからなく（できなく）なってしまい、かわいそうだと思う」（42.7%）、「できれば関わりたくない」（13.2%）が女性より多く、女性では「身近に感じる」（39.7%）、「声かけなど、手助けしたいと思う」（35.8%）が男性より多くなっています。

年齢別に見ると、「話すことや行動の意味がわからず理解しにくい」は55～59歳で37.5%と60～64歳（32.4%）より多くなっています。

		回答者数	何もわからなく（できなく）なってしまい、かわいそうだと思う	急に怒ったりするので、怖いと感じる	話すことや行動の意味がわからず理解しにくい	声かけなど、手助けしたいと思う	身近に感じる	できれば関わりたくない	その他	特に何も感じない	無回答
全体		1,235	34.8	19.8	35.0	30.5	34.1	10.8	5.0	5.0	2.3
性別	男性	620	42.7	18.5	34.5	25.8	28.5	13.2	3.1	6.1	1.9
	女性	597	27.3	21.3	35.3	35.8	39.7	7.9	6.9	4.0	2.5
	その他	2	-	-	-	50.0	50.0	-	50.0	-	-
年齢別	55～59歳	590	34.9	21.5	37.5	29.0	33.7	11.7	4.4	5.6	1.5
	60～64歳	620	35.6	18.5	32.4	32.3	34.2	9.7	5.6	4.5	2.7

(14) 自身が認知症になったことを知られてもよいか

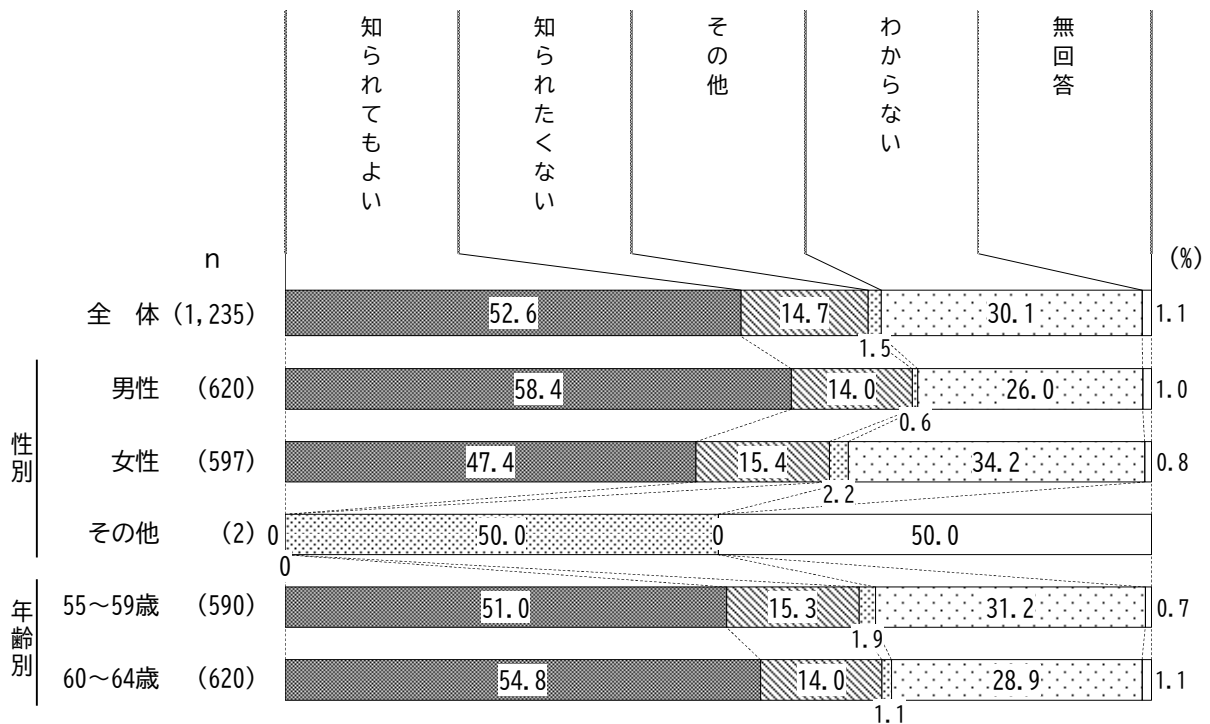
Q14. あなた自身が認知症になったら、周囲に知られてもよいと思いますか。(○は1つ)

「知られてもよい」が52.6%で最も多く、次いで「わからない」が30.1%、「知られたくない」が14.7%となっています。

〈性別、年齢別／自身が認知症になったことを知られてもよいか〉

性別に見ると、「知られてもよい」は男性で58.4%と女性（47.4%）より多くなっています。

年齢別に見ると、「知られてもよい」は60～64歳で54.8%と55～59歳（51.0%）よりやや多くなっています。



(15)「北区認知症あんしんなび」の認知状況

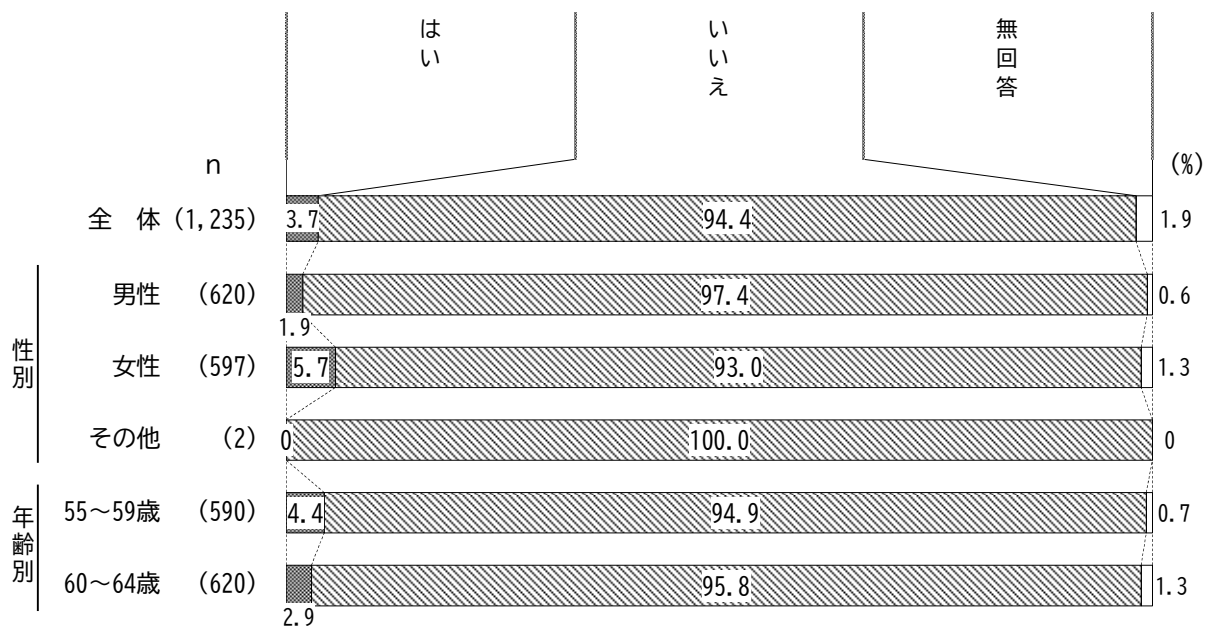
Q15.「北区認知症あんしんなび」を知っていますか。

「はい」(知っている)は3.7%、「いいえ」(知らない)は94.4%となっています。

〈性別、年齢別／「北区認知症あんしんなび」の認知状況〉

性別に見ると、「はい」は女性で5.7%と男性(1.9%)よりやや多くなっています。

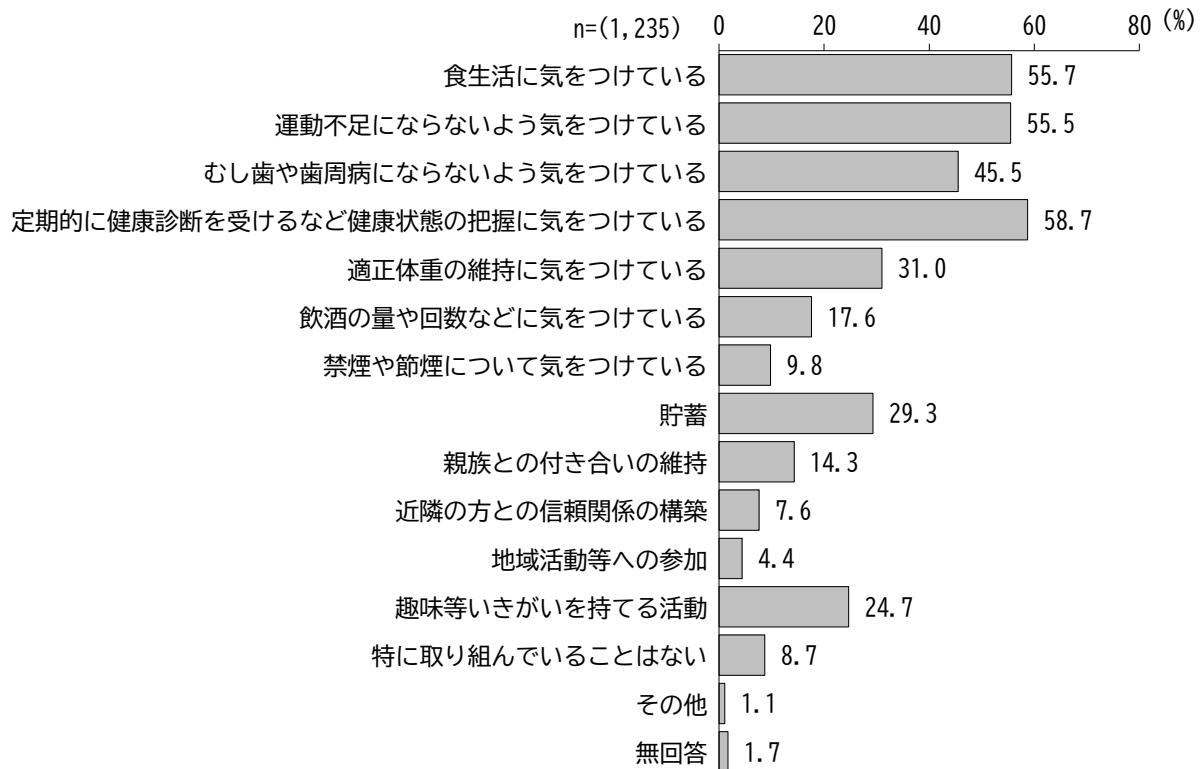
年齢別に見ると、大きな違いは見られません。



(16) 高齢期に向けて今から取り組んでいること

Q16. いきいきとした高齢期を過ごすために、今から取り組んでいることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「定期的に健康診断を受けるなど健康状態の把握に気をつけている」が58.7%で、以下、「食生活に気をつけている」(55.7%)、「運動不足にならないよう気をつけている」(55.5%)、「むし歯や歯周病にならないよう気をつけている」(45.5%)と続いています。



第4章 55歳以上64歳以下調査の結果

〈性別、年齢別／高齢期に向けて今から取り組んでいること〉

性別に見ると、男性では「飲酒の量や回数などに気をつけている」(21.3%)、「禁煙や節煙について気をつけている」(12.7%)が女性より多く、女性では「定期的に健康診断を受けるなど健康状態の把握に気をつけている」(62.1%)、「むし歯や歯周病にならないよう気をつけている」(51.9%)、「親族との付き合いの維持」(18.3%)が男性より多くなっています。

年齢別に見ると、「貯蓄」は55～59歳で32.5%と60～64歳(27.1%)より多く、「趣味等いきがいを持てる活動」は60～64歳で27.7%と55～59歳(22.0%)より多くなっています。

(%)

	回答者数	食生活に気をつけている	運動不足にならないよう気を付けている	むし歯や歯周病にならないよう気を付けている	定期的に健康診断を受けるなど健康的に健康状態の把握に気をつけている	適正体重の維持に気をつけている	飲酒の量や回数などに気をつけている	禁煙や節煙について気をつけている	貯蓄	
全体	1,235	55.7	55.5	45.5	58.7	31.0	17.6	9.8	29.3	
性別	男性	620	55.2	55.0	40.2	56.8	30.8	21.3	12.7	30.8
	女性	597	57.3	56.8	51.9	62.1	32.2	14.2	6.9	28.6
	その他	2	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-
年齢別	55～59歳	590	53.7	54.7	44.4	57.5	29.7	17.5	10.5	32.5
	60～64歳	620	58.5	56.8	47.4	60.8	32.7	17.9	9.0	27.1

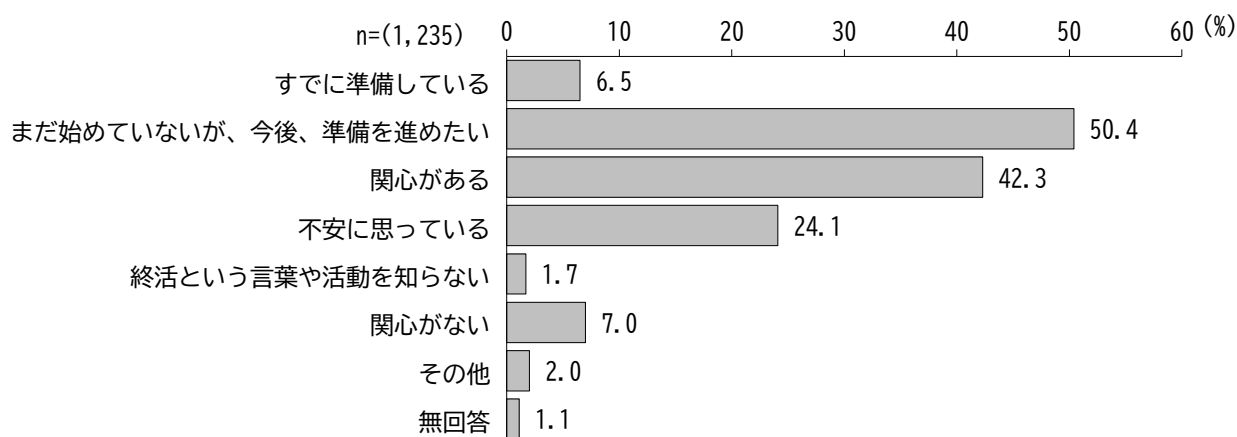
	回答者数	親族との付き合いの維持	近隣の方との信頼関係の構築	地域活動等への参加	趣味等いきがいを持てる活動	特に取り組んでいることは	その他	無回答
全体	1,235	14.3	7.6	4.4	24.7	8.7	1.1	1.7
性別	男性	620	11.0	6.1	4.5	23.1	0.8	0.8
	女性	597	18.3	9.2	4.2	27.0	8.9	0.8
	その他	2	-	50.0	50.0	50.0	-	-
年齢別	55～59歳	590	12.9	5.4	3.9	22.0	0.7	0.8
	60～64歳	620	16.0	9.4	4.8	27.7	7.7	0.8

(17) 終活についての考え方

Q17. 終活についてどのように考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

※終活とは、人生の最期を自分らしく豊かに過ごし、後を託す家族の負担を軽減するための活動のことをいいます。

「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」が50.4%で最も多く、以下、「関心がある」(42.3%)、「不安に思っている」(24.1%)、「関心がない」(7.0%)と続いています。



〈性別、年齢別／終活についての考え方〉

性別に見ると、男性では「関心がない」(10.0%)が女性より多く、女性では「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」(55.1%)、「関心がある」(45.7%)が男性より多くなっています。

年齢別に見ると、「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」は60～64歳で55.0%と55～59歳(46.6%)より多くなっています。

(%)

		回答者数	すでに準備している	後、まだ始めていないが、今準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
全体		1,235	6.5	50.4	42.3	24.1	1.7	7.0	2.0	1.1
性別	男性	620	5.0	46.9	40.0	22.6	1.9	10.0	1.9	0.2
	女性	597	7.9	55.1	45.7	26.5	1.3	4.0	1.8	0.3
	その他	2	50.0	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-
年齢別	55～59歳	590	5.9	46.6	44.1	23.7	1.4	8.1	1.9	-
	60～64歳	620	6.9	55.0	41.6	25.2	1.8	6.1	2.1	0.5

第4章 55歳以上64歳以下調査の結果

〈家族構成別／終活についての考え方〉

家族構成別に見ると、「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」は“一人暮らし”と“配偶者・パートナーと同居”で5割を超えて多くなっています。また、「不安に思っている」は“一人暮らし”で多くなっています。

(%)

	回答者数	すでに準備している	今まだ始めていないが、準備を進めたい	関心がある	不安に思っている	終活という言葉や活動を知らない	関心がない	その他	無回答
全体	1,235	6.5	50.4	42.3	24.1	1.7	7.0	2.0	1.1
一人暮らし	354	8.2	52.5	39.5	27.1	1.4	7.6	2.3	1.1
配偶者・パートナーと同居	306	5.6	52.3	46.1	20.9	1.6	6.2	1.6	1.3
息子・娘との2世帯	321	6.5	47.4	43.0	20.6	1.6	6.9	2.2	1.6
その他	233	4.7	48.5	41.6	27.9	1.7	7.3	1.3	0.4

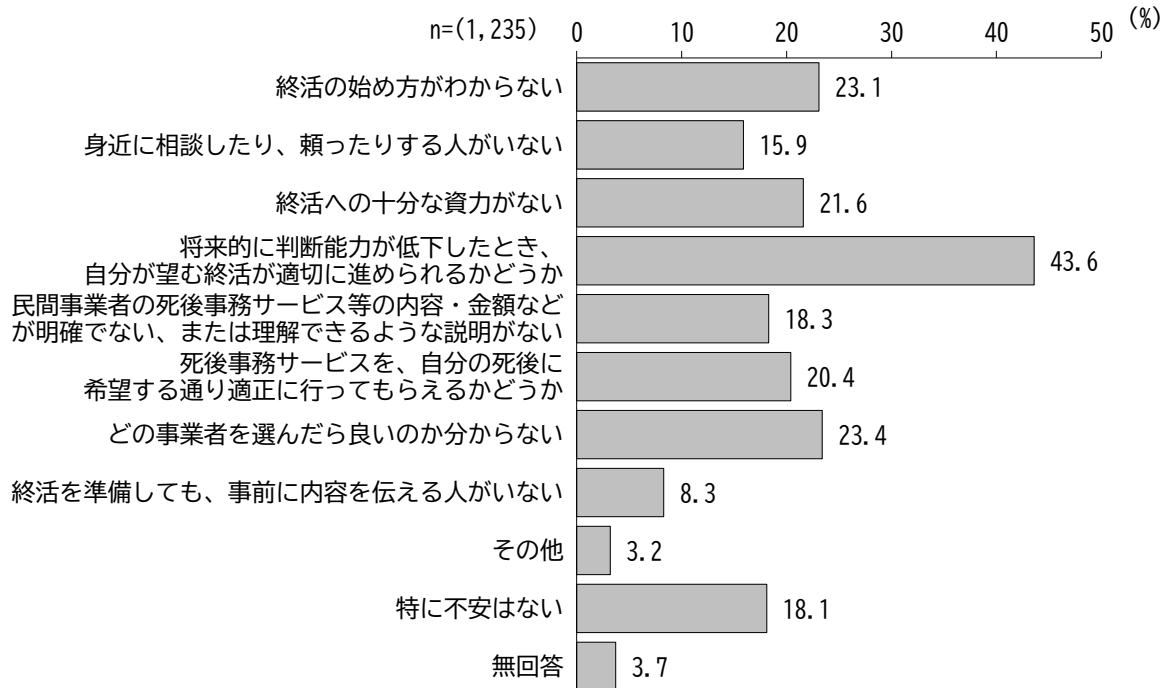
※家族構成別については、問4 Q4同居家族の回答パターンで、「一人暮らし（一緒に住んでいる人はいない）」のみ回答の人は「一人暮らし」として、「配偶者・パートナー」のみ回答の人は「配偶者・パートナーと同居」として、「息子」「娘」「子の配偶者（婿、嫁）・パートナー」に回答した人（配偶者・パートナーと同居のみを除く）は「息子・娘との2世帯」として、いずれも該当しない人は「その他」として、集計軸を設定しました（以降同様）。

(18) 終活の準備にあたって、不安に思っていること

Q18. 終活の準備にあたって、不安に思っていることを教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

「将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか」が43.6%で最も多く、以下、「どの事業者を選んだら良いのか分からない」(23.4%)、「終活の始め方がわからない」(23.1%)、「終活への十分な資力がない」(21.6%)と続いています。



第4章 55歳以上64歳以下調査の結果

〈性別、年齢別／終活の準備にあたって、不安に思っていること〉

性別に見ると、男性では「終活の始め方がわからない」(26.0%)、「身近に相談したり、頼ったりする人がいない」(18.9%)が女性より多く、女性では「民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない」(21.9%)、「どの事業者を選んだら良いのか分からない」(26.3%)が男性より多くなっています。

年齢別に見ると、「将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか」は60～64歳で46.6%と55～59歳(41.4%)より多くなっています。

		回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がない	将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
全体		1,235	23.1	15.9	21.6	43.6	18.3	20.4	23.4	8.3	3.2	18.1	3.7
性別	男性	620	26.0	18.9	22.1	42.1	15.2	19.2	21.1	7.3	2.4	19.4	2.7
	女性	597	20.6	13.2	21.6	46.1	21.9	22.3	26.3	9.5	3.5	17.3	2.8
	その他	2	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0
年齢別	55～59歳	590	24.6	16.4	22.4	41.4	19.8	20.3	22.2	8.6	3.2	19.8	0.8
	60～64歳	620	21.9	16.0	21.6	46.6	17.4	21.1	25.2	8.2	2.7	16.8	4.5

〈家族構成別／終活の準備にあたって、不安に思っていること〉

家族構成別に見ると、「身近に相談したり、頼ったりする人がいない」、「終活への十分な資力がない」、「死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか」は“一人暮らし”で多くなっています。また、「特に不安はない」は“配偶者・パートナーと同居”で多くなっています。

		回答者数	終活の始め方がわからない	身近に相談したり、頼ったりする人がいない	終活への十分な資力がない	将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか	民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない	死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか	どの事業者を選んだら良いのか分からない	終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない	その他	特に不安はない	無回答
全体		1,235	23.1	15.9	21.6	43.6	18.3	20.4	23.4	8.3	3.2	18.1	3.7
一人暮らし		354	24.3	26.8	26.0	43.2	22.9	25.7	27.7	16.4	3.7	12.1	4.0
配偶者・パートナーと同居		306	19.9	12.7	17.6	45.1	19.0	20.9	25.5	5.2	2.0	24.2	4.6
息子・娘との2世帯		321	21.2	9.0	20.9	41.1	11.2	12.8	17.4	1.2	3.1	19.6	3.4
その他		233	27.5	13.3	20.2	44.6	20.6	22.3	22.3	9.0	3.4	17.6	3.0

3. 高齢者あんしんセンター

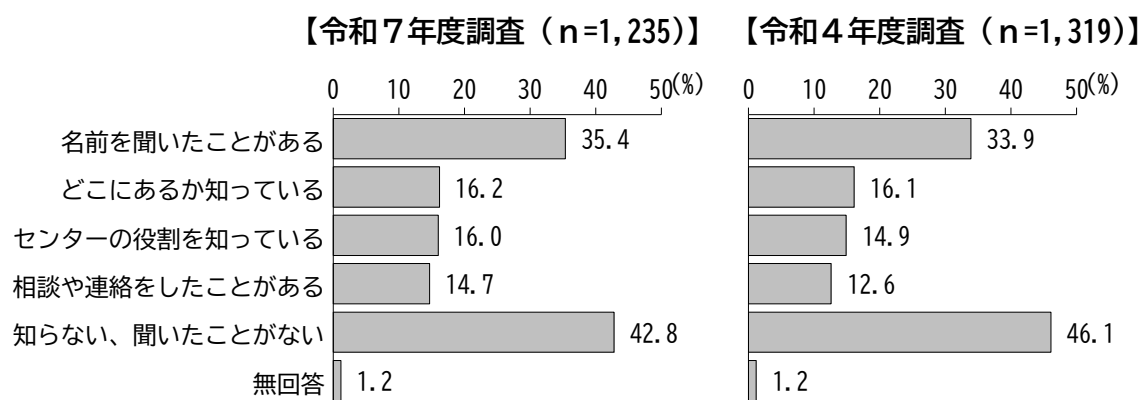
(1) 高齢者あんしんセンターの認知度

Q1. あなたは高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）を知っていますか。
（あてはまるものすべてに○）

全体から「知らない、聞いたことがない」（42.8%）と無回答（1.2%）を除いた56.0%が、何らかの形でセンターを知っています。

「名前を聞いたことがある」が35.4%、「どこにあるか知っている」が16.2%、「センターの役割を知っている」が16.0%となっています。

令和4年度と比較すると、「名前を聞いたことがある」、「センターの役割を知っている」や「相談や連絡をしたことがある」がわずかに増加しており、「知らない、聞いたことがない」は3.3ポイント減少しています。



第4章 55歳以上64歳以下調査の結果

〈居住地区別／「高齢者あんしんセンター」の認知度〉

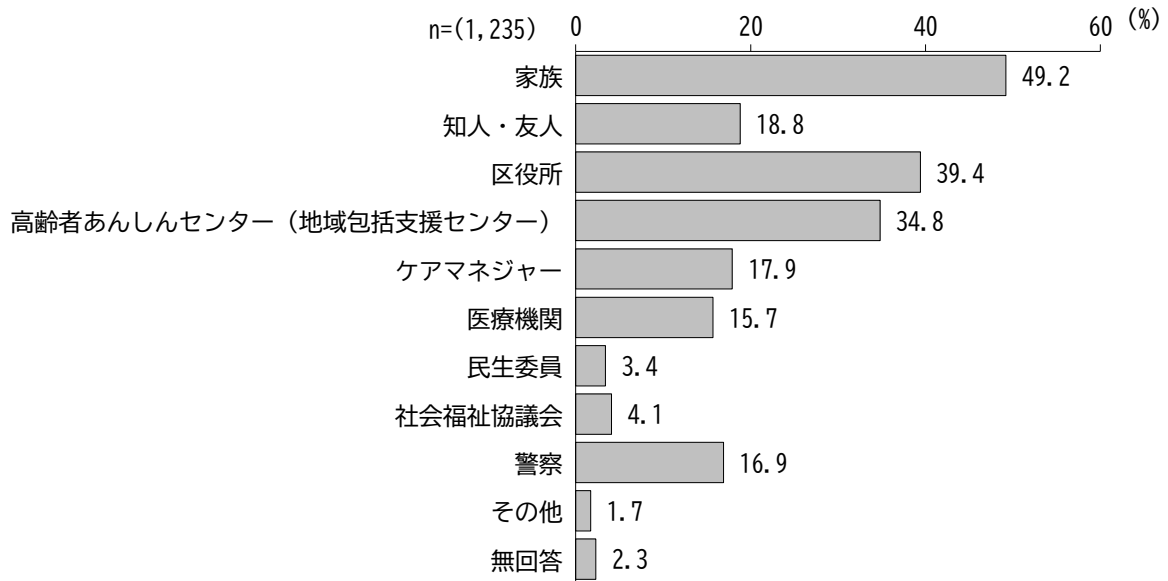
居住地区別に見ると、何らかの形でセンターを知っている割合は、西ヶ原東（76.6%）、志茂（73.0%）、十条台（66.2%）の順で多くなっています。一方、「知らない、聞いたことがない」が多いのは、赤羽北（53.2%）や田端（52.7%）、赤羽西（52.6%）、滝野川西（52.5%）となっています。

	回答者数	名前を聞いたことがある	どこにあるか知っている	センターの役割を知っている	相談や連絡をしたことがある	知らない、聞いたことがない	無回答
全体	1,235	35.4	16.2	16.0	14.7	42.8	1.2
十条台	65	44.6	23.1	20.0	13.8	33.8	-
王子	93	35.5	19.4	21.5	9.7	39.8	-
豊島	99	27.3	16.2	20.2	17.2	43.4	-
十条	62	35.5	16.1	9.7	16.1	41.9	-
神谷	38	31.6	21.1	13.2	10.5	50.0	-
赤羽西	57	31.6	14.0	14.0	12.3	52.6	-
志茂	63	44.4	23.8	23.8	25.4	25.4	1.6
赤羽	68	33.8	17.6	14.7	17.6	50.0	-
赤羽北	79	24.1	12.7	13.9	13.9	53.2	-
滝野川西	61	36.1	13.1	8.2	6.6	52.5	1.6
滝野川東	86	36.0	11.6	12.8	14.0	43.0	1.2
西ヶ原東	47	46.8	14.9	27.7	21.3	23.4	-
昭和町	81	32.1	24.7	21.0	24.7	42.0	1.2
浮間	70	37.1	17.1	12.9	12.9	41.4	-
桐ヶ丘	51	35.3	9.8	15.7	9.8	49.0	-
田端	55	30.9	9.1	10.9	14.5	52.7	-
東十条	36	38.9	8.3	13.9	5.6	50.0	-
堀船	28	42.9	10.7	14.3	3.6	50.0	-
東田端	36	47.2	13.9	22.2	16.7	36.1	-

(2) 高齢者に関する相談先

Q2. あなたのご家族または困っている高齢者を見かけた時にどこに相談しますか。
 (○は優先度が高いもの3つまで)

「家族」が49.2%と最も多く、以下、「区役所」(39.4%)、「高齢者あんしんセンター(地域包括支援センター)」(34.8%)と続いています。

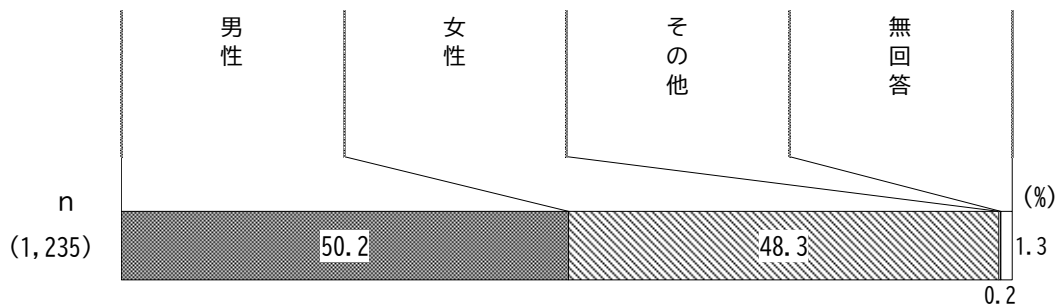


4. 家族や生活状況

(1) 性別

Q1. あなたの性別をお答えください。

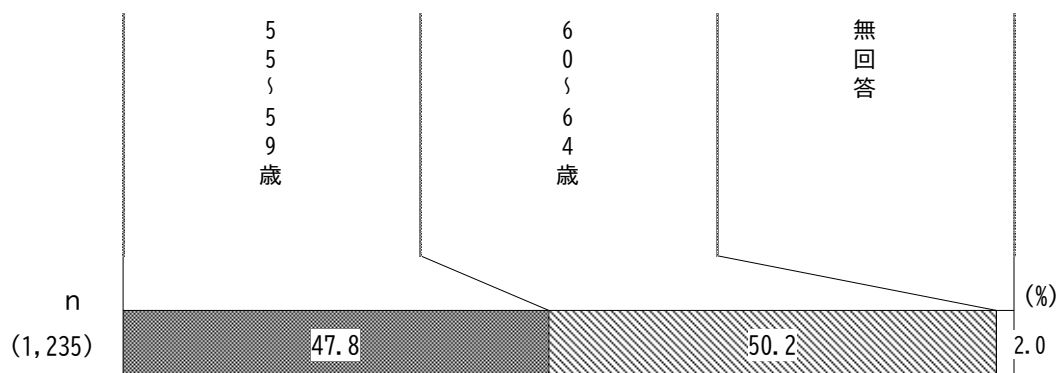
「男性」が50.2% 「女性」が48.3%となっています。



(2) 年齢

Q2. あなたの年齢をお答えください。

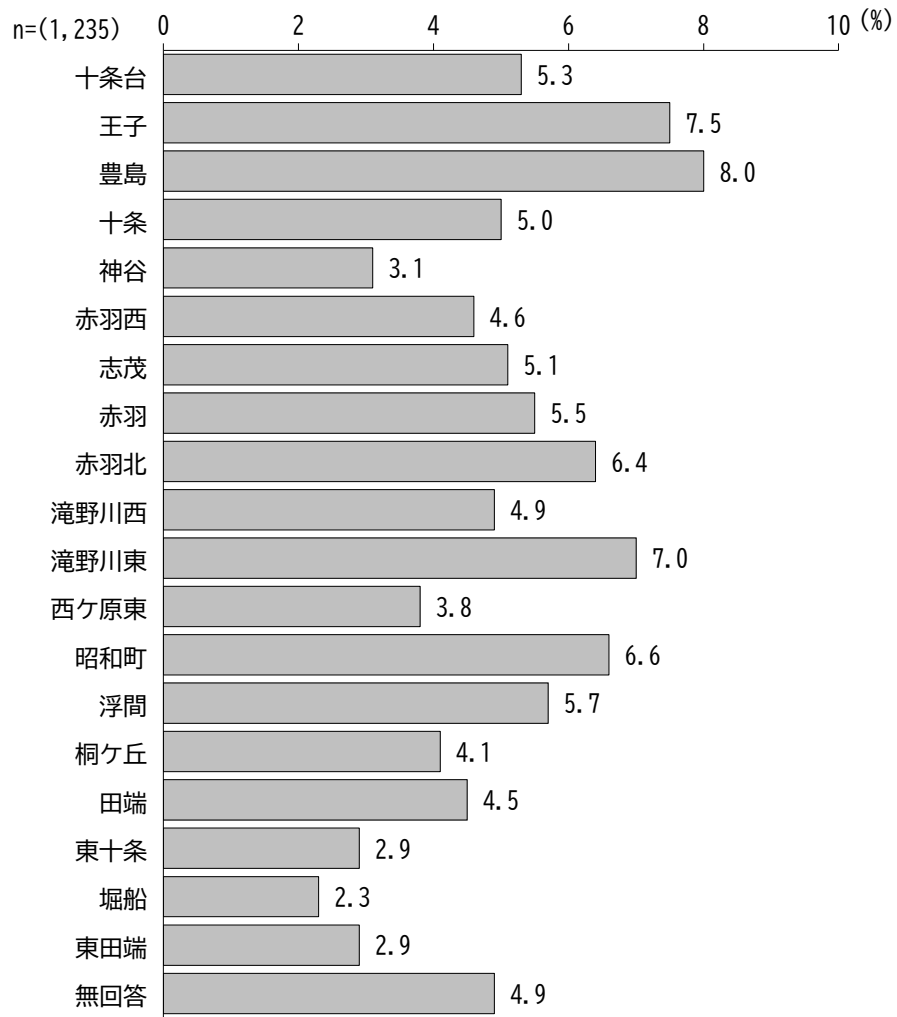
「60～64歳」が50.2%、「55～59歳」が47.8%となっています。



(3) 居住地区

Q3. あなたの住まいはどちらですか。記入例を参考に、下の欄にお書きください。

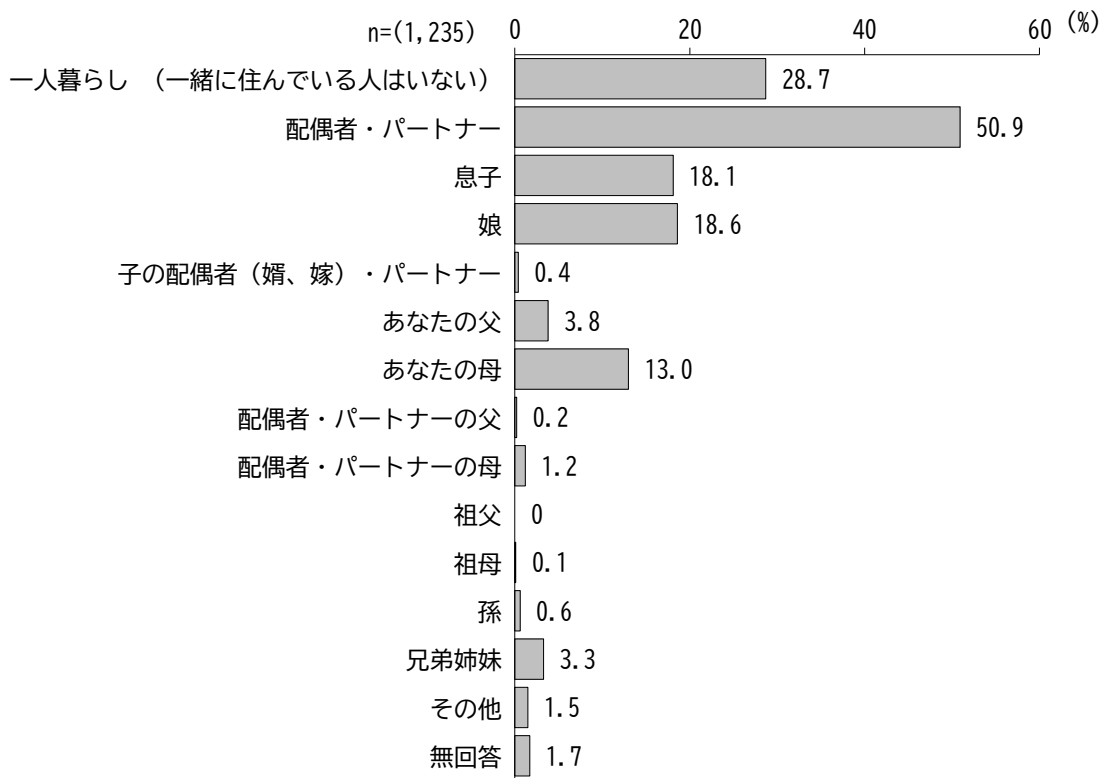
「豊島」が8.0と最も多く、以下、「王子」が7.5%、「滝野川東」が7.0%、「昭和町」が6.6%、「赤羽北」が6.4%と続いています。



(4) 家族構成

Q4. 同居のご家族を教えてください（あなたからみた続柄でお答えください）。
（あてはまるものすべてに○）

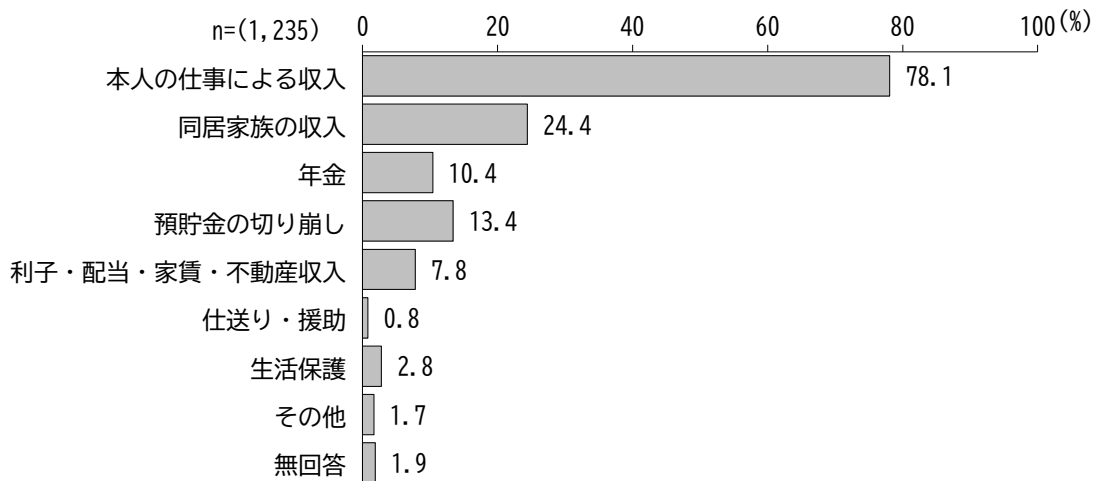
「配偶者・パートナー」が50.9%と最も多く、次いで、「一人暮らし（一緒に住んでいる人はいない）」が28.7%、「娘」が18.6%、「息子」が18.1%となっています。



(5) 収入源

Q5. あなたの収入は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

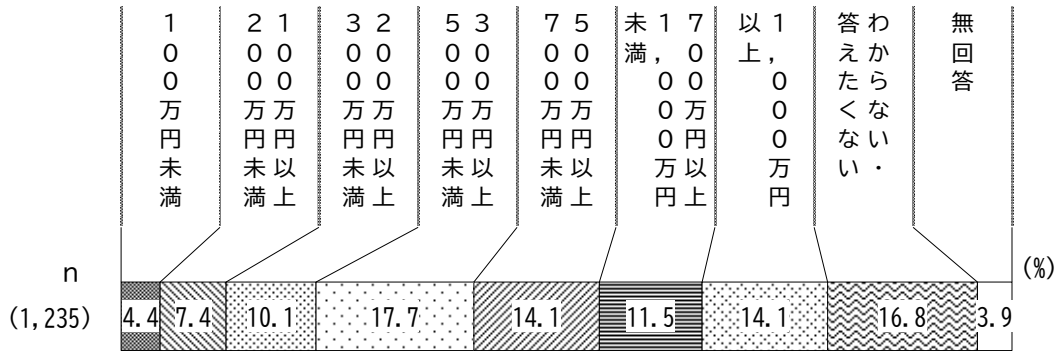
「本人の仕事による収入」が78.1%と特に多く、以下、「同居家族の収入」（24.4%）、「預貯金の切り崩し」（13.4%）「年金」（10.4%）と続いています。



(6) 世帯収入

Q6. 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入（税込）総額はどれくらいですか。
 (○は1つ)

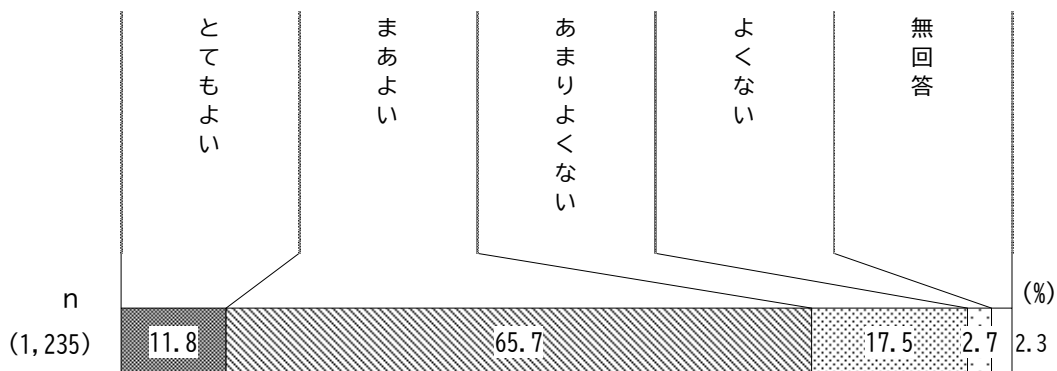
「300万円以上500万円未満」が17.7%と最も多く、以下、「500万円以上700万円未満」(14.1%)、「1,000万円以上」(14.1%)、「700万円以上1,000万円未満」(11.5%)と続いています。



(7) 健康状態

Q7. 現在のあなた（あて名のご本人）の健康状態は、いかがですか。(○は1つ)

「とてもよい」(11.8%)と「まあよい」(65.7%)を合わせた『よい』は77.5%、「よくない」(2.7%)と「あまりよくない」(17.5%)を合わせた『よくない』は20.2%となっています。



■自由記述

これからの健康福祉施策や地域づくりのあり方等についてのご意見・ご提案があれば、ご自由に記入してください。

220件の回答があり、内容別では「区や国への意見・要望」についての意見が83件と最も多く、次いで「高齢者福祉・地域福祉」が56件となっています。

項目		件数
1	区や国への意見・要望	83
2	高齢福祉・地域福祉	56
3	医療・健康	15
4	将来の不安	9
5	アンケートについて	9
6	経済事情・経済的負担	9
7	介護保険制度・介護サービス	6
8	入所施設	5
9	在宅介護・介護者	5
10	その他	23
回答総数		220

※複数の項目にまたがる意見もあるため、各項目の件数の合計は回答総数を上回ります。

■主な意見の概要（抜粋、要約の場合あり）

①区や国への意見・要望

情報提供・周知の強化（20件）
今回のアンケートで「高齢者あんしんセンター」を知りました。未来に漠然とした不安がありましたが、少し安心できました。こういったセンターやサービスがあることをもっと知られるようにした方が良いと思います。
どのようなサービスをどのように受けることができるか、区報などにより発信する。

施策全般への意見（17件）
今後ますます高齢社会になっていく事を仮定して、都道府県等住んでいる地域との密着をより強固にし、最低の生活ラインでも健康で住みやすい場所を目指して、企画や計画を進めてほしいと願っております。
最近、子供の補助ばかりで、高齢者の話題が無い。子供も大切だけど、今まで頑張ってきた高齢者をもう少し大切にしたい。
地域活動・多世代交流の促進（13件）
介護保険料を支払ってはいるが、自分にプラスになる企画があるとより良いと感じる。町内会については活動に関わるようにしていたが、会費を支払わなくなったとたんにサービスがはじかれている。区の方でごく少人数でよいと思うので体験企画を考えてくれると有り難い。
お年寄りだけ、子供だけというのではなく、さまざまな年齢がうまく関わってお互いにより影響を与えられる施策を考えて下さい。
地域の生活環境・まちづくり・防災（11件）
災害時に直ちに対応できるようにしておいてください。
私の近所の方は、高齢の方ばかりで、もう少し若い方がいないと不安な思いがします。住みやすい町作りをして下さい。身近に、スーパーなどを作ってほしいです。
終活・単身高齢者支援・死後事務（8件）
民間事業所のようなサービスを区でやってほしい。または安心して任せられる民間事業所を紹介してほしい。住民税や介護保険料などたくさん支払って来たので、それが適切に使われるような施策を示してほしい。
相談体制の充実（7件）
終活について、無料で相談できる施設があると助かる。
その他（7件）
ペーパーレス化、電子化が進んでいるが、年を取りいつまでスマホやPC入力ができるか不安である。印刷物の文字も小さすぎるともらっても見る気がしなくなり、ゴミになるだけ。年金等、もらえるものは手続きしなくてももらえるようにすべき。

②高齢者福祉・地域福祉

地域交流・元気高齢者の活躍・居場所づくり（17件）
まだまだ元気なお年寄りもたくさんいるように見受けられるので、どんどん地域の中で活躍して頂けるとうれしいし、自分自身も参加しやすい町の雰囲気になっていれらうれしいです。きれいな町、元気な町、活気のある町になって欲しいと思います。
寿命も延びていて、世の中人手不足の為、65歳以上の高齢者も役に立てたら少しでも嬉しい。
孤立防止・独居高齢者支援・見守り（8件）
独居老人が増えており、今後益々孤立する高齢者も増え、それにより孤独死も増えていくであろうと思われる。早急な地域ぐるみでの支援体制の構築が必要だと思う。
地域福祉全般の基盤整備（8件）
母が高齢者あんしんセンターでお世話になりました。私がお世話になる頃には、ケアマネさんなどの人数が増えていることを願います。
相談支援の周知と充実（6件）
高齢者が気軽に相談できる所があれば、安心できると思います。今後、地域社会とつながりを持っていけたらと考えています。

第4章 55歳以上64歳以下調査の結果

情報提供・わかりやすい広報（5件）
高齢者の習い事の情報が欲しいです。来年、時間が出来るので、何かサークル活動等に時間を費やしたいと思っています。サークル等の情報はどこで得ることが出来るのでしょうか。
その他（12件）
高齢になっても安心して暮らせる町作りを望んでいます。
街の連帯が図れたらいいと思います。

③医療・健康

北区による健康診断の開催回数を増やして欲しいです。（現在5年置きのを3年置きにする等）
認知症や生活習慣病などを予防するための具体的な施策（塩分摂取量のアドバイスやフレイル予防体操など）を実施し、近所でそれを習慣的に行えるなど、身近で気軽に参加できるようにしていただくなど。

④将来の不安

これからどうなっていくのでしょうか。高齢者は増える。両親の介護が終わった頃、自分が動けなくなっているのでしょうか。誰にも迷惑をかけないで静かに終わりたいです。

⑤アンケートについて

今回の様なアンケートは始めてだが、声を拾うのはよいことだと思う。年を重ねてからは、家族だけの力ではどうにもならない事がでてくると思うので情報開示、提供されるといいと思われれます。
高齢者あんしんセンターがあるのは、分かりましたが、どこにあるのか、連絡先（電話番号）はどこなのか、パンフレット（リーフレット）を同封しておいた方がよかったですと思いました。今後、アンケートを行う際の参考としてください。

⑥経済事情・経済的負担

地域づくりよりも税金を少なくして、個人の使えるお金を増やした方がいいと思う。
健康福祉は大切ですが、まず現在収入が少なく、そして物価も上がり、今の生活の方が不安でなりません。給付金があるのか無いのかすら分かりません。外国人に仕事をあたえるよりも先に日本人で低収入の人の事を考えてほしい。格差があっては、福祉も意味が分からなくなる。
今の物価高がこれからの全区民にかなり影響してるので、もっと色々、お金がかからず安心して生活できる様にしてほしい。お金がなくて施設に入らない人、老老介護の声をよく聞きます。不安です。

⑦介護保険制度・介護サービス

病院への送迎サービス。以前、高齢の家族のかかりつけの病院がバス停の移動により、遠くなってしまい歩くのに苦労した。タクシー券や送迎バスサービスの補助などがあると、将来足が不自由になっても安心だと思う。
産まれてから現在まで何十年も北区に住んで納税をしております。特養に入る条件で介護3以上が入居条件はわかりますが、せめて北区居住年数や北区納税履歴なども考慮して欲しいです。北区に生まれて良かったと最後は言いたいです。

⑧入所施設

マンションばかり建てられていますが、今後人口減少により空室だらけになった場合、それを高齢者施設などに利用できたらいいなと思います。

仕事柄高齢者と会う機会が多いが、特に単身者が多いと感じている。皆不安を持って暮らしている。介護がまだ必要でない高齢者のためのシェアハウスを希望している50代～80代の声をよく聞きます。民間の若者ハウスではなく元気な高齢者のためのシェアハウスが北区で設置できたらいい。

⑨在宅介護・介護者

介護する側の事も考えてほしい。

介護者がまだ現役のうちには、もう少し代行のようなサービスがあるとよいと思う。先日、マイナンバーカードの申請に代理として行ったが、訪問して手続きができるようにするとか、〇〇歳以上の本人確認は簡易にしてくださいなど、国の制度とはいえ現役世代には負担がかかる。だから仕事を辞めないといけない（できない）不安にもなる。介護をする側の負担軽減になるような施策を望みます。

⑩その他

介護美容に興味があり、高齢になっても美容に係るケア等が受けられて、生き生きと前向きに過ごしたい。

現在は、仕事で時間がないのですが（休日は疲れてしまいます…そのような日が多いです）、これから関心をもっていきたいです。できるだけ楽しく（健康で）年齢を重ねていきたいと思っています。

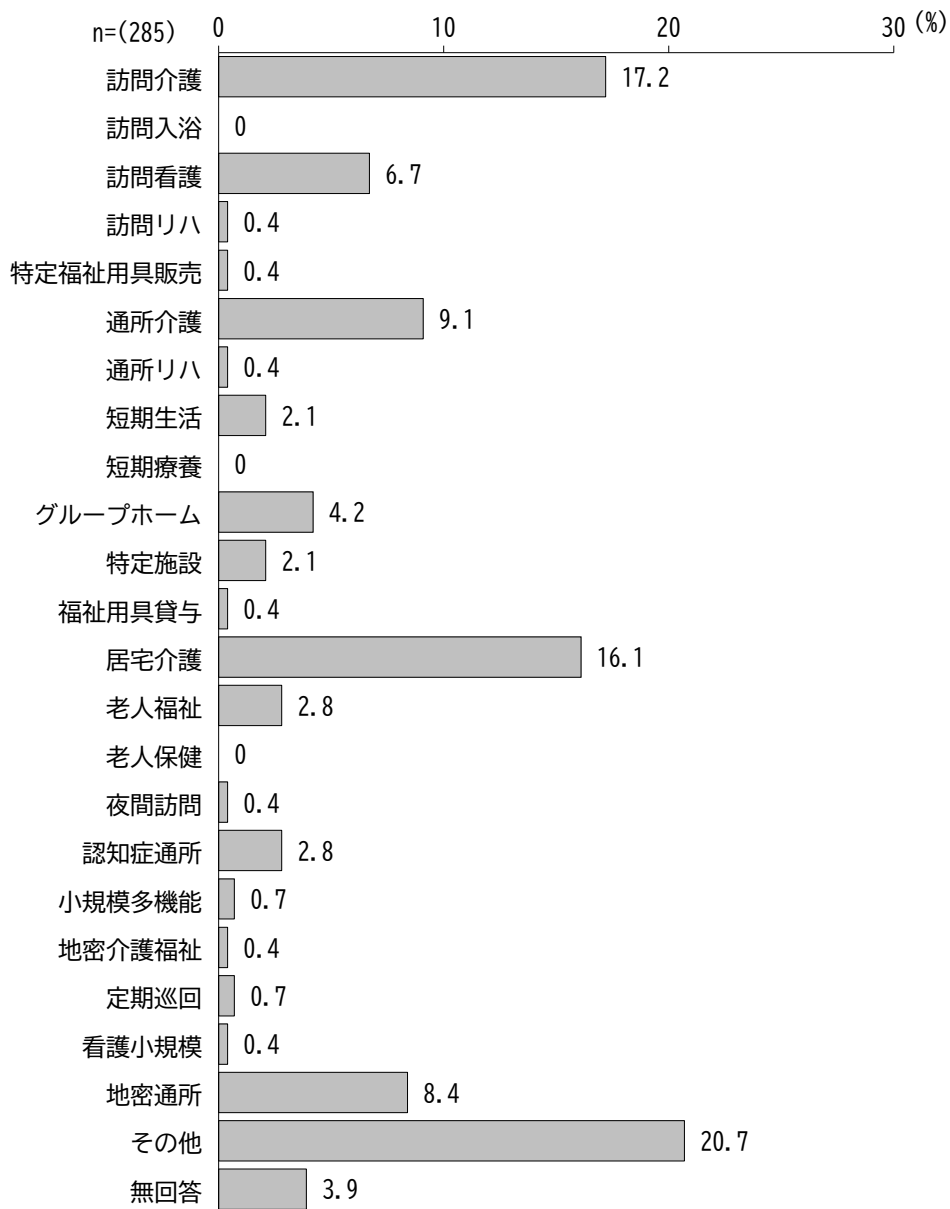
第5章 介護サービス事業者調査の結果

1. 事業所について

(1) サービス種別

Q1. 事業所番号を記入してください。

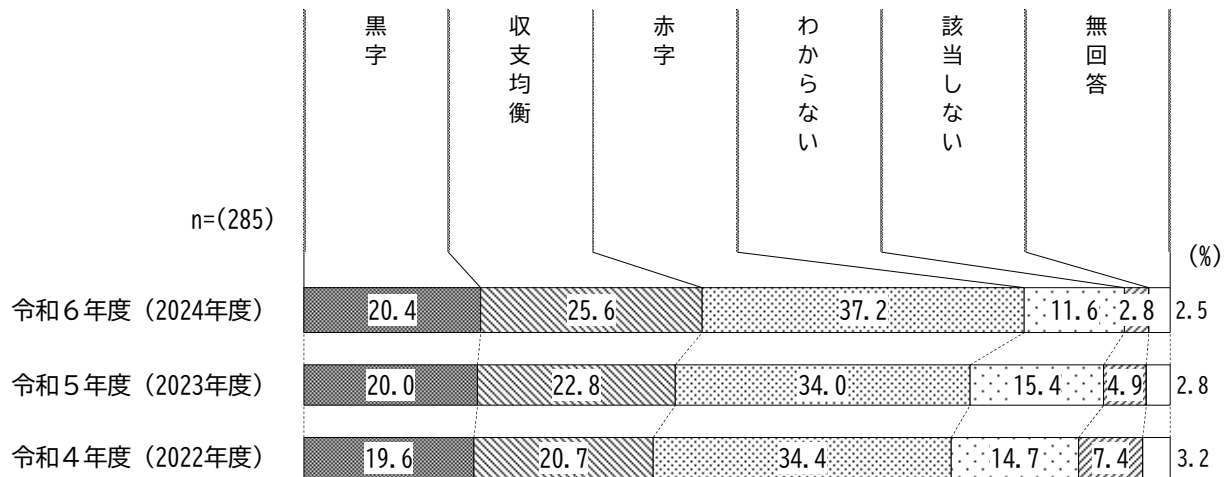
「その他」が20.7%で最も多く、以下、「訪問介護」(17.2%)、「居宅介護」(16.1%)と続いています。



(2) 事業所の採算状況

Q2. 貴事業所の、過去3年間（令和4年度～令和6年度）の事業採算について教えてください。（各年度、○は1つ）

過去3年間のいずれの年度においても、「赤字」が3割台で最も多く、「収支均衡」が2割台で続いています。「黒字」はいずれの年度も2割前後となっています。

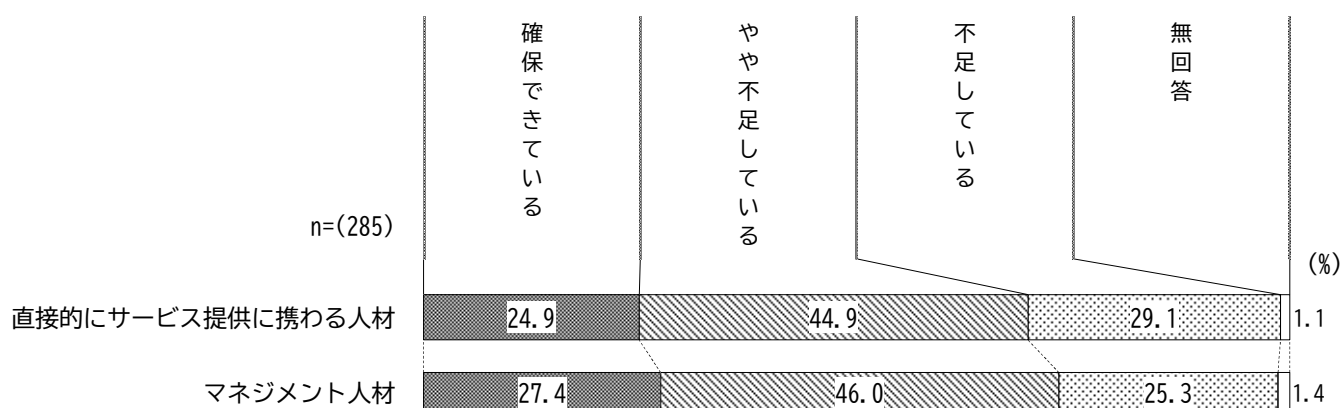


2. 人材の確保・育成

(1) 事業所が求める質を十分に満たす人材の確保状況

Q1. 現在、貴事業所が求める質（資格・経験・スキル・役割遂行能力、介護に対する理念等）を十分に満たす人材を確保できていますか。（それぞれ、あてはまるもの1つに○）

「確保できている」は“直接的にサービス提供に携わる人材”“マネジメント人材”ともに2割台となっています。一方、「不足している」と「やや不足している」を合わせた『不足』は“直接的にサービス提供に携わる人”で74.0%、“マネジメント人材”で71.3%といずれも7割以上を占めています。

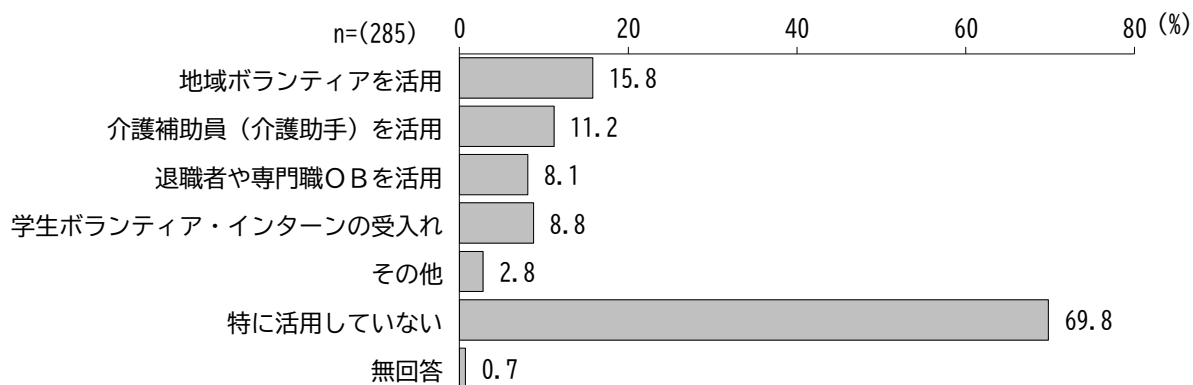


(2) 地域人材の活用状況

Q2. 貴事業所では地域人材を活用していますか。（○はいくつでも）

全体から「特に活用していない」（69.8%）と無回答（0.7%）を除いた29.5%が地域人材の活用状況を挙げています。

「地域ボランティアを活用」が15.8%と最も多く、次いで「介護補助員（介護助手）を活用」（11.2%）となっています。



第5章 介護サービス事業者調査の結果

〈サービス種別／地域人材の活用状況〉

サービス種別に見ると、「地域ボランティアを活用」は通所介護で53.8%と多くなっています。一方、「特に活用していない」は訪問介護（87.8%）、居宅介護（87.0%）、地密通所（70.8%）で多くなっています。

(%)

	回答者数	地域ボランティアを活用	介護補助員（介護助手）を活用	退職者や専門職OBを活用	学生ボランティア・インターンの受入れ	その他	特に活用していない	無回答
全体	285	15.8	11.2	8.1	8.8	2.8	69.8	0.7
訪問介護	49	2.0	4.1	6.1	-	-	87.8	-
訪問入浴	0	-	-	-	-	-	-	-
訪問看護	19	-	-	10.5	-	5.3	84.2	-
訪問リハ	1	-	-	-	-	-	100.0	-
特定福祉用具販売	1	-	-	-	-	-	100.0	-
通所介護	26	53.8	23.1	7.7	26.9	-	30.8	-
通所リハ	1	-	-	-	-	-	100.0	-
短期生活	6	50.0	50.0	33.3	16.7	-	-	-
短期療養	0	-	-	-	-	-	-	-
グループホーム	12	25.0	8.3	8.3	8.3	16.7	41.7	-
特定施設	6	33.3	16.7	-	-	16.7	50.0	-
福祉用具貸与	1	-	-	-	-	-	100.0	-
居宅介護	46	6.5	6.5	2.2	4.3	-	87.0	-
老人福祉	8	37.5	87.5	25.0	37.5	25.0	-	-
老人保健	0	-	-	-	-	-	-	-
夜間訪問	1	-	-	-	-	-	100.0	-
認知症通所	8	62.5	12.5	25.0	25.0	-	25.0	-
小規模多機能	2	50.0	-	-	-	-	50.0	-
地密介護福祉	1	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-	-
定期巡回	2	-	-	-	-	-	100.0	-
看護小規模	1	-	-	100.0	-	-	-	-
地密通所	24	4.2	-	16.7	4.2	4.2	70.8	4.2
その他	59	10.2	8.5	5.1	8.5	-	84.7	-

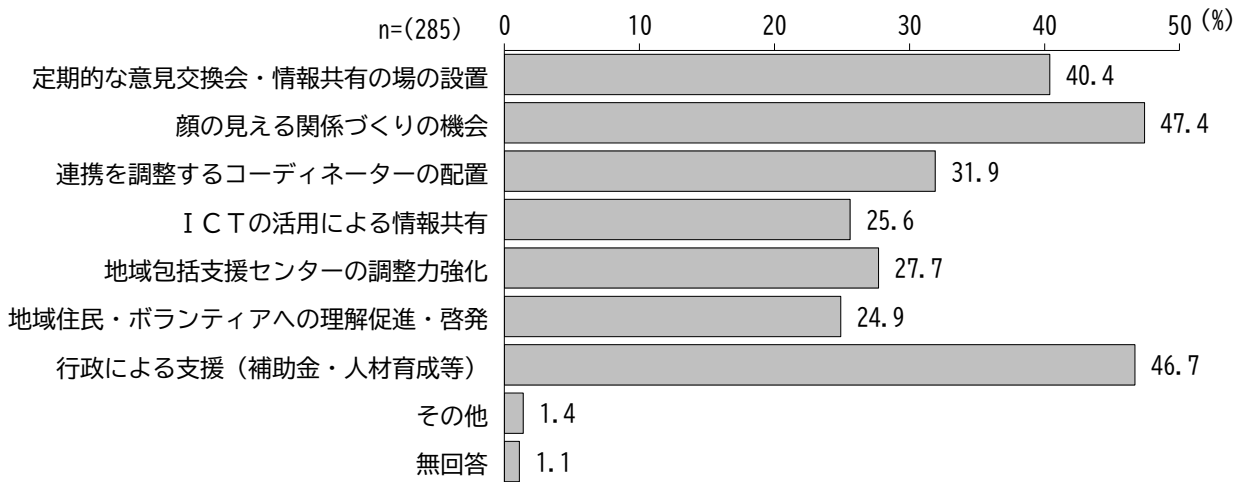
※回答者数が20未満の場合、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合があります。（以降同様）

(3) 地域との連携を充実するために必要な取組み

Q3. 地域との連携を充実するために、どのような取組みが必要だと思いますか。

(〇は3つまで)

「顔の見える関係づくりの機会」が47.4%と最も多く、以下、「行政による支援（補助金・人材育成等）」(46.7%)、「定期的な意見交換会・情報共有の場の設置」(40.4%)、「連携を調整するコーディネーターの配置」(31.9%)と続いています。

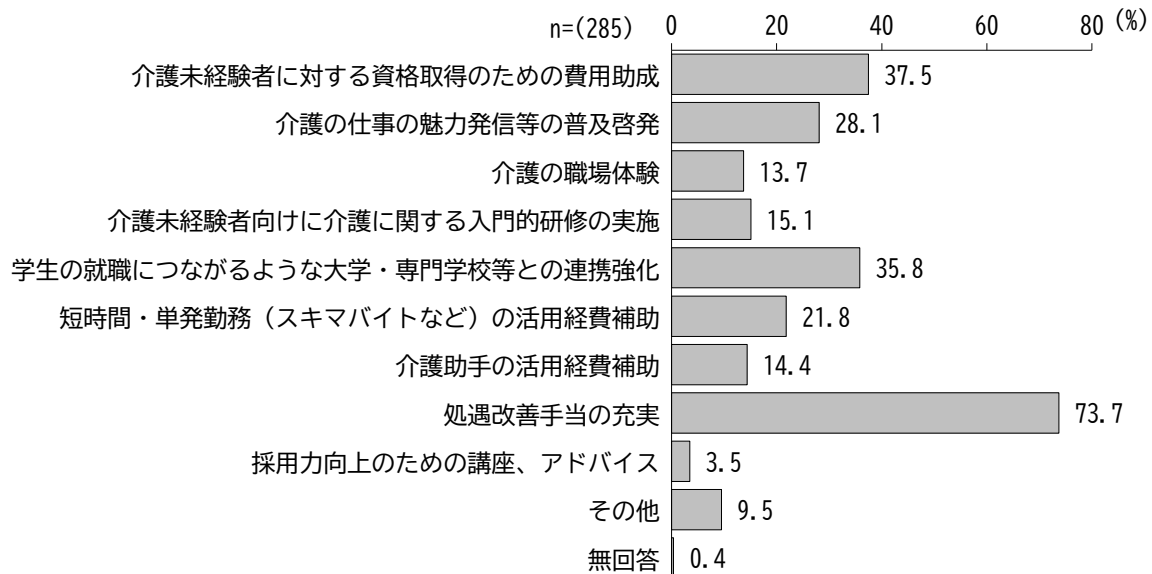


(4) 人材確保に向けてあるとよい公的支援

Q4. 人材の確保に向けて、どのような公的支援があればよいと思いますか。

(〇は3つまで)

「処遇改善手当の充実」が73.7%と特に多く、以下、「介護未経験者に対する資格取得のための費用助成」(37.5%)、「学生の就職につながるような大学・専門学校等との連携強化」(35.8%)と続いています。

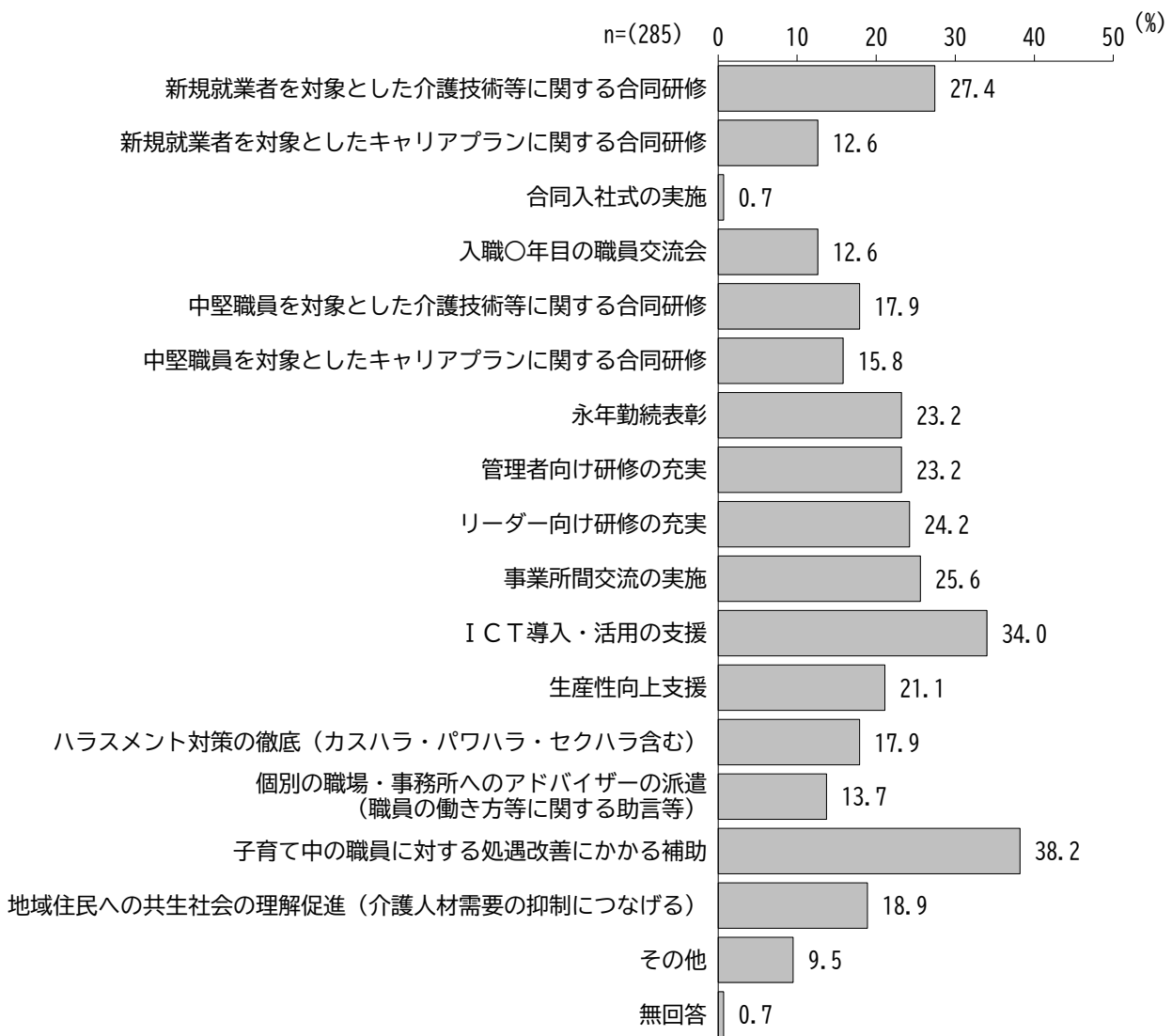


(5) 人材の定着に向けてあるとよい公的支援

Q5. 人材の定着に向けて、どのような公的支援があればよいと思いますか。

(〇は5つまで)

「子育て中の職員に対する処遇改善にかかる補助」が38.2%と最も多く、以下、「ICT導入・活用の支援」(34.0%)、「新規就業者を対象とした介護技術等に関する合同研修」(27.4%)、「事業所間交流の実施」(25.6%)と続いています。

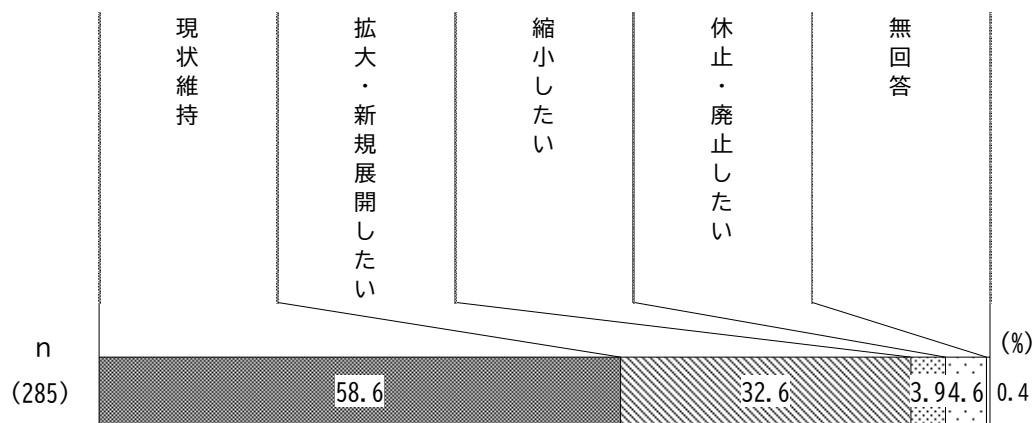


3. 事業所運営の状況や課題

(1) 今後10年間の事業展開の意向

Q1. 貴事業所の今後10年間における事業展開の意向についてお答えください。(〇は1つ)

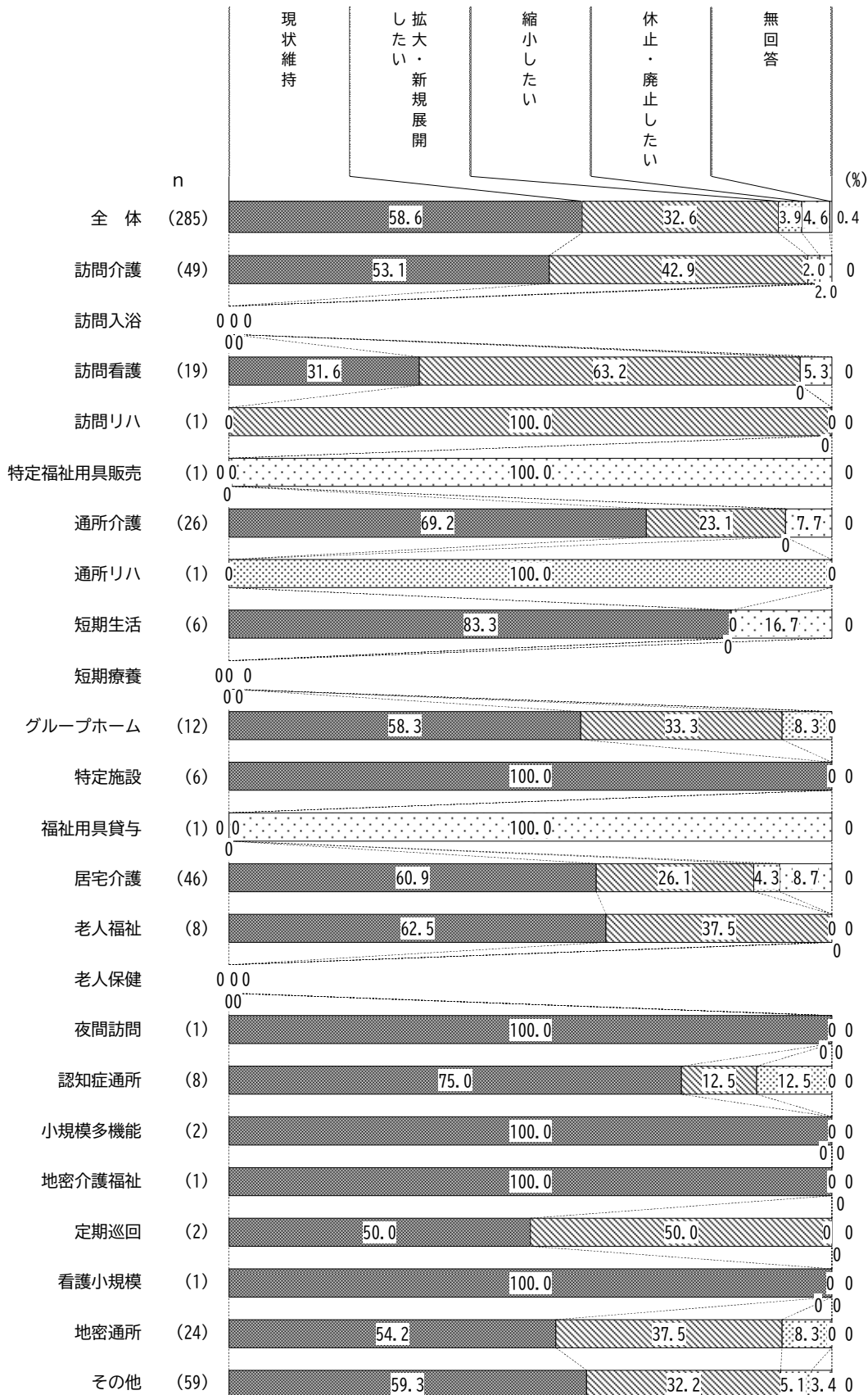
「現状維持」が58.6%と最も多く、「拡大・新規展開したい」が32.6%、「休止・廃止したい」が4.6%、「縮小したい」が3.9%となっています。



第5章 介護サービス事業者調査の結果

〈サービス種別／今後10年間の事業展開の意向〉

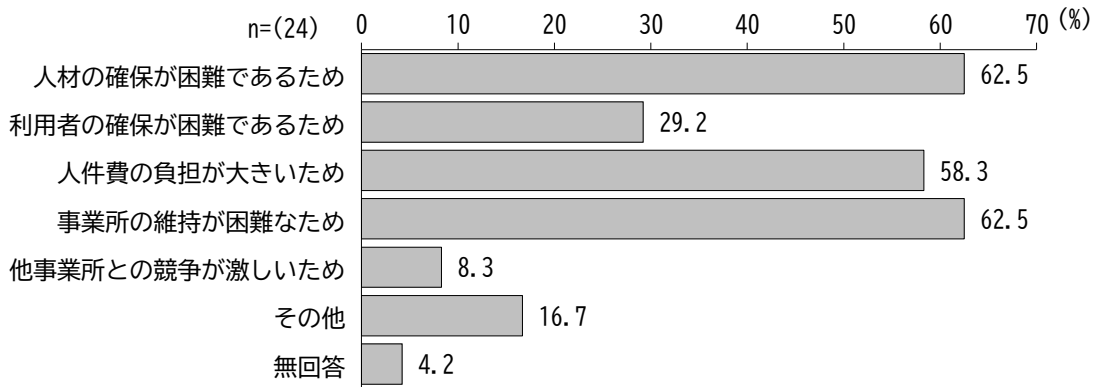
サービス種別に見ると、「現状維持」は通所介護（69.2%）、居宅介護（60.9%）で6割台と多くなっています。また、「拡大・新規展開したい」は訪問介護で42.9%、地密通所で37.5%と多くなっています。



(2) 事業展開を縮小・休止・廃止する理由

【Q1で「3. 縮小したい」「4. 休止・廃止したい」と答えた事業所に伺います】
 Q2. 事業展開を縮小・休止・廃止する意向である理由は何ですか。(〇はいくつでも)

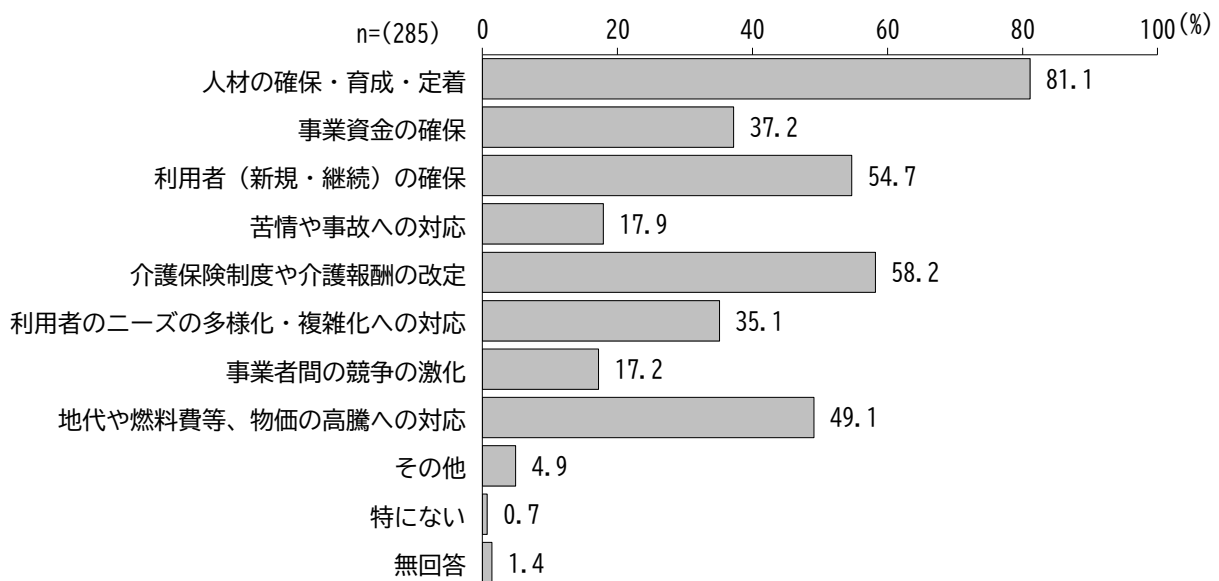
「人材の確保が困難であるため」と「事業所の維持が困難なため」が62.5%と最も多く、以下、「人件費の負担が大きいため」(58.3%)、「利用者の確保が困難であるため」(29.2%)と続いています。



(3) 事業所の運営に関する不安や課題

Q3. 貴事業所の運営にあたり、不安なことや課題と感じていることがあれば教えてください。(〇はいくつでも)

「人材の確保・育成・定着」が81.1%と特に多く、以下、「介護保険制度や介護報酬の改定」(58.2%)、「利用者(新規・継続)の確保」(54.7%)、「地代や燃料費等、物価の高騰への対応」(49.1%)と続いています。



第5章 介護サービス事業者調査の結果

〈サービス種別／事業所の運営に関する不安や課題〉

サービス種別に見ると、「人材の確保・育成・定着」は“訪問介護”（95.9%）、「介護保険制度や介護報酬の改定」は地密通所（70.8%）、「利用者（新規・継続）の確保」は通所介護（76.9%）と地密通所（70.8%）、「地代や燃料費等、物価の高騰への対応」は地密通所（66.7%）と通所介護（61.5%）で多くなっています。

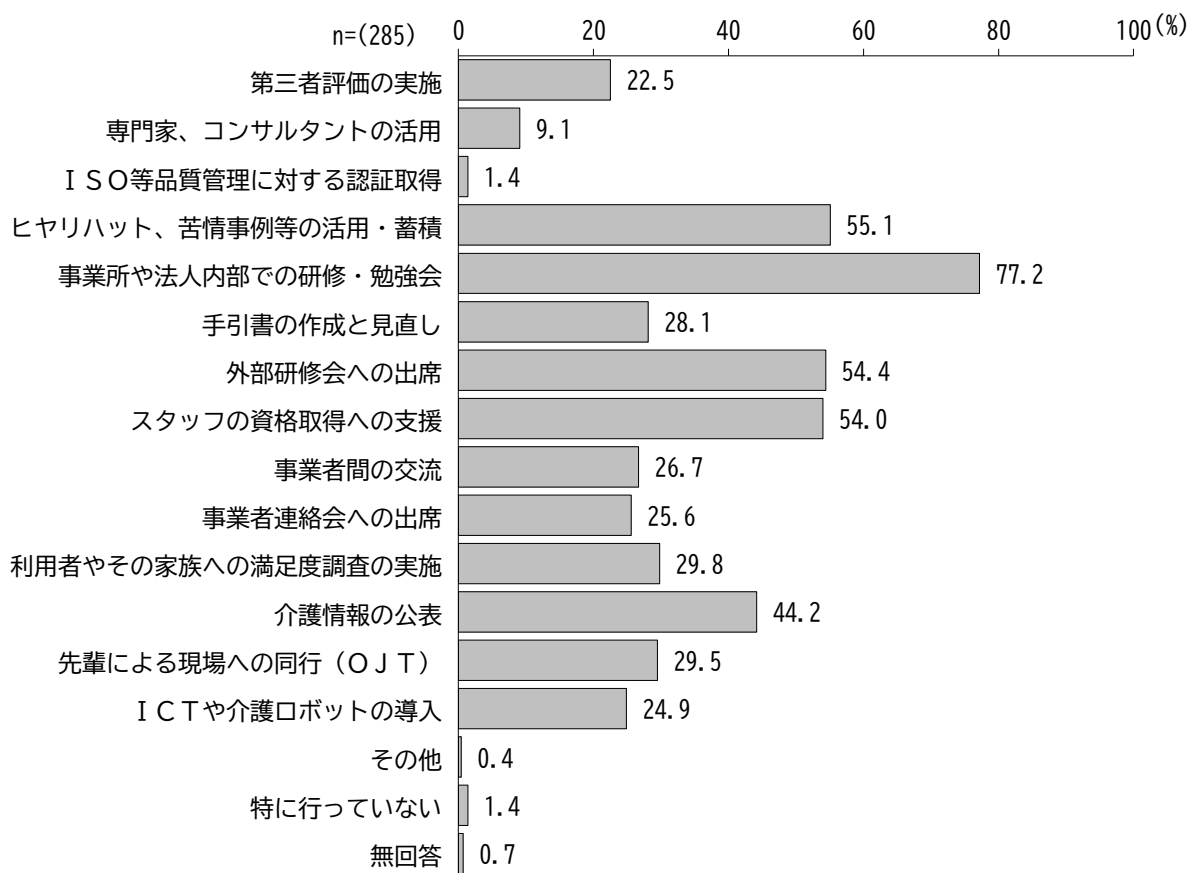
	回答者数	人材の確保・育成・定着	事業資金の確保	確利用者（新規・継続）の	苦情や事故への対応	介護保険制度や介護報酬の改定	複利用者のニーズの多様化・	事業者間の競争の激化	地代や燃料費等、物価の高騰への対応	その他	特にない	無回答
全体	285	81.1	37.2	54.7	17.9	58.2	35.1	17.2	49.1	4.9	0.7	1.4
訪問介護	49	95.9	24.5	49.0	18.4	46.9	26.5	6.1	24.5	2.0	-	-
訪問入浴	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
訪問看護	19	78.9	26.3	52.6	5.3	47.4	21.1	42.1	36.8	-	5.3	-
訪問リハ	1	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0	100.0	-	-	-
特定福祉用具販売	1	100.0	100.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-
通所介護	26	84.6	38.5	76.9	11.5	50.0	34.6	23.1	61.5	3.8	-	-
通所リハ	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
短期生活	6	100.0	66.7	50.0	50.0	100.0	33.3	-	66.7	-	-	-
短期療養	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
グループホーム	12	91.7	33.3	58.3	33.3	58.3	41.7	25.0	66.7	8.3	-	-
特定施設	6	66.7	-	83.3	33.3	33.3	50.0	50.0	50.0	-	16.7	-
福祉用具貸与	1	100.0	100.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-
居宅介護	46	73.9	30.4	26.1	21.7	65.2	54.3	2.2	30.4	6.5	-	-
老人福祉	8	100.0	87.5	62.5	37.5	100.0	25.0	25.0	100.0	12.5	-	-
老人保健	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
夜間訪問	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
認知症通所	8	75.0	37.5	62.5	12.5	25.0	50.0	12.5	50.0	-	-	-
小規模多機能	2	100.0	-	50.0	50.0	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-
地密介護福祉	1	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-
定期巡回	2	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	-	50.0	50.0	-	-
看護小規模	1	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-
地密通所	24	62.5	41.7	70.8	12.5	70.8	12.5	12.5	66.7	-	-	4.2
その他	59	79.7	45.8	59.3	15.3	66.1	40.7	27.1	62.7	6.8	-	-

4. サービスの質の向上

(1) サービスの質の向上のためにしている取組み

Q1. 貴事業所では、サービスの質の向上のために、どのような取組みを行っていますか。
(〇はいくつでも)

「事業所や法人内部での研修・勉強会」が77.2%と最も多く、以下、「ヒヤリハット、苦情事例等の活用・蓄積」(55.1%)、「外部研修会への出席」(54.4%)、「スタッフの資格取得への支援」(54.0%)と続いています。



第5章 介護サービス事業者調査の結果

〈サービス種別／サービスの質の向上のためにしている取り組み〉

サービス種別に見ると、「事業所や法人内部での研修・勉強会」は訪問介護（83.7%）、「ヒヤリハット、苦情事例等の活用・蓄積」は通所介護（69.2%）と地密通所（62.5%）で多くなっています。

(%)

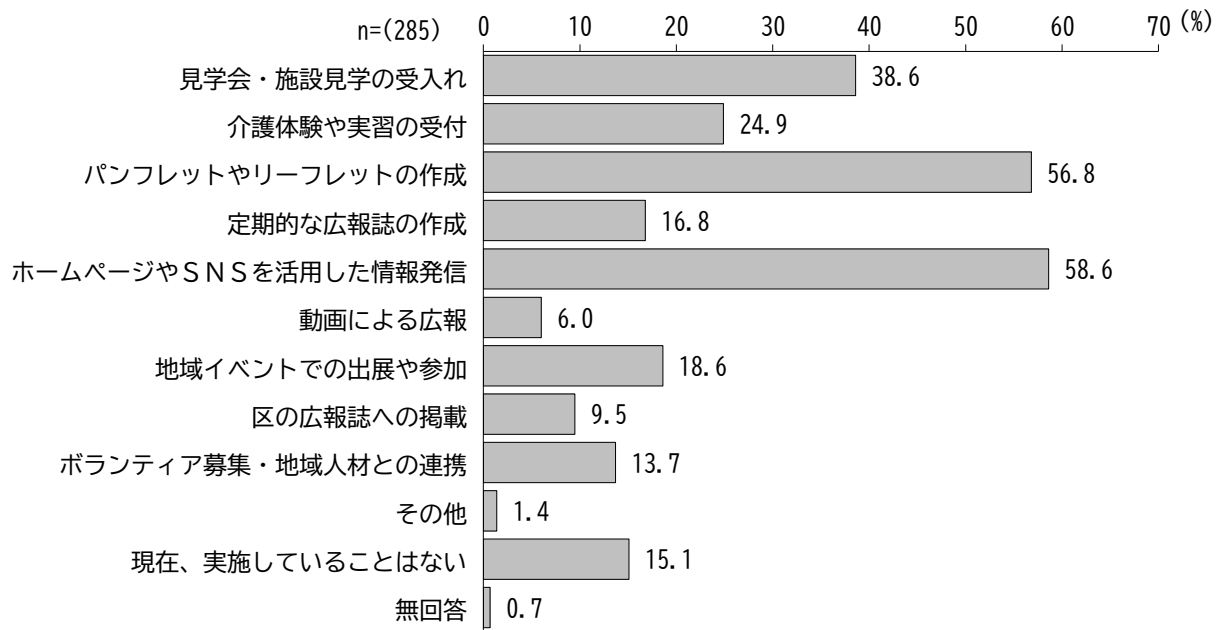
	回答者数	第三者評価の実施	専門家、コンサルタントの活用	ISO等品質管理に対する認証取得	ヒヤリハット、苦情事例等の活用・蓄積	事業所や法人内部での研修・勉強会	手引書の作成と見直し	外部研修会への出席	スタッフの資格取得への支援	事業者間の交流	事業者連絡会への出席
全体	285	22.5	9.1	1.4	55.1	77.2	28.1	54.4	54.0	26.7	25.6
訪問介護	49	6.1	6.1	-	57.1	83.7	34.7	34.7	34.7	22.4	22.4
訪問入浴	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
訪問看護	19	10.5	-	-	47.4	84.2	42.1	73.7	31.6	21.1	42.1
訪問リハ	1	100.0	-	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-
特定福祉用具販売	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
通所介護	26	26.9	7.7	-	69.2	76.9	30.8	42.3	61.5	15.4	15.4
通所リハ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
短期生活	6	66.7	33.3	16.7	33.3	50.0	33.3	66.7	83.3	16.7	33.3
短期療養	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
グループホーム	12	100.0	16.7	-	83.3	100.0	41.7	50.0	91.7	25.0	16.7
特定施設	6	16.7	-	16.7	66.7	83.3	-	33.3	83.3	-	-
福祉用具貸与	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
居宅介護	46	13.0	6.5	-	30.4	69.6	17.4	82.6	50.0	41.3	45.7
老人福祉	8	100.0	25.0	12.5	100.0	100.0	87.5	87.5	75.0	62.5	62.5
老人保健	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
夜間訪問	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
認知症通所	8	62.5	12.5	-	87.5	75.0	37.5	25.0	62.5	12.5	12.5
小規模多機能	2	50.0	-	-	100.0	100.0	-	50.0	50.0	-	-
地密介護福祉	1	100.0	-	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
定期巡回	2	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	100.0	-
看護小規模	1	-	100.0	-	100.0	-	-	100.0	100.0	-	100.0
地密通所	24	4.2	4.2	4.2	62.5	62.5	20.8	41.7	41.7	16.7	16.7
その他	59	15.3	15.3	-	52.5	84.7	20.3	55.9	67.8	30.5	20.3

	回答者数	の利用者やその家族への満足度調査の実施	介護情報の公表	先行者（OJ）による現場への導入	ICTやロボットの導入	その他	特にしていない	無回答
全体	285	29.8	44.2	29.5	24.9	0.4	1.4	0.7
訪問介護	49	26.5	40.8	44.9	18.4	-	2.0	-
訪問入浴	0	-	-	-	-	-	-	-
訪問看護	19	15.8	36.8	68.4	26.3	-	-	-
訪問リハ	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
特定福祉用具販売	1	-	-	-	-	-	-	-
通所介護	26	34.6	38.5	30.8	26.9	-	-	-
通所リハ	1	-	-	-	-	-	100.0	-
短期生活	6	16.7	50.0	-	66.7	-	-	-
短期療養	0	-	-	-	-	-	-	-
グループホーム	12	75.0	75.0	25.0	41.7	-	-	-
特定施設	6	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	-
福祉用具貸与	1	-	-	-	-	-	-	-
居宅介護	46	23.9	54.3	13.0	15.2	2.2	2.2	-
老人福祉	8	87.5	75.0	25.0	75.0	-	-	-
老人保健	0	-	-	-	-	-	-	-
夜間訪問	1	-	-	-	-	-	-	-
認知症通所	8	50.0	50.0	12.5	25.0	-	-	-
小規模多機能	2	50.0	100.0	50.0	-	-	-	-
地密介護福祉	1	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-
定期巡回	2	50.0	-	-	-	-	-	-
看護小規模	1	-	100.0	-	-	-	-	-
地密通所	24	16.7	20.8	4.2	8.3	-	-	-
その他	59	25.4	45.8	33.9	30.5	-	1.7	-

(2) 現在実施していること

Q2. 貴事業所の特色や強みを対外的にアピールするために、「現在、実施していること」があれば教えてください。(〇はいくつでも)

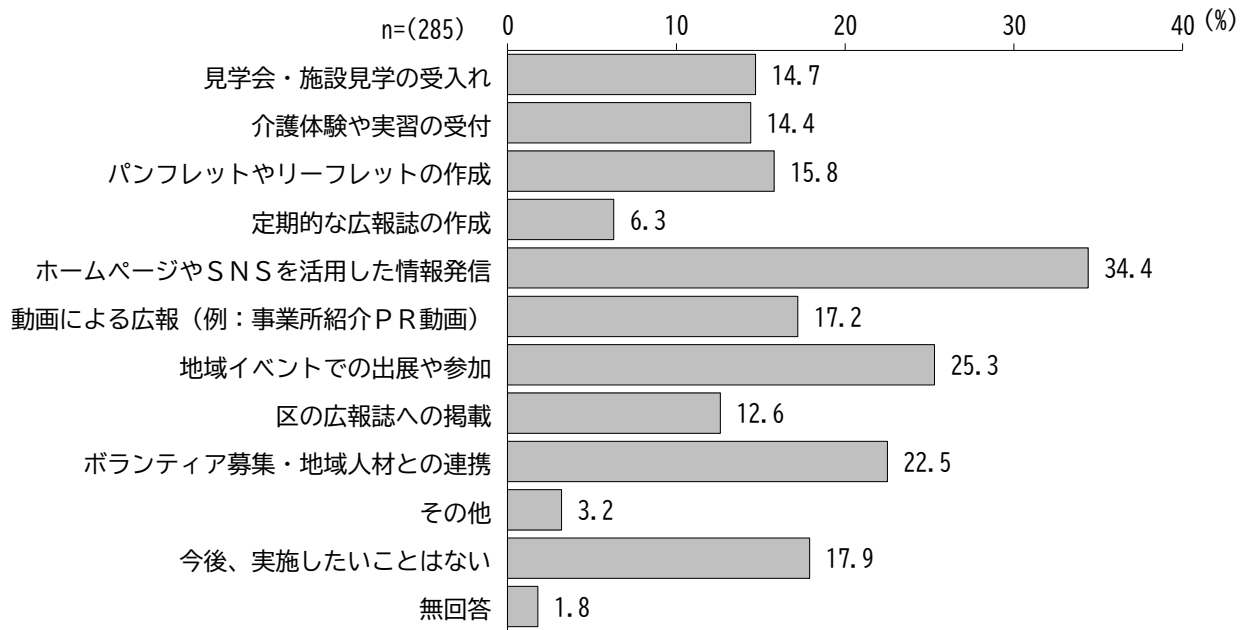
「ホームページやSNSを活用した情報発信」(58.6%)と「パンフレットやリーフレットの作成」(56.8%)が5割を超えて多く、以下、「見学会・施設見学の受入れ」(38.6%)、「介護体験や実習の受付」(24.9%)と続いています。



(3) 今後実施したいこと

Q2. 貴事業所の特色や強みを対外的にアピールするために、「今後、実施したいこと」があれば教えてください。(〇はいくつでも)

「ホームページやSNSを活用した情報発信」が34.4%と最も多く、以下、「地域イベントでの出展や参加」(25.3%)、「ボランティア募集・地域人材との連携」(22.5%)と続いています。一方、「今後、実施したいことはない」は17.9%となっています。

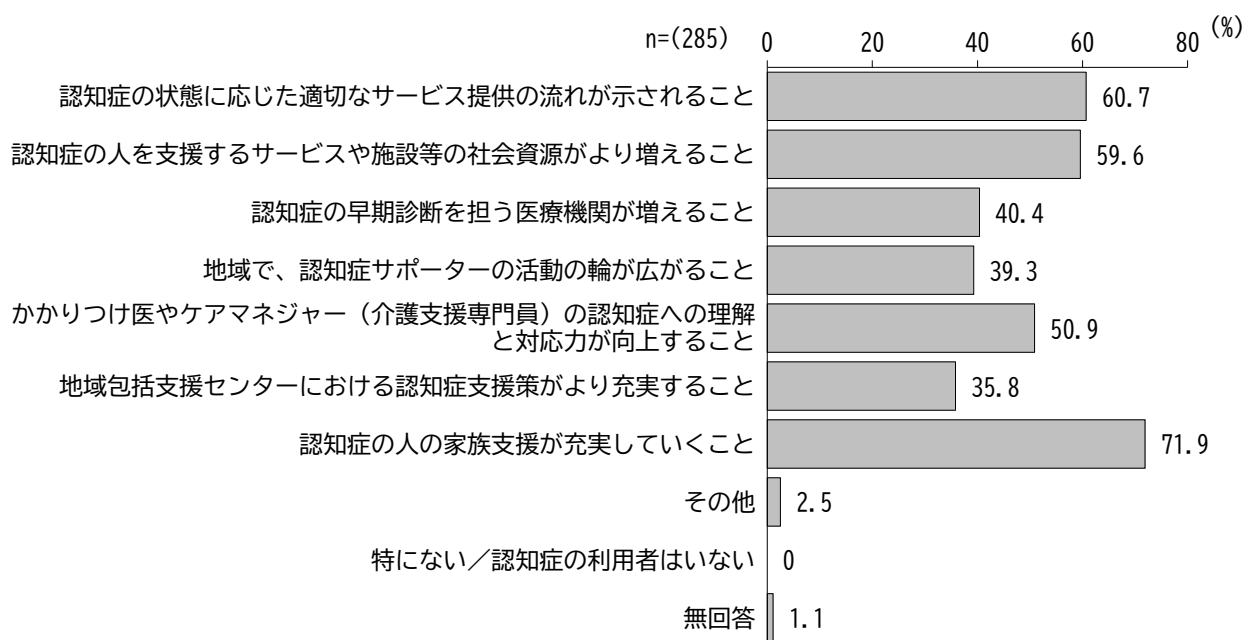


5. 認知症の方や家族の支援

(1) 認知症の方の支援に必要なこと

Q1. 認知症の方の支援にあたり特に必要と思われることは何ですか。(〇はいくつでも)

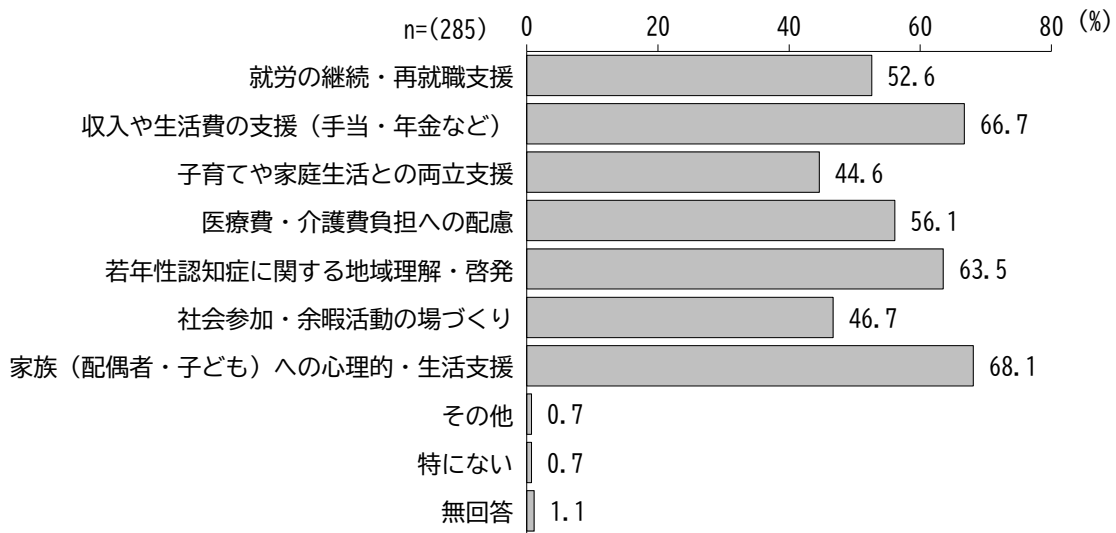
「認知症の人の家族支援が充実していくこと」が71.9%と最も多く、以下、「認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れが示されること」(60.7%)、「認知症の人を支援するサービスや施設等の社会資源がより増えること」(59.6%)、「かかりつけ医やケアマネジャー（介護支援専門員）の認知症への理解と対応力が向上すること」(50.9%)と続いています。



(2) 若年性認知症の方の支援に必要なこと

Q2. 若年性認知症（65歳未満で発症）の方の支援について、特に必要と思われることは何ですか。（〇はいくつでも）

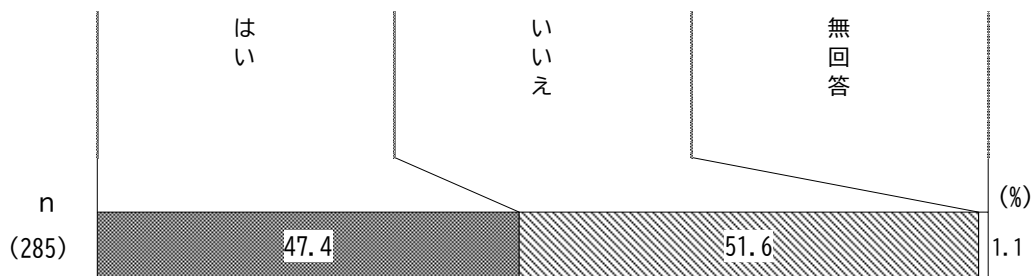
「家族（配偶者・子ども）への心理的・生活支援」が68.1%と最も多く、以下、「収入や生活費の支援（手当・年金など）」（66.7%）、「若年性認知症に関する地域理解・啓発」（63.5%）、「医療費・介護費負担への配慮」（56.1%）と続いています。



(3) 「北区認知症あんしんなび」の認知状況

Q3. 「北区認知症あんしんなび」を知っていますか。

「はい」（知っている）が47.4%、「いいえ」（知らない）が51.6%となっています。



(4) 認知症のある方の声で支援に活かしている内容

Q4. 認知症のある方の声を取り入れて、支援に活かしている点があればお書きください。
(自由記述)

69事業所から回答が得られた。

■主な意見の概要（抜粋、要約の場合あり）

①本人の意思・希望の尊重

- ・利用者様自身の尊厳を守る。
- ・個別面談をし、施設で出来得るケースバイケースでの対応を心がけている。

②傾聴・丁寧なコミュニケーション

- ・本人の声を聞けるように、ゆっくり待つ介護を意識しています。
- ・一層の傾聴と職員からの声掛け頻度を増やしている。

③役割づくり・残存機能の活用

- ・活動に参加するだけでなく片付けや食器の準備など出来ることは手伝いたいという方に声掛けなどの支援をしながら取り組んで頂いています。
- ・アセスメントによる残存機能の評価による役割の創出。

④生活歴・個別性の重視

- ・昔の記憶の掘り起こしによる話題作り。
- ・生活歴や趣味嗜好、BPSDに至る具体的なエピソード等の情報をあらかじめ頂戴し、入居前の生活に可能な限り近い対応を心がけている。

⑤環境調整・不安軽減

- ・安心した場所を提供できる環境作りに努めている。
- ・不安にさせない環境作り。

⑥家族・多職種連携

- ・家族や医療機関、薬局と電話等で連携を図る事。
- ・サービス担当者や家族との共有ノート作成。

⑦プログラム・活動導入

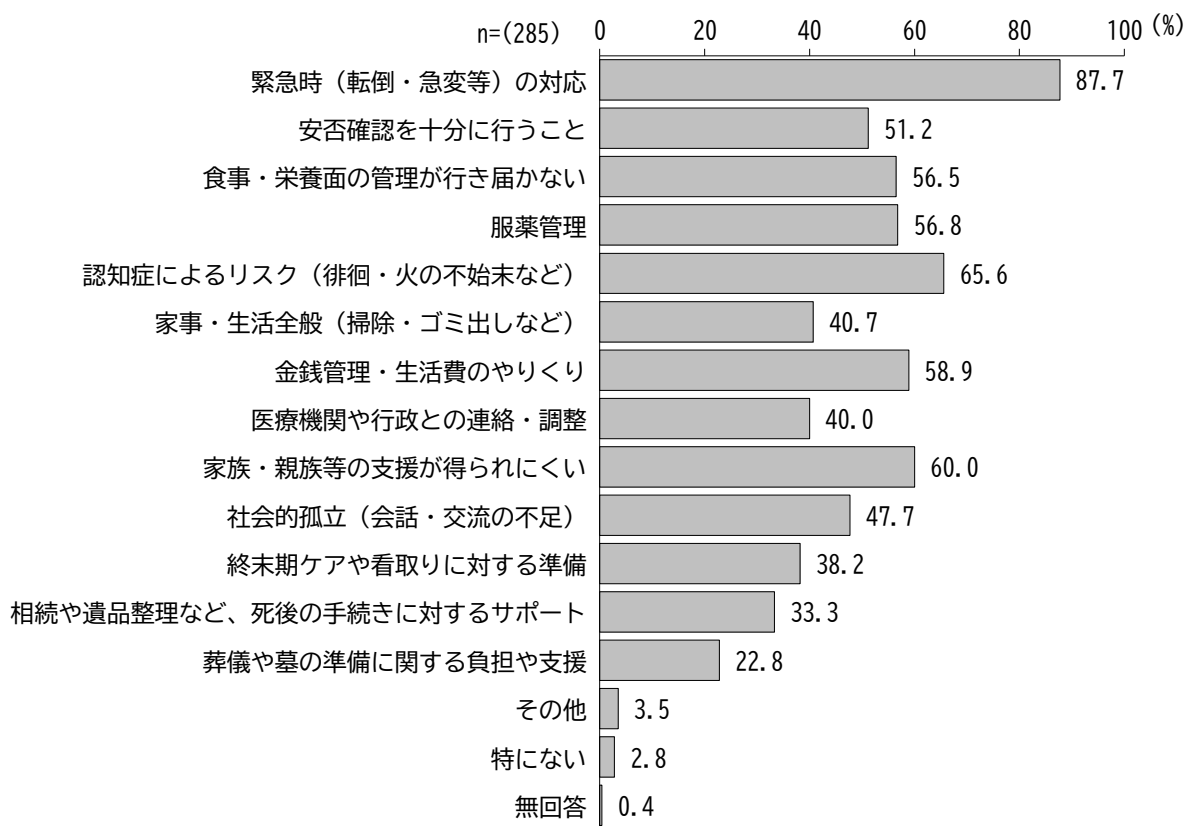
- ・認知症ケアプログラムの活用。
- ・オレンジカフェへの参加。

6. 独居高齢者

(1) 「独居高齢者」について大変だと感じること

Q1. 貴事業所でサービスを利用している「独居高齢者」について、大変だと感じることは何ですか。(〇はいくつでも)

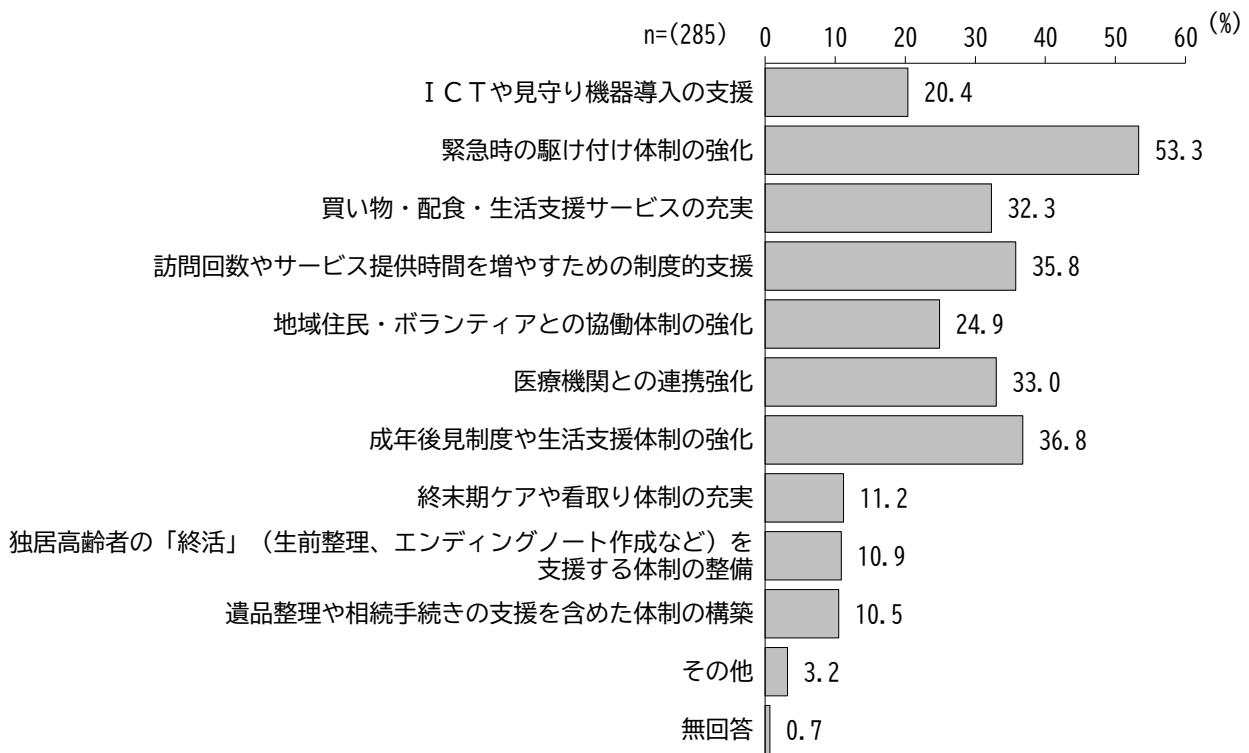
「緊急時（転倒・急変等）の対応」が87.7%と最も多く、以下、「認知症によるリスク（徘徊・火の不始末など）」（65.6%）、「家族・親族等の支援が得られにくい」（60.0%）が6割台と続いています。



(2) 独居高齢者に必要だと思う支援・仕組み

Q2. 独居高齢者への支援を充実させるために、どのような支援・仕組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「緊急時の駆け付け体制の強化」が53.3%と最も多く、以下、「成年後見制度や生活支援体制の強化」(36.8%)、「訪問回数やサービス提供時間を増やすための制度的支援」(35.8%)、「医療機関との連携強化」(33.0%)、「買い物・配食・生活支援サービスの充実」(32.3%)と続いています。

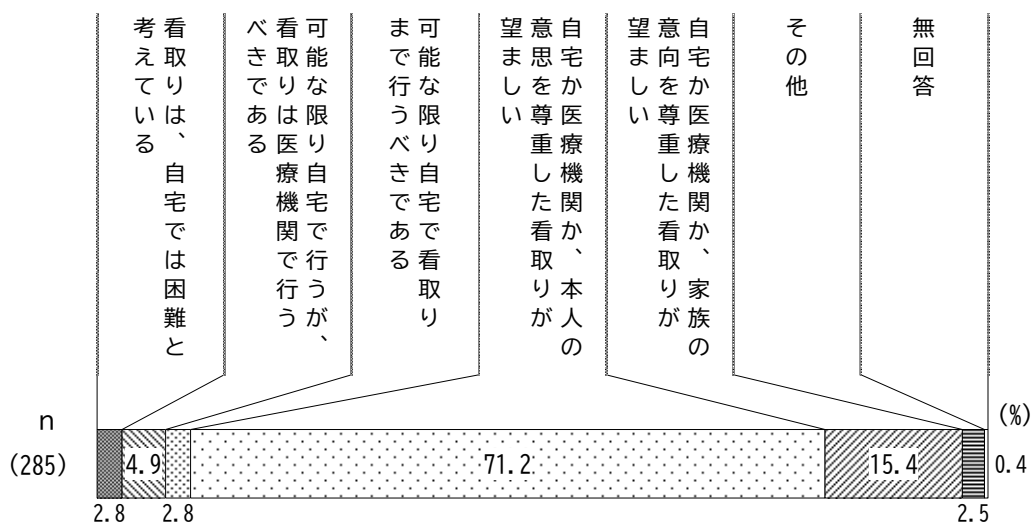


7. 看取り・虐待防止・ハラスメント

(1) 看取りについて最も重視していること

Q1. 看取りについて、貴事業所が最も重視していることは何ですか。(〇は1つ)

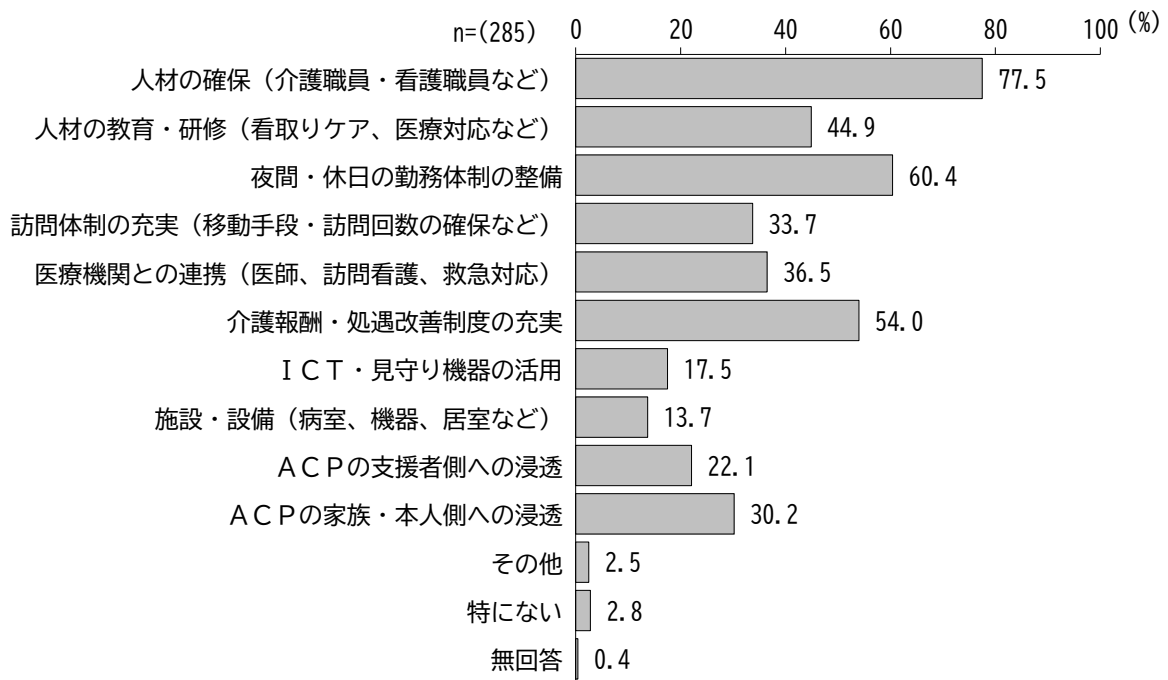
「自宅か医療機関か、本人の意思を尊重した看取りが望ましい」が71.2%を占めており、以下、「自宅か医療機関か、家族の意向を尊重した看取りが望ましい」(15.4%)、「可能な限り自宅で行うが、看取りは医療機関で行うべきである」(4.9%)、「看取りは、自宅では困難と考える」、「可能な限り自宅で行うべきである」(2.8%)と続いています。



(2) 看取りケアを実施するにあたり不足していること

Q2. 24時間・365日の看取りケアを実施するために、現状で不足していると感じることは何ですか。(〇はいくつでも)

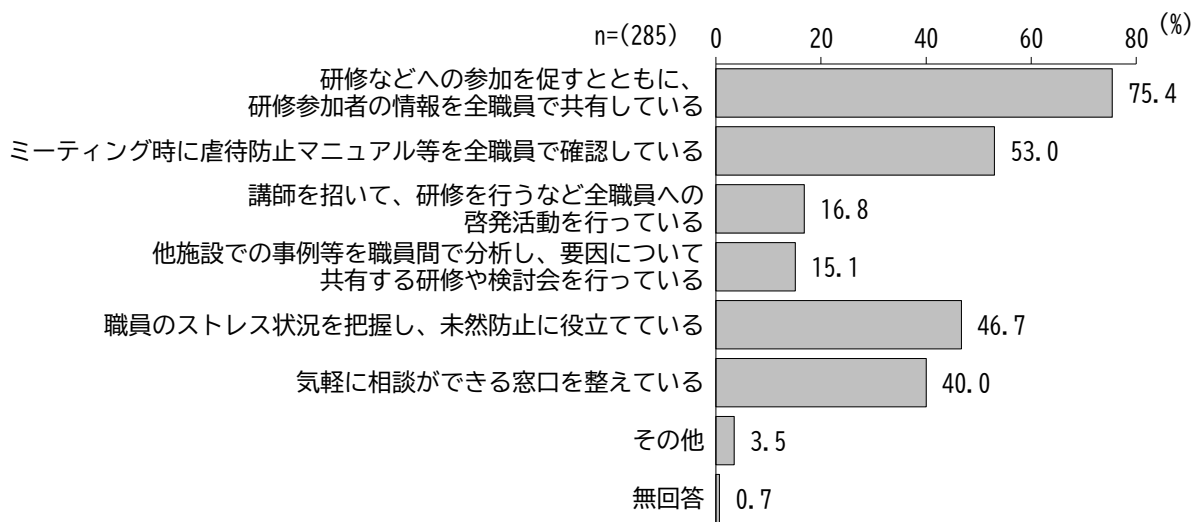
「人材の確保（介護職員・看護職員など）」が77.5%と最も多く、以下、「夜間・休日の勤務体制の整備」（60.4%）、「介護報酬・処遇改善制度の充実」（54.0%）、「人材の教育・研修（看取りケア、医療対応など）」（44.9%）と続いています。



(3) 虐待・ハラスメント防止に向けて行っている工夫

Q3. 職員による利用者への虐待やハラスメントを防止するため、どのような工夫を行っていますか。(〇はいくつでも)

「研修などへの参加を促すとともに、研修参加者の情報を全職員で共有している」が75.4%と特に多く、以下、「ミーティング時に虐待防止マニュアル等を全職員で確認している」(53.0%)、「職員のストレス状況を把握し、未然防止に役立っている」(46.7%)、「気軽に相談ができる窓口を整えている」(40.0%)と続いています。



〈サービス種別／虐待・ハラスメント防止に向けて行っている工夫〉

サービス種別に見ると、「研修などへの参加を促すとともに、研修参加者の情報を全職員で共有している」は居宅介護（84.8%）、「ミーティング時に虐待防止マニュアル等を全職員で確認している」は訪問介護（67.3%）と通所介護（65.4%）、「気軽に相談ができる窓口を整えている」は通所介護（50.0%）で多くなっています。

(%)

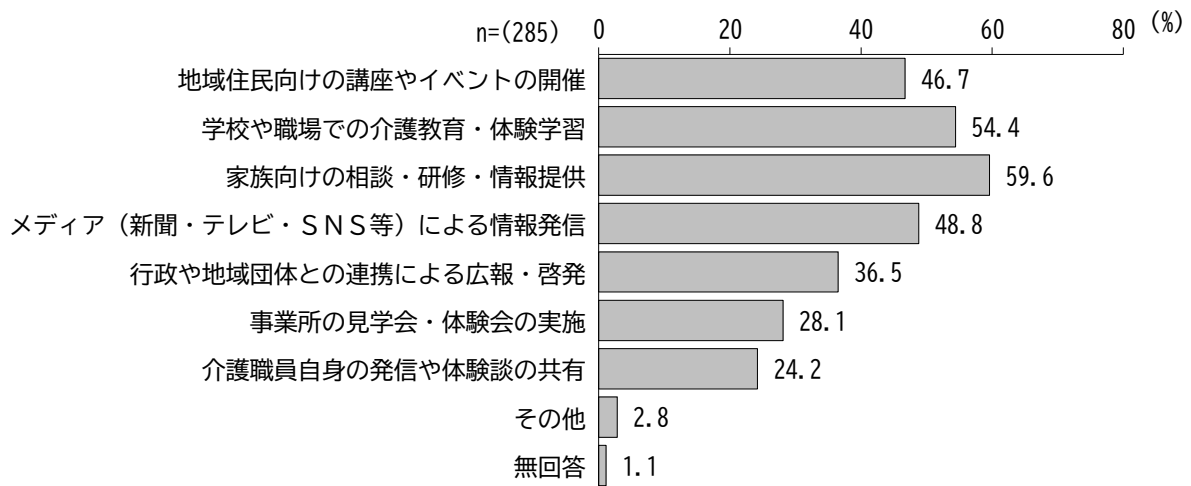
	回答者数	で、研 修な どへ の参 加を 促す とと も 共有 して いる	ミー ティ ング 時に 虐待 防止 マニ ュアル 等を 全職 員で 確認 して いる	全職 員を 招い て、 研修 を行 うな ど いる	分析 や検 討会 を行 って 共有 する	他施 設で の事 例等 を職 員間 で	未職 員の スト レス 状況 を把 握し、 防止 に役 立て てい る	気軽 に相 談が でき る窓 口を 整え てい る	その他	無回答
全体	285	75.4	53.0	16.8	15.1	46.7	40.0	3.5	0.7	
訪問介護	49	69.4	67.3	12.2	16.3	49.0	40.8	4.1	-	
訪問入浴	0	-	-	-	-	-	-	-	-	
訪問看護	19	68.4	52.6	5.3	15.8	47.4	47.4	-	-	
訪問リハ	1	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-	-	
特定福祉用具販売	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
通所介護	26	69.2	65.4	26.9	26.9	46.2	50.0	3.8	-	
通所リハ	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
短期生活	6	83.3	16.7	33.3	16.7	33.3	33.3	16.7	-	
短期療養	0	-	-	-	-	-	-	-	-	
グループホーム	12	100.0	83.3	16.7	16.7	75.0	58.3	-	-	
特定施設	6	100.0	33.3	16.7	50.0	50.0	16.7	-	-	
福祉用具貸与	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
居宅介護	46	84.8	50.0	19.6	8.7	34.8	32.6	8.7	-	
老人福祉	8	100.0	25.0	37.5	50.0	62.5	87.5	25.0	-	
老人保健	0	-	-	-	-	-	-	-	-	
夜間訪問	1	100.0	100.0	-	-	100.0	100.0	-	-	
認知症通所	8	100.0	50.0	50.0	25.0	25.0	12.5	-	-	
小規模多機能	2	100.0	-	-	-	100.0	50.0	-	-	
地密介護福祉	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	
定期巡回	2	100.0	100.0	-	50.0	100.0	100.0	-	-	
看護小規模	1	100.0	100.0	-	-	100.0	100.0	-	-	
地密通所	24	70.8	54.2	8.3	8.3	33.3	25.0	-	4.2	
その他	59	66.1	42.4	11.9	5.1	44.1	35.6	-	-	

(4) 介護への理解を促進するために効果的だと思う取組み

Q4. 介護への理解を促進するために、効果的だと思う取組みは何ですか。

(○はいくつでも)

「家族向けの相談・研修・情報提供」(59.6%)と「学校や職場での介護教育・体験学習」(54.4%)が半数を超えており、以下、「メディア(新聞・テレビ・SNS等)による情報発信」(48.8%)、「地域住民向けの講座やイベントの開催」(46.7%)と続いています。



〈サービス種別／介護への理解を促進するために効果的だと思う取組み〉

サービス種別に見ると、「家族向けの相談・研修・情報提供」は訪問介護（61.2%）と居宅介護（60.9%）、「学校や職場での介護教育・体験学習」は居宅介護（65.2%）で多くなっています。

(%)

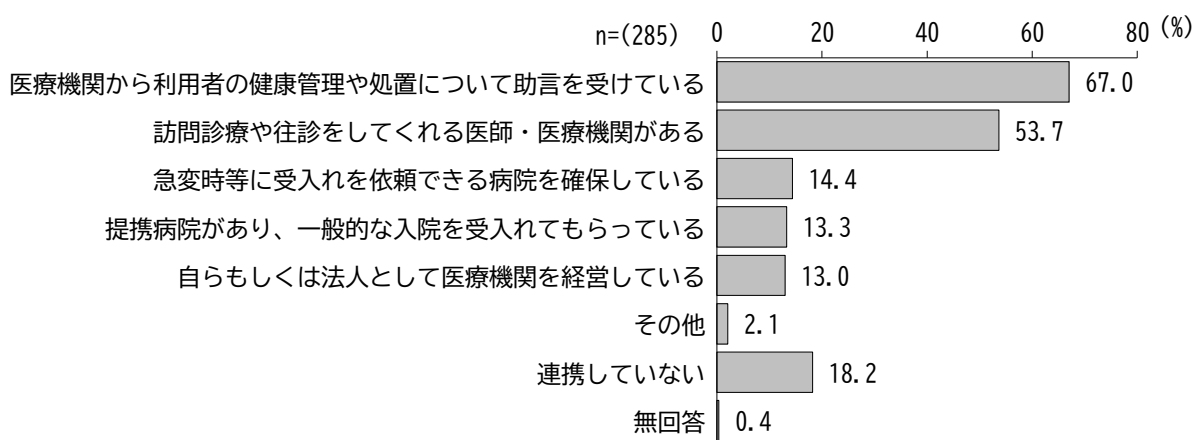
	回答者数	地域住民向けの講座 やイベントの開催	学校や職場での介護 教育・体験学習	家族向けの相談・ 研修・情報提供	メディア（新聞・ テレビ・SNS等） による情報発信	行政や地域団体との 連携による広報・啓発	事業所の見学会・体験 の実施	介護職員自身の発信や 体験談の共有	その他	無回答
全体	285	46.7	54.4	59.6	48.8	36.5	28.1	24.2	2.8	1.1
訪問介護	49	44.9	59.2	61.2	57.1	40.8	12.2	18.4	2.0	2.0
訪問入浴	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
訪問看護	19	52.6	42.1	89.5	31.6	31.6	5.3	31.6	-	-
訪問リハ	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-
特定福祉用具販売	1	-	-	100.0	-	100.0	-	-	100.0	-
通所介護	26	26.9	50.0	46.2	34.6	42.3	50.0	23.1	3.8	-
通所リハ	1	100.0	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-
短期生活	6	50.0	66.7	50.0	50.0	33.3	66.7	33.3	-	-
短期療養	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
グループホーム	12	75.0	66.7	58.3	58.3	66.7	25.0	16.7	-	-
特定施設	6	33.3	16.7	66.7	66.7	33.3	33.3	16.7	-	-
福祉用具貸与	1	-	100.0	-	-	100.0	-	-	100.0	-
居宅介護	46	54.3	65.2	60.9	63.0	37.0	28.3	34.8	6.5	2.2
老人福祉	8	62.5	75.0	75.0	50.0	37.5	62.5	25.0	-	-
老人保健	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
夜間訪問	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
認知症通所	8	37.5	62.5	62.5	12.5	12.5	62.5	37.5	-	-
小規模多機能	2	50.0	50.0	50.0	50.0	100.0	50.0	-	-	-
地密介護福祉	1	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-
定期巡回	2	100.0	50.0	100.0	-	-	50.0	-	-	-
看護小規模	1	100.0	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-
地密通所	24	33.3	33.3	37.5	37.5	37.5	37.5	20.8	-	-
その他	59	45.8	59.3	57.6	52.5	25.4	15.3	22.0	1.7	-

8. 連携状況

(1) 医療機関との連携状況

Q1. 医療機関との連携について、貴事業所が取り組んでいることはありますか。
(〇はいくつでも)

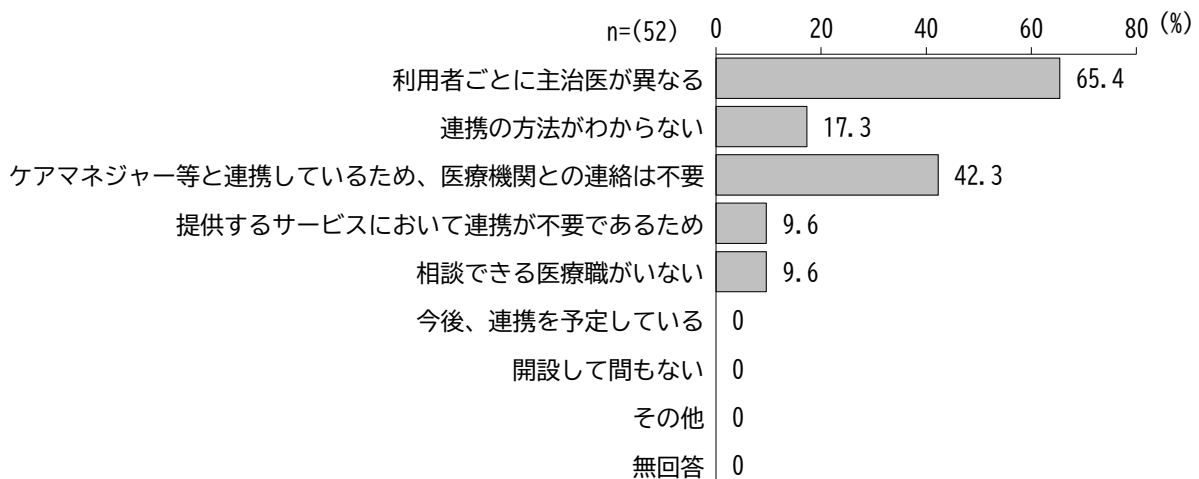
「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」が67.0%と最も多く、以下、「訪問診療や往診をしてくれる医師・医療機関がある」(53.7%)と続いています。一方、「連携していない」は18.2%となっています。



(2) 医療機関と連携しない理由

【Q1で「7」と答えた方に伺います】
Q2. 医療機関と連携していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

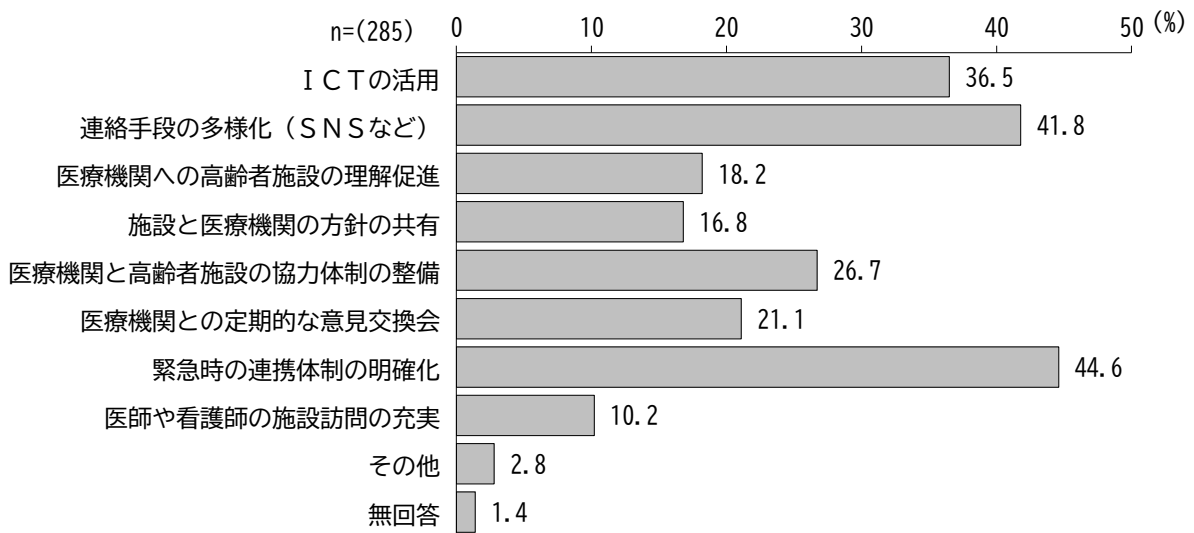
「利用者ごとに主治医が異なる」が65.4%と最も多く、以下、「ケアマネジャー等と連携しているため、医療機関との連絡は不要」(42.3%)、「連携の方法がわからない」(17.3%)と続いています。



(3) 医療機関との連携のために必要な支援や手段

Q3. どのような支援や手段があれば医療機関との連携が充実できると思いますか。
(〇は3つまで)

「緊急時の連携体制の明確化」が44.6%と最も多く、以下、「連絡手段の多様化（SNSなど）」（41.8%）、「ICTの活用」（36.5%）、「医療機関と高齢者施設の協力体制の整備」（26.7%）と続いています。

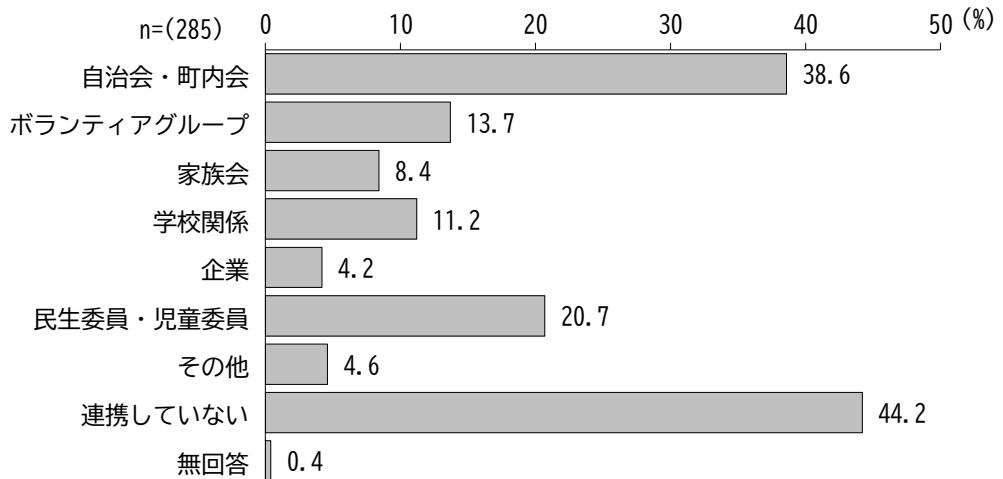


(4) 地域組織との連携状況

Q4. 地域のどのような組織と連携をとっていますか。(〇はいくつでも)

全体から「連携していない」（44.2%）と無回答（0.4%）を除いた55.4%が地域組織と連携しています。

「自治会・町内会」が38.6%と最も多く、次いで「民生委員・児童委員」（20.7%）となっています。

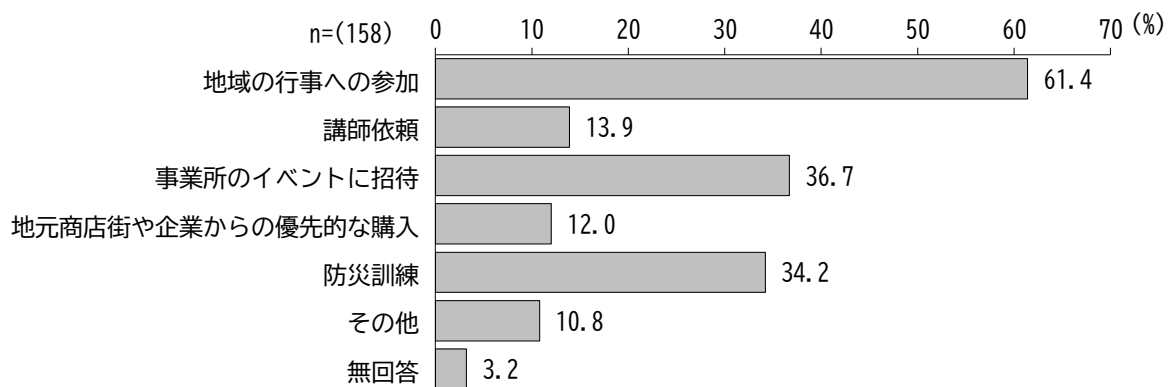


(5) 地域と連携している内容

【Q4で「1～7」と答えた事業所に伺います】

Q5. 地域ではどのような内容で連携していますか。(〇はいくつでも)

「地域の行事への参加」が61.4%と最も多く、以下、「事業所のイベントに招待」(36.7%)、「防災訓練」(34.2%)と続いています。



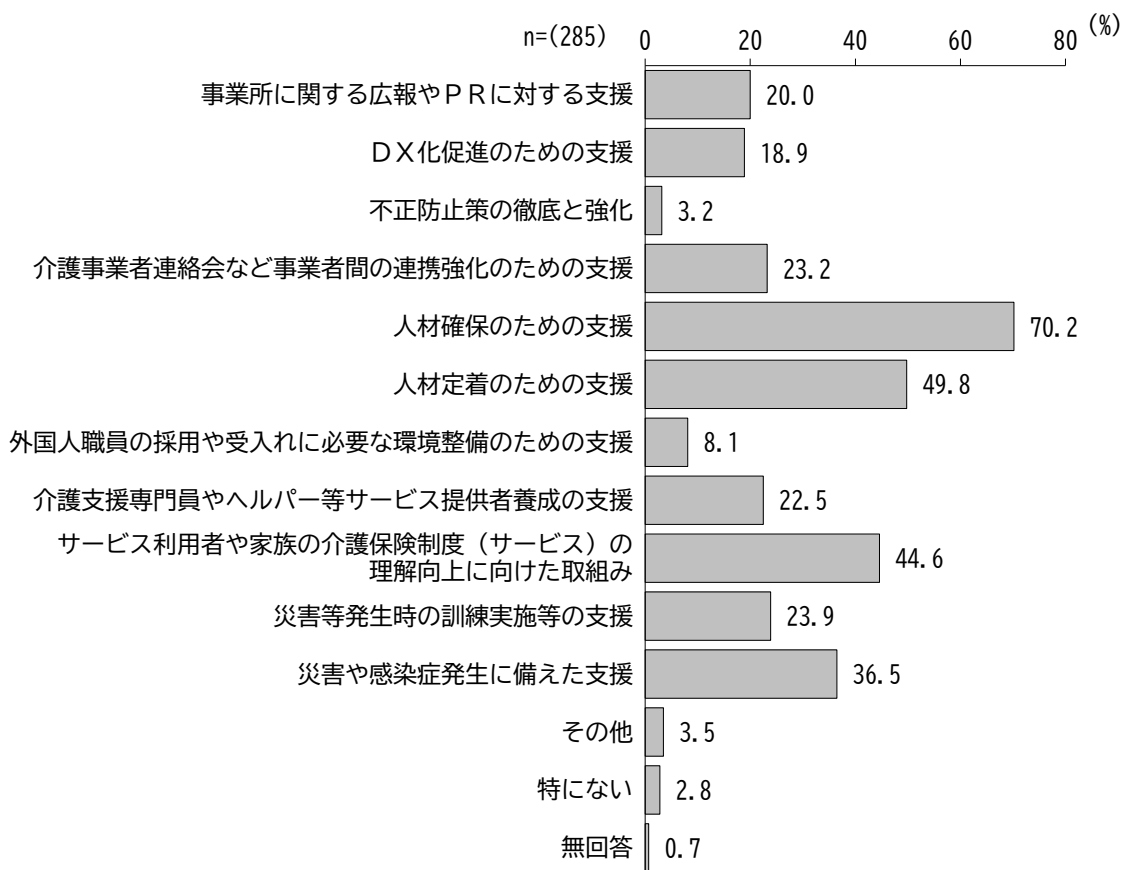
9. 区に対する要望

(1) 事業運営する上で必要な支援

Q1. 事業を運営する上で、区からの支援が必要だと感じることはありますか。

(〇は5つまで)

「人材確保のための支援」が70.2%と特に多く、以下、「人材定着のための支援」(49.8%)、「サービス利用者や家族の介護保険制度(サービス)の理解向上に向けた取組み」(44.6%)、「災害や感染症発生に備えた支援」(36.5%)と続いています。



第5章 介護サービス事業者調査の結果

〈サービス種別／事業運営する上で必要な支援〉

サービス種別に見ると、「人材確保のための支援」は訪問介護（79.6%）と通所介護（76.9%）、「人材定着のための支援」は訪問介護（61.2%）、「サービス利用者や家族の介護保険制度（サービス）の理解向上に向けた取組み」は居宅介護（65.2%）で多くなっています。

	回答者数	や事業所に関する広報	支援の促進のため	不正防止策の徹底と	強化の事業者連絡会	人材確保のため	人材定着のため	外国人職員の採用環境	介護支援専門員やヘルパー等サービスの提供	向上に向けた取組み	サービス利用者や家族の理解
全体	285	20.0	18.9	3.2	23.2	70.2	49.8	8.1	22.5	44.6	
訪問介護	49	10.2	8.2	6.1	22.4	79.6	61.2	6.1	26.5	49.0	
訪問入浴	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
訪問看護	19	10.5	31.6	-	10.5	63.2	68.4	-	15.8	31.6	
訪問リハ	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	
特定福祉用具販売	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
通所介護	26	19.2	7.7	-	19.2	76.9	57.7	7.7	26.9	34.6	
通所リハ	1	-	-	-	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-
短期生活	6	16.7	50.0	-	16.7	83.3	50.0	-	33.3	50.0	
短期療養	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
グループホーム	12	50.0	25.0	-	25.0	100.0	58.3	16.7	8.3	25.0	
特定施設	6	33.3	16.7	-	16.7	83.3	33.3	33.3	16.7	-	
福祉用具貸与	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
居宅介護	46	6.5	21.7	2.2	39.1	63.0	43.5	2.2	26.1	65.2	
老人福祉	8	25.0	25.0	-	-	100.0	75.0	25.0	50.0	37.5	
老人保健	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
夜間訪問	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
認知症通所	8	25.0	-	12.5	-	62.5	50.0	12.5	-	12.5	
小規模多機能	2	-	100.0	-	-	100.0	50.0	-	-	100.0	
地密介護福祉	1	100.0	-	-	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0	
定期巡回	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
看護小規模	1	-	100.0	-	100.0	100.0	-	-	-	-	
地密通所	24	41.7	4.2	4.2	12.5	62.5	37.5	12.5	16.7	33.3	
その他	59	20.3	27.1	3.4	28.8	69.5	44.1	8.5	20.3	54.2	

	回答者数	災害等発生時の訓練	備えられた支援	その他	特にな	無回答
全体	285	23.9	36.5	3.5	2.8	0.7
訪問介護	49	18.4	36.7	2.0	2.0	-
訪問入浴	0	-	-	-	-	-
訪問看護	19	36.8	47.4	-	5.3	-
訪問リハ	1	100.0	100.0	-	-	-
特定福祉用具販売	1	-	-	-	100.0	-
通所介護	26	30.8	30.8	7.7	3.8	-
通所リハ	1	100.0	100.0	-	-	-
短期生活	6	-	33.3	-	-	-
短期療養	0	-	-	-	-	-
グループホーム	12	50.0	41.7	-	-	-
特定施設	6	16.7	66.7	-	-	-
福祉用具貸与	1	-	-	-	100.0	-
居宅介護	46	28.3	43.5	6.5	2.2	2.2
老人福祉	8	25.0	37.5	-	-	-
老人保健	0	-	-	-	-	-
夜間訪問	1	100.0	100.0	-	-	-
認知症通所	8	25.0	12.5	-	25.0	-
小規模多機能	2	-	-	-	-	-
地密介護福祉	1	-	-	-	-	-
定期巡回	2	-	-	50.0	-	-
看護小規模	1	100.0	100.0	-	-	-
地密通所	24	20.8	41.7	4.2	-	-
その他	59	11.9	30.5	3.4	-	-

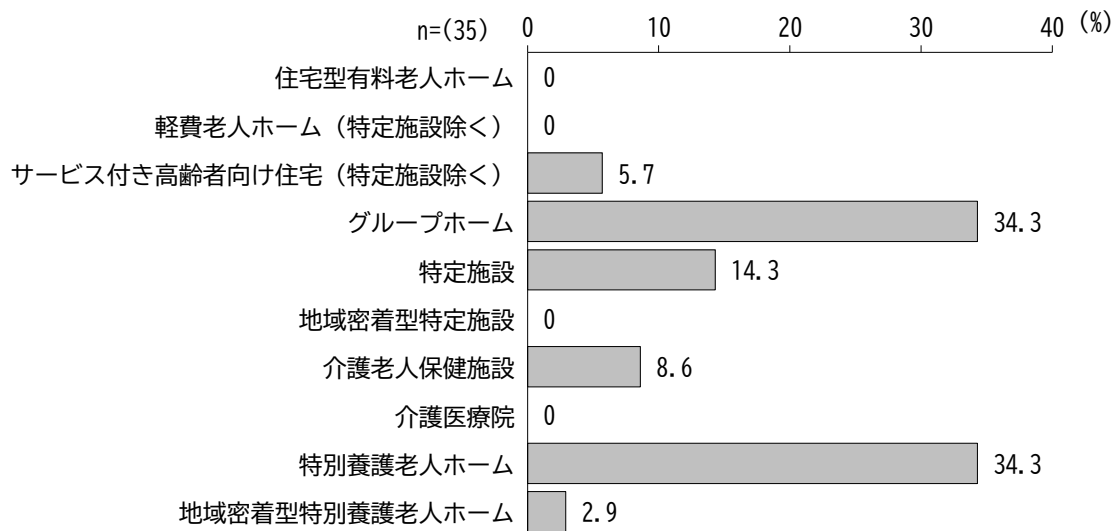
10. 居所変更実態調査

(1) サービス種別

【問10は、住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホーム、グループホーム、(地域密着型) 特定施設、介護老人保健施設、介護医療院、(地域密着型) 特別養護老人ホームの方がお答えください。】

Q1. 該当するサービス種別を、ご回答ください。(○は1つ)

本調査(居所変更実態調査)の回答事業所は35事業所であり、「グループホーム」と「特別養護老人ホーム」が34.3%で最も多く、以下、「特定施設」(14.3%)、「介護老人保健施設」(8.6%)、「サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)」(5.7%)、「地域密着型特別養護老人ホーム」(2.9%)と続いています。



(2) 施設概要

Q2. 貴施設等の概要について、以下にご記入ください。

※「②定員数など」は、サービス付き高齢者向け住宅の場合は「住宅戸数」、住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームの場合は「居室数」、その他の施設等の場合は「定員数」をご回答ください。

※④と⑤は、該当者がいない場合は「0」を、不明の場合は「-」を記載してください。

※⑤は特養・地域密着型特養は回答不要です。

〈入所・入居者数〉

各施設等の入所・入居者数は、「介護老人保健施設」で平均95.7人と最も多く、次いで「特別養護老人ホーム」で平均68.3人、「サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）」で平均68.0人となっています。

	回答者数 (事業所)	合計 (人)	平均 (人)
サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	2	136	68.0
グループホーム	12	231	19.3
特定施設	5	286	57.2
介護老人保健施設	3	287	95.7
特別養護老人ホーム	12	820	68.3
地域密着型特別養護老人ホーム	1	24	24.0

〈待機者数〉

自施設等の待機者数は、「特別養護老人ホーム」で平均67.5人と特に多くなっています。

	回答者数 (事業所)	合計 (人)	平均 (人)
サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	2	0	0.0
グループホーム	12	16	1.3
特定施設	5	2	0.4
介護老人保健施設	3	8	2.7
特別養護老人ホーム	12	810	67.5
地域密着型特別養護老人ホーム	1	0	0.0

〈特別養護老人ホームの待機者数（申込み者数）〉

特別養護老人ホーム以外の施設等における、特別養護老人ホームの待機者数は、「介護老人保健施設」で40.7人と最も多くなっています。

	回答者数 (事業所)	合計 (人)	平均 (人)
サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	2	0	0.0
グループホーム	12	12	1.0
特定施設	5	1	0.2
介護老人保健施設	3	122	40.7
特別養護老人ホーム	12	-	-
地域密着型特別養護老人ホーム	1	-	-

(3) 要介護度別入所・入居者数

Q3. 貴施設等の概要について、以下にご記入ください。(数値を記入)

要介護3～5の重度者の人数が多いのは、順に“特別養護老人ホーム”、“介護老人保健施設”、“特定施設”となっています。

	回答者数 (事業所)	(人)								
		自立	支1	支2	介1	介2	介3	介4	介5	申請中・不明
サービス付き高齢者向け住宅 (特定施設除く)	2	0	2	2	28	28	38	30	6	0
グループホーム	12	0	0	1	57	50	59	40	24	1
特定施設	5	7	18	11	52	55	44	67	31	0
介護老人保健施設	3	0	0	0	39	61	79	71	36	0
特別養護老人ホーム	12	0	0	0	16	44	217	352	173	0
地域密着型特別養護老人ホーム	1	0	0	0	0	1	3	16	4	0

第5章 介護サービス事業者調査の結果

(4) 医療処置の受け入れ状況

Q4. 貴施設等で、以下の医療処置が必要な利用者の受け入れは可能ですか。

(○はいくつでも)

※1人でも受け入れが可能であれば、○をつけてください。

各施設等で受け入れ可能な医療処置の種類をみると、全体では「褥瘡の処置」が最も多く、次いで「ストーマの処置」、「酸素療法」となっています。また、“特定施設”と“介護老人保健施設”では「経管栄養」、「褥瘡の処置」や「インスリン注射」が多くなっています。

(上段：人、下段：%)

	回答者数 (事業所)	点滴の 管理	中心静脈 栄養	透析	ストーマの 処置	酸素療法	レスピレーター	気管切開 の処置	疼痛の 看護
サービス付き高齢者向け住宅 (特定施設除く)	2	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%
グループホーム	12	1 8.3%	0 0.0%	2 16.7%	3 25.0%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%
特定施設	5	4 80.0%	0 0.0%	3 60.0%	4 80.0%	5 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 60.0%
介護老人保健施設	3	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
特別養護老人ホーム	12	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	12 100.0%	9 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%
地域密着型特別養護老人ホーム	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
合計	35	6 17.1%	0 0.0%	8 22.9%	24 68.6%	20 57.1%	0 0.0%	0 0.0%	8 22.9%

(上段：人、下段：%)

	回答者数 (事業所)	経管栄養	モニター測定	褥瘡の 処置	カテーテル	喀痰吸引	インスリン 注射	対応可能 な医療処 置はない
サービス付き高齢者向け住宅 (特定施設除く)	2	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%
グループホーム	12	0 0.0%	0 0.0%	5 41.7%	3 25.0%	1 8.3%	2 16.7%	3 25.0%
特定施設	5	5 100.0%	0 0.0%	5 100.0%	3 60.0%	4 80.0%	5 100.0%	0 0.0%
介護老人保健施設	3	3 100.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	2 66.7%	3 100.0%	0 0.0%
特別養護老人ホーム	12	8 66.7%	0 0.0%	10 83.3%	7 58.3%	5 41.7%	4 33.3%	0 0.0%
地域密着型特別養護老人ホーム	1	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
合計	35	17 48.6%	0 0.0%	25 71.4%	14 40.0%	13 37.1%	16 45.7%	4 11.4%

(5) 医療処置を受けている人数

Q5. 現在、Q4の医療処置を受けている入所・入居者の合計人数をご回答ください。
(数値を記入)

医療処置を受けている入所・入居者数の割合を見ると、「介護老人保健施設」が14.3%と最も多く、次いで「グループホーム」で13.0%、「特定施設」で12.9%となっています。

	回答者数 (事業所)	医療処置を受けている 入所・入居者数
サービス付き高齢者向け住宅 (特定施設除く)	2	1人
		0.7%
グループホーム	12	30人
		13.0%
特定施設	5	37人
		12.9%
介護老人保健施設	3	41人
		14.3%
特別養護老人ホーム	12	68人
		8.3%
地域密着型特別養護老人ホーム	1	2人
		8.3%
合計	35	179人
		10.0%

第5章 介護サービス事業者調査の結果

(6) 令和6年度中の新規入所・入居者数

Q6. 令和6年度中（令和6年4月1日～令和7年3月31日）に、貴施設等に新規で入所・入居した人の人数をご記入ください。（数値を記入）

※貴施設等に入所・入居している方で、一時的な入院等で貴施設等に戻った方は含めないでください。

「介護老人保健施設」で平均132.0人と最も多く、次いで「特別養護老人ホーム」で平均30.3人となっています。

	回答者数 (事業所)	合計 (人)	平均 (人)
サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	2	32	16.0
グループホーム	12	63	5.3
特定施設	5	73	14.6
介護老人保健施設	3	396	132.0
特別養護老人ホーム	12	364	30.3
地域密着型特別養護老人ホーム	1	10	10.0

(7) 新規入所・入居者における、入所・入居前の居場所別人数

Q7. Q6の令和6年度中（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の新規の入所・入居者について、入所・入居する前の居場所別の人数をご記入ください。（各項目、区内、区外、それぞれ数値を記入）

※Q6（1つ前の設問）の「合計★」と、Q7（本設問）の「全項目の合計★」が一致することをご確認ください。

※一時的な入院の後に貴施設等に入所・入居した場合は入院前の居場所をご記入ください。入院前の居場所がわからない場合は、「⑫病院・診療所」を選択してください。

※「①自宅」に、ショートステイの長期利用者の入所・入居も含まれます。

施設等別に見た結果は、以降の図表のとおりです。

〈サービス付き高齢者向け住宅〉

〈グループホーム〉

入居前	区内	区外	合計
自宅	4人	16人	20人
	12.5%	50.0%	62.5%
住宅型有料老人ホーム	0人	2人	2人
	0.0%	6.3%	6.3%
軽費老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
サービス付き高齢者向け住宅	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
グループホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護医療院	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特別養護老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型特別養護老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
病院・診療所	4人	6人	10人
	12.5%	18.8%	31.3%
その他	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
把握していない			0人
			0.0%
合計	8人	24人	32人
	25.0%	75.0%	100.0%

入居前	区内	区外	合計
自宅	45人	1人	46人
	71.4%	1.6%	73.0%
住宅型有料老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
軽費老人ホーム	3人	0人	3人
	4.8%	0.0%	4.8%
サービス付き高齢者向け住宅	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
グループホーム	1人	0人	1人
	1.6%	0.0%	1.6%
特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	1人	0人	1人
	1.6%	0.0%	1.6%
介護医療院	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特別養護老人ホーム	1人	0人	1人
	0.0%	0.0%	1.6%
地域密着型特別養護老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
病院・診療所	9人	2人	11人
	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
把握していない			0人
			0.0%
合計	60人	3人	63人
	95.2%	4.8%	100.0%

第5章 介護サービス事業者調査の結果

〈特定施設〉

入居前	区内	区外	合計
自宅	14人	19人	33人
	19.2%	26.0%	45.2%
住宅型有料 老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
軽費老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
サービス付き 高齢者向け住宅	2人	0人	2人
	2.7%	0.0%	2.7%
グループホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特定施設	1人	2人	3人
	1.4%	2.7%	4.1%
地域密着型特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	2人	0人	2人
	2.7%	0.0%	2.7%
介護医療院	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特別養護 老人ホーム	1人	0人	1人
	1.4%	0.0%	1.4%
地域密着型 特別養護老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
病院・診療所	9人	5人	14人
	12.3%	6.8%	19.2%
その他	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
把握していない			18人
			24.7%
合計	29人	26人	73人
	39.7%	35.6%	100.0%

〈介護老人保健施設〉

入居前	区内	区外	合計
自宅	85人	27人	112人
	21.4%	6.8%	28.2%
住宅型有料 老人ホーム	0人	2人	2人
	0.0%	0.5%	0.5%
軽費老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
サービス付き 高齢者向け住宅	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
グループホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	9人	1人	10人
	2.3%	0.3%	2.5%
介護医療院	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特別養護 老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型 特別養護老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
病院・診療所	227人	46人	273人
	57.2%	11.6%	68.8%
その他	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
把握していない			0人
			0.0%
合計	321人	76人	397人
	80.9%	19.1%	100.0%

〈特別養護老人ホーム〉

入居前	区内	区外	合計
自宅	118人	0人	118人
	32.4%	0.0%	32.4%
住宅型有料 老人ホーム	19人	6人	25人
	5.2%	1.6%	6.9%
軽費老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
サービス付き 高齢者向け住宅	1人	2人	3人
	0.3%	0.5%	0.8%
グループホーム	13人	1人	14人
	3.6%	0.3%	3.8%
特定施設	3人	0人	3人
	0.8%	0.0%	0.8%
地域密着型特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	135人	8人	143人
	37.1%	2.2%	39.3%
介護医療院	2人	0人	2人
	0.5%	0.0%	0.5%
特別養護 老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型 特別養護老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
病院・診療所	41人	7人	48人
	11.3%	1.9%	13.2%
その他	4人	0人	4人
	1.1%	0.0%	1.1%
把握していない			4人
			1.1%
合計	336人	24人	364人
	92.3%	6.6%	100.0%

〈地域密着型特別養護老人ホーム〉

入居前	区内	区外	合計
自宅	6人	0人	6人
	60.00%	0.00%	60.00%
住宅型有料 老人ホーム	0人	0人	0人
	0.00%	0.00%	0.00%
軽費老人ホーム	0人	0人	0人
	0.00%	0.00%	0.00%
サービス付き 高齢者向け住宅	0人	0人	0人
	0.00%	0.00%	0.00%
グループホーム	1人	0人	1人
	10.00%	0.00%	10.00%
特定施設	1人	0人	1人
	10.00%	0.00%	10.00%
地域密着型特定施設	0人	0人	0人
	0.00%	0.00%	0.00%
介護老人保健施設	1人	0人	1人
	10.00%	0.00%	10.00%
介護医療院	0人	0人	0人
	0.00%	0.00%	0.00%
特別養護 老人ホーム	0人	0人	0人
	0.00%	0.00%	0.00%
地域密着型 特別養護老人ホーム	0人	0人	0人
	0.00%	0.00%	0.00%
病院・診療所	1人	0人	1人
	10.00%	0.00%	10.00%
その他	0人	0人	0人
	1.1%	0.0%	1.1%
把握していない			0人
			0.0%
合計	10人	0人	10人
	100.0%	0.0%	100.0%

(8) 令和6年度中の退去人数

Q8. 令和6年度中（令和6年4月1日～令和7年3月31日）に、貴施設等を退去した人の人数をご記入ください。（数値を記入）

※一時的な入院等から貴施設等に戻った方、現在一時的に入院中の方（貴施設等との契約が継続している方）は含めないでください。

※「死亡」には、「貴施設等で亡くなられた方」に加え、「病院等への搬送後に死亡された方」も含まれます。

「介護老人保健施設」で平均134.3人と最も多く、次いで「特別養護老人ホーム」で平均27.4人となっています。

	回答者数 (事業所)	合計 (人)	平均 (人)
サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	2	36	18.0
グループホーム	12	59	4.9
特定施設	5	82	16.4
介護老人保健施設	3	403	134.3
特別養護老人ホーム	12	329	27.4
地域密着型特別養護老人ホーム	1	13	13.0

(9) 退去者の要介護度別人数

Q9. Q8の令和6年度中（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の退去者について、要介護度別の人数をご記入ください。

※死亡した人については、「①退去者」欄ではなく、「②貴施設等での死亡」欄にその人数をご記入ください。

※病院等への搬送後に死亡した場合、搬送先で死亡したケースは「②貴施設等での死亡」、搬送先からの転院等の後に死亡した場合は「①退去者」に含めてください。

※「合計■」と、Q8の「退去者数（合計■）」が一致することをご確認ください。

「サービス付き高齢者向け住宅」では「要介護5」の割合が最も多く、「グループホーム」では「要介護3」、「特定施設」と「特別養護老人ホーム」では「要介護4」（死亡を除く）、「介護老人保健施設」では「要介護4」、「地域密着型特別養護老人ホーム」では「要介護5」（死亡を除く）の割合が最も多くなっています。

	回答者数 (事業所)	自立	支1	支2	介1	介2	介3	介4	介5	死亡	申請中・ 不明
サービス付き高齢者向け住宅 (特定施設除く)	2	0人	4人	2人	6人	4人	4人	6人	8人	6人	1人
		0.0%	9.8%	4.9%	14.6%	9.8%	9.8%	14.6%	19.5%	14.6%	2.4%
グループホーム	12	0人	0人	0人	3人	9人	24人	16人	6人	14人	0人
		0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	12.5%	33.3%	22.2%	8.3%	19.4%	0.0%
特定施設	5	0人	0人	0人	4人	3人	9人	16人	11人	39人	0人
		0.0%	0.0%	0.0%	4.9%	3.7%	11.0%	19.5%	13.4%	47.6%	0.0%
介護老人保健施設	3	0人	2人	0人	44人	58人	92人	129人	54人	24人	0人
		0.0%	0.5%	0.0%	10.9%	14.4%	22.8%	32.0%	13.4%	6.0%	0.0%
特別養護老人ホーム	12	0人	0人	0人	4人	4人	25人	57人	48人	236人	0人
		0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	1.1%	6.7%	15.2%	12.8%	63.1%	0.0%
地域密着型特別養護老人ホーム	1	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	3人	8人	0人
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	23.1%	61.5%

第5章 介護サービス事業者調査の結果

(10) 退去者別の人数

Q10. Q8でご記入いただいた令和6年度中（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の退去者について、退去先別の人数をご記入ください。（各項目、区内、区外、それぞれ数値を記入）

※一時的に入院して貴施設等以外の居場所に移った場合は、退院後の居場所をご記入ください。

※搬送先から転院等の後に死亡した場合は、死亡ではなく「居所変更」として、該当する行先にカウントしてください。

※合計（■）と、Q8（2つ前の設問）・Q9（1つ前の設問）の各合計（■）が一致することをご確認ください。

施設等別に見た結果は、以降の図表のとおりです。

〈サービス付き高齢者向け住宅〉

〈グループホーム〉

変更後	区内	区外	合計
自宅	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
住宅型有料老人ホーム	1人	0人	1人
	3.4%	0.0%	3.4%
軽費老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
サービス付き高齢者向け住宅	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
グループホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護医療院	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特別養護老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型特別養護老人ホーム	2人	0人	2人
	6.9%	0.0%	6.9%
病院・診療所	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
その他	13人	0人	13人
	44.8%	0.0%	44.8%
把握していない			13人
			44.8%
合計	16人	0人	29人
	55.2%	0.0%	100.0%

変更後	区内	区外	合計
自宅	1人	0人	1人
	2.3%	0.0%	2.3%
住宅型有料老人ホーム	1人	1人	2人
	2.3%	2.3%	4.5%
軽費老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
サービス付き高齢者向け住宅	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
グループホーム	5人	0人	5人
	11.4%	0.0%	11.4%
特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護医療院	1人	1人	2人
	2.3%	2.3%	4.5%
特別養護老人ホーム	22人	1人	23人
	50.0%	2.3%	52.3%
地域密着型特別養護老人ホーム	10人	0人	10人
	22.7%	0.0%	22.7%
病院・診療所	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0人	1人	1人
	0.0%	2.3%	2.3%
把握していない			0人
			0.0%
合計	40人	4人	44人
	90.9%	9.1%	100.0%

〈特定施設〉

変更後	区内	区外	合計
自宅	2人	0人	2人
	8.3%	0.0%	8.3%
住宅型有料 老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
軽費老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
サービス付き 高齢者向け住宅	1人	0人	1人
	4.2%	0.0%	4.2%
グループホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特定施設	4人	2人	6人
	16.7%	8.3%	25.0%
地域密着型特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護医療院	0人	1人	1人
	0.0%	4.2%	4.2%
特別養護 老人ホーム	3人	1人	4人
	12.5%	4.2%	16.7%
地域密着型 特別養護老人ホーム	7人	2人	9人
	29.2%	8.3%	37.5%
病院・診療所	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0人	1人	1人
	0.0%	4.2%	4.2%
把握していない			0人
			0.0%
合計	17人	7人	24人
	70.8%	29.2%	100.0%

〈介護老人保健施設〉

変更後	区内	区外	合計
自宅	85人	13人	98人
	22.4%	3.4%	25.9%
住宅型有料 老人ホーム	14人	2人	16人
	3.7%	0.5%	4.2%
軽費老人ホーム	1人	0人	1人
	0.3%	0.0%	0.3%
サービス付き 高齢者向け住宅	8人	2人	10人
	2.1%	0.5%	2.6%
グループホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	8人	0人	8人
	2.1%	0.0%	2.1%
介護医療院	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特別養護 老人ホーム	112人	16人	128人
	29.6%	4.2%	33.8%
地域密着型 特別養護老人ホーム	104人	14人	118人
	27.4%	3.7%	31.1%
病院・診療所	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
把握していない			0人
			0.0%
合計	332人	47人	379人
	87.6%	12.4%	100.0%

第5章 介護サービス事業者調査の結果

〈特別養護老人ホーム〉

変更後	区内	区外	合計
自宅	2人	0人	2人
	2.1%	0.0%	2.1%
住宅型有料 老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
軽費老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
サービス付き 高齢者向け住宅	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
グループホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	2人	0人	2人
	2.1%	0.0%	2.1%
介護医療院	9人	0人	9人
	9.6%	0.0%	9.6%
特別養護 老人ホーム	65人	3人	68人
	69.1%	3.2%	72.3%
地域密着型 特別養護老人ホーム	10人	2人	12人
	10.6%	2.1%	12.8%
病院・診療所	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
その他	1人	0人	1人
	1.1%	0.0%	1.1%
把握していない			0人
			0.0%
合計	89人	5人	94人
	94.7%	5.3%	100.0%

〈地域密着型特別養護老人ホーム〉

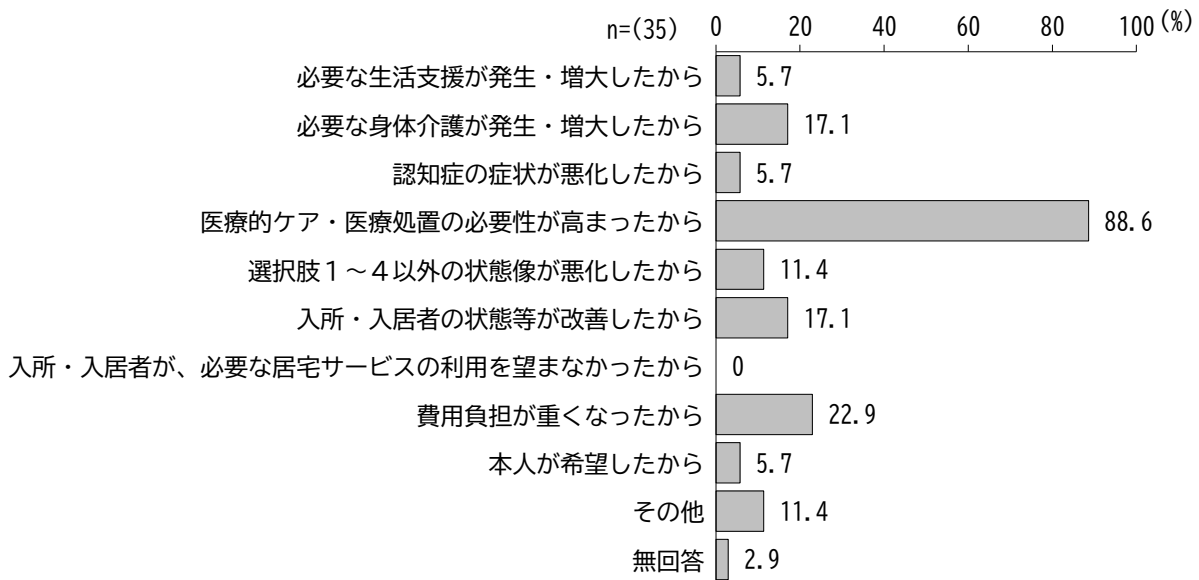
変更後	区内	区外	合計
自宅	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
住宅型有料 老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
軽費老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
サービス付き 高齢者向け住宅	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
グループホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護医療院	1人	0人	1人
	20.0%	0.0%	20.0%
特別養護 老人ホーム	4人	0人	4人
	80.0%	0.0%	80.0%
地域密着型 特別養護老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
病院・診療所	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
把握していない			0人
			0.0%
合計	5人	0人	5人
	100.0%	0.0%	100.0%

(11) 退去理由

Q11. 貴施設等の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。最も多いものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

※死亡した方は除き、退去者についてお答えください。

「医療的ケア・医療処置の必要性の高まったから」が88.6%で特に多く、次いで「費用負担が重くなったから」(22.9%)となっています。



(12) 退去するケース

Q12. 貴事業所で入居・入所者が退去するのはどのような場合が多いですか。よくあるケースについてお答えください。(自由記述)

30事業所から回答が得られた。

■主な意見の概要（抜粋、要約の場合あり）

- ・死亡退去
- ・看取りを希望
- ・特養への入所
- ・体調悪化、医療的ケアが必要となった
- ・療養型施設への転院

11. 在宅生活改善調査

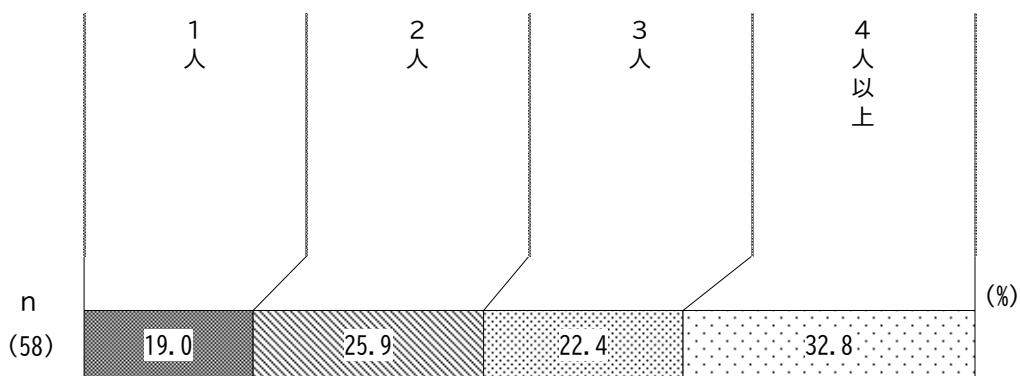
(1) ケアマネ、利用者の人数

【問11は、居宅介護支援事業所・小規模多機能型居宅介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所の方がお答えください。】

Q1. 事業所に所属するケアマネジャーの人数、および利用者数について、ご記入ください。
(数値を記入)

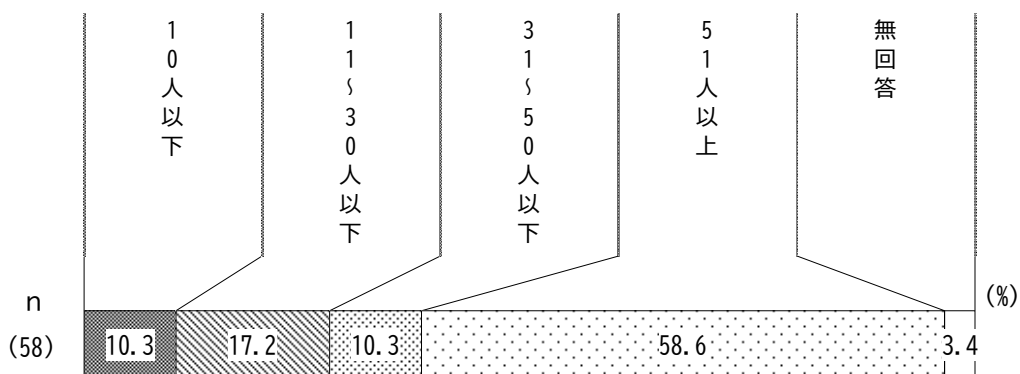
<ケアマネジャーの人数>

所属するケアマネジャーの人数は1事業所あたり平均3.1人であり、「4人以上」が32.8%と最も多く、「1人」は19.0%、「2人」は25.9%、「3人」は22.4%となっています。



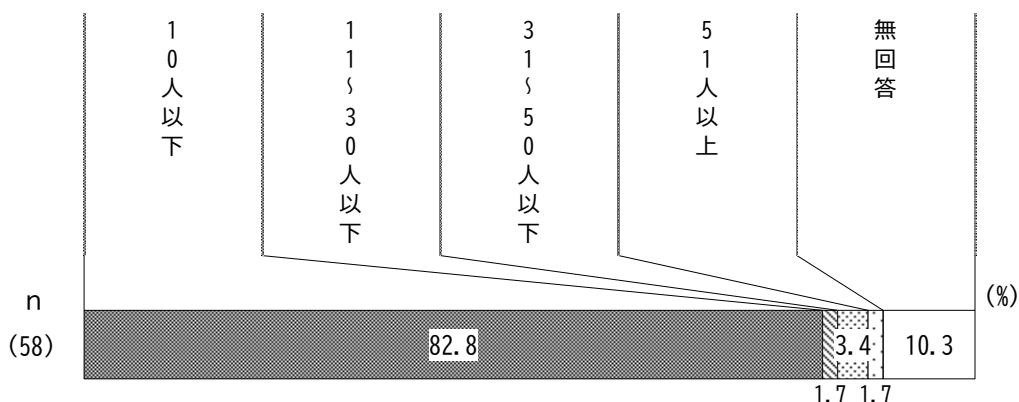
<自宅等の利用者数>

自宅等に住んでいる利用者の人数は1事業所あたり平均81.4人であり、「51人以上」の割合が58.6%と最も多くなっています。



<サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームの利用者数>

サービス付き高齢者向け住宅や住宅型有料老人ホーム、軽費老人ホームに住んでいる利用者の人数は1事業所あたり平均6.7人であり、「10人以下」の割合が82.8%と最も多くなっています。



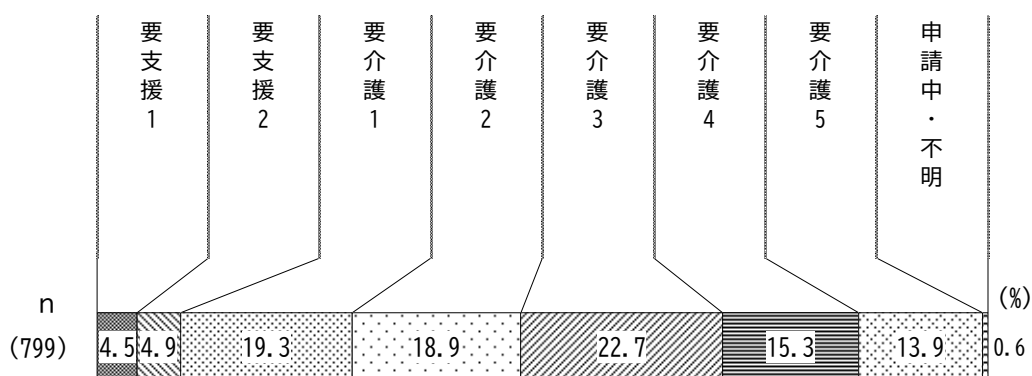
(2) 要介護度別の居場所を変更した利用者数

Q2. 貴事業所において、令和6年度中（令和6年4月1日～令和7年3月31日）に「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から、居場所を変更した要介護度別の利用者数」と「自宅等で死亡した利用者数」をご記入ください。（数値を記入）

※入院後に自宅等に戻った方、現在一時的に入院中の方は含めないでください。

※病院等への搬送後に死亡した場合、搬送先で死亡したケースは「②自宅等での死亡」、搬送先から転院等の後に死亡したケースは「①自宅等から、居場所を変更した利用者」に含めてください。

「要介護3」が22.7%と最も多く、次いで「要介護1」が19.3%、「要介護2」が18.9%となっています。



(3) 令和6年度中に居場所を変更した利用者の行先別人数

Q3. 貴事業所において、令和6年度中（令和6年4月1日～令和7年3月31日）に「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から、居場所を変更した利用者数」を行先別にご記入ください。（各項目、区内、区外、それぞれ数値を記入）

※入院した後に自宅等以外の居場所に移った場合は、退院後の居場所をご記入ください。

※搬送後、搬送先から転院等の後に死亡した場合は、死亡ではなく「居所変更」として、該当する行先にカウントしてください。

※Q3（本設問）の合計（◆）と、Q2（1つ前の設問）の合計（◆）が一致することをご確認ください。

令和6年度中に自宅等から居場所を変更した利用者は、記入のあった事業所全体で752人となっています。行先の内訳を見ると、「病院・診療所」が172人（22.9%）と最も多くなっています。

行先	区内	区外	合計
兄弟・子ども・ 親戚等の家	2人	21人	23人
	0.3%	2.8%	3.1%
住宅型有料 老人ホーム	22人	60人	82人
	2.9%	8.0%	10.9%
軽費老人ホーム	3人	5人	8人
	0.4%	0.7%	1.1%
サービス付き 高齢者向け住宅	9人	21人	30人
	1.2%	2.8%	4.0%
グループホーム	35人	2人	37人
	4.7%	0.3%	4.9%
特定施設	14人	27人	41人
	1.9%	3.6%	5.5%
地域密着型特定施設	2人	2人	4人
	0.3%	0.3%	0.5%
介護老人保健施設	45人	10人	55人
	6.0%	1.3%	7.3%
介護医療院	6人	3人	9人
	0.8%	0.4%	1.2%
特別養護 老人ホーム	100人	32人	132人
	13.3%	4.3%	17.6%
地域密着型 特別養護老人ホーム	5人	2人	7人
	0.7%	0.3%	0.9%
病院・診療所	135人	37人	172人
	18.0%	4.9%	22.9%
その他	4人	6人	10人
	0.5%	0.8%	1.3%
把握していない			142人
			18.9%
合計	382人	228人	752人
	50.8%	30.3%	100.0%

(4) 在宅生活の維持が難しくなるケース

Q4. 貴事業所の利用者で在宅生活の維持が難しくなるのは、どのような場合が多いですか。よくあるケースについてお答えください。

42事業所から回答が得られた。

■主な意見の概要（抜粋、要約の場合あり）

①本人の状態悪化

- ・体調不良にて入院となり自宅に帰れない状態となる事が最も多い。
- ・利用者の状態悪化（認知症の進行に伴う問題行動多発・医療ケアが高くなった等）
- ・食事、排せつ、入浴など日常生活の維持ができなくなった時。

②家族・介護者要因

- ・介護者が病気や高齢の場合、在宅生活の維持が難しい。特に認知症の利用者。
- ・介護による家族の疲弊
- ・家族が音を上げたとき。本人の意志より、家族が施設に入れると判断してしまうことが多い。

③世帯・生活環境要因

- ・独居でありサービスを手厚くしたとしても生活が十分に送れない方
- ・独居の利用者は、骨折により自宅等で動けなくなる＋認知症の進行のケース。
- ・認知機能・身体機能低下により生活全般ができなくなって、一人暮らしが維持できない。

④経済的要因

- ・低所得。介保サービスのみで生活支援を組み立てないといけない場合、こうしたことが複数重なり合うと維持はきびしくなる。
- ・家族支援ができなくなった時、在宅生活を維持するのにお金がかかるようになり、入所を決意。

⑤支援体制・制度面

- ・サービスの介入がうまくいかない。
- ・医療との連携が不足。夜間や緊急時にケアマネへの連絡が後回しになる。

資料編

1. 一般高齢者調査

要介護認定を受けていない方

北区地域包括ケア推進計画の ためのアンケート調査のお願い

<要介護認定を受けていない方の調査票>

日頃より北区の高齢者福祉行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。北区では、「みんなで支え安心してくらせる地域づくり」の実現に向けて高齢者一人ひとりが役割を持ち、いきがいづくり・社会参加につながる取組みを力を入れています。

このアンケート調査において高齢者の方等の日常生活への意向と生活実態を把握し、令和9年度からの高齢者保健福祉計画・認知症施策推進計画・介護保険事業計画である「北区地域包括ケア推進計画」を策定してまいります。

この調査は、無記名郵送方式でご回答いただきますので、ご回答された方が特定されたり、個人の回答内容が明らかにされたりすることはありません。ご回答いただいた内容は統計的に処理されたうえで、計画策定のための資料としてのみ活用され、その他の目的で使用されることは一切ありません。

大変お忙しいところ恐縮ですが、この調査の趣旨を何卒ご理解いただき、調査にご協力いただけますようお願いいたします。

令和7年12月 東京都北区 福祉部

ご記入にあたって

- ①この調査票で「あなた」とするのは、あて名ご本人のことです。
- ②この調査票は、令和7年12月1日現在の状況でお答えください。
- ③封筒のあて名ご本人が回答できない場合は、ご家族などが代わりにお答えください。該当しない項目や、回答したくない項目は回答していただく必要もありません。
- ④ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてお答えください。「その他」に回答する場合は、その内容を（ ）内にご記入ください。回答をご記入いただく設備もありませんので、その場合は設問の指示に従ってください。
- ⑤この調査票や返信用封筒には名前や住所、電話番号は書かないでください。また、調査票以外の書類等を同封しないでください。
- ⑥記入した調査票は、2つ折りにし、同封の「返信用封筒」に入れて、切手を貼らずに
令和7年12月24日（水）までに、郵便ポストにご投函ください。

【調査実施主体】

北区 福祉部 高齢福祉課・長寿支援課・介護保険課

【お問合せ先】北区地域包括ケア アンケート調査コールセンター

電話：0800-222-8744（平日9:00～17:00 受付）

（株式会社サーベイリサーチセンターが北区から受託しています。）



▲北区公式HPに調査票を掲載しています。

要介護認定を受けていない方

Q. この調査票にお答えいただく方はどなたですか。(○は1つ)

1. あて名ご本人（ご本人の回答を他の方が代筆する場合も含みます。）
 2. あて名ご本人の配偶者（夫・妻） 3. あて名ご本人の兄弟姉妹
 4. あて名ご本人の子ども 5. あて名ご本人の子ども以外の配偶者（夫・妻）
 6. その他（ ）

※以下は、封筒のあて名ご本人の情報をご記入ください。

問1 ご家族や生活状況について

Q1. あなたの性別をお答えください。

1. 男性 2. 女性 3. その他

Q2. あなたの年齢をお答えください。

1. 65～69歳 2. 70～74歳 3. 75～79歳
 4. 80～84歳 5. 85～89歳 6. 90歳以上

Q3. 家族構成をお答えください。(○は1つ)

1. 1人暮らし
 2. 配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）
 3. 配偶者・パートナーと同居（配偶者等64歳以下）
 4. 息子・娘との2世帯
 5. その他（ ）

Q4. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○は1つ)

1. 介護・介助は必要ない (⇒ Q7へ)
 2. 何らかの介護・介助が必要だが、現在は受けていない (⇒ Q5へ)
 3. 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けていないに家族などの介護を受けている場合も含む） (⇒ Q5、Q6へ)

Q5. 【Q4で「2.」または「3.」と答えられた方に伺います。】
 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 脳卒中（脳出血・脳梗塞等） 2. 心臓病 3. がん（悪性新生物）
 4. 呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等） 5. 関節の病気（リウマチ等）
 6. 認知症（アルツハイマー病等） 7. パーキンソン病 8. 糖尿病
 9. 腎疾患（透析） 10. 視覚・聴覚障害 11. 骨折・転倒
 12. 骨髄損傷 13. 高齢による衰弱
 14. 骨や関節の痛み 15. 精神疾患 16. 事故
 17. 薬の副作用 18. その他（ ）
 19. 不明

要介護認定を受けていない方

- Q6. 【Q4で「3.」と答えた方に伺います。】
 主にどなたの介護・介助を受けていますか。(Oは1つ)
 1. 配偶者(夫・妻) 2. 息子 3. 娘
 4. 子の配偶者 5. 孫 6. 兄弟姉妹
 7. ヘルパーなど介護サービスの人 8. その他()
- Q7. あなたの収入は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてにO)
 1. 仕事による収入 2. 年金 3. 預貯金の切り崩し
 4. 利子・配当・家賃・不動産収入 5. 仕送り・援助
 6. 生活保護 7. その他()
- Q8. 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入(税込)総額はどれくらいですか。(Oは1つ)
 1. 100万円未満 2. 100万円以上200万円未満
 3. 200万円以上300万円未満 4. 300万円以上500万円未満
 5. 500万円以上700万円未満 6. 700万円以上1,000万円未満
 7. 1,000万円以上 8. わからない
- Q9. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(Oは1つ)
 1. 大変苦しい 2. やや苦しい 3. ぶつう
 4. ややゆとりがある 5. 大変ゆとりがある
- Q10. お住まいは、次のどれにあたりますか。(Oは1つ)
 1. 持家(一戸建て) 2. 持家(集合住宅)
 3. 公営賃貸住宅(区・都営・UR、公社等) 4. 民間賃貸住宅(一戸建て)
 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) 6. 借間
 7. その他()
- Q11. ご自身の住んでいる地域を「住みやすい地域」だと感じますか。(Oは1つ)
 1. とても住みやすい 2. まあ住みやすい 3. やや住みにくい 4. 住みにくい

問2 からだを動かすことについて

- Q1. 階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。(Oは1つ)
 1. できるし、している 2. できるけどしてこない 3. できない
- Q2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(Oは1つ)
 1. できるし、している 2. できるけどしてこない 3. できない
- Q3. 15分位続けて歩いていますか。(Oは1つ)
 1. できるし、している 2. できるけどしてこない 3. できない
- Q4. 週にどの程度外出していますか。(Oは1つ)
 1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2~4回 4. 週5回以上
- Q5. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(Oは1つ)
 1. とても減っている 2. 減っている 3. あまり減っていない 4. 減っていない

要介護認定を受けていない方

- Q6. 外出を控えていますか。
 1. はい(⇒Q7へ) 2. いいえ(⇒Q8へ)
- Q7. 【Q6で「1. はい」と答えた方に伺います。】
 外出を控えている理由は、次のどれですか。(あてはまるものすべてにO)
 1. 病気 2. 障害(脳卒中の後遺症など) 3. 足腰などの痛み
 4. トイレの心配(失禁など) 5. 耳の障害(聞こえの問題など)
 6. 目の障害 7. 外での楽しみがない 8. 経済的に出られない
 9. 交通手段がない 10. その他()
- Q8. 外出する際の移動手段は何ですか。(あてはまるものすべてにO)
 1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車(自分で運転)
 5. 自動車(人に乗せてもらう) 6. 電車 7. 路線バス
 8. 病院や施設のバス 9. 車いす 10. 電動車いす(カート)
 11. 歩行器・シルバーカー 12. タクシー 13. その他()
- Q9. 過去1年間に転んだことがありますか。(Oは1つ)
 1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
- Q10. 転倒に対する不安は大きいですか。(Oは1つ)
 1. とても不安である 2. やや不安である
 3. あまり不安ではない 4. 不安ではない

問3 食べることについて

- Q1. 6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか。
 1. はい(⇒Q2へ) 2. いいえ(⇒Q3へ)
- Q2. 【Q1で「1. はい」と答えた方に伺います。】
 減少の理由は何ですか。(あてはまるものすべてにO)
 1. 食欲不振のため 2. 病気のため
 3. 意識的に体重管理をしたため 4. その他()
- Q3. あなたの身長と体重を教えてください。
 身長 cm 体重 kg
 ※整数を右詰めで記入してください。
- Q4. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。
 1. はい 2. いいえ
- Q5. お茶や汁物等でむせることがありますか。
 1. はい 2. いいえ
- Q6. 口の渇きが気になりますか。
 1. はい 2. いいえ

要介護認定を受けていない方

- Q7. 歯磨き（人によってもらう場合も含む）を毎日していますか。
 1. はい 2. いいえ
- Q8. 現在のご自分の歯の本数と入れ歯の使用状況をお教えください（成人の歯の総本数は親知らずを含めて32本です）。（○は1つ）
 1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用
 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
 3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
 4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし
- Q9. どなたかと食事をともにする機会はありますか。（○は1つ）
 1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある
 4. 年に何度かある 5. ほとんどない

問4 物忘れ・認知症について

- Q1. 物忘れが多いと感じますか。
 1. はい 2. いいえ
- Q2. 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあると言われますか。
- Q3. あなた自身に認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。
 1. はい 2. いいえ
- Q4. 認知症について、あなたはどのような印象を持っていますか。
 （あてはまるものすべてに○）
 1. 何もわからなく（できなく）なってしまい、かわいそうだと思う
 2. 急に怒ったりするので、怖いと感じる
 3. 話すことや行動の意味がわからず理解しにくい
 4. 声かけなど、手助けしたいと思う
 5. 身近に感じる
 6. できれば関わりたくない
 7. その他（ ）
 8. 特に何も感じない
- Q5. あなた自身が認知症になったら、周囲に知られてもよいと思いますか。（○は1つ）
 1. 知られてもよい 2. 知られたくない
 3. その他（ ） 4. わからない
- Q6. 認知症に関する相談窓口を知っていますか。
 1. はい 2. いいえ

要介護認定を受けていない方

- Q7. 物忘れや認知症への不安を感じた時、どこに（誰に）相談をしようと思えますか。
 （あてはまるものすべてに○）
 1. 家族・親族 2. 友人・知人 3. かかりつけ医療機関
 4. 薬局 5. 高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）
 6. 認知症カフェ（オレンジカフェきたいへな） 7. 区役所
 8. 民生委員 9. ケアマネジャー 10. 社会福祉協議会
 11. その他（ ）
 12. どこに（誰に）相談したらよいかわからない 13. 相談しない
- Q8. 「北区認知症あんしんナビ」を知っていますか。
 1. はい 2. いいえ

問5 毎日の生活について

- Q1. バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）。（○は1つ）
 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
- Q2. 自分で食品・日用品の買物をしていますか。（○は1つ）
 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
- Q3. 自分で食事の用意をしていますか。（○は1つ）
 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
- Q4. 自分で請求書の支払いをしていますか。（○は1つ）
 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
- Q5. 自分でごみ出しをしていますか。（○は1つ）
 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
- Q6. 自分で預貯金の出し入れをしていますか。（○は1つ）
 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
- Q7. 携帯電話またはスマートフォン・タブレットを使っていますか。（○は1つ）
 1. 携帯電話（ガラケー）を使っている（⇒ Q8ハ）
 2. スマートフォンまたはタブレットを使っている（⇒ Q8ハ）
 3. 携帯電話とスマートフォン両方を使っている（⇒ Q8ハ）
 4. 使っていない（⇒ Q9ハ）

要介護認定を受けていない方

Q8. 【Q7で「1. 携帯電話（ガラケー）を使っている」「2. スマートフォンまたはタブレットを使っている」「3. 携帯電話とスマートフォン両方を使っている」と答えた方に伺います。】

- 通話以外でどのようなことに使用していますか。（あてはまるものすべてに○）
1. メール
 2. 写真撮影
 3. ゲーム
 4. 電卓
 5. 動画・TV視聴
 6. ネットショッピング
 7. 健康管理
 8. ネット検索
 9. SNS（LINE（ライン）・Facebook・X（旧Twitter）等）
 10. ネットバンク
 11. 決済サービス
 12. 地図・交通情報の検索
 13. 天気予報・ニュース閲覧
 14. イベントの申込みや各種電子申請
 15. その他（ ）
 16. 通話以外で使用する機能はない

Q9. パソコンを使っていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 使っている（⇒Q10へ）
2. 使っていない（⇒Q11へ）

Q10. 【Q9で「1. 使っている」と答えた方に伺います】
どのようなことに使用していますか。（あてはまるものすべてに○）

1. メール
2. ゲーム
3. 動画・TV視聴
4. ネットショッピング
5. 文書作成
6. ネット検索
7. SNS（LINE（ライン）・Facebook・X（旧Twitter）等）
8. ネットバンク
9. 地図・交通情報の検索
10. 天気予報・ニュース閲覧
11. イベントの申込みや各種電子申請
12. その他（ ）

Q11. あなたが現在日常生活の中で困っていることは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

1. 話し相手・相談相手がいない
2. 日常の外出の移動手段（買い物・通院等）
3. 遠い場所への外出
4. 高いところの作業（天袋、電球の交換等）
5. 簡単な修理
6. 重い物の扱いや運搬（布団、灯油、米、粗大ごみ）
7. かがむ作業（風呂掃除・雑巾がけ等）
8. 手先や腕を使う作業（蓋の開閉、ドアノブ等）
9. 書類整理・事務手続き（役所関係、契約等）
10. 文字が読みづらい（回覧板、新聞等）
11. 屋外作業（草刈、庭木の手入れ等）
12. ごみの分別や集積場まで出に行くこと
13. 部屋の掃除・大掃除や片付け
14. 食事のしたく（調理、栄養バランス等）
15. 衣服の洗濯や片付け
16. 電化製品やスマートフォン・インターネットの操作
17. その他（ ）
18. 特に困っていることはない

要介護認定を受けていない方

Q12. 【Q11で「1」～「17」を答えた方に伺います。】
回答した困りごとについて、主にどのように対処されていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1. 家族や親せきのサポート
2. 近所の人たちのサポート
3. 友人や知人のサポート
4. 有償・無償ボランティアのサポート
5. シルバー人材センターのサービス
6. 社会福祉協議会の友愛ホームサービス
7. ほかの民間事業者のサービス
8. 自力で何とかしている
9. その他（ ）
10. 対処できずに困っている

Q13. 地域の中で、自立した生活を続けていくために、どのようなサービスや地域の支え合いがあるよといと願いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 食事の支度や片付け
2. 弁当などの配食
3. 自宅内の掃除や片付け
4. 大掃除
5. 布団干し
6. 洗濯や片付け
7. ごみの分別やごみ出し
8. 買い物（付き添い・代行）
9. 買い物（移動販売や宅配）
10. 簡単な修理や電球替え
11. 庭の手入れ・花や木の水やり
12. 生活に関する相談・話し相手
13. 見守り・安否確認
14. 健康づくりや介護予防の教室（体操など）
15. サロンなどの交流会、会食会
16. その他（ ）
17. 必要ない
18. わからない

Q14. 成年後見制度※をご存じですか。
1. 知っている（⇒Q15へ） 2. 知らない（⇒問6Q1へ）
※成年後見制度：認知症などで物事の判断が困難になった場合、本人に代わって財産管理や契約行為等を行う後見人を選定し、法的に保護・支援する制度です。後見人には、家族や親族の他に弁護士・司法書士・社会福祉士などが選任されます。

Q15. 【Q14で「1. 知っている」と答えた方に伺います】
どのようにして知りましたか。（あてはまるものすべてに○）

1. 広報紙やパンフレット
2. テレビやラジオ、新聞
3. インターネット
4. 区役所で聞いた
5. 社会福祉協議会で聞いた
6. ケアマネジャーや介護職員などから聞いた
7. 支援団体の広報活動や住民相談で知った
8. その他（ ）

問6 社会参加について

Q1. 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。

1. はい 2. いいえ

Q2. 新聞を読んでいますか。

1. はい 2. いいえ

Q3. 本や雑誌を読んでいますか。

1. はい 2. いいえ

Q4. 健康についての記事や番組に関心がありますか。

1. はい 2. いいえ

Q5. 友人の家を訪ねていますか。

1. はい 2. いいえ

Q6. 家族や友人の相談に乗っていますか。

1. はい 2. いいえ

Q7. 病人を見舞うことができますか。

1. はい 2. いいえ

Q8. 若い人に自分から話しかけることがありますか。

1. はい 2. いいえ

Q9. 趣味はありますか。

※「はい」と答えの方は、○を付けた後に、カッコ内に具体的な内容をお書きください。

1. はい（具体的に：
2. 思いつかない

Q10. 生きがいがありますか。

※「生きがいあり」と答えの方は、○を付けた後に、カッコ内に具体的な内容をお書きください。

1. 生きがいあり（具体的に：
2. 思いつかない

Q11. 以下の地域活動にどのくらいの頻度で参加していますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。（それぞれ○は1つ）

	週4回以上	週2〜3回	週1回	月に1〜3回	年に数回	参加していません
(回答例) ボランティアのグループ	1	2	③	4	5	6
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤（自主グループ、近所体操教室など）介護予防のための通いの場	1	2	3	4	5	6
⑥シニアクラブ（老人クラブ）	1	2	3	4	5	6
⑦町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

Q12. 【Q11の①〜⑧で1つでも「1」〜「5」に○をつけた方に伺います】活動の場所には、ご自宅から徒歩15分以内のものがありますか。

1. はい 2. いいえ

Q13. 【Q11の①〜⑧で1つでも「1」〜「5」に○をつけた方に伺います】地域活動に参加されている理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 社会とのつながり 2. 生きがいのため 3. 健康のため
4. 収入を得るため（就労的な活動の場合） 5. 趣味活動のため
6. 身近な人との交流のため 7. 地域貢献のため
8. その他（ ）

Q14. 【Q11の①〜⑧で1つでも「1」〜「5」に○をつけた方に伺います】現在参加されている地域活動について、何か困っていることはありませんか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 活動場所が遠い 2. 金銭的な負担が大きい
3. 活動日が合わない 4. 人間関係に負担を感じる
5. どんな場所であれば活動できるかわからない
6. 活動の担い手不足や後継者不足 7. 関心のある行事や活動がない
8. その他（ ）
9. 特につまらぬことはない

要介護認定を受けていない方

Q15. 【Q11の①～⑧すべて「6」に○をつけた方に伺います】
 地域活動に参加されていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
 1. ほかの予定が忙しく、時間が取れない
 2. 健康状態に自信がない
 3. 関心のある行事や活動がない
 4. きっかけがない
 5. 開催情報や参加方法がわからない
 6. 地域外の活動に参加していない
 7. 地域にかかわりたくない
 8. 役割を課されたくない
 9. 参加場所が遠く、移動が大変
 10. 知らない人との交流が苦手
 11. その他 ()
 12. 特に理由はない

Q16. 【すべての方に伺います】
 あなたが地域活動に参加しやすくなるには、どのような要素があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)
 1. 活動や団体の情報を紹介してくれる
 2. 友人・知人と一緒に参加できる
 3. 時間や期間にあまりしばられない
 4. 身近なところに活動できる場がある
 5. 申込み等の手続きが不要
 6. 世話人やリーダーがいる
 7. 参加することでメリットがある(報酬など)
 8. 参加費用が無料、または非常に安い
 9. 参加費や興味と関連がある
 10. 活動資金の補助や援助がある
 11. 具体的な役割(自分がどのように活動に貢献や支援ができるのか)が示されている
 12. その他 ()
 13. 条件によらず参加したくない

Q17. 地域活動の情報について、どのような手段であれば、情報を得やすいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)
 1. インターネット(北区内の通いの場や介護サービス事業者等に特化したウェブサイト)
 2. インターネット(東京都全域の通いの場等を掲載したウェブサイト)
 3. インターネット(LINE や X (旧 Twitter) などの SNS)
 4. 近所の人や友人からの口コミや紹介
 5. 区役所や図書館等の公共施設での掲示
 6. 高齢者あんしんセンター(地域包括支援センター)からの情報提供
 7. 町会からの情報提供
 8. その他 ()

Q18. まだ参加していない地域活動の中で、どのような活動に参加してみたいですか。(あてはまるものすべてに○)
 1. ボランティアのグループ
 2. スポーツ関係のグループやクラブ
 3. 趣味関係のグループ
 4. 学習・教養サークル
 5. (自主グループ・ご近所体操教室など)介護予防のための通いの場
 6. シニアクラブ(老人クラブ)
 7. 町内会、自治会
 8. 収入のある仕事
 9. その他 ()
 10. 特にならない

要介護認定を受けていない方

Q19. 地域住民の有志による活動(健康づくりや趣味等)を行い、いきいきとした地域づくりに進めるとしたら、あなたはその活動に参加してみたいと思いますか。(それぞれ○は1つ)

	参加したい	参加してみよう	参加したくない	参加していません
(回答例) 参加者として	1	②	3	4
①参加者として	1	2	3	4
②企画・運営(お世話役)として	1	2	3	4

Q20. この1年間に以下のような活動に参加しましたか。(それぞれ○は1つ)

	参加した	参加したい	参加していません
(回答例) 高齢者等を支援する活動(見守りなどを含む)	1	②	3
①高齢者等を支援する活動(見守りなどを含む)	1	2	3
②子どもや子育てを支援する活動	1	2	3
③町内会・自治会、シニアクラブ(老人クラブ)などの地域活動	1	2	3

問7 仕事について

Q1. あなたは現在働いていますか。働いている方は勤務形態についてもお答えください。

- (あてはまるものすべてに○)
 1. フルタイム (週35時間以上)
 2. 短時間・不定期 (週35時間未満)
 3. 自営業
 4. シルバー人材センターの会員
 5. その他 (具体的に：
 6. 働いていない

Q2. あなたは今後、働きたいと思いませんか。現在働いている方も、今後どのように働きたいかをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. フルタイムで働きたい (週35時間以上) 2. 短時間で働きたい (週35時間未満)
 3. 不定期で働きたい 4. 働きたくない 5. わからない

Q3. 【Q2で「1. フルタイムで働きたい (週35時間以上)」「2. 短時間で働きたい (週35時間未満)」「3. 不定期で働きたい」と答えただ方に伺います】

- 働きたいのは、どのような理由からですか。(○は3つまで)
 1. 生活費を得るため 2. 借金・ローンの返済
 3. 小遣いを得るため 4. 将来への蓄え (預貯金) のため
 5. 健康のため 6. いきがいを得るため
 7. 社会貢献・社会とのつながり 8. 時間に余裕があるため
 9. 家族・知人などの勧め 10. 持っている技術や資格を活かすため
 11. 何もしていないと退屈するため
 12. その他 (具体的に：
)

Q4. 【Q2で「2. 短時間で働きたい (週35時間未満)」「3. 不定期で働きたい」と答えただ方に伺います】

- 月にどのくらいの報酬がほしいですか。(○は1つ)
 1. 1万円未満 2. 1万円以上3万円未満 3. 3万円以上5万円未満
 4. 5万円以上 5. 交通費程度 6. わからない

問8 たすけあいについて

Q1. あなたと周りの人の「たすけあい」について伺います。
 それぞれあてはまるものに○をつけてください。あてはまる人がいない場合は「8. そのような人はいない」に○をつけてください。(それぞれあてはまるものすべてに○)

	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他 ()	そのような人はいない
(回答例) あなたの心配事や愚痴 (ぐち) を聞いてくれる人	①	2	3	4	5	⑥	7	8
①あなたの心配事や愚痴 (ぐち) を聞いてくれる人	1	2	3	4	5	6	7	8
②反対に、あなたが心配事や愚痴 (ぐち) を聞いてあげる人	1	2	3	4	5	6	7	8
③あなたが病気で数日間入院したときに、看病や世話をしてくれる人	1	2	3	4	5	6	7	8
④反対に、看病や世話をしてくれる人	1	2	3	4	5	6	7	8

Q2. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。

- (あてはまるものすべてに○)
 1. 自治会・町内会・シニアクラブ (老人クラブ) 2. 社会福祉協議会・民生委員
 3. ケアマネジャー 4. 医師・看護師・薬局
 5. 高齢者あんしんセンター (地域包括支援センター)・区役所
 6. その他 (具体的に
 7. そのような人はいない

Q3. 友人関係について伺います。

- ①友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(○は1つ)
 1. 毎日 2. 週に何回か 3. 月に何回か
 4. 年に何回か 5. ほとんどない
- ②この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。(○は1つ)
 ※同じ人には何回会っても1人と数えることとします。
 1. 0人 (いない) 2. 1~2人 3. 3~5人
 4. 6~9人 5. 10人以上

要介護認定を受けていない方

問9 健康について

- Q1. 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(Oは1つ)
 1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない
- Q2. あなたは、現在の程度幸せですか(「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、あてはまる点数1つにOをつけてください)。 とても不幸
10点 9点 8点 7点 6点 5点 4点 3点 2点 1点 0点
- Q3. この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。
 1. はい 2. いいえ
- Q4. この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。
 1. はい 2. いいえ
- Q5. 生活様式や人付き合いの変化から、孤独や孤立への不安を感じていますか。(Oは1つ)
 1. 非常に不安 2. やや不安 3. どちらともいえない
 4. あまり不安ではない 5. まったく不安ではない
- Q6. お酒は飲みますか。(Oは1つ)
 1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない
 4. 以前は飲んでいましたが、今はやめた 5. もともと飲まない
- Q7. タバコは吸っていますか。(Oは1つ)
 1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. ほとんど吸わない
 4. 以前は吸っていたが、今はやめた 5. もともと吸っていない
- Q8. あなたは、かかりつけ医がいますか。
 1. はい 2. いいえ
- Q9. あなたは、かかりつけ歯科医がいますか。
 1. はい 2. いいえ
- Q10. あなたは、かかりつけ薬剤師・薬局がありますか。
 1. はい 2. いいえ
- Q11. 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(あてはまるものすべてにO)
 1. ない 2. 高血圧 3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)
 4. 心臓病 5. 糖尿病 6. 高脂血症(脂質異常)
 7. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等) 8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気
 9. 腎臓・前立腺の病気 10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)
 11. 外傷(転倒・骨折等) 12. がん(悪性新生物)
 13. 血液・免疫の病気 14. うつ病 15. 認知症(アルツハイマー病等)
 16. パーキンソン病 17. 目の病気 18. 耳の病気
 19. その他(具体的に)

要介護認定を受けていない方

- Q3. よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(あてはまるものすべてにO)
 1. 近所・同じ地域の人 2. 幼なじみ
 3. 学生時代の友人 4. 仕事の同僚・元同僚
 5. 趣味や関心が同じ友人 6. ボランティア等の活動での友人
 7. その他(具体的に) 8. いない
- Q4. 友人・知人と電話やメール、手紙をやり取りする頻度はどれくらいですか。(Oは1つ)
 1. 毎日 2. 週に何度か 3. 月に何度か
 4. 年に何度か 5. ほとんどない
- Q4. あなたは災害時・緊急時に人の手助けができますか。(Oは1つ)
 1. できる 2. できない 3. わからない
- Q5. ご近所の方とはどの程度付き合いをしていますか (Oは1つ)
 1. 日常的に会って話をしたり、たすけあったりできる関係
 (定期的なごみ出し、買い物などの手伝い等)
 2. 頼まれたときにはたすけあえる関係(病気の時の買い物、留守中の植木の水やり等)
 3. お互いに訪問しあう程度 4. 立ち話をする程度
 5. あいさつをする程度 6. ほとんどつきあいはない
- Q6. あなたはご近所の方を信頼できますか。(Oは1つ)
 1. 信頼できる 2. どちらかと言えば信頼できる
 3. どちらかと言えば信頼できない 4. 信頼できない
- Q7. あなたは、ご近所の方から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思いますか。(自分なりにできること、会・グループでの役、隣近所のちょっとしたこと、お手伝いやお願い事など) (Oは1つ)
 1. とてもそう思う 2. そう思う 3. ややそう思う
 4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない
- Q8. 次のような年齢層の方と会話をする機会が、どのくらいありますか。(ご家族や親戚、仕事関係の人は除きます。)(それぞれOは1つ)

	よくある	ときどきある	あまりない	全くない
(回答例) 子どもや10代の若者	1	2	3	4
1. 子どもや10代の若者	1	2	3	4
2. 20~40代<50の人	1	2	3	4
3. 50~60代<70の人	1	2	3	4
4. 70代<それより高齢の方	1	2	3	4

Q12. あなたがいままで健康に長生きできよう、取り組んでいけること、取り組んでいけることはありますか。
また、取り組んでみたいと思うことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 定期的(概ね週1回以上)に運動や体操をする
2. 町会や自治会などの活動に参加する
3. 定期的(概ね週1回以上)に仲間と趣味などの活動をする
4. 仕事(非常勤含む)やボランティア活動をする
5. 地域の自主グループ活動に参加する
6. 区の介護予防や健康づくりの事業に参加する
7. その他()
8. 特にない

Q13. 終活についてどのように考えていますか。(あてはまるものすべてに○)
※終活とは、人生の最期を自分らしく豊かに過ごし、後を託す家族の負担を軽減するための活動のことをいいます。

1. すでに準備している
2. まだ始めていないが、今後、準備を進めたい
3. 関心がある
4. 不安に思っている
5. 終活という言葉や活動を知らない
6. 関心がない
7. その他()

Q14. 終活の準備にあたって、不安に思っていることを教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

1. 終活の始め方がわからない
2. 身近に相談したり、頼ったりする人がいない
3. 終活への十分な資金がない
4. 判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか
5. 民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない
6. 死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってもらえるかどうか
7. どの事業者を選んだら良いのかわからない
8. 終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない
9. その他()
10. 特に不安はない

問10 在宅療養について

Q1. あなたが、もし入院生活から退院し、在宅で医療を受けながら生活する場合、どこに相談しますか。(○は3つまで)

1. 区役所
2. 高齢者あんしんセンター(地域包括支援センター)
3. 訪問看護ステーション
4. ケアマネジャー
5. かかりつけ医
6. 医師会の電話相談
7. 病院の医師
8. 病院の看護師
9. 病院の医療相談室
10. 民生委員
11. 社会福祉協議会
12. 知人・友人
13. その他(具体的に)
14. どこにも相談しない

Q2. あなたが、もしがんや脳梗塞などにより長期の療養が必要となった場合、理想として自宅での療養を続けたいと考えていますか。

1. 続けたい(⇒Q3へ)
2. 続けたいと思わない(⇒Q5へ)
3. わからない(⇒Q5へ)

Q3. 【Q2で「1. 続けたい」と答えた方に伺います】

実際に自宅で療養は実現可能だと思いますか。(○は1つ)

1. 可能だと思う(⇒Q5へ)
2. 難しいと思う(⇒Q4へ)
3. わからない(⇒Q5へ)

Q4. 【Q3で「2. 難しいと思う」と答えた方に伺います】

自宅で療養が難しいと思う理由は何か(○は3つまで)

1. 在宅医療や在宅介護などのケアを受けられるかわからないから
2. 急に病状が変わった時の対応が不安だから
3. 往診してくれる医師がいないから
4. 訪問看護や介護の体制が不十分だから
5. 家族に負担をかけるから
6. 看護や介護してくれる家族がいないから
7. 療養できる部屋やトイレなどの住宅環境が整っていないから
8. お金がかかるから
9. その他(具体的に)

Q5. あなたが病気で人生の最期を迎える時が来た場合、どこで過ごしたいと思いますか。(○は1つ)

1. 自宅
2. 病院などの医療機関
3. 特別養護老人ホームなどの福祉施設
4. 高齢者向け住宅
5. その他(具体的に)
6. わからない

Q6. 最期を迎えたい場所について、周囲の人と話し合う機会が必要だと感じますか。(○は1つ)

1. 必要(⇒Q7へ)
2. 不要

Q7. 【Q6で「1. 必要」と答えた方に伺います】

どなたとお話ししたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族・親族
2. 友人・知人
3. 医師・介護従事者
4. その他()

要介護認定を受けていない方

問11 介護の状況などについて

Q1. あなたは、高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）について、どの程度ご存知ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 名前を知っている
- 2. どこにあるか知っている
- 3. センターの役割を知っている
- 4. 相談や連絡をしたことがある
- 5. 知らない、聞いたことがない

Q2. あなたは、ご家族または親族の介護をしていますか。（○は1つ）

- 1. 現在、1人の介護をしている（⇒ Q3ハ）
- 2. 現在、2人以上の介護をしている（⇒ Q3ハ）
- 3. 過去に介護したことはあるが、今はしていない（⇒ Q3ハ）
- 4. 介護をしたことはない

Q3. 【Q2で「1～3」と答えた方に伺います。】

介護をするうえで困っていること（困っていたこと）は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

- 1. 精神的につらい
- 2. 自分の健康に不安がある
- 3. かわりを頼める人がいない
- 4. 体力的につらい
- 5. 自分の時間がとりにくい
- 6. 経済的な負担が大きい
- 7. 仕事との両立が難しい
- 8. 希望する介護サービスが利用できない
- 9. 介護の方法がわからない
- 10. 相談できる人がいない
- 11. 孫や子どもの世話もしなければならぬ
- 12. その他（具体的に： _____)
- 13. 特に困っていることはない

これからの高齢者施策や地域づくりのあり方等についてのご意見・ご提案があれば、ご自由に記入してください。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

2. 認定者調査

要介護（要支援）認定を受けている方

北区地域包括ケア推進計画の ためのアンケート調査のお願い

＜要介護（要支援）認定を受けている方の調査票＞

日頃より北区の高齢者福祉行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。北区では、「みんなで支え安心してくらせる地域づくり」の実現に向けて高齢者一人ひとりが役割を持ち、いきがいくくり・社会参加につながる取組みに力を入れています。

このアンケート調査において高齢者の方等の日常生活への意向と生活実態を把握し、令和9年度からの高齢者保健福祉計画・認知症施策推進計画・介護保険事業計画である「北区地域包括ケア推進計画」を策定してまいります。

この調査は、無記名郵送方式でご回答いただきますので、ご回答された方が特定されたり、個人の回答内容が明らかにされたりすることはありません。ご回答いただいた内容は統計的に処理され、計画策定のための資料としてのみ活用され、その他の目的で使用されることは一切ありません。

大変お忙しいところ恐縮ですが、この調査の趣旨を何卒ご理解いただき、調査にご協力いただけますようお願いいたします。

令和7年12月 東京都北区 福祉部

ご記入にあたって

- ①この調査票で「あなた」とするのは、あて名ご本人のことです。
- ②この調査票は、令和7年12月1日現在の状況でお答えください。
- ③封筒のあて名ご本人が回答できない場合は、ご家族などが代わりにお答えください。該当しない項目や、回答したくない項目は回答していただく必要もありません。
- ④ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてお答えください。「その他」に回答する場合は、その内容を（ ）内にご記入ください。回答をご記入いただく設問もありますので、その場合は設問の指示に従ってください。
- ⑤この調査票や返信用封筒には名前や住所、電話番号は書かないでください。また、調査票以外の書類等を同封しないでください。
- ⑥記入した調査票は、2つ折りにし、同封の「返信用封筒」に入れて、切手を貼らずに
令和7年12月24日（水）までに、郵便ポストにご投函ください。

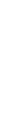
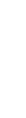
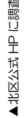
【調査実施主体】

北区 福祉部 高齢福祉課・長寿支援課・介護保険課

【お問合せ先】北区地域包括ケア アンケート調査コールセンター

電話：0800-222-8744（平日9:00～17:00 受付）

（株式会社サマーベリリナーセンターが北区から受託しています。）



要介護（要支援）認定を受けている方

Q. この調査票にお答えいただく方はどなたですか。（○は1つ）

1. あて名ご本人（ご本人の回答を他の方が代筆する場合は含まれます。）
2. あて名ご本人の配偶者（夫・妻）
3. あて名ご本人の兄弟姉妹
4. あて名ご本人の子ども
5. あて名ご本人の子どもの配偶者（夫・妻）
6. その他（ ）

※以下は、封筒のあて名ご本人の情報をご記入ください。

問1 ご家族や生活状況について

- Q1. あなたの性別をお答えください。（○は1つ）
1. 男性
 2. 女性
 3. その他
- Q2. あなたの年齢をお答えください。（○は1つ）
1. 65～69歳
 2. 70～74歳
 3. 75～79歳
 4. 80～84歳
 5. 85～89歳
 6. 90歳以上
- Q3. あなたの要介護度（要支援度）をお答えください。（○は1つ）
1. 要支援1
 2. 要支援2
 3. 要介護1
 4. 要介護2
 5. 要介護3
 6. 要介護4
 7. 要介護5
 8. わからない
- Q4. 家族構成をお答えください。（○は1つ）
1. 1人暮らし
 2. 配偶者・パートナーと同居（配偶者等65歳以上）
 3. 配偶者・パートナーと同居（配偶者等64歳以下）
 4. 息子・娘との2世帯
 5. その他（ ）

Q5. 要介護（要支援）認定を受けた主な原因は何ですか。（○は1つ）

1. 脳卒中（脳出血・脳梗塞等）
2. 心臓病
3. がん（悪性新生物）
4. 呼吸器の病気（肺炎腫・肺炎等）
5. 関節の病気（リウマチ等）
6. 認知症（アルツハイマー病等）
7. パーキンソン病
8. 糖尿病
9. 腎疾患（透析）
10. 視覚・聴覚障害
11. 骨折・転倒
12. 骨格損傷
13. 高齢による衰弱
14. 骨や関節の痛み
15. 精神疾患
16. 事故
17. 薬の副作用
18. その他（ ）
19. 不明

Q6. 主にどなたの介護・介助を受けていますか。（○は1つ）

1. 配偶者（夫・妻）
2. 息子
3. 娘
4. 子の配偶者
5. 孫
6. 兄弟姉妹
7. ヘルパー等介護サービスの人
8. その他（ ）
9. 介護・介助は必要ない

要介護（要支援）認定を受けている方

- Q7. あなたの収入は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）
1. 仕事による収入
 2. 年金
 3. 預貯金の切り崩し
 4. 利子・配当・家賃・不動産収入
 5. 仕送り・援助
 6. 生活保護
 7. その他（ ）
- Q8. 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入（税込）総額はどれくらいですか。（○は1つ）
1. 100万円未満
 2. 100万円以上200万円未満
 3. 200万円以上300万円未満
 4. 300万円以上500万円未満
 5. 500万円以上700万円未満
 6. 700万円以上1,000万円未満
 7. 1,000万円以上
 8. わからない
- Q9. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（○は1つ）
1. 大変苦しい
 2. やや苦しい
 3. ぶつう
 4. ややゆとりがある
 5. 大変ゆとりがある
- Q10. お住まいは、次のどれにあたりますか。（○は1つ）
1. 持家（一戸建て）
 2. 持家（集合住宅）
 3. 公営賃貸住宅（区・都営、UR、公社等）
 4. 民間賃貸住宅（一戸建て）
 5. 民間賃貸住宅（集合住宅）
 6. 借間
 7. サービス付き高齢者向け住宅
 8. 有料老人ホーム
 9. 介護保険施設（特養・老健）
 10. 親族宅
 11. その他（ ）
- Q11. この1年間に住み替えをしましたか。（○は1つ）
1. はい（⇒ Q12へ）
 2. いいえ（⇒ Q13へ）
- Q12. 【Q11で「1. はい」と答えただ方に伺います。】
どこから住み替えましたか。（○は1つ）
1. 持家（一戸建て）
 2. 持家（集合住宅）
 3. 公営賃貸住宅（区・都営、UR、公社等）
 4. 民間賃貸住宅（一戸建て）
 5. 民間賃貸住宅（集合住宅）
 6. 借間
 7. サービス付き高齢者向け住宅
 8. 有料老人ホーム
 9. 介護保険施設（特養・老健）
 10. 親族宅
 11. その他（ ）
- Q13. 今後、住み替えを希望しますか。（○は1つ）
1. サービス付き高齢者向け住宅
 2. 有料老人ホーム
 3. 介護保険施設（特養・老健）
 4. 親族宅
 5. その他（持家から賃貸住宅等）
 6. 自宅を改修して住み続ける
 7. このまま住み続ける
- Q14. ご自身の住んでいる地域を「住みやすい地域」と感じますか。（○は1つ）
1. とても住みやすい
 2. まあ住みやすい
 3. やや住みにくい
 4. 住みにくい

要介護（要支援）認定を受けている方

問2 からだを動かすことについて

- Q1. 階段をすりや壁をつたわらずに昇っていますか。（○は1つ）
1. できるし、している
 2. できるけどしていません
 3. できない
- Q2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。（○は1つ）
1. できるし、している
 2. できるけどしていません
 3. できない
- Q3. 15分位続けて歩いていきますか。（○は1つ）
1. できるし、している
 2. できるけどしていません
 3. できない
- Q4. 週にどの程度外出していますか。（○は1つ）
1. ほとんど外出しない
 2. 週1回
 3. 週2～4回
 4. 週5回以上
- Q5. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。（○は1つ）
1. とても減っている
 2. 減っている
 3. あまり減っていない
 4. 減っていない
- Q6. 外出を控えていますか。
1. はい（⇒ Q7へ）
 2. いいえ（⇒ Q8へ）
- Q7. 【Q6で「1. はい」と答えただ方に伺います。】
外出を控えている理由は、次のどれですか。（あてはまるものすべてに○）
1. 病氣
 2. 障害（脳卒中の後遺症など）
 3. 足腰などの痛み
 4. トイレの心配（失禁など）
 5. 耳の障害（聞こえの問題など）
 6. 目の障害
 7. 外での楽しみがない
 8. 経済的に出られない
 9. 交通手段がない
 10. その他（ ）
- Q8. 外出する際の移動手段は何ですか。（あてはまるものすべてに○）
1. 徒歩
 2. 自転車
 3. バイク
 4. 自動車（自分で運転）
 5. 自動車（人に乗せてもらう）
 6. 電車
 7. 路線バス
 8. 病院や施設のバス
 9. 車いす
 10. 電動車いす（カート）
 11. 歩行器・シルバーカー
 12. タクシー
 13. その他（ ）

問3 食べることにについて

- Q1. 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。
1. はい（⇒ Q2へ）
 2. いいえ（⇒ Q3へ）
- Q2. 【Q1で「1. はい」と答えただ方に伺います。】
減少の理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）
1. 食欲不振のため
 2. 病氣のため
 3. 意識的に体重管理をしたため
 4. その他（ ）

Q3. あなたの身長と体重を教えてください。

身長 cm 体重 kg

※整数を右詰めで記入してください。

Q4. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

1. はい 2. いいえ

Q5. お茶や汁物等でむせることがありますか。

1. はい 2. いいえ

Q6. 口の渇きが気になりますか。

1. はい 2. いいえ

Q7. 歯磨き（人にやってもらっ場合も含む）を毎日していますか。

1. はい 2. いいえ

Q8. 入れ歯は使っていますか。（Oは1つ）

1. 使っている 2. 作ったが使っていない 3. 作っていない

Q9. 現在のご自分の歯の本数と入れ歯の使用状況をお教えてください（成人の歯の総本数は親知らずを含めて32本です）。（Oは1つ）

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用（⇒ Q10へ）
 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
 3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用（⇒ Q10へ）
 4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

Q10. 【Q9で「1」または「3」と答えたら（入れ歯を使っている方）に伺います。】毎日入れ歯の手入れをしていますか。

1. はい 2. いいえ

Q11. 現在、歯科診療を受けていますか。（Oは1つ）

1. 通院 2. 往診・訪問歯科診療 3. 受けていない

Q12. どなたかと食事をもにりする機会がありますか。（Oは1つ）

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある
 4. 年に何度かある 5. ほとんどない

問4 物忘れについて

Q1. 物忘れが多いと感じますか。

1. はい 2. いいえ

Q2. 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあると聞かれますか。

1. はい 2. いいえ

Q3. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

1. はい 2. いいえ

Q4. 今日が何月何日かわからない時がありますか。

1. はい 2. いいえ

問5 毎日の生活について

Q1. バスや電車をを使って1人で外出していますか（自家用車でも可）。（Oは1つ）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

Q2. 自分で食品・日用品の買物をしていますか。（Oは1つ）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

Q3. 自分で食事の用意をしていますか。（Oは1つ）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

Q4. 自分で請求書の支払いをしていますか。（Oは1つ）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

Q5. 自分で預貯金の出し入れをしていますか。（Oは1つ）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

Q6. 携帯電話またはスマートフォン・タブレットを使っていますか。（Oは1つ）

1. 携帯電話（ガラケー）を使っている（⇒ Q7へ）
 2. スマートフォンまたはタブレットを使っている（⇒ Q7へ）
 3. 携帯電話とスマートフォン両方を使っている（⇒ Q7へ）
 4. 使っていない（⇒ Q8へ）

Q7. 【Q6で「1. 携帯電話（ガラケー）」を使っている「2. スマートフォンまたはタブレットを使っている」「3. 携帯電話とスマートフォン両方を使っている」と答えた方に伺います。】

通話以外でどのようなことに使用していますか。（あてはまるものすべてに○）

1. メール 2. 写真撮影 3. ゲーム
 4. 電卓 5. 動画・TV視聴 6. ネットショッピング
 7. 健康管理 8. ネット検索
 9. SNS（LINE（ライン）・Facebook・X（旧Twitter）等）
 10. ネットバンク 11. 決済サービス 12. 地図・交通情報の検索
 13. 天気予報・ニュース閲覧
 14. イベントの申込みや各種電子申請
 15. その他（ ）
 16. 通話以外で使用する機能はない

Q8. パソコンを使っていますか。

1. 使っている（⇒ Q9へ） 2. 使っていない（⇒ Q10へ）

要介護（要支援）認定を受けている方

- Q9. 【Q8で「1. 使っている」と答えた方に伺います】
どのようなおことに使用していますか。（あてはまるものすべてに○）
1. メール
 2. ゲーム
 3. 動画・TV視聴
 4. ネットショッピング
 5. 文書作成
 6. ネット検索
 7. SNS（LINE（ライン）・Facebook・X（旧Twitter）等）
 8. ネットバンク
 9. 地図・交通情報の検索
 10. 天気予報・ニュース閲覧
 11. イベントの申込みや各種電子申請
 12. その他（ ）

- Q10. あなたが日常生活で手助けをしてほしいことがあれば、それはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）
1. 話し相手・相談相手がない
 2. 日常の外出の移動手段（買い物・病院等）
 3. 遠い場所への外出
 4. 高いところの作業（天袋、電球の交換等）
 5. 簡単な修理
 6. 重い物の扱いや運搬（布団、灯油、米、粗大ごみ）
 7. かがむ作業（風呂掃除・雑巾がけ等）
 8. 手先や腕を使う作業（蓋の開閉、ドアノブ等）
 9. 書類整理・事務手続き（役所関係、契約等）
 10. 文字が読みづらい（回覧板、新聞等）
 11. 屋外作業（草刈、庭木の手入れ等）
 12. ごみの分別や集積場まで出に行くこと
 13. 部屋の掃除・大掃除や片付け
 14. 食事のしたく（調理、栄養バランス等）
 15. 衣服の洗濯や片付け
 16. 電化製品やスマートフォン・インターネットの操作
 17. その他（ ）
 18. 特に困っていることはない

- Q11. 【Q10で「1」～「17」を答えた方に伺います。】
回答した困りごとについて、主にどのように対処されていますか。
（あてはまるものすべてに○）
1. 家族や親せきのサポート
 2. 近所の人たちのサポート
 3. 友人や知人のサポート
 4. 有償・無償ボランティアのサポート
 5. シルバー人材センターのサービス
 6. 社会福祉協議会の友愛ホームサービス
 7. 介護保険サービス
 8. ほかの民間事業者のサービス
 9. 自力で何とかしている
 10. その他（ ）
 11. 対処できずに困っている

要介護（要支援）認定を受けている方

- Q12. 地域の中で、自立した生活を続けていくために、どのようなサービスや地域の支え合いがあるかと思えますか。（あてはまるものすべてに○）
1. 食事の支度や片付け
 2. 弁当などの配食
 3. 自宅内の掃除や片付け
 4. 大掃除
 5. 布団干し
 6. 洗濯や片付け
 7. ごみの分別やごみ出し
 8. 買い物（付き添い・代行）
 9. 買い物（移動販売や宅配）
 10. 簡単な修理や電球替え
 11. 庭の手入れ・花や木の水やり
 12. 生活に関する相談・話し相手
 13. 見守り・安否確認
 14. 健康づくりや介護予防の教室（体操など）
 15. サロンなどの交流会、会食
 16. その他（ ）
 17. 必要ない
 18. わからない

- Q13. 成年後見制度※をご存知ですか。
1. 知っている（⇒ Q14へ）
 2. 知らない（⇒ Q15へ）
- ※ 成年後見制度：認知症などで物事の判断が困難になった場合、本人に代わって財産管理や契約行為を行う後見人を選定し、法律的に保護・支援する制度です。後見人には、家族や親族の他に弁護士・司法書士・社会福祉士などが選任されます。

- Q14. 【Q13で「1. 知っている」と答えた方に伺います】
どのようにして知りましたか。（あてはまるものすべてに○）
1. 広報紙やパンフレット
 2. テレビやラジオ、新聞
 3. インターネット
 4. 区役所で聞いた
 5. 社会福祉協議会で聞いた
 6. ケアマネジャーや介護職員などから聞いた
 7. 支援団体の広報活動や住民相談で知った
 8. その他（ ）

- Q15. あなたが、もしがんや脳梗塞などにより長期の療養が必要となった場合、理想として自宅での療養を続けたいと思えますか。（○は1つ）
1. 続けたい（⇒ Q16へ）
 2. 続けたいと思わない（⇒ Q18へ）
 3. わからない（⇒ Q18へ）

- Q16. 【Q15で「1. 続けたい」と答えた方に伺います】
実際に自宅での療養は実現可能だと思いますか。（○は1つ）
1. 可能だと思う（⇒ Q18へ）
 2. 難しいと思う（⇒ Q17へ）
 3. わからない（⇒ Q18へ）

要介護（要支援）認定を受けている方

- Q17. 【Q16で「2. 難しいと思う」と答えた方に伺います。】
 自宅での療養が難しいと思う理由は何ですか。（Oは3つまで）
1. 在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからないから
 2. 急に病状が変わった時の対応が不安だから
 3. 住診してくれる医師がないから
 4. 訪問看護や介護の体制が不十分だから
 5. 家族に負担をかけるから
 6. 看護や介護してくれる家族がいらないから
 7. 療養できる部屋やトイレなどの住環境が整っていないから
 8. お金がかかるから
 9. その他（ ）

- Q18. あなたが病気などで人生の最期を迎えるときが来た場合、どこで過ごしたいと思いますか。（Oは1つ）
1. 自宅
 2. 病院などの医療機関
 3. 特別養護老人ホームなどの福祉施設
 4. 高齢者向け住宅
 5. その他（ ）
 6. わからない

- Q19. 最期を迎えたい場所について、周囲の人と話し合う機会が必要だと感じますか。（Oは1つ）
1. 必要（⇒ Q20へ）
 2. 不要

- Q20. 【Q19で「1. 必要」と答えた方に伺います】
 どなたとお話しようと思いますか（あてはまるものすべてにO）
1. 家族・親族
 2. 友人・知人
 3. 医療・介護従事者
 4. その他（ ）

問6 社会参加について

- Q1. 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。
1. はい
 2. いいえ
- Q2. 新聞を読んでいますか。
1. はい
 2. いいえ
- Q3. 本や雑誌を読んでいますか。
1. はい
 2. いいえ
- Q4. 健康についての記事や番組に関心がありますか。
1. はい
 2. いいえ
- Q5. 友人の家を訪ねていますか。
1. はい
 2. いいえ
- Q6. 家族や友人の相談に乗っていますか。
1. はい
 2. いいえ

要介護（要支援）認定を受けている方

- Q7. 病人を見舞うことができますか。
1. はい
 2. いいえ
- Q8. 若い人に自分から話しかけることがありますか。
1. はい
 2. いいえ
- Q9. 趣味はありますか。ある方はカッコ内に具体的な内容をお書きください。
 ※「はい」と答えた方は、Oを付けた後に、カッコ内に具体的な内容をお書きください。
1. はい（具体的に： ）
 2. 思いつかない
- Q10. 生きがいがありますか。
 ※「生きがいあり」と答えた方は、Oを付けた後に、カッコ内に具体的な内容をお書きください。
1. 生きがいあり（具体的に： ）
 2. 思いつかない
- Q11. 以下のような地域活動にどのくらいの頻度で参加していますか。それぞれあてはまる番号にOをつけてください。（それぞれOは1つ）

	週4回以上	週2〜3回	週1回	月1〜3回	年に数回	参加してはいない
(回答例) ボランティアのグループ	1	2	③	4	5	6
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤（自主グループ、ご近所体操教室など）介護予防のための通いの場	1	2	3	4	5	6
⑥シニアクラブ（老人クラブ）	1	2	3	4	5	6
⑦町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

- Q12. 【Q11①〜⑧で一つでも「1」〜「5」にOをつけた方に伺います】
 活動の場所には、ご自宅から徒歩15分以内のものがありますか。
1. はい
 2. いいえ
- Q13. 【Q11①〜⑧で一つでも「1」〜「5」にOをつけた方に伺います】
 地域活動に参加されている理由は何ですか。（あてはまるものすべてにO）
1. 社会とのつながり
 2. 生きがいのため
 3. 健康のため
 4. 収入を得るため（就労的な活動の場合）
 5. 趣味活動のため
 6. 身近な人との交流のため
 7. 地域貢献のため
 8. その他（ ）

要介護（要支援）認定を受けている方

Q14. 【Q11①～⑥で一つでも「1」～「5」に○をつけた方に伺います】
現在参加されている地域活動について、何か困っていることはありませんか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 活動場所が遠い
2. 金銭的な負担が大きい
3. 活動日が合わない
4. 人間関係に負担を感じる
5. どのような場所であれば活動できるのかわからない
6. 活動の担い手不足や後継者不足
7. 関心のある行事や活動がない
8. その他 ()
9. 特に困っていることはない

Q15. 【Q11①～⑥ですべて「6」に○をつけた方に伺います】
地域活動に参加されていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. ほかの予定が忙しく、時間が取れない
2. 健康状態に自信がない
3. 関心のある行事や活動がない
4. きっかけがない
5. 開催情報や参加方法がわからない
6. 地域外の活動に参加している
7. 地域にかかわりたくない
8. 役割を課されたくない
9. 参加場所が遠く、移動が大変
10. 知らない人との交流が苦手
11. その他 ()
12. 特に理由はな

Q16. 【すべての人に伺います】
あなたが地域活動に参加しやすくなるには、どのような要素があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 活動や団体の情報を紹介してくれる
2. 友人・知人と一緒に参加できる
3. 時間や期間にあまりしぼられない
4. 身近なところに活動できる場がある
5. 申込み等の手続きが不要
6. 世話人やリーダーがいる
7. 参加することでメリットがある(報酬など)
8. 自分の趣味や興味と関連がある
9. 参加費用が無料、または非常に安い
10. 活動資金の補助や援助がある
11. 具体的な役割(自分がどのように活動に貢献や支援ができるのか)が示されている
12. その他 ()
13. 条件によらず参加したくない

Q17. 地域活動の情報について、どのような手段であれば、情報を得やすいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. インターネット(北区内の通いの場や介護サービス事業者等に特化したウェブサイトを)
2. インターネット(東京都全体の通いの場を掲載したウェブサイト)
3. インターネット(LINEやX (旧Twitter)などのSNS)
4. 近所の人や友人からの口コミや紹介
5. 区役所や図書館等の公共施設での掲示
6. 高齢者あんしんセンター(地域包括支援センター)からの情報提供
7. 町会からの情報提供
8. その他 ()

要介護（要支援）認定を受けている方

Q18. まだ参加していない地域活動の中で、どのような活動に参加してみたいですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. ボランティアのグループ
2. スポーツ関係のグループやクラブ
3. 趣味関係のグループ
4. 学習・教養サークル
5. (自主グループ・ご近所体操教室など) 介護予防のための通いの場
6. シニアクラブ(老人クラブ)
7. 町内会、自治会
8. 収入のある仕事
9. その他 ()
10. 特にない

Q19. 地域住民の有志による活動(健康づくりや趣味等)を行い、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加してみたいと思いますか。
(それぞれ○は1つ)

	参加したい	参加してもよい	参加したくない	しないでいい	参加しない
(回答例) 参加者として	1	②	3	4	4
①参加者として	1	2	3	4	4
②企画・運営(お世話役)として	1	2	3	4	4

要介護（要支援）認定を受けている方

問7 たすけあいについて

Q1. あなたと周りの人の「たすけあい」について伺います。
それぞれあてはまるものに○をつけてください。あてはまる人がいない場合は「8. そのような人はいない」に○をつけてください。（それぞれあてはまるものすべてに○）

	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他（ ）	そのような人はいない
(回答例) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人	①	2	3	4	5	⑥	7	8
①あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人	1	2	3	4	5	6	7	8
②反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人	1	2	3	4	5	6	7	8
③あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人	1	2	3	4	5	6	7	8
④反対に、看病や世話をしてくれる人	1	2	3	4	5	6	7	8

Q2. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。
（あてはまるものすべてに○）

1. 自治会・町内会・シニアクラブ（老人クラブ）
2. 社会福祉協議会・民生委員
3. ケアマネジャー
4. 医師・看護師・薬局
5. 高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）・区役所
6. その他（
）
7. そのような人はいない

Q3. 友人関係について伺います。

①友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。（○は1つ）

1. 毎日
2. 週に何度か
3. 月に何度か
4. 年に何度か
5. ほとんどない

②この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。（○は1つ）

※同じ人には何度会っても1人と数えることとします。

1. 0人（いない）
2. 1～2人
3. 3～5人
4. 6～9人
5. 10人以上

要介護（要支援）認定を受けている方

③よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 近所・同じ地域の人
2. 幼なじみ
3. 学生時代の友人
4. 仕事の同僚・元同僚
5. 趣味や関心が同じ友人
6. ボランティア等の活動での友人
7. その他（
）
8. いない

④友人・知人と電話やメール、手紙をやり取りする頻度はどれくらいですか。（○は1つ）

1. 毎日
2. 週に何度か
3. 月に何度か
4. 年に何度か
5. ほとんどない

Q4. あなたは災害時・緊急時に人の手助けができますか。（○は1つ）

1. できる
2. できない
3. わからない

Q5. ご近所の方とはどの程度付き合っていますか。（○は1つ）

1. 日常的に会って話をしたり、たすけあったりできる関係（定期的なごみ出し、買い物などの手伝い等）
2. 頼まれたときにはたすけあえる関係（病気の時の買い物、留守中の植木の水やり等）
3. お互いに訪問しあう程度
4. 立ち話をする程度
5. あいさつをする程度
6. ほとんどつきあいはない

Q6. あなたはご近所の方を信頼できますか。（○は1つ）

1. 信頼できる
2. どちらかと言えば信頼できる
3. どちらかと言えば信頼できない
4. 信頼できない

Q7. あなたは、ご近所の方から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思いますか。（自分なりにできること、会・グループでの役、隣近所のちょっとしたこと、お手伝いやお願ひ事など）（○は1つ）

1. とてもそう思う
2. そう思う
3. ややそう思う
4. あまりそう思わない
5. まったくそう思わない

Q8. 次のような年齢層の方と会話をする機会が、どのくらいありますか。（ご家族や親戚、仕事関係の人は除きます。）（それぞれ○は1つ）

	よくある	ときどきある	あまりない	全くない
(回答例) 子どもや10代の若者	1	②	3	4
1. 子どもや10代の若者	1	2	3	4
2. 20～40代くらいの人	1	2	3	4
3. 50～60代くらいの人	1	2	3	4
4. 70代かそれより高齢の方	1	2	3	4

要介護（要支援）認定を受けている方

問8 健康について

- Q1. 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(Oは1つ)
 1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない
- Q2. あなたは、現在のどの程度幸せですか(「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、あてはまる点数1つにOをつけてください)。
 10点 9点 8点 7点 6点 5点 4点 3点 2点 1点 0点
 とても不幸
- Q3. あなたは、かかりつけ医がいますか。
 1. はい 2. いいえ
- Q4. あなたは、かかりつけ歯科医がいますか。
 1. はい 2. いいえ
- Q5. あなたは、かかりつけ薬剤師・薬局がありますか。
 1. はい 2. いいえ
- Q6. この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。
 1. はい 2. いいえ
- Q7. 生活様式や人付き合いの変化から、孤独や孤立への不安を感じていますか。
 (Oは1つ)
 1. 非常に不安 2. やや不安 3. どちらともいえない
 4. あまり不安ではない 5. まったく不安ではない
- Q8. お酒は飲みますか。(Oは1つ)
 1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない
 4. 以前は飲んでいましたが、今はやめた 5. もともと飲まない
- Q9. タバコは吸っていますか。(Oは1つ)
 1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. ほとんど吸わない
 4. 以前は吸っていたが、今はやめた 5. もともと吸っていない

要介護（要支援）認定を受けている方

- Q10. 終活についてどのように考えていますか。(あてはまるものすべてにO)
 ※終活とは、人生の最期を自分らしく豊かに過ごし、後を託す家族の負担を軽減するための活動のことをいいます。
 1. すでに準備している 2. まだ始めていないが、今後、準備を進めたい
 3. 関心がある 4. 不安に思っている
 5. 終活という言葉や活動を知らない
 6. 関心がない 7. その他 ()
- Q11. 終活の準備にあたって、不安に思っていることを教えてください。
 (あてはまるものすべてにO)
 1. 終活の始め方がわからない 2. 身近に相談したり、頼ったりする人がいない
 3. 終活への十分な資金がない
 4. 将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか
 5. 民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない
 6. 死後事務サービスを、自分の死後に希望する通り適正に行ってももらえるかどうか
 7. どの事業者を選んだら良いのかわからない
 8. 終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない
 9. その他 ()
 10. 特に不安はない

問9 介護保険サービスについて

- Q1. あなたは現在、ケアプランを作成・利用していますか。(Oは1つ)
 1. 現在作成・利用している (⇒ Q2へ) 2. 現在作成していない (⇒ Q3へ)
 3. わからない (⇒ Q4へ)

要介護（要支援）認定を受けている方

Q2. 【Q1で「1. 現在作成・利用している」と答えた方に伺います。】
以下の介護保険サービスを利用していますか。利用している場合は、どの程度満足していますか。（○はそれぞれ1つ）

	利用している			未利用
	満足	やや満足	やや不満足	
(回答例) ケアプラン作成（居宅介護支援）	1	②	3	4
1. ケアプラン作成（居宅介護支援）	1	2	3	4
2. 訪問介護	1	2	3	4
3. 訪問入浴介護	1	2	3	4
4. 訪問看護	1	2	3	4
5. 訪問リハビリテーション	1	2	3	4
6. 医師や薬剤師による療養上の指導（居宅療養管理指導）	1	2	3	4
7. 通所介護（デイサービス）	1	2	3	4
8. 通所リハビリテーション（デイケア）	1	2	3	4
9. 短期入所生活介護（ショートステイ）	1	2	3	4
10. 短期入所療養介護（医療ショートステイ）	1	2	3	4
11. 福祉用具貸与	1	2	3	4
12. 福祉用具販売	1	2	3	4
13. 住宅改修	1	2	3	4
14. 認知症対応型通所介護	1	2	3	4
15. 小規模多機能型居宅介護	1	2	3	4
16. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1	2	3	4
17. 夜間対応型訪問介護	1	2	3	4
18. 看護小規模多機能型居宅介護	1	2	3	4

Q3. 【Q1で「2. 現在作成していない」と答えた方に伺います。】
介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 自分で生活できるから
- 家族の介護で十分だから
- 他人を家に入れたくないから
- 利用者負担が払えないから
- 利用したいサービスが受けられないから
- 利用したいサービスがないから
- サービス内容がわからないから
- 利用方法がわからないから
- 外出するのが大変だから
- 病院に入院して、医療保険の適用となっているから
- その他（ ）
- 特に理由はない

要介護（要支援）認定を受けている方

Q4. 過去1年間に、病院に入院されたことはありますか。
1. はい（⇒ Q5へ） 2. いいえ（⇒ Q6へ）

Q5. 【Q4で「1. はい」と答えた方に伺います。】
退院時に困ったことはありませんか。（あてはまるものすべてに○）

- 在宅生活の維持（お風呂、トイレ、買い物、食事など）
- ケアマネジャーの確保
- 住宅改修
- 退院後の見守りの体制
- 転院先の確保
- 入所施設の確保
- 経済的な負担
- 訪問対応可能な医療機関の確保
- その他（ ）
- 困ったことはない

Q6. 今後増やしてもらいたいと思う福祉サービス（介護保険サービス以外）はどれですか。下のの中から選びください。（あてはまるものすべてに○）

- ちょっとした家事や買い物の援助
- 介護に関する知識と技術、介護サービスの利用方法などを内容とする家族介護講座の開催
- 在宅介護をしている家族が、一日介護を休めるようなサービス
- 家族介護者同士が交流できる家族会等の組織化
- サロンなどの交流会、健康づくり教室（体操など）等、地域の通いの場への支援
- 病院内の介助
- その他（ ）
- 特になし
- わからない

これからの高齢者施策や介護のあり方についてのご意見・ご提案があれば、自由に記入してください。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

3. 在宅介護実態調査

在宅介護実態調査

■ 要介護認定データの活用に関するお願い

- 今回の調査では、より充実した分析を行うために、区が保有している要介護認定データを活用したいと考えております。あなたの要介護認定データを調査に活用することにご同意いただいた場合は、下記の同意書をよくお読みいただいた上で、ご署名をお願いいたします。ご署名いただいた後も、本人の許可なく、目的以外の使用はいたしません。
- ご同意いただけない場合であっても、設問にお答えいただければ、要介護認定データは使用せずにご回答いただいた内容のみを統計的に処理した上で分析に活用いたします。このため、ご署名いただけない場合でも、次ページ以降の設問にはお答えくださるようお願いいたします。
- 調査の趣旨をご理解いただいた上で、ご協力をお願いいたします。

「在宅介護実態調査」における
要介護認定データの活用に係る同意書

私は、「在宅介護実態調査」に係る要介護認定データ（認定調査、介護認定審査会のデータ）の活用について、以下の事項を確認のうえ、同意します。

- 記
- 要介護認定データの利用目的について
要介護認定データ（認定調査、介護認定審査会のデータ）は、北区における高齢者等支援施策の検討の際の基礎資料とすることを目的に使用させていただきます。本人の許可なく、目的以外の使用はいたしません。

以上

東京都北区長 殿

令和 年 月 日

ご署名（ご本人）

在宅介護実態調査

北区地域包括ケア推進計画の
ためのアンケート調査のお願い

＜在宅介護実態調査票＞

日頃より北区の高齢者福祉行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。北区では、「みんなで支え安心してくらせる地域づくり」の実現に向けて高齢者一人ひとりが役割を持ち、いきがいづくり・社会参加につながる取組みに力を入れています。このアンケート調査において高齢者の方等の日常生活への意向と生活実態を把握し、令和9年度からの高齢者保健福祉計画・認知症施策推進計画・介護保険事業計画である「北区地域包括ケア推進計画」を策定してまいります。

ご回答いただいた内容は統計的に処理されたうえで、計画策定のための資料としてのみ活用され、その他の目的で使用されることは一切ありません。大変忙しいところ恐縮ですが、この調査の趣旨を何卒ご理解いただき、調査にご協力いただけますようお願いいたします。

令和7年12月 東京都北区 福祉部

ご記入にあたって

- ①この調査票で「ご本人」とするのは、あて名にお名前のある方のことです。
- ②この調査票は、令和7年12月1日現在の状況でお答えください。
- ③封筒のあて名ご本人が回答できない場合は、ご家族や介護者などがお答えください。該当しない項目や、回答したくない項目は回答していただくなくても差し支えありません。
- ④ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてお答えください。回答をご記入いただく設問もありますので、その場合は設問の指示に従ってください。
- ⑤返信用封筒には、調査票以外の書類等を同封しないでください。
- ⑥記入した調査票は、2つ折りにし、同封の「返信用封筒」に入れて、切手を貼らずに

令和7年12月24日（水）までに、郵便ポストにご投函ください。

【調査実施主体】

北区 福祉部 高齢福祉課・長寿支援課・介護保険課

【お問合せ先】北区地域包括ケア アンケート調査コールセンター

電話：0800-222-8744（平日9:00～17:00 受付）

（株式会社サバーバイリサーチセンターが北区から受託しています。）



▲北区公式HPに調査票を掲載しています。

A票 調査対象者様ご本人について

Q1. 現在、この調査票に回答される方はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 調査対象者本人
2. 主な介護者となっている家族・親族
3. 主な介護者以外の家族・親族
4. その他

Q2. 世帯類型について、ご回答ください。(○は1つ)

1. 単身世帯
2. 配偶者・パートナーのみ世帯
3. その他

Q3. ご本人の性別について、ご回答ください。(○は1つ)

1. 男性
2. 女性
3. その他

Q4. ご本人の年齢について、ご回答ください。(○は1つ)

1. 65歳未満
2. 65～69歳
3. 70～74歳
4. 75～79歳
5. 80～84歳
6. 85～89歳
7. 90歳以上

Q5. ご本人の要介護度について、ご回答ください。(○は1つ)

1. 要支援1
2. 要支援2
3. 要介護1
4. 要介護2
5. 要介護3
6. 要介護4
7. 要介護5
8. わからない

Q6. 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。(○は1つ)

1. 入所・入居は検討していない
2. 入所・入居を検討している
- 3.すでに入所・入居申込みをしている

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

Q7. ご本人(調査対象者)が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。(あてはまるものすべてに○)

1. 脳血管疾患(脳卒中)
2. 心疾患(心臓病)
3. 悪性新生物(がん)
4. 呼吸器疾患
5. 腎疾患(透析)
6. 筋骨格系疾患(骨粗しょう症、骨柱管狭窄症等)
7. 膠原病(関節リウマチ含む)
8. 変形性関節疾患
9. 認知症
10. パーキンソン病
11. 難病(パーキンソン病を除く)
12. 糖尿病
13. 眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)
14. その他
15. なし
16. わからない

Q8. 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用していますか。

1. 利用している (⇒ Q9へ)
2. 利用していない (⇒ Q10へ)

Q9. Q8で「1. 利用している」と回答した方に伺います。

以下の介護保険サービスについて、利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は、「0回」または「1. 利用していない」を選択してください。(それぞれ1つに○)

	1週間あたりの利用回数(それぞれ1つに○)					
	利用して いない	週1回 程度	週2回 程度	週3回 程度	週4回 程度	週5回 以上
(※回答例) ●●●サービス	0回	1回	2回	3回	4回	5回 以上
①訪問介護 (ホームヘルプサービス)	0回	1回	2回	3回	4回	5回 以上
②訪問入浴介護	0回	1回	2回	3回	4回	5回 以上
③訪問看護	0回	1回	2回	3回	4回	5回 以上
④訪問リハビリテーション	0回	1回	2回	3回	4回	5回 以上
⑤通所介護(デイサービス) (地域密着型通所介護を含む)	0回	1回	2回	3回	4回	5回 以上
⑥通所リハビリテーション (デイケア)	0回	1回	2回	3回	4回	5回 以上
⑦夜間対応型訪問介護 (※訪問のあった回数を回答)	0回	1回	2回	3回	4回	5回 以上

利用の有無(1つに○)

⑧定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1. 利用していない	2. 利用した
⑨小規模多機能型居宅介護	1. 利用していない	2. 利用した
⑩看護小規模多機能型居宅介護	1. 利用していない	2. 利用した

1か月あたりの利用日数(1つに○)

利用して いない	利用して いない	月1～7日 程度	月8～14日 程度	月15～21日 程度	月22日 以上
	0回	1～7日	8～14日	15～21日	22日以上

1か月あたりの利用回数(1つに○)

利用して いない	利用して いない	月1回 程度	月2回 程度	月3回 程度	月4回 程度
	0回	1回	2回	3回	4回

在宅介護実態調査

- Q10. Q8で「2. 利用していない」と回答した方に伺います。
介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
1. 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない
 2. 本人にサービス利用の希望がない
 3. 家族が介護をするため必要ない
 4. 以前、利用していたサービスに不満があった
 5. 利用料を支払うのが難しい
 6. 利用したいサービスが利用できない、身近にない
 7. 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため
 8. サービスを受けたいが手続さや利用方法が分からない
 9. その他 ()

※ここからは、再びすべての方に伺います。

- Q11. 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。(あてはまるものすべてに○)
1. 配食
 2. 調理
 3. 掃除・洗濯
 4. 買い物 (宅配は含まない)
 5. ゴミ出し
 6. 外出同行 (通院、買い物など)
 7. 移送サービス (介護・福祉タクシー等)
 8. 見守り、声かけ
 9. サロンなどの定期的な通いの場
 10. その他 ()
 11. 利用していない
- ※ 総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

- Q12. 今後の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス (現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む) について、ご回答ください。
(あてはまるものすべてに○)
1. 配食
 2. 調理
 3. 掃除・洗濯
 4. 買い物 (宅配は含まない)
 5. ゴミ出し
 6. 外出同行 (通院、買い物など)
 7. 移送サービス (介護・福祉タクシー等)
 8. 見守り、声かけ
 9. サロンなどの定期的な通いの場
 10. その他 ()
 11. 特になし
- ※ 介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

- Q13. ご本人 (調査対象者) は、現在、訪問診療を利用していますか。

1. 利用している
 2. 利用していない
- ※ 訪問歯科診療や居宅療養管理指導等を含みません。

在宅介護実態調査

- Q14. ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか (同居していない子どもや親族等からの介護を含む)。(○は1つ)
1. ない (⇒ 10ページの自由回答へ。B票は回答不要です)
 2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない
 3. 週に1~2日ある
 4. 週に3~4日ある
 5. ほぼ毎日ある

次ページの日票へ
お進みください

- Q14で「2.」~「5.」を選択された場合は、「主な介護者」の方にB票へのご回答・ご記入をお願いします。
- 「主な介護者」の方のご回答・ご記入が難しい場合は、ご本人様 (調査対象者様) にご回答・ご記入をお願いします (ご本人様のご回答・ご記入が難しい場合は、無回答で結構です)。

在宅介護実態調査

B票 主な介護者の方について

Q1. ご家族やご親族の中で、ご本人（調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。（あてはまるものすべてに○）

1. 主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
6. わからない

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

Q2. 主な介護者の方は、どなたですか。（○は1つ）

1. 配偶者・パートナー
2. 子
3. 子の配偶者・パートナー
4. 孫
5. 兄弟・姉妹
6. その他（ ）

Q3. 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。（○は1つ）

1. 男性
2. 女性
3. その他

Q4. 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。（○は1つ）

1. 20歳未満
2. 20代
3. 30代
4. 40代
5. 50代
6. 60代
7. 70代
8. 80歳以上
9. わからない

Q5. 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。（あてはまるものすべてに○）

【身体介護】

1. 日中の排泄
 2. 夜間の排泄
 3. 食事の介助（食べる時）
 4. 入浴・洗身
 5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等）
 6. 衣服の着脱
 7. 屋内の移乗・移動
 8. 外出の付き添い、送迎等
 9. 服薬
 10. 認知症状への対応
 11. 医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）
- 【生活援助】
12. 食事の準備（調理等）
 13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）
 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き
- 【その他】
15. その他（ ）
 16. わからない

在宅介護実態調査

Q6. 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。（○は3つまで）

【身体介護】

1. 日中の排泄
2. 夜間の排泄
3. 食事の介助（食べる時）
4. 入浴・洗身
5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等）
6. 衣服の着脱
7. 屋内の移乗・移動
8. 外出の付き添い、送迎等
9. 服薬
10. 認知症状への対応
11. 医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）

【生活援助】

12. 食事の準備（調理等）
13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き

【その他】

15. その他（ ）
16. 不安に感じていることは、特になし
17. 主な介護者に確認しないとわからない

Q7. 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。（○は1つ）

1. フルタイムで働いている
2. パートタイムで働いている
3. 働いていない
4. 主な介護者に確認しないと、わからない

Q8・9・10にお進みください

Q11にお進みください

※ 「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」、「パートタイム」のいずれかを選択してください。

Q8. Q7で「1.」「2.」と回答した方（働いている方）に伺います。

主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていただけますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

在宅介護実態調査

Q9. Q7で「1.」「2.」と回答した方（働いている方）に伺います。

主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(Oは3つまで)

1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない
2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実
3. 制度を利用しやすい職場づくり
4. 労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）
5. 働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）
6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供
7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置
8. 介護をしている従業員への経済的な支援
9. その他（ ）
10. 特になし
11. 主な介護者に確認しないと、わからない

Q10. Q7で「1.」「2.」と回答した方（働いている方）に伺います。

主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(Oは1つ)

1. 問題なく、続けていける
2. 問題はあるが、何とか続けていける
3. 続けていくのは、やや難しい
4. 続けていくのは、かなり難しい
5. 主な介護者に確認しないと、わからない

Q11. 主な介護者の方の体調は、介護を始める前と比べて変わりましたか。(Oは1つ)

1. 健康を維持している
2. 少し健康でなくなった
3. 健康でなくなった

Q12. Q11で「2. 少し健康でなくなった」、「3. 健康でなくなった」と回答した方にお伺いします。具体的にどのような症状がありますか。

【例】(眠れない、憂鬱な気分、腰痛、肩がこる等)

Q13. 主な介護者の方は、現在何人のケア（介護・育児等）を行っていますか。(Oは1つ)

1. 1人
2. 2人 (⇒ Q14^)
3. 3人 (⇒ Q14^)
4. 4人以上 (⇒ Q14^)

Q14. Q13で「2.」「3.」「4.」と回答した方に伺います。

主な介護者の方は何のケアを行っていますか。(あてはまるものすべてにO)

1. 介護
2. 育児
3. 障害者（児）のケア
4. その他

在宅介護実態調査

Q15. 介護者ご自身が受けた支援はありますか。(あてはまるものすべてにO)

1. 介護者が気軽に休むがとれるサービス（一時入所など）
2. 介護者が旅行などの休養がとれるサービス（一定期間の入所など）
3. 介護者の身体的負担（腰痛や肩こり等）を軽減するサービス（マッサージ等）
4. 介護の悩みを個別に相談できるサービス（相談会など）
5. 介護の悩みを個別に相談できるサービス（電話や自宅等への訪問）
6. 介護者同士で話かできる機会の提供
7. 介護の技術が学べる研修・講座
8. 介護に関する定期的な情報提供
9. その他（ ）
10. 特になし

※ すべての方に伺います。

これからの高齢者施策や介護のあり方についてのご意見・ご提案があれば、ご自由に記入してください。

以上で質問は終わります。ご協力ありがとうございました。

4. 55歳以上64歳以下の方の調査

55歳以上64歳以下調査

WEB回答用ID印字

北区地域包括ケア推進計画の ためのアンケート調査のお願い

＜55歳以上64歳以下の方の調査票＞

日頃より北区の高齢者福祉行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。北区では、「みんなで支え安心しつくる地域づくり」の実現に向けて高齢者一人ひとりが役割を持ち、いきがいづくり・社会参加につながる取組みに力を入れています。

このアンケート調査において今後高齢期を迎える方等の日常生活への意向と生活実態を把握し、令和9年度からの高齢者保健福祉計画・認知症施策推進計画・介護保険事業計画である「北区地域包括ケア推進計画」を策定してまいります。

この調査は、無記名郵送方式でご回答いただけますので、ご回答された方が特定されたり、個人の回答内容が明らかにされたりすることはありません。ご回答いただいた内容は統計的に処理されたうえで、計画策定のための資料としてのみ活用され、その他の目的で使用されることは一切ありません。

大変お忙しいところ恐縮ですが、この調査の趣旨を何卒ご理解いただき、調査にご協力いただけますようお願いいたします。

令和7年12月 東京都北区 福祉部

ご記入にあたって

- ①この調査票で「あなた」とするのは、あて名ご本人のことです。
- ②この調査票は、令和7年12月1日現在の状況でお答えください。
- ③該当しない項目や、回答したくない項目は回答していただく必要もありません。
- ④ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてお答えください。「その他」に回答する場合は、その内容を()内にご記入ください。回答をご記入いただく設問もありますので、その場合は設問の指示に従ってください。
- ⑤この調査票や返信用封筒には名前や住所、電話番号は書かないでください。また、調査票以外の書類等を同封しないでください。
- ⑥本調査はインターネットと紙の調査票のいずれかの方法で回答が可能です。いずれかの方法で **令和7年12月24日(水)まで**にご回答ください。
- ⑦紙で回答いただく場合、調査票を2つ折りにし、同封の「返信用封筒」に入れて、切手を貼らずにポスト投入してください。

【調査実施主体】

北区 福祉部 高齢福祉課・長寿支援課・介護保険課

【お問合せ先】北区地域包括ケア アンケート調査コールセンター

電 話：0800-222-8744 (平日9:00～17:00受付)

(株式会社サバーイリサーチセンターが北区から受託しています。)



▲北区公式HPに調査票を掲載しています。

55歳以上64歳以下調査

問1 仕事に対する考え方について

- Q1. あなたは現在、収入を伴う仕事（パート・アルバイト、家業の手伝い等を含む。）をしていますか。(○は1つ)
1. 週に35時間以上働いている (⇒ Q2ハ)
 2. 短時間(週35時間未満)、または不定期に働いている (⇒ Q2ハ)
 3. 仕事はしていないが、探している (⇒ Q3ハ)
 4. 仕事をしておらず、探していない (⇒ Q3ハ)

- Q2. [Q1で「1」「2」と答えた方に伺います]
あなたの現在の雇用状況は、次のどれにあたりますか。(あてはまるものすべてに○)

【自営の仕事】

1. 自営業主・自由業
2. 家族従業 (家業などの手伝い)
3. 正規職員・正規従業員
4. パート・アルバイト・契約社員
5. 嘱託
6. 人材派遣企業の派遣社員
7. その他の雇用者

【団体等役員・その他】

8. 会社・団体等の職員
9. 家庭での内職
10. その他 ()

- Q3. あなたは65歳以降も働きたいですか。(○は1つ)

1. 働きたい (⇒ Q4ハ)
2. 働きたくない (⇒ 問2Q1ハ)

Q3で「1. 働きたい」と答えた方はQ4からQ8まで回答をお願いします

- Q4. [Q3で「1. 働きたい」と答えた方に伺います]

あなたは何歳まで働きたいですか。(フルタイムではなく、1日2時間や週1～2日など、短時間勤務や勤務日数が少ない仕事も含みます。)(○は1つ)

1. 66～70歳まで
2. 71～75歳まで
3. 76～80歳まで
4. 働けるうちは働きたい

- Q5. [Q3で「1. 働きたい」と答えた方に伺います]

どのような働き方をしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

1. フルタイム勤務 (週35時間以上)
2. 短時間勤務 (週35時間未満、非常勤・嘱託・パート・アルバイト等)
3. 会社経営、自営業を継続
4. 起業、独立開業
5. 自由業 (文筆業等)
6. シルバー人材センター
7. その他 ()

- Q6. [Q3で「1. 働きたい」と答えた方に伺います]

働きたいのは、どのような理由からですか。(○は3つまで)

1. 生活費を得るため
2. 借金・ローンの返済
3. 小遣いを得るため
4. 将来への蓄え(預貯金)のため
5. 健康のため
6. いきがいを得るため
7. 社会貢献・社会とのつながり
8. 時間に余裕があるため
9. 家族・知人などの勤め
10. 持っている技術や資格を活かすため
11. 何もしていないと退屈するため
12. その他 ()

55歳以上 64歳以下調査

- Q7. 【Q3で「1. 働きたい」と答えた方に伺います】
月にどのくらいの報酬がほしいですか。(〇は1つ)
- 1万円未満
 - 1万円以上3万円未満
 - 3万円以上5万円未満
 - 5万円以上10万円未満
 - 10万円以上20万円未満
 - 20万円以上30万円未満
 - 30万円以上
 - 交通費程度
 - わからない
- Q8. 【Q3で「1. 働きたい」と答えた方に伺います】
65歳以降も仕事を続けるうえで不安に感じていることはありませんか。(〇は3つまで)
1. 健康・体力面
 2. 自分の経験や技術を活かせる仕事に就けるか
 3. 希望する収入が得られるか
 4. 希望する勤務時間の仕事があるか
 5. 今まで働いてきた場所で引き続き雇用してもらえるか
 7. 新しい職場環境に慣れることができるか
 8. 通勤
 9. 家事や孫の世話との両立を図れるか
 10. 介護との両立を図れるか(配偶者・親などの介護)
 11. 自身の通院や健康管理との両立を図れるか
 12. 地域活動やボランティアとの両立を図れるか
 13. 特になし

問2 地域とのつながり、社会参加について

- Q1. 現在、住んでいる地域にかかわらず、下記の活動に参加していますか。
(あてはまるものすべてに〇)
1. 町内会・自治会の活動(企画・運営など主体的な活動として参加)
 2. 町内会・自治会の活動(お祭りや公園清掃などの行事に案内があれば参加する程度)
 3. ボランティア活動
 4. NPO活動
 5. スポーツ関係のグループやクラブ
 6. 学習・教養サークル(語学・絵画・料理等)
 7. 習い事
 8. 特になし(⇒ Q5ハ)
- Q2. 【Q1で「1」～「7」と答えた方に伺います】
上記のグループや団体の活動には、どのくらいの頻度で参加していますか。
(〇は1つ)
1. 週1回以上
 2. 月1～3回
 3. 月1回未満
 4. この1年間は参加せず
- Q3. 【Q1で「1」～「7」と答えた方に伺います】
活動場所はどこですか。複数の活動を行っている場合は最も力を入れている活動についてお答えください。(〇は1つ)
1. 自宅の近く(徒歩15分以内)
 2. 北区内(1を除く)
 3. 東京23区内(北区外)
 4. 東京都内(23区外)
 5. 東京都外
- Q4. 【Q1で「1」～「7」と答えた方に伺います】
現在、参加している活動を始めたきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに〇)
1. 自分がやりたいことだったから
 2. 友人・知人からの誘い
 3. 活動している方からの誘い
 4. 家族に勧められた
 5. 区報・ホームページを見た
 6. 活動場所が近くにあった
 7. その他()

55歳以上 64歳以下調査

- Q5. 【Q1で「8. 特になし」と答えた方に伺います】
活動に参加しない理由は何か。(〇は3つまで)
1. 活動に興味がない(参加したい活動がない)
 2. 仕事で時間が足りない・あわない
 3. 家庭の事情(家事・介護など)で時間が足りない・あわない
 4. 他にやりたいことがある
 5. 何がしたいか、何をしたいかわからない
 6. どのような活動が行われているかわからない
 7. 参加するのが面倒
 8. きっかけがない
 9. 一人で参加することにためらう
 10. 人と付き合うのがおっくう
 11. 健康・体力に自信がない
 12. 費用がかかる
 13. その他()
- Q6. 日頃、身近な地域に住む方と、どの程度お付き合いをしていますか。(〇は1つ)
1. 会いさつをする程度
 2. 立ち話をする程度
 3. 互いに訪問し合う関係
 4. ほとんど付き合いはない
- Q7. あなたはご近所の方を信頼できますか。(〇は1つ)
1. 信頼できる
 2. どちらかと言えば信頼できる
 3. どちらかと言えば信頼できない
 4. 信頼できない
- Q8. 近所付き合いや、地域活動・余暇活動の中で、次のような年齢層の方と会話をする機会が、どのくらいありますか。(ご家族や親戚、仕事関係の人は除きます。
(〇は1つずつ)

	よくある	ときどきある	あまりない	全くない
(回答例) 子どもや10代の若者	1	2	3	4
1. 子どもや10代の若者	1	2	3	4
2. 20～40代<50代の人	1	2	3	4
3. 50～60代<50代の人	1	2	3	4
4. 70代かそれより高齢の方	1	2	3	4

- Q9. あなたは65歳以降、あなたの住んでいる地域との関わりをどの程度持ちたいですか。
(〇は1つ)
1. 主体的に関わっていききたい
 2. 近所との関係性を維持する程度に関わりを持ちたい
 3. 興味があるものについては関わっていききたい
 4. 関わらなくていい

Q10. あなたは、65歳以降あなたの住んでいる地域における活動でやってみたいことはありますか。(○は3つまで)

1. 町内会・自治会の活動(企画・運営など主体的な活動として参加)
2. 町内会・自治会の活動(お祭りや公園清掃などの行事に案内があれば参加する程度)
3. ボランティア活動
4. NPO活動
5. スポーツ関係のグループやクラブ
6. 学習・教養サークル
7. 習い事
8. シニアクラブ(老人クラブ)
9. 特になし
10. その他()

Q11. 高齢期を元気に過ごすためには、社会とのつながりを持つことが大切と言われておりますが、地域活動等に参加するために必要だと思っことは何ですか。(○は3つまで)

1. 自分が興味のある活動がある
2. 時間的な拘束が少ない
3. 一緒に参加する人がいる
4. 誰かが声をかけてくれる
5. 定年を迎える前に区から案内が届く
6. 区報への掲載
7. 説明会など理解を深める機会がある
8. 活動ができる施設がある
9. 活動場所が自宅から近い
10. これまでの知識、経験、技術が生かせる
11. 費用がかからない
12. 少額でも参加したことによる対価(お金等)が得られる
13. その他()

Q12. あなたは高齢期の生活に不安を感じていることはありますか。不安に感じていることはどのようなことですか。(○は3つまで)

1. 特に不安に感じていることはない
2. 生活資金(給料・年金など)
3. 何をしても過ごして良いかわからない
4. いきがない
5. 地域との交流がない
6. 自分や家族の健康
7. 自分が認知症や寝たきりなどにより介護が必要になる
8. 介護をしてくれる人がいない
9. 気軽に相談できる人がいない
10. 地震等の災害時の備え
11. 子の生活面
12. 配偶者の介護
13. 親の介護
14. その他()

Q13. 認知症について、あなたはどのような印象を持っていますか。(○はいくつでも)

1. 何もわからなく(できなく)なってしまう、かわいそうだと思う
2. 急に怒ったりするので、怖いと感じる
3. 話すことや行動の意味がわからず理解しにくい
4. 声かけなど、手助けしたいと思う
5. 身近に感じる
6. できれば関わりたくない
7. その他()
8. 特に何も感じない

Q14. あなた自身が認知症になったら、周囲に知られてもよいと思いますか。(○は1つ)

1. 知られてもよい
2. 知られたくない
3. その他()
4. わからない

Q15. 「北区認知症あんしんナビ」を知っていますか。

1. はい
2. いいえ

Q16. いきいきとした高齢期を過ごすために、今から取り組んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 食生活に気をつけている
2. 運動不足にならないよう気をつけている
3. むし歯や歯周病にならないよう気をつけている
4. 定期的に健康診断を受けると健康状態の把握に気をつけている
5. 適正体重の維持に気をつけている
6. 飲酒の量や回数などに気をつけている
7. 禁煙や節煙について気をつけている
8. 貯蓄
9. 親族との付き合いの維持
10. 近隣の方との信頼関係の構築
11. 地域活動等への参加
12. 趣味等いきがいを持って活動
13. 特に取り組んでいることはない
14. その他()

Q17. 終活についてどのように考えていますか。(あてはまるものすべてに○)
※終活とは、人生の最期を自分らしく豊かに過ごし、後を託す家族の負担を軽減するための活動のことをいいます。

1. すでに準備している
2. まだ始めていないが、今後、準備を進めたい
3. 関心がある
4. 不安に思っている
5. 終活という言葉や活動を知らない
6. 関心がない
7. その他()

Q18. 終活の準備にあたって、不安に思っていることを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 終活の始め方がわからない
2. 身近に相談したり、頼ったりする人がいない
3. 終活への十分な資金がない
4. 将来的に判断能力が低下したとき、自分が望む終活が適切に進められるかどうか
5. 民間事業者の死後事務サービス等の内容・金額などが明確でない、または理解できるような説明がない
6. 死後事務サービスを、自分の死後に希望する通りの適正に行ってもらえるかどうか
7. どの事業者を選んだら良いのか分からない
8. 終活を準備しても、事前に内容を伝える人がいない
9. その他()
10. 特に不安はない

55歳以上64歳以下調査

問3 高齢者あんしんセンターについて

Q1. あなたは高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）を知っていますか。

（あてはまるものすべてに○）

- 1. 名前を聞いたことがある
- 2. どこにあるか知っている
- 3. センターの役割を知っている
- 4. 相談や連絡をしたことがある
- 5. 知らない、聞いたことがない

Q2. あなたのご家族または困っている高齢者を見かけた時にどこに相談しますか。

（○は優先度が高いもの3つまで）

- 1. 家族
- 2. 知人・友人
- 3. 区役所
- 4. 高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）
- 5. ケアマネジャー
- 6. 医療機関
- 7. 民生委員
- 8. 社会福祉協議会
- 9. 警察
- 10. その他（ ）

<高齢者あんしんセンターとは>

高齢者やそのご家族、地域住民からの介護や福祉に関するさまざまな相談に対応する総合相談窓口です。一般的には地域包括支援センターと言われておりますが、北区では高齢者あんしんセンターと称しております。現在区内に16ヶ所あります。お困りのことがありましたらご相談ください。

問4 ご家族や生活状況について

Q1. あなたの性別をお答えください。

- 1. 男性
- 2. 女性
- 3. その他

Q2. あなたの年齢をお答えください。

		歳
--	--	---

Q3. あなたの住まいはどちらですか。記入例を参考に、下の欄にお書きください。

【記入例】

町名	王子本町	1	丁目
町名			丁目

※ ご住所に「丁目」がない場合は町名だけでかまいません。

55歳以上64歳以下調査

Q4. 同居のご家族を教えてください（あなたから見た続柄をお答えください）。

（あてはまるものすべてに○）

- 1. 一人暮らし（一緒に住んでいる人はいない）
- 2. 配偶者・パートナー
- 3. 息子
- 4. 娘
- 5. 子の配偶者（婿、嫁）
- 6. あなたの父
- 7. あなたの母
- 8. 配偶者・パートナーの父
- 9. 配偶者・パートナーの母
- 10. 祖父
- 11. 祖母
- 12. 孫
- 13. 兄弟姉妹
- 14. その他（ ）

Q5. あなたの収入は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 本人の仕事による収入
- 2. 同居家族の収入
- 3. 年金
- 4. 預貯金の切り崩し
- 5. 利子・配当・家賃・不動産収入
- 6. 仕送り・援助
- 7. 生活保護
- 8. その他（ ）

Q6. 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入（税込）総額はどれくらいですか。

（○は1つ）

- 1. 100万円未満
- 2. 100万円以上200万円未満
- 3. 200万円以上300万円未満
- 4. 300万円以上500万円未満
- 5. 500万円以上700万円未満
- 6. 700万円以上1,000万円未満
- 7. 1,000万円以上
- 8. わからない・答えたくない

Q7. 現在のあなた（あて名のご本人）の健康状態は、いかがですか。（1つに○）

- 1. とてもよい
- 2. まあよい
- 3. あまりよくない
- 4. よくない

これからの健康福祉施策や地域づくりのあり方等についてのご意見・ご提案があれば、自由に記入してください。

以上で質問は終わります。ご協力ありがとうございました。

5. 事業所調査

事業所調査

WEB回答用ID印字

北区地域包括ケア推進計画の ためのアンケート調査のお願い

< 介護サービス事業所 調査票 >

日頃より北区の高齢者福祉行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。北区では、「みんなが支え安心してくらせる地域づくり」の実現に向けて高齢者一人ひとりが役割を持ち、いきがいつくり・社会参加につながる取組みに力を入れています。このアンケート調査によって、区内で介護保険サービスを提供されているすべての事業所の、事業展開の現状と今後の、介護保険制度の見直しなどに関するご意見・ご要望等を聞き、令和9年度からの高齢者保健福祉計画・認知症施策推進計画・介護保険事業計画である「北区地域包括ケア推進計画」を策定してまいります。ご回答いただいた内容は統計的に処理されたくらうえで、計画策定のための資料としてのみ活用され、その他の目的で使用されることは一切ありません。大変お忙しいところ恐縮ですが、この調査の趣旨を何卒ご理解いただき、調査にご協力いただけますようお願いいたします。

令和7年12月 東京都北区 福祉部

ご記入にあたって

- ①調査票は、送付した封筒の宛名に記載されているサービス種別ごとに発送しています。複数の調査票をお届けした事業所においては、お手数ですが、サービス種別ごとに調査票を作成してください。
- ②この調査票は、令和7年12月1日現在の状況でお答えください。
- ③ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてお答えください。「その他」に回答する場合は、その内容を（ ）内にご記入ください。回答をご記入いただく設問もありませんので、その場合は設問の指示に従ってください。
- ④本調査はインターネットと紙の調査票のいずれかの方法で回答が可能です。いずれかの方法で **令和7年12月24日（水）まで**にご回答ください。
- ⑤紙で回答いただく場合、調査票を2つ折りにし、同封の「返信用封筒」に入れて、切手を貼らずにポスト投函してください。

【調査実施主体】

北区 福祉部 高齢福祉課・長寿支援課・介護保険課

【お問合せ先】北区地域包括ケア アンケート調査コールセンター

電話：0800-222-8744（平日9:00～17:00受付）

（株式会社サバーイリサーチセンターが北区から受託しています。）



▲北区公式HPに調査票を掲載しています。

事業所調査

問1 貴事業所について

Q1. 事業所番号を記入してください。

--	--	--	--	--	--

Q2. 貴事業所の、過去3年間（令和4年度～令和6年度）の事業採算について教えてください。（各年度、○は1つ）

	黒字	収支均衡	赤字	わからない	該当しない
(回答例)	1	②	3	4	5
ア. 令和6年度（2024年度）	1	2	3	4	5
イ. 令和5年度（2023年度）	1	2	3	4	5
ウ. 令和4年度（2022年度）	1	2	3	4	5

問2 人材の確保・育成について

Q1. 現在、貴事業所が求める質（資格・経験・スキル・役割遂行力、介護に対する理念等）を十分に満たす人材を確保できていますか。（それぞれ、あてはまるもの1つに○）

	確保できていない	やや不足している	不足している
(回答例)	①	2	3
ア. 直接的にサービス提供に携わる人材	1	2	3
イ. マネジメント人材	1	2	3

Q2. 貴事業所では地域人材を活用していますか。（○はいくつでも）

1. 地域ボランティアを活用
2. 介護補助員（介護助手）を活用
3. 退職者や専門職OBを活用
4. 学生ボランティア・インターの受入れ
5. その他（ ）
6. 特に活用していない

Q3. 地域との連携をより充実させるために、どのような取組みが必要だと感じますか。（○は3つまで）

1. 定期的な意見交換会・情報共有の場の設置
2. 顔の見える関係づくりの機会
3. 連携を調整するコーディネーターの配置
4. ICTの活用による情報共有
5. 地域包括支援センターの調整力強化
6. 地域住民・ボランティアへの理解促進・啓発
7. 行政による支援（補助金・人材育成等）
8. その他（ ）

事業所調査

Q4. 人材の確保に向けて、どのような公的支援があればよいと思えますか。

(Oは3つまで)

1. 介護未経験者に対する資格取得のための費用助成
2. 介護の仕事の魅力発信等の普及啓発
3. 介護の職場体験
4. 介護未経験者向けに介護に関する入門的研修の実施
5. 学生の就職につながるような大学・専門学校等との連携強化
6. 短時間・単発勤務（スキマバイトなど）の活用経費補助
7. 介護助手の活用経費補助
8. 処遇改善手当の充実
9. 採用力向上のための講座、アドバイス
10. その他（ ）

Q5. 人材の定着に向けて、どのような公的支援があればよいと思えますか。

(Oは5つまで)

1. 新規就業者を対象とした介護技術等に関する合同研修
2. 新規就業者を対象としたキャリアプランに関する合同研修
3. 合同入社の実施
4. 入職〇年目の職員交流会
5. 中堅職員を対象とした介護技術等に関する合同研修
6. 中堅職員を対象としたキャリアプランに関する合同研修
7. 永年勤続表彰
8. 管理者向け研修の充実
9. リーダー向け研修の実施
10. 事業所間交流の実施
11. ICT導入・活用の支援
12. 生産性向上支援
13. ハラスメント対策の徹底（カスハラ・パワハラ・セクハラ含む）
14. 個別の職場・事業所へのアドバイザーの派遣（職員の働き方等に関する助言等）
15. 子育て中の職員に対する処遇改善にかける補助
16. 地域住民への共生社会の理解促進（介護人材需要の抑制につなげる）
17. その他（ ）

問3 事業所運営の状況や課題について

Q1. 貴事業所の今後10年間にわたる事業展開の意向についてお答えください。(Oは1つ)

1. 現状維持
2. 拡大・新規展開したい
3. 縮小したい (⇒ Q2ハ)
4. 休止・廃止したい (⇒ Q2ハ)

Q2. 【Q1で「3. 縮小したい」「4. 休止・廃止したい」と答えた事業所に伺います】事業展開を縮小・休止・廃止する意向である理由は何ですか。(Oはいくつでも)

1. 人材の確保が困難であるため
2. 利用者の確保が困難であるため
3. 人件費の負担が大きいため
4. 事業所の維持が困難なため
5. 他事業所との競争が激しいため
6. その他（ ）

事業所調査

Q3. 貴事業所の運営にあたり、不安なことや課題と感じていることがあれば教えてください。(Oはいくつでも)

1. 人材の確保・育成・定着
2. 事業資金の確保
3. 利用者（新規・継続）の確保
4. 苦情や事故への対応
5. 介護保険制度や介護報酬の改定
6. 利用者のニーズの多様化・複雑化への対応
7. 事業者間の競争の激化
8. 地代や燃料費等、物価の高騰への対応
9. その他（ ）
10. 特になし

問4 サービスの質の向上について

Q1. 貴事業所では、サービスの質の向上のために、どのような取り組みを行っていますか。(Oはいくつでも)

1. 第三者評価の実施
2. 専門家、コンサルタントの活用
3. ISO等品質管理に対する認証取得
4. ヒヤリハット、苦情事例等の活用・蓄積
5. 事業所や法人内部での研修・勉強会
6. 手引書の作成と見直し
7. 外部研修会への出席
8. スタッフの資格取得への支援
9. 事業者間の交流
10. 事業者連絡会への出席
11. 利用者やその家族への満足度調査の実施
12. 介護情報の公表
13. 先輩による現場への同行（OJT）
14. ICTや介護ロボットの導入
15. その他（ ）
16. 特に行っていない

Q2. 貴事業所の特色や強みを対外的にアピールするために、「現在、実施していること」があれば教えてください。(Oはいくつでも)

1. 見学会・施設見学の実施
2. 介護体験や実習の受付
3. パンフレットやリーフレットの作成
4. 定期的な広報誌の作成
5. ホームページやSNSを活用した情報発信
6. 動画による広報（例：事業所紹介PR動画）
7. 地域イベントでの出展や参加
8. 区の広報誌への掲載
9. ボランティア募集・地域人材との連携
10. その他（ ）
11. 現在、実施していることはない

Q3. 貴事業所の特色や強みを対外的にアピールするために、「今後、実施したいこと」があれば教えてください。(Oはいくつでも)

1. 見学会・施設見学の実施
2. 介護体験や実習の受付
3. パンフレットやリーフレットの作成
4. 定期的な広報誌の作成
5. ホームページやSNSを活用した情報発信
6. 動画による広報（例：事業所紹介PR動画）
7. 地域イベントでの出展や参加
8. 区の広報誌への掲載
9. ボランティア募集・地域人材との連携
10. その他（ ）
11. 今後、実施したいことはない

問5 認知症の方や家族の支援について

- Q1. 認知症の方の支援にあたり特に必要と思われることは何ですか。(〇はいくつでも)
1. 認知症の状態に合った適切なサービス提供の流れが示されること
 2. 認知症の人を支援するサービスや施設等の社会資源がより増えること
 3. 認知症の早期診断を担う医療機関が増えること
 4. 地域で、認知症サポーターの活動の輪が広がること
 5. かかりつけ医やケアマネジャー（介護支援専門員）の認知症への理解と対応力が向上すること
 6. 地域包括支援センターにおける認知症支援策がより充実すること
 7. 認知症の人の家族支援が充実していくこと
 8. その他（ ）
 9. 特になし／認知症の利用者はいない
- Q2. 若年性認知症（65歳未満で発症）の方への支援について、特に必要と思われることは何ですか。(〇はいくつでも)
1. 就労の継続・再就職支援
 2. 収入や生活費の支援（手当・年金など）
 3. 子育てや家庭生活との両立支援
 4. 医療費・介護費負担への配慮
 5. 若年性認知症に関する地域理解・啓発
 6. 社会参加・余暇活動の場づくり
 7. 家族（配偶者・子ども）への心理的・生活支援
 8. その他（ ）
 9. 特になし

Q3. 「北区認知症あんしんナビ」を知っていますか。

1. はい
2. いいえ

Q4. 認知症のある方の声を取り入れて、支援に活かしている点があればお書きください。

問6 独居高齢者について

- Q1. 貴事業所でサービスを利用している「独居高齢者」について、大変だと感じることは何ですか。(〇はいくつでも)
1. 緊急時（転倒・急変等）の対応
 2. 安否確認を十分に行うこと
 3. 食事・栄養面の管理が行き届かない
 4. 服薬管理
 5. 認知症によるリスク（徘徊・火の始末など）
 6. 家事・生活全般（掃除・ゴミ出しなど）
 7. 金銭管理・生活費のやりくり
 8. 医療機関や行政との連絡・調整
 9. 家族・親族等の支援が得られにくい
 10. 社会的孤立（会話・交流の不足）
 11. 終末期ケアや看取りに対する準備
 12. 相続や遺品整理など、死後の手続きに対するサポート
 13. 葬儀や墓の準備に関する負担や支援
 14. その他（ ）
 15. 特になし
- Q2. 独居高齢者への支援を充実させるために、どのような支援・仕組みが必要だと思いますか。(〇は3つまで)
1. ICTや見守り機器導入の支援
 2. 緊急時の駆け付け体制の強化
 3. 買い物・配食・生活支援サービスの充実
 4. 訪問回数やサービス提供時間を増やすための制度的支援
 5. 地域住民・ボランティアとの協働体制の強化
 6. 医療機関との連携強化
 7. 成年後見制度や生活支援体制の強化
 8. 終末期ケアや看取り体制の充実
 9. 独居高齢者の「終活」（生前整理、エンディングノート作成など）を支援する体制の整備
 10. 遺品整理や相続手続きの支援を含めた体制の構築
 11. その他（ ）

問7 看取り・虐待防止・ハラスメントについて

- Q1. 看取りについて、貴事業所が最も重視していることは何ですか。(〇は1つ)
1. 看取りは、自宅では困難と考えている
 2. 可能な限り自宅で行うが、看取りは医療機関で行うべきである
 3. 可能な限り自宅で看取りまで行うべきである
 4. 自宅が医療機関が、本人の意思を尊重した看取りが望ましい
 5. 自宅が医療機関が、家族の意向を尊重した看取りが望ましい
 6. その他（ ）

事業所調査

Q2. 24時間・365日の看取りケアを実施するために、現状で不足していると感じることは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 人材の確保（介護職員・看護職員など）
2. 人材の教育・研修（看取りケア、医療対応など）
3. 夜間・休日の勤務体制の整備
4. 訪問体制の充実（移動手段・訪問回数確保など）
5. 医療機関との連携（医師、訪問看護、救急対応）
6. 介護報酬・処遇改善制度の充実
7. ICT・見守り機器の活用
8. 施設・設備（病室、機器、居室など）
9. ACPの支援者側への浸透
10. ACPの家族・本人側への浸透
11. その他（ ） 12. 特にない

Q3. 職員による利用者への虐待やハラスメントを防止するため、どのような工夫を行っていますか。(〇はいくつでも)

1. 研修などへの参加を促すとともに、研修参加者の情報を全職員で共有している
2. ミーティング時に虐待防止マニュアル等を全職員で確認している
3. 講師を招いて、研修を行うなど全職員への啓発活動を行っている
4. 他施設での事例等を職員間で分析し、要因について共有する研修や検討会を行っている
5. 職員のストレス状況を把握し、未然防止に役立てている
6. 気軽に相談ができる窓口を整えている
7. その他（ ）

Q4. 介護への理解を促進するために、効果的だと思っ取組みは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 地域住民向けの講座やイベントの開催
2. 学校や職場での介護教育・体験学習
3. 家族向けの相談・研修・情報提供
4. メディア（新聞・テレビ・SNS等）による情報発信
5. 行政や地域団体との連携による広報・啓発
6. 事業所の見学会・体験会の実施
7. 介護職員自身の発信や体験談の共有
8. その他（ ）

問8 連携状況について

Q1. 医療機関との連携について、貴事業所が取り組んでいることはありますか。(〇はいくつでも)

1. 医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている
2. 訪問診療や往診をしてくれる医師・医療機関がある
3. 高次等に受入れを依頼できる病院を確保している
4. 提携病院があり、一般的な入院を受け入れてもらっている
5. 自らもしくは法人として医療機関を運営している
6. その他（ ）
7. 連携していない（⇒ Q2へ）

事業所調査

Q2. 【Q1で「7」と答えた方に伺います】

医療機関と連携していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 利用者ごとに主治医が異なる
2. 連携の方法がわからない
3. ケアマネジャー等と連携しているため、医療機関との連絡は不要
4. 提供するサービスにおいて連携が不要であるため
5. 相談できる医療職がない
6. 今後、連携を予定している
7. 開設して間もない
8. その他（ ）

Q3. どのような支援や手段があれば医療機関との連携が充実できると思いますが。(〇は3つまで)

1. ICTの活用
2. 連絡手段の多様化（SNSなど）
3. 医療機関への高齢者施設の理解促進
4. 施設と医療機関の方針の共有
5. 医療機関と高齢者施設の協力体制の整備
6. 医療機関との定期的な意見交換会
7. 緊急時の連携体制の明確化
8. 医師や看護師の施設訪問の充実
9. その他（ ）

Q4. 地域のどのような組織と連携をとっていますか。(〇はいくつでも)

1. 自治会・町内会
2. ボランティアグループ
3. 家族会
4. 学校関係
5. 企業
6. 民生委員・児童委員
7. その他（ ）
8. 連携していない

Q5. 【Q4で「1～7」と答えた事業所に伺います】

地域とどのような内容で連携していますか。(〇はいくつでも)

1. 地域の行事への参加
2. 講師依頼
3. 事業所のイベントに招待
4. 地元商店街や企業からの優先的な購入
5. 防災訓練
6. その他（ ）

問9 区に対する要望について

Q1. 事業を運営する上で、区からの支援が必要だと感じることはありませんか。(〇は5つまで)

1. 事業所に関する広報やPRに対する支援
2. DX化促進のための支援
3. 不正防止策の徹底と強化
4. 介護事業者連絡会など事業者間の連携強化のための支援
5. 人材確保のための支援
6. 人材定着のための支援
7. 外国人職員の採用や受入れに必要な環境整備のための支援
8. 介護支援専門員やヘルパー等サービス提供者養成の支援
9. サービス利用者や家族の介護保険制度（サービス）の理解向上に向けた取組み
10. 災害等発生時の訓練実施等の支援
11. 災害や感染症発生に備えた支援
12. その他（ ）
13. 特にない

問10は、住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホーム、グループホーム、(地域密着型) 特定施設、介護老人保健施設、介護医療院、(地域密着型) 特別養護老人ホームの方がお答えください。

問10 居所変更実態調査

- Q1. 該当するサービス種別を、ご回答ください。(○は1つ)
1. 住宅型有料老人ホーム
 2. 軽費老人ホーム (特定施設除く)
 3. サービス付き高齢者向け住宅 (特定施設除く)
 4. グループホーム
 5. 特定施設
 6. 地域密着型特定施設
 7. 介護老人保健施設
 8. 介護医療院
 9. 特別養護老人ホーム
 10. 地域密着型特別養護老人ホーム

Q2. 貴施設等の概要について、以下にご記入ください。

①施設等の名称		(人/戸/室)
②定員数など		人
③入所・入居者数		人
④(貴施設等の) 待機者数		人
⑤特別養護老人ホームの特機者数(申込み者数)		人

※「②定員数など」は、サービス付き高齢者向け住宅の場合は「住宅戸数」、住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームの場合は「居室数」、その他の施設等の場合は「定員数」をご回答ください。

※④と⑤は、該当者がいない場合は「0」を、不明の場合は「-」を記載してください。
 ※⑤は特養・地域密着型特養は回答不要です。

Q3. 現在の入所・入居者の要介護度別の人数について、ご記入ください。(数値を記入)

自立	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	申請中・不明	合計
1	2	1	2	3	4	5	

Q4. 貴施設等で、以下の医療処置が必要な利用者の受入れは可能ですか。(○はい/×でも)

- ※1人でも受入れが可能であれば、○をつけてください。
1. 点滴の管理
 2. 中心静脈栄養
 3. 透析
 4. ストーマの処置
 5. 酸素療法
 6. レスビレーター
 7. 気管切開の処置
 8. 疼痛の看護
 9. 経管栄養
 10. モニター測定
 11. 褥瘡の処置
 12. カテーテル
 13. 喀痰吸引
 14. インスリン注射
 15. 1～14までの処置は受入れ不可

Q5. 現在、Q4の医療処置を受けている入所・入居者の合計人数をご回答ください。(数値を記入)

Q4の医療処置を受けている入所・入居者の合計 (実人数) 人

ここからは、令和6年度中の新規の入所・入居者について伺います。

Q6. 令和6年度中(令和6年4月1日～令和7年3月31日)に、貴施設等に新規で入所・入居した人の人数をご記入ください。(数値を記入)

※貴施設等に入所・入居している方で、一時的な入院等で貴施設等に戻った方は含めないでください。

新規の入所・入居者数 (合計★) 人

Q7. Q6の令和6年度中(令和6年4月1日～令和7年3月31日)の新規の入所・入居者について、入所・入居する前の居場所別の人数をご記入ください。(各項目、区内、区外、それぞれ数値を記入)

※Q6(1つ前の設問)の「合計★」と、Q7(本設問)の「全項目の合計★」が一致することをご確認ください。

※一時的な入院の後に貴施設等に入所・入居した場合は入院前の居場所をご記入ください。入院前の居場所がわからない場合は、「⑩病院・診療所」を選択してください。

※「①自宅」に、ショートステイの長期利用者の入所・入居も含みます。

	区内	区外
①自宅(※兄弟・子ども・親戚等の家含む)		
②住宅型有料老人ホーム		
③軽費老人ホーム(特定施設除く)		
④サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)		
⑤グループホーム		
⑥特定施設		
⑦地域密着型特定施設		
⑧介護老人保健施設		
⑨介護医療院		
⑩特別養護老人ホーム		
⑪地域密着型特別養護老人ホーム		
⑫病院・診療所(一時的な入院を除く)		
⑬その他		
⑭入居・入所する前の居場所を把握していない		
全項目(区内、区外)の合計★		

合計人数が一致することをご確認ください

事業所調査

ここからは、令和6年度中の新規の退去者について伺います。

Q8. 令和6年度中（令和6年4月1日～令和7年3月31日）に、貴施設等を退去した人の人数をご記入ください。（数値を記入）

※一時的な入院等から貴施設等に戻った方、現在一時的に入院中の方（貴施設等との契約が継続している方）は含めないでください。

※「死亡」には、「貴施設等で亡くなった方」に加え、「病院等への搬送後に死亡された方」も含まれます。

退去者数（死亡を含む）(合計■) 人

Q9. Q8の令和6年度中（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の退去者について、要介護度別の人数をご記入ください。

※死亡した人については、「①退去者」欄ではなく、「②貴施設等での死亡」欄にその人数をご記入ください。

※病院等への搬送後に死亡した場合、搬送先で死亡したケースは「②貴施設等での死亡」、搬送先からの転院等の後に死亡した場合は「①退去者」に含めてください。

※「合計■」と、Q8の「退去者数(合計■)」が一致することをご確認ください。

自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	申請中・不明	合計■ ※①②の合計
①退去者									合計■ ※搬送先での死亡を含む

合計人数が一致することをご確認ください

事業所調査

Q10. Q8でご記入いただいた令和6年度中（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の退去者について、退去先別の人数をご記入ください。（各項目、区内、区外、それぞれ数値を記入）

※一時的に入院して貴施設等以外の居場所に移った場合は、退院後の居場所をご記入ください。

※搬送先から転院等の後に死亡した場合は、死亡ではなく「居所変更」として、該当する行先にカウントしてください。

※合計(■)と、Q8(2つ前の設問)・Q9(1つ前の設問)の各合計(■)が一致することをご確認ください。

	区内	区外
①自宅（※兄弟・子ども・親戚等の家含む）		
②住宅型有料老人ホーム		
③軽費老人ホーム（特定施設除く）		
④サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）		
⑤グループホーム		
⑥特定施設		
⑦地域密着型特定施設		
⑧介護老人保健施設		
⑨介護医療院		
⑩病院・診療所（上記⑨を除く） ※一時的な入院は含みません。		
⑪特別養護老人ホーム		
⑫地域密着型特別養護老人ホーム		
⑬その他		
⑭行先を把握していない		
⑮死亡（※搬送先での死亡を含む）		
全項目（区内、区外）の合計■		

合計人数が一致することをご確認ください

Q11. 貴施設等の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。最も多いものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

※死亡した方は除き、退去者についてお答えください。

1. 必要な生活支援が発生・増大したから
2. 必要な身体介護が発生・増大したから
3. 認知症の症状が悪化したから
4. 医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから
5. 上記選択肢「1」～「4」以外の状態像が悪化したから
6. 入所・入居者の状態等が改善したから
7. 入所・入居者が、必要な居宅サービスの利用を望まなかったから
8. 費用負担が重くなったから
9. 本人が希望したから
10. その他 ()

Q12. 貴事業所で入居・入所者が退去するのはどのような場合が多いですか。よくあるケースについてお答えください。

問11は、居宅介護支援事業所・小規模多機能型居宅介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所の方がお答えください。

問11 在宅生活改善調査

Q1. 事業所に所属するケアマネジャーの人数、および利用者数について、ご記入ください。(数値を記入)

①所属するケアマネジャーの人数	人
②自宅等(③を除く)にお住まいの利用者数	人
③「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」にお住まいの利用者数(人)数	人

ここからは、貴事業所において、令和6年度中(令和6年4月1日～令和7年3月31日)に「自宅等(サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く)から、居場所を変更した利用者」と「自宅等で死亡した利用者」についてお尋ねします。

Q2. 貴事業所において、令和6年度中(令和6年4月1日～令和7年3月31日)に「自宅等(サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く)から、居場所を変更した要介護度別の利用者数」と「自宅等で死亡した利用者数」をご記入ください。(数値を記入)
 ※入院後に自宅等に戻った方、現在一時的に入院中の方は含めないでください。
 ※病院等への搬送後に死亡した場合、搬送先で死亡したケースは「②自宅等での死亡」に含めてください。

①自宅等から、居場所を変更した利用者						合計◆ ※①②③の合計
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	
						②自宅等での死亡
						申請中・不明



事業所調査

Q3. 貴事業所において、令和6年度中（令和6年4月1日～令和7年3月31日）に「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から、居場所を変更した利用者数」を先行別にご記入ください。（各項目、区内、区外、それぞれ数値を記入）

※入院した後自宅等以外の居場所に移った場合は、退院後の居場所をご記入ください。

※搬送後、搬送先から転院等の後に死亡した場合は、死亡ではなく「居所変更」として、該当する先行別にご記入してください。

※Q3（本設問）の合計（◆）と、Q2（1つ前の設問）の合計（◆）が一致することをご確認ください。

合計人数が一致することをご確認ください

	区内	区外
①兄弟・子ども・親戚等の家		
②住宅型有料老人ホーム		
③軽費老人ホーム（特定施設除く）		
④サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）		
⑤グループホーム		
⑥特定施設		
⑦地域密着型特定施設		
⑧介護老人保健施設		
⑨介護医療院		
⑩特別養護老人ホーム		
⑪地域密着型特別養護老人ホーム		
⑫病院・診療所 ※一時的な入院を除く		
⑬その他		
⑭行先を把握していない		
⑮自宅等での死亡（※搬送先での死亡を含む）		
全項目（区内、区外）の合計◆		

Q4. 貴事業所の利用者在宅生活の維持が難しくなるのは、どのような場合が多いですか。よくあるケースについてお答えください。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございます。

北区地域包括ケア推進計画のための
アンケート調査結果報告書

刊行物登録番号 8-1-005

発行年月日：令和8年3月

発行：〒114-8508 東京都北区王子本町1-15-22

北区福祉部

■高齢福祉課 電話 03-3908-1158

■長寿支援課 電話 03-3908-9017

■介護保険課 電話 03-5948-8387